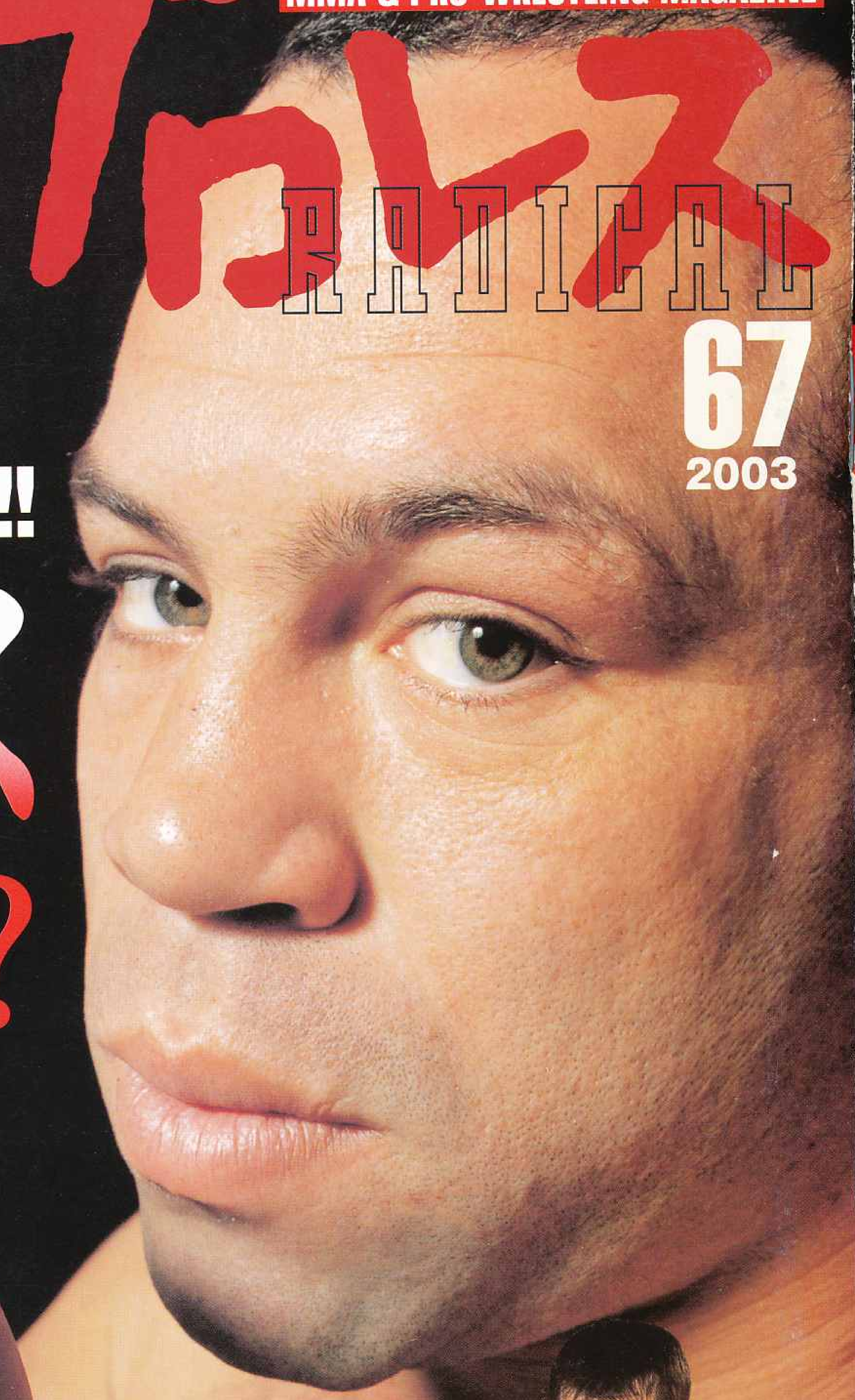
㊗秋桜満開!! 桜庭和志、大試練のドーム出陣!!

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

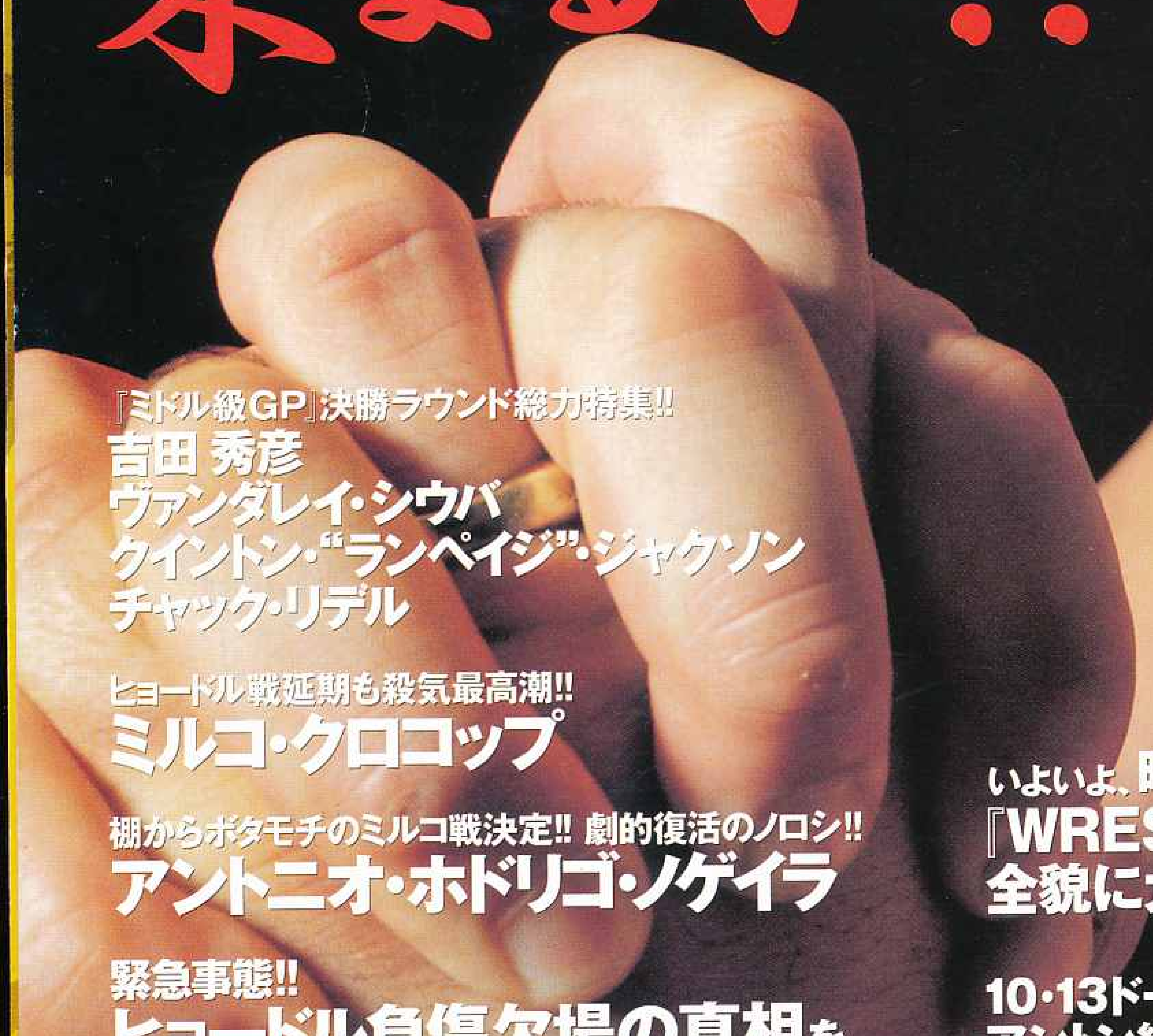
紙のプロレス RADICAL

67
2003



11・9『PRIDE・GP』!!
吉田とシウバいざ激突!!

衣(ギ)は赤く染まるか!?



『ミドル級GP』決勝ラウンド総力特集!!
吉田 秀彦
ヴァンダレイ・シウバ
クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン
チャック・リデル

ヒョードル戦延期も殺気最高潮!!
ミルコ・クロコップ

棚からボタモチのミルコ戦決定!! 劇的復活のノロシ!!
アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

緊急事態!!
ヒョードル負傷欠場の真相を
独占肉薄究明!!

衝撃のミルコ戦を経て、新たなるスカイハイ!!
ドス・カラスJr.

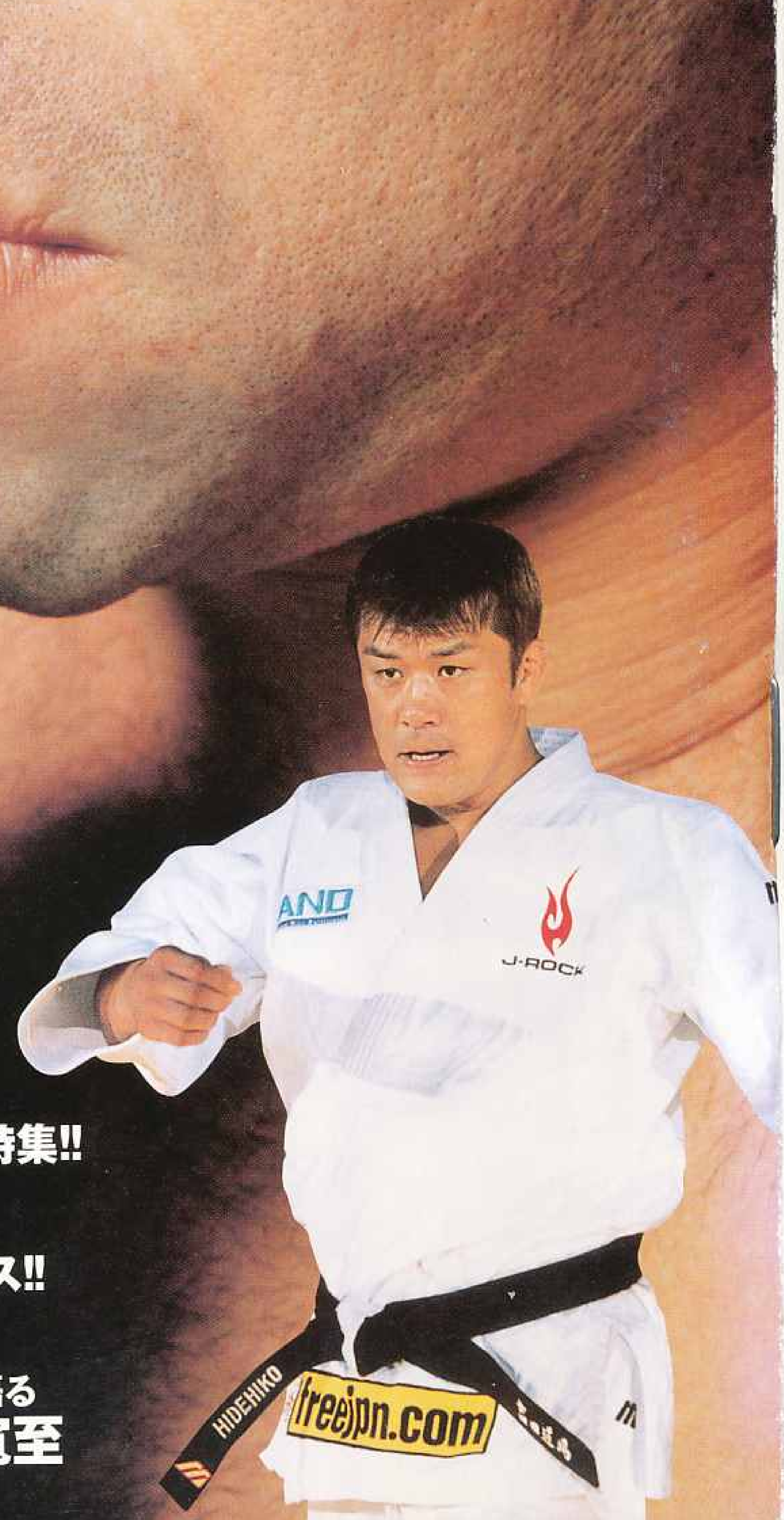
なぜだ!? 突然のK-1大特集!!
ピーター・アーツ／レミー・ボンヤスキー／武蔵
エッ!? ターザン山本がK-1に絶縁宣言!!

いよいよ、時は来たッ!
『WRESTLE-0』の
全貌に大接近!!

10・13ドームに、
アントン総帥大激怒!!
"脳ミソが腐った"新日本大特集!!

"巨ケツ"RIKISHI、
『紙プロ』にスティンク・フェイス!!

衝撃秘話満載!!
『アントニオ猪木の謎』の著者が語る
"疑惑の時代"の猪木寛至



紙のプロレス RADICAL 2003 NO.67 ブッちぎり大特集号!!

発売元：(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話／03-335
発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話／03-3403-5188

WRESTLE-1
realy?



ヒョードルvsミルコ戦が延期!
ミルコvsノゲイラの暫定王者決定戦に!!
そしてサクが自ら試練を課しての出陣表明!!

11・9 東京ドーム

始まる前から 熱風三昧!!



Mirko CroCop

聞き手／堀江ガンツ
撮影／乾晋也
designed by hisa（Two Three）



ショック！ヒョードル戦延期!!
ノゲイラとの暫定王座戦電撃決定！



11・9東京ドーム
立ち技vs寝技頂上対決実現!!

一つだけ聞かせてくれ
まさか

逃げたんじゃないだろうな？

ノゲイラが何をやってくるのか全て想像がつく。彼を初めてKOするのは私だ。

ショック！　ヒョードル負傷により、ミルコとの“究極の最強決定戦”延期！
11・9『PRIDE』東京ドームで内定していたヒョードルvsミルコのPRIDEヘビー級選手権が、ヒョードルの練習中の怪我（右手第一掌骨基底関節内骨折）によりドクターストップがかかり、無念の延期。代わって急遽ミルコvsノゲイラの暫定王座決定戦が行われることとなり、その勝者が来年2月（予定）ヒョードルと真の王座を賭けて闘うこととなった。
これまで打倒ヒョードルを目標に『PRIDE』で実績を作り、10・5『武士道』では、「ピークアウトのため」異例の志願出場するなど、ヒョードル戦に向けモチベーションが高まりに高まっていたミルコは、この報を聞き、いま何を考えるのか？　「汗をかくため」と、クロアチア南部の町・プーラでキャンプを張るミルコを国際電話で直撃した。

――ミルコさん、大変残念なことに念願のヒョードル戦が延期になってしまいましたが、ノゲイラとの暫定王者決定戦を正式に受諾したらしいですね？

ミルコ　ああ。ノゲイラ戦へ正式にOKの返事をした。いまはもう、その準備に入っている。気持ちの切り替えは早い方なんだ。

――「ヒョードル欠場」の報がミルコさんの耳に入ったのはいつだったんですか？

ミルコ　私が最初に聞いたのは、確か先週末。『武士道』のちょうど一週間後かな。日本のエージェントから報告を受けた。

――話を聞いてどう思いましたか？

ミルコ　もちろん、最初は怒りにも似た感情が沸き上がってきたよ。俺はなんのために、ここまで命を削るようなトレーニングをしてきたんだってね。それで、「俺のタイトルマッチはどうなるんだ？」と聞いたんだ。そうしたら、『PRIDE』側は、私とノゲイラの試合の勝者を暫定王者として認め、ヒョードルが巻いているものとまったく同じベルトも作ってくれるという。しかも、来年早い段階でヒョードルのケガが治り次第、真の王者を決める一戦を約束してくれた。それならば、とOKしたんだ。



ヒョードル欠場を発表する高田本部長と榊原代表。今回、ヒョードル本人は試合出場を強く望んだが、ＤＳＥが日本の医師と相談した結果、ミルコvsヒョードル延期という苦渋の決断を下した。この一戦は、ケガの回復具合にもよるが、2・1大阪城ホールで予定されている。

――急な話で悩んだりとかはしなかったんですか？

ミルコ　それはなかった。ただ、エージェントに「ヒョードルは本当にケガをしたのか、それとも私を恐れて逃げているのか、それだけ確認してくれ」とだけは言った。たとえ来年早い段階で対戦を約束してくれても、ヒョードルがもし私から逃げるような男だったら、もう闘う意味はないからね。そうしたら、「ケガで試合ができないのは間違いなく事実だ」と言うので、それならば私のやるべきことは、予定通り11月9日に日本で闘い、PRIDEヘビー級のベルトを腰に巻くだけだ。相手が誰だろうが、もはや関係ない。

――でも、ノゲイラはヒョードルとは全くタイプが違う上に、今年3月に敗れるまでは「世界最強」の名を欲しいままにした強豪じゃないですか。それでも対戦に異存はなかったわけですか？

ミルコ　まったくないね。なぜなら、ノゲイラとヒョードルどちらが危険かと問われれば、私は間違いなくヒョードルと答える。ノゲイラも確かに超一流のファイターであり、彼の寝技は素晴らしいが、引き込まれたり、術中にはめるようなテクニックに気を付けて、冷静に自分の型で試合をすればそう危ない局面に陥ることはないからね。

――でも、一度でも寝技に引き込まれたら、こんなに危険な相手はいないんじゃないですか？

ミルコ　もちろん危険だよ。ただ、それは


っ込んで
ていく。


ゴングと同時にリング中央を支配したミルコに対し、ドスJr.はその周りをぐるぐる回る。高田vsヒクソンを思い出すシーンだ。


いよいよ始まる超異次元対決。この時点ですでにミルコはドスJr.を完全に呑んで掛かっているように見える。


『スカイハイ』のテーマに乗って登場したドスJr.に続き、オーラをビンビンに漂わせながらミルコが入場！

2003.10.5 PRIDE武士道 さいたまスーパーアリーナ

強すぎるミルコ、ドスJr.を46秒殺

○ミルコ・クロコップ（クロコップ・スクワッド）
［1R0分46秒、KO］
ドスカラスJr●（AAA）



Mirko CroCop

「寝技になれば」の話だ。試合というのは寝技から始まるんじゃない。スタンドから始まるんだよ。ならば私は寝技に入らせない。ハッキリ言って、ノゲイラがスタンドでどんな攻め方をしてくるかすべて想像がつくんだよ。おそらく顔をガードしながら距離を詰めて腰を取りにくると思うんだ。

――きっとそうでしょうね。

ミルコ　でも、それじゃあ、この間やったマスクマン(ドスカラスJr.)と一緒じゃないか。

――立ってるノゲイラはドスJr.と変わらない（笑）。

ミルコ　もちろんノゲイラは百戦錬磨だし、あのマスクマンより経験も豊富だろう。打撃の練習量もかなりのものだということはわかる。でも、タックルが取れずに打撃で来てくれれば好都合だ。いくらピーター・アーツやエベンゼール・フォンテス・ブラガとスパーリングを繰り返したところで、私の相手ではない。

――打撃も問題ないし、ノゲイラのタックルも切る自信があると。

ミルコ　そのとおり。そして、私がヒョードルに対して一番警戒しているのも実はその部分なんだ。

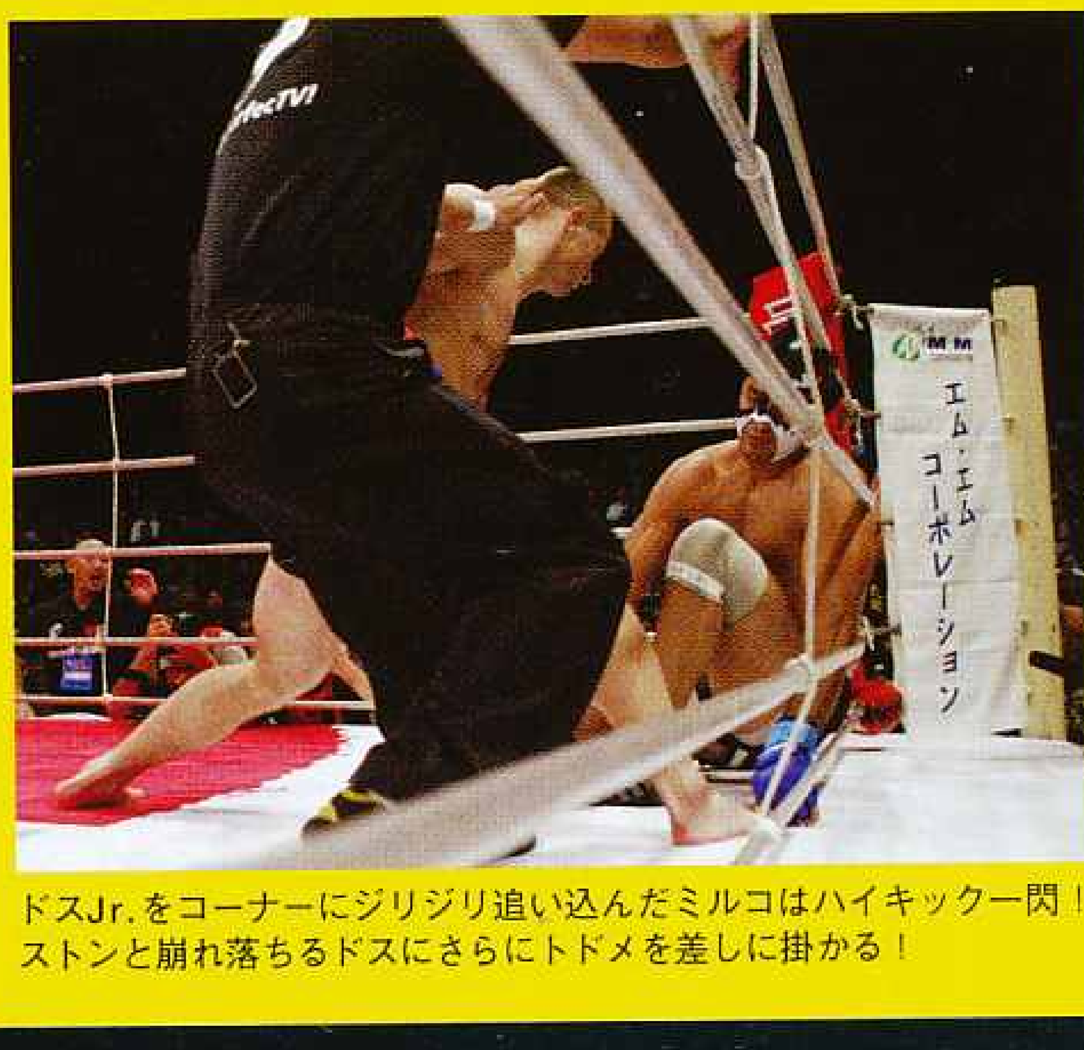
――どういうことですか?

ミルコ　ヒョードルは、ロシアのいろんな所でボクシングのトレーニングをしていると聞いているが、そのボクシングのトレーニングというのは、パンチで私を倒すためではなく、腰を取りに行くためのものだろう。

――ああ、確かにヒョードルは打撃を打った直後に素早く脇を差すのが得意ですよね。

ミルコ　おそらく脇を差しに行くときに、私の打撃をもらわずに距離をつめるためのボクシング練習なんだろう。しかも、ヒョードルはあの身体なのに、距離を詰めたり離れたりする出入りのスピードが速い。だ


ハイキック→左フィニッシュブローでドスを射抜いたミルコはクルリと背を向け勝利をアピール。凄腕の殺し屋のような男だ！



ドスJr.をコーナーにジリジリ追い込んだミルコはハイキック一閃！ストンと崩れ落ちるドスにさらにトドメを差しに掛かる！


グレコロの実力者でもあるドスJr.はなんどか脇を差しに突っ込んでいくが、ミルコはこれを相撲のぶつかり稽古のようにいなしていく。

『猪木祭り』にはもちろん出場する 2月にヒョードルを倒しその後はUFCだ

から、私もそれに対応するための練習をこの間までみっちりと積んでいたんだよ。でも、そういった部分の怖さっていうのはノゲイラにはあまり感じないだろう？

――確かにそうですね。

ミルコ　おそらくノゲイラもヒョードルと同じように打撃を打ちながら脇を差して来るんだろうが、決して俊敏じゃない彼の動きでは私を捕まえることはできないよ。

――なるほど。では、早くもノゲイラに勝つイメージはできあがっている、と。

ミルコ　完全に出来上がっているよ。彼をKOするイメージがね。

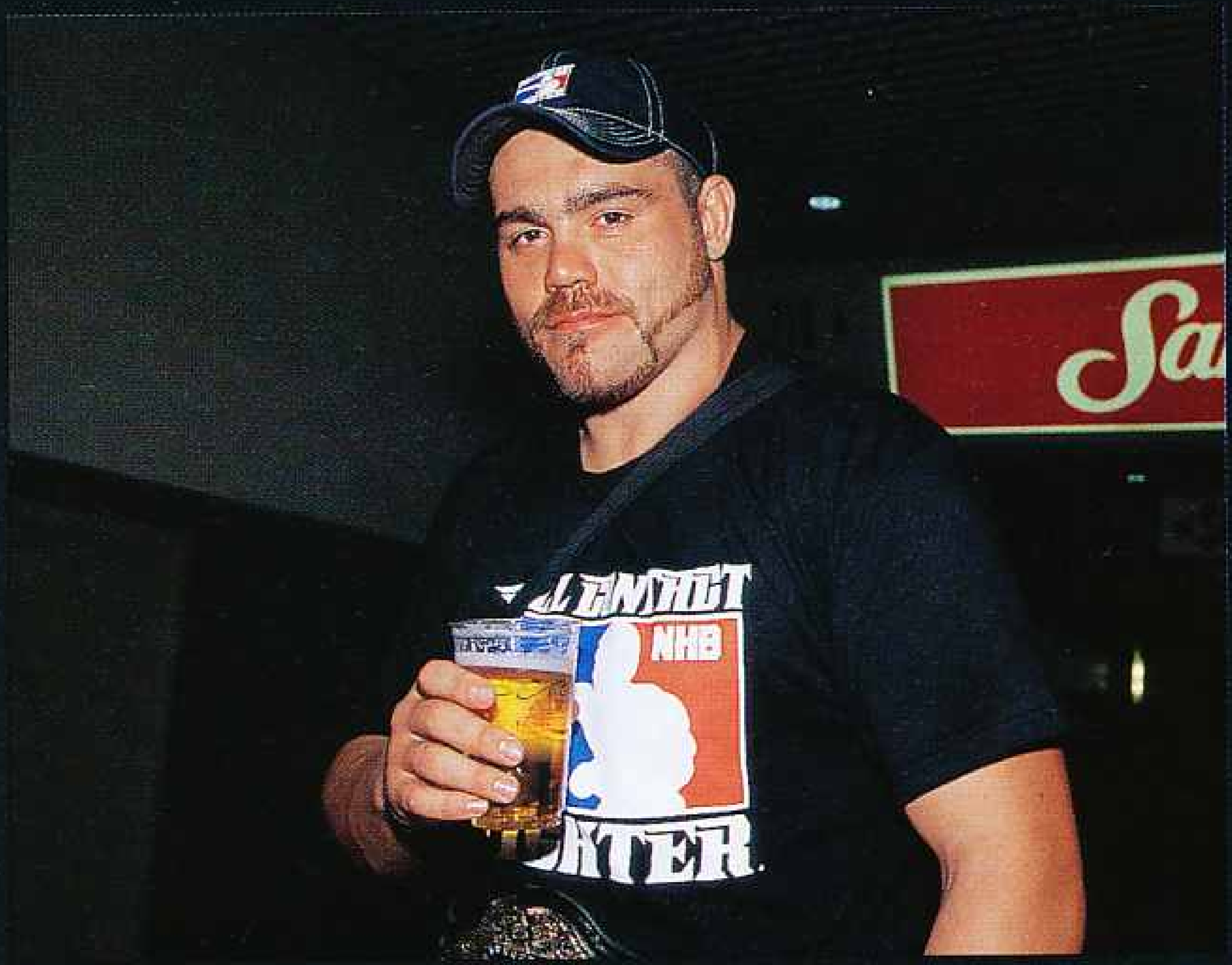
――コンディションはどうなんですか？

ミルコ　『PRIDE』に無理を言って10月5日にピークアウトさせてもらったおかげで、アドレナリンの量はしっかりコントロールできているよ。おそらく11月9日には最高の状態でリングに立つことができるだろう。

――いやぁ、なんかミルコ選手にかかると、ノゲイラとのタイトルマッチすら、その後に控えるヒョードル戦への〝調整試合〟のような気がしてきますねぇ。

ミルコ　ハハハ、そこまでは言わないよ。私がこれまで総合格闘技で闘ってきた相手の中では一番の強敵であることは間違いないからね。でも、〝最大の強敵〟がまだ他にいるというだけさ。決して侮ってはいないよ。

――とにかく立ち技vs寝技のスペシャリスト対決ですから、非常に緊張感のある試合になりそうですよね。



9・26『UFC44』でガン・マギーをKOした後、会場ロビーで私服にベルト姿でビールを飲むゴキゲンな男、ティム・シルビア。この後、ドーピング発覚で王座剥奪された挙げ句、ミルコには“ノルキア扱い”されてしまった。

ミルコ　そうだね。立ち技vs寝技で思い出したが、考えてみるとノゲイラは打撃でKO負けをした姿を見たことがないんだよ。

――ああ、確かに言われてみればそうですね。

ミルコ　ならば、その誰もできなかったことに、私は挑んでみたい。ノゲイラを初めてKOするのは、この私だよ。

――それは観る側のモチベーションも上がりますねぇ！

ミルコ　ノゲイラはヒョードルと闘ったときも、あれだけ殴られながら、決してKOされることなく最後まで闘っただろう？そういう彼の精神力に関しては、私は最大限にリスペクトしているんだ。だから、彼を完全に倒すためには、彼の精神力すら及ばない部分、つまり打撃で失神させるしかないだろう。

――し、失神させるしかない！

ミルコ　それがノゲイラ戦の私のテーマだ。そしてその後は、今度こそ必ずヒョードルを倒す。ヒョードルを倒してこそ、本物のベルトだということは自分が一番よくわかっているからね。ヒョードルには早くケガを治してくれと言いたい。

――いやぁ……もう、言葉もないんですが、11月9日にノゲイラに勝った場合、来年ヒョードルと闘う前に、今年も大晦日の『イノキ・ボンバイエ』がありますよね。この大会からオファーが来たらどうする予定ですか？

ミルコ　もちろん出るよ（キッパリ）。

――ノゲイラ戦とヒョードル戦の間に『ボンバイエ』まで入れますか！

ミルコ　3月にK・1でサップと闘ったときから、6月、8月、11月に『PRIDE』で闘い、大晦日も出るというのは、自分の年間スケジュールどおりだよ。予定外だったのは、10月の『武士道』だけだ。それから今年中にヒョードルを倒すという予定も狂ったが、まぁ、これも来年2月には実現するつもりだ。

――はぁ、すべてはミルコさんの青写真どおりに事は進んでいるわけですか。となると、もちろんヒョードルを倒したあとの目標も、すでに頭の中にあるわけですか？

ミルコ　以前から言っているとおり、『PRIDE』のベルトを巻いたら、次はUFCのベルトを奪いに行く。ただ、UFCのヘビー級ファイターには、まったく負ける気はしない。ヒョードル以上に手強い相手なんか、UFCのどこを探しても見あたらないだろう？

――そうですよね。身体が大きい選手はたくさんいるみたいですけど。

ミルコ　それだけだろう？　チャンピオンのティム・シルビアにしても、身体が大きくて、総合の選手の割りには打撃ができるというだけじゃないか。それなら、ヤン〝ザ・ジャイアント〟ノルキアと何が違うんだい？（笑）。

――アハハハハ！　UFC王者をノルキア扱い（笑）。

ミルコ　まぁ、それは言い過ぎかも知れないが、対戦相手として魅力を感じている選手が見当たらないのは確かだよ。

――それでもUFC出場を望んでいるということは、やはりミルコ選手もアメリカでの成功を考えているんですか？

ミルコ　もちろん。UFCのチャンピオンになることは、私にとってアメリカへの名刺代わりだよ。でも、フジタが先にUFCに出るなら、彼が先にベルトを取ってしまうんじゃないか？

――その可能性はありますよね。その場合、オクタゴンで藤田選手と3度目の対決もありえますか？

ミルコ　ああ、問題ないよ。フジタはタフだ。彼の実力は評価している。まぁ、そんな話もすべては11月9日にノゲイラを倒してからだ。

――では、決戦まであと2週間。楽しみにしています！

ミルコ　ああ、楽しみにしていてくれ。

【国際電話にて収録】

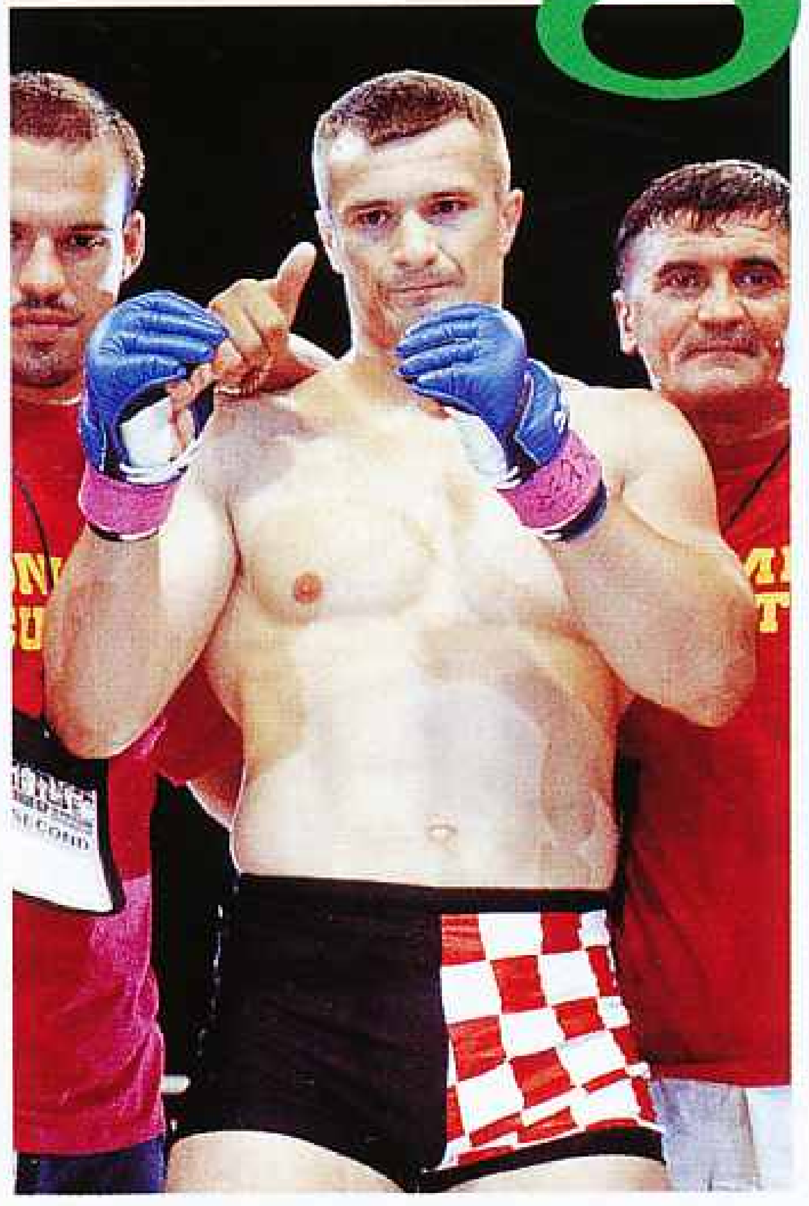

Mirko CroCop

巨大なるタナボタ!
PRIDEヘビー級暫定王座決定戦獲得!
柔術超獣復活へモチベーション最高潮!!

「ヒョードルに負けて僕はハングリーなミノタウロに戻った。失ったベルトは何がなんでも取り戻すよ!」

odrigo Nogueira


アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ



11・9『PRIDE』東京ドーム、ミルコに最強の寝技師が襲いかかる!!

ノゲイラ復活に最大のチャンス到来!
3月にヒョードルに敗れ王座陥落後、8月のリコ・ロドリゲス戦で苦戦するなど、いまいち精彩を欠いていたノゲイラ。しかし、あの屈辱はノゲイラに反骨精神を呼び起こさせ、さらなる猛特訓へと駆り立てたという。そして、反撃体勢が整ったこのタイミングでミルコ戦が電撃決定。11・9ドームはミノタウロ復活祭となる!

聞き手&撮影/堀江ガンツ
designed by matsu (Two three)



Antonio Ro

このインタビューは二部構成でお送りしたい。まずは対戦相手が未定だった10月5日に収録した呑気なもの、その後にミルコ戦決定後の追加インタビュー。笑い話中心の第1部のインタビューでも、その時点で予定されていたヒョードルvsミルコをノゲイラが予想したりと、なかなか興味深い話しが語られており、より重層的に11・9ミルコ戦へ向かうノゲイラの心境を読みとっていただけたら幸いだ。

――ノゲイラさん！　数多くの危険が潜むアマゾンのジャングルから無事生還できたようで安心しましたよ！（笑）。

ノゲイラ　ハハハハ、『ジャングル・ファイト』のことかい？　いろんな目にあったけど、なんとかまた日本に戻ってこられて嬉しいよ（笑）。普段体験できないことばかりだったから、凄くいい経験になったね。

――大会自体はいかがでしたか？

ノゲイラ　凄くいい大会だったよ！　変わった場所でやったから世界中から注目されたのも良かったし、試合自体もいい選手がたくさん参加したから見所があるものだった。これからも定期的に開催してほしいくらいだよ。

――普通の大会とはいろんな意味でずいぶん違ったと思いますけど、何か驚いたことはありますか？

ノゲイラ　自然や動物をふんだんに取り入れて、インディオまで登場するのは驚いたね（笑）。

――〝裸族〟ですね（笑）。ノゲイラさんもインディオと遭遇したのは初めてですか？

ノゲイラ　もちろん初めてだよ（笑）。そんな環境だったんで、出場したファイターたちもいつも以上の興奮状態だっただろうから、ある意味ファイトするには最適の環境なんじゃないかな。

――日本から行った人たちは、アマゾンの暑さとか伝染病を心配していたようですけど、それは大丈夫でしたか？

ノゲイラ　大会の一日前に雨が降ったので、そんなに暑くなかったから大丈夫だよ。それに9月というのは、そんなに暑い時期でもないしね。

――あぁ、南半球だから向こうは冬なんですね。

ノゲイラ　〝冬〟って感じでもないけどね。日本の夏より暑いから（笑）。

――あ、そうですか（笑）。

ノゲイラ　でも、やっぱり日本では考えられないくらい別世界だったよ。ホテルはジャングルのど真ん中にあって、ホテルの周辺にもワニとか大蛇が普通にいたからね（笑）。

――メチャクチャ危険じゃないですか！

ノゲイラ　危険だよぉ。ホテルの周りは10kmもの橋がジャングルの中を通っているん



『ジャングル・ファイト』を仕切ったイズマイウは、「『アルティメット・クラッシュ』や『猪木祭り』に出す」と言葉巧みに引き抜きを行っているらしく、BTTとは絶賛冷戦中。さすがイズ!

アマゾンでは大猿と危うく本物の『ジャングル・ファイト』をやるところだったよ（笑）

だけど、ホジェリオ（ノゲイラ弟）と一緒にその橋を渡って散歩していたら、突然、木の上からデッカイ猿が降りてきて、橋の真ん中に立ちふさがったんだ。

――大猿が立ちふさがりましたか！（笑）。

ノゲイラ　とっさに身構えて威嚇したら逃げて行ったけど、あれはビックリしたね（笑）。

――いやぁ、ノゲイラvs大猿の〝ジャングル・ファイト〟が実現するところだったんですね（笑）。

ノゲイラ　ホジェリオはすぐに逃げちゃったんで、もし大猿が襲いかかってきたら、ホントに1vs1でやるところだったよ（笑）。

――ちなみに猪木さんが12メートルの大蛇と闘ったという話も聞いたんですけど、これはホントなんですか？

ノゲイラ　ピラニアの棲むアマゾン川で泳いだのは知ってるけど、それは知らないなぁ。誰が言ってたんだい？

――もちろんイズマイウです（笑）。

ノゲイラ　ワハハハハ！　おそらくイノキさんはヴァリッジの頭の中で闘っていたんだろうね（笑）。

――でしょうね。「これは事実」らしいですから（笑）。ところで、ノゲイラさんは『ジャングル・ファイト』でPPV解説を努めたそうですけど、そこで「次に『ジャングル・ファイト』が開催されたら、自分も出場する」と宣言していたらしいですね？

ノゲイラ　う〜ん、確かにあの場ではそう言ったけど、まだオファーもないし交渉もしてないし……早く言えば、イベントを盛り上げるために言っただけなんだけど（笑）。

――あ、リップサービスでしたか（笑）。『ジャングル・ファイト』でレフェリーをしたパウロ・フィリォがブラジリアン・トップチームからブラジル・ドージョーに移籍したので、「まさかノゲイラ兄弟もBTT離脱か？」と思って、心配しましたよ。

ノゲイラ　ボクがトップチームを離脱するなんてありえないよ。今回『ジャングル・ファイト』に行ったのは、アマゾナス州知事の弟がボクの親友で、大会の2ヶ月前にわざわざリオまで来て「来場してほしい」と言われたということ。それからブラジルではVTのハイレベルな大会があまりないから、ブラジル格闘技界を盛り上げるために何か手伝わなくちゃならないと思ったからなんだ。

――では現在、引き抜き問題でトップチームとブラジル・ドージョー（イズマイウ代表）が緊張関係にあると聞いてますが、それは関係ないと？

ノゲイラ　ボクにはあまり関係ないよ。3人の選手がトップチームからブラジル・ドージョーに移ったのは事実だし、仲間が離れたことでちょっと嫌な雰囲気になったりしたけどね。でも、自分の歩く道は自分で選ぶべきだと思うから、ボク自身としては出ていった3人の気持ちを尊重したい。ボクはチームに満足しているけど、彼らが満足していなかったのなら、違う道を選ぶのも仕方のないことだと思うからね。ただ、いま残っている選手はホントに自分のチームを信じている選手ばかりだし、今回の一件でより団結力が強くなったから、チームにとってそんなにマイナスだとは思ってな

美濃輪の闘いぶりを見た周りの人が「ミノタウロの試合を見てるようだ」と言っていたよ



いよ。いまはホントに一丸となっていいムードだからね。

──そのチームの中に、いま日本から美濃輪育久選手も加わってるんですよね？

ノゲイラ　うん。ミノワは最高だよ！　もうすっかりチームに溶け込んでいるし、この間はゼ・マリオ（スペーヒー）がプロモートした『ブラジル・スーパーファイト』という大会で、素晴らしい試合をしたからね！

──シルマル・ホドリゴという選手に一本勝ちして、ブラジル・スーパーファイト・ミドル級王者になったんですよね？

ノゲイラ　そう、凄くエクセレントなフィニッシュだったよ！　バックハンドブローを入れたあと、相手がバックを取ったところを前方に一回転してヒザ十字固めを極めたんだ。しかも最初から最後まで、レッグロック、アームロック、ギロチンチョークなど休まず仕掛け続けて、周りから「ミノタウロ（ノゲイラ）の試合を見てるようだ」と言われていたよ（笑）。

──さしずめ〝中ノゲイラ〟ですね（笑）。

ノゲイラ　相手のシルマル・ホドリゴも日本では無名かもしれないけど、ブラジルでは有名な選手で、決して弱い相手ではないよ。トップチームの新人を2人破っているくらいだからね。その相手に一本勝ちしたミノワは凄いし、チームとしてリベンジを狙っていた相手だったんで、ミノワの勝利をみんなホントに喜んだんだ。観客も最初はブラジル人を応援していたのに、最後はミノワに大声援が送られたよ。

──試合でブラジルのファンの心を掴みましたか！

ノゲイラ　まさにそういう感じだよ。ブラジル人の凄く綺麗な娘がミノワを気に入っちゃって、試合後にキスしようとしたくらいだからね（笑）。

Antonio Rodrigo Nogueira



少々無理な体勢からでも、次々と足関節を仕掛ける美濃輪のファイトに観客も熱狂。見事メインイベンターの責務を果たした。



プロモーターのマリオは、今大会を『PRIDE』をお手本に洗練されたイベントを目指したという。よってこんな入場式も行われた。



9・19『ブラジル・スーパー・ファイト』はBTTの首領マリオ・スペーヒーがプロモート。タイトルマッチ立会人もマリオだ。



無敗のPRIDEヘビー級王者として、向かうところ敵なしの快進撃を続けていたころのノゲイラ。わずか1年前の話なのに遙か昔にも感じる。ノゲイラは栄光を取り戻すことができるか？

――ブラジル娘が迫ってきましたか（笑）。

ノゲイラ　それなのにミノワは突然だったもんだから、ビックリしたのか照れたのか、「やめてくれ」って感じで逃げてしまってね。何やってるんだ（笑）。せっかくミノワ好みの青い瞳で茶色の長い髪をしたかわいい女の子だったのに。

――その後も美濃輪選手とその女の子は何もなかったんですか？

ノゲイラ　キスを断られて、彼女はガッカリしちゃったみたいだよ（笑）。

――もったいないことしましたねえ。まさかその娘をノゲイラさんが代わりに持って帰ったってことはないですよね？（笑）。

ノゲイラ　いやぁ、ボクは別の女の子と一緒だったんで、そっちで忙しかったよ（笑）。

――先客がいましたか（笑）。

Antonio Rodrigo Nogueira

ノゲイラ　もしボクが一人でいたら、多分持ち帰っていたと思うけどね（笑）。

――何か聞くところによると、ノゲイラさんは美濃輪選手に対して、盛んに「彼女を作れ」ってアドバイスしてるらしいですね？

ノゲイラ　うん。彼女を作れば、それが練習の励みにもなるし、ポルトガル語のマスターも早くなるだろうからね。でも、彼にとっては言葉よりも強くなる方が先だったようだ。

――女より練習ですか。

ノゲイラ　でも、最近はずいぶんポルトガル語も喋れるようになってきたよ。"キス"とかそういう言葉の方を先に覚えてたけどね（笑）。

――じゃあ間もなく彼女もできますね（笑）。

ノゲイラ　すぐだよ。彼は凄くフレンドリーで、ジムの仲間とすっかりうち解けているし、アカデミーと彼の住んでる地区の間には少し貧しい人たちが住むエリアがあるんだけど、そこの連中とも彼は喋ったりして恐がってないよ。その一方で、一歩距離を置いた人にはパンクなイメージを出して近寄り難くしているから、外国人を狙う強盗に狙われずにすんでいる。彼は性格がいいから、みんな彼を尊敬しているよ。

――美濃輪選手の練習ぶりはどうですか？

ノゲイラ　いい練習をしているよ。練習熱心だし、もともといいものを持っているから、ブラジルに来てテクニックがずいぶん上達した。しかもリングの上では存在がもっと大きくなるし、とてもタフなのもいいね。

――美濃輪選手の優れた面と、もっと学ばなければいけない面を挙げるとするとどこですか？

ノゲイラ　テクニック的なことで言うと、彼の優れている部分はやっぱりレッグロックだね。この前の試合もそうだけど、とにかく仕掛けが早くてディフェンスもとても上手いんだ。それから悪い点は、自分が危なくなる態勢まで相手の攻撃を許してしまうことかな。でも、彼は攻められてもギリギリのところでうまく逃れて反撃に転じたりするから、観客にとっては逆にスリルがあって面白いのかもしれない。

――確かに美濃輪選手の試合はいつでもハラハラドキドキの連続ですよ。

ノゲイラ　それでいてアグレッシブだから、いい試合をするよね。だからこそゼ・マリオも『ブラジル・スーパー・ファイト』旗揚げ戦の大事なメインイベントをミノワに任せたんだ。ミノワが出たおかげでインターナショナルな感じも出せたし、この抜擢は大成功だったよ。

――そもそもマリオさんが「ブラジル・スーパー・ファイト」を開催しようと思ったのはなぜなんですか？

ノゲイラ　大会が開催されたリオ・グランデ・ド・ソル州は柔術や格闘技も凄く盛んな土地で、ゼ・マリオの故郷でもある。それで今回はゼ・マリオと州知事のアイデアで、ブラジルでもバーリ・トゥードを盛り上げるために開催することになったんだけど、意外に思うかもしれないけど、ブラジルでは柔術やバーリ・トゥードはあまりメジャーじゃなかったんだ。

――あ、そうなんですか？

ノゲイラ　でも、『PRIDE』が地上波で流れるようになってからどんどん人気が上がってきて、『ジャングル・ファイト』はPPVの契約数が他のスポーツを抜いて、サッカーに次ぐ2位になったんだ。ただ、せっかく人気も上がってきて、いい選手もたくさんいるのにブラジルにはいいイベントがない。それでゼ・マリオが大会を開いたんだよ。今回はブラジル銀行のスポンサードも受けられたし、運営や進行もしっかりしていて、大会自体もミノワのおかげで



8月の『PRIDE・GP2003』の記者会見で、偶然隣り合わせの席となったミルコとノゲイラ。実は両者共に「ヒョードルとやる前に闘いたい」と言っていた者同士なのだ。

盛り上がって大成功だったよ。

──今回は若い選手が中心でしたけど、これからはもっと上の選手が出てくる可能性もあるんですか?

ノゲイラ　彼らはみんな才能がある選手たちだから、今後も彼らの試合は組んでいくだろうけど、のちのちは上の選手も出てくるよ。今は僕らが試合に出るためのスポンサーを捜しているところなんだ。将来的にはきっと大きなイベントになるよ。

──ところで、ノゲイラ選手の次の試合は11・9東京ドームになりそうなんですか?

ノゲイラ　東京ドームには出る予定だよ。でも、相手はまだ決まってない。ボクは相手を選ばないから誰でもいいよ。

──特に闘いたい相手はいないんですか?

ノゲイラ　もちろんヒョードルと再戦がしたいし、その前にミルコとやってもいい。どうしても『PRIDE』ヘビー級のベルトを奪い返したいからね。ボクがベルトを持ってないのは今だけだよ。3月にヒョードルに負けてベルトを失ったことによって、練習にも気合が入ったし、自分ではより成長できたと思っている。みんなはボクが止まっていると思ってるようだけど、ボクはもっと強くなるよ。今年はボクにとっていい年じゃなかったけど、来年はボクの年になる。

──次の『PRIDE』はミルコvsヒョードルが実現しそうなんですけど、その勝った方と闘いたいという感じですか?

ノゲイラ　どっちが勝ってもいいから、勝った方とやりたい。

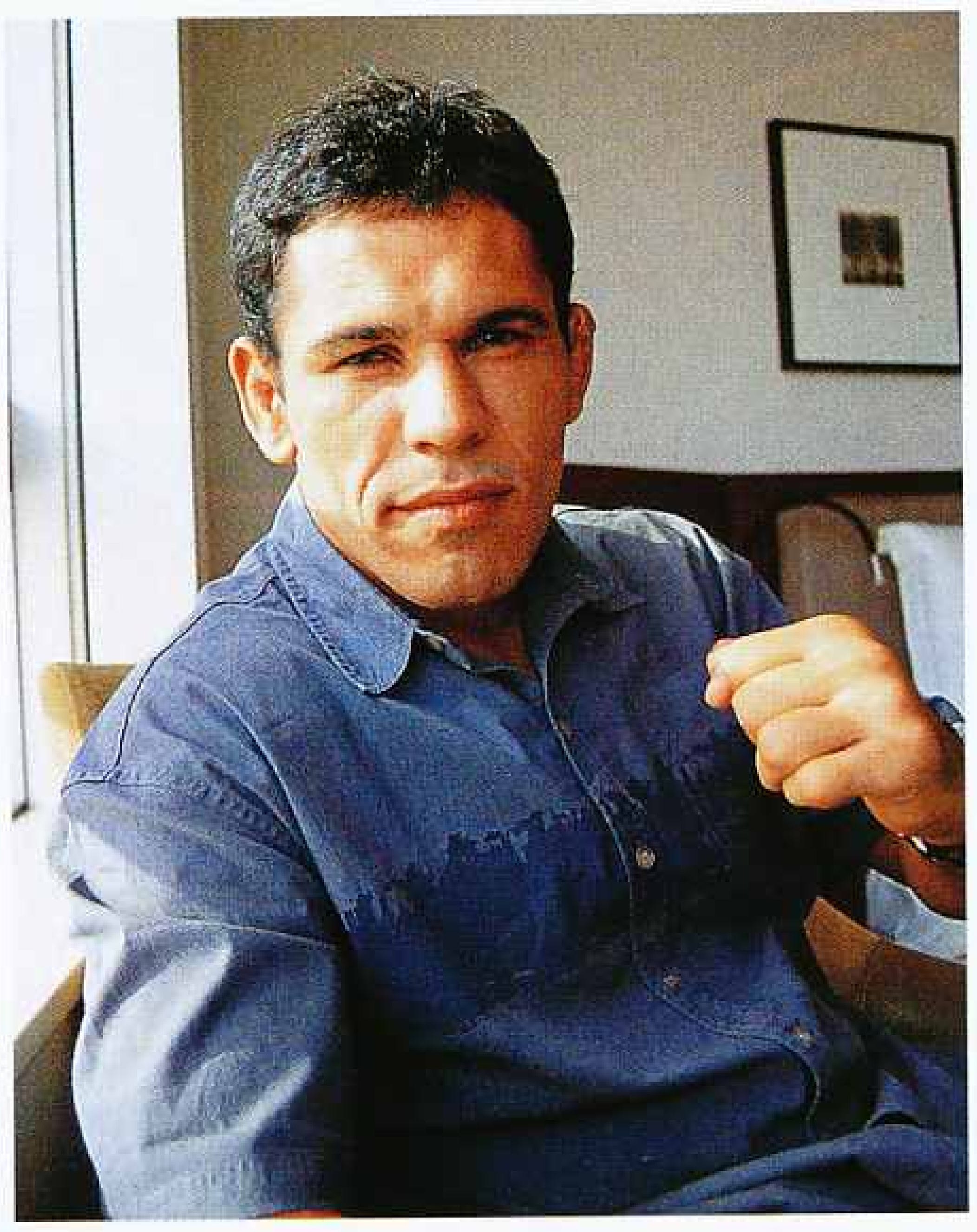
──どっちが勝つと思いますか?

立ち技vs寝技の最高にエキサイティングな試合と一本勝ちをファンに約束するよ!

ノゲイラ　ヒョードルが勝つと思う。ヒョードルの方がグラウンドのテクニックが上だし、力も強いしね。バーリ・トゥード(以下VT)のルールだったらヒョードルの方が経験もあるし。でもVTだから何が起こるか分からないよ。

──では、最後の質問ですが、『PRIDE』とUFCの対抗戦が本格化しそうなんですけど、『PRIDE』代表としてオクタゴンに乗り込む気持ちはありますか?

ノゲイラ　『PRIDE』の代表として準備はできている。ボクはファイターだから、もし送り出されたらオクタゴンだろうがどこだろうが闘うだけだし、相手を選ぶつもりもない。アメリカでも『PRIDE』が有名になるチャンスだしね。基本的には日本で試合をするのが好きなんだけど、『PRIDE』を守るためにアメリカでも闘うよ。



【03年10月5日/都内・某ホテルにて収録】

と、こんな感じで呑気なインタビューを行っていたわけだが、その10日後に、なんと11・9ドームでのミルコ・クロコップ戦が緊急決定! しかも、PRIDEヘビー級暫定王者決定戦として行われることとなったため、急遽、国際電話での追加インタビューを行った。それでは、ミルコ戦が決まったノゲイラの意気込みをどうぞ!

──ノゲイラさん! 11・9東京ドームでの相手がミルコ・クロコップに、しかもPRIDEヘビー級暫定王者決定戦として行われることになった、今の心境を聞かせて下さい!

ノゲイラ　もの凄く嬉しいよ! そのカードを聞いて興奮が抑えられなかった。とにかくミルコに何としてでも勝って、失ったベルトを取り返したい。それだけだよ。

──突然、ミルコ・クロコップのような強敵が相手で、戸惑いはありませんか?

ノゲイラ　まったくないね。ボクは誰とでも闘う準備ができているし、ミルコはもともと闘いたかった相手だから、二つ返事でOKしたよ。

──対戦相手としてミルコをどのように評価していますか?

ノゲイラ　もちろん現時点で最強のファイターのひとりだと思うし、特に打撃系ファイターとしては、間違いなくナンバー1だろう。そしてボクはグラウンドのトップファイターとして、立ち技vs寝技のホントにエキサイティングな試合になると思う。

──ミルコの左ハイキック対策はもう始めていますか?

ノゲイラ　うん。この試合の話が来てから打撃の練習を大幅に増やしたし、いまは"仮想ミルコ"として、サウスポーのスパーリング・パートナーを用意してもらっている。それからボクの友人であるペドロ・ヒーゾとも練習を始めた。もちろんトップチームの仲間たちがボクに最大限のサポートしてくれているんだ。

──ミルコはタックルを切るのが上手いですけど、その対策も練っていますか?

ノゲイラ　テイクダウンを奪う術はタックルだけじゃないからね。もちろん簡単にはいかないだろうが、必ずグラウンドに持ち込んで一本勝ちを奪いたいよ。

──ここで勝てば、ヒョードルとの真の王者を決める対決が待っています。

ノゲイラ　それこそボクが待ち望んでいたシチュエーションだよ。3月の屈辱をボクは決して忘れていない。しかし、彼に負けたことで、ボクはハングリーなミノタウロに戻ることができた。彼から「最強」の座を奪い返すのはボクの使命だと思ってるんだ。

──なるほど。では、最後にミルコ戦への意気込みを聞かせてください。

ノゲイラ　今年はあまりいい試合が見せられなくてファンに申し訳なく思っている。でも、11月には最高にエキサイティングな試合と、一本勝ちを見せられるように頑張るよ!

──期待してます!

ショック!! 韓国の新VT大会『K・O・King』開催延期!!

美濃輪育久vsダン・スバーン、ノゲイラ弟vsキモ等の注目カード他、滑川康仁のVT復帰戦も行なわれる予定になっていた韓国新VT大会『KOKing』。17日、全面協力を行っていた『DEEP』事務局から、この大会が延期されることが発表された。

延期の理由として大きなポイントになったのは、韓国国内でのVTの位置づけだ。10月上期、韓国国内で放送された格闘技番組に対して「これは、ただのケンカだ。野蛮すぎる」「なぜケンカをテレビ放送するのか」等、批判の声が強くあがり、スポンサーもこれを懸念して延期を求めてきたという。

日本の数倍かかったという経費の問題も含め、KOKing事務局としては「補完されたルールと、スポーツとして安全性が保証できる競技運営の見直しが必要であること」「出場選手のプロスポーツ選手としての意識の向上が必要であること」「総合格闘技が大衆文化として位置づけるための時間が必要となったこと」(※以上、プレスリリースより)を考え、延期の決断を下すにいたった。

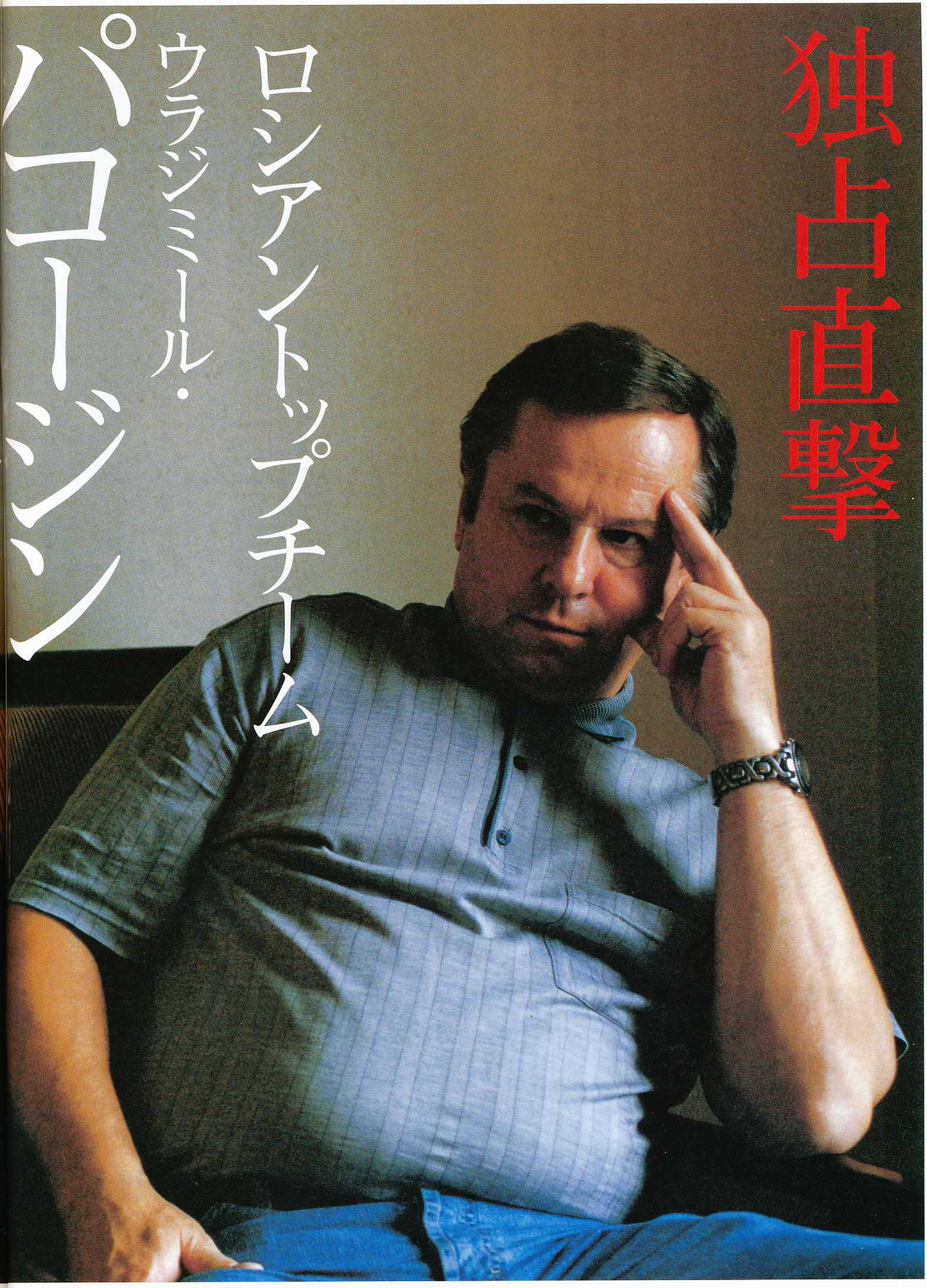
事務局は日本のマスコミをはじめ、美濃輪応援ツアーに参加、開催を楽しみにしていた日本のファンへ深くお詫びするとともに、来年2月の開催へ向けて話し合いを進めている。

尚、ツアー申し込み、チケットの購入の申し込みをされた方は、DEEP事務局(TEL.052-399-0303)まで早急に確認のこと。

独占直撃

ロシアントップチーム

ウラジミール・パコージン



総監督が語る

ヒョードル負傷欠場の全真相

聞き手／堀江ガンツ
撮影／松本崇
designed by hisa（Two Three）

折れていた氷の拳！
ヒョードルに何があったのか⁉



パコージン総監督が語る
ヒョードル負傷欠場の全真相

10・5『PRIDE武士道』翌日、本誌はロシアン・トップチーム、パコージン総監督にインタビューを申し込んでいた。
今回はエメリヤーエンコ・ヒョードルの来日がなかったため、代わりにパコージン氏からミルコ・クロコップ戦を控えたヒョードルの状態や、意気込みを聞こうとしたためだ。しかし、ヒョードルの話を振ると普段は陽気なパコージン氏の表情がみるみる曇り、インタビューは意外な方向へ……。
「ヒョードル欠場」正式発表まで内容は公表しないという約束のもとパコージン氏から聞き出した、「ヒョードル欠場の全真相」をいまこそ、お届けしよう。

私もヒョードルもミルコとの対戦を望んでいるが、現段階で日時を明言するのは非常に難しい



――昨日はエメリヤーエンコ・アレキサンダー、セルゲイ・ハリトーノフ両選手の『PRIDE』デビュー、そして初勝利おめでとうございます。パコージンさんから見て、彼ら2人の闘いぶりはいかがでしたか?

パコージン 確かに2人とも勝利を収めたという結果は良かったのだが、内容的には彼らが持つ能力の半分も出せなかったことが残念でならない。その原因は、もちろんこれだけ規模が大きく、ショーアップされた会場で、大観衆が見守る中闘うという経験が初めてだからプレッシャーを感じてしまったのだろうが、プロとして『PRIDE』のリングに上がったからには、自分のベストを見せねばならなかったと思う。

――デビュー戦でいきなりアスエリオ・シウバに勝つということ自体は凄いことだと思いますけど、内容は確かに今ひとつでしたね。ただ、2人とも間違いなく強いことはわかったので、次回に期待したいと思います。

パコージン そう言っていただけるとありがたい。彼らも初めて『PRIDE』のリングに上がってみて、反省点もたくさんあるだろうから、次回はそれを改善し、日本のファンに素晴らしい闘いをお見せすることと約束しよう。

――ところで、昨日の『武士道』では、メインイベントでミルコ・クロコップがもの凄い勝ち方をして、いよいよヒョードル選手との〝究極の頂上対決〟への機運が高まりに高まっていますが、決戦を1ヶ月後に控えて、いまヒョードル選手の状態はいかがですか?

パコージン (険しい表情に変わり)……そのことについてだが、日本のファン、関係者、そしてジャーナリストのみなさんに、我々はお詫びをしなくてはならない……。

――えっ……ど、どうしたんですか?

パコージン 実はいまヒョードルは右手に大きな問題を抱えているんだ。

――それは、ケガをしたということですか?

パコージン (無言で頷く)そもそもの原因は8月のゲーリー(・グッドリッジ)選手との試合で右手親指を打撲したようなケガをしてしまったんだが、これは小さなケガだったので、すぐに治療を施し、完治したという認識だった。しかしその後、ヒョード



8・10さいたま■『ＰＲＩＤＥ・ＧＰ2003』の第１試合に出場したヒョードルは、Ｇ・グッドリッジを一方的に殴りまくり圧勝。しかし、このとき拳を痛めてしまった……。

ルは少し休暇を取ったのち9月頭にトレーニングを開始したのだが、2週間後の9月15日、サンドバッグへ打撃の練習をしていた時、負傷カ所へ強い負荷がかかってしまい右親指の骨が砕けてしまったんだ。

――こ、骨折ですか……。

パコージン　ただ、その時点では骨折しているのかどうかわからなかった。かなり腫れがひどかったので、その腫れのせいで、レントゲンを撮ってもどうなっているかわからない状態が10日ほど続いたんだ。そしてやっと少し腫れが引いた状態で撮れたレントゲン写真がこれだよ（と言ってレントゲン写真を取り出す）。

――ちょっと見せて下さい。

パコージン　（レントゲン写真を指さしながら）この欠けた部分。ここが骨折した箇所だよ。

――出っ張ってる部分ですね。

パコージン　この関節内で砕けて出っ張ってる骨が邪魔をして、痛みが発生する。医者が言うには第一関節の関節内骨折ということだ（正式には「右手第1掌骨基底関節内骨折」「関節滑膜炎」）。そして、これはヒョードルの住んでいるスタールイオスコルという町の病院で診てもらったものだが、さらに専門的に診てもらおうと、その後すぐにモスクワの大きな病院へ行った。しかし、やはり診断結果は同じで、そこでは「ひとつの方法として手術するという道がある」と言われた。

――でも、手術するとなると、復帰はそうとう遅れるんじゃないですか？

パコージン　そのとおり。しかも関節内の骨折のため治療が非常に難しく、なおかつどんな治り方をするのか予想がつかないというんだ。そうなると、右の拳はヒョードルの闘いにおいての生命線でもあるから、なるべくリスクは背負わせたくないので、その後いろいろ検診した結果、ギブスをはめて安静な状態を保つという方法を取ることになった。スタールイオスコルでの治療でも簡単なギブスははめていたが、モスクワで改めてはめ直し、いまヒョードルの剥がれた部分の骨が育つのを抑制している。このままいけば、12月の初めにはギブスがとれる予定だ。

――そうですか……それはショックですね。

パコージン　もちろん私もヒョードルのトレーナーという立場から、このことが大変重要なことだと考えている。その上でお伝えしたいのは、やはり11月のミルコ・クロコップ戦は非常に難しいと言わざるをえないということだ。

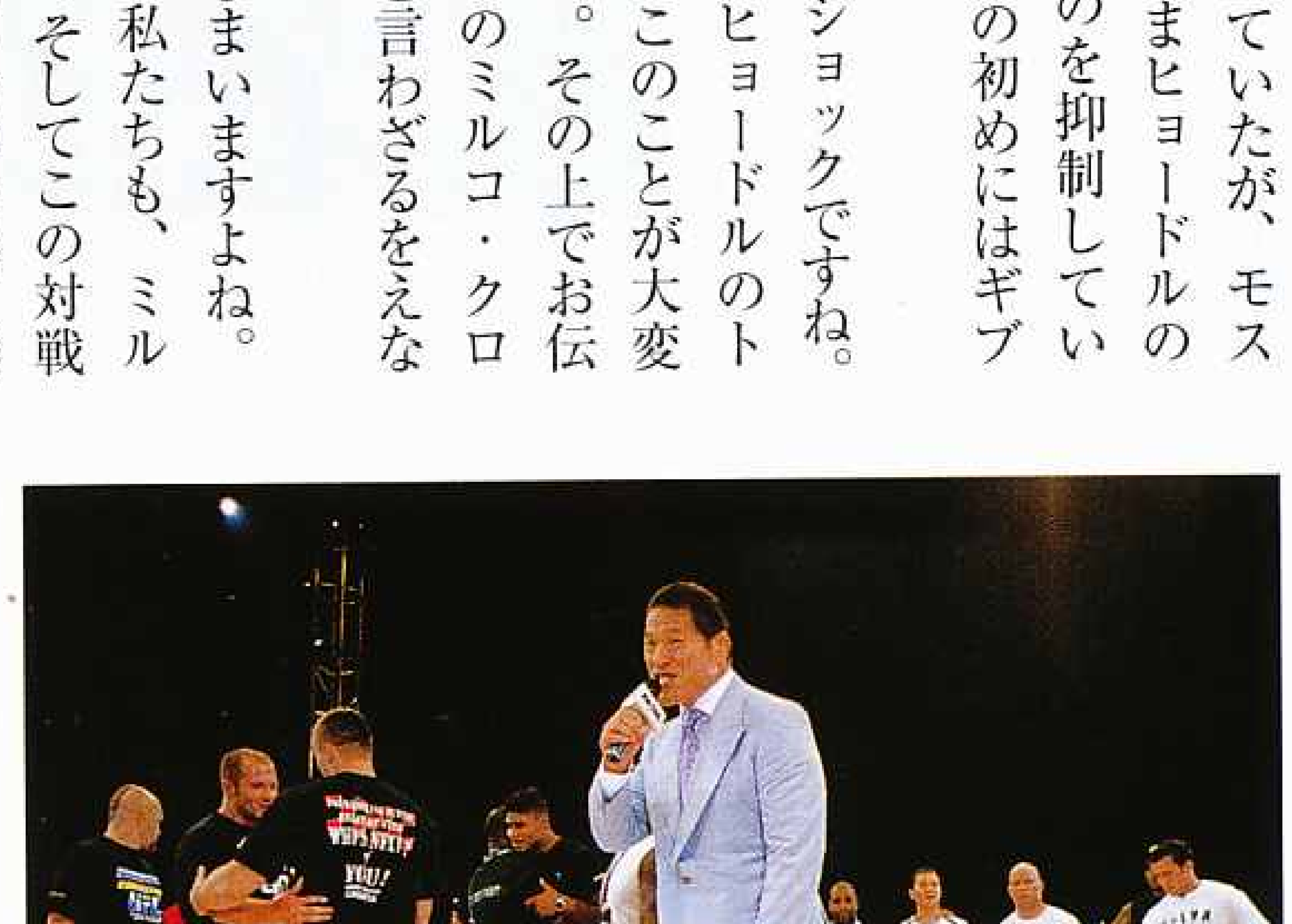
――う〜ん、そうなってしまいますよね。

パコージン　ヒョードルも私たちも、ミルコとの対戦を望んでいる。そしてこの対戦は必ず実現させなければならないと強く感じている。ただ、いまの状況では、その一戦をいつ行うのか公表することが難しいこともまた確かなんだ。

――ただ、残念ながら、このタイミングで欠場を発表した場合、事情はどうあれ「逃げた」と言われることは避けられないと思います。

パコージン　それぞれ人間というのは頭脳があるし、それぞれが考えることが許されている動物なので、そのような考えを持つ人がいることは仕方がない。しかし、ヒョードルがケガをしているのは100％事実であり、このヒョードルvsミルコという素晴らしいマッチメイクもお互いが100％納得できるコンディションでやらなければ意味がないことも事実なんだ。

――ただ、ヒョードル選手はノゲイラ選手とのタイトルマッチのときも、当初昨年12月に予定されていたのが負傷して3月に延期になったので、どうしても「もう少し準備期間がほしかったんじゃないか」と勘ぐられる向きもあると思います。



アントン総帥がマイクを握るその後ろでは、ミルコがヒョードルの勝利を祝福していた。次に２人がリング上で会うのはいつか？

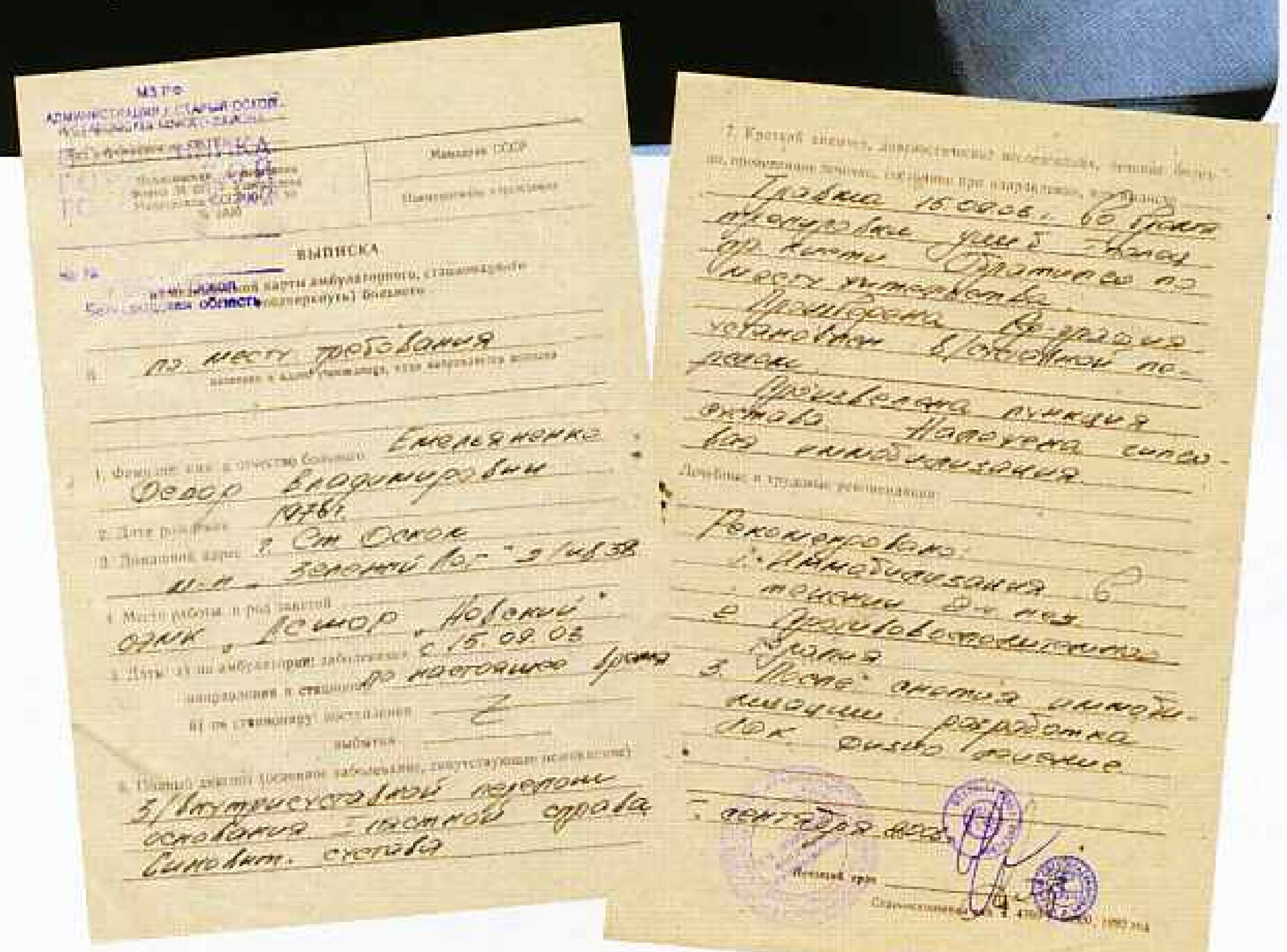
パコージン　それについては、前回と今回とでは状況がまったく違うことをご理解いただきたい。ノゲイラ戦のときは、その直前に、コマンドサンボの世界選手権が2回行われていて、ヒョードルはそちらの方を優先したために『ＰＲＩＤＥ』のドクターチェックを受けられなかった。これはヒョードルの意志ではなく、サンボ協会を後押ししているロシア国家の意志であり、断ることができる状況ではなかったんだ。

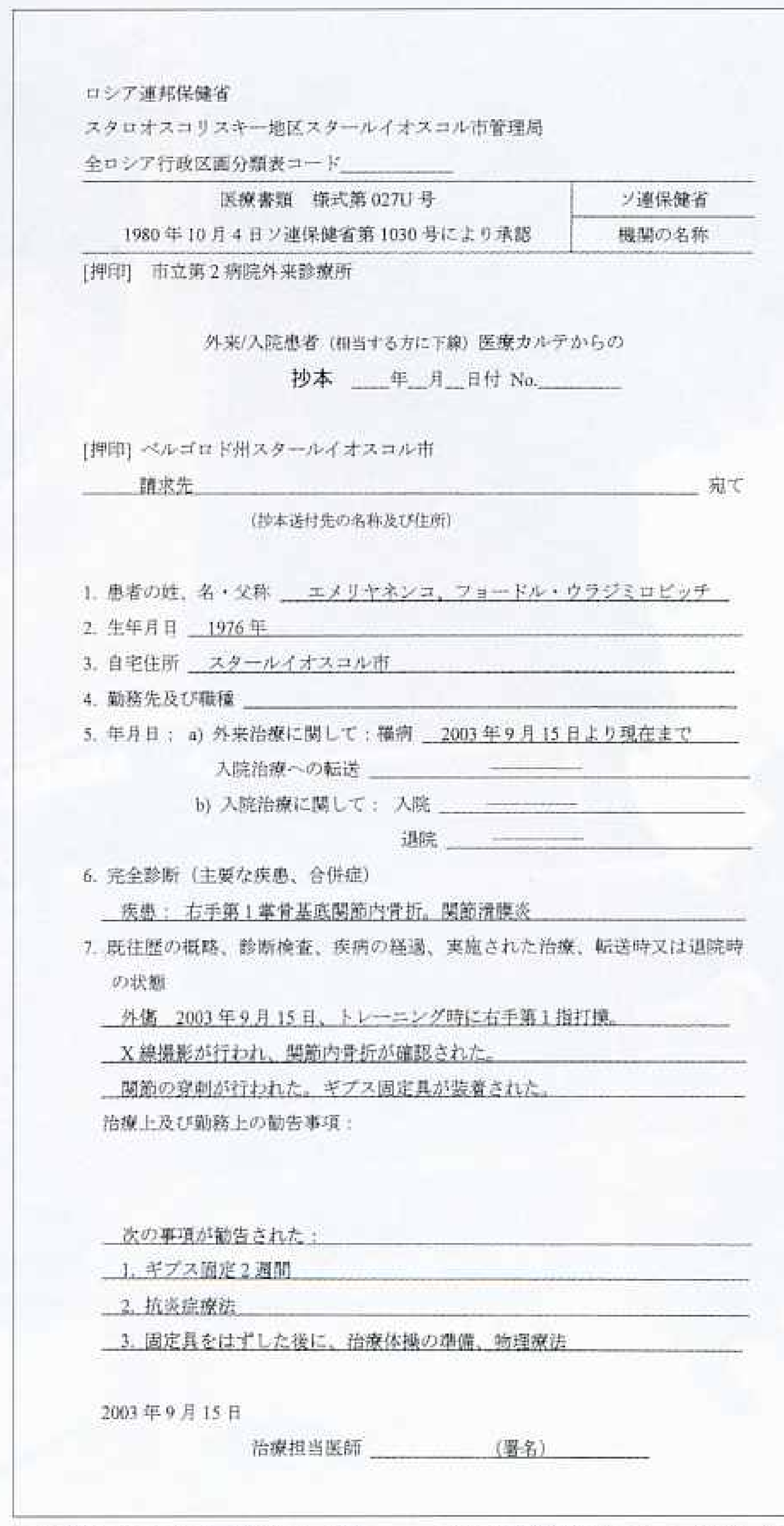
――もちろん、ヒョードル選手のケガが嘘だと言いたいわけではないんですが、タイミングがあまりにも悪すぎますよ。

パコージン　まぁ、どれだけ説明しても「逃げた」と思われるのは仕方がないかもしれないが、今回のことでヒョードルが積み上げてきたものがなくなってしまうなら、それは非常に悔しく悲しいことだ。改めて宣言させてもらうが、我々ロシアの選手たちというのは、決められた試合を断るということをしない。それでも今回だけは出場を明言できない状態なのが大変悔しい。



パコージン総監督が語る
ヒョードル負傷欠場の全真相





ロシア連邦保健省
スタロオスコリスキー地区スタールイオスコル市管理局
全ロシア行政区画分類表コード＿＿＿＿＿

医療書類　様式第 027U 号 1980 年 10 月 4 日ソ連保健省第 1030 号により承認	ソ連保健省 機関の名称

[押印]　市立第 2 病院外来診療所

外来/入院患者（相当する方に下線）医療カルテからの
抄本　＿＿年＿月＿日付 No.＿＿＿＿

[押印] ベルゴロド州スタールイオスコル市
＿＿請求先＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 宛て
（抄本送付先の名称及び住所）

1. 患者の姓、名・父称　エメリヤネンコ，フョードル・ウラジミロビッチ
2. 生年月日　1976 年
3. 自宅住所　スタールイオスコル市
4. 勤務先及び職種＿＿＿＿＿＿＿＿
5. 年月日：a) 外来治療に関して：罹病　2003 年 9 月 15 日より現在まで
入院治療への転送　――――
b) 入院治療に関して：入院　――――
退院　――――
6. 完全診断（主要な疾患、合併症）
疾患：右手第 1 掌骨基底関節内骨折。関節滑膜炎
7. 既往歴の概略、診断検査、疾病の経過、実施された治療、転送時又は退院時の状態
外傷　2003 年 9 月 15 日、トレーニング時に右手第 1 指打撲。
X 線撮影が行われ、関節内骨折が確認された。
関節の穿刺が行われた。ギプス固定具が装着された。
治療上及び勤務上の勧告事項：

次の事項が勧告された：
1. ギプス固定 2 週間
2. 抗炎症療法
3. 固定具をはずした後に、治療体操の準備、物理療法

2003 年 9 月 15 日
治療担当医師＿＿＿＿＿（署名）＿＿＿＿＿

これがＤＳＥからお借りしたヒョードルの負傷箇所のレントゲン写真と医師の診断書（右はそれを翻訳したもの）。写真を見ると、右手親指の付け根に、突起した骨があることがハッキリとわかる。関節内での骨折のため、治療は非常に難しいという。グラウンドのパウンドが持ち味のヒョードルだけに、この怪我はいろんな意味で痛い。なお、この診断書はヒョードルの地元スタールイオスコルの病院のもので、現在はモスクワの病院に移って懸命の治療とリハビリに努めているという。

――ヒョードル選手の対戦相手に予定させていたミルコ・クロコップに対しては、どのような思いがありますか？　この試合のために、そうとう前から準備を続けていたようですけど。

パコージン　ミルコ選手に対しても大変申し訳なく思っている。彼がヒョードルと闘うために、とても厳しい練習を積んできたという話は私も耳にしているので、とても心苦しい。ただ、試合を延期した時間というのはミルコ選手にも平等に与えられるので、これによって彼がよりよいコンディションを作れる時間になればと思う。

――しかし、ミルコはあくまで11月に照準を合わせてトレーニングして、昨日の『武士道』での試合もヒョードル戦に向けてのコンディションづくりの一環としてわざわざ闘ったわけですから、長いスパンでのミルコの予定が崩れてしまうわけですよね。そのことについてはどう思いますか？

パコージン　もちろんミルコ側の考え方、準備があったことは分かっている。ただ、もう一度お伝えしたいのは、ミルコ選手は対戦を延期したからといって停滞するわけではない。与えられた時間を今度はコンディションを保つことに専念できる。ヒョードルの場合はトレーニングができない状況で、また0から始めねばならない。その状況を理解して戴きたい。

――では、ヒョードルvsミルコの一戦は正式発表こそしていませんでしたが、実現がほぼ確定ということで、この試合のためにチケットを購入したファンが大勢います。ですから、欠場するとなったらヒョードル選手が直接来日して釈明しないと納得しない部分もあると思いますが、そういったことは考えていますか？

パコージン　もしそういうふうにご判断されているのであれば、こちらに来てキチンと釈明するしかないと思いますし、必要とあれば来る用意はあります。

――現時点で欠場は決定的なわけですから、昨日の『武士道』の会場で釈明しようとは思わなかったんですか？

パコージン　もちろん診断が出た段階でヒョードルが11月の大会に出場できないのではないか、ということは認識していたが、いまヒョードルはモスクワで最先端の治療を行っているので、もしかしたら、我々が日本に滞在している間にも奇跡的な回復が起きるかもしれないという希望をもっていたので、敢えて公言はしなかった。しかし、昨日ロシアとコンタクトを取った時点では、やはりそのような回復は望めないという返事が返ってきたんだ。

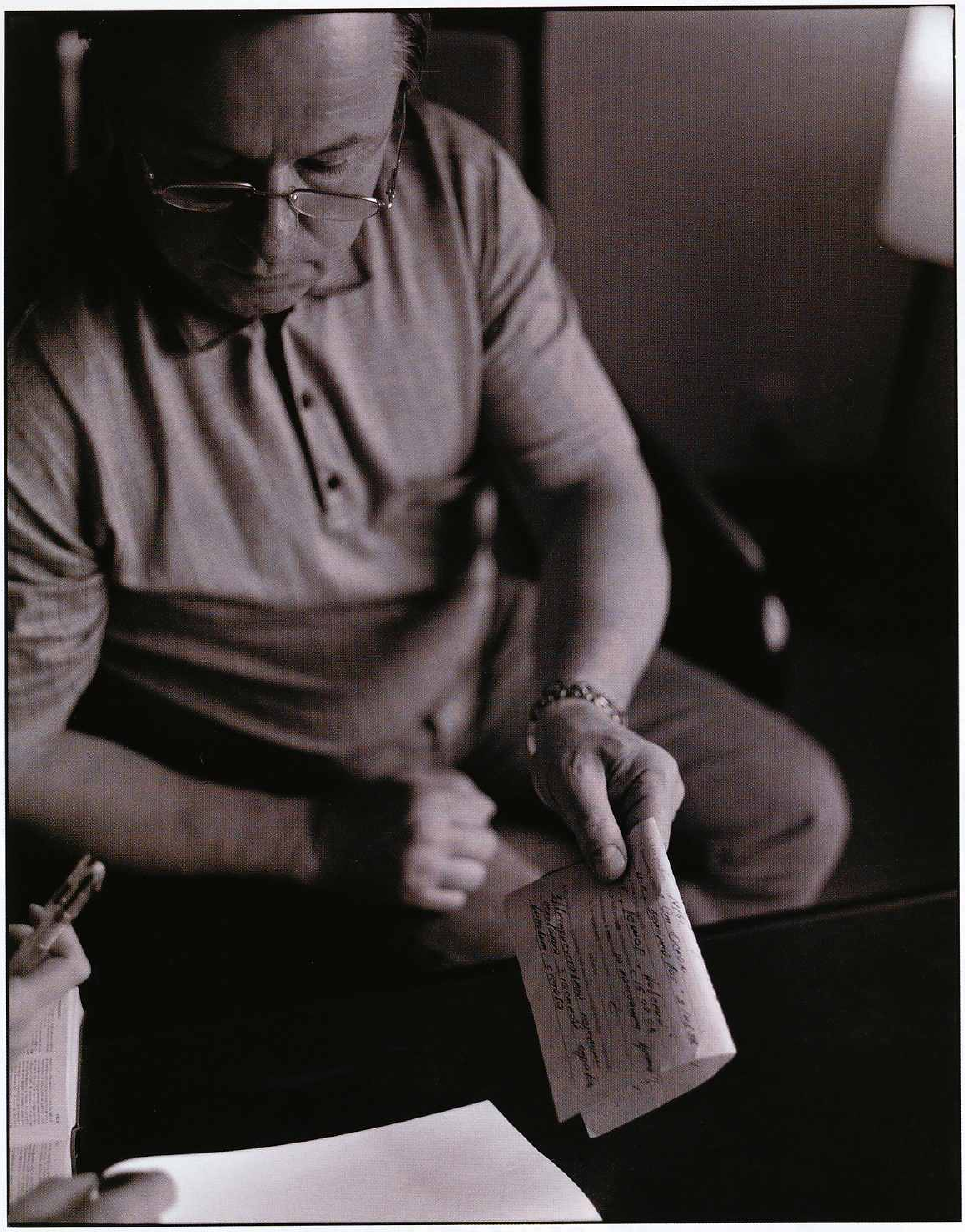
――そうなると、今回はタイトルマッチが延期ということになるので、もしかしたらタイトル返上もしくは剥奪ということにもなる可能性もありますが、そうなった場合受け入れますか？

パコージン　いや、我々は負傷が癒え次第、必ずタイトルマッチを行うという話を進めているので、闘わずしてタイトルを返上するということはまったく考えていない。

――では、例えばミルコとノゲイラが闘って、勝者を暫定王者として、その暫定王者とヒョードル選手が闘うということになったら受け入れますか？

パコージン　今の状況で『ＰＲＩＤＥ』がそのように決めるならば、私たちは受け入れるしかない。ヒョードルは必ずその暫定王者と闘うことを、この場でお約束しておこう。

――11月9日の次の大きな試合となると、12月31日に『イノキ・ボンバイエ』という大会が予定されていますが、この大会に出場



現在ヒョードルはモスクワにある大統領直轄の病院で、懸命の治療とリハビリに努めている

するということはあり得ますか？

パコージン　もちろん可能性がないとは言えない。ただ、医者の意見と、回復のプロセスがどうのように進むか、それに掛かっている。

――それでは、最速で『イノキ・ボンバイエ』、もしくはその次の『ＰＲＩＤＥ』に間に合うように努力して頂けると思ってよろしいですか？

パコージン　もちろん、一番いい状況になるように神にお願いし、そして医者にもキチンと話していい状況を見ながら努力する。いまヒョードルがいるモスクワの病院は、ロシアの最新医療を研究している大統領直轄の病院で、一般的な治療をしているわけではない。状況によっては最新分野のレーザーを使った治療も考えており、一刻も早い回復を模索しているところだ。

――では、最後に今回の一戦を楽しみにしていたファンに一言お願いします。

パコージン　私がここでお伝えしたいことは一つ。それは私たちが今陥っている状況を正しく理解して頂きたいということです。そしていつでも私たちと共に闘って、私たちを応援して下さい。今の状況というのは私たちにとっても大変心の痛い状況で、この状況をいい方法で解決するために、本国に戻ったら、最高のスポーツ外科と、治療、リハビリについて相談します。必ずみなさんを裏切るようなことは致しません。

――では、ありがとうございました。

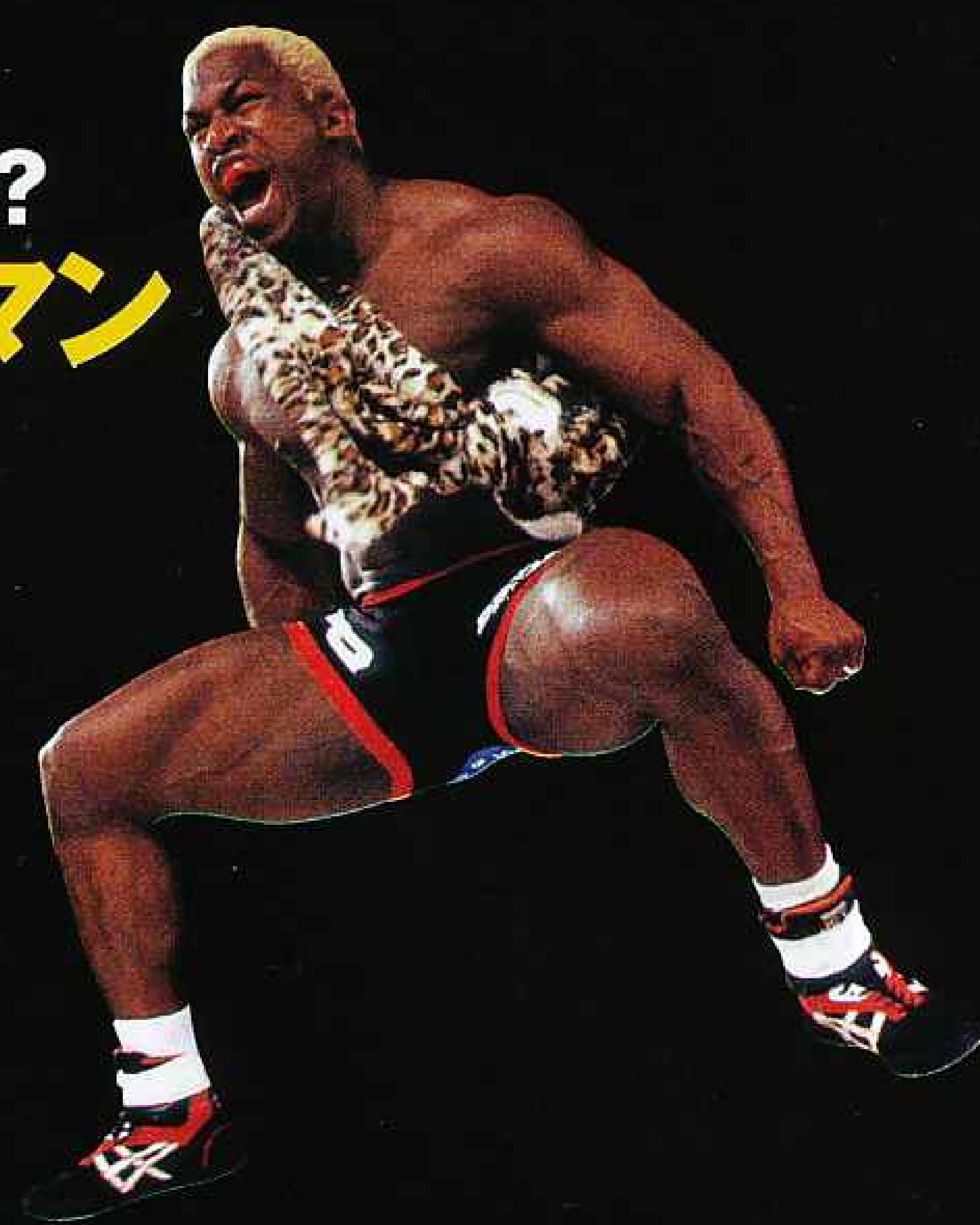
パコージン　今日は快くないインタビューをさせることになってしまって、申し訳ない。是非、今言ったことを正しく伝えて下さい。

――わかりました。一日も早い回復を祈ってます！

【03年10月6日／都内・某ホテルにて収録】



サクはドンキーコングをクリアできるか?
桜庭和志vs ケビン・ランデルマン



“お得感”この上なし!
ミルコvsノゲイラ、『PRIDE・GP』を見に行くと、
もれなく…桜庭和志が付いてきます!!



「お前らも、
やっぱり男だよ!!」

『PRIDEミドル級GP』リザーブマッチ



ダン・ヘンダーソン
[チーム・クエスト]

ムリーロ・ブスタマンチ
[ブラジリアン・トップチーム]

ランペイジに僅差の判定負けで涙を飲んだブスタマンチと、実力的にGPクラスながらケガに泣かされたダンヘン。実現すれば、マニア垂涎、柔術vsパウンド・フォー・パウンドの最高峰の闘いが見られるのは間違いなし!!

『PRIDEヘビー級GP』前哨戦



ヒース・ヒーリング
[ゴールデン・グローリー]

X

ヒーリングがミルコ戦以来の登場! 当初対戦相手として藤田和之の名前も挙がっていたが、10/21日現在、UFC参戦も視野に入れる藤田の出場は微妙に。代わって、山本宜久、さらには“ド真ん中の怪物”ボビッシュも急浮上!!

お得感この上なし!

11・9東京ドームにミルコvsノゲイラ、そして『PRIDEミドル級GP』決勝戦を観に行くと、もれなく桜庭和志が付いてきます! さらには藤田和之も!?

10月16日、DSE事務所で行われた会見で発表されたのが、ヒョードル負傷欠場のためミルコ戦延期というバッドニュース。しかし、リボーン後の『PRIDE』はそこからが違う。『PRIDE』ヘビー級戦線もう一つの黄金カード・ミルコvsノゲイラのヘビー級暫定王者決定戦をすぐさま発表! 会見場に集まったマスコミだけでなく、その報を耳にしたファンまでをも、地獄から天国へと一気に引き上げてくれた榊原代表&高田統轄本部長。この場を借りて「お前ら男だよ!」と言いたくなるような見事なリカバリーぶり見せてくれたが、さらに「侍だよ!」と言わざるを得ないプレゼントが高田本部長の口から飛び出した。

「もう一つお得感を感じてもらいたい。あの桜庭がドームに参戦します!!」

3度目のシウバ戦に敗れ、再起戦は未定状態だった桜庭の電撃参戦を発表! しかも高田本部長自ら「単なる顔見せじゃない。『ヤバイんじゃないか!?』という相手とぶつける」とキッパリ。榊原代表も「厳しいようですが、ミドル級のトップアスリートを用意します」と続けていたが、2人の発言どおり、桜庭にとって厳しく、そしてヤバイ相手との対戦が決定!

その名はケビン・ランデルマン! ここ最近はOH祭りでの活躍が記憶に新しいが、ランデルマンはミドル級GPに出場していても、おかしくはないファイター。『PRIDE』マットでは、ランペイジに敗れている以外は負けなしで、さらには全面対抗戦も噂されているUFCのヘビー級王者の過去を持つ男なのである。

いくら髙田本部長が「サクは現在、コンディションや練習状態も非常にいい状態で道場の中で輝いている」と言っても、安々と勝たせてくれるような相手ではない。

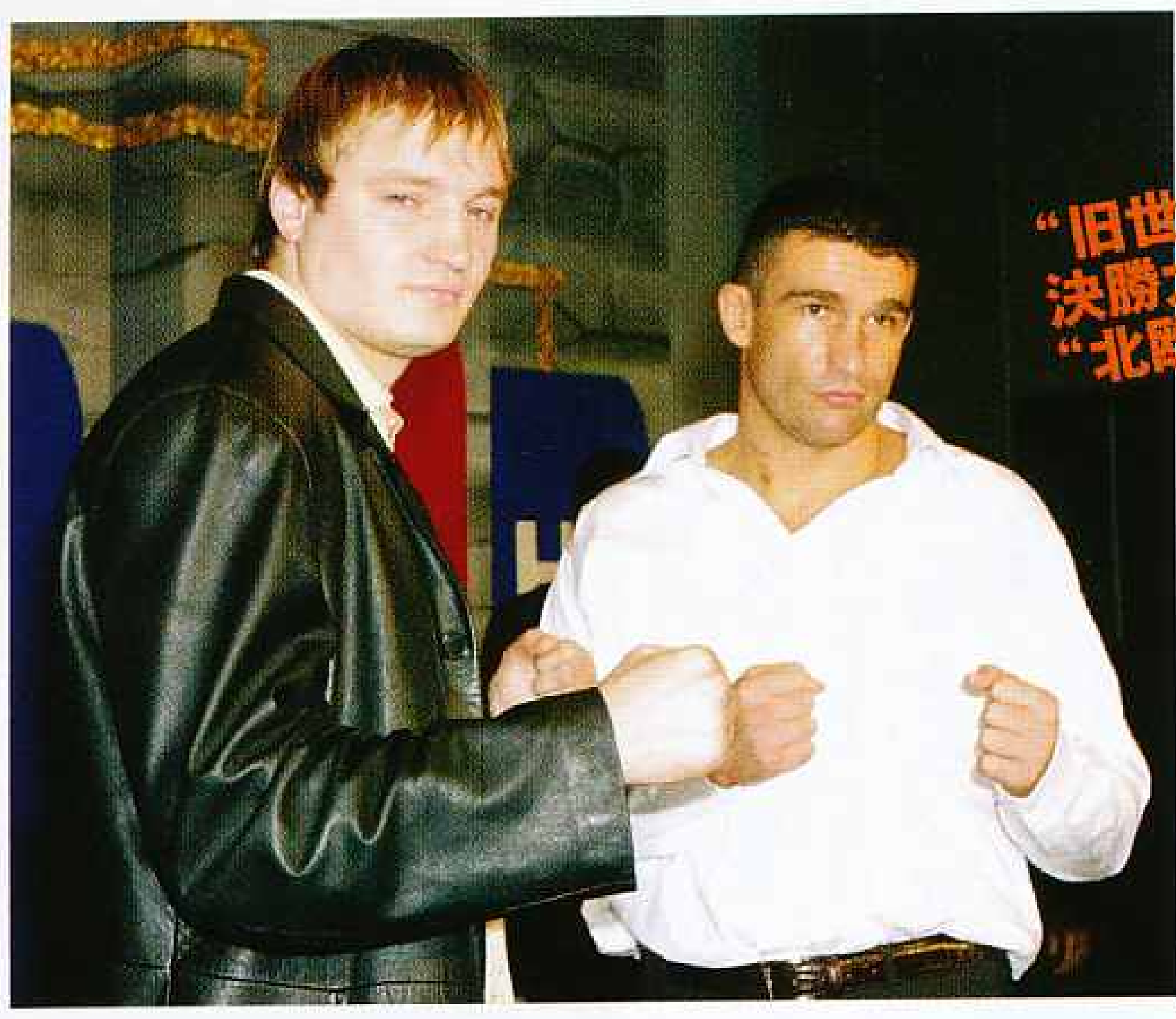
はたして、ゲーム好きのサクは〝リアル・ドンキーコング〟をクリアすることはできるのか? これは見逃せない!!

さらに、お得感もう一丁!?

そして本誌ではヒース・ヒーリング参戦の情報をゲッツ! 対戦相手として藤田和之、山本宜久、さらにはダン・ボビッシュの名前まで挙がっているという。他には『ミドル級GP』リザーブマッチとして、ムリーロ・ブスタマンチvsダン・ヘンダーソンというマニア垂涎のカードも実現濃厚。本誌発売日までには、追加カードも含め全対戦カードが発表されているはず。

どこから観てもメイン級のカードがズラリ勢揃いしそうな11・9東京ドーム。もう、大会前からタップ寸前です!!





“旧世代の砦”として意地のGP決勝大会進出！　初戦の相手は“北欧のアーツ”イグナショフだ！

ピーター・アーツ

ミスターK-1動く！

「K-1との契約は年内に満了。来年から向こう5年はMMAで闘っていく」

ミスターK-1、遂に動く！　K-1創世期から活躍し、グランプリを3度制覇。そして今年10・13大阪ドームでジェレル・ベネチアンを破り、11年連続K-1ワールドGP決勝大会進出を決めるなど、まさにK-1の歴史を支え続けたアーツが、噂通り遂に総合格闘技進出を宣言した！　しかも、「向こう5年間はMMAで闘う」というのだから本気だ。4度目のGP制覇への意気込みと共に、アーツの真意を聞いてみた。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／平工幸雄
designed by matsu (Two three)

Peter Aerts

──さて、アーツさん。たったいまWORLD・GP決勝トーナメント初戦の相手がアレクセイ・イグナショフに決まりましたけど、いまの心境はいかがですか？

アーツ 抽選で一番最後を引いてしまっただけあって、一番やっかいな相手になってしまったね（苦笑）。おそらく1回戦が一番厳しい試合になるんじゃないかな。彼と前回闘ったときは判定で負けてしまったけど、自分では僅差だと思っているので、今回はリベンジしたいと思うよ。

──イグナショフは〝東欧のアーツ〟と呼ばれてますけど、そのことについて、アーツ選手ご本人はどう感じてますか？

アーツ そういうふうに呼ばれているのは、もちろん知っているし、非常にいい選手なので自分でも嬉しいよ。

──今回のグランプリは、そのイグナショフ選手を始めとして、いわゆる新世代の選手が数多く名を連ねていますが、第1回から出場しているアーツ選手としては、その傾向についてはどう思いますか？

アーツ それはごく当たり前なことだよ。何十年もトップで闘える選手なんていないんだからね。それに若い選手は決勝に出場できて、もの凄く意気込んでいるだろうから、例年以上に激しい闘いになるかもしれないし、新しい選手が決勝トーナメントに顔を出すのは凄くいいことだと思うよ。

──逆にアーネスト・ホースト、ジェロム・レ・バンナ、マーク・ハントといった、これまでK-1のトップグループを形成していた選手たちが、それぞれケガや病気を理由に欠場しましたけど、それについてはどう思いますか？



サップはああいう試合しかできないならMMAに出るべきだ

アーツ もちろん彼らがいないというのは残念だよ。ただ、3人のうち誰かが急に出場することになる気もするので、何とも言えない部分もあるよ。

──リザーバーとして出場してきそうな予感がしますか（笑）。アーツさんはグランプリを3度も制してますけど、優勝するために一番必要なことは何だと感じてますか？

アーツ ワンマッチと違って、トーナメントは試合中に予期せぬことが起きる。だから単純に技術があって体調がいいだけでは勝てないんだ。そうなるとケガをしないで勝ち進む運が必要になるし、ケガやダメージにどれだけ耐えられるかという精神力も非常に大事だね。

──精神力ですか。そうなると、トーナメントに対するモチベーションの高さも影響してきますよね？

アーツ もちろん影響するよね。

──じゃあ、ホーストが欠場しているいま、4度のグランプリ制覇という記録に並ぶというモチベーションも高まってるんじゃないですか？

アーツ いや、もちろんトーナメントで優勝したいけれど、4回目という回数にこだわっているわけじゃない。それより自分にとってのモチベーションとなっているのは、やっぱり賞金だね（笑）。

──あ、お金がモチベーション（笑）。3度もK-1王者に輝いてたら、もうずいぶん稼いでると思いますけど、まだ何かほしいものがあるんですか？

アーツ いや、いい車がほしいとかそういうことじゃなくて、家族のためだよ。子供たちのために少しでも多く稼ぎたいんだ。やっぱり子供ができるとお金が必要だということを最近ヒシヒシと感じているからね（笑）。キミは奥さんや子供はいるの？

──いえ、独身です（笑）。

アーツ 子供ができたらわかるよ。お金が必要だって（笑）。だからこれまでは別にお金のためだけに闘っていたわけじゃなかったけど、いまはとにかく一試合でも多く闘ってお金を稼ぎたいよ。ボクが試合に出ることが、子供たちの将来に繋がることだからね。というわけで、賞金はボクがいただくよ（笑）。

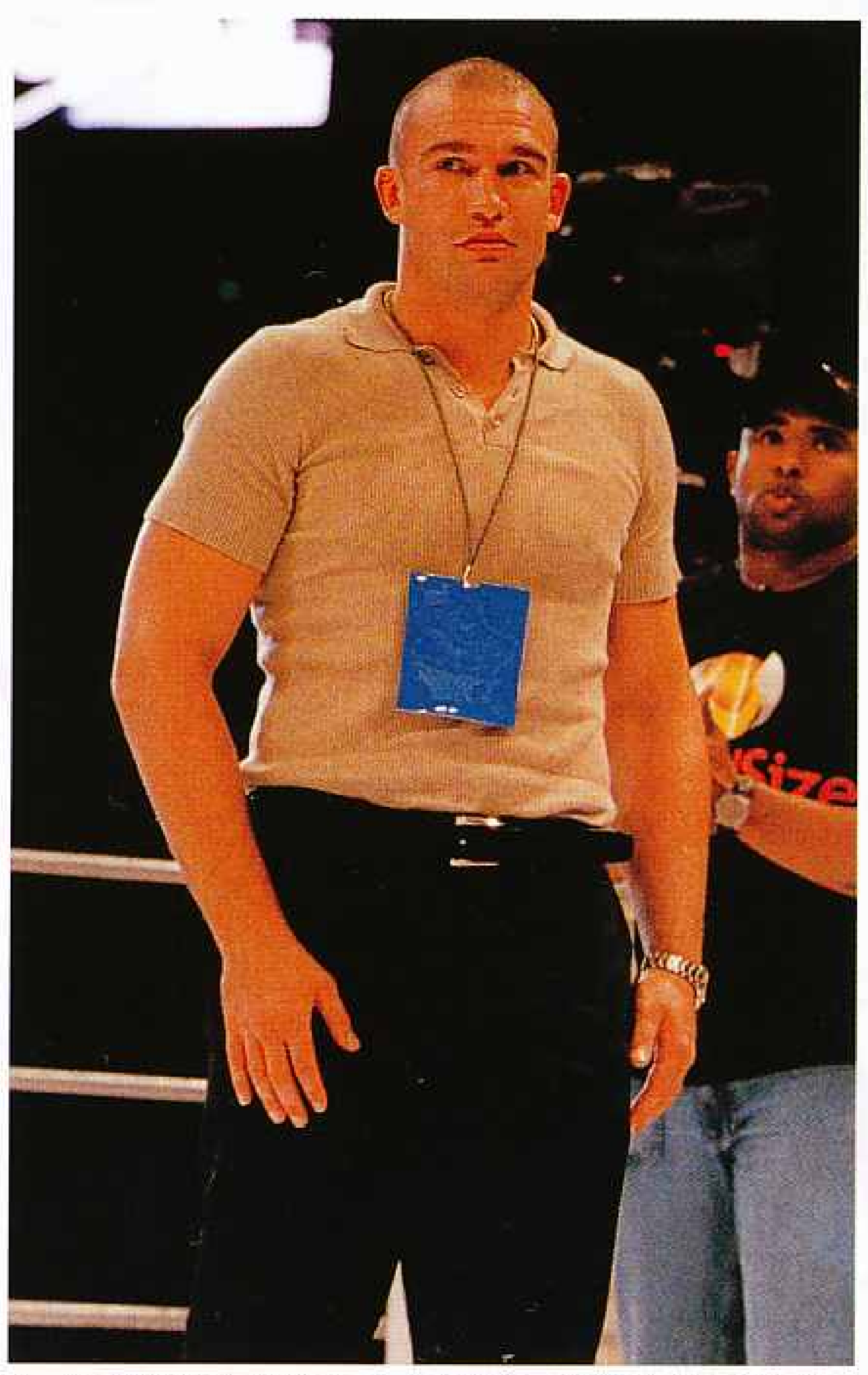
──ところで話は変わりますけど、グランプリ開幕戦でフランソワ・ボタとボブ・サップが2人続けて、倒れた相手へのパンチで反則負けとなりましたけど、あの2試合についてアーツさんはどう思いましたか？

アーツ ボタについては、試合が短すぎたのでなんとも言えないけど、ボブの方はかなり押され気味で、その前にダウンを奪われたということもあるから、あれが精一杯の抵抗だったんじゃないかな。

──やっぱりサップの行為は苦し紛れだったと思いますか？

アーツ 見るからにそうじゃないか。少なくとも自分はそう判断したよ。

──このところK-1では、そんな感じの反則行為が目立つようになってきてますけど、それについてはどう感じてますか？



8・10『PRIDE』さいたまで、『武士道』出場予定選手らと共にリングに上がったアーツ。総合での戦場はやはり『PRIDE』か？

アーツ もちろん反則行為は許されない行動だし、このところたびたび起きることは自分としても残念だよ。しかも、その反則行為が不利な体勢になった選手の逃げ道のひとつになってきているということが一番の問題だ。ああいう試合しかできないんであれば、K-1はスッパリとやめて、総合格闘技に出るべきだよ。いまは「何でもアリ」という競技があるんだからね。

──サップは総合格闘技に専念しろ、と。

アーツ それが彼のためでもあると思うよ。ボブのような大柄な選手はK-1よりMMAの方が絶対に向いているんだ。身体が大きいから、グラウンドで上になったときの圧力が凄いだろうし、関節も取られにくい。事実、ボブがMMAをやったら、彼に敵う選手はなかなかいないだろうしね。

──現在K-1のリングが、サップを始めとして、モンターニャ・シウバや、TOAといったK-1のスキルはないけれど、体格とパワーはあるファイターが急激に増えてきていますけど、そういった傾向についてどう思いますか？

アーツ いろんなタイプの選手がK-1に





10・11大阪ドーム■ワールドGP1回戦で、ホーストと同じボスジム所属のジェレル・ベネチアンと対戦。終始前に出て圧力をかけ、僅差の判定勝ちをモノにした。新世代の台頭が目立つ今年、11年連続決勝大会出場となる大ベテラン、アーツに期待する声は多い。

Peter

出てくることはいいことだと思うけど、技術のない大雑把な試合ばかりになってしまったら、K-1に悪影響を与えかねないという懸念はあるよね。見ればわかる通り、K-1はパワーだけじゃ闘えない、3Rもしくは5Rフルに闘えるスタミナが必要なんだ。だからボブのようなパワーファイターは、やはりMMAの方が向いていると思うよ。

——では、K-1が先月からFEGという新会社になって、今後はMMAやプロレスもプロデュースしていくようですけど、それはいいことだと思いますか？

アーツ K-1とMMAを一緒にやることがいいかどうかはわからないけど、少なくとも無理にボブたちをK-1ルールで闘わせるよりはいいんじゃないかな。

——アーツ選手はプロレスではなく、総合格闘技に挑戦するんじゃないかという噂がこのところずっと流れてるんですけど、実際のところはどうなんですか？

アーツ ゼヒやりたいと思っているよ。K-1との契約は今年いっぱいで満了だし、来年から向こう5年間はMMA（総合格闘技）で闘っていきたいと思っている。

——え！ そんなに本腰入れてやるつもりなんですか？

アーツ やるなら中途半端じゃ通用しないからね。ただ、MMAにおいても自分が立ち技の選手であることは変わりない。だからいまは、どうしたらMMAで自分の打撃を活かせるか、また寝技になったときにどう対応するかを特訓しているところなんだ。

——そもそも、なぜ総合格闘技をやろうと思ったんですか？

アーツ 新しいことに挑戦したいと思ったんだ。ボクは長いことキックボクシング一筋でやってきたし、K-1のリングにも10年間上がり続けた。だから、この辺で新しい刺激がほしかったし、何か新しいことを学びたいという気持ちが芽生えてきたんだ。

——今、『PRIDE』ではK—1出身のミルコ・クロコップが大活躍してますが、それに影響された部分はありますか？

アーツ K-1で一緒に闘ってきたミルコが活躍しているのは嬉しいけど、特に彼の活躍に刺激を受けたというわけではないよ。あくまでも自分のためのトレーニングの一環として始めたんだ。

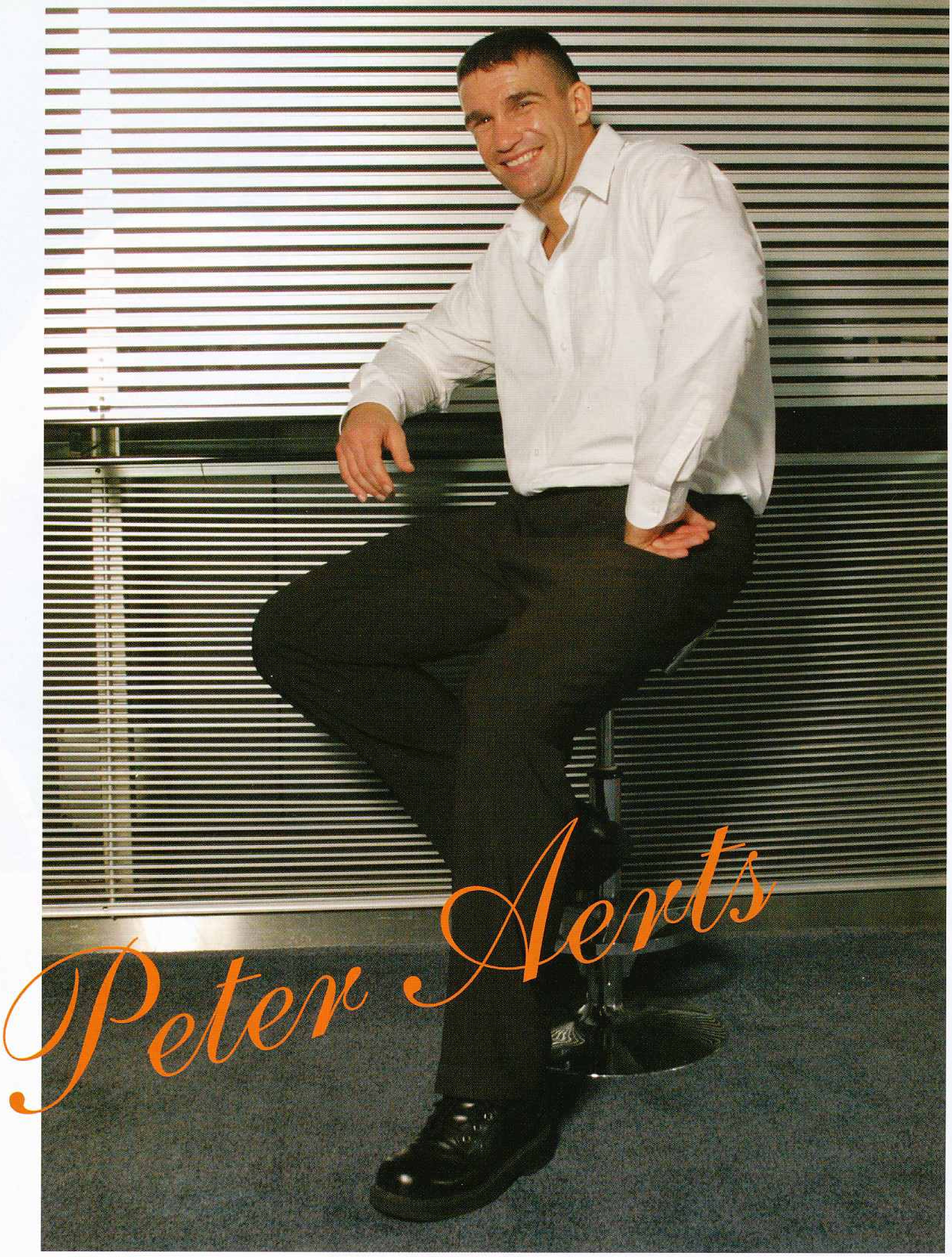
——総合の練習はいつ頃からしていたんですか？

アーツ 半年ぐらい前からだね。

——ノゲイラ選手が来たときですか？

アーツ 彼とも練習をしているが、彼はオ

K-1で一緒に闘ってきたミルコの活躍は嬉しい。でも彼に影響されたわけじゃないよ



ピーター・アーツ■1970年10月25日、オランダ出身。93年第1回K-1GPから11年連続決勝トーナメントに出場し、3度の優勝経験を誇る、まさに“ミスターK-1”的存在。今年、レネ・ローゼ、ペドロ・ヒーゾらとチーム・アーツを結成し、K-1だけでなく総合の練習もスタート。はたしてVTデビューはいつか？　192cm、107kg。

ランダに住んでるわけじゃないから、それより前からオランダに住んでいるペドロ・ヒーゾとトレーニングしている。彼は打撃もできるから、K・1の練習も一緒にやっているんだ。

――総合でのデビューはいつごろになりそうですか？

アーツ　うまくいけば、今年の年末か、来年の早いうちに。今のところ何も決まってないけどね。

――もしかして大晦日の『イノキ・ボンバイエ』でデビューすることもありえるわけですか？

アーツ　全く可能性がないわけではない。ただ、その前にK・1の決勝トーナメントがあるから、それが終わるまではなんとも言えないな。でも、近い将来、必ずMMAをやりたいとは思ってるよ。

――いやぁ、それは楽しみですねぇ。ミルコ・クロコップは『PRIDE』出場の際、『PRIDE』とK・1両方の頂点を極めたい」と言ってましたけど、アーツ選手の来年以降の目標はなんですか？

アーツ　もちろん、やるからにはMMAでもチャンピオンを目指したいとは思っているけど、ボクの場合はまだ一度も経験してないことだから、まずはとにかくMMAにチャレンジしたい。まぁ、その前にK・1ワールドGPがあるんだから、いまはMMAのことは考えず、グランプリ制覇のことだけを考えるよ。

――わかりました。では、決勝トーナメントと、その後の活躍に期待してます！

【03年10月14日／フジテレビにて収録】



いよいよ本格開戦間近!

DSE榊原代表に聞く

PRIDE vsUFCの行方



9.26「UFC44」ラスベガス
プチTOPICS付き



榊原信行DSE代表、髙田延彦PRIDE統括本部長、そして藤田和之が、9月26日、ラスベガスで開催された『UFC44』を視察。UFCダナ・ホワイト代表、共同オーナー兄弟と共にオクタゴンに上がり、『PRIDE』vsUFC開戦をアピールした。いよいよ、始まる日米総合格闘技両メジャーの対抗戦。来年以降の格闘技界を大きく左右させるこのプロジェクトの行方を、一足早くDSE榊原代表に伺ってきた。アメリカ進出へ、『PRIDE』は本気だ！（聞き手・堀江ガンツ）

――さて、11・9東京ドームが直前に迫ってまいりましたが、今回はその先の戦略であるUFCとの対抗戦、アメリカ進出についてお話を聞かせて下さい。

榊原　はい。先月末に僕と高田本部長、それから藤田（和之）君がUFCを視察させてもらったんですけど（9・26『UFC44』ラスベガス）、今度のドームでは逆にUFCからダナ・ホワイト代表、ランディ・クートゥアー（ライトヘビー級王者）、そして共同オーナーであるロレンゾ・ヘティータとフランク・ペティータのペティータ兄弟が視察に来ることになりました。ロレンゾはサクが初めてヴァンダレイに負けた『PRIDE・13』に来てるんですけど、それ以来、久しぶりの『PRIDE』来場ですね。

――UFCのオーナーが来日ということは、いよいよ本格開戦ですか？

榊原　そうですね。いま、1月のUFCに藤田和之を上げようと、UFCサイド、それから猪木事務所さんと話をしているところです。

――ということは、11月の『UFC44』への出場はなくなったと。

榊原　おそらくないでしょうね。ただ、もしかしたら11月9日のドームに出場するかもしれません。

――先日、藤田選手が標的にすると見られていたUFCヘビー級王者のティム・シルビアにステロイド使用が発覚し、王座剥奪となりましたが、これによって何か予定が狂うことはありませんでしたか？



榊原　別にないですね。その時点で王者だったというだけで、ティム・シルビア自身にこだわっていたわけじゃないですから。藤田君はUFCのベルトを獲りたいという思いと、『PRIDE』を代表、日本代表として、真っ先に『UFC』に殴り込みたいという思いが強いですから。相手がティム・シルビアであろうとガン・マギーであろうと、タンク・アボットであろうと、誰であろうと構わないという状態ですからね。とにかく彼としては、6月に〝リボーン〟してから、藤田和之の生き様をどう見せていくかという中期的な目標を自分自身の中で立てていて、そのひとつがUFCへのチャレンジなんですよ。

――リボーン第1弾がヒョードル戦、第2弾がUFCという感じですか。でも、10・13の5vs5イリミネーションマッチはそこに入りませんよね？（笑）。

榊原　あれは彼にしてみたら、おつき合いでしょう。まったくやる気ありませんという顔で闘ってましたからね（笑）。まぁ、彼のことを知れば知るほど、あそこにいる藤田和之のこともわかるんですけど（笑）。

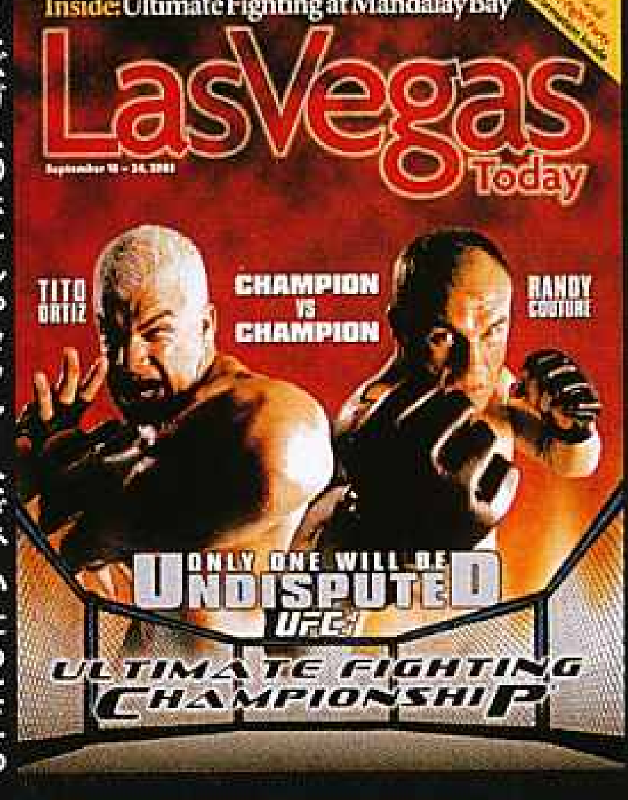
――なるほど（笑）。これから『PRIDE』は日米両方でビジネス展開をしていく上で、すでにアメリカマーケットのリサーチなどは進めているんですか？

榊原　もちろん進めています。そのための戦略のひとつが、UFCに噛みついて話題を呼んだり、熱を生んだりということですから。我々としてはアメリカで開催する『PRIDE』は、あくまでアメリカのファンに向けてという意味合いが強いんですよ。アメリカでやっているのに、現地の人たちを振り向かせないで、テレビを通じた日本の視聴者だけに向けてやっていたら、アメリカに進出する意味がないですからね。サクや藤田、それからミルコを出したいというのも、あくまで彼らをアメリカのファンに見せたいということですから。だから、まずはUFCとの闘いでハードコアなファンに訴えて、その上で猪木さんの環状線理論じゃないですけど、ファン層を広げていく発想や戦略をアメリカでもやっていく予定です。

――『PRIDE』といえば演出の素晴らしさも挙げられますけど、それも丸ごとアメリカへ持っていくんですか？

榊原　はい、そのまま。アメリカの提供するイベントのクオリティに関しては自信がありますから。

9.26 UFC44 ラスベガスTOPCS



ラスベガスのホテルやタクシーなど、いたるところおいてあったイベント情報誌の表紙はなんと、ティトとランディ・クートゥアー。今月の目玉イベントということか。



ホテルの中にはガラスケース内にＵＦＣのベルトや、コスチュームなどが展示してあった。ただ単にイベントホールを貸し出すだけでないところは、さすがエンタテインメントの本場である。



ここが『ＵＦＣ44』の行われた、マンダレイベイホテル。ここのイベントホールは、ボクシングのメッカとしてお馴染みで、オスカー・デラホーヤの世界戦なども行われている。



ラスベガス空港のバゲイジクレイムには、セリーヌ・ディオンのコンサート、シルク・ド・ソレイユのショーなどと並んでＵＦＣの看板が出ていた。ラスベガスの中でもビッグショーなのだ。

1月開催の『UFC46』に藤田が出場予定
11・9ドームにはR・クートゥアーが来ます



とにかく素晴らしかったのが、ティトを完封したランディのコンディションとスタミナ。40歳にしてこの肉体とは、いやはや超人だ。ゼヒ、『PRIDE』でもその勇姿が見たい！

人の中のMMA大会の常識があるとしたら、いい意味でのエンターテイメント性とかスケール感とかという部分で、その常識を覆してやろうと思ってます。

——WWEを凌駕するようなド派手な演出を。

榊原　かと言ってそこばかりにこだわって、作り手側のマスターベーションにならないように気をつけたいですけどね。ファンに還元されないものに、いらぬ汗を流したり、お金を使うつもりはないですから。

——全ては観客のための演出だと。

榊原　そう、それもやっぱりリング上のことが総てですから。リング上の闘いを際立たせるための程良い演出が大事なんですよ。そういうところを踏み外したものは必要ない。過去に僕らもいっぱい試行錯誤して、失敗したりしてますから。チャレンジすることは必要ですけど、そういったことを繰り返している格闘イベントもあるんですよね。人のことは悪く言いたくないですけど、失敗から学ばなかったらダメですよ。

——『PRIDE』も初期は藤谷美和子が歌ってたりしましたもんね（笑）。

榊原　そう。なぜか恐竜のオブジェがあったりしましたから（笑）。

——そういった試行錯誤があって今があるわけですね（笑）。ところで、アメリカ進出後、UFCとの交流戦の先には夏に全面対抗戦ビッグイベントも計画しているんですよね？

榊原　それも視野に入ってますね。『PRIDE』とUFCのお互いの目標であり、団体の垣根とかこだわりというものを捨てて世界中の格闘技ファンが見たことのないような、経験したことがないようなものを創り出すということをやってみようという点では、UFCとキチンと話はできてますから。実現に向けて各試合の中で、お互いに交流戦だったり対抗戦だったりやっていきたいなと思ってます。

——会場は屋外のサッカー場などを考えているそうですね？

榊原　はい。国立競技場は『Dynamite!』で使ったんで、別の格闘技で使ったことのないスタジアムでやろうと思ってます。やっぱり、そういったビッグイベントをやる場合、「非日常的な空間を作り出す」ということが、非常に大事だと思うんですよ。語り継がれるイベントや、記憶に残るイベントっていうのは、その日が暑かったとか寒かったとか、会場までの道に迷ったとか、そういう思い出も含まれるじゃないですか？

——確かに『PRIDE』でも蒸し暑かった西武ドームは強烈に覚えてますね（笑）。

榊原　だから、格闘技ファンが普段足を運ばない会場としては、例えばサッカー場を使って、そういった五感で感じるようなライブ感を作り出したいですね。

——このビッグイベントは、現時点では『PRIDE』vsUFC全面対抗戦だけでやる予定なんですか？

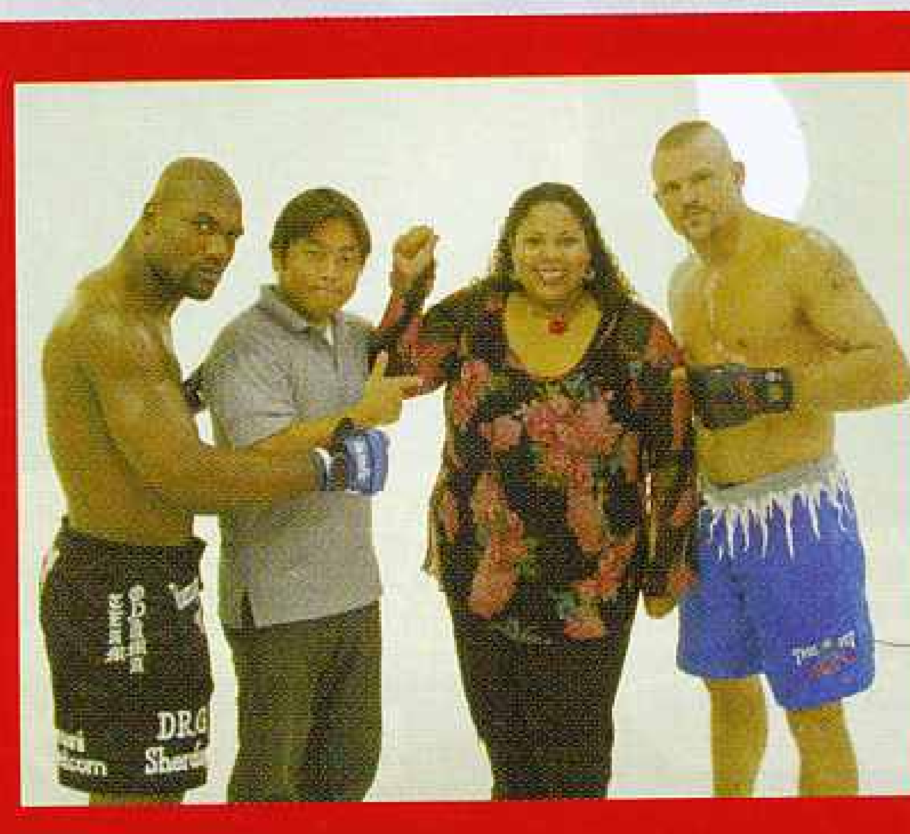
榊原　いや、周りから「それはやめた方がいい」と言われてるので（笑）、「グランプリと抱き合わせにしたらいいんじゃないか」とか、いろんな意見がありますけど、最高のメンバーを集めた格闘技の祭典にしたいですね。まぁ、開催時期については、夏になるのか年末になるのか、まだわかりませんけど、現時点ではUFCと大きなイベントをやりたいという意向は持ってます。

——では、今後の展開に期待してます！

【03年10月16日／ドリームステージエンターテインメントにて収録】

米『ディレクTVガイド』の表紙を『PRIDE』がゲット！

すでに全米PPV放送が決定している11・9『PRIDE』東京ドーム。それに先がけて、なんとリデルとランペイジが『ディレクTVガイド』の表紙を飾ることとなった。着々と全米進出の準備は整ってきているようだ。







“怪物”と形容される、NBAのスーパースター、シャキール・オニールがUFCに来場。『PRIDE』一行と同じ最前列に座ったため、藤田と高田本部長が記念撮影。



これが試合開始前の会場風景。収容人数1万人以上。日本で言えば、大阪城ホールのような大会場だった。こんなに人が来るのかと思ったが、最終的に超満員となりビックリ！



新日本のホープ、中邑真輔も宇野薫の応援のためにラスベガス入り。中邑はもともとRJWセントラルにいたため、宇野君とは旧知の間柄であり、仲間でもあるのだ。

パフォーマンスで振り返る PRIDE

武士道

武士道とは〝演舞〟することと見つけたり

『PRIDE』本戦では見られないマッチメイクがコンセプトの『武士道』に、本戦では見られない仰天パフォーマンスの大洪水!! 良くも悪くもアピールしてナンボのプロの世界であるが、はたして、観客の心をしっかり掴んだパフォーマンスはあったのか？ 会場を凍り付かせた迷シーンと共に、各選手の演舞を振り返ってみよう。

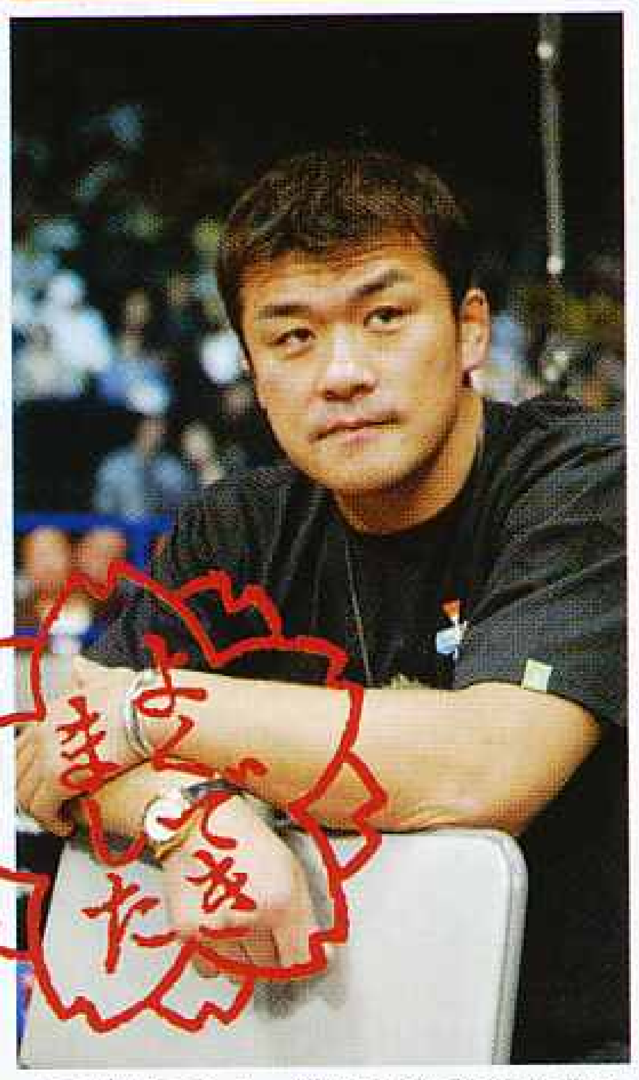
構成／ジャン斉藤　試合写真／乾晋也

浜中和宏



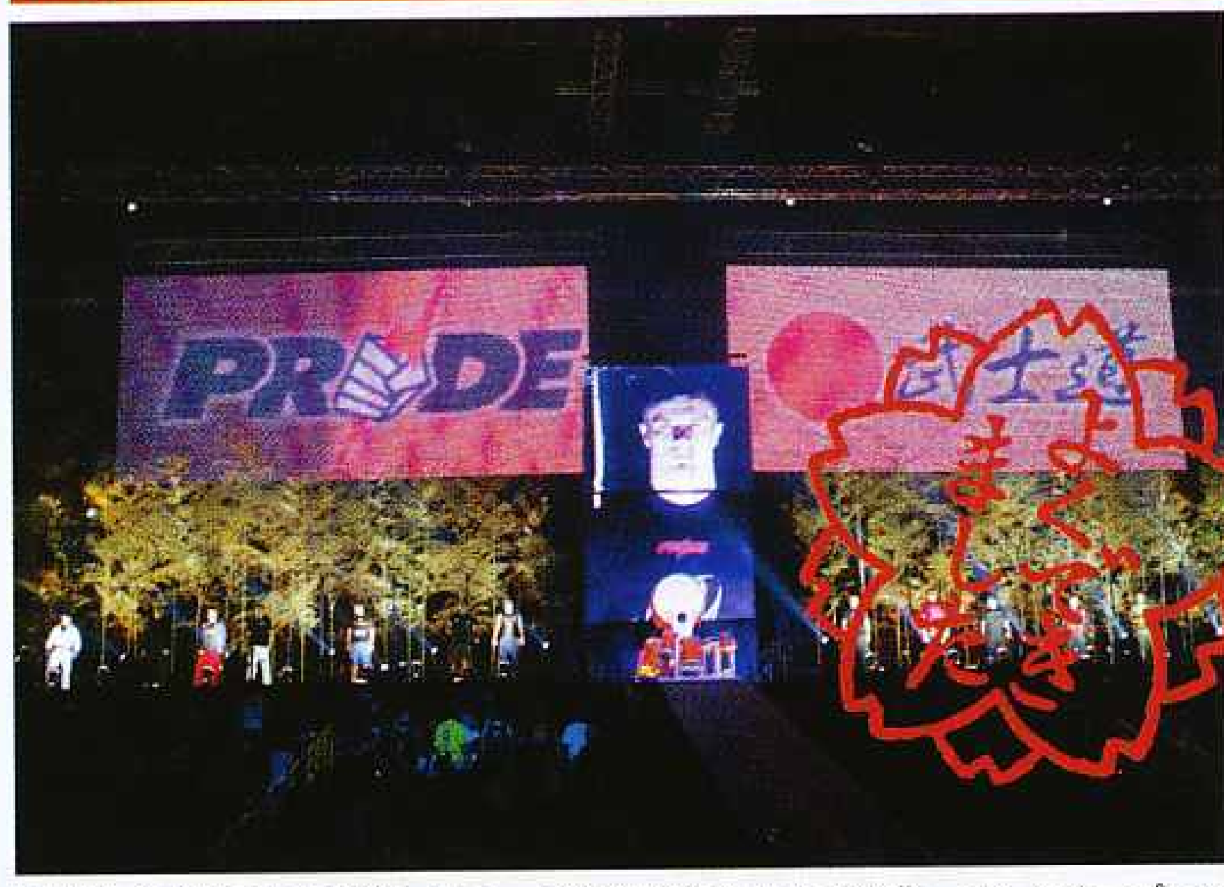
前回の「世界最強になるからね！ みんな待っててね！」の迷口調に続き、浜中がまたやってくれたね！ 入場テーマは気志團の『One Night Carnival』。ボンタンにグラサン姿、そして学ランをブンブン振り回しながら入場したが、これは武士道というより極道に近い

吉田秀彦



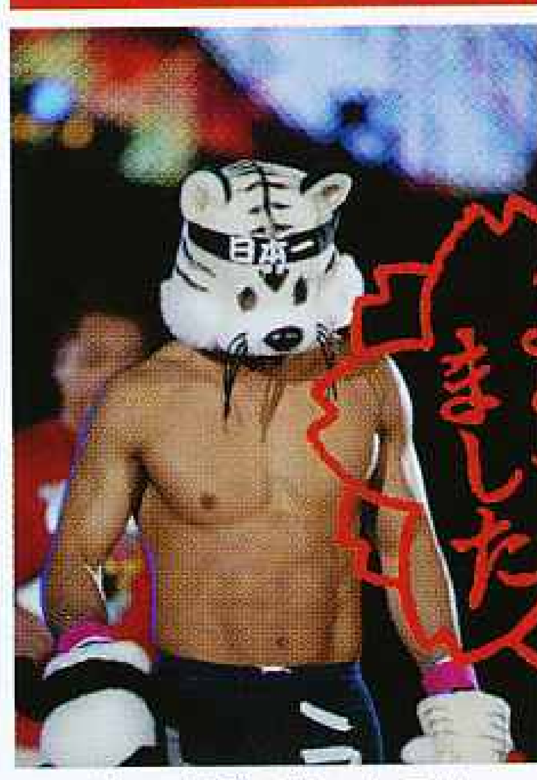
高田劇場でシウバ戦の意気込みを求められると、「ほどほどにお願いします（苦笑）」とファンに高揚感をまったく与えない一言で済まし、「それだけでいいのぉ？」と、高田本部長を動揺させた吉田秀彦。こんな煮ても焼いても喰えない柔道王を、"主食・日本人"シウバは喰えるんだろうか？

『武士道』ステージ



畳が敷き詰められた花道。ステージ全体に添えられた竹藪。そしてオープニングには太鼓の演舞が行われるなど、幻想的な"和"の雰囲気を醸し出した『武士道』。悔やまれるのは会場設備の都合上、ビジョンがひとつしか設置できず、煽り映像が見えづらかったことだ

三島☆ド根性ノ助



タイガース優勝を祝ったのはいいが、チープすぎる虎ルックに身を包んだド根性ノ助。それに右手にハメてるのはトラじゃないよ、パンダだよ！ ナンセンスなパフォーマンスは『武士道』でも相変わらずだ

ドス・カラスJr.



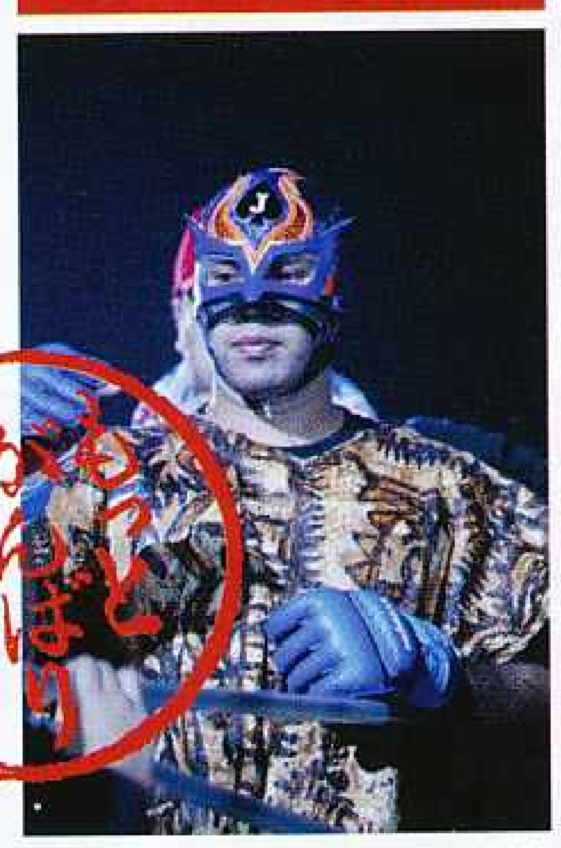
ミルコのハイキックの前に秒殺を負けを喫したが、スカイハイのテーマに乗り、この日一番の歓声を浴びて入場をはたしたドスJr.。視界を拡げるため切り裂いたマスクは不格好極まりないが、そこまでしてこの一戦に懸けたドスJr.を誰も責めることはできない！ ビバ、メヒコ!!

アントニオ猪木



入場だけで銭が取れる男、アントン総帥!! たとえマイクのネタがなくとも、「重大発表をします。よ～く聞けよ！」と吠えるや口パク＆ジェスチャーという、ものすごくいい加減なパフォーマンスを披露。それでも観客は大声援なのだから、千両役者は何をやっても許されるというか。ンムフフフ！

ジェイソン信長



なぜかマスクを被って入場したジェイソン信長。どういう意図があったのだろう？ まぁどうでもいいが

高瀬大樹



破壊王、大谷晋二郎らとはまったく異なる、新解釈の日本刀パフォーマンスを披露した高瀬。唐突に座ったり抜いたり振り回したりと、その独特の世界観には何人たりとも寄せつけないというか、寄りつきたくないというか

日本vsグレイシー5対5対抗戦、その他の試合



○ハイアン・グレイシー
（2R7分37秒／KO）**浜中和宏●**
長らくバックマウントをキープしていたハイアンだが極めきれず。膠着ブレイク再開後、勢いよく前に出た浜中のヒザが抜ける事故が発生！ 浜中が倒れた込んだところをハイアンは逃さず蹴撃三昧！ 大将戦を制し、3-2で対抗戦も勝利した



○マウリシオ・ショーグン
（1R3分47秒／KO）**小路晃●**
あのムリーロ・ニンジャの弟で、サイボーグに殴り勝った猛者・ショーグンが日本初見参!! 対する"『PRIDE』のポリスマン"小路は、要所に渡たり見せ場をつくるも、最後はショーグンの踏みつけの前に無念のKO負け!!



○ハリッド"ディ・ファウスト"
（2R3-0）**ロドニー・ファベイラス●**
『武士道』挑戦試合の第2試合。K－1でも活躍したゴールデン・グローリー戦士ハリッドと、ボブ・シュライバー門下のロドニーの"オランダ対決"はハリッドが判定で勝利。ハリッドのセコンドにはステファン・レコの姿も見られた



○クリス・ブレナン
（1R4分31秒／アームロック）**光岡映二●**
『武士道』挑戦試合となったオープニングマッチ。腕十字を極めかけたブレナンだが、光岡がタップしたと勘違いして解いてしまう珍事発生。しかし、ブレナンは気落ちすることなく見事な回転体を披露し、再び腕をガッチリ極め一本勝ちを奪った!!

ホドリゴ・グレイシー



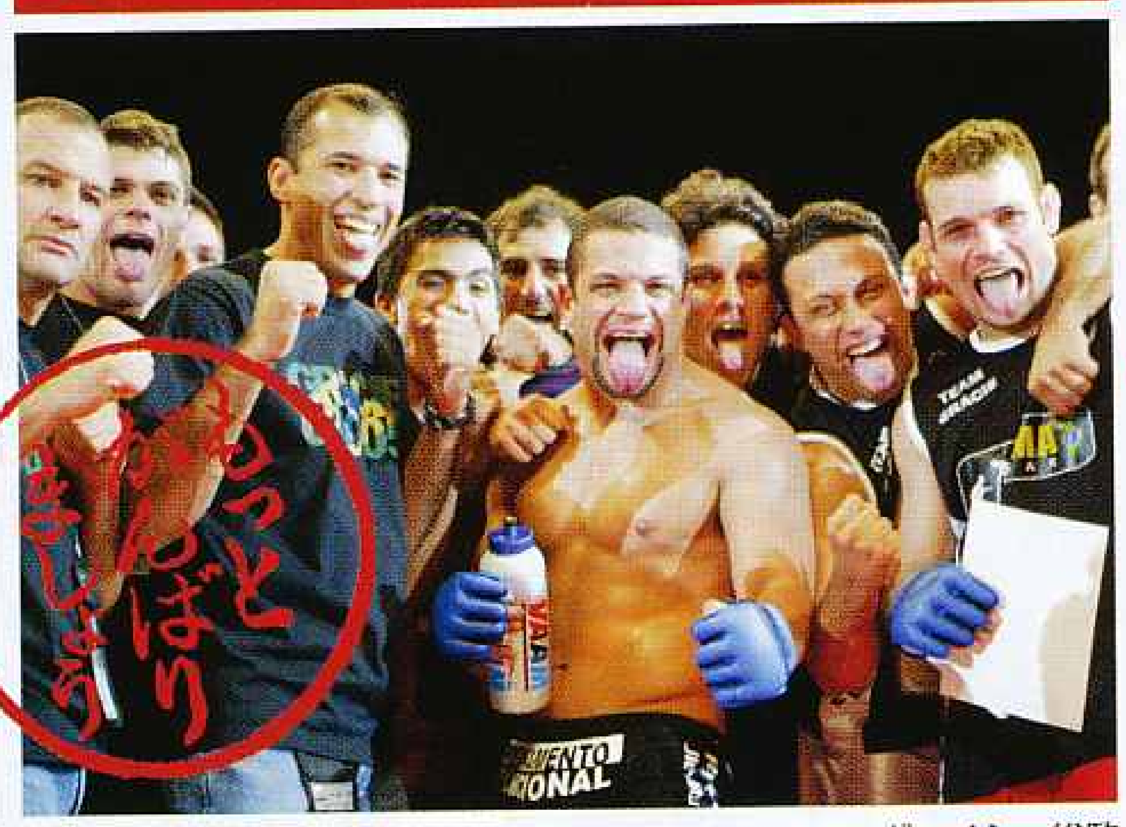
柔術の偉大さを説いたあとに「要するにぃ、日本のアニメは最高ってことだよ!」とナンセンスに締める煽り映像。『キン肉マン』のテーマ曲に、ケビン・マスクを被る入場など、従来とは逆方向のグレイシー幻想を構築しているホドリゴ。前回はチェンジマンだったが次はなんだ? 聖闘士星矢か?

中村和裕



判定勝利を飾り喜びを爆発させた中村カズ。リングサイドで観戦していたネプチューン名倉に真っ先に握手を求めに行ったり、「ゲッツ！」を決めたりと、吉田イズムをしっかり継承……って、受け継ぐのはそこじゃないよ！

ホイス・グレイシー



チーム・ヘンゾとしっくりいってないこともあってか、グレイシー総監督ながらまったく存在感＆威厳がなかったホイス。団体戦勝利後の記念撮影では、ハイアンらバットボーイズの流儀に従って恥ずかしそうに舌を出しちゃった！　いますぐ抱きしめたくなる可愛さですよぉぉお！

『武士道』ガール



くの一というか芸者というか、和風テイストなコスチュームに細身を包んだ『武士道』ラウンドガール。とある理由で、リングサイド・カメラマンには大好評だったとか。ンムフフフ。

ハイアン・グレイシー



なぜかロビン・マスクの覆面を被り、「吉田秀彦は嫌いだが中田英寿は大好き」らしくサッカー日本代表のユニホーム姿で入場（前日はこの格好で公開スパーリングに参加）。テーマ曲はドン・フライでおなじみ『CHAOS B.C』。血走った眼、戦闘不能の相手を容赦なく踏みつけ、口を開けば柔道王の悪口。この狂気のグルーヴ感、最高だ！

高田延彦



見てみぃ、こののけぞり具合！　いいかあ、若僧ども。これこそがパフォーマンスというものだ！文句なしの大大大合格ッ!!

カーロス・ニュートン



「皆さん、応援してくれてありがとうございます。日本人の1人として闘えてとてもうれしいです。これからも日本人で頑張りますヨーッ！」と、流暢な日本語で勝利の挨拶。最後は恒例のカメハメ波でキッチリ締めた!!

グレイシー、3-2で日本勢を破る!!



○カーロス・ニュートン
（2R判定2-1）ヘンゾ・グレイシー●
一番注目度が高かった先鋒戦。グレイシー側の実質的なリーダーのヘンゾと、"褐色の宮本武蔵"ニュートンがハイレベルな寝技の攻防を展開。試合後、心から健闘を称え合うなど、対抗戦の枠を外れる心温まる空間をつくった



○ハウフ・グレイシー
（2R判定3-0）三島☆ド根性ノ助●
日本初登場となるハウフが打撃＆寝技で三島を圧倒!!　三島もアグレッシブに攻め込み場内を沸かせるが、チョーク、腕十字を極めかけられるなど、あわやのシーンも。判定でハウフが勝利を収め、次峰戦はグレイシー側が制した

○中村和裕（2R判定3-0）ダニエル・グレイシー●
アトランタ＆シドニー五輪の柔道金メダリスト・野村忠宏も見守った中堅戦は、お互いに決定打に欠くなど膠着した内容。両者にイエローカードも提示された。勝負は判定にもつれこみ、打撃で押し気味だった中村に凱歌。嬉しいプロ初勝利を飾った





○ホドリゴ・グレイシー
（2R判定0-3）高瀬大樹●
首相撲からのヒザ蹴り＆アッパーを効果的にヒットさせたホドリゴは、グラウンドでもポジションキープをして高瀬を殴る。高瀬は下から三角絞めを試みるが捕獲はならず。副将戦は判定でホドリゴが勝利。2-2のイーブンで大将戦へ。

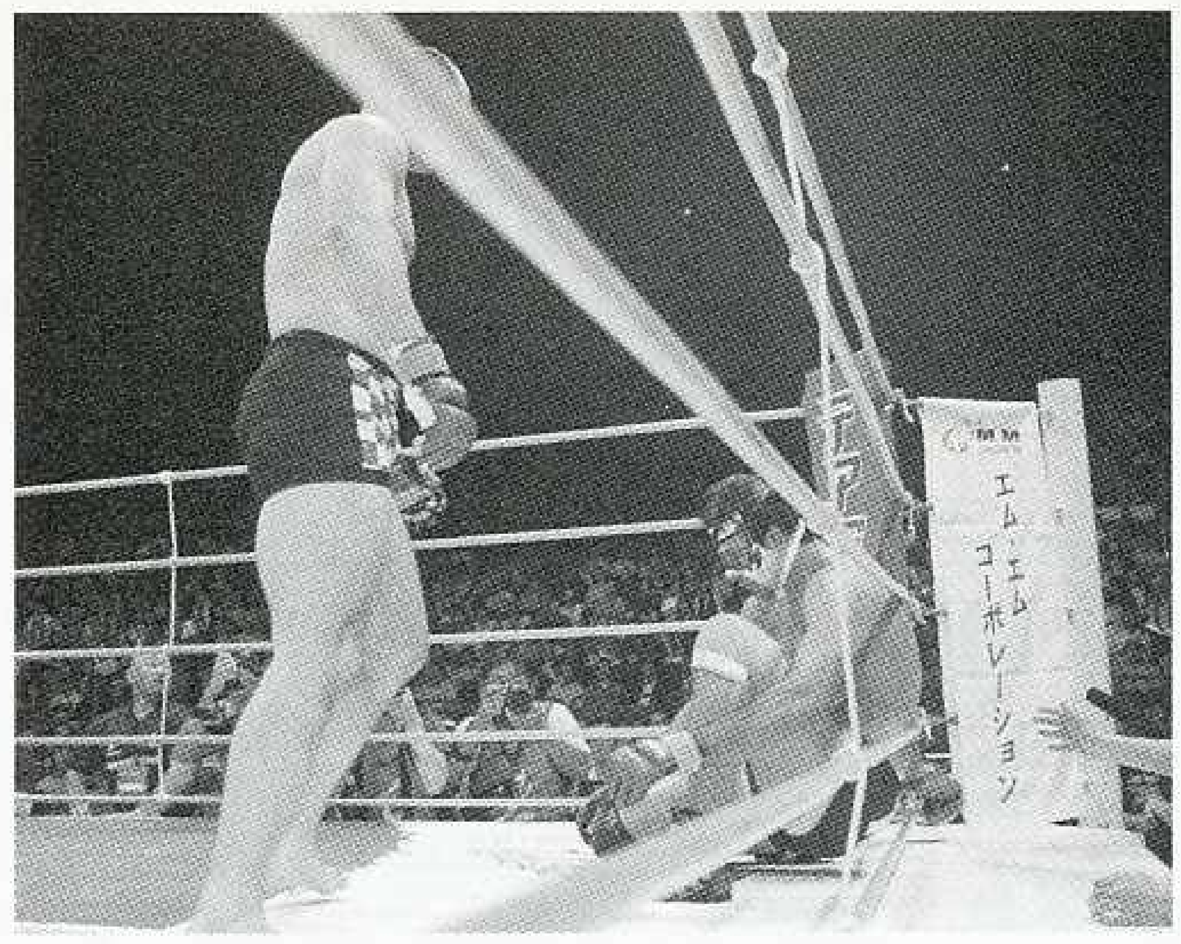
ミルコvsドスJr.、ハリトーノフvsジェイソン信長、アレキサンダーvsアスエリオの試合は、各選手のインタビューを参照ください。



Dos Caras Jr.

ドスカラス Jr.

聞き手／ジャン斉藤
撮影／松本崇
designed by hisa (Two Three)



ミルコの"妖刀"に屈した翌日、ルチャ・ドールの誇りを懸けた一大決意!!

「次のバレ・トドはマスクを脱ぐかもしれない。メヒコを離れて練習に専念するよ」

「俺の頭はどこにいった!?」10・5『武士道』にて、ミルコのハイキックを頭に浴び、コーナーポストにダラリ崩れ落ちたドスJr.。すぐさま駆け寄ったセコンドに冒頭の言葉を発したという。ミルコの妖刀の凄まじさを象徴するエピソードだが、この衝撃的すぎる結末に、ドスJr.はVT本格進出を決意! 誇り高きルチャ・ドールの言葉を聞け!

——昨日は残念な結果になってしまいましたけど、ミルコの左ハイキックで頭を5針縫われたらしいですね。

ドス そうなんだ。カミソリで切られたみたいな傷になってるんだよ。

——カミソリ! ドスさんが崩れ落ちた途端、頭から血がダラリと流れたんでビックリしたんですよ!

ドス でも、全然大丈夫。日本のアミーゴにも心配しないように伝えてくれよ!

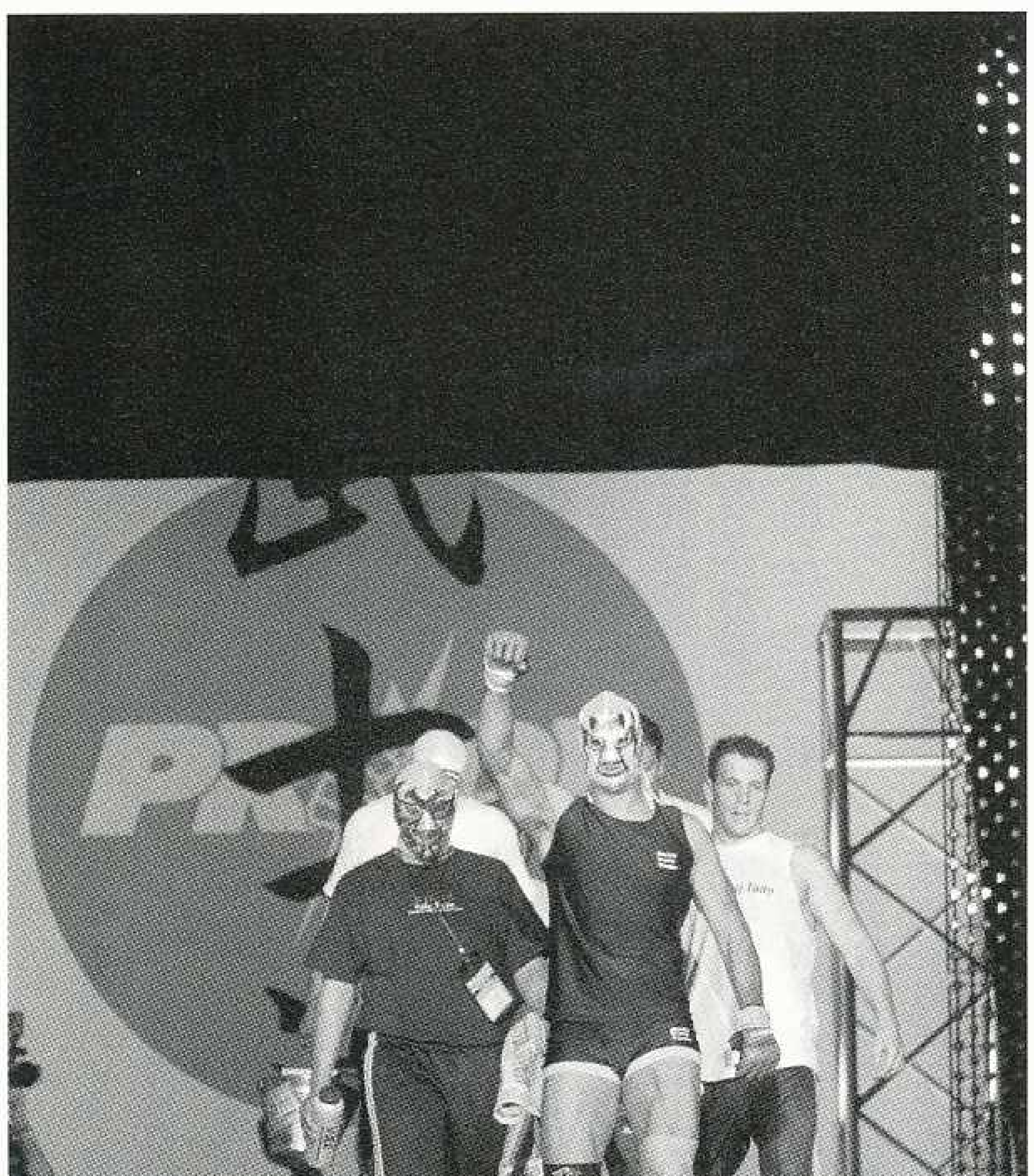
——わかりました! それで今日はそのミルコ戦と、今後のドス選手の方向性について何おうと思ってるんですけど。まずは、急遽ミルコ戦に名乗り上げた動機から教えてください。

ドス 経緯を説明すると、『DEEP』のブラット・コーラー戦が終わったあとに、セニョール・サエキ(佐伯『DEEP』代表)と今後のことをいろいろ話し合ったんだ。当然、『PRIDE』や『武士道』出場のことが話題になったんだよ。

——「ドス君! 『PRIDE』もいいけど、『DEEP』も忘れんといてよ!」って言われませんでした? (笑)。

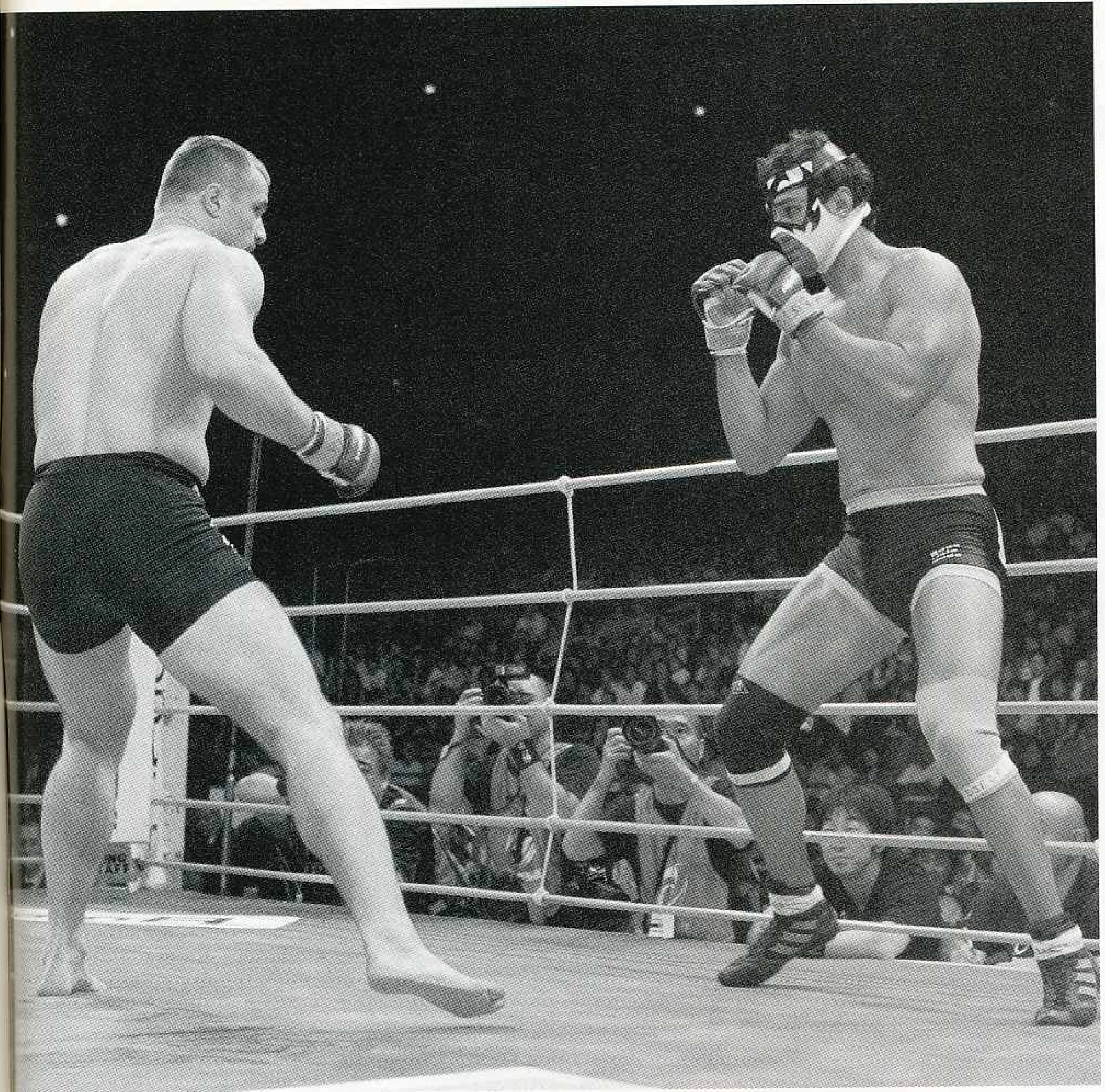
ドス フフフ(笑)。セニョール・サエキには「『PRIDE』のチャンピオン、もしくはバレ・トド(スペイン語=バーリ・トゥード)のトップ・ファイターたちと闘いたい!」ってお願いしたんだけどね。

——ドスさんは『武士道』に出場する予定だったから、ミルコの相手を公募していたのはある意味、都合が良かったわけです



『武士道』一番人気はドスJr.!! 入場テーマ「スカイハイ」が鳴り響くと、観客から大声援が飛んだ。セコンドにはシコデリカJr.の姿もあった

ミルコのプレッシャー、ハイキックは想像以上だった



ね。

ドス　いや、僕のプランだと、ミルコクラスの実力者との対戦は早くても3カ月先と考えていたんだ。それに僕は『武士道』で、ある柔術家と闘うと聞いていたからね。

——あ、そうだったんですか。

ドス　柔術家だと、ミルコとは正反対のスタイルになるだろ?　グラウンドを中心に練習していたこともあって、ミルコ対策期間は10日間しかなかった。でも、それを考慮しても「ここは勝負するに値する機会だ!」と思って名乗り上げたのさ。ミルコ・クロコップというバレ・トドのトップ・ファイターと闘うことはなかなかできないことだし、自分にとっても良い経験になるからね。

Dos Caras Jr.

——10日間という短い期間ながらも、ミルコ対策は練られていたんですよね?

ドス　もちろんさ。僕はバレ・トドに出るときは、マルコ・ファスの道場でグスタボ・シム、ジョー・モレイラたちとトレーニングするんだけど。重点的に考えたのは、ミルコのファイトスタイルの特徴だね。サウスポー・ファイターとの対し方や、ハイキックを避ける練習を積んだんだよ。

——ドスさん自身はどんな勝ちパターンを考えていたんですか?

ドス　僕のゲームプランとしては、ミルコの蹴りをキャッチするか、タックルを決めてグラウンドに引きずりこむ。それからパスガードをして関節技、もしくはマウントパンチで勝負を決めようと思っていたんだけど。僕が思っていた以上にミルコのプレッシャーは強かったね。

——レスリング五輪のメキシコ代表（政府のトラブルにより不出場）のドスさんでも、簡単に突き放されちゃいましたね。

ドス　それにもともとのゲームプランが「ミルコの蹴りを捕まえる」ことだったから、ついつい蹴りを待ってしまったところもあったんだ。それにしても、想像していた以上にミルコのハイキックは速かったよ!　本当に速かった!!

——まったく見えなかったんですか?

ドス　見えなかったよ。初めはミドルキックかな?　って思ったけど、ミルコが軌道修正したのか、もしくは独特の蹴りによるものなのかもしれないけれど、気が付いたら頭から血が流れていたよ。あの局面は、僕にとっても勝負のポイントだったんだけど……。とにかく、ミルコのハイキックは想像以上だったね。

——そのハイキック対策のために、ドスさんはマスクの目尻を大幅に割いて視界を拡げてましたけど。

ドス　視界の度合いは90%ぐらいだったね。あそこまでオープンなマスクにしても、顔の側面や下の部分を見えづらいもんなんだよ。

——それでは……。

ドス　（遮って）ただ、偉大なる伯父であるマスカラス、父ドス・カラスの血を受け継ぐルチャ・ドールとして、これだけは言っておきたい!　ハイキックが見えなかったのは、マスクを被ったからではない。僕の技術が足りなかったせいであり、ミルコのハイキックが凄かっただけだよ。マスクはルチャ・ドールの象徴。伝統ある一族の一員であるドス・カラスJr.が被るのは宿命なんだ。言い訳する気は微塵もないと、日本のアミーゴに伝えてほしい!

——わ、わかりました!　しかし、以前はもっと見づらいマスクでVTをこなしていたわけですよね。

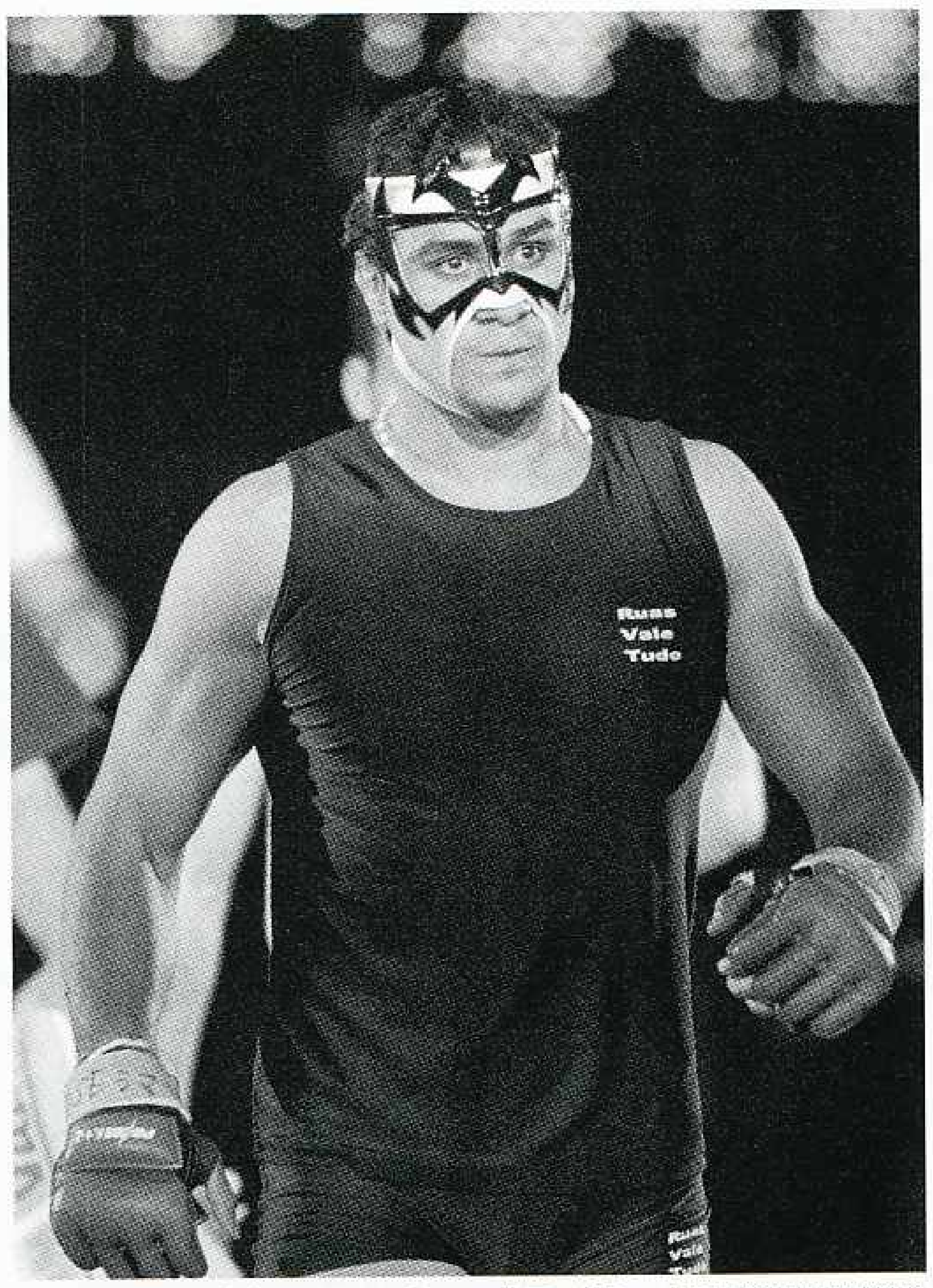
ドス　まあ、『DEEP』のときなんかは、プロレスのリングで使用するマスクに近かったからね。視界が不良なのはたしかだよ。だからセニョール・サエキとも話し合ってるんだけど……今後バレ・トドをやる際は、マスクを脱ごうかと思ってるんだよ。

——あ、素顔で闘うこともありえますか!!

ドス　そうすれば、マスクを気にすることなく100%の力を出せるからね。バス・ルッテンからも「お前はマスクを脱げばもっと強くなる!」ってアドバイスをもらっているんだけど……ルチャ・ドールとして、強い葛藤があるのは事実。メヒコでは、私は一族の血を受け継ぐ立場もあるし、そしてマスク自体、ある意味宗教化してる部分

このまま引き下がれない。腰を据えてVTに取り組む!

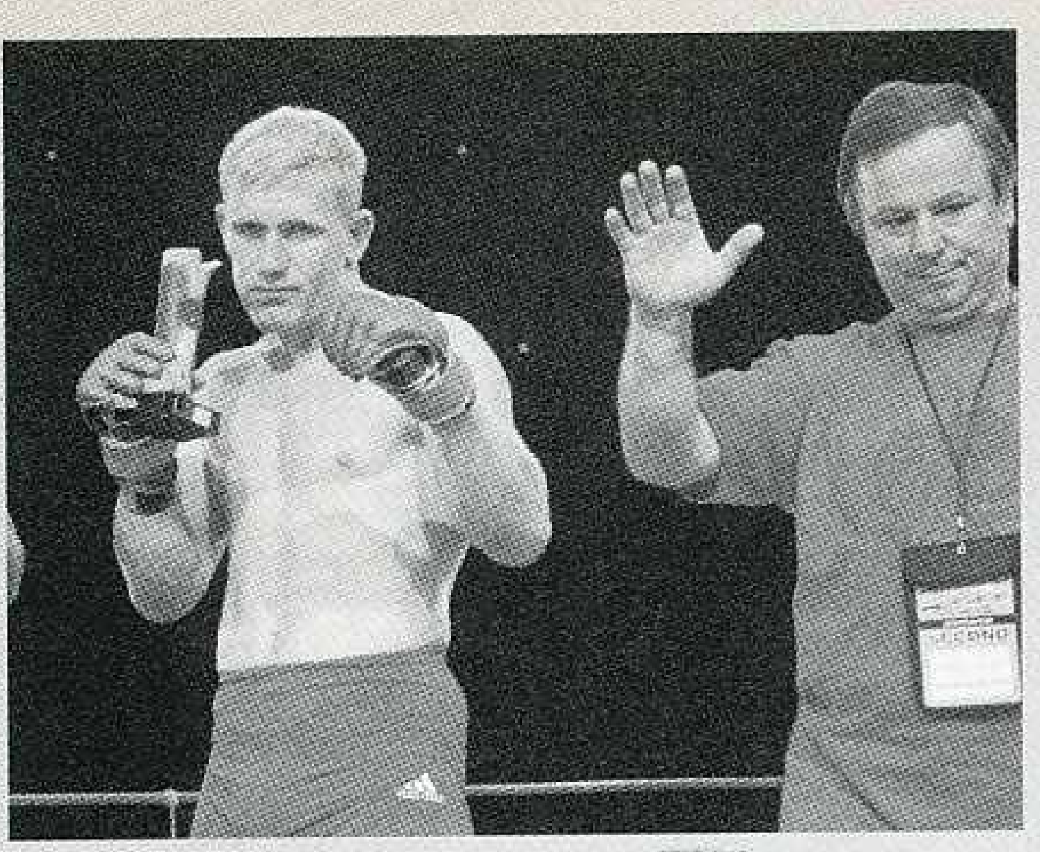
もあるんだよ。
—宗教化というと?
ドス たとえば、メヒコで受けたインタビューで「バレ・トドのときはマスクを脱ぐ」と言ったら、もの凄く反響があったんだ。「けしからん!」と怒った人や、「ルチャ・ドールじゃない!」って批判する人も多いんだよ。
—ルチャは文化として受け取られているから、その象徴であるマスクを脱ぐなんてのは御法度なわけですね。
ドス それに私のマスク姿を期待しているプロレスファンもいるからね。
—ドスさんはとってもハンサムだから、マスクを脱いでも人気が出るとは思いますけど。
ドス グラシアス(笑)。じつは、メヒコで公開された映画に素顔で主演してるんだよ。
—あ、そうなんですか!?
ドス タイトルは『ペロ・サルバヘ』(野良犬の意)。もう廃盤になってるけどね(笑)。
—それは残念です(笑)。映画だったら、メヒコでもOKなわけですね。
ドス ただ、日本のファンはプロレスとバレ・トドの楽しみ方をそれぞれ理解してるからね。僕がマスクを脱いで闘っても、ルチャ・ドールの誇りや気概を見せられれば、そして勝つことができれば喜ぶんじゃないかと思うんだよ。まだまだ考えないといけない問題だけど。
—でも、そこまで思い詰めるんだから、今回の敗戦をきっかけに、ますますVTに足を踏み入れる気持ちが強くなったということですよね。
ドス その通りだよ。近い将来の予定として、マルコの道場があるカルフォルニアに引っ越して、腰を据えてバレ・トドに取り組むつもりだしね。
—そこまで専念しますか!



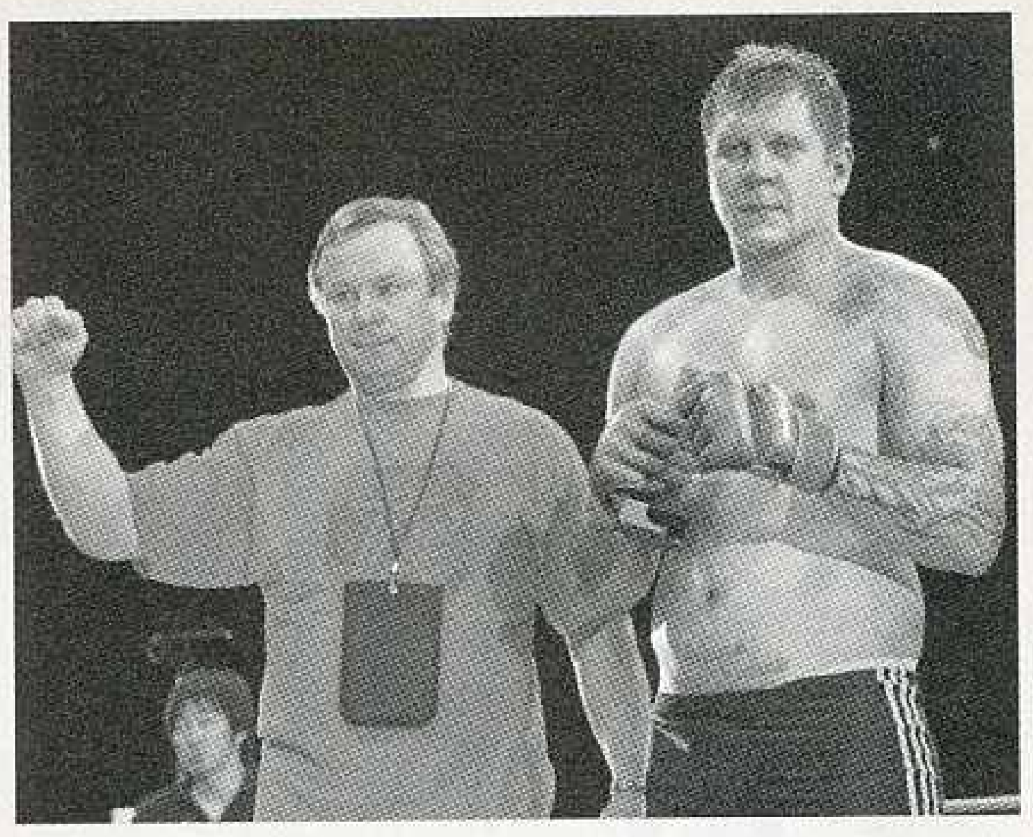
1977年メキシコ出身。197センチ、100キロ。ドス・カラスの血を受け継ぐサラブレッドにして、シドニー五輪ではレスリングメキシコ代表に選出された身体能力の高さ持つ。史上初の覆面バーリ・トゥーダー。

ドス メヒコには強いボクサーはいても、バレ・トドのファイターはまったくいないから。スパーリング・パートナーもままならない。バレ・トドのトレーニングをするためには、高いお金を払ってアメリカに飛んでいるのが現状なんだよ。
—VTの度に行ったり来たりしてるわけですね。
ドス マルコの道場で練習してるときは、自分のレベルが上がっているのを実感するんだけど、メヒコに戻るとレベルがだんだん下がっていく……その繰り返しなんだよ。一定のレベルを保つため、そしてさらなる向上を計るためにも、これからはバレ・トドの練習に専念したい。アメリカに行けば、家を借りるお金とか金銭的には苦しい状況になるけど、僕にとって必要なのは、バレ・トドに専念できる環境なんだ。そのためにはカルフォルニアには行くのがベストなのさ。
—メヒコに道場を造るプランはないんでしょうか?
ドス そういった将来を視野に入れて、いろいろなことを経験したいとも思ってるんだよ。僕は、バレ・トドは30歳まで、プロレスは40歳までやって引退するつもりだから、引退後に道場に開くのはいいかもね。ルチャ・ドールの誇り、華麗さ、そして強さ。将来のスペル・エストラージャ(スーパースター)にいろんなことを教えるのさ。
—お父さんはいまだに現役ですけど、ドスさんの場合は指導者に回る、と。
ドス パパみたいにずっと現役を続けるってことは……あんまり考えてないなあ(笑)。僕は引退したあとに、大学に通っていろいろ勉強したいと思ってるし。
—お父さんはドスさんの「VT専念」「脱・マスク」には反対しないんですかね?
ドス おいおい、僕はこれからもプロレスをやるつもりだよ! それにマスクだってまだ脱ぐとは決めてない。あくまでも考え中だよ(笑)。
—それは失礼しました!
ドス パパの場合は、基本的に僕の好きなように人生を歩ませてくれるからね。僕のやることには賛成の立場なんだよ。ただ、バレ・トドに対して、細かい点はわかってないところがあるんだよなあ。
—それは凄くありそうですねえ(笑)。
ドス まあ、パパはすべてにおいて僕を信用して任せてくれるからね。理解してもらえると思うよ。いまでも一緒に暮らしてるし、とっても優しいパパだよ。僕が結婚したら別々になると思うけど、その予定はまだまだないからしばらくは一緒だよ。
—ドスさんはモテそうですけどねえ(笑)。
ドス フフフフ。はい、次の質問!(笑)。
—あ、スルーしますか(笑)。そういえば、ドスさんの弟さんもVTをやりたいってお話でしたね。190センチの長身って聞いてますよ。
ドス まだ高校生なんだけど、メヒコでは一緒に練習をしているんだ。コーラー戦のときは学校に許可をもらって休んで来日してたんだよ。「いずれはバレ・トドをやりたい!」って言ってるから楽しみにしてほしいね。
—プロレスのリングで「ドスカラス・ブラザーズ」の結成も期待してますよ!
ドス そうだね。バレ・トドだってこのまま引き下がれないけど、ルチャ・ドールとしても華麗な姿も魅せたい。今回は残念な結果になってしまったけど、応援してくれた日本のアミーゴのためにも闘い続けるよ! 何しろ僕は、誇り高き血を受け継ぐルチャ・ドールだからね!

【03年10月6日/都内・某ホテルにて収録】



揃って勝利に
パコージンも
ひと安心!





ロシアン・トップチームの秘密兵器、日本初上陸!!

エメリヤーエンコ・アレキサンダー

Emelianenko Alexandre

セルゲイ・ハリトーノフ

Sergey Kharitonov

ロシアン・トップチーム総監督のパコージンが数ヶ月前から「ヒョードル級の逸材」と自信を持って語っていたのが"ヒョードル弟"エメリヤーエンコ・アレキサンダーと"ロシア軍最強の男"セルゲイ・ハリトーノフの2人。10・5『PRIDE武士道』に待望の初来日、揃って勝利を飾った新ロシアンファイター2人の素顔に迫ってみた!

聞き手／松澤チョロ　撮影／松本崇
designed by hisa (Two Three)

――日本デビュー戦、2人揃っての勝利おめでとうございました！

アレキサンダー（以下・愛称のサーシャ）＆セルゲイ　スパシーバ！（ニッコリ）。

――アレキサンダーさんはアスエリオ・シウバ戦後ノーコメントだったので、改めて試合の感想を聞かせてもらえますか？

サーシャ　試合の結果には満足してますが、内容的にはミスがあったので、それに関しては不満に思っていますし、次の試合までには改善しようと思っています。

――正直、試合で「危ないな」と思った場面はありましたか？

サーシャ　やはり100キロ以上の選手と闘う場合というのは、ちょっとしたミスが敗因となってしまうので、例えばどこのポイントが危なかったというのではなくて、全ての瞬間が些細なことで負けを導く瞬間に変わります。アスエリオ選手は打撃もグラウンドコントロールにも長けている選手だったので、全ての瞬間が危険と言えば危険だったと言えるでしょう（微笑）。

――そうかもしれませんね（笑）。バーリ・トゥードは初めてと報道されてましたが、ロシアでも経験はなかったんですか？

サーシャ　このような大きな規模の大会に参加するのは初めてでした。でもウクライナやロシアではレベル的にも規模的にも『PRIDE』と比べると落ちてしまいますが何回か試合はしています。

――そうなんですか。失礼ですが、これまでの試合で今回のように顔面を殴られて腫れてしまったことはありました？

サーシャ　これまで経験してきたバーリ・トゥードでは短い時間で試合を終わらせているので、ここまでたくさんの打撃を受けたことはないです（苦笑）。

――まあ、そうでしょうね（笑）。

ボクはまだ学生なんです。学校では経済学を学んでいます

私は現在もロシアのパラシュート部隊に所属しているんだ



サーシャ　ミスをしてしまったと思ったのはペース配分を考えていなかった部分です。その結果（傷だらけの顔を指差し）こうなってしまったんだと思います（苦笑）。

――ちょっと痛々しいですね（笑）。一方のセルゲイさんは完勝と言える内容でしたけど、あらためてジェイソン信長戦を振り返っていただけますか？

セルゲイ　今回の試合に関して立てていた戦略は、自分がコントロールできる状態であればスタンディングからグラウンドへ持っていって、そこから極められればという形だったからね。それが思い描いていたようにいったので良かったと思うよ。

――確かに作戦通りの試合展開でしたね。2人はヒョードルさんと同じ練習メニューをやっていると聞いてますが、具体的には、どういった練習をしているんですか？

セルゲイ　かなり多くの時間をトレーニングに費やしているよ。ただし、内容に関してはシークレットだね（微笑）。

――了解しました（笑）。セルゲイさんはパコージンさんいわく〝ロシア軍最強の男〟ということですけど、現在も軍隊に所属しているんでしょうか？

セルゲイ　そうさ。私はロシアのパラシュート部隊に所属しているんだ。今回は『武士道』に参戦するために出張扱いで日本に来たんで、何がなんでも勝たなければいけなかったんだよ（笑）。

――出張扱いでしたか！（笑）。パラシュート部隊というと、ヴォルク・ハンもそうでしたけど、それはご存知でしたか？

セルゲイ　もちろんさ。ハンさんのことは格闘家としても軍人としても尊敬しているよ。彼は私にとって偉大な先輩だからね。

――というと、ハンやコピィロフ、ミーシャといった日本でもお馴染みの選手とも練習する機会はあるんでしょうか？

セルゲイ　ハンさんや（アンドレィ・）コピィロフさん、（アレキサンドル・）ヒョードロフさん、（ニコライ・）ズーエフさん、（イリューヒン・）ミーシャさんといった方々は、いまでも私達に指導してくれたり、他にもいろいろと協力してもらっているんで凄く感謝しているよ。

――アレキサンダーさんは何かお仕事はされているんですか？

サーシャ　いや、ボクはまだ学生だから仕事はしていないんです（微笑）。

――あ、まだ学生でしたか（笑）。年齢的には大学生になるわけですか？

サーシャ　大学ではないんですが、日本で言う専門学校のようなところです（※通訳によるとサーシャは日本の専門学校よりランクの高い学校に通っているとのこと）。そこで、私は経済学を学んでいます。

――将来的には、それを活かした職業に就こうと考えているわけですか？

サーシャ　いろいろと希望があるんですが、いまはまだ言える段階ではありません。まあ時間が経てばわかると思います（微笑）。

――わかりました（笑）。それと、かなり立派なタトゥーを入れてますけど、いつ頃入れたものなんでしょうか？

サーシャ　（恥ずかしそうに）かなり前に入れたんで忘れてしまいました（微笑）。

――忘れるってことはないでしょう（笑）。ちなみに何か意味はあるんですか？

サーシャ　右腕には教会、左手にはウクライナの伝統的な模様をアレンジしたものが入っていて、背中には死神が赤ちゃんを抱いているタトゥーに「神は私達とともに」というセリフを入れています。

――ちょっと写真を撮ってもいいですか？

パコージン　（突然、割って入り）フィニ

〜ッシュ！　そんなタトゥーなんか撮っちゃダメ！　ダメダメダ〜メ‼

——撮影はダメなんですか（笑）。

パコージン　そう！　はい、次の質問！

——わかりました（笑）。ロシアでもタトゥーを入れている人は多いんですか？

サーシャ　初めて入れた時は、あまり一般的ではなかったんですが、凄く気に入ってしまったので入れてしまいました（微笑）。ただ最近はロシアでもタトゥーが流行っていて、女の子とかでもオシャレ感覚で入れている人がたくさんいますよ。

——日本でもオシャレ感覚で入れている人も多いんですけど、タトゥーを入れている人っていうと、ちょっと悪い人っていうイメージが強いんですが、アレキサンダーさんはどうなんでしょうか？（笑）。

サーシャ　フッフッフッフッ（笑）。ボクはとてもマジメなロシア国民です（微笑）。

——失礼しました（笑）。タトゥー繋がりでお二人に聞きたいんですけど、いま日本で有名なロシア人というとヒョードルさんとt.A.T.u.なんですが、t.A.T.u.にはどういった印象がありますか？

サーシャ　日本だけじゃなくてt.A.T.u.はロシアの中でも新曲を出すと一位になるような凄く人気のあるグループです。ただ、好きか嫌いかと言えば、その時の気分によって良く感じるときもあるし、どうかなって思うときもあるし……一概に好きとか嫌いとかいうのはないですね（微笑）。

セルゲイ　私は正直言うとあまり好きなグループではないね。ただ、よく流れていて耳にすることが多いんで、まあ別に悪くはないんじゃないかなって感じかな（笑）。



Emelianenko Alexandre

えめりやーえんこ・あれきさんだー■1981年8月2日、ロシア・ベルゴーラッドスク出身。現『PRIDE』ヘビー級王者のヒョードルを実兄に持つ新ロシアンファイター。03年コンバットサンボ世界選手権アブソリュート級優勝、アマチュアサンボ公式戦戦績10勝無敗。日本デビュー戦は途中スタミナ切れとなりながらも強豪のアスエリオ・シウバに勝利。ニックネームはサーシャ。194cm、115kg

——微妙なんですね（笑）。それと、いまヒョードルさんとミルコの対戦が注目されてますけど、お二人はズバリ、ミルコに勝つ自信はありますか？

サーシャ　ボク達ファイターは勝つ自信がない試合には臨まないですから。もしいま、そういうオファーが来たとして「勝つ自信がありますか？」と言われれば、もちろん「ある！」と私は答えます。

——ほぉ〜、自信ありと。セルゲイさんの方はいかがですか？

セルゲイ　確かにミルコは素晴らしいファイターだと思う。ただ私もサーシャと同じで、もしそういうオファーが来たら「ある！」と答えるね。

——2人とも頼もしいですね。ヒョードルとミルコが対戦したら、ヒョードルさんは勝てると思いますか？

セルゲイ　一概には言えないが、もちろん私は一緒にトレーニングを積んでいるヒョードルが優勢だと思っているよ。技術面もそうだけど、優勢だと思う理由はロシア人っていうことも大きいだろうね。

——それはどういう意味ですか？

セルゲイ　ロシア人が持つ意志や性格っていうのは他の国民以上に凄く芯が強いところがあるからね。

——弟としてはどう思います？

サーシャ　ボクもヒョードルの方が強いと思っています。ただ実際試合になると、どういうコンディションで臨めるかというのが大きなカギを握ってくると思うので、非常に難しい質問だと思います。

——ヒョードルさんは『ＰＲＩＤＥ』ヘビー級のチャンピオンになってから日本での

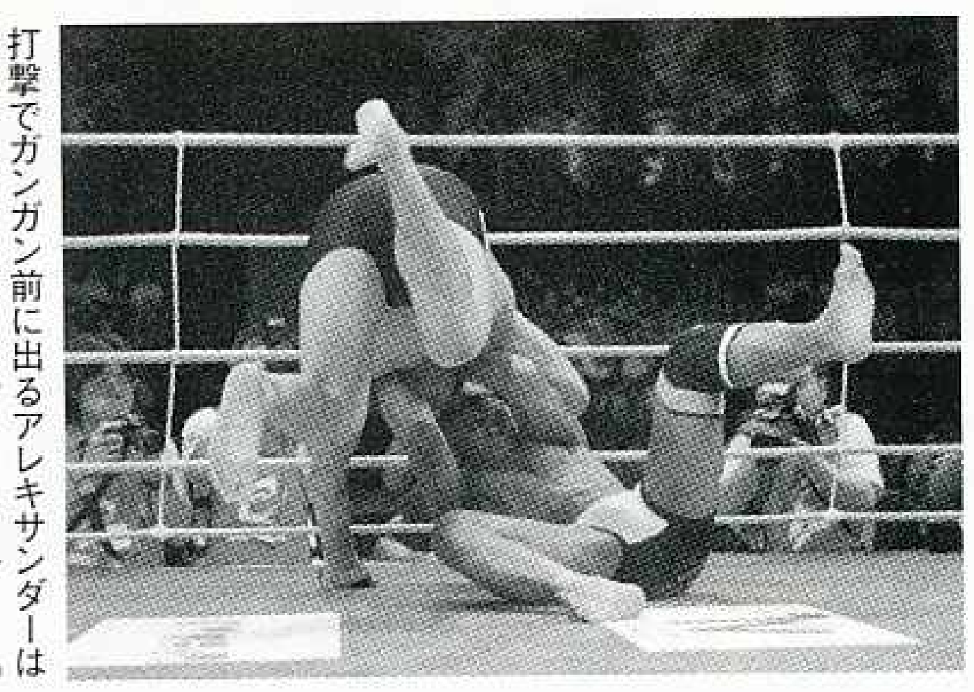
BOUT REVIEW

後半失速するも“ヒョードル弟”らしさを見せつけ勝利！

○エメリヤーエンコ・アレキサンダー
［2R判定2-1］
アスエリオ・シウバ●



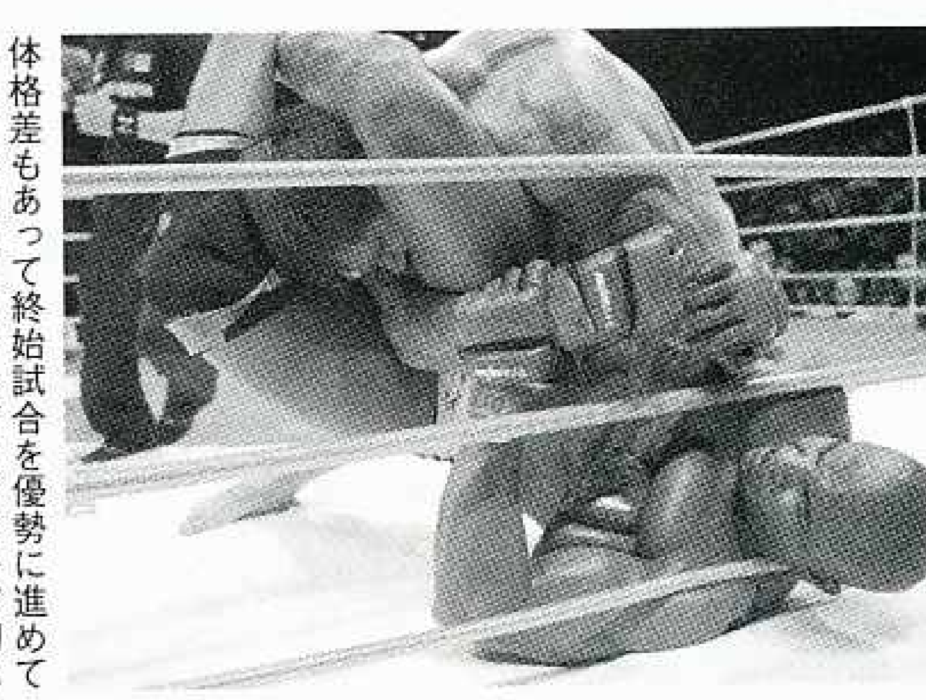
ヒョードルファンも大注目のアレキサンダーの日本デビュー戦。ゴングが鳴るとシュートボクセの強豪アスエリオ・シウバに対しヒョードル級のパンチを連発！



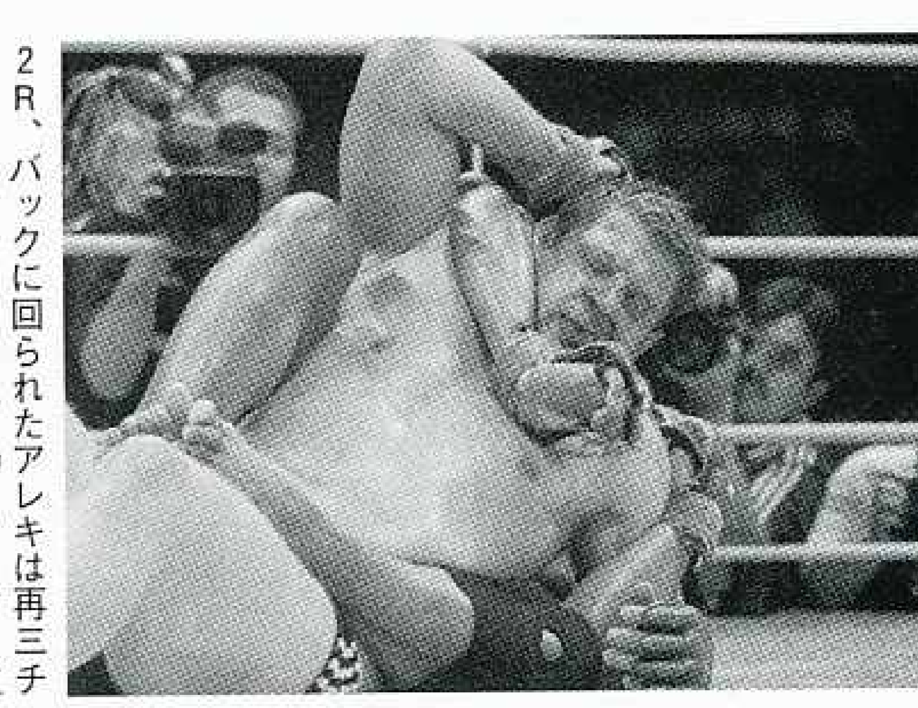
打撃でガンガン前に出るアレキサンダーはアスエリオを豪快に投げてテイクダウン。下からヒールホールドを極めかけられるもナチュラルパワーで引っこ抜いてみせた



スタンドに戻ると、またもや投げからテイクダウンを奪ったアレキ。そこからアニキ譲りの強烈なパウンドを連発させると、その迫力に場内は一気に凍りついた



体格差もあって終始試合を優勢に進めていたアレキだったが、途中スタミナが切れ試合は膠着気味に。アスエリオに三角を極められかけたアレキはなんとか脱出！

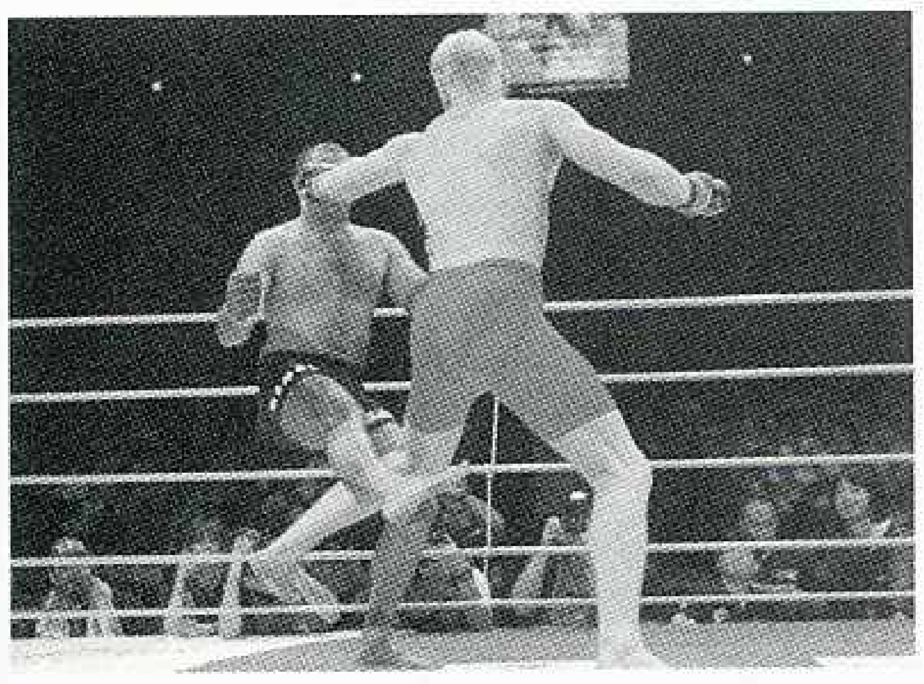


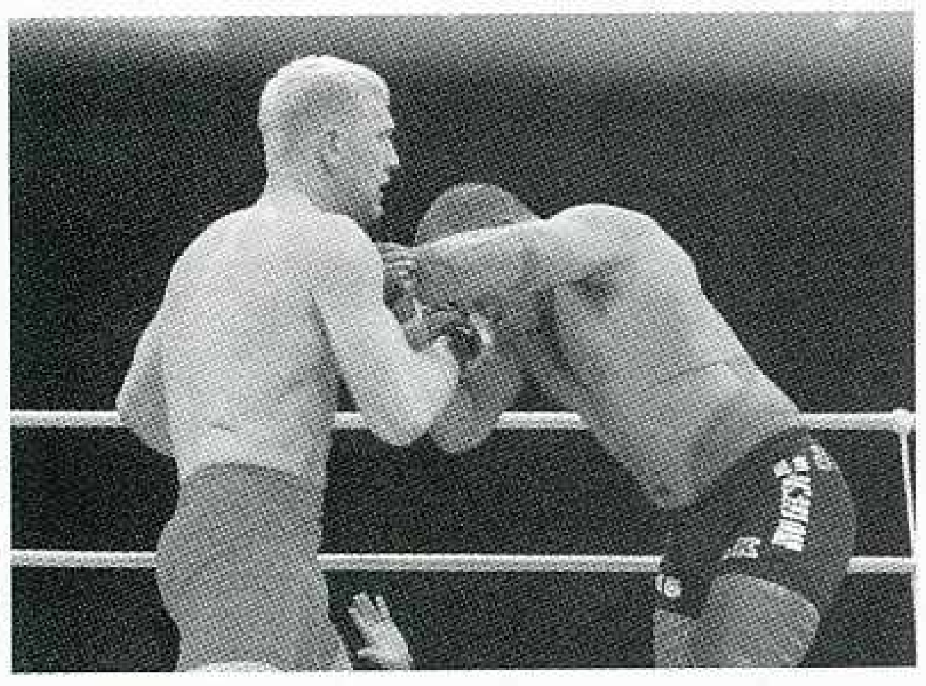
2R、バックに回られたアレキは再三チョークを仕掛けられるが「よっこいしょ」とナチュラルパワーで凌ぎまくり。判定ながら日本デビュー戦を勝利を飾った！

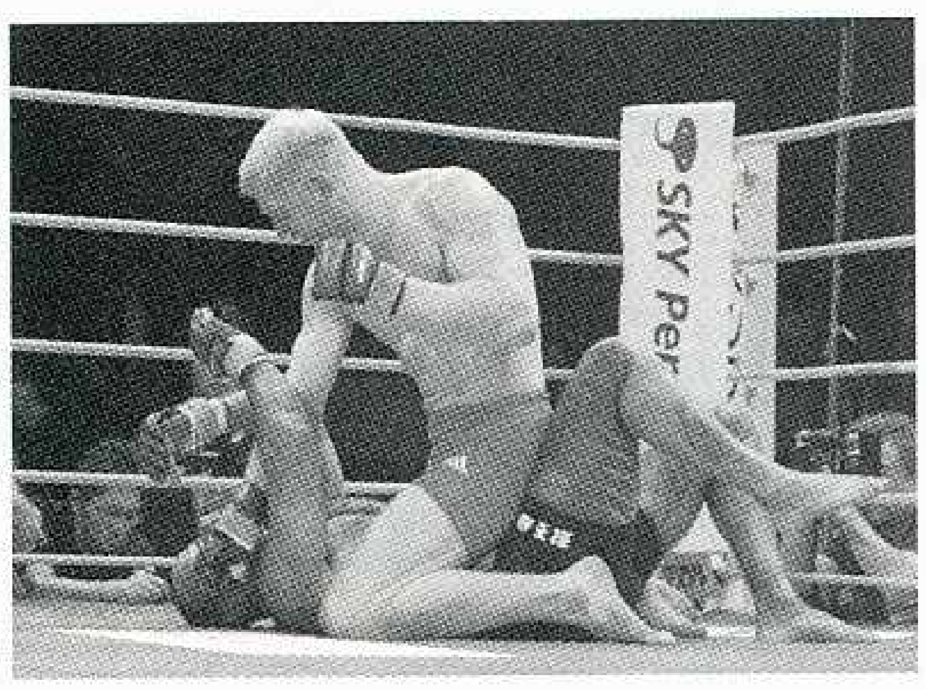
BOUT REVIEW

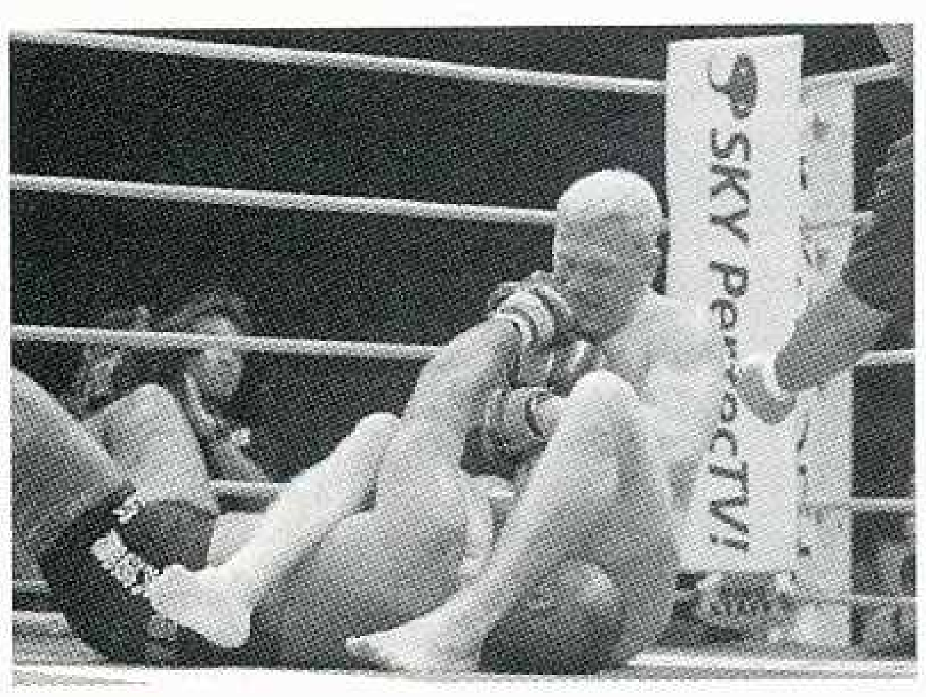
“ロシア軍最強の男”、『武士道』で信長を成敗!!

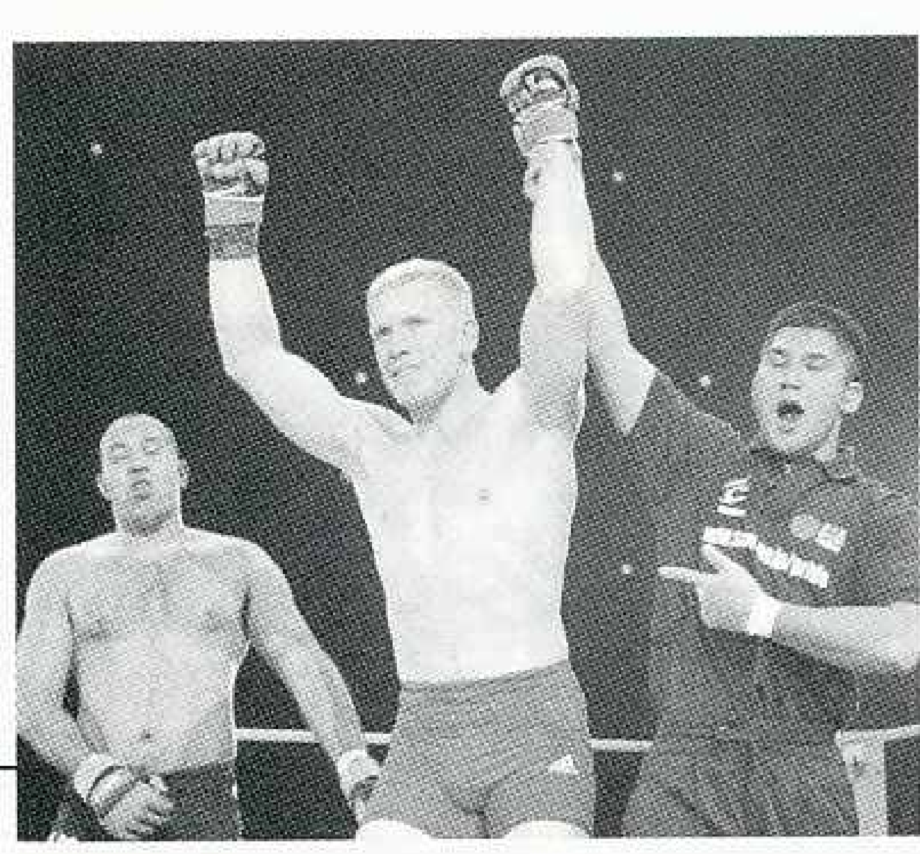
○セルゲイ・ハリトーノフ
［1R2分24秒　腕ひしぎ逆十字固め］
ジェイソン信長●


ベレー帽にアーミールックで入場してきた“ロシア軍最強の男”セルゲイ。Ｋ－１で活躍するジェイソンのローを何発か喰らうも、かまわず前に出ていくセルゲイ


今年7月にオーストラリアで行われたＫ－1ＧＰオセアニアトーナメント準優勝のジェイソンにパンチをヒットさせたセルゲイ。さすが、ロシア軍最強の男だ！


ジェイソンのパンチをかいくぐりテイクダウンさせたセルゲイはサイドからチャンスと見るやマウントへ。そこから狙いすましたパンチを冷静な顔で落としていく


マウントパンチを嫌がるジェイソンが苦し紛れに伸ばした腕をとらえたセルゲイは一気に腕十字へ。打撃系の相手に定石どおりの攻めで見事タップを奪った


「勝って当然！」と言わんばかりの表情で勝ち名乗りを受けるセルゲイ。第二のミルコの座を狙っていたジェイソンは、試合後、バーリ・トゥード続行宣言！

人気も急上昇中なんですが、ロシアでは何か変化はありますか？

サーシャ　何も変わらないです。いつもどおり穏やかで、いつもどおり優しい感じで、いつも通りゆったりとしています（微笑）。

——そうですか。でも以前に比べてお金持ちにはなったわけですよね（笑）。

サーシャ　それはあるかもしれません（微笑）。以前の彼は家族とか親戚とかに精神的に何かできればいいと考えていたみたいですけど、いまは物質的な面でも助けてあげていますし、いい方向に生活を変えていっているように見えます。

——それは素晴らしいことですね。2人は軍隊と学生ということですけど、これからは『PRIDE』での闘いを中心にやっていこうと考えているんでしょうか？

セルゲイ　そうだね。私はまだ若いし健康なので可能性がある限り『PRIDE』のリングで闘っていきたいと思っているよ。

サーシャ　まだ第一歩を踏み出したばかりですが、ボクも『PRIDE』のリングで闘っていきたいと思っています。

——最終目標は2人とも『PRIDE』ヘビー級王者ですか？　いまはヒョードルが王者なので難しいでしょうけど（笑）。

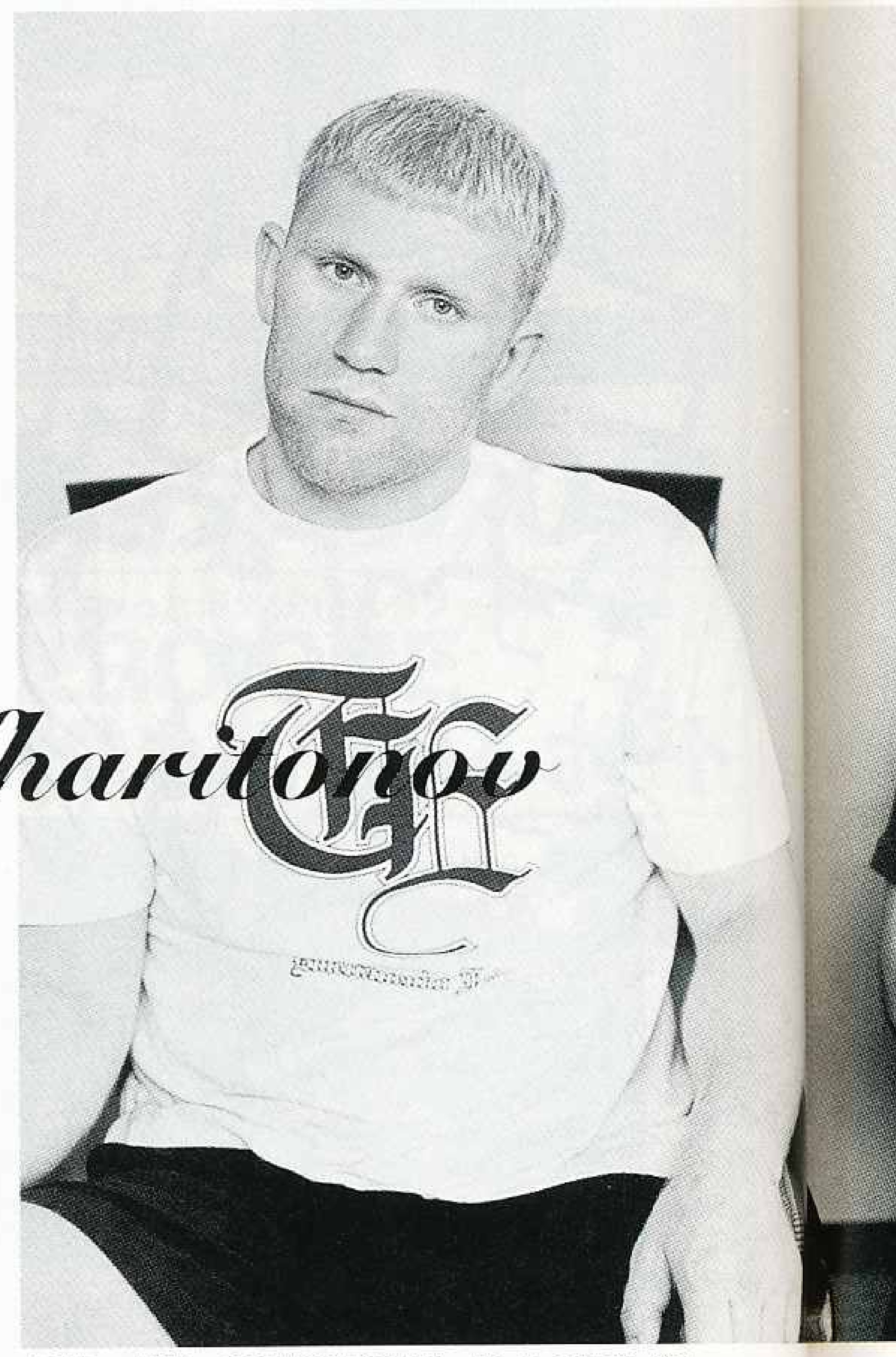
サーシャ　いますぐは難しいです（微笑）。でも将来的にはチャンピオンになって、それを防衛していくことが目標です。

セルゲイ　私もサーシャと同じだね（笑）。

——お互い『PRIDE』ヘビー級王座が目標ということは将来的にベルトを賭けて闘う可能性もあるかもしれませんね（笑）。

セルゲイ　ハッハッハッハッ！　まあ、そういう機会があったらやってやるさ（笑）。

Sergey Kharitonov

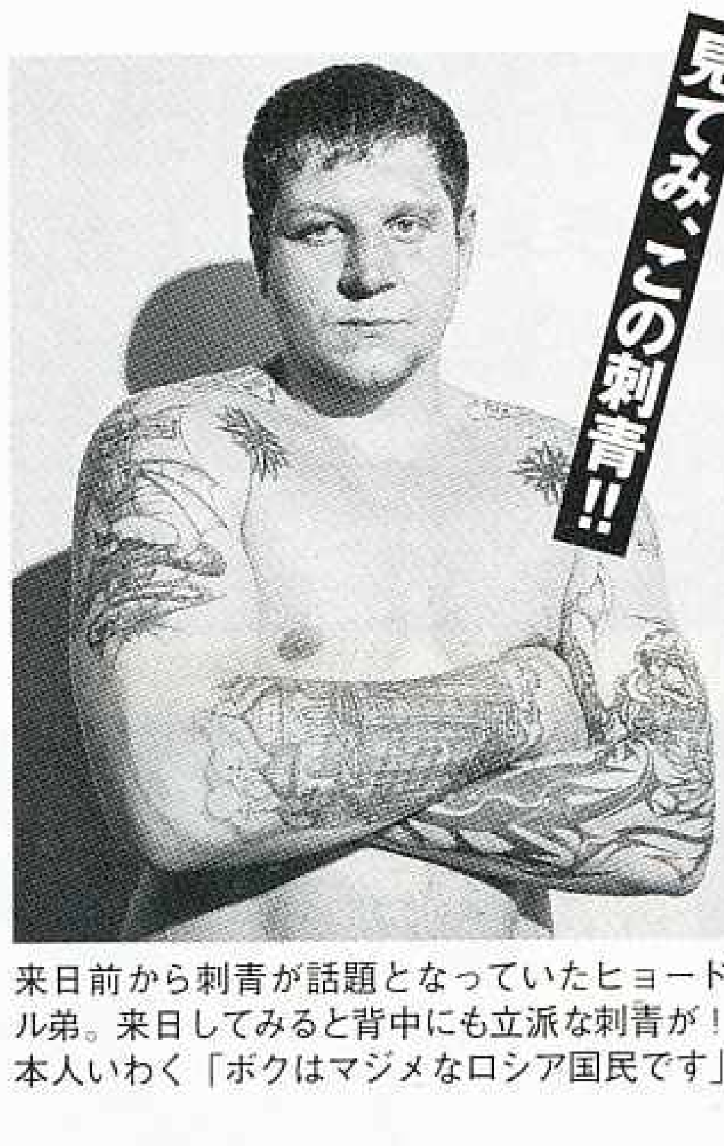

せるげい・はりとーのふ■1980年8月18日、ロシア・アルハンゲリスク出身。ロシアン・トップチーム総監督のパコージンが“ロシア軍最強の男”と自信を持って『PRIDE』に送り込んだ究極のサンビスト。03年ロシアＶＴ選手権アブソリュート級王者にして、アマチュアサンボ公式戦14勝無敗。日本デビュー戦はジェイソン信長に腕十字で完勝。次の試合が待ち望まれる新ロシア人。192cm、101kg

サーシャ　（困った顔をしながら）そういうオファーがあればやります（微笑）。

パコージン　（再び割って入り）（日本語で）スミマセ～ン！　一言いいですか!?

——は、はい。どうしたんですか、突然？

パコージン　どうしたもこうしたもないよ！　まだハリトーノフもサーシャも『PRIDE』で闘わなきゃいけない相手がたくさんいるじゃないか？　なんで2人を闘わせなきゃいけないんだ!?　直接対決なんて、5年も10年も先の話だよ！



来日前から刺青が話題となっていたヒョードル弟。来日してみると背中にも立派な刺青が！　本人いわく「ボクはマジメなロシア国民です」

——あ、そんな先の話でしたか（笑）。

パコージン　2人には、それまでにもっともっと倒さなきゃいけない相手はいるし、経験を積んでもらわないと。それにサーシャの方は、あと10キロ減量してもらわないと試合になんか出せんよ！

——今回は、ちょっとオーバーウェイト気味だったんですかね（笑）。

パコージン　いやいや、ほんのロシアンジョークだよ（笑）。

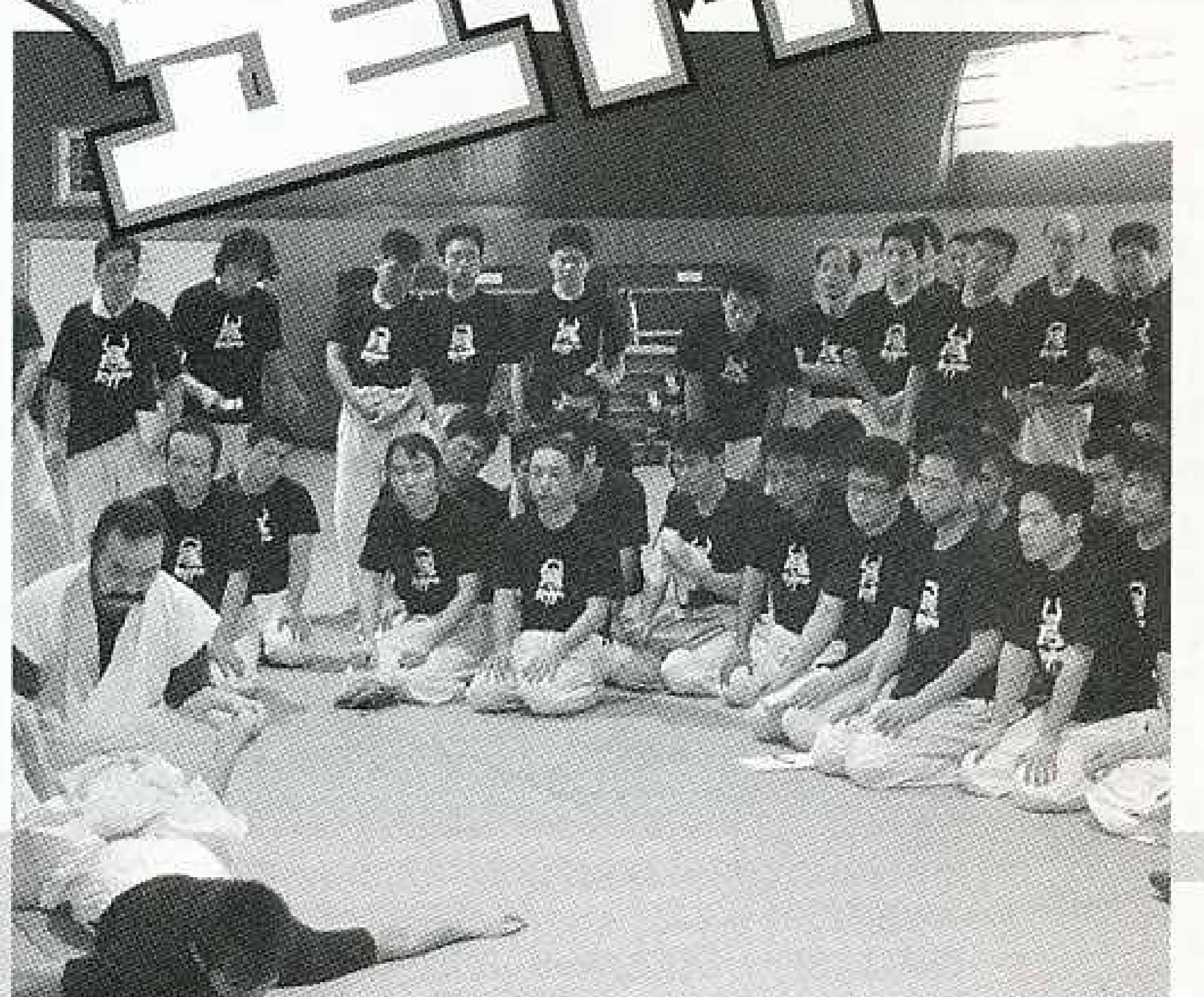
——す、すいません。全く気づきませんでした（笑）。2人には『武士道』に限らず、今後のさらなる活躍を期待してます！

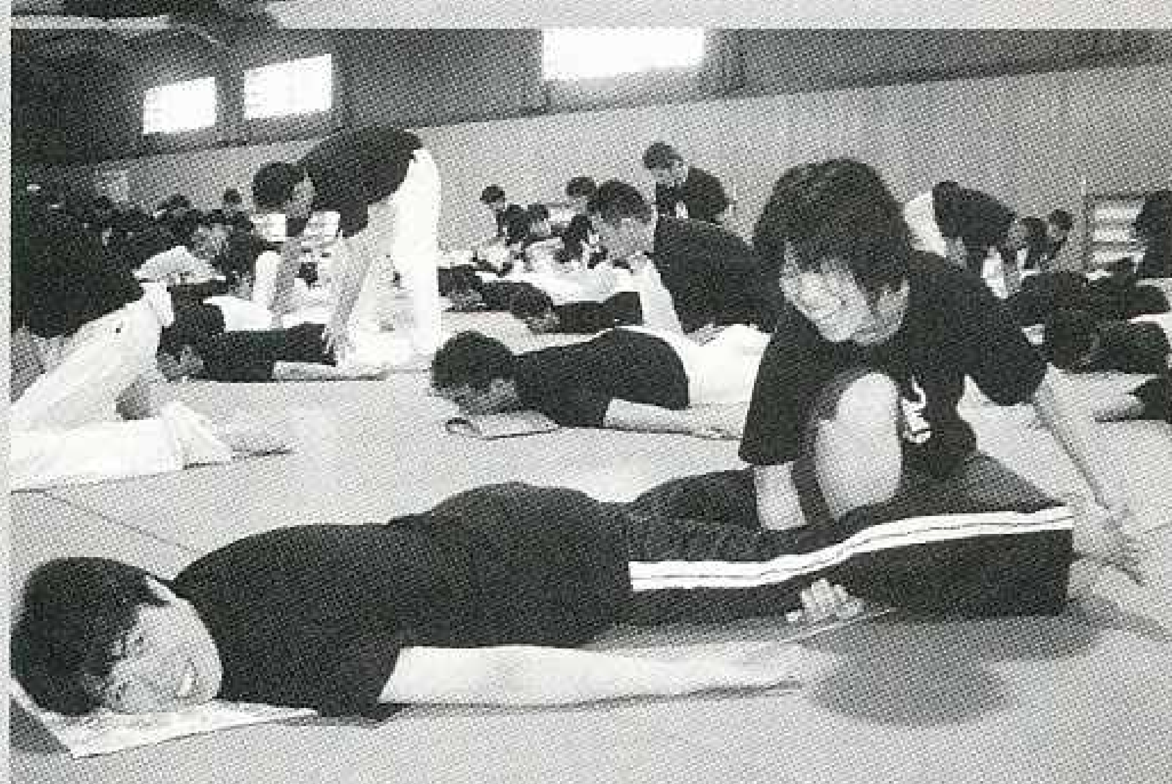
［10月6日／都内ホテルにて収録］

第5期生募集中　画期的技法公開



手に職を！整体で独立！



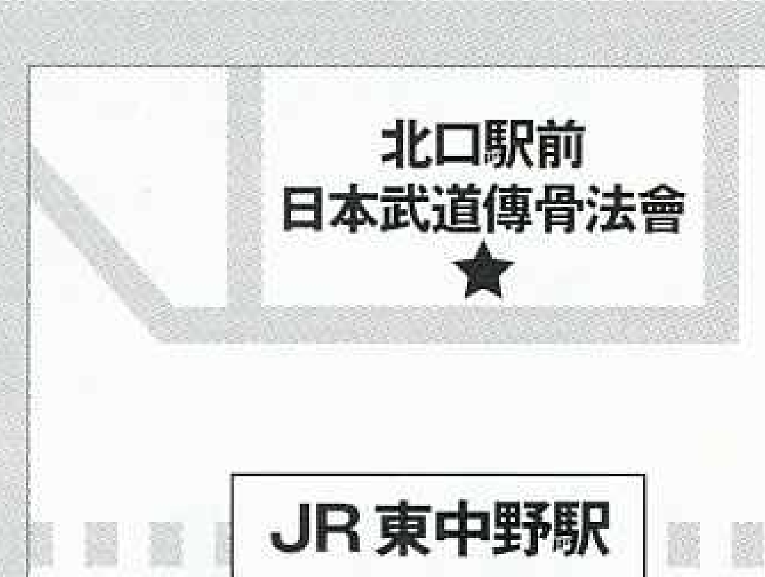


骨法整体は関節をボキボキ鳴らす危険な施術を一切しません。驚くことに体を「揺さ振る」だけで全身の歪みを治す、安全で力を必要としない効果抜群の整体です。

H16年4月～9月迄の第1、第3日曜日
PM1：00～PM6：00

指導は本誌でおなじみの哲人武道家、堀辺正史の直接教授。北海道から沖縄まで続々骨法整体院開設！

月2回10時間×6ヵ月の集中特訓で全くの素人をプロの整体師にまで責任指導します。終了後テストに合格した者は骨法整体師の免許証が授与されます。
☆資格(高卒以上)詳しくは下記にお問い合わせ下さい！



日本武道傳骨法會

KOPPO

☎ 03-3362-0010

住所
整体指導部
〒164-0003 東京都中野区東中野 4-3-2
http://www9.big.or.jp/˜koppo/
☆問い合わせ時間 PM8：00～PM10：30

CONTENTS

紙のプロレス RADICAL

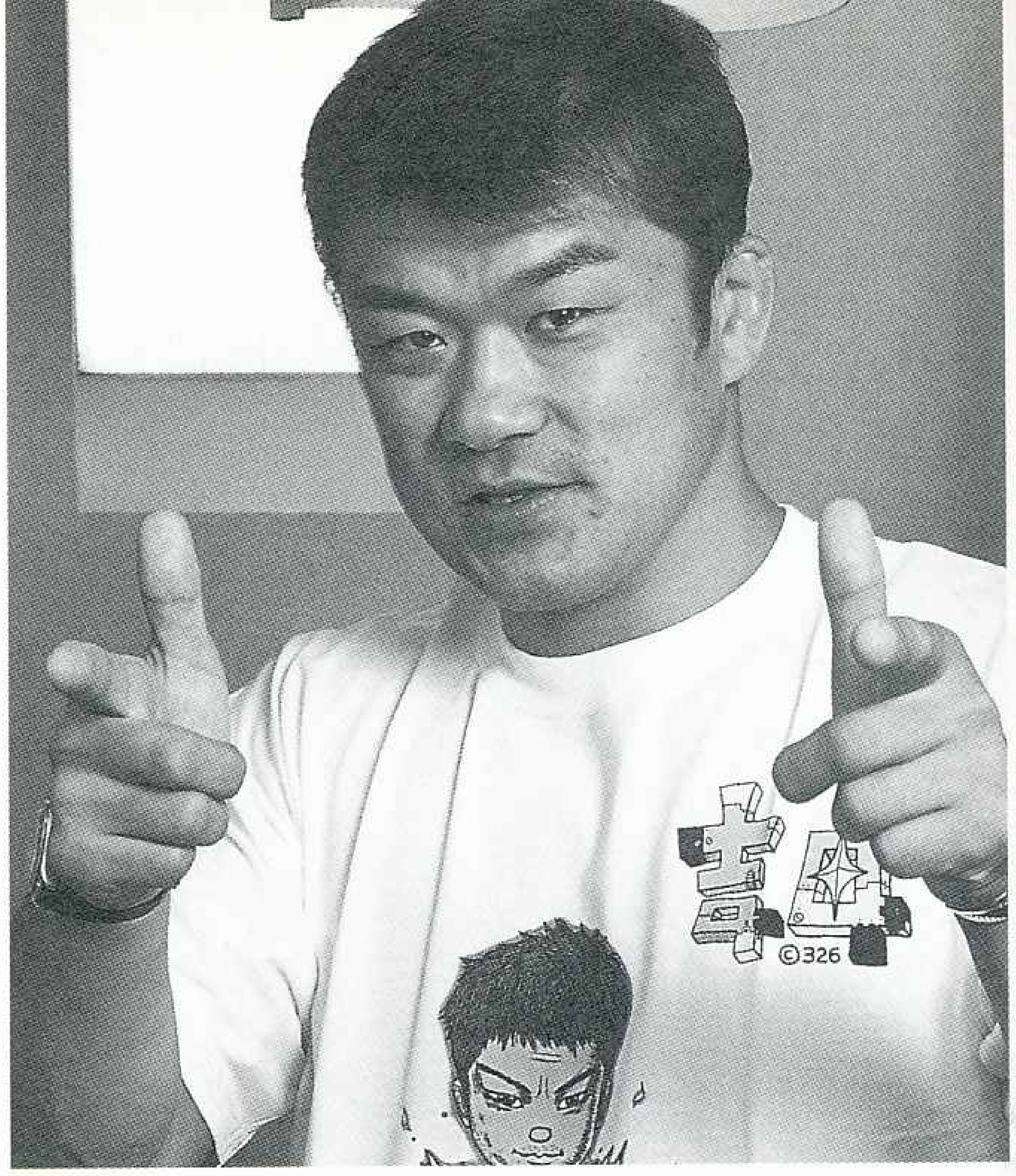
2003 NO.67

MMA Main-Event

11・9東京ドーム、シウバとダンディいざ激突!!

衣は赤く染まるか!?

K-1



Pro-wrestling Spcial

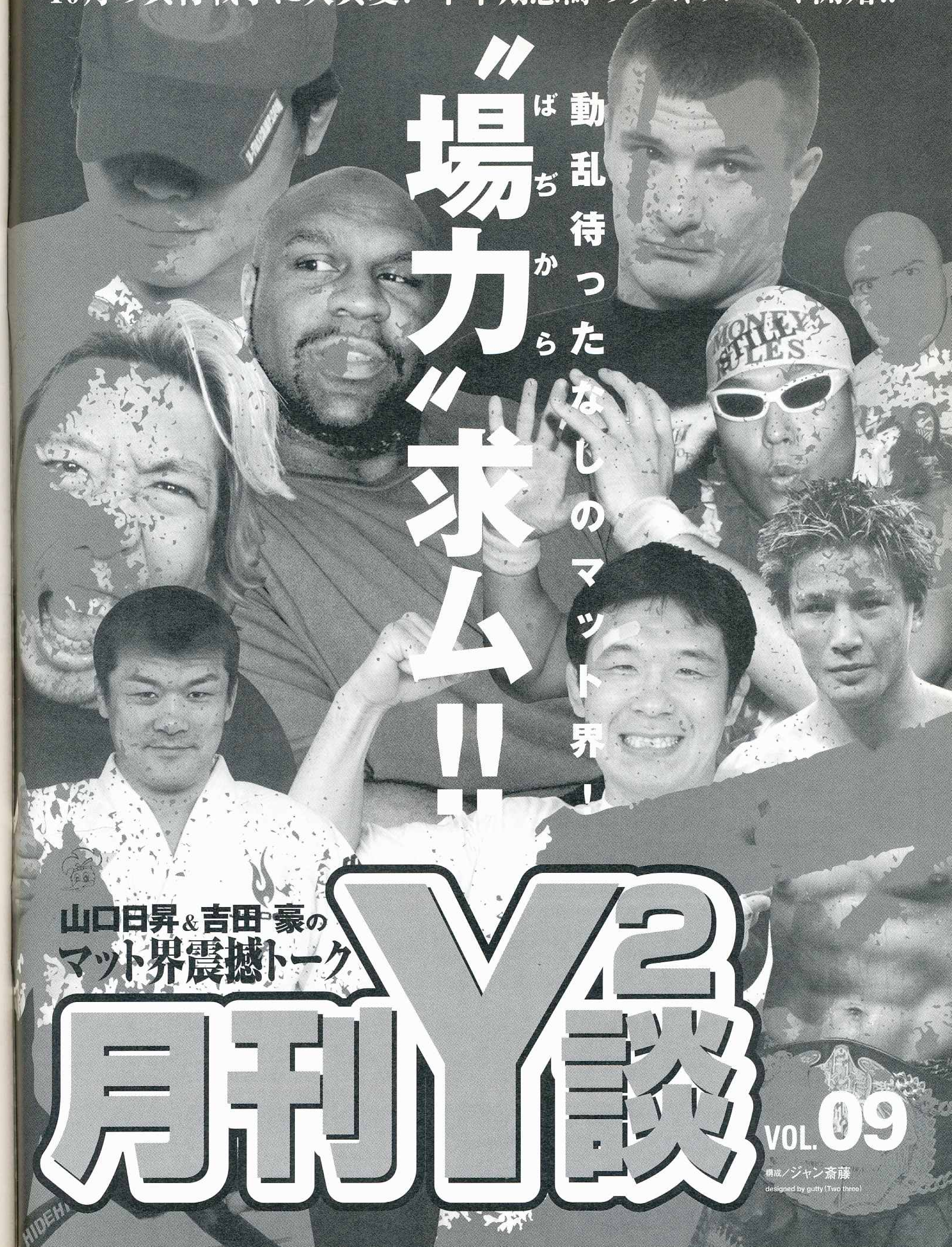
Radical Spcial

Columns

Special Talk

Another

10月の興行戦争に大異変！ 下半期怒濤のラストスパート開始!!



"場力(ばぢから)"求ム!!

動乱待ったなしのマット界！

山口日昇＆吉田豪の
マット界震撼トーク

月刊Y²談

VOL.09

構成／ジャン斎藤
designed by gutty (Two three)

吉田　会長（山口日昇のあだ名）、おめでとうございます！　おかげさまで前号の『Y2談』が読者アンケートで一位を記録しましたよ！

山口　実に素晴らしい！　読者のみなさん、支持してくれてありがとう!!……って、前回、俺は出てないよ！　そもそもなんで豪ちゃんとターザンが『Y2談』を俺抜きでやってるわけ？

吉田　会長が掴まらなかったからですよ！　でも「会長がいないときの方が面白い」というハガキもどっさり来てましたね（嫌みたっぷりに）。

山口　ゲ！　ど、どっさり!?　ターザンが出てきたらいっつも評判が悪すぎるくらい悪いのに、なんで？

吉田　前回はターザンが『SRS・DX』本誌でもまだ触れられていなかった休刊問題について大暴走してくれたからっていうのもあるんでしょうけど、ターザンに言わせると、好評だった原因は「豪ちゃんが私の性格をよく知っていて、私をのせるのがうまいから」「ただひたすら豪ちゃんを喜ばすため、その笑顔が見たいためだけに、私はテンションをあげまくっているのだ。恋人みたいな関係にあると話が盛りあがらないはずがないではないか？」ってことだったらしいですけど（笑）。

山口　（まったく話を聞かず、つぶやくように）最近は俺のインタビューページが少なくてもそんなに影響ないみたいだし、もしかして俺は『紙プロ』にいらない人間なのかなぁ？……ホントにもうやめようかなぁ……？

吉田　いや、もちろんターザンの『Y2談』はワースト部門でも一位になってたし、「見苦しいからターザンの顔はもう出すな！」っていう苦情のハガキもたっぷり来てるから大丈夫ですよ（笑）。

山口　フォローになってねーよ！

吉田　やっぱりターザンの回は過激だし勢いはあるけど、会長のときと比べると情報性はまったくないし、ビジュアルも良くも悪くも強烈すぎるし……。

山口　ますますフォローになってない！　それより「ターザンより山口日昇が出てるときの方が断然面白い！」という声だってあるでしょ？

吉田　あった……かなあ……。

山口　（子供のようにムキになって）俺がこないだ見た読者ハガキには確かに書いてあったもん！

吉田　ハガキといえば、最近ターザンから編集部に送られてくるようになった絵ハガキがすごいんですよ！

山口　なに、その絵ハガキって？

吉田　最近『SRS・DX』休刊で暇になったターザンが、「やっぱり『SRS・DX』は許せないよぉ！」とか「豪ちゃん、『K-1 GP』のテレビ見た？　見た？　罰当たりとはあのことですよ。私を会場に招待しないと、ああいうことになるんです！」とか、恨み言ばかり書き殴った『猿の惑星』や『ティファニーで朝食を』のポストカードが、なぜかターザンのプリクラ付きで送られてくるようになったんですよ（笑）。

山口　………俺、気持ち悪いから、ホントにターザンには近寄らないようにしようっと。

吉田　なぜかいま『ゴング』はターザンに近寄り始めてますけどね。

山口　……『ゴング』が『SRS・DX』と同じ道を歩まないことを切に願うのみですね（笑）。

吉田　実際、『ゴング』はとてつもなく絵が下手な上にストーリー的な起伏も一切ない、誰も知らない日本人レスラーをモデルにした実録プロレス漫画『キラー・シクマの伝説』の連載が始まったりで、いきなり迷走しかけてるんですよね。ちなみに『週プロ』創刊100号記念で前川K三先生の漫画『ギブアップ・ブキ』を連載したときには、返本率が急激にアップしたそうです（笑）。

山口　あったなあ、それ（笑）。『週プロ』の場合は漫画の主人公を表紙にしたりして、かなりプッシュしてたからねぇ。

吉田　表紙といえば、ターザンが『紙プロ』前号のミルコの表紙にダメ出しして「来月から『紙プロ』の表紙はオレが作ってやる！　表紙をオレが乗っとるしかないよ、あれは!!　それが世のため人のため、『紙プロ』のため、読者のため、ファンのため、ガンツのため、チョロのため、豪ちゃんのため、山口編集長のためなのだ」って言ってたんですけど、今月の表紙は頼まなかったんですか？

『猪木祭り』は、中継するTV局の問題もいろいろ浮上。フジや日テレ、TBSも手を挙げている ［山口］

山口　は？　あのオヤジが売れなかったときに責任取ってくれるんだったら別に頼んでもいいけど、そういうときはご存じの通り、屁理屈並べて絶対に逃げるから、あのオヤジは（笑）……ってさ、落武者のことばっかり話題にしてもしょうがない。とにかく〝『Y2談』はオレが育てたようなもんじゃねえか！〟って思ってます、ボクは。

吉田　は？　連載9回にして欠席2回、途中退席1回してる人間のセリフじゃないですよ（笑）。皆勤なのはボクだけじゃないですか！

山口　いや、ちょっと前フリが長いから強引に本題に入ろうと思って言っただけなんだけどね（笑）。いまの〝育てたようなもんじゃねえか！〟っていうセリフは、猪木さんが9月と10・13のドームに出てきた坂口憲二に対して言った言葉なんだよ。「だいたい坂口（征二）に川村（龍夫＝ケイダッシュ＆UFO社長）さんを紹介したのは俺じゃねえか！」とも言ってたらしいけど（笑）。

吉田　まあ、坂口憲二はもともと闘魂ショップの店員だったらしいから、新日本が育てたとは言えるかもしれないですけど（笑）。

山口　猪木さんからすると、「俺があって坂口征二がいる」「その坂口の息子があるのは俺のお陰」っていう永久電機的な三段論法らしいんだけどね（笑）。

吉田　猪木さんが新日本の東京ドーム大会に姿を現さなかったのは、どうせそんな理由だとは思ってましたよ（笑）。

山口　会場には来てたんだよね。直前まで「来る・来ない」で揉めたらしいけど。

吉田　自分が主役になるならともかく、対・坂口一家みたいな図式の上だと猪木さんが出てくるわけもないですよね。

山口　現実的にビッグ・サカ人気は相当あったじゃない。入場のときなんか、どの選手よりも声援がブ厚かったしさ。

吉田　そのビッグ・サカの復帰に誰よりも反対してたのが猪木さんなんだから、復帰が騒がれれば騒がれるほどシャクに障るはずだし。

Y² 談 出 席 者



↑吉田 豪



↑山口日昇

10・6U-STYLEで行われた田村潔司トークショーの司会を務め、その姿を「どこも載せないからウチで載せろ！」と掲載を迫る本誌鬼畜編集長の山口日昇と、ホーガン本人のサインが入ったレアな「一番」Tシャツを所持する本誌スーパーバイザーの吉田豪。Y2談はこの2人がここ最近のマット界をブった斬るコーナーです

山口　ほら、ちょっと前に鈴木みのるが「坂口憲二がリングに上がったのは許せない」とか言ってたでしょ？

吉田　最近のみのるの髪型や体型と比べたら、断じて許せるんですけどねえ（笑）。

山口　ガハハハ。実際、憲二がドームの花道を歩いてきたときにはブーイングもそんなに起こんなかったし、むしろ歓迎ムードだった。それなのに入場を先導するだけの役割でしかなかったから、せっかく出してるのにもったいないなぁって思ったけどね。

吉田　「応援団長」って肩書きも意味不明でしたよ。破壊王は「ウチだったらもっとうまく使える」って豪語してたらしいけど、ああいう『LEGEND』みたいな扱いじゃもったいないですよね。

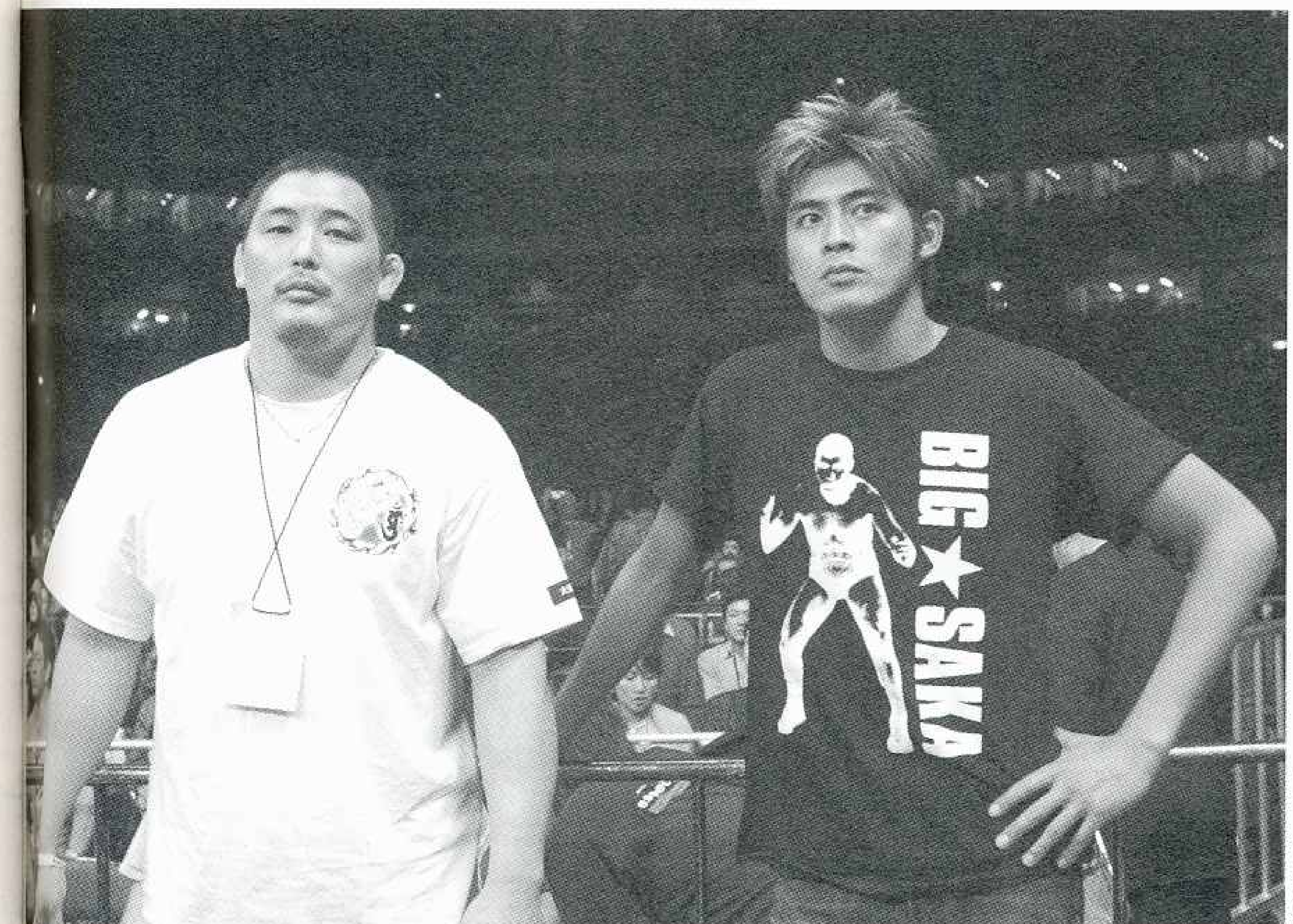
山口　ビートたけしやたけし軍団がリングに上がってモノが飛んできたときとは時代性が違うし、知名度のあるタレントを使うのもアリだと思うんだ。でも、要は日本の特殊なプロレス事情が絡んでうまく使えない。部外者にケーフェイに踏みこませてはならないっていう歴史や呪縛が中途半端に残ってるから、針を振りきった使い方ができないんだよね。でも憲二のネームバリューは利用したいという部分で、どうしても中途半端になっちゃう。つまり、憲二にプロレスの本質的な部分を教えられないわけ。使う以上はインサイドまで入れて、プロレスというイベントを組み上げるチームの一員としての役割を与えてあげたらいいのになって思うんだけど、そういう部外者との関わり方が日本の特殊なプロレス事情の場合はできないんだよね、まだまだ。

吉田　猪木さんに気を使ってる部分もあるんだとは思いますよ。試合に絡ませたら確実に怒るんじゃないかって。

山口　でも、絡ませなくたって怒ってるんだから、どうせならとことんやった方がいいでしょ（笑）。いまの時代は、踏み込ませてもいい時代だと思うな、俺は。「頭のテッペンから足の親指の先まで血が通ってないと、プロレスというイベントは組み上げられない」って、高田統括本部長がかつて言ってたけど、アンタッチャブルな領域には踏み込ませないで、バリューだけ利用しようとすると中途半端さだけが残って、団体にとってもタレントにとってもファンにとってもメリットがなくなっちゃうよね。

吉田　まぁ、猪木さんの場合は自分よりも坂口一家が目立ってるから怒ってるっていう部分が大きいんでしょうけどね（笑）。

山口　実際、猪木さんは結局、ホーガンの試合は途中で「つまんねえ！」って捨て台詞吐いて帰っちゃったから。



自ら観客を煽り、高山＆真壁を挑発するなど前面に出た名古屋大会と比べて、非常に印象が薄かった憲二。エンセン井上がボディガード役を志願したりして、"何が起こる"状況的雰囲気は確実にあったのだが……

月刊Y²談

吉田　その気持ちはよくわかるなぁ（笑）。ホーガンの試合は要所要所では面白かったけど、無駄に長くて間延びしてるし、10分経過までほとんど動きがないしで、とにかく眠くなりましたからね。

山口　それは日本人の貧乏根性というDNAもあるんじゃない？「せっかく大金払って使うんだから、とことん使ってやれ！」みたいな。スターをゼイタクで優雅な使い方ができない（笑）。

吉田　メインが長くなるのはわかってるんだから、セミでは格闘プロレスとの対比って意味でもコンパクトかつショーアップされたものを見せるべきじゃないですか。今回は日本スタイルとWWEスタイルのホーガンを両方見せようとしたんでしょうけど、試合前の煽り映像でもひたすら猪木さんのアックスボンバー舌出し失神事件のシーンを流してるし。

山口　猪木さんは、それでヘソを曲げたって噂もあるけどね（笑）。「俺をダシに使いやがって！」という。

吉田　アメリカで新しく撮った映像でも「アックスボンバーで決めてやる！」って吠えてましたけど、別にボクらはアックス・ボンバーを見たいわけじゃないし。

山口　昭和の亡霊的なことじゃなくて、ホーガンにはエンターテイメントの真髄を見せてほしいわけでしょ。『日本に真のエンターテイメント・プロレスを根付かせるためにやって来た"神"』というポジションで、噂される『W-0』にでも飛来してたら面白かったと思うんだけどね。極端に言えば、試合をやらずに休憩後の猪木劇場みたいなパフォーマンスをやるだけでも、新たなホーガン神話が生まれたと思うけどなぁ。

吉田　それはそれで、余計に猪木さんは激怒しそうですけどね（笑）。「俺の役割を奪うな！」って。

山口　そういえば、ドーム翌日の成田会見で大爆発したんでしょ、猪木さん（笑）。

吉田　え〜、「俺の名前を安売りして猪木軍vs坂口軍なんてくだらねえことやりやがって」「脳みそ腐ってるんじゃねえか？ブッ殺すぞ、この野郎！」とまで言ってたみたいですね（笑）。

山口　ガハハハハ！　じつは猪木さん以外にもう1人、今回のドームの舞台裏で怒ってた人間がいるんだよ。バケツを蹴り飛ばしながら血相を変えて。

吉田　今回、これといって何をやったわけでもないのに猪木さんから解任するとか言われちゃった藤波社長ですか？

山口　いや、違う。イズことイズマイウですよ（笑）。

吉田　ああ、ヒカルドンのセコンドで目立ちまくってましたねえ（笑）。

山口　「ヒカルドンが負けたのはエコノミークラスで来たからだ。エコノミーで来させたカンパニーのせいだ！」って怒ってたらしい（笑）。

吉田　それ、珍しく筋が通ってるじゃないですか！　ヒカルドンの巨体でエコノミークラスはムチャですよ（笑）。

山口　だけど、ブラジルからヨーロッパ経由で日本に来たからビジネスクラスより金はかかってるらしいんだけどね。

吉田　無駄な金を使いましたねえ。

山口　あとホーガンやサップも投入したでしょ。タレントを呼べばなんとかなると思ってる節があるよね、新日本には。そこで何をやらすかが一番肝心なのに。それでドームが埋まればいいけど、実際には招待客が多かったわけだからさ（笑）。

吉田　ボクも招待券で行ったんですけど、直前に大雨が降ったせいか周りの招待席ゾーンはガラガラでした（笑）。

山口　やっぱり会場の熱でわかるじゃない、招待券が多いかどうかは。

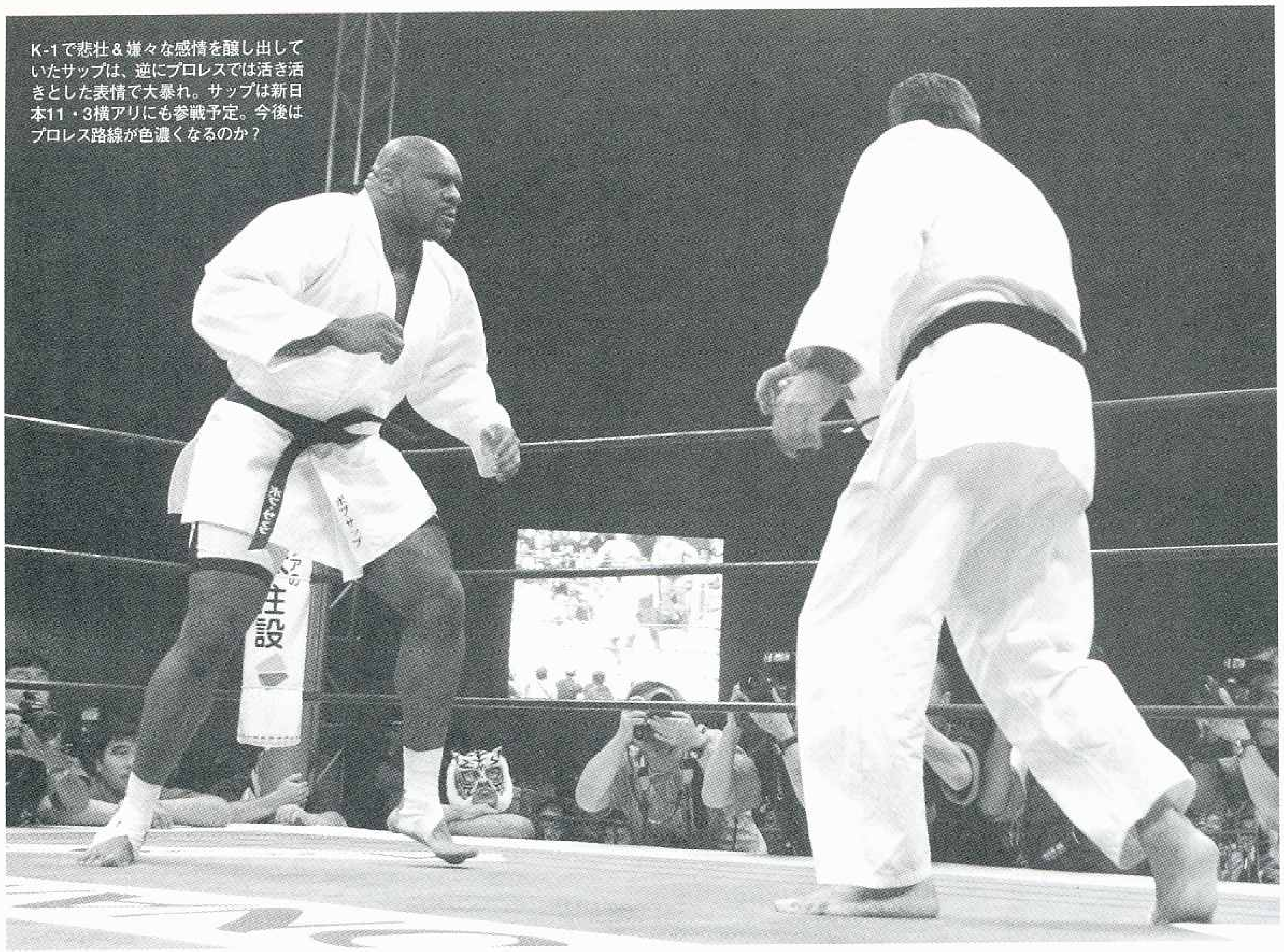
吉田　『武士道』にも招待客が多かったの

はよくわかりましたからね（笑）。

山口　やっぱり熱の高さや深さでバレちゃうもんなあ。逆に言うと、客は少なかったけども、10・6の『U-STYLE』なんかは招待客は一切いなかったから、場としての熱はあるわけよ。

吉田　主催者発表470人だから、招待客なんかいるわけないんですけど（笑）。

山口　ガハハハハ！　どんなに客席を埋めたとしても熱を作り出せなかったら終わりっていうかさ。そこの原点にもう1回立ち返るべきだと思うけどね。



K-1で悲壮＆嫌々な感情を醸し出していたサップは、逆にプロレスでは活き活きとした表情で大暴れ。サップは新日本11・3横アリにも参戦予定。今後はプロレス路線が色濃くなるのか？

K-1のプロレス部門と新日本が絡んでいく展開には「遠心力」も「求心力」も刺激も感じられない［吉田］

吉田　そもそもプロレス向きじゃないドームでプロレスをやるためには、どういう見せ方をしなければいけないのか。そういう基本的なことを考えてくれってことですよね。

山口　演出って言ったら花道と入場ゲートと花火だと思ってるような節もあるからねぇ。

吉田　ただ、これまでボクらがさんざん言ってきた「試合の煽りをケロちゃんのマイクに任せるな！」っていう問題も今回から煽り映像が作られたりで、演出面もそれなりに改善されてきましたよ。西村のいままでのマイクを煽り映像で流したあとで、本人が登場していきなりマイクを持ったりとか。

山口　ああ、西村が安田に向かって「人間やめますか？　ギャンブルやめますか？」って言ったマイクアピールね（笑）。

吉田　いままでは、ああいうのってドームでやれなかったじゃないですか。ただ、今回つくづく思ったのは、乱闘の度にどうしても客席がクールダウンしちゃうんですよね。ただでさえ会場が広くて迫力が伝わらないのに、ゴングをガンガン鳴らすとか「お下がりください！」ってアナウンスしたりして乱闘を観客に伝えようとしないから、いくら暴れてもシーンとしちゃうっていう。

山口　やっぱり東京ドームはプロレス興行に向いてないと思うんだよね。

吉田　でも、ここ数年の新日本のドーム興行の中では久し振りに楽しめましたよ。それが猪木さんを外した成果なのかもしれないですけど。

山口　あ、ホント？　まあ、やる気だけは見えるからね、いまの新日本には。空回り気味ではあるけど。それはかけがえのないものですよ。

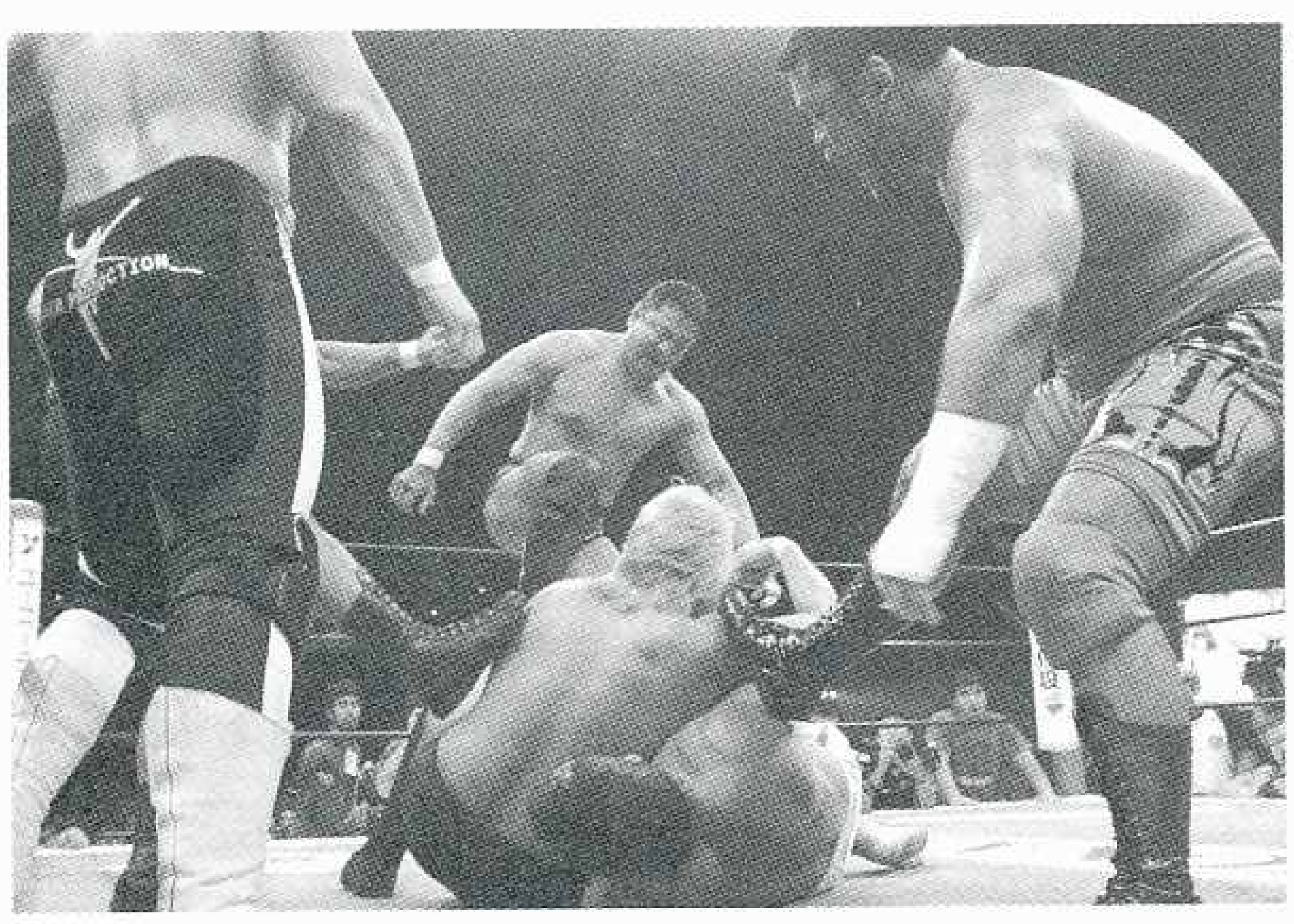
吉田　名勝負はひとつもなかったですけど、興行としては『武士道』や『K-1 GP』に僅差で勝ったかなって。まあ、普段と比べたらかなり低いレベルの闘いなんですけど（笑）。ホーガンの試合とメインのイリミネーションマッチが長過ぎたのが欠点だったぐらいで、いつもみたいに意味のない試合がほとんどなかったのも好印象ですよ。

山口　豪ちゃんの言うように演出や進行もいつものドーム興行よりは悪くなかった。しかしメインはイマイチだったなあ……。ビッグ・サカとボブ・サップが柔道衣対決するまでは面白かったけど、結局、プロレスとして想像を超えるようなシーンは一切なかったからね。

吉田　でも、緊張感だけは珍しくあったから試合自体は悪くなかったですよ。

山口　「アルティメット・プロレスリング」というハードルには近づいてたね。

吉田　棚橋と藤田が必要以上にバックの取り合いをしてたのを筆頭に、誰もが大人数の中に埋もれないように自己アピール



緊張感があったメイン。唐突すぎる決着、試合後のみのるvs天山の「いつでもやってやんぞコラァ！」なマイク合戦などには呆れるしかないのだが、とにかく平均点を越える内容であった

してたから、強弱が見える試合になってたじゃないですか。

山口　ストロング・スタイルを現代風にしたのが「アルティメット・プロレスリング」ってことなんだろうけど、そこにイリミネーション・マッチというゲーム性が加わったからだよね。

吉田　しかし今回のサップは危なっかしかったですよ！　中西とのシングルのときはサップ幻想と勢い、それとコンディションの良さだけで一気に押し通せましたけど、ほとんど練習しなくなったいまのサップはお話にもならないと思いましたね。野獣としての強さよりも、打たれ弱さと不器用さばかりが目立ってたし。

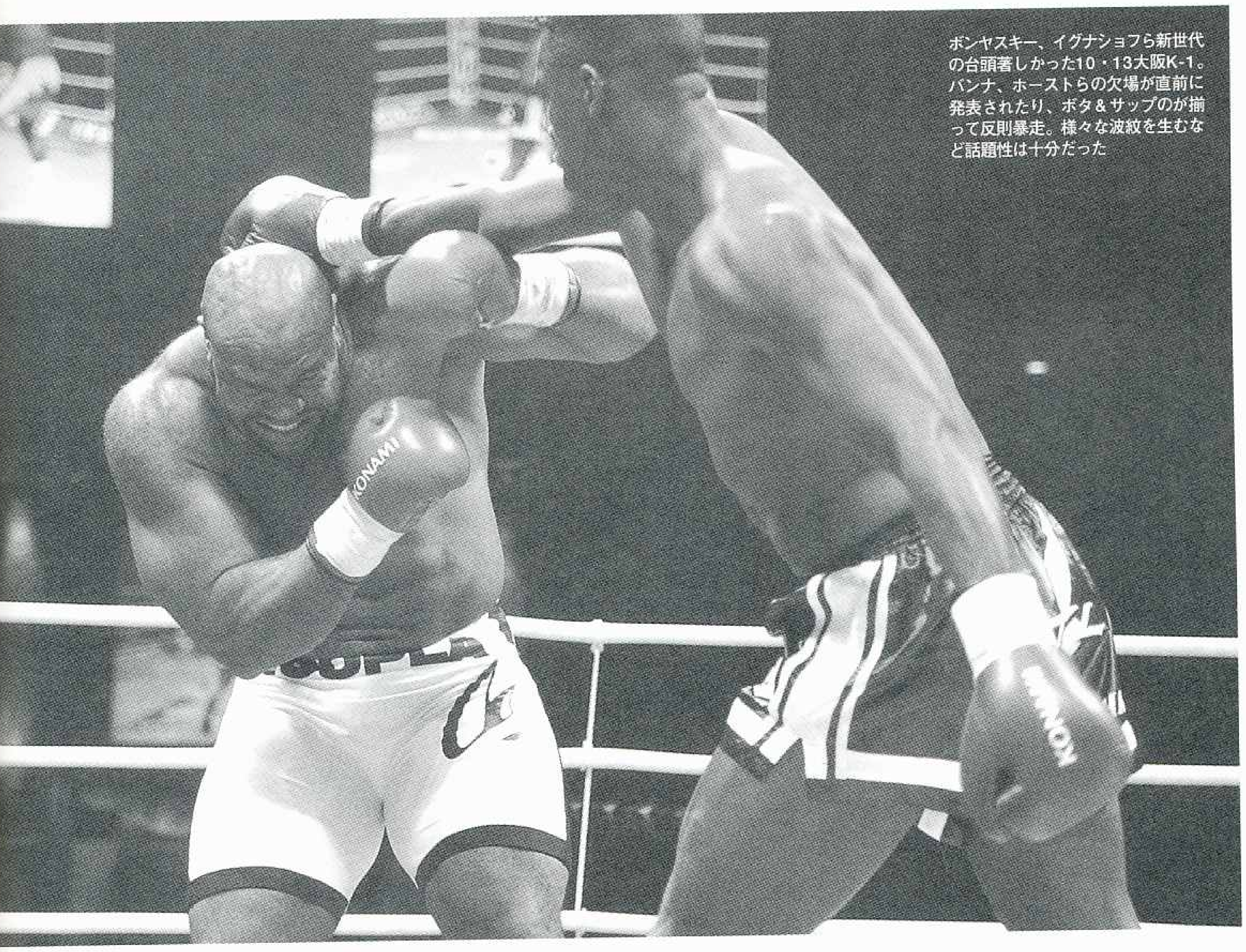
山口　あのままじゃ飽きられるよね。

吉田　今回、天山と高山がエプロンで揉み合ってたらサップに突き落とされて両者失格になるシーンがありましたけど、味方を落としてるのにサップが大喜びしてたりで、アクシデントの匂いがプンプンしたじゃないですか。あと味方が関節極めてるのにカットに入っちゃったりとか、サップ絡みはホント危なっかしいシーンばっかりでしたね（笑）。

山口　あとね、メインのフィニッシュは、近来希にみる盛り上がらなさだったね。

吉田　ケロちゃんに言わせると、「最後、鈴木選手が永田を卍固めで落としてしまったという、意外であっけなかったように見えたかもしれませんが、この卍固め、大変キツイ技で、永田はあとで『何度もタップしようと思った……』と言っておりました。とにかく、こらえるだけこらえていた。ゆえに落ちてしまったのではないかと思います」とのことなんですけどねえ……。

山口　卍固めじゃ落ちないと思うけどなぁ……っていう元も子もないことを言わせるんじゃないよ！（笑）。でも、説得力がなかったのもはなはだしいね。


ボンヤスキー、イグナショフら新世代の台頭著しかった10・13大阪K-1。バンナ、ホーストらの欠場が直前に発表されたり、ボタ＆サップの揃って反則暴走。様々な波紋を生むなど話題性は十分だった

吉田　そもそも坂口軍で唯一生き残った永田がみのるにさんざん追い込まれて、ファンからも永田コールが起きて、そこからどう復活するかがポイントになると普通は思うじゃないですか。

山口　ビックカムバックするのを期待するよね、ふつう。それなのに、あんな唐突すぎるフィニッシュだったから、客席も

月刊Y²談

みんな唖然としてシーンとしてたよ。猪木さんやかつての新日本のお家芸である「ファンをいい意味で裏切る」っていうことを曲解してるとしか思えない。

吉田　永田がサップに負けたらリベンジの機会は当分訪れそうもないから、次にシングルをやることになるみのるとの因縁を作ったのはわかりますけどね。

山口　そもそもサップとみのるが生き残るなんて、パンクラスとK－1に気を使ってんの見え見えでしょ。

吉田　あ、そこまで言いますか（笑）！

山口　たしかにここ数年のドーム大会の中では面白いっていう意見もわかるんだけど、メインの試合を含めて、今回のドームには政治力が見えすぎだよ。

吉田　サップを貸すからには、しっかり接待して下さい。パンクラスから選手を貸し出すから、プロレス部門のみのるはしっかり接待して下さい、って感じですよね（笑）。

山口　大体、なんで渋谷修身vsモンゴル人をドームでやんなきゃいけないの？　そういった政治力みたいなものが垣間見えてしまうことが、その団体なりプロモーションの信用というか、ファンを惹きつける"場力（ばぢから）"を削ぎ落としていくわけじゃん。

吉田　『武士道』のマッチメイクにも政治力が見えた気がするんですけど……。

山口　うん。『武士道』も長い興行だったからねぇ（笑）。確かに出さなきゃいけないっていう匂いがプンプンするマッチメイクは多かった。でも、それはガチンコ興行という点と、次回に期待するっていう意味で多めに見たいんだよ、俺は（笑）。でも、逆にプロレスだからこそ、マッチメイクや勝敗にあまりに気を使いすぎた部分が見えないようにしていかないとダメでしょ。

吉田　その"場力"が落ちてる苦しい状況で、猪木さんが言うところの「内閣総辞職」がかかった横浜大会があるわけですけど。新日本vsK－1って、あのカードで対抗戦のつもりなんですかね？

山口　どういうコンセプトなのかまったく意味不明だよね、あのイベント（笑）。新日本とK－1がお互い足りない部分を補ったり依存したりしながら、プレ『W－1』的な大会になるのかね？

吉田　サム・グレコならまだしも、モンターニャ・シウバとTOAはK－1でも何でもないですよ。TOAなんて中西と一回やっただけだし、ドームではグローブ付けたままスムーズにロープに振って技を出してる、ただのプロレスラーじゃないですか（笑）。横アリではノルキヤとか武蔵の弟のTOMOが普通にK－1の試合をやりますけど、これも渋谷vsモンゴル人級に新日ファンのニーズがあるとは思えないですよね……。

山口　新日本に参戦してる選手や提携してるモンゴル人が対抗戦に出るならわかるけど、シカティックのジムの選手だっけ？（イワン・ルーデン）。その選手がノルキアとK－1ルールで闘うことに何の意味があるの？　過去に因縁がある安田とでもやらせたほうがまだいいよ。そう

いう小手先だけの作り方をしていくとドンドン〝場力〟を失っていくだけだよ。

吉田　重要なのは〝場力〟ですか。

山口　さっきも言ったけど、〝場力〟がないと、どんなタレントを呼んでも、どんなカードを組んでも熱を生まないから。その〝場力〟を作るためには、やっぱり偽善的な意味じゃなくてファンの信頼が必要でしょ。ミルコが『武士道』に出ても会場がパンパンにならないことを見てもわかる通り、タレントを光らすには、そのイベントが醸し出す〝場力〟が必要不可欠だからね。それには時間と労力と知恵がいる。新日に上がるホーガンやサップは見たくないってファンに思われてる根っこの要因はなんなのかを、もっと突き詰めて考えてほしいよね。

吉田　新日本は総合を取り込んでみたりで、いま必死に信頼を取り戻そうともがいてる状態ではありますけど。

山口　でも、角度が違うよね。空回り。K-1にしてもその信頼を失ってるのに「遠心力」ばかり意識してやってるじゃない。たしかに、一般の人に届くような「遠心力」は必要だし、新日本にしてもホーガンを引っ張ってきたり、企業努力はしてる。そこは認められるけど、なにか微妙に噛み合わせが悪い感じはするよね。いまはK-1も新日本も核の部分をしっかり作り直して「求心力」を高めなきゃいけない時期でしょ。

吉田　K-1がプロレス部門を作って、そこに新日本が絡んでいく展開には「遠心力」も「求心力」も刺激も感じられないですよね。新日本は『W-1』をあれだけ批判した以上、ちゃんとした闘いを見せなきゃいけないはずだし。グレコ対棚橋なんかはプロレスとして面白くなりそうですけど。

山口　「アルティメット・クラッシュ」にしてもドームで見てさ、いらないとさえ思ったもん。「アルティメット・クラッシュ」部門はプロレスから独立させたほうがいいとさえ思ったね。

吉田　というか、せめて新日本の所属選手が絡まないとドームで「アルティメット・クラッシュ」の試合を組む意味はないですよ。上井さんの宣言通り天山も総合をやらされるのであれば、やっぱりドームで見たいですけど（笑）。

山口　だけど今回のドームは、パンクラスの試合だもんね、あれじゃ。

吉田　ヒカルドンvsＴＫなんてリングスでやってなかったっけ？　ぐらいの感じだし（笑）。

山口　パンクラス提供試合とリングス提供試合（笑）。それを新日本のドームでやる意味が見えない。で、この空気感ってなにかに似てるなぁと思ったら、わかったよ。バトラーツの末期！　K-1や猪木軍というキーワードも、まさしく重なってるし（笑）。

吉田　ああ、プロレスとガチンコが同居してるのもそうだし、ホーガンにしても『蘇れ！　ゴールデンタイム伝説』そのものですからね。

山口　ホーガンやメインの試合なんかは、試合の中でも当時のパロディーというか、オマージュをやってるし、そういう部分でも重なる。もちろん、バトラーツよりはスケール感はあるんだけど（笑）、結局、素材を活かしきってないということでいえば一緒だよね。ホーガンにしても、今回の試合でかなり食傷気味になったファンは多いんじゃないかな。バツグンの素材なんだから、料理法を変えることを切に願いますね。

吉田　もう一回見たくなる試合ではなかったのに、控室ではジェフ・ジャレットに襲われたホーガンを蝶野が救出する予告編が行われてたみたいだし（笑）。

山口　いまの新日本には、スターを輝かせる〝場力〟に欠けてるんだよね。もちろん、選手本人の力にもかかってるんだけど、俺は高山なんかはプロレスでももっともっと光れると思うんだよね。新日本の〝場力〟が加われればね。サップにしても去年10月の新日本のドームに上がったときは盛り上がったけど、今回はK-1での失態も手伝って、それほど爆発的じゃなかったでしょ。プロレスはスターを見に行くものだから、そのスターをどてくるのは大事だけど、スターを引っ張う継続して光らせていくかっていうほうが肝心だからね。最近の新日本は、K-1との歩み寄りにしてもそうだけど、点だけで、その肝心の線の部分がそっくり抜け落ちちゃってるね。

サップの「ガチンコはやりたくない」って感情がビンビン伝わってきて最高に面白かったです（笑）［吉田］

吉田　でもサップは、K-1のボンヤスキー戦だと「ガチンコはやりたくない」って感情がビンビン伝わってきて最高に面白かったです（笑）。ノゲイラ戦以来のサップの名勝負ですよ！

山口　あれは面白かったね。オレも何回も見ちゃった。

吉田　だって入場するときから涙目だし、いつものビーストポーズを決めても目が泳いでて、リングで向き合っても伏し目がちなんですよね（笑）。ガチンコってなかなか感情見えないものですけど、やる気のないオーラが嫌というほど伝わりましたよ。

山口　ホントにやりたくないんだろうな（笑）。

吉田　いままではサップ幻想みたいのが作られすぎてた部分もあったんですけど、ミルコ戦以降、どんどん崩れ始めて、ようやく人間が見えてきましたよ。ボンヤスキーに顔面を打たれて背を向ける姿とか、どうにか試合を終わらせたくて反則するサップを見て、「野獣の目をしてますね」とか言ってるＴＶ実況も抜群に面白かったし（笑）。

山口　相変わらずイヤミな見方をしてるね、キミは（笑）。

吉田　いや、最近のサップの試合ってヒドかったじゃないですか？　技術を見せるだけの高山戦あたりから崩れていって。今回は反則決着だったけど、良かったと思いますよ。

山口　でも率直に言ってクオリティーとしては低いし、競技として「？」マークが付くっていうのもわかるわけ。あの結末は絶対に叩かれるはずだしね。ただし、サダハルンバが苦し紛れに出したコメントだったとしても、「K-1はスポーツではない。格闘技だ」っていう言葉の意味も、俺にはよくわかるんだよね。

吉田　でも、あの試合は格闘技でもないと思いますよ（笑）。

山口　世界ビックリ人間大集合？（笑）。興行的にもファンはまったく満足してないからね。ボタvsアビディにしても、もっと長く見たかったでしょ、素直に言えば。で、サップvsボンヤスキーだって、あのまんま続行していれば、ボンヤスキーがサップをKOするシーンが見れたかもしれない。

吉田　すでに心は折れてましたからね。

山口　そこで「怪我しそうになったりとか、負けそうになったら、反則でもなんでもしてその場を切り抜けろ」ってサップやボタに指令が出てるんじゃないかって憶測を呼んでしまうところが、いまのK-1にはあるじゃない。

吉田　モンターニャ・シウバの大暴走から、そんなパターンが続いてますからね。

山口　K-1の屋台骨は揺らいでるし、〝場力〟が削げ落ちていってるんだよね。でも、サップvsボンヤスキーにしても、ボタvsアビディにしてもやっぱりこれだけ論議を呼ぶわけだから、面白かったんだよ。ただそれは、デカイ男たちがド突き合うというK-1という競技の原点に



よるところが大きいからね。そこに素直に拡大鏡を付けて見せていけばいいのに、プロデュースするサイドが「仕掛けてナンボ」「スキャンダルを起こしたり、波風立ててナンボ」とか、そういう思いこみだけに収斂されるようだったら、オレはK-1に未来はないと思うね。

吉田 そういえば、いまK-1が危機的状況になってるのはターザンの呪いのせいらしいですよ（笑）。

山口 またターザンか（笑）。念のために聞くけど、何の話？

吉田 いや、ターザンは、「あんまり谷川に対して頭にきたから呪いをかけてやったんだよ。そしたら、K-1がどんどん落ちていったわけ」って言ってたんですよ（笑）。

山口 怖いなあ。俺は恨まれないようにしようっと（笑）。

吉田 ちなみにターザンの怨念は、『SRS・DX』廃刊の打ち上げに出たことで燃え上がったらしいですよ。「なんで俺が負け組にならなきゃいけないんだ！　俺が負けたのは生まれて初めてですよぉぉぉ！」って感じで（笑）。

山口 いや、ターザンはしょっちゅう負けてるよ（笑）。

吉田 本人に言わせると「『プロレス激本』や『プロ☆勝ち』は版元が負けただけ」ってことらしいです。

山口 その責任回避の体質がサダハルンバたちに伝染ってることがわかってないねえ、ターザンは（笑）。

吉田 その打ち上げには編集部以外にカメラマンやら外部の人間も出席してたんですけど、谷川さんは冒頭の挨拶で「皆さんはこれからどうするんですか？　今日は外部の人がいっぱい集まってるんで、今後の仕事の話でもしてください」って言い残して、自分は社長としての仕事があるから開始30分で姿を消しちゃったそうです（笑）。

山口 サダちゃんは、K-1が新しく立ち上げたイベント会社の『FEG』の社長に就任して忙しいからね（笑）。

吉田 ローデス周辺では「ふざけた・エンターテイメント・グループ」って呼ばれてるらしいですけど（笑）。

山口 ガハハハハ！　ホント、いまのK-1は「ふざけたエンターテイメント」って言われても仕方ない部分あるよ。仕掛けもインディーチックだし。

吉田 あと、K-1はもっと基本的な部分でも不誠実になってるじゃないですか。バンナとホーストの欠場のタイミングにしても、前日発表ですからね。

山口 もっと前にわかってるだろ！って話だよね。それは競技がどうこうとか言う以前の問題だよな。

吉田 『格通』なんて表紙にバンナと吉田を並べて「この2人が負けたら終わり」というコピーを付けちゃったのに（笑）。

山口 負ける前に出やしない（笑）。

吉田 「オレは絶対に『武士道』に出る」というコピーでマッハを表紙にした『ゴン格』も可哀想でしたけどね（笑）。

山口 マッハも出なかったもんなぁ（笑）。やっぱり、表紙に「絶対」とか「終わり」とか打っちゃ駄目だね。

吉田 ところで、スタート早々まったくダメだった『武士道』に未来はあるんですか？

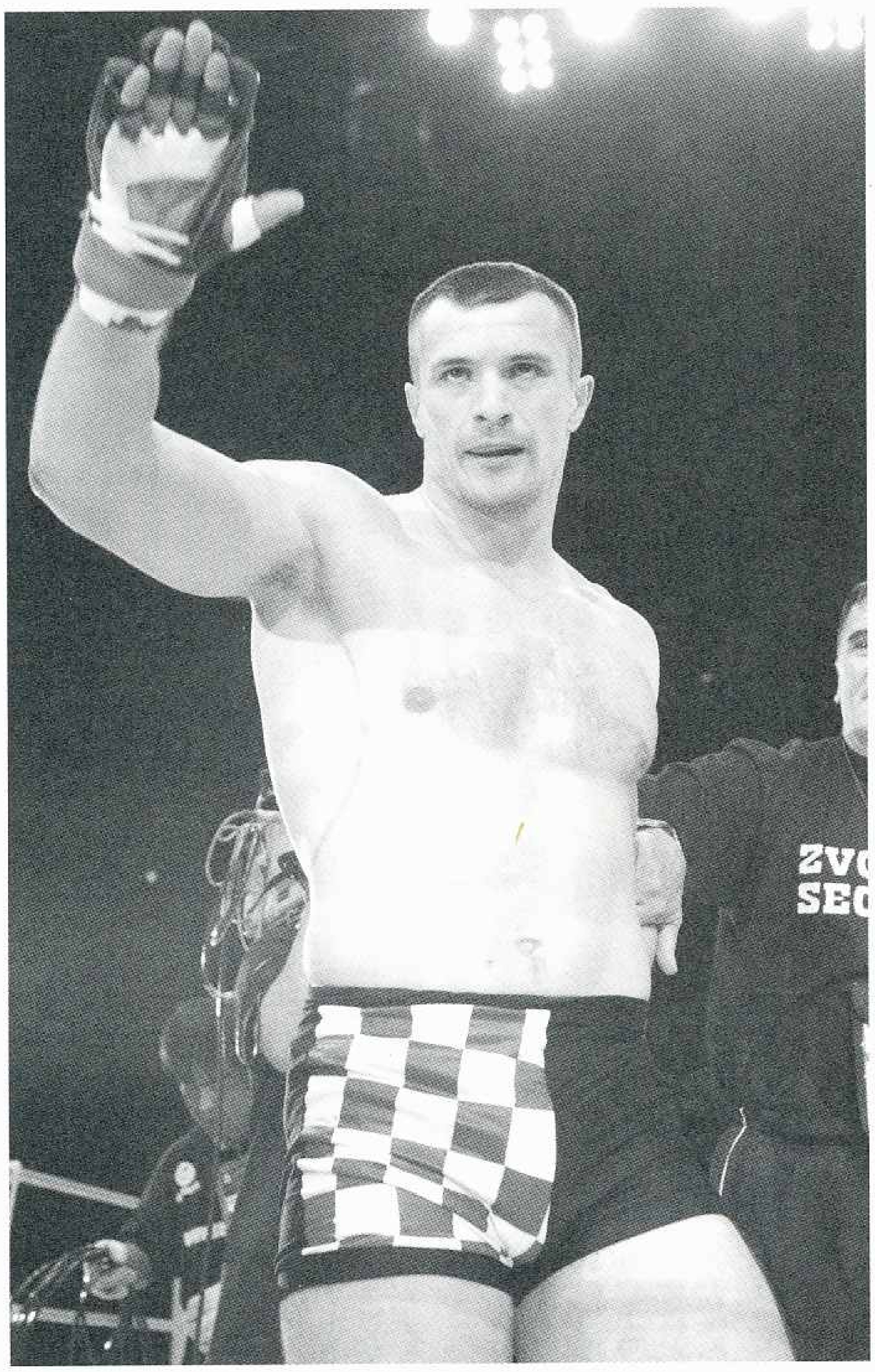
山口 来年3月に2回目を開催するみたいだよ。未来があるかどうかはわからないけど、今回のマイナス点をどう捉えるかだよね。

吉田 会場が沸いたのは、猪木さんの挨拶とミルコの試合だけでしたからね。

山口 あと高田統括本部長ね（笑）。しかし、ミルコは凄い。恐ろしい！

吉田 あんなグダグダな興行を、メインイベンターとしてキッチリ締めちゃいましたからね。

月刊Y²談



本誌には4号続けてインタビューに登場してるのでお読みになればわかると思うが、とにかく揺るぎない自信が言葉の節々に溢れ出ているミルコ。この恐るべき戦闘モチベーション、ハッキリ言ってヤバイ

山口 ミルコvsドスJr.の醸し出したワクワク感っていうのは、関係者も含めた誰もが展開を予想できなかったことだよね。終わってみて「やっぱりな」っていう人は多いけど、どういう試合展開になるかはわからなかったでしょ。そう思ってても大きな声では言えない関係者は多かったはずだよ（笑）。『スカイハイ』で入場してきたドスJr.にもウルッときたし、ドスJr.をまったく寄せ付けなったミルコのプレッシャーのかけ方は尋常じゃなかった。あの46秒間は濃かったよ！

吉田 逆に日本vsグレイシーの対抗戦は、時間が無駄に長いだけでウンザリするほど薄かったですけど。

山口 日本vsグレイシーはすべてが予想通りなんだよね（笑）。

吉田 一発で倒されそうな感じもなければ、一瞬で極めそうな感じもないから試合に緊張感がないしで、最初から判定の匂いがプンプンしすぎて。

山口 技術的に拮抗してるがゆえの膠着だけど、展開が全部読めちゃった。「競技競技」しすぎてるというかさ。

吉田 あと吉田もホイスも監督としてまったく活きてないんですよね。選手を連れて合宿するとか、そういうドラマすら作らなかったし。

山口 吉田とホイスには、借り物の監督っていうイメージがあったのかね？

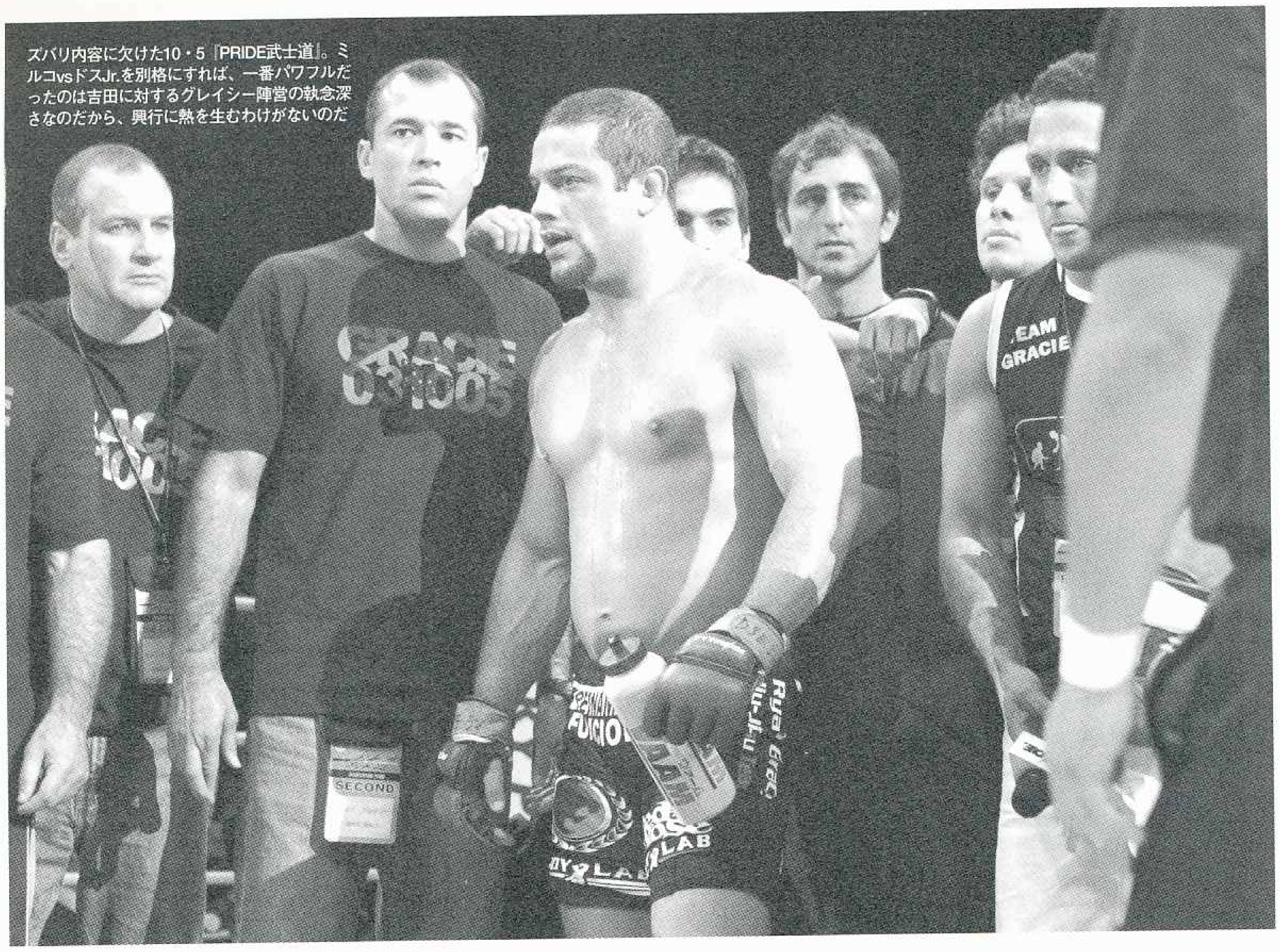
吉田 せっかく監督として使うんだから、2人の背景にあるストーリーを絡ませないとしょうがないですよ。セコンドの吉田が「落ちてる！　落ちてる！」ってレフェリーにアピールしたりとか、ホイスが判定に猛抗議したりとか。

山口 ガハハハハ！　でも、日本vsグレイシーの前の入場式の演出と試合前の映像は面白かったな。「我々が日本人の作った

柔術を守ってきたんじゃないのか！　それなのにこの仕打ち……」とか（笑）。あの映像を見てグレイシー応援したくなったもん。

吉田　そもそも、ヘンゾにいい人の匂いがし過ぎてグレイシーがヒールにならないし、吉田もベビーフェイスになれないタイプじゃないですか。

山口　それに日本軍はまったく団結してないしね。狭いとこでいがみ合ってもてしょうがないんだから、もっと一致団結してほしかったよ。



ズバリ内容に欠けた10・5『PRIDE武士道』。ミルコvsドスJr.を別格にすれば、一番パワフルだったのは吉田に対するグレイシー陣営の執念深さなのだから、興行に熱を生むわけがないのだ

日本vsグレイシーは技術的に拮抗してるがゆえの膠着だけど、「競技競技」しすぎてる［山口］

吉田　グレイシーの場合は選手たちは団結してるけど、ホイスとは団結してそうもないし（笑）。それと『武士道』なんだから、もっと武士っぽい人がほしかったですよ。一番日本人らしかったのはニュートンだったっていう。

山口　外人だけどね（笑）。

吉田　ただ一人、小路は武士道らしい見事な散り際を見せてくれたんですけど、それは国粋主義者だからなんですかね（笑）。

山口　小路の試合から、『PRIDE』らしくなっていったよね。それ以前はセミプロみたいな人たちの試合が多かったから。

吉田　あと、高瀬の入場も問題ですよ！　こっちは大谷（晋二郎）や破壊王といい、プロの〝刀使い〟を散々見てきてるじゃないですか。破壊王なんて、わざわざ東映の役者を引き連れて大根を切ったりの日本刀パフォーマンスをやってるのに。

山口　破壊王はホントに好きだからね、日本刀とか（笑）。たとえギミックであろうと真剣さの奥行きが違う（笑）。高瀬の場合、刀振り回してる意味がわかんなかったから。

吉田　あれなら、日本産アニメ&特撮オタクのホドリゴの方がよっぽど日本を理解してますよ。浜中の氣志團コスプレにしてもそうですけど、もう意味のないコスプレは罰金とかイエローカードとかにすべきだと思いますね。あれは元FMWのツッパリ・マック級ですよ！

山口　浜中は試合も固かったし、ちょっと気負い過ぎたんだろうね。日本vsグレイシーに出た日本勢は、三島☆ド根性ノ助を抜かすとセミプロの匂いがしたでしょ。『武士道』に出る日本人は、そのセミプロ臭さをどうやって抜いていくかが重要なポイントだね。

吉田　三島はいい選手ですけど、どうしてもインディー臭がするんですよね（笑）。

山口　三島vsハウフ、ニュートンvsヘンゾは良かったよ。関節を狙う攻防っていうのはUFCには少ない展開でしょ。UFCは全部倒してパウンドっていう展開が多いから。だから、あの2試合の攻防は『PRIDE』にとってかけがえのない財産だよね。ああいう試合を大事にすることが〝場力〟に繋がる思うな。

吉田　それはわかりますけど、そもそも『武士道』のコンセプトって、高田曰く「桜庭に続くカリスマファイターを発掘しようという意思を強く持ったイベント」なんですよね？

山口　プラス、体重差があったり異種格闘技的なことも含む、〝不平等な闘い〟を含んだ、『PRIDE』本戦では見れないマッチメイク。そして、武士道を体現できるファイターを発掘する、と。

吉田　でも、見事に発掘し損ないましたよね。あの日、堀江ガンツがプレスルームで「ジャパンの選手は賞味期限切れ！」って角田口調で言ってましたよ（笑）。

山口　あの日は出てないけど、日本人で一番驚かせてくれたのはヤマノリだったな（笑）。

吉田　高田道場での道場マッチを制して『武士道』出場権を得て、『紙プロ』で取材を受けて、しかも6ページも割いたのに道場マッチでのケガで欠場ですからね（笑）。ネタとしては完璧でしたけど。

山口　ミルコの相手は「ヤマヨシじゃないか？」とか憶測が流れてたんでしょ？

吉田　アレク説が一番根強かったですね。いきなりドスJr.って発表したらもっと不満の声もあったんでしょうけど、そういう前フリがあったから「それなら、まだいいや」って反応でした（笑）。

山口　まあ、『武士道』は、ミルコvsドスJr.にあったみたいなワクワク感を一方の柱にしていけば面白くなると思うよ。蓋を開けないと何がが起こるかわからない雰囲気いうかさ。実際、DSEの関係者

“場力”がないと、どんな選手を呼んでも、どんなカードを組んでも熱を生まない［山口］

月刊Y^2談

は「ドスがスープレックスでミルコを投げて、ドームにミルコが出れなくななったらどうしよう？」って、舞台裏ではハラハラドキドキしてたからさ（笑）。

吉田 そしたら、ヒョードルがケガで出れなくなっちゃったわけですけど（笑）。

山口 残念だよね。『武士道』のミルコを見て、俄然ヒョードル戦が見たくなっただけにね。でも、ミルコvsノゲイラも俺は楽しみだな。

吉田 どうせなら、ミルコ戦に向けて動き出した永田との再戦でもやって欲しかったですけどね。その日のために最高のコンディションを作ってきたミルコの前に立ちはだかる永田！ ……興奮しないですか？ 永田がエクスプロイダーやバックドロップホールドでミルコを投げて、「ヒョードルとの試合ができなくなったらどうしよう？」とか思いません？

山口 いっさい思いません（笑）。だって、ドスJr.なんて一歩間違えれば死んでてもおかしくなかったと思うよ。

吉田 ハイキックが直撃してたら死んでると思いましたよ、ホント。

山口 だって、ドスJr.は試合終わった直後、真っ先に「……俺の頭はどこだ？」って言ったんだよ。パカッ！と頭の上部が取れちゃったような感覚で、怖くて頭を触れなかったらしいんだよ。

吉田 それほど凄まじい試合だったわけですけど、ターザンは「あんなの、八百長だよぉぉっ！」って炎上してましたよ。会場にも行ってないんですけど（笑）。

山口 なんだ、それ。前に村松友視さんが「ルールこそが最大の八百長である」って定義付けてて、そういう意味では「武士道みたいな不平等のマッチメイクは八百長である」とか言えるのかもしれないけど、ターザンは手当たり次第に八百長呼ばわりしてるだけじゃん。

吉田 ところで今年の『猪木祭り』はどうなるんですか？

山口 まだわからないね。中継するTV局の問題もいろいろ浮上してるしさ。フジテレビも日テレも手を挙げてる状態で、TBSはK-1主導でやろうとしてるし。極端にいえば、たとえば日テレが『猪木祭り』をやったとしたら、他の2局がそれぞれ違う格闘技イベントをやるかもしれない可能性も含んでる。逆にどの局もやらない可能性もある（笑）。

吉田 ダハハハ！ なんだか昔の『ゆく年くる年』みたいですねえ（笑）。

山口 いろんな人や政治的なものが絡んで動いて、すったもんだしてますよ、年末は。『猪木祭り』うんぬんの次元を飛び越えた政治的な糸がこんがらがってる（以下、長すぎる&危険すぎるので略）。

吉田 ……ややこしすぎて、もはやサッパリわからないですね（笑）。

山口 でもまぁ、ガチンコの世界は舞台裏が騒々しいよね。だからというわけじゃないけど、サップも含めて「ガチンコよりもプロレスをやりたい」って言う選手が多いけど、プロレスをナメるなって気になるよ。プロレスは、試合の課程をしっかり伝えることが重要になってくるでしょ。要はプロセスの部分をどう伝えるかということを真剣に考えないとプロレスは浮上しないと思うよ。さっき言った〝場力〟をどうつくりだすかということも含めて真剣に考えないと。

吉田 ……プロセスですか？

山口 いまの時代は、いわゆる長い時間がかかるもの、あるいは面倒臭いものは避けられて、パーン！と結果がわかりやすく出たり、スピード感があるものじゃないと受け入れられない。活字離れって叫ばれて久しいけど、たとえば読書なんかもプロセスを楽しむ趣味やエンターテイメントでしょ。大きな意味で言えばプロレスも、結果じゃなくプロセスを楽しむものっていう括りでいけば、その範疇だと思うんだ。でも、いまはプロセスを楽しむっていうスピード感じゃないんだよね、時代的に。Uスタイルやストロングスタイルは難しい部分があると思うよ。だからこそ、そこで孤独に踏ん張るタムちゃんって、オレは好きだけど。

吉田 孤独というか、友達が少ないタイプというか（笑）。

山口 10・6の『U-STYLE』を見て思ったけど、あれは日本独特の文化のような気がしてきたよ。勝敗よりも動きやプロセスを見るっていう部分では。日本にしか有り得ないでしょ、Uスタイルみたいなものは。

吉田 「闘い」と「プロレス」が同居するってことは考えられないですからね。

山口 Uスタイルはサンプルが少ないから、どういう花を開かすのかわかんないけど、観客は少なくてもタムちゃん抜きの興行であそこまで熱があるっていうのは、期待はしたいよね。プロセスを伝えることが難しい時代に、面倒臭い作業に手を付けた田村潔司はやっぱ孤高の天才ですよ。一部では孤高の天災と言われてるけど（笑）。

吉田 ただでさえわかりづらいのに、田村は説明しようともしないですよね。

山口 俺はあの日、『U-STYLE』の休憩時間にタムちゃんと佐伯さんのトークショーをやったんだけど、なんの打ち合わせもないんだからね、ホントに。

吉田 打ち合わせ厳禁でアドリブ重視。そこも田村イズムですねえ。

山口 行ったら「あとは流れで。よろしく」だって（笑）。

吉田 時間も決まってないんですか？

山口 何分やるかも決まってない。しかも田村が入場テーマ曲で入って来るかどうかも直前に決まったからね。吉田戦の『PRIDE』でみんながズッコケた新しいテーマにするのか、古いのにするのかでもまた揉めたりしてさ（笑）。

吉田 最初から最後まで田村ですねえ。

山口 Uスタイルを象徴してるでしょ？ 緊張感あるよ、Uの人と付き合うのは（笑）。で、旧テーマ曲で入ってきた田村に「『PRIDE』でこの曲聴きたかったな」って言ったら、それだけで「帰る！」って言い出すしさ（笑）。トークショーやってUスタイルの真髄を垣間見た気がしましたよ。

吉田 なんか、往年の井上順のコントみたいだなあ（笑）。田村はトークショーの前にも瞑想したりするんですか？

山口 それはないけど、直前になってスタッフが「田村がいない」って探しまわってはいたね（笑）。

吉田 締切間際になって「山口日昇がいない」って毎回大騒ぎになる『紙プロ』と似てますよね（笑）。

山口 いえ、それだけは断固として否定します！

吉田 だから、今度の『Y2談』のとき会長がいなかったら、谷津嘉章にでも登場してもらおうかと考えてたんですけど。

山口 へ？ それ、頭文字がYなだけに？

吉田 実は、谷津がWJの内部告発をして離脱したとき、「これから出版社で営業をやる」って言ってたんですよね。そのせいで『紙プロ』入社説も噂に上がってたんですけど（笑）。

山口 ガハハハハ！ どっから出るんだよ、そんな噂（笑）。

吉田 念のためチョロが本人に電話で確認したら「月10万円で最高顧問」はやるって答えてたそうです（笑）。

山口 じゃあ営業行くときには、片手を前に突きだした谷津ポーズは絶対にやってもらおう（笑）。

吉田 そしてタオル投入、と（笑）。

【10月某日／編集部にて収録】

書評は平和ではない　書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである（ネール元インド首相の娘への手紙）

吉田文豪人生劇場 PART 2
書評の星座

今回は周囲から船木の新作『真実』の書評をやってくれとさんざん言われていたんだが、それ以上に衝撃的な本を発見してしまったので急遽予定変更。おそらく読者のニーズはまったくないと思われる、尾崎魔弓本を紹介してみたいと思う。船木本の書評は次号で……と言いたいところだが、もうすぐ出るらしい高田延彦本がまた船木本以上に衝撃的らしいから、どうせならそっちを紹介したいし……。とりあえず、読者の皆様からリクエスト募集中の書評コーナー。

e-mail:go@kamipro.com

10 『悪玉　憎まれる生き方』

（尾崎魔弓／出版文化社／1500円）

年ぶりぐらいに、いい意味でも悪い意味でも異常にウサン臭くていかがわしい理想的なプロレス本が登場。冷静に考えれば、短髪になってとても褒められないビジュアルになった尾崎が女王様のコスプレ姿で色気らしきものを振りまいているセクシー・グラビアだけでも十分に異常といえば異常なんだが、問題はそんなことではない。

著者が尾崎名義で構成担当者のクレジットも存在しないのに、なぜか一人称としてやけに他人行儀な**「尾崎魔弓」**を連発する、そのあからさまなゴーストライター仕事ぶりが明らかに異常なのだ！

果たして、本当にこの本を書いたのは何者なのか？　尾崎ではないことは確実なので、それを書評という形を借りつつ勝手に推測してみようかと思う。

まず、**「私、尾崎魔弓は女性のプロレスラー、それも一番憎まれている美人悪玉」**だの**「小柄で美貌の悪玉の私」**だのと、しつこいぐらい自分の美貌をアピールしているのも不自然極まりないだろう。自分でこんなこと書いてたら、完全に異常者だよ。

「私は美人だ。自分ではそう思っている。デビュー間もない頃、『週刊文春』はグラビアに私の写真を載せ、『小林麻美似の美貌』と書いた。小林麻美はとっくに引退したけど、確かに私に似た美人だった」

しかし、ボクに言わせれば尾崎は小林麻美ではなく、むしろ長南亮似。小林麻美との共通点といえばせいぜい顔が長いことぐらいじゃないかと思うんだが、そんなことは気にせずキューティー鈴木とレズ写真集を出してからのことについても、尾崎は自ら（かどうかは知らないが）こう語っていくのである。

「二人で『赤い糸』という写真集を出したし、イメージ・ビデオも作った。テレビにも出たし、ビデオ映画も作った。ありがたかったのは、それによって尾崎魔弓の『美貌』も知られるようになり、単独の写真集やビデオがいくつも出た。尾崎が主演したビデオ映画の『ヒール・ストリート』や歌のCD『マスカレード』は結構売れた」

見えてはいけないものが見えたとかで回収騒ぎになった『赤い糸』が現在高値で売られているのはマニアの間でも有名な話ではあるんだが、他の商品が売れたとの話は残念ながらボクは聞いたこともない。

それでも本人曰く「売れた」そうなので、尾崎は雑誌『週刊小説』の編集者に後楽園ホールで突然原稿依頼されるという、誰がどう考えてもアングル臭い出来事にも巻き込まれていくのであった。

「尾崎魔弓は自分に難しい条件を課した。全文、自分で原稿用紙を手書きで埋める、というものだ。タレントやスポーツ選手で本を出す者は多いが、全文自分で書くのは少ない。出版社の方でも内容や文章の出来を心配して口述筆記者などを付ける。だが尾崎は、『下手でもいい、笑われてもいい、遅くなって迷惑をかけても構わない。全文を自分で原稿用紙に手書きする』と決めた。悪役は、他人にも自分にも厳しくなければならない」

なんと今回の本のみならず当時から99・9%ゴーストライターを使っておいて、この言い草！　さすがにこれは自分に甘すぎだとは思うが、なんとなく悪役らしい気もするから一切問題なしだ！

「できあがった小説『悪役（ザ・ヒール）』（実業之日本社刊）は傑作だった。著者の尾崎がそう思うだけではない。何とこの年の『読書普及会』の推せん図書に入ったのだ。女子プロレスラーの著書で、そんな栄誉を受けた本は、ほかにないだろう」

ちなみに、この「読書普及会」なる組織。ネットで検索してもまったく引っかからないのでこれまた謎だらけなんだが、とにかく13年前のこの本と今回の本はテイストが非常に似通っているのであった。それは、どちらも尾崎が書いているのではなく、どちらも同じゴーストが書いているという意味なんだが。

「『私も作家になれるかも。悪役のエッセイストも面白いかなあ』。尾崎はそんな期待を持った。実はそれも只の夢ではなかった。次に書いた『ヒールのテキスト』（角川書店刊）は、劇画作家の篠原とおるさんの目に止まり、何と夕刊フジに長期連載された。（略）もし、世の中が順調で本業のプロレスが栄えていたなら、尾崎魔弓は一端の作家になっていたかもしれない」

そんなことがあり得るわけもないことは、劇画版『ヒールのテキスト』では尾崎が原作者としてクレジットされていたのに、小説版だと「ヒール・スピリッツ」なる謎のグループが原作者としてクレジットされていたことからもわかるはずだろう。もちろん、言うまでもなくこれもゴースト仕事だよ！

さらに、今回の本では高校中退のはずの尾崎が**「政治家も役人も、経営者も芸能人も——周囲に憎まれることを怖がってる。みんな間違っている。憎まれることなど、怖くはない。周囲の人々に憎まれてるとすれば、周囲に関心を持たれてるということ、つまり存在が認められている。私を憎む奴は、私のファンなのだ」**と、なぜか政治や経営絡みのやけに頭の良さそうな比喩ばかりを連発！

「事業を成功させるには厳しく命令し指導する憎まれ役が必要だ。職場を引き締めるのには『仕事の鬼』が欠かせない」

「二番手、三番手の企業が伸びるには、トップ企業の真似をしていてはいけない。日産自動車のゴーンさんもそういっている。三流のJWPは、色々新しい試みをした」

なんで尾崎がカルロス・ゴーンの経営戦略まで知ってるのかとさすがに思うが、そこにもきっと何らかの謎が隠されているはずなのだ。

そこで、ちょっとこのゴーストライターに関するデータを整理してみるとしよう。

尾崎のことを誰よりも美人だと思っていて、文筆関係の仕事もしていて、それでいて政治や経済に詳しい人……と言ったら、もはや元経済企画庁長官だったあの人しかいないじゃん！　絶対そうだよ！

いや、この程度ではまだ確証は持てないので実名を出すのは止めておこう。

とにかく、こうして芸能活動や文筆業でも順調にブレイクを果たしたらしい尾崎は**「北関東の食品会社」**からCMの出演依頼が舞い込むまでになるんだが、そんなときに父親が急死。**「翌日のコマーシャル撮影はキャンセルせざるを得ず、『かつてない大金』も沙汰止み」**（そもそも尾崎が**「沙汰止み」**なんてフレーズを知ってるのか？）になったかと思えば、そこで運命が好転することになる。

「尾崎にまたコマーシャル出演の話が来た。今度は名古屋のコンピューターメーカー、ダイコク電機だった」

ターザンと尾崎によるラジオ番組の提供でお馴染みの会社を、「親切なスポンサーのダイコク電機」なんて表現で紹介していく尾崎、そこに何らかの意味があると考えるのはボクだけだろうか？

「『プロレスの科学と美学』というDVDにも主役として出演した。天井からリングサイドまで何十台ものカメラを並べて、全方位で撮影した凄い映像だ。男子編と女子編があるから、プロレス好きの人にはお薦め品だ」

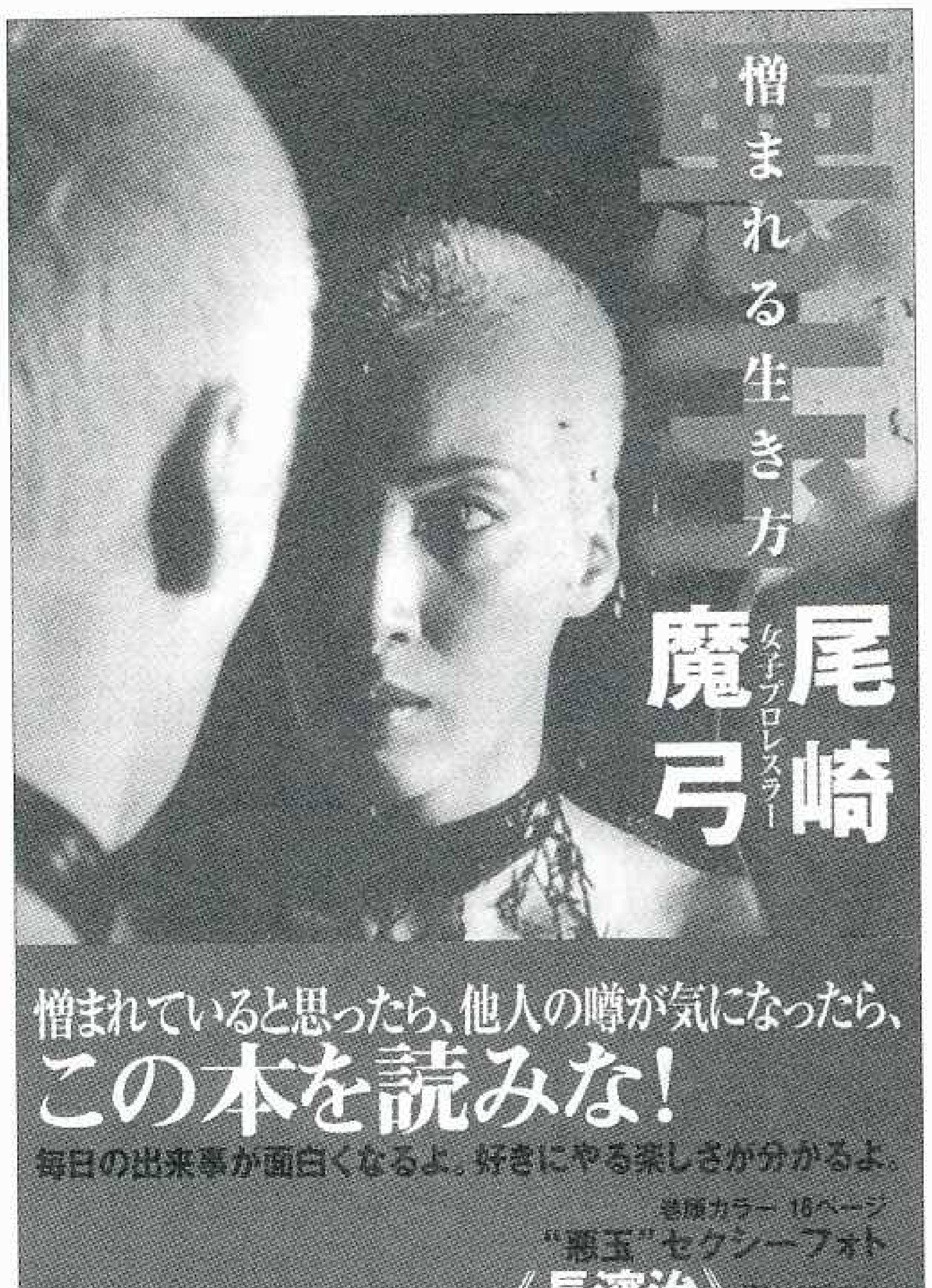
このDVDの話も何度か登場するんだが、過去にボクはダイコク電機の仕事とDVD（女子編には尾崎絡みの2試合だけを収録）の仕事を引っ張ってきたのは、とある大物だという噂を聞いたことがある。そして、ようやくここで点と点とが繋がったのだ！

「DVD『プロレスの科学と美学』の製作で知り合った東芝系のプロダクションが、尾崎の『文才』を見込んで、インターネット・ノベルの原作と出演を頼んできた」

そんな流れで執筆した『さすらいの女狼——オズ・マッキーが行く』なるプロレス小説のあらすじを紹介した後で、尾崎は**「どうだね、なかなかの創造力だろう。扶桑社から出版した『情報楽市』という本にはCDが付録で付いているから、機会があれば見て欲しい」**と力強く言い放つ。そこでちょっと調べてみたら、この本は元経済企画庁長官・堺屋太一氏の共著だったのである！

考えてみたら、今回の尾崎本の版元も堺屋氏の本なんかを出しているビジネス系の出版社だったりするので、答えは明白！　100%そうかもね！

そういうわけで、**「今は『サムライ』チャンネルで冴えない解説をしている山本（雅俊）」**とキツいことを言っているのもきっと尾崎ではないはずなので、どうか許してあげていただきたいのであった。



本誌 Back Number



no.08 '94.01

特集 さらば新日本プロレス

仁義なきワイド座談会「さらば新日本プロレス」／仰天企画・恐山旅行のついでにマスカラス＆天龍を見る／サスケが『紙プロ』初登場！ 20ページにも及ぶ大特集！

700yen⇒350yen 50%OFF



no.16 '96.06

特集 新日本凸凹大学校

『紙プロ』的・昭和新日本プロレス大検証！ マサ斉藤・キラーカン・田中リングアナ・破壊王・後藤達俊／ビックリ！ 糸井重里vsサダハルンバ谷川の対談が実現！

780yen⇒390yen 50%OFF



'00.04

情念～夢一途なり～石川雄規

『紙プロ』で2年半続いたバトラーツ社長石川雄規のドラマチックな連載エッセイに大幅加筆＋書き下ろし！ 情念とは何かがわかる一冊である。

2100yen（送料込み）



no.13 '95.03

特集 道場破りとは何か?

安生洋二が道場破りでヒクソンに返り討ち！ 山本小鉄＆上田馬之助道場破りとは何か？インタビュー／『平成ファミコン・プロレス』馳浩・スペル・デルフィン・斉藤文彦

780yen⇒390yen 50%OFF



no.17 '95.07

特集 実況パワフル北朝鮮

あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！ アントニオ猪木＆永島勝司・村松維視・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある！「藤原組の逆襲」

780yen⇒390yen 50%OFF



極真魂溢れる16人を直撃！ 完売間近

極真とは何か？

松井章圭／磯部清次／N・ペタス／大山茂／大沢昇／ウイリー／フィリオ／村上竜司／中村誠／廬山初雄／佐藤勝昭／黒澤浩樹／竹山晴友／谷川貞治／山田英司／夢枕獏

1530yen⇒800yen 50%OFF



no.14 '95.04

特集 神秘とは何か?

佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー

780yen⇒390yen 50%OFF



no.19 '95.09

特集 さようなら紙のプロレス

『紙プロ』を偲んで… ターザン山本・ユセフトルコ・上田馬之助・糸井重里・サスケ＆高野拳磁／石井館長、ターザン、サダハルンバ、平仲信明たちの「負けず嫌い」座談会

780yen⇒390yen 50%OFF



総238ページ

みんなで遊べる付録付き!! '01.04

さくぼん

サクのすべてがよくわかる桜庭和志発のインタビュー集！ 花くま先生の「サクラバの汁」、特製シールやサクマシン立体紙お面など付録がこれでもか！ とばかりに付いています！

1500yen（送料込み）



no.15 '95.05

特集 インディペンデントの逆襲

あんた誰？ 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／Kーとは何か？ 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのK－1三兄弟（当時）インタビュー

780yen⇒390yen 50%OFF



パンクラス公式読本 完売間近

『矛』・『盾』

97年当時のパンクラシストが勢揃い!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!! ターザンも炎上してますよぉぉ!!

各1260yen⇒630yen 50%OFF



インタビューという名の鉄拳史 完売間近

紙の前田日明

『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で展開された前田日明怒濤のエネルギー史！ 引退直前時のインタビューも特別収録だ。今こそ前田日明を振りかえれ！

2000yen（税金・送料込み）

---

no.51 表紙 橋本真也 '02.06 / 880yen

ZERO-ONEに願いを!
- ●両国国技館だよ、全員集合！ 橋本真也
- ●『PRIDE』の魅力をマン開！ 小池栄子
- ●天才が悩みに答える！ 武藤敬司人生相談
- ●新・超獣 ザ・プレデター

no.52 表紙 小川直也 '02.07 / 880yen

見えない鎖を引きちぎれ！ 小川直也リング外での暗闘!!
- ●全身プロレスラー・高山善廣
- ●USAの渡世人ドン・フライ
- ●『PRIDE』侵攻開始!! ロシアン・トップチーム
- ●戦慄の『LEGEND』前夜!

no.53 表紙 桜庭和志 '02.08 / 880yen

世紀のビックイベント『Dynamite!』直前大解剖!!
- ●ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久
- ●独占肉弾スクープ! マット・ガファリ
- ●爆裂! 川村社長ガチンコ語録!
- ●偽造王の知られざる半生! 一宮章一

no.54 表紙 ノゲイラ '02.08 / 880yen

不平等の時代を克服した英雄ノゲイラ!!
- ●"首の皮一枚" ホイス＆エリオグレイシー
- ●"青い目のケンシロウ" ジョシュ・バーネット
- ●純プロ頂上対談！ 武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン

no.55 表紙 高田延彦×田村潔司 '02.09 / 880yen 完売間近

高田×田村!! 夢幻大の真剣勝負が実現!!
- ●「真剣勝負」発言から7年!! 田村潔司
- ●メガトン級の強さと面白さ!! ボブ・サップ
- ●靖国神社で興行開催!! 佐山聡
- ●コピィロフおじさん、『PRIDE』デビュー!!

no.56 表紙 Uインター '02.10 / 880yen

愛すべき若気の至り!! 受け継げ、Uインターの蒼き魂!!
- ●田村戦直前!! 高田の覚悟を読み解け！ 高田延彦
- ●蘇れ！Uインター伝説!! 安生＆金原＆高山
- ●高田×田村、観る側の覚悟!! 浅草キッド

no.57 表紙 高山善廣 '02.11 / 880yen

一瞬の11・24!! 高田延彦引退試合を大総括!!
- ●サップと地峡規模のタイマン勝負!! 高山善廣
- ●新たなる"U"が始動!! 田村潔司
- ●悪魔の書、再び！ ミスター高橋×大槻ケンヂ
- ●"北尾戦・セメントマッチの真実" ジョン・テンタ

no.58 表紙 武藤＆船木 '03.01 / 880yen

新春特大号!!「明日、また生きるぞ!」な対談の大連発!!
- ●夢幻のファンタジー対談 武藤敬司×船木誠勝
- ●Uスタイル対談 田村潔司×高阪剛
- ●Uインター座談会 宮戸×安生×鈴木健
- ●カルガリー師弟対談 ハシフ・カーン×ミスター・ヒト

no.59 表紙 ヒョードル '03.02 / 880yen

吹けよ！ 呼べよ嵐!! マット界新風景が見えてきた!!
- ●いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル
- ●アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス
- ●爆発!! WJマグマ語録
- ●吉田道場の秘密兵器 中村和裕

no.60 表紙 ヒョードル '03.03 / 880yen

英雄、変貌好む!!『PRIDE』RE・BORN!!
- ●ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル
- ●驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気
- ●あのマーシーがすべてを告白!! 田代まさし
- ●全日本中継の真実!! 倉持隆夫

no.61 表紙 OH砲 '03.04 / 880yen

5・2仁義ある闘い!! やっちゃうぞバカヤロー!!
- ●裏番組をブッ飛ばせ！ 橋本真也×小川直也
- ●1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン
- ●プロレス・格闘技クロスオーバー対談 エンセン井上×金原弘光
- ●リングス・リトアニア特集

no.62 表紙 ミルコ '03.05 / 880yen

誰でもいいからミルコのクビをカッ斬ってみろ!!
- ●ヴァーと笑顔で初登場!! 佐々木健介
- ●現役復帰間近!? 船木誠勝
- ●ホントに大爆発!! 橋本真也
- ●新日本バードを徹底検証!!

no.63 表紙 OH砲（イラスト） '03.06 / 880yen

吉田秀彦が大英断！ ミドル級GP出陣!
- ●「お前は男だ」劇場炸裂！ 高田延彦
- ●『PRIDE』REBORNを大総括!!
- ●憂国の虎 THEマスク・オブ・タイガー
- ●芸能界一の川田番 ダチョウ倶楽部

no.64 表紙 桜庭＆田村 '03.07 / 900yen

灼熱の『PRIDEミドル級GP』直前号!!
- ●"異次元格闘技戦戦" 田村潔司×吉田秀彦を大展望!!
- ●『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー
- ●ミスター高橋の盟友が放つ"猪木の裏側"
- ●スマックガール・ビキニ特写!!

no.65 表紙 ミルコ '03.08 / 880yen

ヒョードル×ミルコ、闘争本能世界一決定戦!!
- ●"最後の皇帝"燃え上がる! エメリヤーエンコ・ヒョードル
- ●"反逆の妖刀"、遂に皇帝へ!! ミルコ
- ●吉田秀彦戦の"謎"に迫る! 田村潔司
- ●闘魂ストーカーを捕獲! イズマイウ

no.66 表紙 ミルコ '03.09 / 880yen

ミルコ、『武士道』電撃出陣! もはや誰にも止められない!!
- ●緊急独占インタビュー! ミルコ
- ●マッハの野望を砕いた"赤い暗殺者"登場!! 長南亮
- ●"天才空手少年"VT秒殺デビュー!! 中嶋勝彦
- ●『東スポ』とは何か? 柴田惣一

通販申し込み方法

▼バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません。

★電話注文 03-3403-5142
★郵便振替
00130-3-769154
(株)ダブルクロス
★現金書留 〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷
3-11-3-702
(株)ダブルクロス

▼郵便振替の場合は用紙の通信欄に希望号数を明記し、現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封して下さい。
※本誌なのかRADICALなのかを必ず明記して下さい。

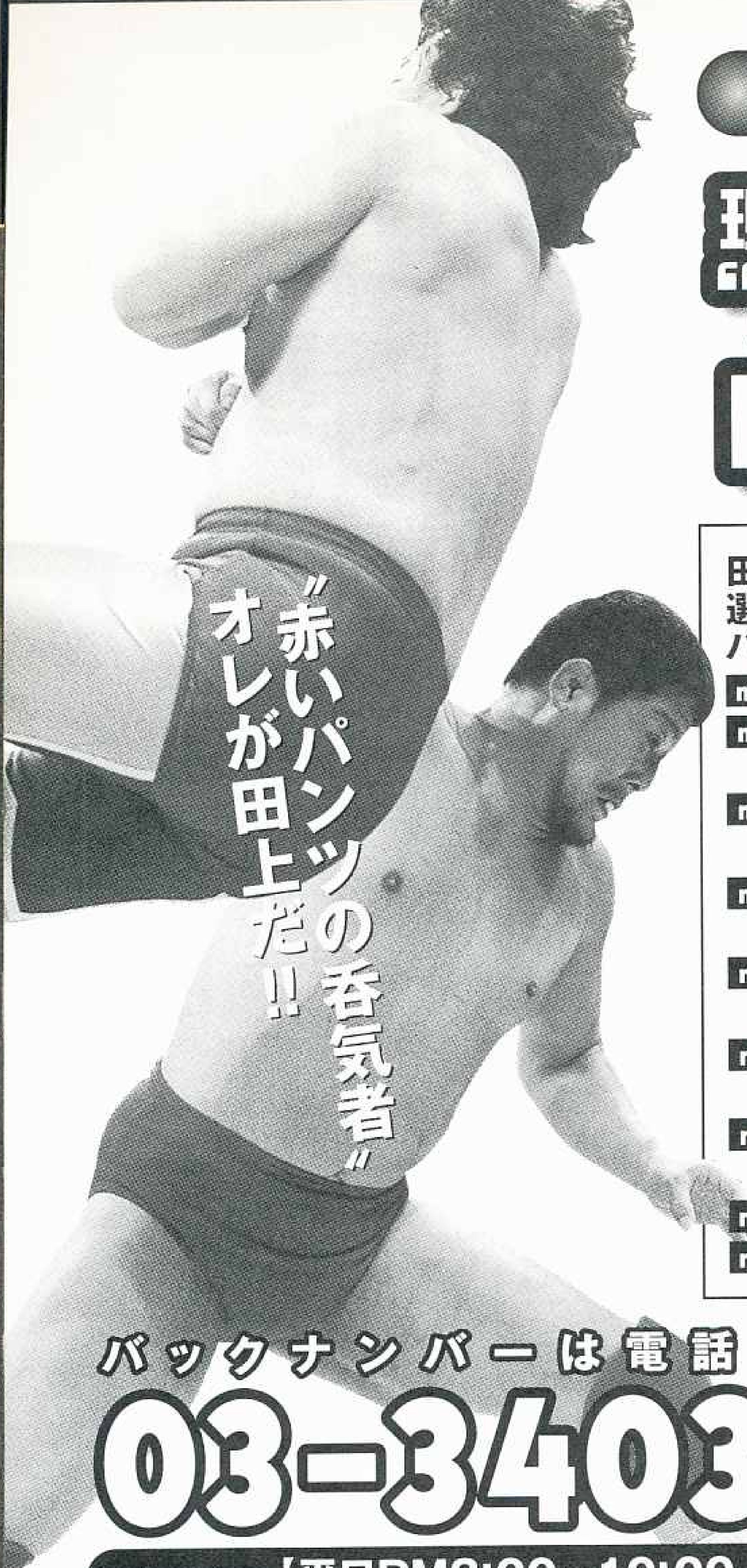
▼送料 1冊＝310円、2冊＝380円、3冊〜4冊＝450円 5冊＝520円、6冊以上＝700円

※代引きについてはP160を参照してください。

紙のプロレスRadical常備店

- ■アイドール新宿店
- ■新宿ファイター
- ■大山アメリカン
- ■プロレスマニア館
- ■チャンピオン ■リングスパレス
- ■バディスラム ■タコシェ
- ■レッスル渋谷
- ■レッスル池袋
- ■書泉ブックマート
- ■書泉ブックタワー
- ■書泉グランデ
- ■グレートアントニオ
- ■東京イサミ
- ■ワールドスポーツプラザ KINGS 渋谷WEST／池袋／新宿 大阪／名古屋／札幌／福岡

現在の『紙プロ』では一切情報が入らない(笑)
“純プロレス最後の砦” NOAH勢インタビュー!!
プロレス再生の道がここにある!?



田上選手、及びNOAH所属選手のインタビューはこちらのバックナンバー!!

- **no.29** 旗揚げ直前! 三沢光晴&秋山準
- **no.31** 新日クーデター事件の真相を激白! 永源遙
- **no.32** “和製カレリン”本田多聞、“闘将”ラッシャー木村
- **no.35** 純プロレス生き字引登場! ジョー樋口
- **no.36** “純プロレス復興の鍵を握る男” 三沢光晴
- **no.38** “天才”丸藤正道インタビュー&ピンナップ
- **no.39** 田上明登場!「新日で闘いたい相手は・・・!?」
- **no.40** 旗揚げ1周年! 三沢光晴
- **no.41** 毒舌炸裂! 秋山準語録集

バックナンバーは電話で注文できます!!
03-3403-5142
【平日PM3:00~10:00 (株)ダブルクロス】

no.05 表紙 高田延彦 '97.08/680yen
すべてはここから始まった!! 高田、ヒクソン戦へ……
- ●ドン荒川vs藤原喜明“昭和新日対談”
- ●前田日明の大好評人生相談『人生は語らず』
- ●世界格闘技連盟とは何か!? 佐山聡
- ●長与千種&ライオネス飛鳥

no.15 表紙 小川直也 '99.02/780yen
リアル・アルティメット・クラッシュ!! 小川vs橋本“1・4事変”勃発!!
- ●あの“1・4事変”を徹底大検証!!
- ●“前田日明・最後の相手” アレキサンダー・カレリン
- ●引退記念雑談会「語ろうマサ・サイトー!」
- ●『S多重アリバイ』/佐野雄飛・編

no.16 表紙 エンセン井上 '99.03/780yen
格闘ノストラダムス!! エンセン表紙初奪取号!!
- ●環境問題を『紙プロ』で語る!! アントニオ猪木
- ●完全無欠の怪物!! 語ろうジャンボ鶴田
- ●相撲多重アリバイ 石川孝志
- ●マーク・コールマン

no.24 表紙 アレク '00.02/840yen 完売間近
ノゲイラ、ダンヘン、田村、コピィロフが登場!!
- ●リングスロシア幻想を掘り起こせ!!
- ●『紙プロ』的視点から送る「語ろう船木vsヒクソン!」
- ●驚ガクのUFO対談/サスケ×矢追純一
- ●ターザンが有刺鉄線デスマッチを敢行!?

no.29 表紙 秋山準 '00.07/840yen
「格闘環境」は刻一刻と変化する! ノア勢フルメンバーで登場!!
- ●三沢、秋山『紙プロ』初登場!!
- ●プロレススーパースター列伝・仲野信市
- ●本誌独占 ジャンボ鶴田夫人 真実を語る!!
- ●TKおかん

no.31 表紙 アントン総帥 '00.09/840yen 完売間近
真のストロングスタイルは『PRIDE』にあり!!
- ●桜庭和志×高阪剛 レフェリーは浅草キッドだ!!
- ●ボヤキ漫談 川田利明語録
- ●プロレスという物語について ダン・スバーン
- ●プロレススーパースター列伝 永源遥

no.32 表紙 小川直也 '00.10/840yen
針はどちらに向くのか!? 新プロレスvs純プロレス開戦!
- ●田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ
- ●ドラゴンの大爆笑2000 藤波語録
- ●プロレススーパースター列伝 ラッシャー木村
- ●“和製カレリン”本田多聞

no.34 表紙 小川直也 '01.01/880yen
『猪木祭り』開幕ーッ!! プロレスは「闘い」を忘れたときに老いていく!
- ●UFCミドル級王者 ティト・オーティズ
- ●プロレススーパースター列伝 ミスターヒト
- ●修斗から『猪木祭り』へ! 宇野薫
- ●ボブチャンチン&オバチャンチン

no.35 表紙 サクマシン(イラスト) '01.02/840yen
「純プロレス」を考え倒せ! 500人アンケートも実施! 徹底検証号
- ●ZERO-ONE本格始動 橋本真也
- ●プロレススーパースター列伝 ジョー樋口
- ●“ノアの怪物”杉浦貴
- ●UFCの巨人 ランディ・クゥートアー

no.36 表紙 橋本真也(イラスト) '01.02/840yen 完売間近
新生「闘いのワンダーランド」に闘魂の火種!!
- ●ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!
- ●ヴォルク・ハン—ノゲイラに狼の伝言
- ●W☆ING 史上最凶の歴史を紐解く
- ●吉田豪に“ドラゴンの呪い”が襲う!!

no.37 表紙 小川直也(イラスト) '01.04/840yen 完売間近
小川と三沢が遂に絡んだ!! 純プロレス戦国絵巻
- ●安田忠夫が借金から自殺未遂まですべてを語る!
- ●アブダビコンバット2001—大探検記!
- ●シュート活字×ファンタジー活字
- ●他に比類なきプロレスがWWFにはある!

no.38 表紙 高田延彦(イラスト) '01.05/840yen 完売間近
小川と長州、どちらが孤独だったのか!?
- ●忘れ物の正体は—。高田延彦
- ●ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル
- ●プロレススーパースター列伝・阿修羅原
- ●死神降臨・ジェラルド・ゴルドー

no.39 表紙 前田日明 '01.06/840yen
どうなるんだ、リングス! 前田isデッド!?
- ●前田道場新エース・金原弘光
- ●怪物か!? それとも……藤田和之座談会
- ●壮絶なる格闘人生・藤原敏男
- ●プロレススーパースター列伝・田上明

no.40 表紙 アントン総帥 '01.07/880yen
猪木軍vsK—1に見たいものは“地上最強のプロレス”
- ●蘇れ!Uインター&キングダム伝説!高山善廣×金原弘光
- ●熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎
- ●プロレススーパースター列伝・グラン浜田
- ●グラバカの核弾頭 郷野聡寛

no.41 表紙 ビンス・マクマホン '01.08/880yen
Can you カミングアウト? “最後の黒船”WWF襲来!
- ●リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る
- ●真樹日佐夫×三池崇史巨頭対談が実現!
- ●W☆INGの真実・茨城清志
- ●毒舌知能犯 秋山準語録

no.42 表紙 アントン総帥 '01.09/880yen
猪木なら何をやっても許されるのか!?
- ●ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談
- ●“ヒャッホーの真実”辻よしなり
- ●蘇れ!UWFインター伝説!! 高山善廣×宮戸優光×金原弘光
- ●誇り高きルチャ戦士 ルチャカト・クン・リー

no.43 表紙 桜庭和志 '01.08/880yen
サクと『PRIDE』のケツに火がついた!!
- ●ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー
- ●大谷普二郎の「俺をしんじろう!」人生相談
- ●金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会

no.44 表紙 桜庭&シウバ '01.11/880yen
サクの連敗が『PRIDE』に語りかけるものは何か?
- ●その修羅場の数々! シーザー武志
- ●怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴
- ●ハンス・ナイマン&ディック・フライ
- ●闘龍門大特集

no.45 表紙 アントン総帥 '01.12/880yen
「K—1vs猪木軍」命懸けのエンターテイメント!!
- ●悪魔の書、現る! ミスター高橋
- ●ジェラルド・ゴルドー人生相談
- ●プロレススパースター列伝・グレート小鹿
- ●語録で振り返るマット界2001

no.46 表紙 田村潔司 '02.01/880yen 完売御礼
『PRIDE』LOVEをブチ壊す男[illegible]田村潔司!!
- ●さらばリング[illegible]キッド
- ●“蒙古の怪[illegible]”キラー・カン
- ●“スーパー[illegible]”ジミー・スヌーカ
- ●エル・カネ[illegible]、バード[illegible]決勝!!

no.47 表紙 ビンス・マクマホン '02.02/880yen
WWE日本侵攻5秒前!
- ●“天才”武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!
- ●噂の馳浩が新日分裂からミスター高橋本までを語る!
- ●第一次リングス閉幕特集
- ●プロレススーパースター列伝・ストロング金剛よ!!

no.48 表紙 桜庭和志 '02.03/880yen
見えてきたゾ、桜庭、満開の日!!
- ●奇跡のメガトン対談! 小川直也vsノゲイラ&スペーヒー
- ●和田最強伝説が遂に現実に! 語り部・金原弘光
- ●伝説の男が笑撃の登場! ジョー・サン
- ●WWEを知る男 ウォーリー山口

no.49 表紙 ミルコ&ヒクソン&小川&桜庭 '02.04/880yen
究極の格闘技大戦争勃発!! マット界灼熱の噂!
- ●和田さん快勝記念対談! 高山&金原&和田
- ●アレクに怒りの火を付けた菊田早苗とは何者か!?
- ●破壊王も火のヤリ特訓! 小笠原和彦が火の輪くぐりを敢行!

no.50 表紙 桜庭和志 '02.05/880yen
サクが笑えば、世界が笑う!!
- ●「地方初世界」開始! 小川直也&橋本真也
- ●リングスロシア軍団の軌跡
- ●パンクラス取材解禁! 菊田、“尾崎の野郎”が登場!
- ●ギョ!? I編集長が新日本に三くだり半!

BACK NUMBER

プロレスマスコミの哲人
元・週刊ファイト編集長
井上義啓氏
（通称＝I編集長）
狂乱のマット界時評連載

喫茶店トーク



―さて、井上さん。今日はK－1と新日本の交流についてお伺いしたいんですけど。まずは、10・11K－1大阪ドーム大会と10・13新日本プロレスの東京ドーム大会について、井上さん的な感想を聞かせてください。

井上　大阪ドームは観に行きましたよ。やっぱり真剣にのめり込んで観るという点では、注目すべきは新日本よりも格闘技のK－1ですからね。

―新日本にはのめり込めない（笑）。

井上　プロレス者だったら新日にワーワー言うでしょうけど。まぁ問題は、どっちが「いいか・悪いか」なんていうことじゃないんだよ。何が善かといったら、観客が入って、視聴率が上がって、PPVの成績も良くて、黒字になってウハウハ万々歳できるかってことがポイントですからね。

―興行なんだから、ウハウハできないと意味ないですよね（笑）。

井上　10・13の観客数なんて新日本のドーム興行のワースト記録ですよ。それで猪木がいろいろ注文付けてるわけですけど。マッチメイクや内容がどうとかじゃなくて、客が入って儲からなくちゃダメだよと言ってるわけでね。マスコミはわかってないところもあるけど、オレは猪木と考え方は同じだからわかるんだよ。

―猪木さんの気持ちは痛いほどわかるわけですね（笑）。

井上　猪木と俺はまったく同じだから！　上井（執行役員）や蝶野の考え方とは違いますよ。特に蝶野とは違うわな。

―まったく違うでしょうね（笑）。

井上　蝶野はホーガン呼んできたりとか、坂口で何とか持っていこうとしたり、藤波をカムバックさせようとしたりね。あんなこと俺ならやりませんよ、言うちゃ悪いけど！

―それより、藤波さんはまだ現役なんですけど……。

井上（無視して）そんなことをやっても上手くいくはずがないし、先に繋がるはずがないんだから。

―一時的な話題性だけですからね。

井上　だから俺はホーガンを呼ぶなと言ったわけ。じゃあホーガン抜きでマッチメイクはどうするんだ？　というと、新しい人材をドンドン使うべきであって、WJにでも電話して「オタクのボビッシュを貸してくれないか？」と頼めばいいんですよ。

―ホーガンよりボビッシュですか（笑）。

井上　俺が蝶野だったら永島の旦那に直談判してますよ！　むろんバード（井上用語＝VT）で（ジョシュ・）バーネットにバーンとぶつけると。プロレスじゃなくて、ホントの意味での無制限一本勝負。あくまで個人の勝負であって、勝っても負けても恨みっこナシでいこうぜと!!（ドン）。

―己のプライドを懸けて徹底的にやるわけですか！

井上　新日本の代表とかWJの代表とかね、そ～んな闘いじゃないありませんよ！　いまの時代ね、団体同士の闘いなんて捨てるべきなんだけど、そこに拘る馬鹿がまだおるんだよな。こんなことを言ったらまた出入り禁止になるかわからんけども、新日本プロレスにはわかってない人が多いんだよ。言うちゃ悪いけども。

―わかってませんか（笑）。

井上　上井なんかはわかってるよ。猪木の子分だからって何でも「ハイハイ」って言ってるわけじゃなさそうだし。逆に自分の考えを実現するために猪木を利用していると。

―じつはうまくコントロールしてるわけですか。

井上　11月3日の横浜のカードを見なさい！　あれ、蝶野のマッチメイクじゃないような感じがするんだよな。

―蝶野さんはあんなカードは組まないでしょうしねぇ。

井上　大巨人の（モンターニャ・）シウバやTOAを呼んでくるとか、その感覚は蝶野でも藤波でも坂口でもない。上井やケロちゃんとかそういった人間の意見でしょうな、おそらく。

―あ、ケロちゃんも一枚噛んでましたか（笑）。

井上　だから、この大会が失敗したら責任がどうのこうのとか猪木が言ってるけども、いままでと違う人間がやる新しい方向を見守ろうという意味なんですよ。そういうポイントからも、11月3日は大注目してるんだよな。

―新しい新日本の方向性が見えるかもしれないんですね。

井上　いままでゴタゴタして見えなかったものが、1本のスキッとした線に近づきつつあると。そのために本腰入れる気がするんだよ。だから、シウバやTOAの試合はプロレスと銘打ってるけども、実際は喧嘩マッチだよと！

―け、喧嘩マッチになりますか！

井上　当たり前ですよ、アンタ！　シウバと吉江、TOAとエンセンの試合は、喧嘩をやらせなきゃイカンですよ。新日本のプロレスは「喧嘩か!?」と思わるから客が入るんですからね。そ～れをシウバに普通にプロレスやらせたら、次は誰も見ないですよ。プロレス界に入ってプロレスラーになるシウバに次はないわ！　追放ですよ、そんなもん！

―モンターニャはまたしても追放宣告を受けるわけですか（笑）。

井上　TOAやシウバの良さっていうのは喧嘩マッチにあるんだから。喧嘩マッチを剥ぎ取ったら、この前の武蔵vsシウバみたいに「金返せっ!!」って言われるんですよ。

―こないだのモンターニャはクリーン

今月のお題

新日本×K-1交流路線は是か非か？

新日本11・3横浜アリーナ大会にK-1ファイターが大挙参戦。本格的に交流が開始されることになった新日本×K-1だが、その闘いをすでに脳裏でシュミレーション済みなのはI編集長！ プロレス者、プロ格者の両者から失笑が堪えない横アリのカードにこそ、プロレスの将来が託されているのだ！ 世界で一番、11・3を注目しているI編集長の話を聞きなさい!!

聞き手／堀江ガンツ　構成／ジャン斎藤

ファイトに徹してましたね。

井上　武蔵のスタイルというのは、前に出て闘わないんだよ。そのために対戦相手には枠からはみ出したような奴を持ってきて喧嘩を仕掛ける。そうすれば武蔵も否応なしに立ち向かっていくし、2人とも活きるわけですよ。だからTOAやシウバにしても、使うんだったら喧嘩マッチをやらせろと。そうしないと、K-1vs新日本の対抗戦にしたって次ないわ！

——対抗戦は早くも頓挫（笑）。

井上　もういいわってなるわ！　それにプロレスとバードのゴチャ混ぜもやめなさいと。バードならバード、プロレスならプロレスの二部制にすべきであってね。それで中西はプロレス要員と決めたら絶対にバードには出さない。中邑をバード要員にするならプロレスには出さない。しっかり分けるべきですよ。

——ルールも選手もちゃんと区分けするわけですね。

井上　俺も新日本からプロレスを取り除けとは言わんよ。永田や中西とかベテランがいる間はエンタメプロレスを続けた方がいい。ファンも望んでるだろしね。ただし、それ以外の若者にはプロレスを絶対にやらせない！

——若者は全員バード部門ですか（笑）。

井上　プロ格かバードでしょうな。ハッキリ言って、新日本からプロレスっていうイメージをだんだんと除去しないことにはイカンですから。

——「新日本プロレス」にプロレスはいらない、と（笑）。

井上　いや、プロレスと謳ってるけども、プロレスルールで闘うホントの意味での真剣勝負ですよ。それだったら客が絶対入ると思うからね。

——そのプロレスは観たいですね！

井上　かつて猪木がソ連の赤い連中を呼んだじゃない。そんな連中が来るはずないと思ってたのがホントに来たと。それでマサ斉藤がバックドロップでボーンとブン投げたら、会場がワーッ！と沸いた。いかに客がそういうプロレスに飢えていたかってことですよ。

——井上さんからすると、レッドブル軍団は合格だったんですね（笑）。

井上　エンタメでも金が儲かればいいんだけども、いまの時代は難しいもんな。プロレスルールでもバードでも、真剣勝負じゃないと営業マンが走り回っても客が集まらないですよ！　ホーガンに4千万払ったか5千万払ったか知らんけども、ハルカマニアは来んだろ？

——ギャラをペイするほど、チケットが売れたわけでもなさそうですしね。

井上　結局その部分をちゃんと認識して、今後の考えを示してくれるのが11月3日の興行だと思うんだよ。

——そこで中途半端な試合をやると、K-1サイドにも悪い影響が出ちゃいますよね。

井上　谷川の旦那もプロレスをやるのはいいけれども、やっぱりプロレスの興行であってもやるのはバードですよと。「サップでも誰でも貸しましょう。でもプロレスはさせませんよ。全部バードでお願いします！」と、谷川の旦那は言うべきですな。『W-1』みたいなことをやってたらダメであって、プロレスに食い込んでも、あくまでK-1、バードのガッチガチの試合をやれと！

——ガッチガチにやるべき（笑）。

井上　それと、記者会見とか調印式も考え直さなきゃいけない時代にきてますよ。サップとTOAが会見でワーワーやり合うとかね。そ～んなことをばっかやってると、本物でも狼少年になるわな。見向きもしませんよ！

——「またか！」って呆れられるだけですよね（笑）。

井上　そうなってくると、試合そのものも八百長だろうとなっちゃうからね。この前の『PRIDE武士道』にしてもそうだけども、「ドスにミルコのキックは当たってない」とか「八百長だ」とか言う人間だっておる。K-1のサップにしたって、「わざと反則したんじゃないか」って思われるわけだよ。

——余計な憶測をされちゃいますよね。

井上　結局は客が入らなくなる。そういった状況がK-1にも起こってくるかもしれないんだよな。

——現実に、こないだのK-1JAPANはガラガラでしたからね。視聴率は良かったんですけど。

井上　K-1JAPANの場合はマッチメイクが弱いというのが致命傷だけどもね。名の通った選手を呼ぼう呼ぼうしてたけど、無名でも凄い試合をやる選手を呼べばいいんですよ。そしてマスコミに「こいつはやるぞ！」と宣伝しまくる！　俺だったら毎日電話し



言うちゃ悪いけど今日の結論

TOAやモンターニャに喧嘩マッチをやらせないと、プロレスは終りますよ！



てるぜ、マスコミに。『週ゴン』、『週プロ』、『東スポ』、『デイリー』から『ニッカン』、『紙プロ』にも電話しますよ！

——あ、ありがとうございます（笑）。

井上　『X－1』や『ジャングル・ファイト』も同じことでしょ。宣伝しないから話題にならないんですよ！

——スポークスマンがジョンストンとイズマイウですからね（笑）。

井上　ヒカルドンなんてのもね、『ジャングル・ファイト』をもっと宣伝しとけば、ドームでも話題になったんですよ。まぁ言うちゃ悪いけど、ヒカルドンはリングスで闘っていたころがピークで、いまは峠は越えてますけどな。

——ヒザもかなり悪いみたいですしね。

井上　（ランディ・）クートゥアにしても同じですよ。UFCでティト・オーティスに勝ったけれども、クートゥアが勝つようなタイトルではイカンですよ。アイツも峠を越えてるし、俺が見てたかぎり、ティトを「ここで極められる」と思ったシーンが10回近くあったからな。

——井上さんがティトを極めるシーンは見たいですけど（笑）。

井上　まぁUFCはレベルが低いけども、何だかんだ言ってもバードですよ。あそこまでバードに人気が出たのは、競技の純粋性なんだよな。

——最近のレベルアップの仕方は凄いですよね。

井上　イグナショフやミルコが凄いのもやっぱり純粋性ですよ。純粋性を貫くことによって、最初は「華がない」とか言うてたプロ格者も「やっぱりミルコは凄い！」って認めてきましたから ね。ヒョードルだって根暗だけども凄い試合してるから、メインイベントは務まるしな。

——ガハハハ！　ヒョードルは根暗でしたか（笑）。

井上　根暗な選手に、3万円なり5万円払ってでも観に行こうというプロ格者が出てくるわけですよ。ヒョードルとミルコ、ミルコとタイソンが闘うなら10万円払ってでも観に行くというファンは多いからね。

——どんどん増えてきてるでしょうね。

井上　ただ、イグナショフかヒョードルを中西なんかと闘わせとったら2人のイメージが死んでしまうからね。

——いまの中西さんに勝っても良いイメージは上がらないですね（笑）。

井上　ハッキリ言って、いまは一点豪華主義ですから。高いと言ってもブランドものは売れるんだよな。たとえば、安物のキュウリを3本150円にしたって誰も買わないですよ。3本50円いうたら俺でも買うけどね。

——ガハハハ！　50円だったら買いますか（笑）。

井上　当たり前ですよ、アンタ！　つまりはいいものをドンドン出せってことですよ。こんなこと言いたくないんだけど、ダメなものは省いていかなきゃ仕方がない。この前のK－1大阪大会なんかも世代交代が進どるもんな。プロレスにしたってベテラン連中が身を引くまではエンタメで繋いでいくとして、ベテラン連中が消えたときは全部プロ格とバードで仕切らないといけないですよ。

——そういう意味で、11月3日は試金石的な大会になりそうなんですよね。

井上　TOAにしてもモンターニャ・シウバにしても、プロレスをやるっていうのは気に入らんけども、プロ格的なガチンコの試合をしてほしいよね。シウバがプロレスの技やって、自分からロープに走って跳ね返ってくるなんてのはしてほしくない。そんなシウバ見たくないですよ、俺は！（ドン）。

——そんなにシウバのことを考えてるのは井上さんだけですよ（笑）。

井上　モンターニャ・シウバとボビッシュを闘わせてみなさいよ。俺は絶対に観に行くよ！

——大男2人が闘ったら迫力はありそうですけど。

井上　バッチバチのバードですよ！　それだけ危険なことをやるわけだから、チケット代も5万円払う価値がある。エンタメプロレスで、5000円の席が当日だと500円割り増しになるとかどうとかね。そんなのは腐りかけのキュウリが一本50円で売ってるみたいなもんで俺でも買わんもんな！

——ガハハハ！　腐りかけなら買わないですね（笑）。

井上　そういった危険性を孕んでいるからね、いまの新日本は。腐ったキュウリにしてくれるなと言いたいんだよ。上井が指揮を執ってやればね、恐らくオレが言ったような方向に持っていってくれる期待があるんだけど。

——すべては上井さんにかかっているわけですか。

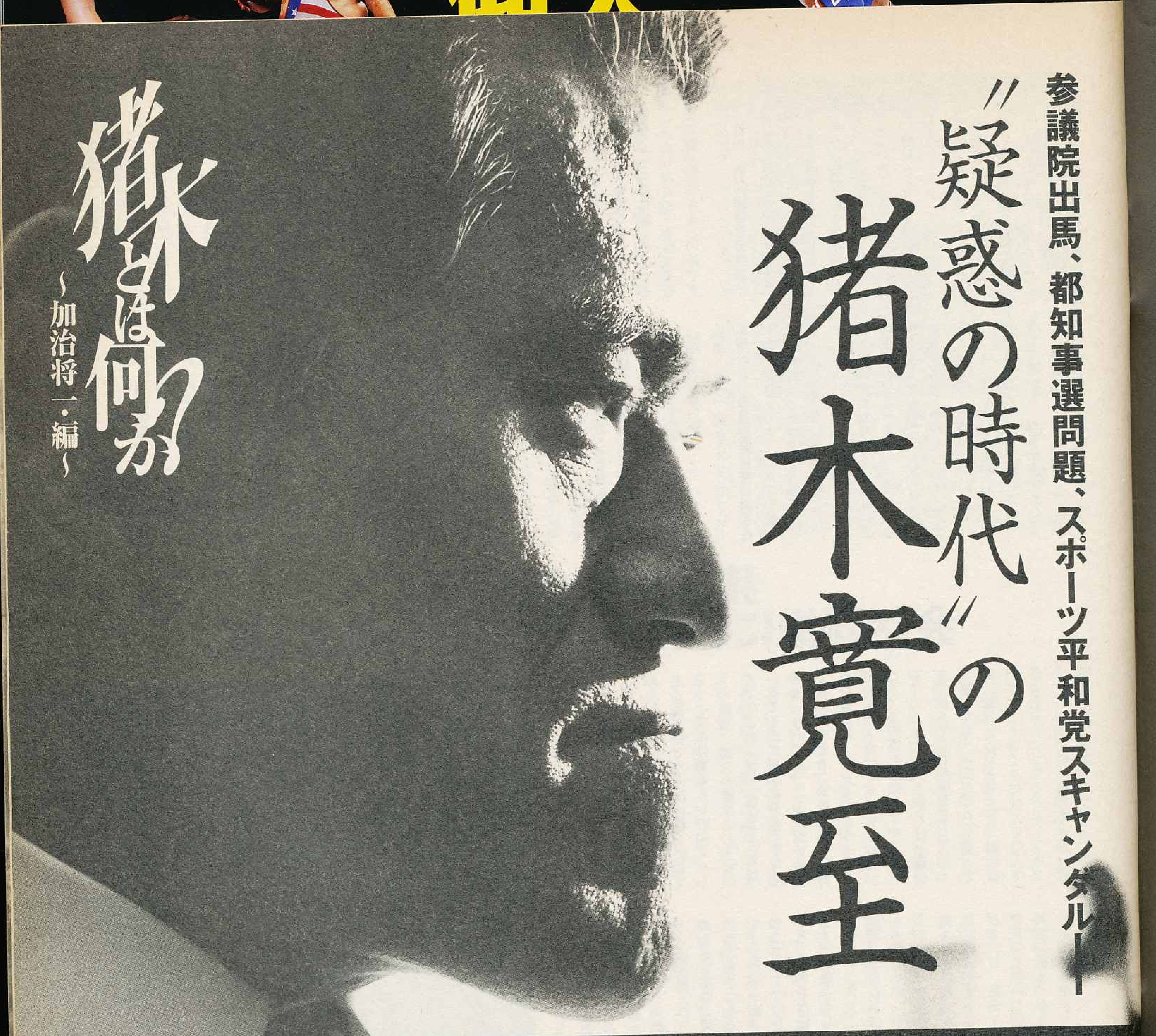
井上　だから頭のいいやつが取り仕切らなきゃいけない。ガタガタ言うその他大勢がいたらダメだってことですよ。上井が全権を握って、任せればいいんです。そういう人間がK－1とプロレスの交流をピシッと仕切って、喧嘩マッチをやらせればいいんですよ！

——いやあ～、11・3横浜がいろんな意味で楽しみになってきました！　井上さん、今日はありがとうございました！

井上　は～い。

いのうえ・よしひろ■1934年岡山県出身。『週刊ファイト』の編集長を長く務めた、「活字プロレス」と呼ばれるジャンルの創始者。ターザン、GK、ケンファー佐藤等、プロレスマスコミで－編集長に影響を受けた人間は数知れない。





参議院出馬、都知事選問題、スポーツ平和党スキャンダル――

"疑惑の時代"の猪木寛至

猪木とは何か！
～加治将一・編～

『猪木寛至自伝』企画・『アントニオ猪木の謎』執筆

加治将一（作家）



20年の親友にして"裏の参謀"が語る
「邪悪と純情」

聞き手／吉田豪　構成／ジャン斎藤　designed by bun-chan（Two three）

てるぜ、フ
ロ』、『東ス
ン』、『紙プ
──あ、あ
井上 『X
イト』も回
から話題に
──スポー
ズマイウで
井上 ヒ
ングル・
けば、ド
よ。まぁ言
ンはリング



──加治さんがプロデュースしていた『猪木寛至自伝』（新潮社）は歴代の猪木本の中でもナンバーワンだと断言できる名著ですけど、『アントニオ猪木の謎』（新潮社）も最高でした！ どんなに酷いエピソードでもいちいち猪木さんらしくて、『新潮45』で『我が友アントニオ猪木の「謎」』というタイトルで連載されてたときからずっと夢中になってたんですよ（笑）。

加治 おかげさまで評判いいみたいです。しかし、『新潮45』で連載やってたときによく気がついたね。

──犯罪のノンフィクションが好きなんで『新潮45』はよく読んでるんですよ。あの連載は都知事選出馬取消時の金の流れまで克明に描いてたりの犯罪ノンフィクション的な面も含めて、未知の情報が多数でしたからね。

加治 書いていいものとダメなものの選別をしながら書いたんで、そういう面では苦労しましたね。

──右翼からの脅迫話についても言及してましたけど、それってもしかして野村秋助さんとの件ですか？

加治 いや、別の団体との件だけど、もしかして秋助さんと揉めたりしたの？

──そうらしいですよ。

加治 ボクは秋助さんとは親しかったから、その話を知ってればすぐカタはついたんだけど。

──あ、野村さんとも親しかったんですか？

加治 すごく親しかった。彼が出所してすぐ知り合ったんですよ。本にも書いたけど、「元気にしてるか？」って口癖の人がいたでしょ？

──武闘派と呼ばれる、東京の地上げ屋の方ですね。その口癖が加治さんに移ったことで、猪木さんも「元気ですかーッ！」って言うようになったっていう（笑）。

加治 彼が晩年、秋助さんの面倒みてたんだよ。俺は彼の事務所で一緒にビジネスをしてたんだけど、秋助さんは事務所にしょっちゅう顔出してたからね。それでいろんな雑誌から、そのバブル時代のことを書いてくれって熱心に言ってくれてるんだけど……（以下、加治氏と裏社会のエピソードがたっぷり語られるが、本人の希望により泣く泣く割愛）。

──この本には、そんな加治さんでしか知り得ない猪木さんのダークサイドだけじゃなくて、猪木さんの運転で横浜中華街に行ったりの呑気なエピソードまで詰まってますよね（笑）。

加治 ああ、リムジンの話ね（笑）。

──猪木さんが7メートルのキャデラック・リムジンを自ら運転して登場するだけでもとんでもないのに、加治さんを乗せたら中華街まで車線をまたぎっぱなしで爆走したっていう（笑）。

加治 そう。変なところでブレーキ踏むし、車線距離は空け過ぎたり詰め過ぎたりさ。ロスでも彼の助手席に乗ったけど、会話同様にわけがわからないのよ（笑）。

──ダハハハ！ 本の中で、猪木さんの話がわかりにくいのは「主に主語の欠落が多い」とズバリ指摘してたのも画期的でしたね（笑）。

加治 ホントわかんないよ。アナタ、話したことある？

──インタビューは2回したことありますけど。人の話はあんまり聞いてないし、自分の言いたいことを脈絡もなく言い続けるしで、ほとんど会話が成立しないんですよね（笑）。

猪木の車の運転は会話同様にわけがわからないのよ（笑）



加治 話の起承転結がハッキリしてないんだよね。長島（茂雄）さんみたいな部分もあるのかなあ。ある種に秀でた人間は往々にしてそういうのはあるらしいよ。

──結局、周りが察するしかないんですよね（笑）。猪木さんとは、いまでも繋がりはあるんですか？

加治 ないなあ。この連載を始めたばかりのときに電話で話したのが最後かな？ だからもう十ヶ月になる。トボけてたかもしれないけど、この連載は知らなかったね。「ちょっとキツイこと書くけど最後まで読んでくれればわかるから」って言ったら、「エヘヘ」って笑ってね（笑）。それっきりだよ。猪木はいまニューヨークに住んでるんでしょ？

──ロスから引っ越したみたいですね。

加治 家族的な問題らしいね。ギクシャクしているとか……。自分の家族と娘夫婦がいっぺんにロスに集まっちゃったからねえ。

──娘夫婦というと、寛子ちゃんのことですね（笑）。

加治 寛子に会ったことある？

──ないですね。寛子ちゃんが歌う『アニー』のLPは持ってますけど。猪木さんは機嫌がいいと『アニー』を歌うらしいですよ（笑）。

加治 しかし、アナタ詳しいね（笑）。プロレスばっか追いかけてる人なの？

──いや、そうでもないですけど猪木さんは特別なんですね。猪木さんのエピソードは本当にハズレがないし、裏側を含めて好きなファンって多いと思うんですよ。

加治 ああ、そうだろうね。俺も利害関係はなかったから十分楽しんでるよ。

──加治さんがロスで猪木さんと初めて会われたのは、のちにピストル密輸で捕まった柔道家の「町田さん」の紹介って書いてますけど、これって空手家でもあるLYOTO（マチダリョウト）のお父さんとかじゃなくて、ジョージ土門さんのことですよね？

加治 そう。写真が出てるのに仮名で書かなくてもよかったんだけどね。

──土門さんに猪木さんを紹介されたのは、ちょうど第1回IWGPのホーガン戦での失神事件やクーデターが起きたりで、猪木さんが精神的に弱り始めていた頃なんですよね。

加治 うん。ただ、俺はプロレスなんて全然わからなかったけどね。飲み食いをして人生を語るだけの付き合いだったから。

──プロレスの話はまったくしな





『新潮45』平成15年1月号から8号まで連載された『我が友アントニオ猪木の「謎」』に大幅加筆。アントン総帥の二面性をあぶり出した壮絶ノンフィクションには、黒社会の大物も次々に登場したりで抜群に面白い！　読まない奴は脳みそが腐ってるというか。新潮社・刊（￥1400）

かったんですか？

加治　ありえないね。猪木自身、出会った頃から「プロレスをやめたい」って言っていたし。

――ダハハハ！　20年前から言ってましたか（笑）。

加治　うん。俺も肉体の強弱に興味ないしね。20年付き合って、俺に唯一プロレスの話をしたのは「新しい技の名前を考えてくれ」って言うぐらいだったから（笑）。

――あ、それが唯一（笑）。

加治　あれ何だっけかな？　それこそトルネード何とかだとかさ。

――小川選手のスペース・トルネード・オガワですね（笑）。

加治　かな？　猪木が「やっぱり英語だろう」ということで、そういう話はしたかな。

――そんな関係だったら、猪木さんが「プロレスなんかどうだっていいんだ」って言い続けていたのもよくわかるわけですね（笑）。

加治　そうだね。「これから新日本どうするの？」って聞くじゃない。「いやあ、あんなのどうでもいいんだ」みたいな感じでさ。

――当時から「新日プロなんて消えてなくなればいい」という「呪いにも似た心情があった」って書いてましたね。

加治　俺もよくわかんないけど。よっぽどクーデター騒動がトラウマになってるんだろうね。

――裏切った人間がいまだに居座ってることとも、やっぱり腹立たしいだろうし。

加治　どうしても許せないみたいですね。彼はアッサリしてるようで全然アッサリしてないんだよなあ、その辺が。やっぱりそのときのトラウマだと思うよ。UFOのときも盛んにそう言ってたからね。

――「新日本は絶対に潰す！」と（笑）。

加治　うん。潰したって意味ないじゃんって思ったんだけど（笑）。

――そもそも自分の会社ですからね（笑）。

猪木とは何か

～加治将一・編～

Masakazu Kaji

加治　でも心情的にそれは噴き出てくるんだろうし、猪木は違う世界に行きたいんだろうなって感じましたよ。

――猪木さんって昔からプロレスはそんなに好きじゃないんだけど、プロレスでしか自己表現できないもどかしさが絶対にあったと思うんですよ。

加治　そうそう。アナタのおっしゃった通りです。事業家になりたい夢を常に持ってた。でも実現できない。いまでもそうでしょ？

――プロレス以外の世界でこそ認められたいって電波全開なんですよね。

加治　猪木は結局、プロレスやUFO、新日は片手間なんだと思うね（笑）。

――それだけは間違いないです（笑）。

加治　行き当たりバッタリで言ったりやったりする程度で、心は他のビジネスにある。プロレスを核としてちゃんとやればビジネスとして成り立つのに、どうしてそうしないのかなって思うけど。やっぱり感覚的に嫌なんだろうねえ。

――ただ、それなのに猪木さんは自分抜きでプロレス界が上手く進んで行くと、それはそれでシャクに障る人だからややこしいんですよね（笑）。

加治　それに、彼がプロレスについて熱く語らなかったのは「レスラーは二流の人間だ」みたいな思いがすごいあってね。本にも書いたけど「プロレスラーはバカにされてる」と。それはそれで猪木自身も反発はあるんだけど、「俺はこの世界の人間じゃないよ」って抜けちゃう。で、選挙とかビジネスに手を出したんじゃないかと思うんだよ。

――初めはどうにかプロレス全体の地位を上げようとしたけれども、無理だと悟った部分はあるでしょうね。

加治　上げるどころか最初から見切りつけてたんじゃない？　よく近親憎悪って言うけど、それに近いと思うんだよね。愛があるけど、憎悪もある。もちろんそれにも波があって、ソ連に行ってレスラーを連れて来たじゃない。あの頃はちょっと燃えてたように見受けられたんだけど。それもすぐに挫折しちゃったでしょ？

――結局、ソ連のレッドブル軍団は誰もいなくなっちゃいましたからね（笑）。

加治　結局、詰めが甘いというか、彼はビジネスマンになりたい人だけどビジネスマンじゃないから。その辺を誰かがフォローできればいいんだけど、新日にもビジネスマンがいない。僕もプロレスの世界はよくわかんないんだけど、端で見てるとレスラーが社長になったりしてるわけでしょ？　プロの経営者がいないから、ビジネスとしてはうまく回らないんだろうね。

――加治さんは、幻に終わった新日本の株式上場のときもいろいろ動いてたりしてたんですよね。

加治　うん。本では実名で書いたけど、中心になって動いた大谷って証券マンとは昔から親友でね。藤波とも数回、料亭で上場のことで話したしね。

――そのとき藤波社長はビジネスに向いてると思いましたか？

加治　全然（キッパリ）。

――あ、やっぱり（笑）。

加治　全然といったら失礼だけど、彼は簿記なんてわからないでしょ？　それに言ってることもよくわからないんだ。

――わかんないですよねえ（笑）。猪木さんに近い感じですか？

加治　近いねえ。こんなんでよく運営してるなって思うよね。ビジネスの世界はある意味、口答の契約でも契約だっていうものが積み重なって動くじゃない。でも彼らの世界は、明日違うことを言っても通じるところでしょ？

――特に藤波さんは言うことがコロコロ変わりますからね（笑）。猪木さん自身は上場に関して乗り気だったんですか？

加治　乗り気だったよ。「よろしくお願いします！　俺も何でもしますから！」って俺たちには断言するわけですよ。でも、そのうちに連絡が途絶えちゃうんだよねえ。フェードアウト（笑）。

――加治さんが言うところの「外なる猪木」（＝物質の世界の住む猪木。「内なる猪木」には物欲も名誉欲もない）が登場するわけですね（笑）。プロレスの会社が上場する場合は、プロレスの仕組みをカミウングアウトしないといけないって言ってる人がいるんですけど、それは関係ないですよね？

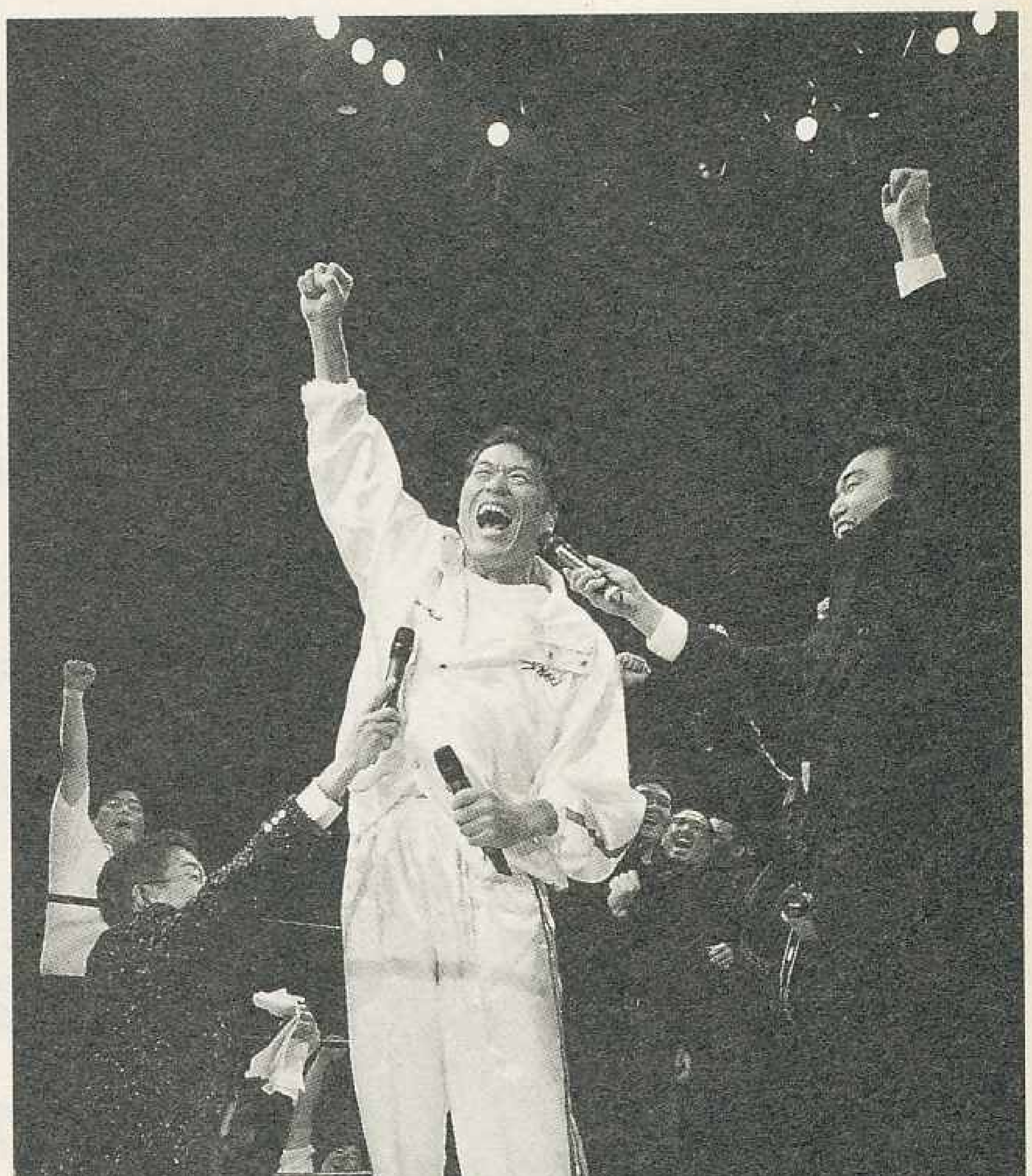
加治　そんなことは関係ないですよ。プロレスというジャンルじゃ



加治氏がプロデュースした猪木本の最高傑作『アントニオ猪木自伝』（『猪木寛至自伝』より改題／新潮社・刊）。アントン総帥の人間像に鋭く迫る加治氏には、猪木本第三弾を期待せずにはいられない

なくて経理部門の透明性が求められるわけです。「それは新日本にとって願ってもない話だ」ってことだったんですよね。
——でも、それで困る人はいたわけですよね（笑）。
加治　誰が困るかは知ってるけどさ（笑）。だってさ、チケットが何百枚も社内から消えてなくなることは頻繁らしいからね。
——ズサンですねえ（笑）。
加治　その後、「あれ、あの給料で、そんな車買えるの？　そんなマンション買えるの？」っていう人が登場するらしいけどね（笑）。あの本にも書いたんだけど、猪木が上場に踏み切れなかったのは、金が自由にならないからだということもあるでしょうね。新日本は自分の米びつっていうふうな感覚かな（笑）。
——怪しい金の流れがすべて表沙汰になっちゃうわけですからね（笑）。上場の件は当時、経理だった青木（現・全日本取締役）さんと話されていたんですよね。
加治　はい。彼が一番、話がわかったね。基本的に、レスラーが役員になってはいけないよ。レスラーはレスラーとして違う形で貢献しないと。レスラーを経営にタッチさせたり路線を決めさせたりすると、どうしたって自分を売り出そうとしちゃうでしょう。それで自壊しちゃうんだ。
——それは藤波社長を見ればよくわかりますね（笑）。ただ、背広組が社長に就くとそれはそれで揉めちゃうんですよ。
加治　それはその背広組が選手のマネージャーだったりさ、もともと業界周辺の人間だったりするからじゃない。
——結局、ビジネスをわかってないんですよね。
加治　プロレス好きだったらダメだよ。逆に嫌いな方がビジネスとしてうまくいくと思う。なまじ「プロレスを愛してます！」って人が経営しちゃうと変になるよ。クールになれないから。
——よく「お金じゃないんです！」とか言う人がいるけど、ビジネスである以上はお金じゃないとダメなんですよね（笑）。
加治　レスラーの体質なのかなあ。こんなことを言うと怒られるかもしれないけど。それに日本の国民性では、エージェントシステムが成り立たないじゃない。スター選手は「何で俺の名前でお前が儲かるんだ」みたいな考えになっちゃうから。
——誰かが儲かると確実に揉めますからね。
加治　猪木も一番嫌いなのは契約だったから。一度、ロスに住んでた小室（哲哉）が全盛のときに、ロスの弁護士事務所にいた人間が猪木に小室を紹介するから、ある契約を結びたいって話を持ってきたんだけど、なぜか猪木はものすごい怒ったんですよ。
——つまり、契約書で俺を縛るのかってことですよね。
加治　アメリカの契約スタイルってそれが普通なんだけどね。しかも、あの頃の力関係は小室のほうが随分と上で、猪木は泣かず飛ばずでどうしようもなかった時期なんだから。
——その頃、加治さんが石井館長と会わせようとしたときも難色を示したんですよね。
加治　うん。嫌がったねえ。
——猪木さんは、明らかに石井館長に対してジェラシーを抱いてましたからね。
加治　それは感じたよ。だから、ここまでK-1が有名になってるのに「石井って誰？」「ああ、あいつか」とか言ったりしてね（笑）。
——さすが猪木さんですねえ（笑）。そのときは「いま会ってもメリットがない」ってことで、石井館長の方が引いたみたいですけど。
加治　蹴ったよ（笑）。そりゃそうだよな。あのころの石井は飛ぶ鳥落とす勢いだったし、猪木は試合すら組まれない状況だったわけでしょ。猪木もあのまんま消えていくかなって感じだった。新日本も猪木をボイコットしてたし。
——一連のスキャンダルでTVから干されて以降、会社を牛耳った長州に新日本から追い出されたようなもんでしたからね。
加治　ところでタイソンは結局、K-1に来れないんでしょ？
——かなり難しいでしょうね。猪木さんが何度も呼び損なったように（笑）。
加治　そうだろうなあ……。前に猪木の関係でボクサーを呼ぼうとしたときに、向こうのボクシング関係者がいかにメチャクチャかってわかったの。俺もちょっと動いたんだけど、とにかく誰を信じていいかわからない世界でね。
——代理人が多すぎますからね。
加治　自称・代理人も多いし、話を聞く前から「先に金を寄こせ！」って感じでさ。マフィアやギャングの世界だから、よっぽどの奴じゃないと仕切れないね。
——それを考えると、よくアリ戦は実現しましたよね。
加治　そうそう。凄いなって思うよ。だから、ちゃんとやればいくらでもビジネスにはなると思うんだけど、猪木の回りの人たちを見てもハッキリ言ってみんな私心があり過ぎるんだよね。猪木と一緒にビジネスをしてあわよくばガッポリみたいな感じでね。結局最終的に揉めるわけ。
——そもそも猪木さんとビジネスをやって設けようとすること自体、間違ってるんですけどね（笑）。百瀬（博教）さんにそのことについて聞いたら、「アントンを最初から信用するほうがおかしい。儲かるわけねえんだから」って言ってましたよ（笑）。
加治　ハハハ。でも猪木の場合、裏切るつもりはないはずなんだよ。別にケンカする気もないし、対抗して動いてるわけじゃない。周りの力から逃げつつ、自分の利益を確保しようとしてるだけでね。だから憎めないんだと思うんですよ。
——それで「どういうことなん

「元気ですかーッ!」は、ある東京の地上げ屋の口癖だった


ダークサイドの匂い漂う「元気ですかーッ！」誕生の仰天エピソード！　アントン総帥が持つ極端過ぎる二面性、「邪悪と純情さ」を触り続けた加治氏にしか知り得ないエピソードだ



猪木とは何か

～加治将一・編～

だ！」と追求されれば、悪びれもせず言葉を濁すだけだしで（笑）。

加治　まあ、そういう私心のある人間しか引き寄せられなかった猪木にも責任もあるんだけどね。彼にとっては兄弟というのも非常に特殊な存在で、俺に兄弟の文句をボロクソ言うんだよ。

――本では「猪木本人でさえあらゆる事に手を焼いてる（猪木）快守」という表現もありましたけど、そんなに手を焼いてたんですか？

加治　手を焼いてましたね。スキャンダラスになりそうなロクでもない奴を連れて来たりね。だから、猪木の脇は甘さがあるよね。新間（寿）や佐藤（元・秘書）と揉めたのは、そこなのかなって思いますよ。

――スポーツ平和党のスキャンダル事件のときですね。

加治　スキャンダルのときは、マスコミがあまりにもヒドイなと思ってたね。それで100％猪木に同情してたんだけど、振り返れば、彼の脇の甘さにも問題があったんだろうなって。それをいまだに繰り返してるわけでしょ（笑）。

――ここしばらく猪木さんがハマっていた永久電気とか、どう思いますか？

加治　あれも（ホテル）オークラのバーで会ったときに熱っぽく語ってたんだよ。グッと身を乗り出して「俺はビル・ゲイツを抜くよ」と囁いたときには、唖然として返答のしようがなかったね（笑）。

――ダハハハ！　猪木さんは最近ダマされたって気付いたらしいですけど、冷静に考えたらあるわけないんですよ（笑）。

加治　それと絵が暖房になる話、知ってる？

――いや、知らないです（笑）。

加治　あれも半年ぐらい騒いでたんだけど。猪木に「凄い発明がある」ってマンションに連れて行かれて、そしたらペンキを塗った絵が壁にベタベタ貼ってあるわけ。で、猪木が「ここ暑いだろ？」って聞く。そりゃ暖房入れてるからなんだけど、「この絵から暖房が出てるんだ！」って言うんですよ。

――ダハハハ！　せいぜい暖色を使ってるぐらいでしょうね（笑）。

加治　当然、触ってもたいして暖かく感じないしね。確かに部屋はムンムン暑いんだけど、あきらかに暖房を入れてるとしか思えないわけ（笑）。猪木は「この権利を佐川（急便）に金を出させて買ってもらおうと思うんだ」って言うんだよ。佐川の会長も連れられて来たらしいけど、「う～ん……」って唸ったらしいね。そりゃそうだよ（笑）。

――猪木さんが誰かを騙そうとしてるわけじゃなくて、自分が率先して騙されてるから憎めないんでしょうね（笑）。

加治　猪木には、石油を貯めるバイオを発明したっていうオヤジを紹介されたけど、それも胡散臭くてさ。どうしてこうなるかなって思うんだけど（笑）。

――その後インチキ器具を販売して詐欺罪で捕まったんですよね。

加治　捕まったね。しかし、どうしてああいうのを信じるのかなあ。その辺がいまだに謎だよ（苦笑）。

――また、猪木さんはそういう話を全部オープンにするじゃないですか。選挙のことにしても「真光教の協力で感じのよいお嬢さん達が電話の対応をしてくれた」とか「開票の時は250万票行くとは読んでいた。宗教団体をまとめた部分はあるが霊感師というか超能力を見る人もそういうふうに言っていた」とか、当時からまったく隠さないで書いてたし（笑）。

加治　票をまとめた宗教団体って、真光のことですか？

――真光と創価学会だと思うんですけどね。新日本の最初のドームにお客が入らなくて学会に動員をかけたって話を聞いたことがあるし、80年代後半から90年代前半ぐらいまでは密接な関係だったと思いますよ。

加治　俺は宗教関係はあんまりわからないけど、都知事選のときは学会が民社党と一緒になって支持してくれるっていう内諾を得たって新間氏が言ってたっけ。

――猪木さんは精神世界への興味から、宗教風見鶏と言われるぐらい宗教への興味も出てきたわけですか？

加治　節操ないからなあ、イスラム教にも入信したっていうしね。スポーツの選手ってハマリやすいんだよ。どうしても勝負の分かれ目だとか、肉体的なことを突き詰めると精神世界のほうに行っちゃうからさ。

――猪木さんに誘われて、加治さんも六本木の瞑想教室に行かれてたんですよね。

加治　そのときは川村氏（UFO社長）もいたね。

――そのころに猪木さんが「人間の心理を理解するためのセミナーに参加した」って公言してるんですけど。

加治　ああ、俺に勧めてたね。泊まり掛けで行くやつでしょ？　感謝するとか何だか。

――相手の気持ちを思いやる訓練を中心としたセミナーですね。猪木さんはそのセミナーで「人間心理の理解は高まったけど夫婦の溝を決定的にしてしまった」って書いてるんですよ。

加治　それは違うと思うね。

――間違いなく、それ以外に原因がありますよね（笑）。

加治　だって猪木は何を考えてるかわからないし、金だって安定しないし、ましてやあの頃は何億円という借金してさ。倍賞美津子がそれを肩代わりしてるわけでしょ？

――会場にまで借金取りが押し掛けてきた頃ですからね。

加治　そこまでしてくれた倍賞美津子に対してフォローしたかって言ったら、何にもしてないからね。夫婦生活が壊れるのは目に見えてるよ。

――セミナーはまったく関係ない、と（笑）。

加治　それに、ああいうセミナーっていうのは効果があるのは2、3日だけなんだよ。心理学的にすぐに戻っちゃう。

――佐山さんも連れて行かれたらしいですけど、相変わらずですもんねぇ（笑）。

加治　噂によると、佐山はUFOをとんでもない辞め方したらしいじゃない？

――猪木さんの喉元にナイフを突きつけたって話ですね（笑）。

加治　あ、ホントだったんだ（笑）。

――すぐ和解したんですけどね。その頃、猪木さんにインタビューしたら「商売上リングでキレるのは別として、日常でキレる人がいるんですよ。原因もなくて、いきなり怒りだすのが見渡すといっぱいいるんだけど、最近その原因がわかったんだよね。ミネラル不足！　先日、佐山がキレちゃったのもミネラル不足なんです、本当に！　甘いものを摂ると、すごく大量にミネラルを消費するんです。だから佐山には、早く健康になって欲しいなと」って言ってて、そのことを佐山さんに伝えたら「猪木さんは面白～い」って呑気に笑ってました（笑）。

加治　2人ともすごいなあ（笑）。

――そういえば猪木さんがよく「気づき」っていう言葉を使うんですけど、それってセミナーの用語みたいですね。

加治　だったらもっと気づいてほしいよね。「元気ですかーッ！」もそうだけど、猪木が男としてマズイなって思うのは、誰かからヒントを得たり誰かからやらされたりしても、「これはあの人のおかげ」とか絶対に言わないじゃない。

――「成功したら俺のおかげ、失敗したらお前のせい」って人ですからね（笑）。

加治　イラクの人質を解放にしても俺がそそのかしたわけだけど、彼は絶対にそんなこと言わない。

――常に人のアイディアを自分が考えたかのように使いますからね（笑）。悪意はないと思うんですよ。何でも「俺が考えた！」という強烈な自己暗示にでも掛かってるじゃないかってぐらいで（笑）。

加治　政治家になってもうまくいくわけないよね。政治家はすごく気がつく人じゃないと無理でしょう。相手を立てることをしないで

Masakazu Kaji



加治氏の著書では政治家・猪木寛至のエピソードもたっぷり綴られている。超能力者の「先生が当選のお墨付きをくれた」「政策はまだない」など、いちいちアントン総帥らしい良い話だ！

「俺が俺が」でスターの位置を保ってると、絶対にやられちゃうから。

――だからこそ、身内からスキャンダルを暴露されることになったんだろうし。

加治　猪木自身も政治家には向いてないのはわかっただろうね。だって政策が何にもないんだもん。

――「政策？　これからです！」「公約はトクホンです」って答えてましたからね（笑）。いま考えると猪木さんが選挙に当選したこと自体、奇跡ですよ。

加治　いや、それが日本なんだよ。俺もスポーツ平和党の自治会みたいなのに出たことあるんだけどさ。プロレスラーとか兄弟とか、あとは何かわけわかんない奴が集まってて、政策の話とか一切しないんだよ。

――ダハハハ！　ブレーンからして問題なわけですね（笑）。

加治　「今度のスポーツ平和党の拘束名簿は誰々を何番目にする」とか、そんな話ばっかりだから。それ、金出す順番なんだもの。俺はもうイチ抜けたって感じだったね。

――快守さんがスポーツ平和党で選挙に出たときなんて、拘束名簿の二番目は「スナックママひげ」のママというニューハーフの人でしたからね（笑）。やっぱり〝政治家・猪木寛至〟には無理があったというか……。

加治　良い意味での活用方法はあったと思うよ。外交のときは猪木を一緒に同行させるみたいにね。外務省でアポとれなくても、猪木なら取れるときが随分あるからさ。本でもキューバの話には触れたけど日本で一番目立つ男なんですよ。

スキャンダルには100%同情したけど脇の甘さにも問題があったんだろうね

――カリブ海の海賊船引揚げの話で盛り上がったことで有名なカストロとの対談には、加治さんも同席されてたんですよね。

加治　4時間ぐらい一緒にメシを食ってたんですけど、ほとんど俺が喋ってたから。だって猪木はビジネスの話はわからないし、カストロはキューバが困窮してるからビジネスを進めたくて仕方がないわけ。でも、日本の駐在大使はビジネスなんかにまったく興味がないんだよ。日本の政治家と元首を会わせたことで仕事が終わってる。アホなんですよ。猪木が政治家になって俺個人の財産になったのは、日本の外務省のあり方を見られたことですね。

――それが外務省不要論に繋がるわけですね。

加治　そうそう。あんなもん絶対いりませんよ。モスクワで捕まったラスプーチン佐藤っているじゃない。

――鈴木宗男さんと密接な関係にあった外交官ですね。

加治　俺たちは鈴木宗男とラスプーチンが繋がる前から会ってるんだけど。彼は非常にやり手で彼こそが必要なんですよ、日本には。外務省では異色になる。

――鈴木宗男さんとはイラクに行くときも会われてたんですよね。

加治　うん。そうだよ。反・猪木だったけどね。猪木も政治家の割には力がなかったというかさ。猪木が政治で何をやったのかよくわからないね。

――いまとなってはイラクのことぐらいしか印象に残ってないですからね。消費税に延髄蹴りもできてないし。

加治　消費税も「みんなが反対するから反対」ってだけだったし、イラクの解放だってもうみんな忘れてるんじゃない？　この間もテレビでイラク解放の思い出話みたいなのをやってたけど、猪木の「い」の字も出て来ないもんね。

――猪木さんなしでも解放できそうな流れでしたからね。で、そのイラク解放の件が都知事選降板問題に繋がっていって、この本でもその部分が核になってるわけですけど。

加治　そうそう。イラク行きのチャーター便を借りるのに、猪木が俺の知り合いから俺に黙って金を借りてたんだよ。

――その知り合いというのが黒社会に通じる実力者で、表向きは佐川から借りた形になってるけど、その方から3000万円も借金してたわけなんですよね。

加治　でもね、猪木は彼に2回しか会ってないはずなんだよ。しかも、紹介した俺に黙ってそんなことをやってるわけでしょ？

――それなのに3000万円（笑）。その方は「馬場は信用できるが猪木は信用できない」っていう馬場派だったんですよね。

加治　そうそう。「会えばそんなことないんだ」って説得して会わせたんだけど。そんな経緯があったから、向こうからも「お前が保証人だ」みたいに釘を刺されるしね。

――迷惑な話ですよね（笑）。それで加治さんがいろいろ動かれたわけですけど、都知事選を辞退させるために小沢一郎が出てきたりの舞台裏をこれだけ克明に描いてる本はないですよ！

加治　そうかな。

――当時、猪木さんが都知事選の裏側を書いた政治評論家の菊池久さんに対して「バカヤロー。オレは今、心の底から怒っている。あのウソッパチな記事を書いて悦に入っている政治評論家の菊池なにがし」「インチキヤロー」「オレの前に出てきてみろ。ぶっ飛ばして



「手作り千円」事件も報道されるなど、一般誌＆スポーツ紙を賑わせた一連のスポーツ平和党スキャンダル。この事態を受けて来場をボイコットした新日本に対して、アントン総帥はさらに怨念を膨らませることになる



猪木とは何か？
~加治将一・編~

やる」と吠えまくる『心の叫び』（世界文化社）って本を出したり、「そんなもん名誉毀損で訴えてやるっ」てことで裁判したりしたのに、報道されたことはほとんど事実だったってわけですよね（笑）。

加治　意外と怨念の男だからなあ。「自分は全然根に持たねえんです」って言いながら、本当は根に持ってたりするんだよねえ（笑）。

──「『どうだっていい』って猪木が言うのはすべてどうでもよくないのである」って加治さんは書いてますけど、ホントにそうだと思いますよ（笑）。

加治　まあ、都知事選の件は、それでもまだ伏せられた部分とかってあるんだけどね。

──簡単に言えば、「都知事選を降りることで様々な借金が帳消しになるんなら、それでいいじゃねえか」ってことだったわけですよね（笑）。

加治　そのことを俺に言ってほしかったよ（笑）。

──ダハハハ！　あれだけ裏で動いたのに（笑）。

加治　不思議と裏切られた気持ちにはならなかったけど。なるほど、参ったなって感じでしたよ（笑）。

──友達なのに、美津子さんとの離婚も再婚したことも知らせてくれなかったわけですよね（笑）。

加治　ホントにねえ（苦笑）。引退試合の話も凄いでしょ？

──あの話も最高です！　10億円単位のビジネスの話をしてくれた人に用意したチケットが立ち見席だったという（笑）。

加治　俺ってこんなもんかって。みんなに会わす顔なかったね（笑）。

──あと、この本で一番画期的だったのは猪木さんの血筋が北朝鮮にあるんじゃないかっていう説ですよ！

加治　まことしやかにそうだって言う人はいるよね。某テレビ局の人が北朝鮮に行って向こうの高官と会ったときに、そういう話を聞いてきたとか。

──加治さんは「北朝鮮・平和の祭典」開催には反対してたわけですけど、猪木さんのルーツが北朝鮮にあるとしたら、平和の祭典開催も非常に合点がいくわけですね。

加治　北朝鮮行きなんてとんでもないよね。俺、アメリカでは共和党を支持していたし。好奇心の人間だけど、北朝鮮だけは足も踏み入れたくない。なぜ行くのかわからなかったね。どうせ、みんなと仲良く「平和の祭典」をやって盛り上がって帰ってくるだけでしょ。

──ただ向こうに利用されるだけだ、と。いざ北朝鮮に行っても、「向こうは食べ物がいっぱいあった」「飢饉だなんて嘘だな」とか言ってる猪木さんは呑気でいいんですけど（笑）。

加治　猪木には、俺も知らない世界がたしかにあるのかもしれないな。北朝鮮なのか韓国なのかわからないけど在日グループの取り巻きがいて、彼らと一緒にいるときは俺のことを遮断してると思うね。行きつけの店で偶然に会うじゃない。普段は「来なよ」って誘うけど、そういう人たちといるときは「来てくれ」って言わない。不思議だなとは思ってたんだけどね。

──最近、やけにパチンコ業界と繋がりが深いですし、ちょっと調べてみたいテーマですよね。仮にそうなら、力道山がブラジルから猪木さんを連れて来たのも非常に合点がいくし。

Masakazu Kaji

加治　そうね。ブラジルから連れて来たのも不思議な話だよね。だって日本にもいっぱい若者がいるわけだし、どうしてあんな奥地から連れて来たのかって。彼は彼なりに自伝で書い てるけど、どう考えても流れは奇妙な感じだよね。たとえば、力道山は最初から猪木の存在を知っていて会いに行ったんじゃないか……そんな窺った見方をすると、しっくりいくなって。

──しかし、ソ連にしてもイラクにしても北朝鮮にしてもそうですけど、国会議員になってもプロレスのイベントでしか世間にアピールできないことについて、猪木さん自身はどう思ってたんですかね？

加治　痛し痒しだったでしょう。あんなもん絶対ペイできないわけだから。

──新日本は大赤字を背負って大変な目に遭いましたからね（笑）。

加治　でもね、それをやらせてしまう新日本の上層部、坂口や藤波は共犯ですよ。

──いつも止められないわけですからね（笑）。あとで長州さんは噛み付いてましたけど。

加治　ビジネスに疎い人が上に座ってる以上、新日本は瓦解していくんだろうなって思いますよ。いま、猪木は『PRIDE』のプロデューサーになってるのかな？

──肩書きはそうですけど、実質的にはイメージキャラクターに近いですね。

加治　へえー。じゃあ、この2、3年で相当稼いでるでしょ？

──営業とかで相当稼いでますよ。テレビとかでちょっとコメントするだけでも100万単位で、ピンタも一発10万っていう噂だし（笑）。

加治　人を叩いて金を取るってSMの女王とアントニオ猪木だけだって言ったんだけどさ（笑）。新間氏とはうまくいってるの？

──いまのところは順調みたいですね。

加治　よく和解したよねえ。「絶対に許さない」って4、5年前まで言ってたもん。

──去年ぐらいまで言ってましたよ（笑）。

加治　猪木に「新間が謝ってきたらどうすんの？」って聞いたら「ちょっと無理でしょうね」って言ってたんだけどさ（笑）。

──でも、会えばお互いに笑顔から涙がこぼれたりするし、新間さんの猪木批判の本にしても結局、読んでみるとラブレターでしかないんですよね。

加治　新間氏は猪木で食ってきたところがあるでしょ。猪木を切って新間氏にどれだけ の得があるかっていったらないもんね。頭のいい男だから挑発しつつも猪木と組む。それでいいじゃないの。新間氏は使い用によってはとっても力を出すと思うよ。彼をうまく使えなかったところが猪木の限界かなって気がするよ。

──弟子の扱いにしてもそうですよね。あれだけ人材がいたのに、自分が自在に使える駒がないわけだし。

加治　俺はプロレスの世界は横からしか見てないけど、猪木は絶対に次のスターを作らなかったね。

──真剣勝負の世界だったらスムーズにエースが移行できると思うんですけど、プロレスはトップが自分から身を引かない限り無理なんですよ。

加治　そうだろうけど、やっぱり次のスターを作っていかないと食っていけないよね。スターである猪木が引退したあとのプロレス界はどうなるのかって興味がちょっとだけあったんだな。

──加治さんはプロレスに興味ないのに「猪木さんの偉大さはプロレスの中にある」ってハッキリと書かれてましたよね。

加治　そうだねえ。プロレスというと八百長って言うけど、それとは違うよね。

──今回の本では「演技であると公表できない役者」と表現してましたよね。

加治　猪木はそういう役者としての表現力はピカイチだったと思うんだよ。

──誰も勝てないでしょうね。

加治　俺がプロレスを見てたのは高校時代だけだけど、やっぱりリングは彼のものだったね。そのイメージをずっといまでも持ってるから。

──だからこそ、猪木さんが引退した後のプロレス界に興味はあったわけですね。ただ、猪木さんがなかなか退かなかったことで、その次の世代もなかなか退かない悪循環になっちゃったんですよ。猪木さんが自分の弟子について、誰かを可愛いがってるような話をしていたことはなかったんですか？

加治　全然なかったけど、船木とか高田とか武藤には目をかけてたと思うね。

──ルックスが良くてスター性のある人たちですね。

加治　ただみんな背が小さいでし

ょ。猪木はデブと小さい奴は嫌いだったから。それで橋本真也はイジメられてたもんね。

―あ、そうでしたか（笑）。橋本さんは猪木さんのことを慕ってるんですけどねえ。

加治　「お前がスターになれないのはデブだからだ」って言ってたよね。

―「あの体は海外に通用しねえんです」とか、しょっちゅう言ってましたしね（笑）。猪木さんは、引退後は「前田日明を後継者に考えてた」って言ってましたけど。

加治　前田は違うと思う。猪木と知り合った頃だけど、前田と高田をロスに呼んだんですよ。彼はもう引退を口に出してたからコイツらを後継者にするのかなと思って「次の猪木？」って聞いたら、「うん、まあ」ってゲラゲラって笑ってね。それで「高田ってどう思う？」って聞いてきたんですよ。

―前田さんよりは高田さんに託したかったんですかね。

加治　でも、ちゃんと引き上げないし、逆に叩いちゃうじゃない。

―どうしてもジェラシーが出てきて、自分のほうが目立ちたくなっちゃうんですよね（笑）。藤波さんを後継者にとは言ってなかったですか？

加治　藤波は「無理だ」って言ってましたね。

―やっぱり！　まあ、「藤波を後継者だと考えたことはない」って散々言ってましたからね（笑）。

加治　ところで小川はどうしちゃったの？

―いまは完全に猪木さんから離れてますね。

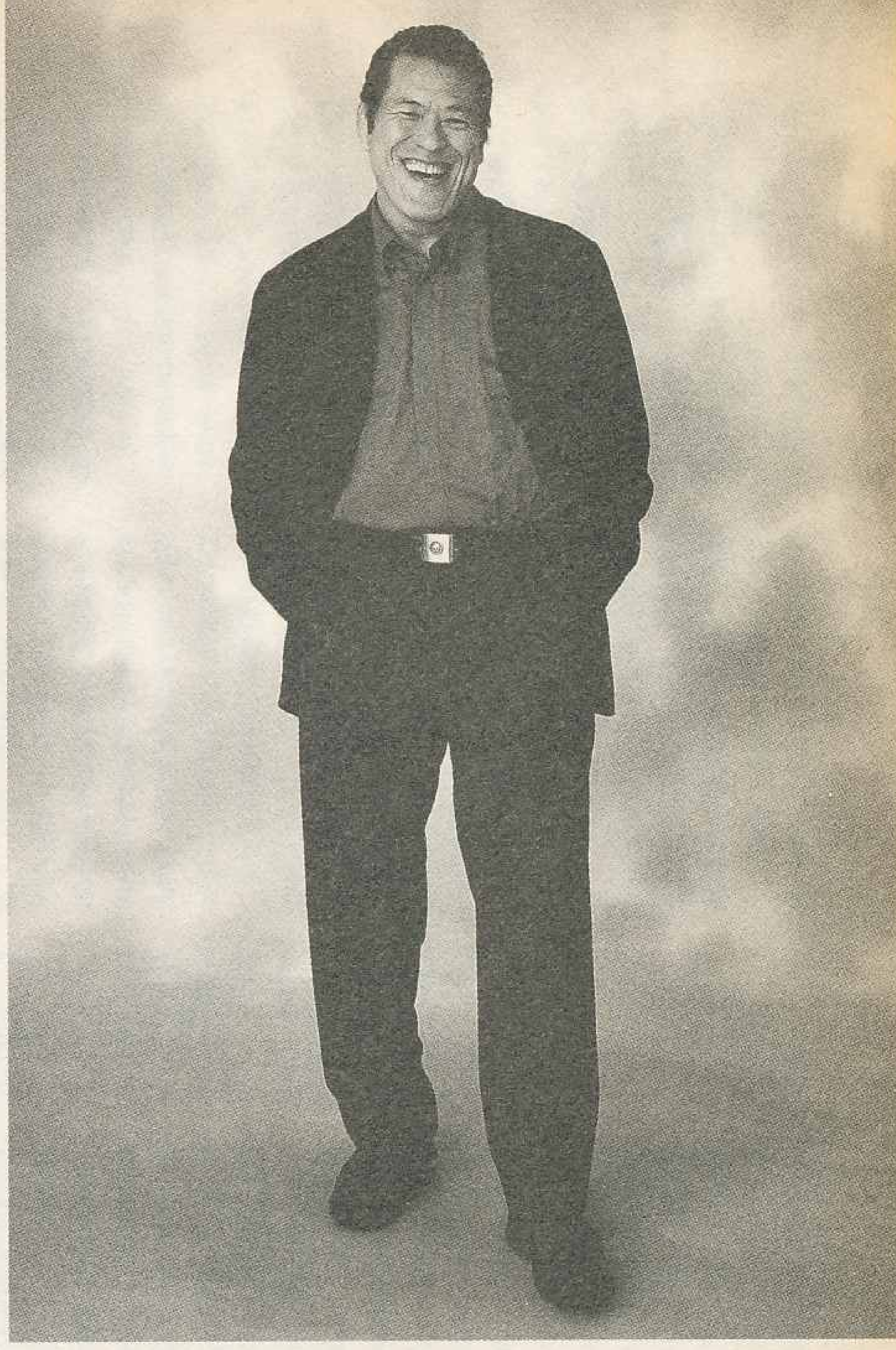
加治　やっぱりそうなっちゃうんだよな。小川のことはかなり絶賛してたんだけど。「アイツはモノが違うよ」ってよく言ってたから。俺、猪木に騙されて京都の断食道場にも連れて行かれたんだけど（笑）。帰り際に小川も来てて、ロスでもよく会ったから小川を抱え込んで行くんだと思ったんだけど。小川はいまでもＵＦＯ所属なんじゃないの？

―まあ、かなりややこしい関係なんですけど（笑）。

加治　藤田とか橋本はどうなの？　猪木とべったりなわけじゃないんでしょ？

―皆さん、適度な距離を置いてますね。結局、猪木さんを中心とした一夫多妻制ができてるだけなんですよ。

加治　それは俺も前に言ったことあるんだよね。「何で一本に絞らないの？」と。とりあえず全員に話を振って動かすのは、良いように見えて一番悪いシステムなのに。



猪木とは利害関係はないから十分楽しんでるよ



【かじ・まさかず】1948年生まれ。83年、ロスでアントン総帥と知り合う。不動産業などを経て執筆活動へ。『キャッシュを沈めろ！』『L.A.血の聖壇』『借りた金は忘れろ！』『プロが教える買ってはいけない住宅』など著書多数。

―みんなに声を掛けた上で一番いい条件を選ぶから、猪木さんにとって見入りは良かったんでしょうけど。

加治　いや、そうはならない。鈴木宗男なんかは、この業種はコイツって決めたらずっとそいつを通してやるわけですよ。だからいまでも命懸けで守る人がいるわけで猪木の場合はみんなにバラまいちゃうから裏切られるわけでしょ。話を振られた方は「俺だけに教えてくれたのかな」って思っても、じつはみんな知ってる。

―猪木さんに秘密は存在しないですからね（笑）。

加治　まともな奴はそれを聞いたら一気にバカバカしくなるんだよね。

―結局、猪木さんが気にかけてた人って誰なんですかね？（笑）。

加治　……これがいないんだよ。

―あ、いませんか（笑）。

加治　猪木に親友っていないじゃん。俺ぐらいって思ってたけど、それもどうだか（笑）。まあ、プロレスでは「新間が、新間が」ってよく言ってたから、良くも悪くもキーマンだったんでしょうね。

―それはいい話ですよ！　結局、選手よりも何度もくっついたり離れたりしてきた仕掛人のことを気にかけてたわけですね。

加治　そうだと思うよ。

―新間さんも猪木さんのことはずっと気にかけてましたからね。藤波さんにしても猪木さんに惚れ抜いて入った人だからこそ、あれだけ文句を言われても残ってるんでしょうし。

加治　それは藤波だけに限らず、プロレスラーって全員そうじゃないの？　それはそれで、反面に回ったときに思い切りその反動が出ちゃうからヤバイんだけどさ。

―長州さんにしても、溜まりに溜まった物が爆発させて辞めましたからね。

加治　そうだね。佐山も同じだよ。

―それは猪木さんの暴露本を書く人にしても同じで、みんな結局は猪木さんのことが嫌いじゃないことが読むとわかりますからね。

加治　それはそうですよ。「内なる猪木」との付き合いはホント素晴らしいし、いつも楽しかったんですから（ニッコリ）。

【03年10月8日／都内某所にて収録】





仰天情報!!『WRESTLE-O』（仮称）が大仕掛け!!

な、なんと"1・4"開催に向けて絶賛始動中!!

史上最大の松の内興行戦争ボッ発か!?

この噂は本当なのか？

構成／編集部
Design／さおとめの事務所







1・4、アントン総帥はどこへ——!? そして、オーガちゃん、オーガンは!?

Z いやあ、『WRESTLE—0』（以下、『W—0』）絡みで、驚くべき情報を手に入れましたよ!

Y お! 聞いたんだ。でもまぁ、あわてずに、まずはおさらいしておこう。8月下旬発売の『紙プロ』で、「『PRIDE』を主宰するDSEが、犬猿の仲だったZERO—ONE&UFOと仰天合体をはたし、10月下旬に純プロレスの新イベント『WRESTLE—0』を開催へ——」と、『W—0』の動向を初めてスッパ抜いたわけだけど、この10月下旬開催はものの見事に流れた。ズバリ言って延期になったというか（笑）。

X ただ、延期といっても噂だけが先行したかたちで、正式発表はされてないからね。イベントの概要が何かしらアナウンスされたわけではないから、正確にいえば延期という表現は当たってない。10月25日にDSEが横浜アリーナを押さえてて、『W—0』で使用する準備がされていたのは事実だけどね。

Z じゃあなんで10・25に行わなかったのかってことなんですけど?

Y 前々号でも言ったけど、DSEとUFOに〝クリアするべき問題〟があって、それが全面的にクリアされきれなかったということもひとつはあるんだ。でも、それよりも、もともとDSE側はこの新イベントに対しては、まずはZERO—ONE&UFO、プラス全日本とキチンとした信頼関係を構築してからスタートしたいという思いが強いから、10・25を強行する考えはなかった。10月にできなかったら、第2、第3の準備はあったんだよ。

X 実際に、10・25開催も無理すればできたんだけど、イベントの細部を詰めきれなかったことや、ソフトの中身を厚くしたいという ことから、ポジティブな意味で10・25開催を見送ったらしいね。

Y その後も11・29もしくは12・7にさいたまスーパーアリーナ開催案が持ち上がったんだけど、より面白くしたいという思いは変わらず、これも見送ったんだよね。

X その開催案を見送ったのは、ゴールドバーグのスケジュールが合わなかったからという事情もあるんだよ。ゴーバーの話をするには『WRESTLE—1』（以下、『W—1』）の話をしなきゃならないんだけどね。

Z ああ、『W—1』が自然消滅みたいな形になっても、ゴーバーは3試合まだ契約が残ってますからね。

X 業界内部からは猛烈にバッシングを喰らった『W—1』だけど、純粋にDSEが主宰していたわけじゃないからね。石井館長プロデュースという名目のもと、DSEの関連会社であるUという会社と、いまはK—1の関連会社といってもいいRという会社が共同開催していたイベントで、中身についてはRが任されてたんだ。で、そのRが『W—1』開催を睨んでゴーバー獲得に動いたわけなんだけど、契約先はさっき言ったDSEの関連会社であるUなんだよね。だから、Uはゴーバーを使う場をつくらなきゃならない。

Z ゴーバーの契約のくだりはややこしいですけど、『PRIDE』のブレーンでもあったRが急速にK—1寄りになっていったことが要因で、RとU、さらにRとDSEは離れていったわけですよね。結局『W—1』が頓挫したのもRとU、あるいはRとDSEの確執が原因で、それが結局『PRIDE』とK—1の溝に繋がっていってしまったと聞いてますけどね。『W—1』用に取ったゴーバーを金銭的にも掟破りの〝逆〟置きみやげにして、RがK—1傘下になってしまったわけですよね?

Y K—1傘下っていう言い方が合ってるかどうかはわからないけどね（笑）。RとUは、そのゴーバーのこともそうだけど、『W—1』で被った金銭的なことでモメたってことも聞いたね。Rが急速にK—1寄りになっていったのがそのことに端を発しているのか、それともRがUやDSEと袂を分けたから金銭的にモメたのか、そのあたりの順番はわからないけどね。

Z いや、でもですね、そういった舞台裏のことよりも凄いことを聞いたんですよ!

Y 1・4だろ?

Z あちゃ〜。それ、さっきから言いたくて言いたくて仕方なかったのに、先に言われちゃったなぁ……。

Y じゃあ、いろいろ細部を説明してよ。

Z いや、10・25を見送って、11・29や12・7を見送った後、それよりももっと刺激的な日取りが候補に上がってきたんですよね。それが来年の1・4ってわけですよ! まだ未確認だけど、恒例の新日本・東京ドームに敢えてぶつかってもやる方向って聞いてます。

X それが実現したら松の内では史上最大の興行戦争になるよな。会場は俺が探った限りでは都内もしくは都内近郊になるはずだよ。いずれにしろ1万人規模以上の会場になるっていう話だ。

Y となると、10・25で流れた横浜アリーナ、11・29や12・7で候補に上がってたさいたま



ゴーバー再来襲!!

出陣するのはムタか!? 黒師無双か!? それとも武藤か!?

ゴーバーは『W—0』で、そのスケールに合った本領を発揮することができるか? 巨大なインパクトを残せるのか? また『W—1』の主力だった全日本勢の出方は? 現れるのはムタか、黒師無双か、それとも武藤敬司か——!?

スーパーアリーナ、両国国技館、有明コロシアム、NKホール、代々木第一体育館なんかが候補に上がってくるね。

X でもそれだけじゃなく、プロレスや格闘技のイベントでは使用したことのない場所や会場も視野に入れてるっていうから、どこになるかはわからないよね、現時点では。

Y 面白いね。発展的な意味で10・25を見送って、DSEは会場のキャンセル料まで数百万単位で払ってるわけでしょ。やる前から相当なリスクを背負ってる。イベントの中身についても『W―1』の二の舞にならないように根っこの部分から考えてるって聞くし、ZERO―ONEなどの団体サイドとも前向きな姿勢で向き合ってる。「プロレス」というものを真正面から捉えて、新しいイベント、あるいは新しい時代のプロレスを構築していこうとしてるのは確かだよ。敢えて1・4にぶつけるっていう発想も、新日本にとっては面白くないだろうけど、マット界を活性化させるっていう意味では面白いしね。

Z 『PRIDE』繋がりで、高田統括本部長のプロレス復帰はありえないんですか？

Y 高田本人は否定してるけど、いまの『PRIDE』での〝高田劇場〟での勢いを、ぜひプロレスのリングにも落としてほしいね。試合をするしないは別にして（笑）。

Z ところで『W―0』っていうのは、正式名称なんですかね？

Y 『W―1』は、プロレスを足がかりにした、K―1のプロモーションとしてのイベントだった。本当にプロレスの新イベントを始めるなら、俺たちは『1』からなんて偉そうなことはことは言わない。『ゼロ』から始めるぞ！ 新イベントの名称は『WRESTLE―0』や―！』と破壊王が叫んだとか叫ばないとかっていう話から、その名称が仮称としてひとり歩きしていったんでしょ？ 『W―1』に対抗する意味でもインパクトはあるし、他の名称が候補として上がってるっていう話も聞かないし、おそらく『W―0』でいくんじゃないか？ ただ、DSEはゆくゆくは海外にも発信したいと考えてるらしいから、海外で通りのいい名称に変更される可能性もあるけどね。

X この『W―0』は、観戦するというよりは、ファンが能動的に参加していける空気感を持ったイベントにしたいっていう話だよね。

Y 要は、日本にはまだまだ根付ききってはいない、真の意味での「エンターテインメント・プロレス」。それをソフト的にもビジネスモデル的にも根付かせるための礎にすることに本気って話だよ。

Z WWEとは違う形で、『W―0』用のディーバを養成する、アメリカですでにそのオーディションをやったっていう話も聞きましたね。ディーバたちの活躍だけでも一般マスコミが飛びつくようなストーリーづくりを考えてるっていう話もありますね。

Y ZERO―ONEや全日本に上がってる選手や、変身キャラ、ビッグネームはもちろん、加えて〝未知の強豪〟や、〝未知のキャラ〟たちが続々参戦してきそうな雰囲気だね。なんでも、アフリカに『魔法プロレス』というまま人気の団体があって、そこのエースは、5分過ぎまではマトモに試合をやるんだけど、5分過ぎたらレフェリーや対戦相手に魔法をかけまくって、意のままに操るやつがいるらしいんだ。あげくのはてには「インチキだ―！」って叫んだ観客にまで魔法をかけてしまうという強烈な未知のキャラがいるらしいんだよ（笑）。そいつが来るかどうかはわからないけど、そういう謎の多い方面までスカウトの触手を伸ばしてるらしい（笑）。

X バカ負けするくらいのエネルギーは、ZERO―ONEが関わる以上、よくも悪くも放射されるだろうな（笑）。でも、肝心の試合のプロセス、クオリティは、会場規模やイベント規模に背かないものになっていくはずだよ。映画のヒーローがリングに登場するっていう話も進んでいるみたいだし。

Z でも、ホントに1・4にやるとしたら、現時点で新日本とK―1が手を組んでるわけだから、「新日本&K―1」対「DSE&ZERO―ONE&UFO」の形がハッキリしてきますよね。

Y K―1との関係は密接ではないにしても、新日本とパンクラスはガッチリだから、パンクラスが「新日本&K―1連合」に加わるっていうことになるかもね。「DSE&ZERO―ONE&UFO」には全日本がどう関わるかの興味もある。

Z 10・25に『W―0』が行われていたら、11・3のK―1が全面協力する新日本とぶつかっていたわけですよね。場所も同じ横浜アリーナだったたし。その幻に終わった興行戦争が、より大きなスケールで1・4に現れてくるってことですね。

Y 新日本とK―1が接近した裏では、さっき名前の出てきたRの影も見え隠れしているし、11・3は新日本とK―1が歩み寄って開催する形を変えたプレ『W―1』と言いえなくもないからね。新日本の1・4にもK―1勢が大挙襲来することも考えられる。

X でもこの興行戦争が実現していい方向に



〝正義のヒーロー〟ゼブラーマン降臨!!

哀川翔の主演100本記念作品として、監督：三池崇史、脚本：宮藤官九郎という豪華キャストで来年春に公開される〝正義のヒーローもの〟映画『ゼブラーマン』（配給：東映）。その主人公が『W―0』のリングに舞い降りるという。いったいその正体は？ その敵は？（写真は映画の最終形態ではありません）



マスカラス一族まで飛来か!?

プレデターやトム・ハワードなどZERO-ONE常連ガイジンももちろん参戦候補だが、『プロレス・華燭の典』にふさわしく、マスカラス、ドス・カラス、ドス・カラスJr.、ジコデリコJr.のマスカラス一族が飛来の噂ものぼっている

ソフト面もハード面も大改革!!
プロレスの未来の礎となるか——!?

作用したら、業界の活性化にはなるよな。破壊王も開催候補が1・4と聞いてバツグンにモチベーションが上がってるっていうし。

Z 『W—0』と新日本はホーガン獲得でも争ってましたからね。結果的にホーガンは新日本を選びましたけど。

X そのホーガン参戦も思ったほど爆発しなかったね。『日本に真のエンターテイメント・プロレスを根付かせるためにやって来た〝神〟』というポジションで、『W—0』にでも来てたら、いままでと違う展開で今後も面白かったと思うんだけどね。極端に言えば、試合をやらずに休憩後の猪木劇場みたいなパフォーマンスをやるだけでも、新たなホーガン神話が生まれたでしょう。

Y まぁ、『PRIDE』vsK—1という格闘技界の図式が、はからずもプロレス界の方にも飛び火したわけだけど、そういうキナ臭い話とは別に、『W—0』は、プロレス界の未来を構築できるようなものを組み上げたいという意志は間違いないよ。

Z さっきも出ましたけど、全日本は『W—0』にどう関わるんですか?

X 武藤と石井元館長の関係があるから立場が微妙な全日本だけど、基本的に選手の貸し出しや協力はしていきたいという話だね。全日本勢が新日本のリングに上がるっていうのは考えにくいし。むしろ、ホントに『W—0』を1・4に決行して新日本の向こうを張るとしたら、破壊王じゃないけど全日本のモチベーションも異常に上がるんじゃない?

Z やっぱり、1・4に行うとしたら、一番気になるのは猪木さん、つまりアントン総帥の動向ですよね。

Y この間の10・13のドームに強烈なダメ出しをした猪木さんは、本気で新日本に対して怒ってる。だから、PRIDEエグゼクティブ・プロデューサーという立場から電撃的に『W—0』に登場することも考えられる(笑)。

X 刺激を与えるという名目でのスケールのデカイ嫌がらせね(笑)。でも、猪木さんはストロング・スタイル復興を願ってエンタメ・プロレスを否定しているから、『W—0』のコンセプトにどう反応を示すかわからないよ。破壊王やオーちゃんとの関係も微妙といえば微妙だし。

Y 結局、年末、年始はこの人がどこにいるかっていう話題で持っていかれるのかな(笑)。

X でもそれに絡んで微妙な陰を落としてるのが、オーちゃんなんだよ。聞くところによると、オーちゃんがUFOとは別会社に所属して、業務提携という形でUFOと関わっていくっていう話があるんだ。

Y 大晦日は『猪木祭り』になるかどうかはともかく、日テレもUFOのガチンコ社長、川村さんの肝入りで格闘技イベントをやることに名乗り出ているから、オーちゃんがそこに参戦するっていう可能性も出てくるんだ。となると1・4に『W—0』が行われたとしても、物理的に出れないこともありえる。

X それどころか、「オーちゃんが新日本に上がりたがっている」という噂もチラホラと聞こえてくるんだ。もともと『W—0』は、オーちゃんのマネジャーであるUFOのS氏とDSEが、あるきっかけで和解の方向に向いて立ち上がってきたイベントだったんだよ。中身についてはUFOが音頭を取ってやっていくはずだったんだ。

Z それで某新聞でZERO—ONEの中村(祥之)さんが「『W—0』の鍵を握ってるのはSさん」って言ってたんですね。

X ただ、UFOの今後がガラッと変わる可能性も出てきたからね。オーちゃんが大晦日の件で川村社長とジックリ話し合ったのは事実だし、川村社長は新日本の役員だしね。ZERO—ONE本格参戦以降、ある意味、距離を取っていた両者がそれをきっかけに、小川直也の今後について再び意向が重なったという可能性はなくはない。まぁ、それによってオーちゃんとZERO—ONEや破壊王との関係が壊れることはないんだろうけど。

Z 川村さんはオーちゃんを新日本に上げたいでしょうしね。まさかホーガンに続いて、オーガンまで新日本に取られるっていう悪夢を正月早々見せられるわけですか(笑)。

Y でも、破壊王との関係もあるし、オーちゃんは『W—0』だろう。

Z UFOの動向次第によっては、この『W—0』は、UFOが音頭を取る形ではなく、中身はZERO—ONE主導で行われる可能性もあるってわけですね。で、本当に『W—0』は1・4にやるんでしょうか?

X 現段階では五分五分としかいいようがない(笑)。やったら衝撃度は大きいし、プロレス界にとって大きなターニング・ポイントになる。

Y 幽霊と『W—0』の正確な日取りは出たことがないってことになっても面白い(笑)。

Z いや、1・4に目の前で見せてほしいですよ、『W—0』!

いったいどんな怪奇派、珍キャラが飛び出すのか!?



『W—0』でDSEの企画力・イベント力と、これまで数々の珍キャラを生んできたZERO-ONEの発想がドッキングされれば、アッと驚くキャラが産み落とされる可能性はとてつもなく大きい(このページの写真の選手が出るとは限りません)



シンプル・イズ・ベスト!? 必要最低限の生活用品に囲まれた、ちょっと殺風景なこの部屋の住人は佐々木義人だ。「かつぐぞッ」!?

ZERO-ONE 初の若手リーグ戦「渦巻き杯」開催記念!?

突撃! ZERO-ONE 渦巻き寮

11月シリーズでZERO-ONE初の若手リーグ戦「渦巻き杯」の開催が決定！　渦巻きと言えば団体のロゴマークとしてお馴染みだが、同時に寮の名前にもなっているのだ。今回は若手リーグ戦初開催を記念して、渦巻き寮に突撃ッ!!

突撃隊／チョロ＆さささぃ
撮影／丸山剛史
designed by さおとめの事務所







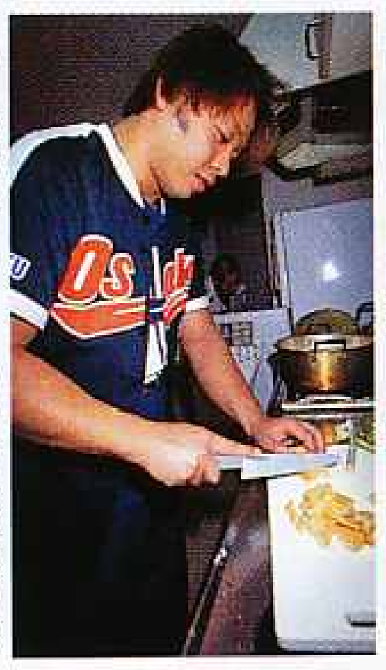


これが「渦巻きちゃんこ」だ!!





冷蔵庫に貼ってある、ちゃんこ当番表によると、取材日の担当は炭谷こと山笠だったが、当日欠席のため寮長の高橋が、ちゃんこを披露してくれることに。材料は上の写真を参照ーッ!





IWA時代はグレート・カブキのお店で働いていたという高橋。カブキ直伝のラリアット鍋を手慣れた手つきで手際よく作り始めた





差入れの鳥肉を調理しようとするも「気持ち悪い」と明石にタッチした高橋。しかし、明石も無理で結局カメラマンがさばいてくれた





遂に完成したラリアットちゃんこ! お世辞抜きで、マジ美味い! さすが寮長! ちなみに、ちゃんこ下手の浪口が手にしている日本酒は差入れのド真ん中! すでに顔は真っ赤です



渦巻き寮の中でも一番賑やかなのがこの部屋。この部屋は先頃デビューしたばかりの明石鯛我と山笠Z信介、そして現在は地元で療養中の崔リョウジの3人が使用している。壁を見れば一目瞭然、みんなモー娘。大好きッ!



こちらの部屋は寮長の高橋冬樹、練習生の浪口君、さらにプロレス留学中のヴァンサック・アシッドの3人が使用している。この角度からはわからないが、手前の壁や押し入れの中には寮長が愛する近鉄グッズが満載!

さすがZERO-ONE!? 寮長自ら大暴走!!



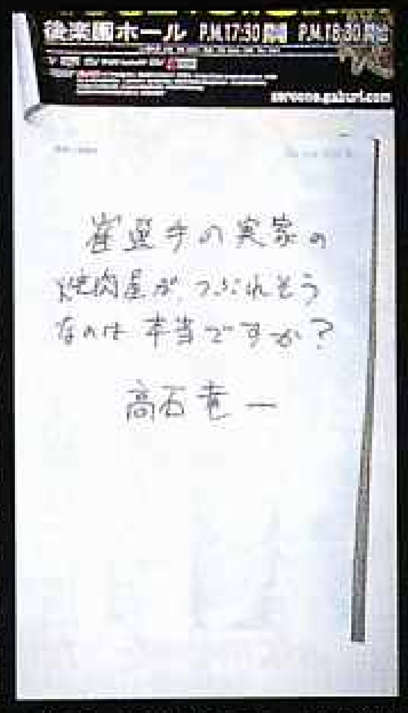
この手の企画ではお約束の入浴シーン。野郎の裸を見せられても嬉しくはないが、これ以上ないほどの満面の笑みに思わずタップ!



貴重品入れから自慢の電子辞書を取りだし熱く語りだした寮長。しかし、こちらの視線は箱の中にある怪しげな女の子の写真に釘付け



エロ雑誌の企画で何度かAVレビューを書いているという渦巻き寮の面々。その中でも一番熱心に書き込んでいたのが寮長だった……



プロレスのポスターなどに混ざって壁に貼られていた一枚の謎のFAX。差出人は高"石"竜一!? 真偽のほどは定かではない……

皆さん、こんばんは。今日はZERO—ONEのピチピチの若手が住んでいる渦巻き寮に来ています。みんな、まだスヤスヤ眠ってま〜す。ムフッ(以上・マーシー風にヒソヒソ声で)。

というわけで、今回は11月シリーズで開催が決定したZERO—ONE初の若手リーグ戦「渦巻き杯」を記念して、個性派揃いの若手レスラーが生活している「渦巻き寮」へ潜入!

プロレス団体の寮というと、新日本の寮や、『紙プロ』での対談で数々の伝説が明かされたUインターの寮が有名だが、果たしてZERO—ONEの寮はどんなものなのか? 期待と大きな不安を胸に渦巻き寮所在地へ到着。「えっ!?」と、その建物のあまりの立派さに思わず住所が書かれた紙を見直してみるが、やはりここで間違いない。想像していたイメージとは裏腹に渦巻き寮は、まだ新築と言ってもいいキレイな高層マンションの中にあったのだ。当然、オートロックのため勝手にマンション内へ侵入はできず、高橋寮長に電話すると「いま開けるのでエレベーターで7階まで来てください」とのこと。マンションの一室ということで入り口には「渦巻き寮」との看板も表札も出ていないが、扉を開けて思わず納得。玄関には、さすがレスラーと思わせるデカいスニーカーがズラリ。さあ、いよいよ渦巻き寮に突撃ッ!

現在、渦巻き寮には寮長の高橋冬樹、佐々木義人、崔リョウジ、山笠Z信介、明石鯛我、練習生の浪口、さらにプロレス留学生のヴァンサック・アシッドの7名が入寮中。取材時には、残念ながらネタの宝庫の崔と山笠の2人が病気&怪我療養のため帰省中で不在。さらにアシッドも外出中とのことで、この日、寮にいたのは高橋、佐々木、明石、浪口の4人。まだまだ旗揚げから3年足らずのZERO—ONEだけに他団体と比べると上下関係はそれほど(というか全く?)感じられず、4人の会話を聞いていても、どっちが先輩なのかわからないぐらいの和気あいあいぶり。破壊王並のイタズラ好きの崔が帰省中というのも大きいと思うが、寮での暮らしぶりを聞いてみると、みんな口を揃えて「快適です」と即答。

ちなみに今回の取材に先立ち大谷晋二郎に渦巻き寮の若手に対しコメントを求めると「お前ら寮に女を連れ込むなよ! それだけです」と意味深な発言。大谷からのメッセージを4人に伝えると、すかさず明石が「当然です! 寮に女なんか連れ込んじゃダメですよね!? 許されるわけがない!!」と寮長の方を見ながらニヤニヤ。寮長は「そ、そうですよ。まあボクは連れ込まなくても平気なんですよ。外で済ませますから」と、こちらもニヤニヤ。さすが●俗の名刺を山ほど持っている寮長らしい発言である。何がなんやら……。

実際のところ、建物だけではなく寮の中も思ったよりもキレイだった渦巻き寮。しかし、きれい好きの佐々木的には、まだ不満らしい。「寮長への要望? もう少し掃除をさせるように下の人間に指示してほしい」とポツリ。早速この件を寮長に伝えると、「あぁ。でもボクは人に指示を出す前に自分でやっちゃうんですよねぇ」と苦笑い。ちょっと頼りなさも感じる寮長だが、撮影になると、お気に入りの近鉄のユニフォームをみんなに手渡し「はい、これ着て!」と有無を言わさないところも。このようにモー娘。と近鉄をこよなく愛する寮長のもと、渦巻き寮の若手レスラーは明日のメインイベンターを夢見て日々精進中なのだ。押忍!!

の実態！そして自己主張!!



ZERO-ONE 渦巻き寮長&天然系ファイター
高橋冬樹【たかはし・ふゆき】

【たかはし・ふゆき】1975年6月24日、新潟県加茂市出身。得意技はハイブリッジ・ジャーマン。平成10年、IWAでデビュー。その後、NOAH練習生を経て、平成10年、ZERO-ONEに入団。スカパー！の中継を見るために五反田の漫画喫茶に通うほどの近鉄ファン。前腕の筋力アップのためバッティングセンターにも通っている。187cm、107kg

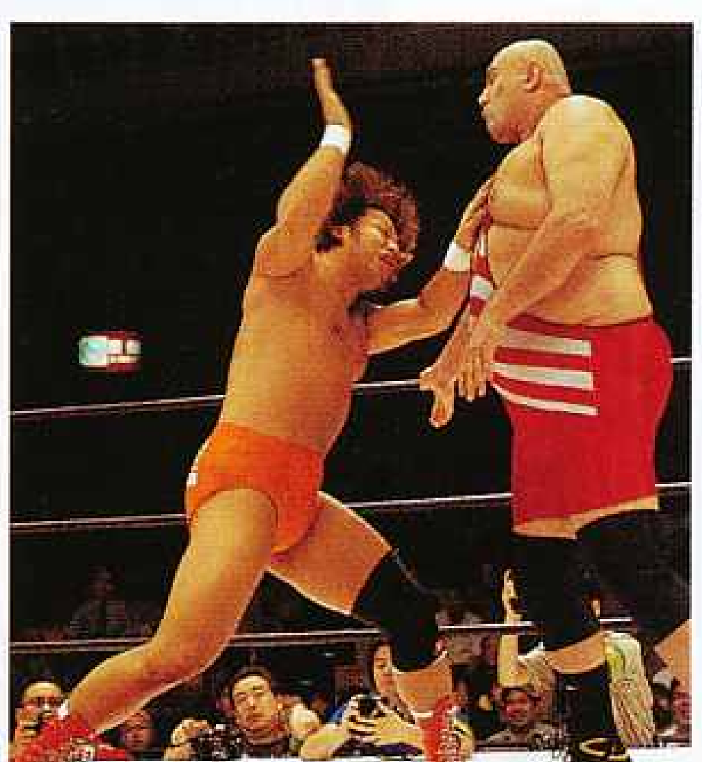
『渦巻き杯』で優勝したら海外修行に行きたいです！

4代目「渦巻き寮」寮長にして近鉄バッファローズ&モー娘。大好き男が語るZERO―ONEマットでの野望、そして寮長としての責任感とは？

★

高橋 『渦巻き杯』についてですか？　なんか新日本のヤングライオン杯みたいで面白いなって思いますね。みんなもそうでしょうけど、やっぱり出るからには、もちろん優勝を狙っていきますよ。それを目標にやんないと、やる方も観る方も面白くないですもんね。一番意識する選手は全日本の石狩太一選手ですね。なんでかというとですね、この前、石狩選手の地元の北海道で負けちゃったんですよ。かなり悔しかったんで、もし出るんだったら借りを返したいですね。優勝したらですか？　佐々木さんも言ってたみたいですけど、ボクも海外に行きたいんですよ。言葉ですか？　ボクは電子辞書持ってますから大丈夫ですよ（自慢げに）。これさえあれば外人と話できますからね。それに一応英検3級も持ってるんで（笑）。

「ROWDY入りを狙ってる」ってボク言ってました？　あぁ、あれはですね、なんかの取材の時に「高橋さんの好きな野球に例えたらROWDYにどれぐらい入りたい？」って聞かれたんで、「2割5分ぐらいですかね」って答えたんですよ。

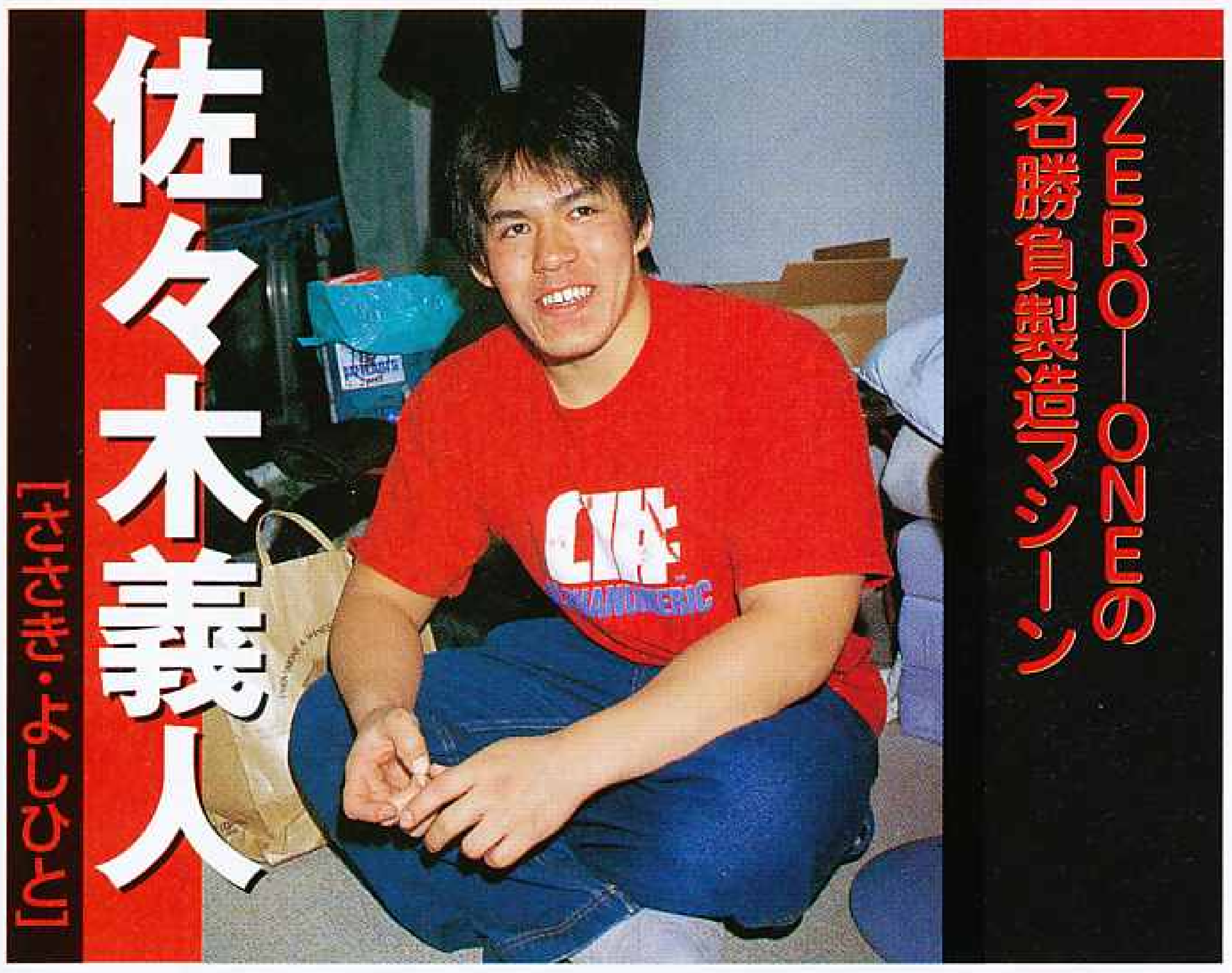


恵まれた体格を活かし、最近は外人との対戦も増えてきた高橋。ガファリブラザーズの往復ガファリの日本で最初の犠牲者でもある

それでだと思います（笑）。だから、どうしてもROWDYに入りたいってこだわってるんじゃなくて、炎武連夢に入ることが自分の向上に繋がるんだったら炎武連夢入りを狙いますからね。

ボクは「向上心」って言葉が凄い好きなんで、向上できる所があればROWDYでも炎武連夢でも入りたいですよ。入りたいっていうか利用したいっていう感じですよね。……こんなもんでいいですか？　ボクはプロレスは大好きなんですけど、プロレスの話するのは嫌いなんですよ（笑）。ボクは基本的に野球評論家ですから。あと、たまにAV評論家なんですけどね（笑）。エロ本の企画で、ちゃんと仕事としてAV評論やってるんで。

寮長として気をつけてることですか？　やっぱり、寮で博打やったり、大谷さんが言ってるように女連れ込んだり、あとタバコ吸ったりっていうのはダメですね。あとは、ちゃんと練習してキチンと食事して睡眠取ってっていう。身体作りには、その3つが必要ですから。それをしっかりやって、遊ぶ時は遊んでっていうメリハリが大切だと思いますね。こんな感じでいいですか？　これからバッティングセンターに行かなきゃいけないんで（笑）。



ZERO-ONEの名勝負製造マシーン
佐々木義人【ささき・よしひと】

【ささき・よしひと】1982年3月12日生まれのA型、埼玉県出身。得意技はアルゼンチン・バックブリーカー（別名「かつぐぞ！」）、スピア。デスマッチに憧れFMWへ入団。FMWでデビューを果たすも、団体が崩壊。その後、2002年春ZERO-ONEへ入団。団体内最年少ながらキャリアはすでに3年という、微妙な立場に属している。176cm、95kg

優勝者には海外修行と『火祭り』の出場権をください！

ここ最近の熱い闘いぶりには、ファン、関係者の評価も急上昇中の佐々木義人。そんな佐々木にとっての『渦巻き杯』、そして渦巻き寮とは？

★

『渦巻き杯』ですか？　出られるのはもちろん嬉しいですけど、若手のためにチャンスをあげるっていうつもりだったらあんまり……。別にそうやってチャンス作ってもらわなくても、「自分でやるからいいよ」って感じですね。ただ、出るんだったら優勝しかないです。しないといけない、って感じですね。……渦巻き杯で優勝したら『火祭り』出れますかね？　自分は『火祭り』に出たいんですよ。この間の『火祭り』に出た人たちを見てて、みんな熱いって言ったらちょっと違うんじゃないのかなぁって。あそこに出てた人たちなんかよりも自分はもっと熱いと思ってるんで。

自分にはリング上で仲間とかいないですけど、前は（黒毛）和牛太と組みたいとかあったんですよ。でも今は炎武連夢に入っちゃいましたしね。……ぶっちゃけ、自分が炎武連夢に入って和牛太の立場になりたいですね（笑）。和牛太って、あんまり炎武連夢って感じがしないし、自分だったらいろいろアピールするのになぁって（※その後、和牛太は10・10後楽園で炎武連夢を追放……）。



最近の試合は、その日のベストバウトと評価されることも多い佐々木。10・10後楽園大会からコスチュームを黒から青にチェンジ！

坂田（亘）さんのベルトも、もちろん獲りたいですけど、今はなんていうんですかね……（沈黙の後、笑）自分、ZERO―ONEの中で迷ってるところがあるんで。何やっていいかとかわかんないんですよ、正直。いろんな選手と組んだり闘ったりっていうのがヤなんですよね。

あ、海外行きたいですね。海外修行。大谷さんも、海外行くとホントに人間的に変わるって言ってたんですよ。それ聞いてますます行きたくなりましたね。海外は、この間のサイパン合宿しか行ったことないんで（苦笑）。渦巻き杯の優勝者には『火祭り』の出場と、海外修行っていうのも条件に入れてほしいです。優勝して行けることになったら、大谷さん田中さんをいきなりブッ倒すくらいの勢いで帰ってきたいですね。

寮ですか？　居心地いいんで、逆に自分、出たいんですよね。一人暮らしがしたいんです。大谷さんが「寮に女は連れ込むな！」って言ってたんですか？　あ、それは自分絶対ないんで！　連れ込まないっていうか、連れ込む人いないんで（苦笑）。それに寮に連れ込むくらいなら風俗行きますね。……い、いや、冗談ですけど（笑）。

「渦巻き寮の若手レスラー」



大谷晋二郎からのメッセージ

「渦巻き寮」の若手に一言?

お前ら寮に女を連れ込むなよ! それだけだ!!



ZERO—ONEの未来を支える超大型新人 明石鯛我 [あかし・たいが]

【あかし・たいが】本名・土井一央。1980年11月12日、兵庫県出身。元暴走族だけに酒とタバコは13～14歳から始めたという明石。酒は今でも飲むがタバコは二十歳でやめたという。酒、タバコとくれば次は女だが、「そんな早くなかったです(苦笑)。でも昔の仲間は、みんな4～5歳の子供がいます」。さすが元暴走族! 198cm、115kg

『渦巻き杯』? 出れるなら、いけるところまでいきたい!

9・14札幌大会で横井宏考相手にデビュー戦を行った2m級の超大型新人・明石鯛我。未来のZERO—ONEのエースに初インタビューを敢行!

★

どうも、はじめまして明石鯛我です(笑)。格闘技歴は柔道です。でも、かじってたっていうぐらいで何もできないですけど(笑)。あとはアウトロー(苦笑)。あ、いろんな噂流れてるんですか? 暴走族? それはホントです(笑)。喧嘩が好きで小学校の頃からよくやってたんですよ。7割は勝ってると思うんですけど、3割は負けてますね。400戦無敗? 絶対それは無理ですよ(笑)。ZERO—ONEに入ったきっかけですか? 暴走族やめてからフリーターを2、3年やってたんですよ。まあ俗に言うパチプロを(笑)。その後、母がやってた店の手伝いをしてたんですけど、その頃にプロレスラーになりたいって思って調べて、ちょうど募集してたのがZERO—ONEだったんですよ。テスト受けた時は、ほとんど練習してなかったんで、多分体格だけで採用してもらったと思うんですけどね。ありがたい話で(笑)。ZERO—ONE入団前に某団体にいたって噂もあるんですか? それも本当です(苦笑)。実は2年前に●●●に入って5日で逃げちゃったんですよ(苦笑)。当時は、まだプロレスに対する情熱が足りなかったんだと思います。

デビュー戦はホントに突然でしたからね。大谷さんに呼ばれまして「今日の第0試合な」って言われて「第0試合? あっ、デビューや」と思って時計を見たら、あと10分しかなくて(笑)。リングネームもコールされて初めて知りましたからね(笑)。「誰のこと言ってんだろう? あっ、俺か!?」って感じでビックリしましたね(笑)。

目指す選手は、やっぱり(橋本)代表です。あいうオーラのある選手になりたいですし、代表みたいな気迫のあるプロレスをしたいですね。得意技? ボクはどっちかというと技が少ないんで(苦笑)。あと高い所もダメですし、多分コーナーポストには一生登らないと思いますよ。登っても1年に1回とかのペースで(笑)。だから、やるんやったら地上戦というか肉弾戦で(笑)。体格を活かしたパワーボムとか一撃必殺の技を身に付けたいですね。派手な技っていうよりインパクト重視で。『渦巻き杯』ですか? もし出場のチャンスをもらえるなら、いけるところまでいきたいですね。どこまでできるか分からないですけど(笑)。



見てみ、この身長! オッキーの2倍は軽くある!? ミルコ戦へ名乗りをあげた全日本の河野にも「若干ボクの方が勝ってます(笑)」



ZERO—ONEのある意味驚異の練習生 浪口修

【なみぐち・おさむ】1980年8月30日、福岡県出身。プロレスを見始めたのは高校生になってからの浪口。レスラーを志した理由は仮面ライダーやウルトラマンのような正義の味方になりたかったから。破壊王イズム!?

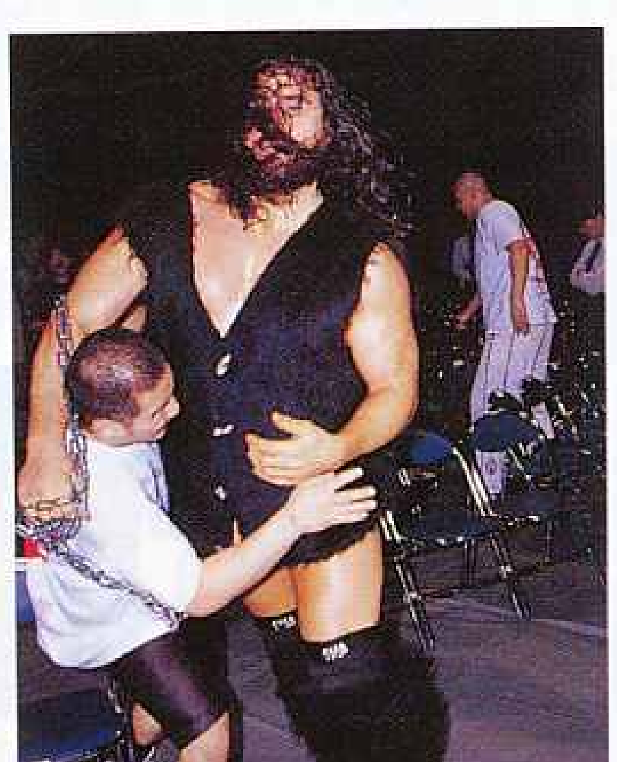
渦巻き寮の若手に話を聞くと「アイツの毒舌は凄い!」と、みんなに言われているのが練習生の浪口君だ。プレデターの入場の度に吹っ飛ばされている名物練習生の素顔に接近!

★

浪口 寮から逃げ出そうと思ったことですか? それはないですねぇ。追い出されそうになったことはありますけど(笑)。みんな、ボクの毒舌が凄いとか言ってませんでした? エッ!? ボクが「保坂と和牛太は炎武連夢の2軍だ」って言ってたって? そんな失礼なこと言ってないです。それは嘘です。……でも実際それに近いようなことよく言っちゃうんで、ちょっと認めざるを得ないというか(苦笑)。デビューできないのも、それも災いしてるんじゃないかなって(笑)。口は災いのもとって言いますし。ただ、弁解させていただくと悪意はないんです! 普通にポッと出ちゃうだけなんですよ。それが余計タチ悪いとも言われるんですけどね(笑)。デビューへの手応えですか? う～ん、ないですねぇ。空を切るような感じで(笑)。やっぱり、崔さんとか見てたらムチャクチャでも人を惹きつけるところがあるじゃないですか? 自分にはああいうものがないんですよ、気迫っていうか。……いや、気迫はあるんですけど、それが伝わらないっていうか。そこの部分をちょっと修正しないとデビューはまだまだ無理でしょうね。

でも、デビュー戦だけは本名で出たいですね。たぶん無理だと思いますけど(苦笑)。

デビューへの手応えですか? う～ん、ないですねぇ(苦笑)



プレデターの入場時、毎回のように吹っ飛ばされている浪口。デビューは、いつになるかはわからないが、その日を期待して待とう!

ZERO-ONEで"晋"vs"真"闘争ボッ発!!

～あなたは、どちらがお好きですか?～

O 最近のZERO—ONEってどうよ?

H やっぱり、破壊王がケガしてから厳しいとこはあるけど、10・10の後楽園大会での金村&黒田vsROWDYのアジアタッグ戦とか、かなり盛り上がってたよ! 試合後、ベルトを奪った金ちゃんが「オレも一応アジア人だから、このベルトを巻く資格はある」って言ってたのも笑えたしね(笑)。

O そういえば、その後楽園大会では、黒毛和牛太が炎武連夢を除名されたばかりか、中村専務から契約解除通知まで渡されたんでしょ。

H そうそう。どこまでアングルなのか全くわからない(笑)。ひょっとすると前号の『紙プロ』の武藤インタビューでの「あんなショッパイのを押し付けて」っていう発言が影響してるのかもしれないけど(笑)。

O ガハハハ! それは十分あり得るな(笑)。

H まあ和牛太には"ぞ〜"っと頑張ってくれとしか言えないけどね。

O くだらねえな(笑)。ところで破壊王の体調は?

H 右肩はだいぶ動くようになったみたい。札止めの大盛況となった12日の熊本大会ではOH砲でプレデター組と闘ったんだけど、久々に「俺ごと刈れ」が炸裂したからね。

O へぇ〜、合体殺法が出せるまでになったんだ。新間さんは「みっともないからOH砲は合体技はやめろ!」って『ファイト』の連載で熱くなってたけどね(笑)。

H 11月5日に"真世紀"ならぬ"晋世紀到来"ってタイトルの大会も決まった大谷もかなり頑張ってるけど、やっぱり12月の両国大会は破壊王がいないと始まらないからね。

O 破壊王は10月のシリーズ前は山篭もりしながらケガの治療をしてたみたいだけど、両国までにどれだけ回復できるかだよな。

H たしかに山に篭もって治療はしてたみたいなんだけど、破壊王は映画の撮影中だったらしいよ(笑)。例の『一軒家プロレス』の。

O あ、遂に動き出したんだ(笑)。やっぱり映画だから、この間の大日本の一軒家プロレス以上のものを期待したいところだけど。

H いやいや、比べモノにならないってよ。製作費3億で新築の家を二軒もブッ壊すみたいだから(笑)。しかも、そのシーンは撮影済みで破壊どころか爆破させちゃったらしいから(笑)。

O ガハハハハ! さすが破壊王!(笑)。

H あと、ソニンやニコラス・ペタスも出てるらしいからね。さらに佐野史郎まで(笑)。

O ソニンやペタスが一軒家を破壊するところは見たいけど、どう考えても佐野史郎は一軒家プロレスって感じはしないよ!

H 逆にどういう役か楽しみでしょ? まあ、ZERO—ONEも一軒家も破壊王なくして創造なしってことだよ!



ZERO-ONE11月シリーズ日程

11月5日(水)『晋時代到来』選手会主催大会
※十勝沖地震義援チャリティー試合
千葉・沼南町総合体育館　試合開始18:30
11月7日(金)『Refusion』※小川直也参戦
東京・後楽園ホール　試合開始18:30
11月14日(金)
宮城・石巻市総合体育館　試合開始18:30
11月21日(金)
福島・いわき市平体育館　試合開始18:30
11月22日(土)
埼玉・深谷市民体育館　試合開始18:30
11月23日(日)※小川直也参戦
長野・北御牧村ふれあい体育館　試合開始15:00
11月24日(月・祝)
茨城・つくばカピオ　試合開始15:00
11月30日(日)
群馬・ぐんまアリーナ　試合開始13:00
★お問い合わせ/ZERO-ONE　03-5730-3401

読書の秋! 食欲の秋!
そしてZERO-ONEグッズの秋(?)到来!

ハシフ・カーンTシャツ『破不可』〈イエロー〉
¥3,800　~~S~~ or M or L or ~~XL~~



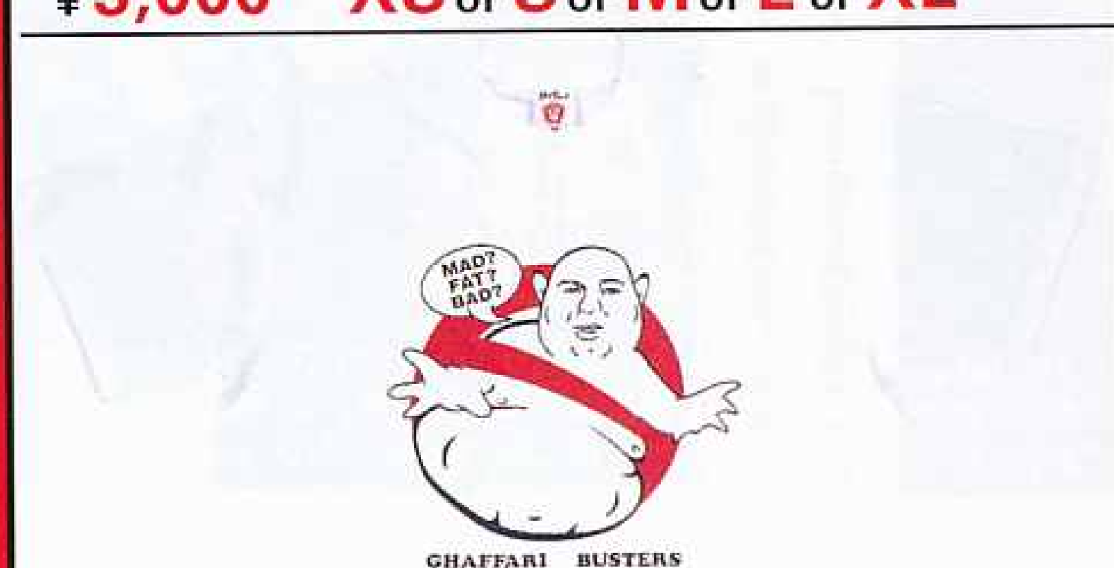
ハシフ・カーンTシャツ『破不可』〈ホワイト〉
¥3,800　~~S~~ or M or L or ~~XL~~



ハシフ・カーンパーカー『破不可』
¥6,000　~~M~~ or ~~L~~ or XL



ガファリ・バスターズTシャツ〈ホワイト〉
¥3,000　XS or S or M or L or XL



マット・ガファリTシャツ〈キナリ〉
¥3,500　S or M or L or ~~XL~~



Mr.フレッド『TWOOO』パーカー
¥6,000　M or L or ~~XL~~



Mr.フレッド『TWOOO』Tシャツ〈カーキ〉
¥3,800　~~S~~ or M or L or ~~XL~~



Mr.フレッド『TWOOO』Tシャツ〈ベージュ〉
¥3,800　~~S~~ or M or L or ~~XL~~



Mr.フレッド『TWOOO』Tシャツ〈ネイビー〉
¥3,800　~~S~~ or M or L or ~~XL~~

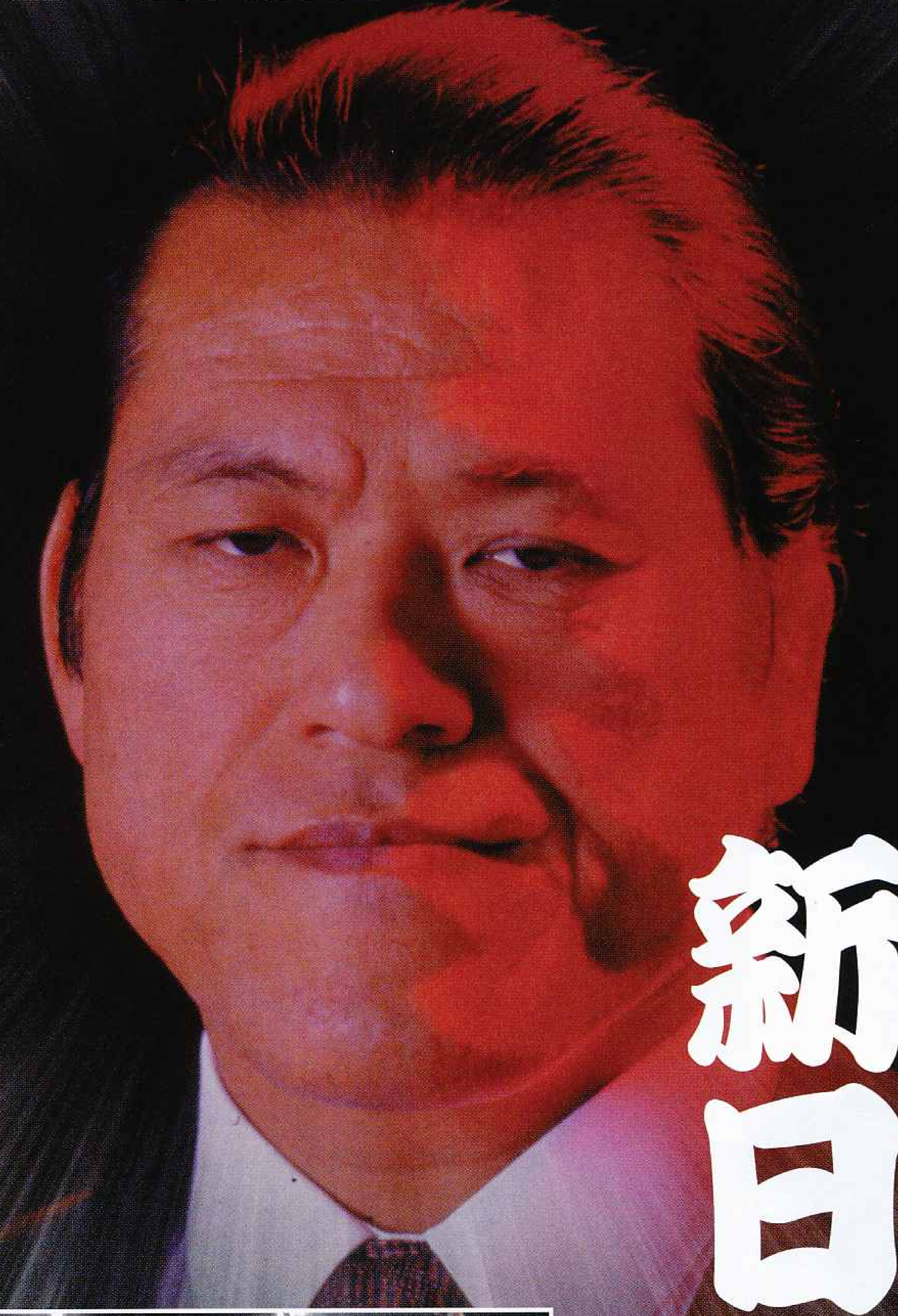


通販完売商品は直販店にある!?
【『紙プロ』ウェア常備ショップ】★チャンピオン(TEL.03-3221-6237)★東京イサミ(TEL.03-3352-4083)★リングソウルZ神戸(TEL.078-393-3514)★宮城・スクワット(TEL.022-264-8160)★大阪・少年ジェッター(TEL.06-6541-3551)★福岡天神ビブレ・GROUND COBRA(TEL.092-711-1021)★三恵格闘技SHOP長崎(TEL.095-824-8658)★浜松市・Buddy(tel.053-450-7888)

藤波の社長辞任？ ありえますよ!!

脳みそ腐ってんじゃねえのか、新日本!!

俺の名前を安売りして
猪木軍VS坂口軍なんて
くっだらねえことやりやがって！





構成／ジャン斉藤
Design／さおとめの事務所

ドームのリングに姿を現さず、
“神”降臨アングル大不発！

アントン成田会見!!

9月25日の帰国会見で、噂されていた復帰をズバリ否定！ 真・猪木軍の後見人プランに対しても、怪訝な表情を見せたアントン総帥。そして10・13東京ドームまでのおよそ2週間を日本で過ごしながら、口を開かないばかりか、ほとんど姿を現さず。なんと決戦当日にも姿を見せなかったのだ！ はたして〝神〟の真意はどこに？ 大会翌日の14日、恒例・成田空港会見ですべてを激白ダーッ!!

猪木 （記者陣に向かって）良い顔してますか？ 悪い顔してますか？ どっちですか？

――…………（記者陣ノーリアクション）。

猪木 ダーッハッハッハッ！ ……はい！ どうぞ!! ンムフフフ。

――昨日の東京ドームに猪木さんがいらしてなかったようなんですが……。

猪木 いや、居てたよ。行っておりましたよ（やけに丁寧に）。

――どちらで見てたんですか？

猪木 えぇ？ どこも見てない！ ♪ん～ん～ん～（何か口ずさむ）。

――いつごろ帰られたんですか？

猪木 んん？ ホーガンの試合の途中かな。

――最後に猪木軍vs新日本軍をやったんですけど。

猪木 あぁん？ 見なかったよ。

――何か理由はあるんですか？

猪木 いや、ないです。

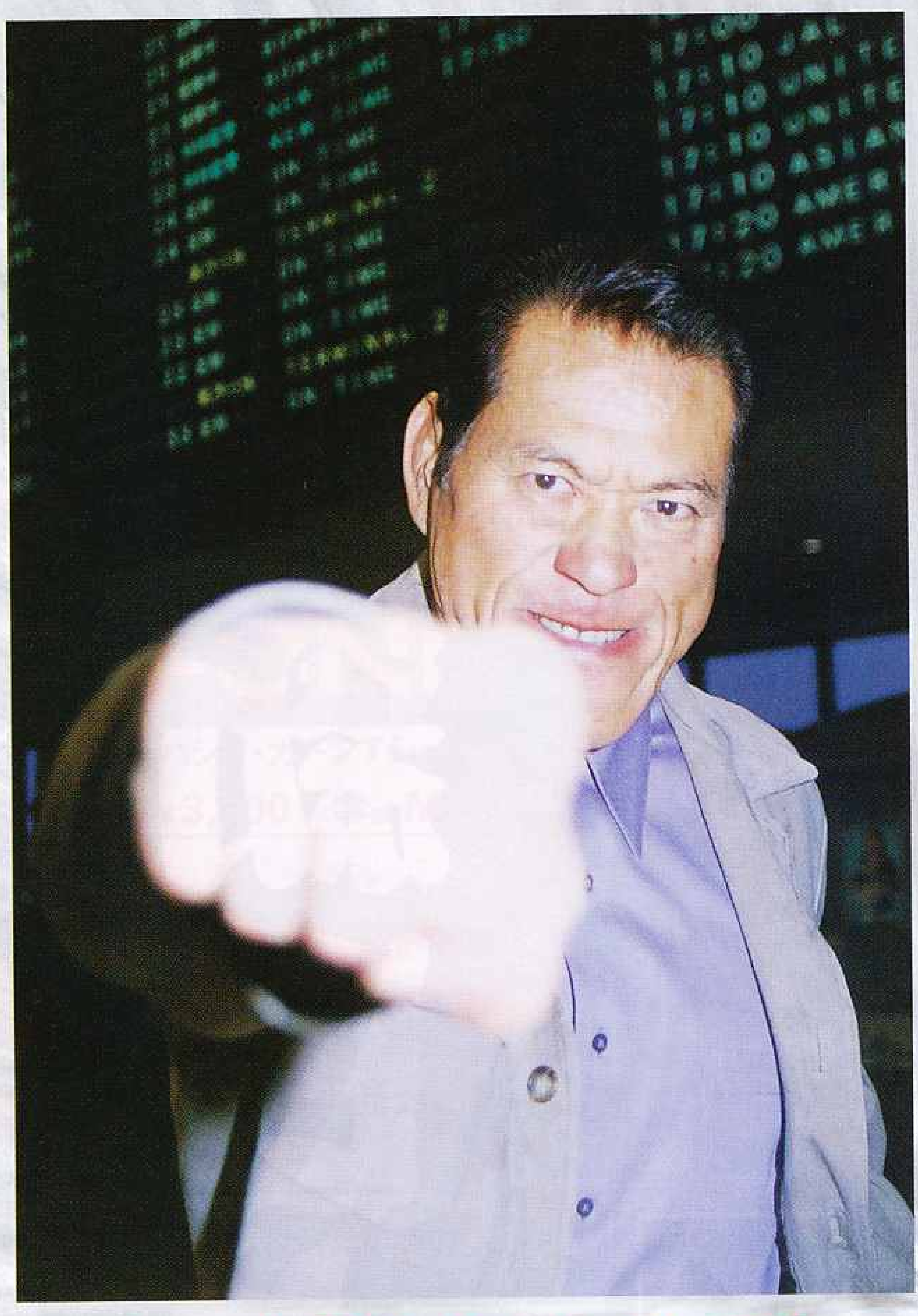
――……あまり見る気がしなかったんですか？

猪木 だから最初から行かないって（俺は言ってましたから）。それが俺からのメッセージです。まぁそうはいっても、ブラジルの選手も来てるんで……と、思って行ったけどね。昨日は新日本（ドーム興行）始まって（以来の）最悪の入りじゃないの（主催者発表47000人）。もう、新日本の話するたんびに俺が文句を言ってるかんじで面倒くさい。だいたいなあ、猪木軍vs坂口軍なんてくっだらないマッチメイクする事態が末期的症状だって。前から言ってるように、知恵がなさ過ぎるというか。ホーガンにしたって、「昔の名前で出ています」ってかんじで価値が下がってる。皆さんが見たとおりだよ。皆さんとまったく視線は一緒ですよ、俺は。それよりも、メチャクチャ厳しい（新日本内部の）改革案の第2弾に入るんで。そうしなければ、来期の新日本はホントにどうなるんだ？ っていうぐらいの厳しい状況ですから。まあ、前にも言ったように、レスラーがやってる会社は全部消滅しましたよって。そういう意味でいろんな部分の善し悪しはともかく、ある意味の拘りであったり、ビジネスとしての知恵が（新日本には）ないというか。逆に言えば、これは昨日までのことであって、これから生まれ変わったらどうなるか？ っていえば新日本には大きな期待が（ある）。アメリカの市場も、WWE自体が一時の力が非常になくなってきたという。逆に言えば、絶対支配だったものに対抗できる。もし、これが3年ぐらい前に、そういう発想をしたとすれば、WWEに叩き潰されていたかもしれない。でも、アメリカの空気がそうなってきてますから。格闘技の方も混乱してますけど、選手側に立ってみれば、いろんなものに出たいわけで、可能性を試してみたいというか。そういう枠の中で、いろいろ表に出せない話がいっぱいありますけど。まぁそういうことで、この混乱は俺たち（新日本）が知恵を絞り出す機会でもあるんで。新日本も第2弾の改革に入ります。これはメチャクチャ厳しいと思います。

――具体的にはどのように？

猪木 俺が全面に出ていくかもしれないし。このままだと終わりになりますからね。全面というのは、俺が社長になるとかそういうのじゃない。あるいは、完全に（俺が持っている新日本の）株を人に渡して、俺が退くか。どっちかですから。いつもいつもストレスを抱えているのはしんどいし、俺自身が。新日本の歴史というのは、30何年と大きいんだけど、それは昨日までの話で。今日っていうのは違うわけだし、そこを幹部がどういう風に受け止めるのか？ 俺が「末期的症状」という言葉を使い始めたのは5年前ですからね。

5年前の時点で手を打つなり、体質を変えるなり、スターをつくるなりしないから、非常に「時すでに遅し」という状況で。だから、いまだに「猪木」という名前を引っ張り出すわけだからさ。もう、坂口（征二）が出たことは、それはそれで本人のアレで構わないけど、そういうのに頼らないといけない興行体質ですからね。俺が現役（でやれるん）だったらよ、やめ（引退）はしねえよ！ 身体もボロボロだし、リングに立てる状況じゃねえから。俺だって「猪木」というプライドを持ってる。昔、声援してくれたファンもいるわけだし、それはたしかに「もう一回見たい」というのはあるかもしれないけど、それ（現役時代）以上のものを見せられるわけができないんだから、そんなことを俺はしません。自分のプライドが許しませんよ。だから話題づくりに（俺を）使うのは構わないよ。（復帰させようなんて）本気で思ってたらブッ殺すぞ、コイツら！ 脳みそ腐ってるんじゃねえか、テメエら!!（怒）。ファンには昨日、申し訳なかったんだけどね。これは俺のメッセージです、ズバリ！ 彼ら（新日本）が目覚めるのは難しいかもしれないけれど、もっと現実的なことを言えば、メシの種をテメエで潰すのは勝手だし、俺はいままでは「造反」「造反」の連続だったから、（新日本を）守る側でやってきたけど、俺を敵に回せば一発で潰してやるよ、こんなもん!!（怒）。「アント



人の名前をナメやがって！ 俺を敵に回すなら 一発で潰してやるよ（怒）



アントン総帥を神輿に担ぐべく、高山が出迎えに現れた9・25成田会見。記者より「真・猪木軍」プランを振られると、「俺は彼らに任せたんだから！ 何だっていいよ！」と、突き放すかたちで真・猪木軍結成を了承。この時点からすでにアントン総帥は冷め気味であった

ニオ猪木」という名をナメるんじゃねえよっ
て！　俺が命懸けでつくってきた名前を、そんな安売りを勝手にコイツらがして、俺の周りが怒ってますよ、俺以上に。俺がもしやるんだったらって「もし」なんかないけどさ。東京ドームを1人でいっぱいにしてやるよ。俺は客をいっぱいにする方法は知ってますからね。

真・猪木軍vs新日本本隊のマッチメイク、「アントニオ猪木」の名前の使い方、煽り方に怒り心頭のアントン総帥!!　今後の新日本の方向性にも言及した。

猪木　（新日本に）テコ入れはしないです。このままほっときます。こないだはテコ入れしたけど、途中で辞めました。だから、（11・3）横浜アリーナが次に来てるけど、これで無様なマネしたときには内閣総辞職じゃないけど、完全に新しい血をドーン！　と入れない限り（ダメでしょう）。まぁそれこそ末期的ガンの手遅れというとこまできてますから。そういう意味では、いろんな俺のブレーンというか、新日本を心配してくれる人がいっぱいいるんですよ。いろんな意見を言ってくれて、そういう意味では恵まれた会社である。その意見を受け入れるようとするか？　それを受け入れられない場合は、俺としてやらないといけない問題もありますから。

改革第1弾として「新日本・改造」を託された、アントン総帥の後見人といわれる経営コンサルタントのY氏がいる。アントン発言を素直に受け取ると、Y氏の発言力がさらに強まっていく可能性が濃厚だ。

――藤波社長とは話されたんですか？

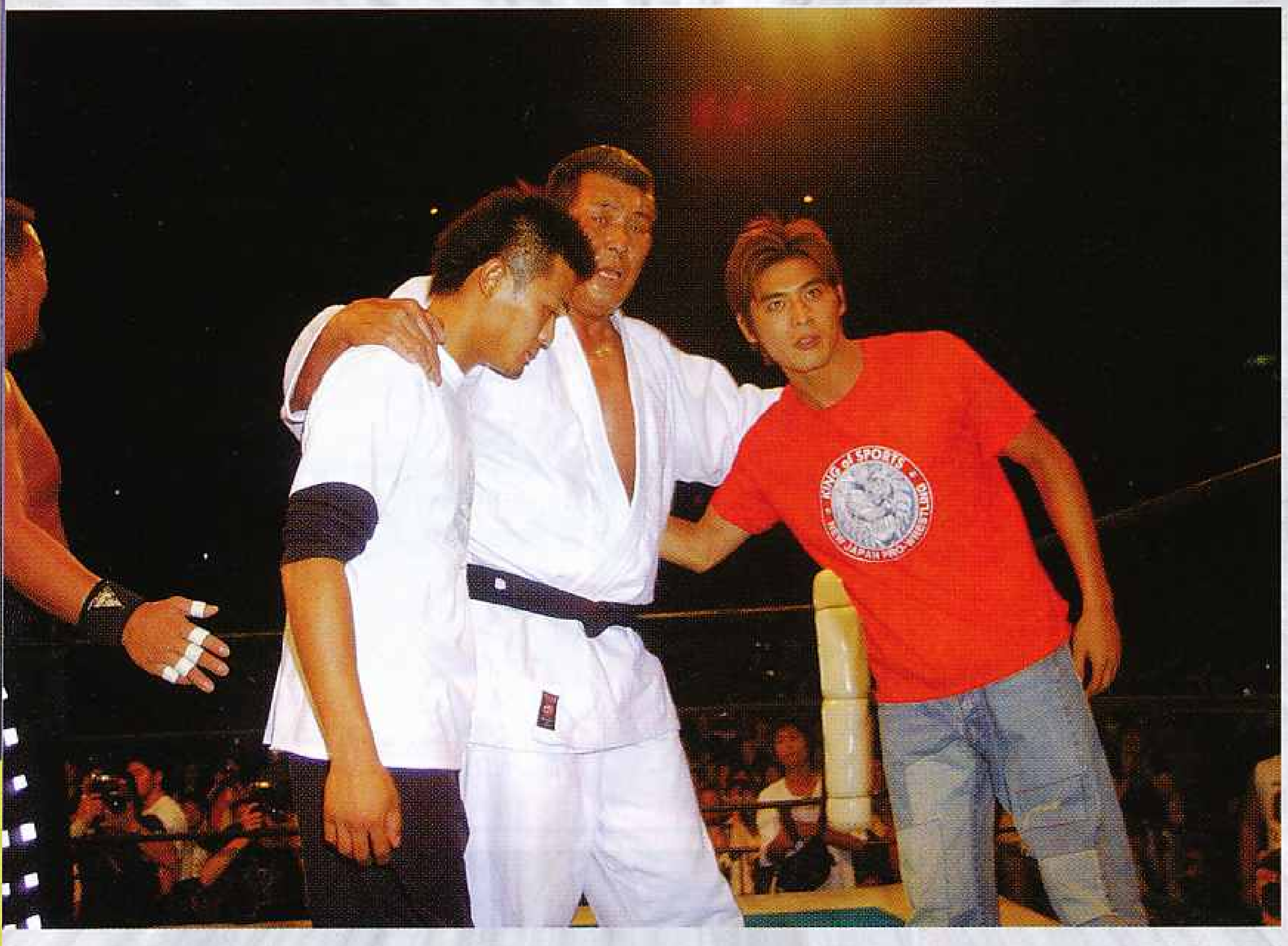
猪木　会ってないです。まぁ彼が"ある発表"をすると思います。

――それは猪木さんの意向ですか？

猪木　いや、意向じゃないですよ。俺は「プロレスに触りたくない」ってのは何遍も言ってるように。触らないと潰れるから触ってるだけの話で。

――横浜アリーナ大会にはサップが参戦しますけど、サップは魅力的ですか？

猪木　魅力的だと思いますよ。ただ、それに頼るのか、そうじゃない新日本の興行体質を持っているのかと。ホーガンが「出る・出ない」ということを含めてね。俺たちはプロだから、高いギャラを払う以上は、それだけの客が来てくれないことには意味がないわけだから。そういうことがもっともっとシビアにね。この選手が来てくれたから、これだけの客が来てくれてペイできるとか、そういう計算をまったくなしでやるのか？　それともイメージのためにはリスクを背負うのか？



俺のプライドが許さない。現役でやれるんだったらやめてねえよ!!

目ン玉が飛び出るほど高いギャラのホーガンだが、参戦が発表されてもチケットの売れ行きは伸びなかったといわれる。費用対効果の問題も浮上しているのだ。

猪木　今回みたいなケースは、（俺の復帰は）話題としてはあってもいいけど、現実にはありっこないんだから。（年末の猪木）ボンバイエの件でも水面下でいろんなことが動いてますけど、要するに、人様は「アントニオ猪木」という名前を一生懸命持ち上げようと頑張ってくれてる。一方で新日本は人の名前を引きずり落とそうというね。落とそうとは思ってないけども、要するに（俺の名前を）叩き売りをするような。そういう意味では第2弾の改革が始まって、良い方向にいくように期待してますよ。……期待して動かないならしょうがないなと。

――……お話を聞いてると、藤波さんに（社長を）退いて頂いた方がいいというお考えですか？

猪木　そうじゃないんです。あの、それは要するに……それはありえるかもしれないですねえ。現在、こういう問題を提議してるわけだから、それに対してどれだけみんなが真剣に捉えているのかと。そういう意味では、新日本の役割って大きいと思うんですよ。見たところプロレス界全体がね、明日にでも潰れそうなところばっかりですから。俺はカードは持ってますから。何があっても、新日本を生き返すことができる方法は持ってます。仮にトランプにたとえて、俺がジョーカーだとすればだよ。ジョーカーをいつもいつも切ってれば終わりになっちゃうでしょ。ホントはジョーカーなんか切らない方がいいんだけど、切ざろうえないときが来るかもしれないんだから。まあ、（改革第2弾は）楽しみにしといてください。新日本はいつもストーリーがありますよって。ダーッハッハッ!!

関係者　だいたい、そこまで落ちるとゴロゴロ転がって全然止まらないんですけどねえ。

猪木　でも、俺は崖から落っこっても、アゴが出っぱってるからさ。手で止められなくても、アゴで止められるから大丈夫。ンムフフ。

――……『猪木祭り』はどうなんでしょうか？

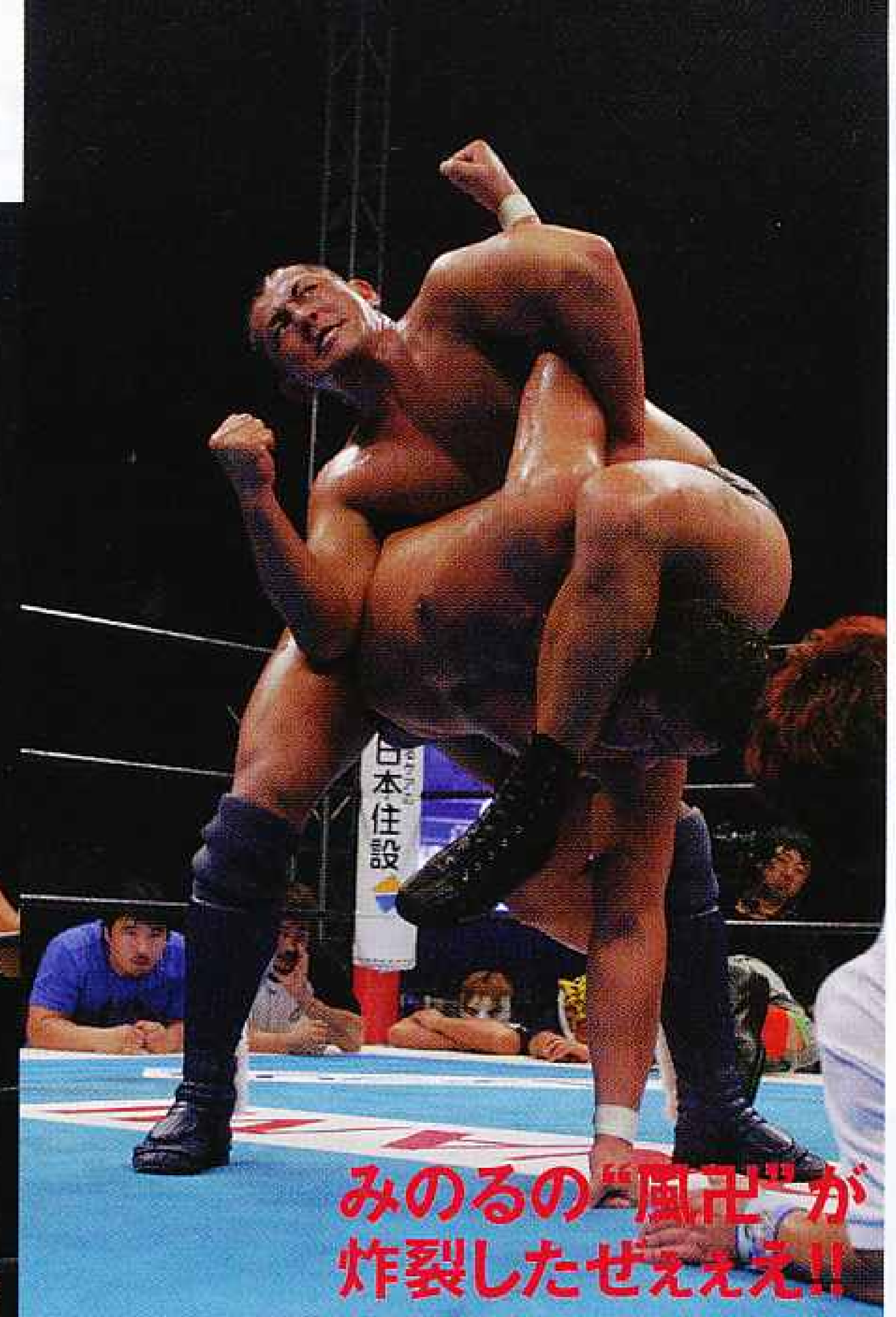
猪木　動いてますよ。ゴッチャゴッチャに動いてるよ。俺は最後の指揮棒を振らせてもらうだけで、まとめ役とかそんなのはイヤだから。それは皆さん（関係者）がやればいい。しょうがないことにいろんな欲望が渦巻いてますからね。3年続けて、ひとつのお祭行事になってるんで小さな欲望で潰したくないってのはあります。良いブレーンがTV局と話し合ったり、動いてますから。いろいろ揉めたとしても最終的には収まるところに収まればいいと思います。もし、いろいろゴチャゴチャしちゃったら、俺は『ジャングル・ファイト』をやればいいだけだから。今日は（自宅がある）ニューヨークじゃなくてロス行き（の飛行機）に乗るんですけど。正式にラスベガスの（イベント）ライセンスが出ると思います。まあ、このイベントは「猪木ワールド」と解釈してもらってくれれば。「猪木ワールド」も非常に大きくなってきまして、その中に新日本もありますよと。あと発表はできませんけど、2月にも"あるでっかいイベント"もあって。（このイベントは）ニュースでも発表されてますから調べてください。これが実現すれば国の問題にもなってくるんで。次に帰ってきたときに、もしかしたら成田（会見をしないで）素通りで"あるところ"に行かないといけないんですけど。ということで、いいですか？　ンムフフフ！

「猪木ワールド」と、最近ドラゴン社長が提唱していた「藤波ワールド」はやっぱり違うのか？　「猪木ワールド」INラスベガス大会は5月開催が噂されている。そして2月の"あるでっかいイベント"とは？　もしかしたら、アントン総帥が帰国する予定の28日に、すべてが明らかになる!?　ンムフフフ！



衣(ギ)を着ればこっちのもんだ！ビッグ・サカ、サップをブン投げる!!

最大の見せ場だったサップとビッグ・サカの柔道対決!! ビッグ・サカは払い腰でサップを二度も放り投げた!! 今度はシングルが見たい！ なお、サップの柔道衣は憲二が持参したもの。帯には「ボブ・サップ」と刺繍する用意の良さだった



みのるの"風卍"が炸裂したぜぇぇぇ!!

天山のモンゴリアン・チョップをスウェイで交わしたり、狂気の表情で卍固めを極めるなど、みのるのアクションはいちいち最高だった！ みのるにはこのまま突き進んで行ってほしいぜぇぇぇ!!

"猪木抜き"ドーム興行、内容的に成功も

痒いところに手が届かず!!

あと一歩!! 残念！

構成／ジャン斉藤
Design／さおとめの事務所

アルティメット・プロレスリング 10人タッグイリミネーション

×ビック・サカ	vs	中邑○
	(3分45秒：リングアウト)	
○中西	vs	中邑×
	(14分47秒：ジャーマンスプレックス)	
○棚橋	vs	藤田×
	(21分49秒：首固め)	
×天山	vs	高山×
	(27分53秒：両者リングアウト)	
○サップ	vs	中西×
	(29分38秒：リングアウト)	
×棚橋	vs	サップ○
	(33分16秒：パワーボム)	
○みのる	vs	永田×
	(39分54秒：卍固め)	

※みのる、サップ、真・猪木軍生き残り勝利



"抱かれたい男No1"坂口憲二が応援団長に付いた新日本軍のMVPは、"抱いたあとに刺された男"棚橋だろう。藤田の一瞬のスキを突いて丸め込むドラゴン殺法で大金星獲得!! 刺傷事件裁判も無事示談で済んだことだし、いよいよ棚橋の時代がくるか!?



いいかぁ、よ〜く見てろぉ！これが新日最強軍だぁ！

猪木現れずとも蒼々たる真・猪木軍!!

オーラ皆無の新日本軍とは威圧感からして違う真・猪木軍!! アントン不在をまったく感じさせなかった。高山は試合後、「ジジイとボンクラが入っているチーム相手の試合に猪木さんが来るわけない」とコメントした。ボンクラとはビッグ・サカ以外の4人を指すのだろう、きっと。

新日本プロレスの皆さん、脳みそ元気ですかーッ!?（ハルカマニアに声援を要求する超人ポーズで）。

新日本プロレスの東京ドーム興行史上、最低の動員数（47000人）となった10・13東京ドーム大会に、アントン総帥が大大大激怒。大会翌日の成田会見で「脳みそ腐ってるんじゃねえか！」と、今回のドーム大会に自身の復帰を企てていた新日本を一喝どころか二喝も三喝も罵倒したのだ。ンムフフフフ！（怒）。

まさしく、触らぬ神に祟りなし！"神"を不用意に触ってしまった新日本は、当日の猪木劇場をキャンセルされるなど、悲しいぐらいに踏んだり蹴ったりで、成田では「ブッ殺すぞ！」とまで脅された！ 選手や関係者の誰もが「復帰」の「ふ」の字すら言い出さなくなったから、よっぽど懲りたんだろう。アントン総帥を"流れ"に噛ませようした努力は認めるが、残念ながら"神"降臨アングルは不発に終わったのだ。

だが、"アントン抜き"のドーム大会自体は、決して悪くはなかった。西村の説法は馬鹿馬鹿しいし、村上の殺気は文句なしに銭が取れる！ メインの10人タッグにも緊張感があった。真・猪木軍には、アントン抜きを感じさせないオーラを出していた。ビッグ・サカが柔道衣を身にまとったサップをブン投げるという仰天光景も見れた。ドラゴンは何にもやってなくても面白いし、みのるの髪型にしたって最高だよ！

しかし、内容は悪くなかったドームだが、それは想像を超えるものではなかった。ホーガンやサップを投入したりして、これだけタマが揃っているのに、ビックバンを起こせな



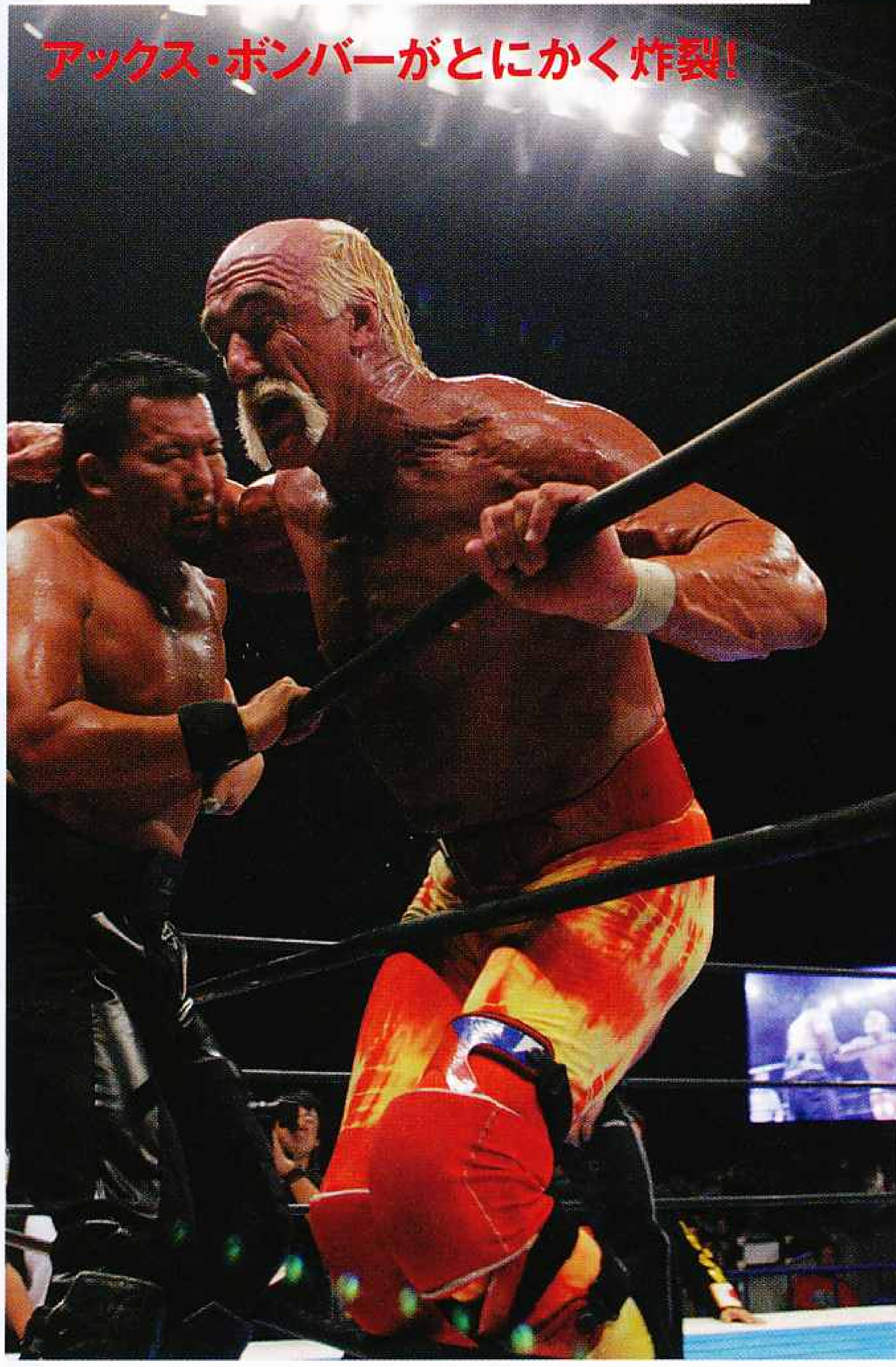
無我説法劇場、ドームにも轟く!!

「人間やめますか？　それともギャンブルやめますか？」と安田に説法。星野総裁にはコブラツイスト！　敗れて魔界マスクを無理矢理被されるだの、無我劇場大爆発!!



ブルー・ウルフ、次期U-30挑戦者に決定

テーマ不在のブルー・ウルフとのU-30次期挑戦者決定戦に敗れた吉江。「客がウンともスンとも言ってねえ」とコメントしたが、まったくそのとおりの内容であった



アックス・ボンバーがとにかく炸裂!



「YOU!!」超人、蝶野をやっぱり粉砕!!

「新日本を最後のリングにする」だのまったく信用のできないセリフを吐き、新日本にカムバックした超人。日本初披露となる“ハリウッド”コスチューム（下には「一番」Tシャツ）テーマ曲「VOOD CHILD」に乗って姿を現すと会場は大爆発!!　試合は猪木・舌出し失神事件の再現するなど、とにかくアックス・ボンバーを炸裂させ て快勝。試合後には、コメントルームでジェフ・ジェレットに襲撃を受けるという、まったくどうでもいい事件も起きた



Jr.ロイヤルランボー、邪道が制す

10選手が参加したIWGPJr.王座の決定戦も兼ねた2分差入場バトルロイヤルは、「コイツがミスターXだ！」とディック東郷を自慢げに紹介して会場を凍り付かせた外道の相方、邪道が見事に制した



凶気の村上、柴田を血祭り!

村上が三白眼で柴田を睨む姿がオーロラビジョンに映し出されると、大きくドヨめく場内。村上の首に200万を懸けられた賞金首マッチは、村上が柴田を大流血に追い込みTKO!!

パンクラス無差別級王座防衛戦も開催　新日バードマッチ



渋谷、新日本初登場 モンゴル人倒す



仰天！ジョシュ、次期挑戦者に小橋健太を指名!!!!



ヒカルドン上陸も TK、怪獣退治!

①キング・オブ・パンクラス無差別級タイトルマッチは、ジョシュが三角絞めを極めて王座防衛!!　スタンドではジョシュと互角以上の打ち合いを見せた高橋だったが、寝技のレベルに差がありすぎた

②セコンドにイズマイウを帯同したヒカルドンだが、TKの巧さの前に柔術怪獣振りを発揮できず。大差の判定でTKが勝利した。新日本バード2連勝のTK、次なる相手は？

③柔道で五輪入賞経験もあるハリウン・ボルドバータルだったが、初バードということで勝手がわからず。ポテンシャルの高さは感じさせたもの、渋谷修身の腕十字にタップアウト

い新日本には歯がゆさを感じる。イズまで呼んじゃって、外部の経費だけでいくら使ってるんだよ、これ！

プロレス自体の求心力が弱まっている影響もあるだろうが、それでもあと一歩、もっとちょっと、得点を叩き出せたと思う。坂口憲二の使い方なんて、本当にもったいない。誰もがサップや高山との絡みが見たかったのに、柔道衣振り回しただけで終わりって……。何に気を遣ってるのかはわからないが、だったら最初から使うなと言いたい。素材の活かせないのは本当に残念だ。

いまだに新日本所属選手で『アルティメット・クラッシュ』に出たのは中西だけという、バード路線導入がいい例であるが、新日本は凄いことを決断するわりには、その実行への踏み切りが弱い。たまに強固に主張するとしても、「ジョシュは新日本のプロレスラー！」と胸を張ったり、「TOAはK－1ファイター！」と言い出して、K－1勢との不思議な対抗戦を始めようとしたりと、微妙にポイントがズレた踏み出しをしてくる。

バードにしてもエンタメにしてもニーズを押さえて、それぐらい厚顔無恥にやれば、なんだか凄いことになりそう気がするが、頑として譲れない信念が根差しているのか？　一枚岩になれない巨大組織ゆえの弊害があるのか？　それともファンのニーズが計れないのか？

いずれにせよ、激しく強烈にわかりやすく伝えるプロレスが、脳みそが腐る前に行われることを信じたい。でも、82ページの11・3横アリのカードを見てると……いいから信じようや！（逆ギレ気味）。

ドラゴン劇場も久々に爆発!!
“脳みそが腐った”
新日本プロレスNEWS

アントン総帥いわく“脳みそが腐った”らしい新日本プロレスの流れをボンヤリ紹介するこのコーナー。あくまでボンヤリなので、シリーズ日程やカードとか、詳しくキチンとした情報は自分で調査してください。

●ドラゴン、社長任務放棄

マッチメイクを巡る大混乱に対して、『ゴング』のインタビューで「最終的な部分ではオレは口出ししない主義」などと、社長任務放棄とも捉えられかねない都合の良い主義を口にした、我らがドラゴン。ビック・サカの復帰については「ボクは一回引いたら二度と上がりませんよ」と自身の場合は否定したが、再三引退をほめのかし、その度に撤回してきたコンニャクだけに説得力皆無。そればかりか「次にリングに上がるときが、新日本プロレスの一線を引くときでしょう」と、いまだ“一線”気分なのだからさすがドラゴンだよ!

●上井氏、ドラゴン投入発言

アントン総帥とのNY対談でドーム決定カード&“神”降臨プランを蹴られて帰国の途についた、上井執行役員。それでもめげずに帰国早々「藤波社長がそろそろヒト肌脱ぐとき」と、“ドラゴン投入”を示唆して話題づくりに走ったが、当のドラゴンは「ボクはやらない」とつれないコメント。会社の事情をまったく考慮しないドラゴンには、高山の「さっさと引退しちゃえばいいのに、やらないなら」の言葉をブツけたい。

●ドラゴン、蝶野を支持

「ホーガン、真・猪木軍投入」を主張する上井氏と、あくまで自身のシングルマッチを強行する構えの蝶野。社長のドラゴンも交えて激論を交わしたが、ドラゴンは蝶野を後押し。まさか、「ロートル引導」をブチ上げた蝶野のゴキゲンを取るために支持したんじゃ……。十分にありえる!

●ドラゴン、ノアに登場!?

GHC Jr.王者の杉浦が誰もがすっかり忘れていたドラゴン減量話を持ち出して、「減量したドラゴン社長に挑戦してほしい!」と訴えた。現役続行のためなら何をしでかすか怖いドラゴンだけに、ノア電撃登場の可能性も十分にありえる。というかあってほしい。

●アントン成田会見

まさかの復帰説が話題を独占する中、成田空港に降り立ったアントン総帥。真・猪木軍の神輿に担ぐべく高山も出迎えに現れて、記者陣も「対・新日本」に対する過激な言霊を期待したが、開口一番「なんなの? まだそこまで話を聞いてないから」と、思い切りローテンション……。結局、「俺はもう任せるって言ってるんだから!」と突き放すかたちで真・猪木軍結成を了承したが、御存知のとおりドームに来場するも、観客の前に姿を現さず。オメエらの思うようには絶対にしねえというか。ンムフフフ(怒)。

●ビック・サカ、ボヤく

「猪木さんが出るんだったら」との条件付きで再出陣を決意していたビックサカだったが、アントン総帥は不出馬。それなのにドームに出場することについて、「いつの間にか、こうなってしまった。ホーガン×蝶野を発表してもチケットが爆発的に売れてはいないし　出て欲しいと言われれば話題もないから出るしかない」などと、切々とヤスカクに語るビック・サカ。「見せ物にはならない」と突っぱねたアントンに「いまさら見せ物になりたくないのは一緒だよ」とまでボヤくのであった。

●『三者三様』恐るべし

早い時期から「リングサイドは完売!」と、各専門誌が絶賛売れ行き報道していた今回の東京ドーム。大会直前までチケットぴあ、e+などでリングサイドが絶賛発売中だったのはきっと気のせいだろうし、そんなことはどうでもいい。問題は、業界一丸となって担ぎに担ぎ上げた大会に、唯一噛みついたのが“王道”『ゴング』の長寿連載「三者三様」だったことだ! 決定カードに不満だらけの新間氏が「おそらく大半のファンの人たちは蝶野―ホーガン戦の結果は、ある程度、読んでいるよ」と、ドッキリするような物言いをすれば、菊池先生は「今週の新間のお父さんはいつになくエンジン全開の感じがするよな」と、フォローすることもなくオトボケ発言。門馬先生などは「秋の体育祭」とまで評するのだからどうにも止まらない。

●嗚呼、天山……IWGP戦延期

一度はドームのメインとして発表された高山vs天山のIWGP戦。「3万人か4万人の客を引っ張ってこれるのか? 牛(天山)が怖いんじゃない。ドームに空席が目立つのが怖い!」と高山は拒否。案の定、アントン総帥も「驚きがない」の一声であっさりキャンセル。11・3横浜アリーナ大会に延期となった。G1覇者・天山の権威&集客力のなさがよくわかるエピソードだ。

●上井氏、噛みつき返す

ミルコ戦に名乗りを上げない新日本勢を挑発した高田統括本部長。しかし、唐突かつ一方的に批判されて黙ってられないのは上井氏だ! 「榊原代表と前向きな話はしたつもり」「そんなにウチのイメージを壊したいか?」「卑怯にもほどがある!」と怒りをにじませて反論! この上井氏の熱をリング外に放っておくのは本当にもったいない。往年の新間氏のように、リング上からバンバン喝を飛ばして頂きたい次第だ。

●永田、逆ギレ①

高田本部長の挑発に対して「高田さんはなぜオレ

イズ、ブラジルで暗躍 パウロ・フィリオ獲得



「学習してください」紳助、中西に指導

に直接言わない」と、『週プロ』インタビューで強気に言い放った永田。ミルコのリベンジについても「ひとつ言えることは動き始めた」と重い腰を上げたことを告白！　ところが、本部長本人を引っ張り出すことまで口にしたものの、記者から具体的なプランを突っ込まれると「……だから少しずつ動き始めてますよ」「だから動き出してるって言ったでしょ（微笑）」と受け流す永田。それでも執拗に話題を引っ張る記者に「だから動き出したんだって！」と最後は逆ギレする始末だよ。

●永田、逆ギレ②

度重なる真・猪木軍の口撃にいよいよゴウを煮やした永田。「そんなに新日本が嫌いならドームで俺たちに負けたら潔く新日本を離脱しろ！　WJでもIWAにでも行っちまえ！」と、口喧嘩に負けた小学生のように逆ギレ。新日本で一番WJ顔の永田にだけは言われたくはない。

●オール阪神、マジギレ

TBS「オールスター感謝祭'03」に出演した天山、永田、中西、タイガーマスクの4人。高山も見守る中、綱引きチャンピオンの大分コスモレディース（主婦軍団）と綱引き勝負。体重差では圧倒的に有利の新日本側だが、実は同じ企画で2年連続黒星。どうやらコツがあるらしく、まったく実践しようとしない中西に対して「学習してください！」と、司会の島田紳介が再三注意。それでも学習しない中西が原因となったのか、またもや惨敗の新日本。すると、オール阪神が「だからダメなんだよッ!!」と、レスラー陣にマジギレ！　天山の何とも言えない表情が映されたまま、そして阪神の怒号がスタジオに響き渡る中、CMへ。嗚呼、天山……。

●中西&天山、連携強化

真・猪木軍とのイリミネーションマッチを控えた新日本隊を激励に訪れた、我らがドラゴン。ドラゴン殺法を伝授するばかりか、勝利に貢献した選手には「社長賞」を授与することまでも約束！　このニンジン作戦に「連係技でヤツらを一掃しようぜ！」と、息を合わせることを誓った中西&天山。大分コスモレディースの一掃も忘れずにな。

●高山、憲二にバカボン発言

エンセンが「私も新日本の一員として憲二君のボディガードをしたい」と志願したり、蝶野が「憲二は絶対に使っていく。特別なコミッショナーでもいい」と言い出したりと、治外法権的立場を確立し始めた憲二。しかし、高山は「オヤジが新日本のお偉いさんだからって調子にノリやがって。ボンボンバカボン、バカボンボンだよ！」と罵倒！　ちなみに、〝バカボン〟発言は、前田日明が田村潔司に「お前、25過ぎたら考えなあかんね。いつまでもそんなバカボンみたいな格好できへんぞ」と、田村ファッションを注意したとき以来の活用である。



ドラゴン、超人に米・出向役員を懇願

●今月のイズマイウ①

最後の最後で追加発表されたヒカルドン×TKのバードマッチ。新日本の「し」の字すら感じられない、リングス臭漂うこのカード。ヒカルドンのビザ申請トラブルが発生したことで発表が遅れたらしい。たしかマネージャーはイズマイウのはずだが……サイボークの件に続き、またしても怠慢か？

●今月のイズマイウ②

ブラジル各地で「1・4新日本ドーム、『猪木祭り』に出してやる！」と、空手形を連発。選手の引き抜きに暗躍中のイズマイウが、ブラジリアン・トップチームからパウロ・フィリオ獲得に成功した模様。次の犠牲者は誰だ？

●みのる、中西に激怒

パンクラス両国大会で新日本フラッグを振りに振りまくって〝バカ騒ぎ〟した中西に、「人のリングに上がって、自分が勝ったわけじゃないのにテメエのところの旗をあんなに広げて」と、鈴木みのるは怒り心頭。高山も「ジョシュ・バーネットがパンクラスで勝ったときに喜んでリング上で新日本の旗を振り回していたバカもいたけど、そういうことを恥ずかしげもなくやるのがいまの新日本」と、外部に頼りっぱなしの本隊を非難。もっともだ。

●TOA、G1タッグリーグ戦に参加

「中西戦に備えて卓球の特訓を積んでいるんだ」「K―1は相撲と同じようなものだと思った」など、迷言を連発したマリオ族最強戦士が新日本に参戦。空港到着時は、ドームの相手（真壁）を知らないばかりか、高山とのコンビでG1タッグリーグに出場することさえも知らなかった模様。さすがだ！

●吉江、タッグリーグの抱負を語る

タッグリーグ戦を控えたIWGPタッグ王者の吉江が「今回は九州シリーズなので、いろいろ吸収しますよ」と、呑気なダジャレで抱負を述べた。動乱の中でこの力の抜け具合。新日本には惜しい人材。まったくZERO―ONE向きだ。

●ドラゴン、ホーガンとビジネス対談

ドーム大会の翌日、ホーガンと対談に臨んだドラゴン。「ホーガンに積極的に協力していきたい」「新日本の米国出向役員になってほしい」などと、社長らしいコメントを連発したが、一番重要であり、3時間にも及んだホーガンと蝶野の頂上会談には、もちろん、やっぱり、当然、呼ばれていないのか？

●蝶野、ドラゴン化

「負けたらトップの座を譲る。ホーガンに現場の仕切りを任せる」と、超人戦に現場責任者の座を懸けることを宣言した蝶野。激闘の末、斧爆弾の前に敗れたが、アッサリ前言をひるがえし「オレはそんなことは言っていない。言ったとしても覚えていない。人間は日進月歩、成長するもんだ」と、ドラゴン張りの言い訳。ドラゴン病が伝染か？

●なぜか強気のドラゴン

「オーナーの期待にすべて応えたいのはヤマヤマですが、体力にも精神力にも限界がある」「横アリとドームがコケたら、総辞職とかクビになる以前に、会社そのものが潰れていると思います……」と、恐怖のアントン会見を受けて悲壮なコメントを残した上井氏。一方、「できる選択の中で最高のものをやった。猪木さんに何か言われてもビクつくことはない」と、社長として全体士気の向上を計らんとしたドラゴンだが、今回のドームでこれといって何かをやったわけでもないから言葉に重みがあるわけがない（いつものことではあるが）。アントンの炎上に油を注ぐどころか、ガソリンをブチまけただけのドラゴンの自殺行為に、上井氏の苦労が増えただけであった。

●永田、中西を絶賛

G1タッグリーグ戦で、試合中にジャマばかりしてくる星野魔界総裁にブチ切れた中西。なんと星野総裁を担ぎ上げ、アルゼンチン・バックブリーカーでお年寄りを失神に追い込んだ。その光景にパートナーの永田は「中西の野人ぶりが戻ってきた！」と頼もしげなコメント……って、野人のハードルが低すぎないか、永田よ。

面白くなきを面白く！ 11.3横浜アリーナ 新日vsK－1見どころ大解剖!!

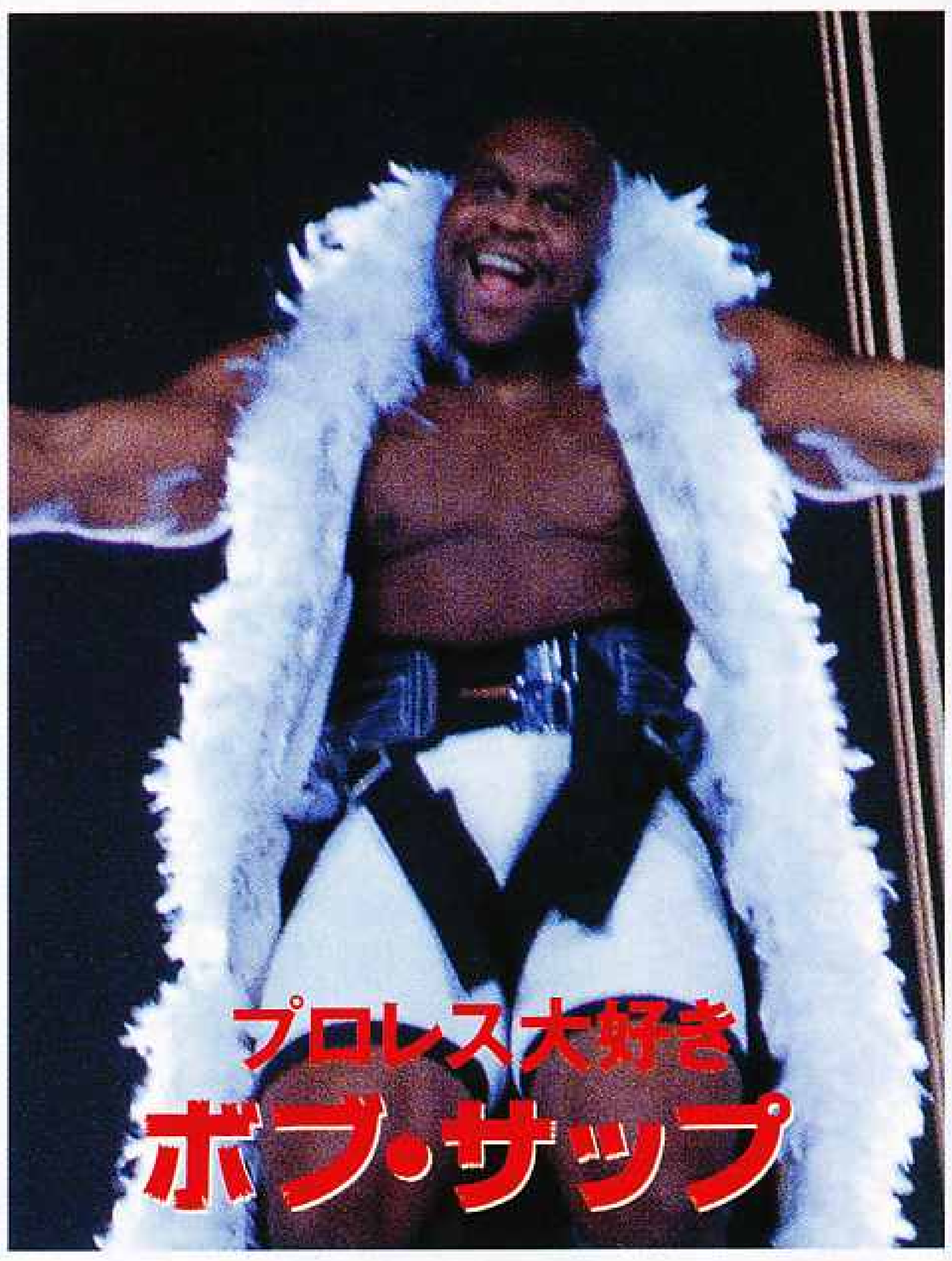
K-1ビックリ人間大賞軍

新日本プロレスに上陸!!

文／中村カタブツ君
Design／さおとめの事務所



南海のペイント力士
TOA



プロレス大好き
ボブ・サップ



ブレーキを踏み続ける暴走大巨人
モンターニャ・シウバ

“モンゴルのアンディ・フグ”vs武蔵の弟実現！
“空飛ぶ自爆ミサイル”サム・グレコも飛来！

キリストが処刑されたのは4月の「13日」。そうなると同じく「13日」である不吉な10・13新日本のドーム大会において、〝神〟アントニオ猪木が姿を見せなかったのもうなづけるのだが、こっちの神は「ホーガンの試合の途中で帰った」のだからよっぽどタチが悪い。

その上、翌日「新日本はオレの扱いがヘタ！『PRIDE』のほうがオレの価値を知っている」「引退したオレにもう一回やれだと。脳味噌が腐ってる！」とか言いたい放題で、新日的には、ホントに処刑したかったんじゃないかとすら思ったりするわけだ。

ともかく、新日ドーム興行史上最低の観客動員を記録した手前、言いたいことも言えない現状では、11・3新日本vsK—1で成果を挙げるしか道はない新日首脳陣。

ところが、神はそこでも「その日、ブザマな試合をしたら内閣総辞職！」と現首脳陣退陣を示唆するプレッシャーをかけてくる。

上井執行役員は「クビになることは常に覚悟してますが、次の横浜（11・3）と来年の1・4がコケたら総辞職とかクビになる以前、会社そのものが潰れていると思います」と自虐的な言葉で一矢報いるのだが、どうする新日！ どうなる藤波!!

そういうわけで、神の一言によって俄然、輝きを増してきた11・3。まずはざっとカードを見てもらいたいのだが、ハッキリ言ってK—1側の選手はモンターニャ・シウバ、TOA、天田ヒロミと最悪の内容だった6・29K—1ジャパンを彷彿とさせる面々。その上、K—1ファイターとしては引退したサム・グレコに、ヤン・〝ザ・ジャイアント〟ノルキヤ、そして武蔵の実弟・TOMOという恐怖の布陣で迫ってくる。K—1トップ選手が出てくるよりも、別の意味でよっぽど怖い男たちばかりだ。

とはいえ、新日側だって負けちゃいない。柴田勝頼vs天田ヒロミの一戦は、谷川貞治K—1イベントプロデューサーが「なかったことにしたい」とまで言った、K—1史上最悪にブザマな試合6・29K—1ジャパンをきっかけとする因縁マッチ。しかも、あの日、柴田はリング上から天田を挑発したのだが、観客は「あのリングに上がってマイクに持ってる人、誰？」って反応だったし、テレビ中継でもカットされたのに、この対抗戦ではトリ！ K—1に対する嫌がらせとしては抜群に面白い。問題なのはリスクを背負って自分たちの興行でやるのはどうかという点ぐらい。

大人の分別があるとは思えないのである。つまり、対抗戦の6試合はK—1ジャパン・プレゼンツとしてまったく別枠で見て、いかにヒドいかを楽しむべきだろう。そうすれば、〝モンゴルのアンディ・フグ〟vs武蔵の弟（技術はあるがハートが弱いと噂）の試合も、ブランコ・シカティックの弟子イワン・ルーデンがなぜか猪木推薦であるのもなんだか納得できるはず。

さあ、どうなるドラゴン！

YOKOHAMA DEAD OUT
～死線を越えた闘い～

11月3日(月・祝)横浜アリーナ
PM3：00試合開始

▼新日本vs真猪木軍三番勝負
IWGPヘビー級選手権
高山善廣vs天山広吉
永田裕志vs鈴木みのる
蝶野正洋　中西学
vs中邑真輔　ボブ・サップ

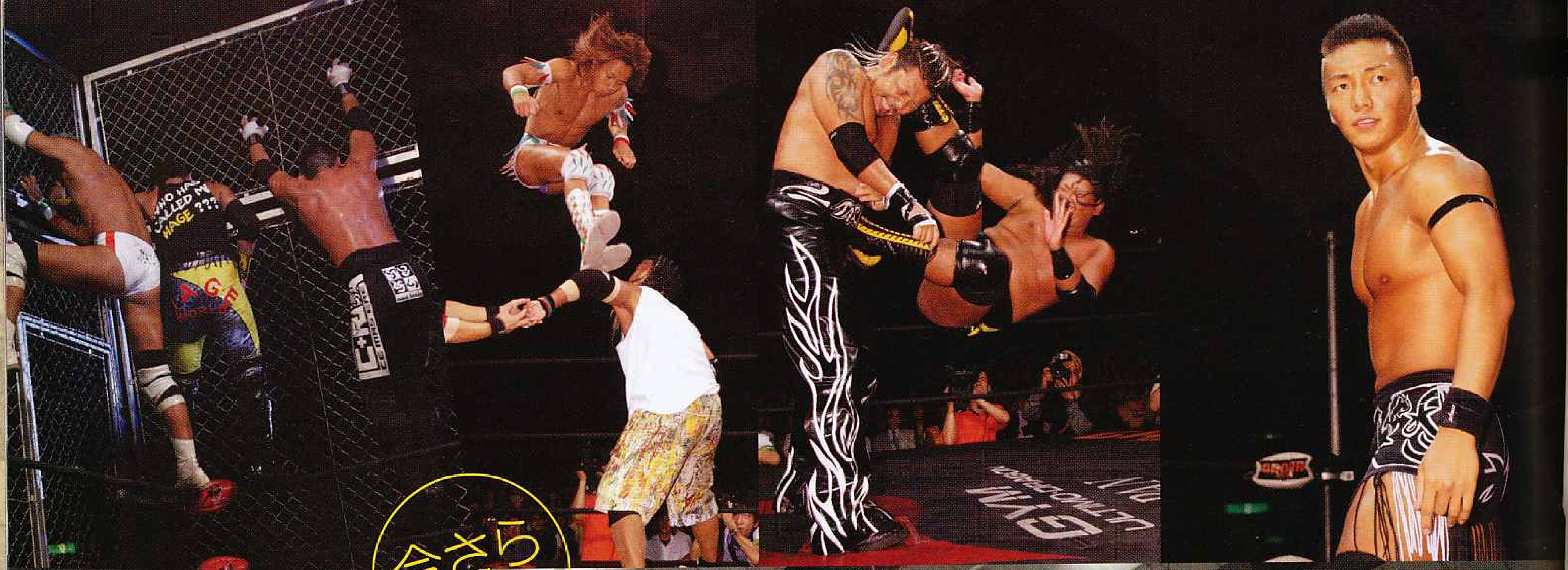
▼K−1ルール三番勝負
柴田勝頼vs天田ヒロミ
イワン・ルーデン
vsヤン“ザ・ジャイアント”ノルキア
ジャダンバ・ナラントンガラグ
vs TOMO

▼新日本vsK−1三番勝負(プロレス)
棚橋弘至vsサム・グレコ
エンセン井上vs TOA
吉江豊vsモンターニャ・シウバ

■チケット

プレミアムシート	20,000円
アリーナA	10,000円
アリーナB	7,000円
アリーナC	5,000円
2FスタンドA	5,000円

問い合わせ■
新日本プロレス 03-5468-3111



今さらながら

勇気を出して

はじめての闘龍門

9.26 東京武道館～ABSOLTAMENTE 2003～観戦記

9月26日、闘龍門が初進出の東京武道館で開催した秋のビッグマッチは5500人超満員札止めの大盛況！ これまで食わず嫌いで一度も闘龍門を観たことがないという本誌・松澤チョロが勇気を出して初観戦。さて、闘龍門はいかがだったでしょう？

構成／松澤チョロ　撮影／平工幸雄

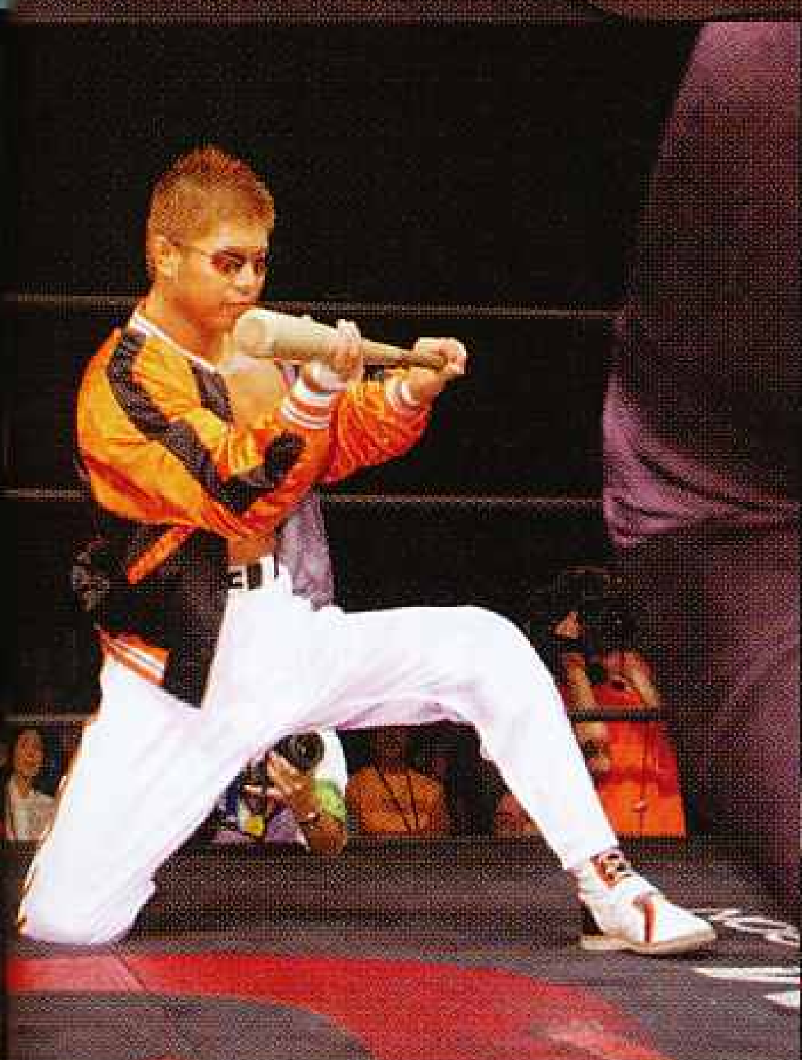
designed by matsu (Two three)

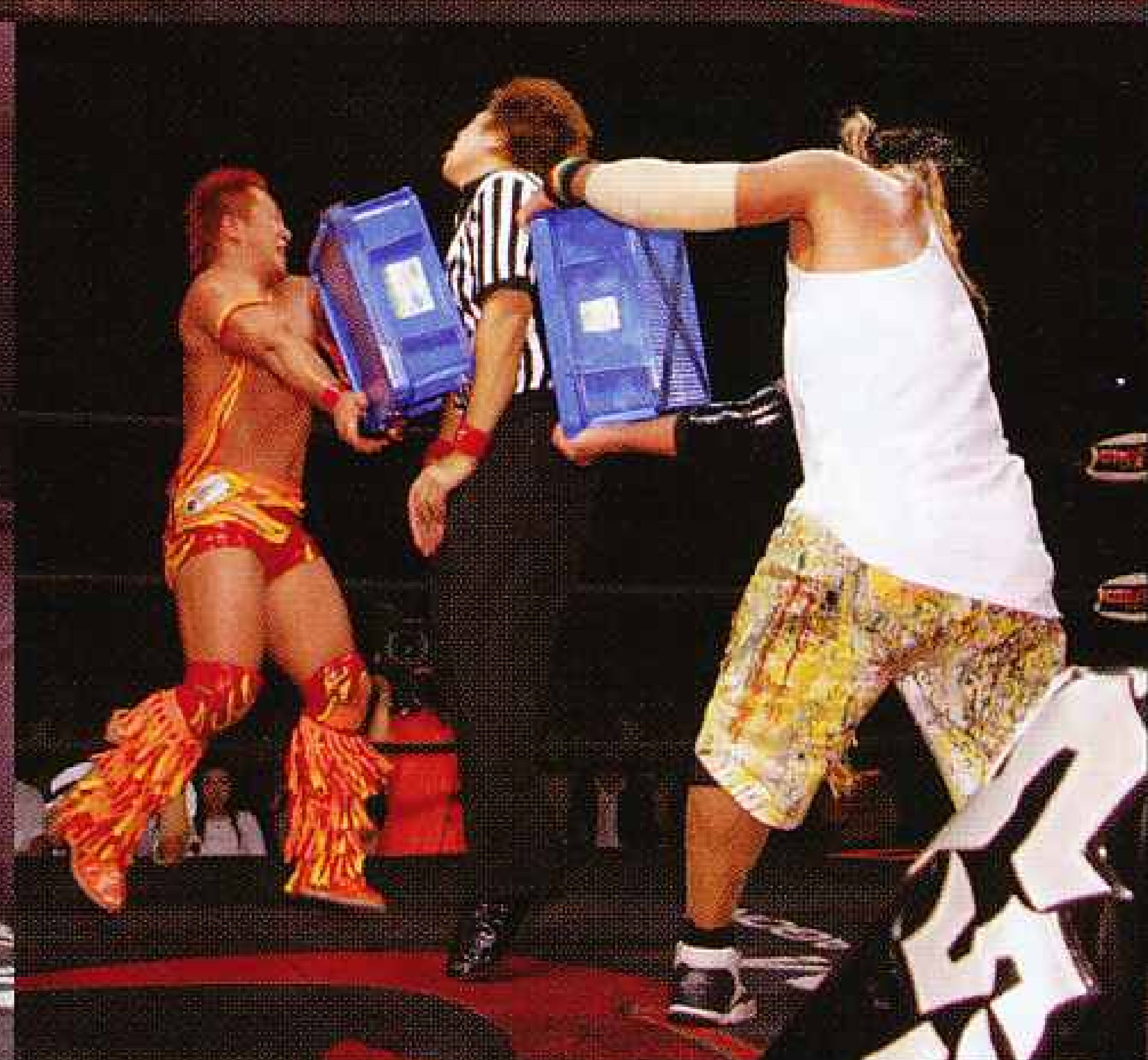






は闘龍門でした！







タイトル通り勇気を出して行ってきました、初の闘龍門in東京武道館！「今さら、はじめての闘龍門もねえだろ！」ってツッコミも当然あると思うが、ホントにはじめてなんだからしょうがない。

事の経緯を簡単に説明すると、『週プロ』『ゴング』まではいかないまでも、一応『紙プロ』にもぼんやりとした担当制みたいなものがあり、闘龍門の担当はガンツ。それが今回UFCの取材と重なり、自分が行くことに。結局、ボクにとっての初闘龍門は、いろんな意味で衝撃ありまくりだったので観戦記というか感想文を書きます。

生観戦は初といっても、さすがに提供マッチやビデオでは観たことはあるけど、正直言うと闘龍門は「行けば面白いんだろうけど俺の好みじゃないな」ぐらいに思っていた。食わず嫌いというか、自分と同じように考えているプロレスファンって意外と多いと思う。一歩踏み出す勇気を出せ！

闘龍門といえば、よく「観客の半分以上が女」とか「後楽園のチケットはプラチナ化している」とか「一見さんでも楽しめる」などと言われているが、それが事実だというのは、いろんな人から話を聞いたり、知人からチケットを頼まれて「どうにかなるだろ」と思っていたら、どうにもならなかったこともあったりで、頭では理解していたつもりだった。で、結論から言うと実際はじめて観た闘龍門は「やっぱり凄かった」という話。プロレス雑誌の編集をやっている人間としてバカ丸出しの書き方になってしまうが、そうとしか言いようがない。

何がそんなに凄かったのかというと、まず1つは観客動員。今回の会場となった東京武道館は初めて行ったが、これがマジでデカい！　結局、この日の興行は主催者発表で5500人超満員札止めだったが、それが全然嘘臭くないほどの大入り。ここ最近、プロレス会場へ行くとしてもWJとかが多かったんで余計に驚いた。会場の外には特設のグッズ売場があったのだが、そこも当然のように長蛇の列。この不況下で、なかなかグッズが売れないとよく耳にするが、闘龍門に限っては全く別。

そんなこんなで会場の中に入ってまたビックリ。単純に5000人以上のキャパで空席がほとんどないというのも驚きだが、噂に聞いていたとおりホントに女性客が多い。パッと見回したところ半数が女。こんなプロレス会場観たことない。しかも、これまでいろんなプロレス会場で観てきた女性と比べると、その質もかなり高い。その代わりと言ってはなんだが、大槻ケンヂが言うところの〝モテないオーラ〟を発している、よれよれのプロレスTシャツの男の姿はほとんど見られない。女性だけではなく会場にはチビッコの姿も目立っていた。初代タイガーの時代と比べると明らかにチビッコファンの姿が見られなくなったここ数年のプロレス会場だが、またもや闘龍門だけは別。それこそジャニーズのコンサートのように闘龍門にハマったヤンママが子供を連れて観戦に来ているのだろう。最初は嫌々だった子もいたかもしれないが、「CIMA、カッケ〜！」等と声援を送っているチビッコも何人も見かけた。

そういった女・子供が憧れるカッコ良さを闘龍門のレスラーは表現できているのだろう。この辺も他のプロレス団体との圧倒的な違いだと思う。ZERO—ONEの中村専務は「ZERO—ONEはインディーでもメジャーでもない。プロレスです」と語っていたが、闘龍門に関して言えば



結論——。プロレス界の"ド真ん中"は闘

「インディーでもメジャーでもない。闘龍門です」と言うのが一番しっくりくるだろう。

その思いは実際に試合が始まってから、さらに強くなった。選手には申し訳ないが、ボクはYOSSINOとYASSINIの区別が付かないし、この日、試合に出ていた選手で顔と名前が一致しない選手もかなりいた。ついでに言えば、闘龍門でいくつかに分けられているチーム編成も、メインの金網マッチで髪の毛を賭ける意味だって知らなかった。それでも十分楽しめた。いま、試合内容だけで、ここまで観客を惹きつけ満足させられる団体が他にあるだろうか？　残念ながらボクは知らない。

大会終了後、闘龍門事情にやたらと詳しいタダシ☆タナカ氏に話を聞くと、この日の興行の出来はあまり良くなかったという。長いこと観てきた人にとってはそうなのかもしれない。でもボクみたいに記者とは名ばかりで、頭を空っぽにして観た闘龍門という団体は素晴らしいの一言だった。

何しろ、闘龍門には第一試合からメインまでショッパイ身体の選手が1人もいない。プロのレスラーとしては当たり前のことかもしれないが、いまは、どの団体にも「お前、練習してないだろ!?」と突っ込みたくなるレスラーは1人や2人はいるものだ。闘龍門の選手は身体が小さいながらも、鍛え上げられた肉体美で一見さんにもレスラーとしての説得力を十分に与えている。

それに、たとえ会場が満員になったとしても、招待券をバラ撒いている興行は観客の熱でそれがバレてしまうものだが、この日会場に集まった5千人以上の観客は明らかに闘龍門を観たくて集まった人達だった。選手の入場の度に沸き上がる歓声。髪切りマッチでの悲鳴。全てが本物だった。

……とか書いておきながら、ボクは、しばらく闘龍門へ足を運ぶつもりはない。なぜなら「お前がプッシュする団体はダメになる」と編集長の山口に言われたからだ。「たしかに！」と、我ながら思い当たる団体がいくつかあるのが悲しいところだが、編集長命令なので素直に従おうかと。まあ、闘龍門に関して言えば、そういった心配は全く無用だろう。ビバ・闘龍門！

闘龍門大会スケジュール

■10月
25日（土）埼玉・本川越ペペホールアトラス（18:00）
26日（日）埼玉・越谷桂スタジオ（15:30）
28日（火）山形・鶴岡市体育館（18:30）
29日（水）山形・山形市総合スポーツセンター（18:30）
30日（木）福島・郡山南東北総合卸センター（18:30）
31日（金）茨城・水戸市民体育館（18:30）
■11月
2日（日）新潟・新潟フェイズ（18:00）
3日（月）新潟・新潟フェイズ（18:00）
4日（火）新潟・上越市厚生南会館（18:30）
6日（木）埼玉・熊谷市民体育館（18:30）
7日（金）神奈川・横浜赤レンガ倉庫1号館3Fホール（18:30）
8日（土）岐阜・岐阜商工会議所大ホール（18:30）
9日（日）兵庫・明石市産業交流センター（18:00）
10日（月）兵庫・神戸チキンジョージ（19:00）
11日（火）鳥取・県立鳥取産業体育館（18:30）
12日（水）鳥取・米子コンベンションセンター（18:30）
14日（金）滋賀・長浜市民体育館（18:30）
15日（土）愛知・豊橋市総合体育館第2競技場（18:00）
16日（日）三重・四日市オーストラリア記念館（17:00）
21日（金）高知・高知BAY5SQUARE（18:30）
22日（土）愛媛・テクスポート今治（18:30）

【お問い合せ】闘龍門JAPAN TEL:078-333-9797



バカ売れ中！『闘龍門大百科』を3名様にプレゼント!!

9・26東京武道館大会では用意した590冊が速攻で完売。著者の藤本かずまさ氏も嬉しい悲鳴を上げているという、闘龍門初の公式ガイドブック『闘龍門大百科』。CIMAや小笠原先生、さらには藤本氏もマッチョバディを維持するため通っている初台のジム「ミッドプレス」でも購入可能。問い合わせは東邦出版（TEL.03-5396-7100）まで

全日本の突然変異！

ミルコに名乗りを上げた男”
野真幸
は一体何者だ!!



「対戦相手は公募」とされた10・5『PRIDE武士道』でのミルコ・クロコップの対戦相手。そこへ名乗り挙げた男として、突如としてその名前が表に出たのが河野真幸だ。王道路線からの脱却を図る中とは言え、格闘技とは一線を画す全日本プロレス所属ということで、一躍注目されることとなった河野。いったいこの男は何者なのか？　武藤敬司に「何がミルコだコラァ！」と怒られた翌日に河野を直撃した。

聞き手&撮影／堀江ガンツ　試合写真／平工幸雄
designed by hisa (Two Three)

——〝打倒ミルコ・クロコップに名乗り挙げた男〟として一躍脚光を浴びた河野真幸とは一対何者なのか、ということを今日は伺いにやってきました！

河野　よろしくお願いします（笑）。

——ズバリ聞きます。ホントに自分からミルコ戦に名乗りを挙げたんですか？

河野　はい、一応（笑）。先月末ギリギリ、試合の5日前くらいにレッグロックのスタッフの方に連絡してもらったんですけど、もうそのときは「ほぼドスカラスJr.戦で決定した」ということでダメでしたね。

——どういった理由でミルコ戦に名乗りを挙げたんですか？　元々やりたかったんですか？

河野　それは、やりたかったというか、いままで日本人プロレスラーが何人も倒されてますから、ミルコはプロレスラーの誰かが倒さなきゃいけないと思ってたんですよ。やられっぱなしは良くないんで。だったら、一番下っ端ですけど自分も一応プロレスラーなんで、やりたいなと。

——このチャンスは俺がやるしかないと。

河野　やっぱり自分なんかが普通に挑戦しても相手にしてもらえないでしょうけど、今回は「プロ・アマ問わず大募集」ということだったんで、それだったら自分にも権利あるんだろうなと思って。

——普段から総合格闘技を想定した練習はしてたんですか？

河野　想定してたっていうか、今日もさっきまで髙阪（剛）さんのところでスパーリングの練習してたんですよ。

——あ、そうなんですか。G・スクエアで。

河野　はい。あと、空いた時間はボクシングジムに通わせてもらったりとか、そういうことはしてました。



“打倒・ミルコ
河野
お前は一

「対戦
コップ
前が
え、格
目され
司に

聞き手&
designed

――いつごろからそういった練習をしてたんですか？

河野　4月ぐらいからですね。

――髙阪さんのとこだと、いろんな選手との交流があるんじゃないですか？

河野　そうですね、いろんな人が来てます。お忍びで来てる方もいるでしょうから名前は出せませんけど、プロレス、総合問わず日本人ヘビー級の強い選手は全員いるんじゃないかっていう位いろんな人が集まってるんで、凄く勉強になることが多いですね。この場は大事にしていきたいです。

――そういったところに通うようになったきっかけは何だったんですか？

河野　元々は合同練習の後に雑用だけやって、あとはボーっとしてるんじゃなくて、「自分なりの練習をしろ、人と同じような練習してても他人と同じぐらいのレスラーにしかなれないぞ」って先輩から言われてたんですよ。それで武藤さんに「合同練習が終わったあととか、練習がない日は、他の格闘技のジムに通いたいんですけど」って言ったら、「どんどん行け」って言っていただいたんで。それで小原さんに髙阪さんのジムを紹介してもらったんですよ。

――小原さん⁉　犬軍団の小原道由さんですか？

河野　はい。自分は全日本に入る前に浜口ジムに通ってたんで、そのころから小原さんには目を掛けてもらってたんですよ。それでボクシングも浜口ジムにいたときに通っていたボクシングジムのコーチが自分でジムを開いたんで、そこに通ってます。

――凄く耳がわいてますけど、これはG-スクエアでのスパーリングでですか？

河野　いや、これは浜口ジムですね。かなりスパーとかやってたんで、もうこの世界

うことはしてました。

河野真幸 お前は一体何者だ!!

に入る前から耳はグチャグチャでしたね。

——じゃあ、総合格闘技系の団体に入るという選択肢もあったと思うんですけど、なぜ全日本プロレスに入ろうと思ったんですか？

河野　それは武藤さんがいたからですね。元々、グレート・ムタを見てカッコいいなと思って、武藤さんに憧れてプロレスラーになりたいと思ったんで。プロレスラーになるんだったら、武藤さんの下でやりたいと思ってたんです。

——でも、武藤さんと言えば、柔道式の寝技が強いのは知られてますけど、基本的にバリバリのアメリカンスタイルですよね。現在、髙阪さんのジムやボクシングジムに通う河野選手とは方向性が違う感じがしますけど。

河野　でもやっぱり、これからどうなるか分かんないですからね。やってて損はないと思いますし。

——じゃあ、今はプロレスと総合格闘技は別モノという考えが広まってますけど、河野さんはプロレスにも格闘技的な強さが必要だという考えをお持ちですか？

河野　そうですね。やっぱりプロレスラーは強いという考えが自分の中ではあるんで。プロレスだけじゃなくて、そういうことがあっても対応できるようになりたかったというのはありますね。

——プロレスより総合格闘技の方が上という風潮は許せない？

河野　う〜ん、それはそれで結果として出ているんで、そう思われても仕方ないですけど……覆したいですね。自分が小っちゃい時に見ていたプロレスラーは強くて凄いというイメージが強いんで。

——全日本プロレスから、そういう選手が出て来たことが驚きだったんですけど（笑）、河野さん以外にも同じような考えの選手は全日本にいるんですか？

河野　どうですかね。そういう話はしないんで。それから社長がプロレス・ラブですから（笑）。

小原（道由）さんに紹介してもらって、髙阪さんの所とボクシングジムに通ってます。



ファイトスタイルは格闘技系と思いきや、ご覧のとおり“馬場直系”を思い起こさせる伝統的な全日スタイル。スケールの大きい闘いぶりは、今後も注目する必要がある。

チャンスがあれば武藤さんに逆らってでもまたミルコ戦のような闘いに名乗り挙げたい

——河野選手はプロレス・ラブはないんですか？（笑）。

河野　いやいや、プロレスは好きですよ！　でも、いまはプロレスが格闘技より下に見られるような風潮があるし、自分はそのプロレス界でも下っ端扱いじゃないですか。それをひっくり返してやろうという気もあるんで。プロレスが好きでそれを広めるためとか、自分のランクをどんどん上げるための方法が、たまたまこういうやり方だっただけで、根本は多分一緒だと思ってるんですけどね。だから形は違いますけど、プロレス・ラブですよ。それを上手く整理して説明すれば、昨日は怒られましたけど、武藤さんも納得してくれるんじゃないかなと思います。

——やっぱりプロレス界の地位を上げたいということもあるんでしょうけど、藤田和之選手や新日本の中邑真輔選手みたいに、バーリ・トゥードで結果を出すことによって“飛び級”したいという思いも強いわけですか？

河野　それはもちろんありますね。だからこそ今回名乗りを挙げたというのもありますから。やっぱり、このまま全日本で試合をこなしているだけでも、時間が経てばエスカレーターのように次第に上に行くっていうのもあるかもしれないですけど、それを待ってるだけっていうのは情けないんで。ミルコ戦っていう自分をプロレスラーとして一気に上げる手段が目の前にあるんだったら、自分のために自分の欲で勝ち取りたいという気持ちはありますね。

——髙田本部長のコメントで「ミルコ戦をやるためには、もっと実績を積んでほしい」という発言がありましたけど、ミルコと闘うために総合の試合をやってみる気持ちはありますか？

河野　必要だって言うんなら考えますけど、ボクは総合格闘家になりたいわけじゃないし、ミルコ以外の人に興味があるわけじゃないんで。それに関しては、まだ自分からはなんとも言えないですね。

——例えば新日本プロレスは『ULTIMATE　CRUSH』と題してバーリ・トゥードとプロレスを両方やってるんですけど、そういうのは意識したりします？

河野　意識はしてないですけど、もしそういう話になったときに「僕は出来ません」って言うより「やります」って言えるように、常に準備はしておきたいというのはあるんで。一番下っ端なんで、先頭切って行けるように準備してるだけです。

——次チャンスがあれば、今度はちゃんと武藤さんに許可を得てから（笑）。

河野　そうですね（笑）。

——なぜ今回は武藤さんに相談なしにミルコ戦に名乗りあげちゃったんですか？

河野　決まってから言えばいいかなってい

PROFILE
こうの・まさゆき■1980年4月12日、北海道出身。192cmの長身を誇り、今年3月にデビューした文字通り、全日本の「大型新人」。今シリーズはデビューわずか半年にも関わらず、6人タッグでメインに連日出場するなど、全日本の期待も大きい。192cm、108kg。得意技はフロント・ハイキック。



うのが自分の中であって……（苦笑）。そしたら、ミルコと闘えないのに名前だけは出ちゃって、おまけに僕個人で言ったんですけど、なんか「全日本から挑戦状が来た」みたいな感じに話が変わってたんで、これは参ったなと（笑）。

——社長の知らないところで「全日本から挑戦」ってなってたら、そりゃ怒られますね（笑）。

河野　でも、怒られたからといって、ヘコんで「すみません。もうやりません」じゃなくて、逆らってでもまだやろうと思ってますからね。「自分の足下見てからモノを言え！」って言われましたけど、武藤さんたちが納得するだけの結果を出せばいいなと思ってるんで。プロレスでも頑張りますし、そっちの練習も頑張りたいですね。

——もちろん、これからも髙阪さんのジムやボクシングのジムに通い続けますよね。

河野　そうですね。それから今、パンチだけじゃなくて蹴りも本格的に習いたいと思ってるんで、キックボクシングのジムを探してるんですよ。あとはアマレスの練習させてくれるところを探したりとか、まだまだやることはいっぱいあるんで。

——カシンさんもいますしね。

河野　はい。石沢さんにもいろいろ教えて貰ってます。

——馳先生もいますし、ルートには事欠かないですもんね。

河野　自分はまだ練習足りないんで、みんなを納得させるだけの実力を身に付けないといけないんで、総合の練習もプロレスの練習も頑張ります！

——ところで、昨日（10・5）のミルコの試合はご覧になりました？

河野　いや、リングサイドの席を用意してくださるということだったんで、ゼヒ行きたかったんですけど、武藤さんに「バッといてウチのガキの子守しろ！」って言われて、武藤さんのお子さんとポケモンセンターに行ってました（笑）。

——ガハハハ！　『武士道』の裏でポケモンセンターに行ってましたか（笑）。

河野　でも、別にミルコがドスJr.に勝とうが負けようが自分には関係ないんで。日本人プロレスラーが倒さなきゃいけないと思ってるんで、なんとかそのチャンスを掴めるようにしたいですね。

——わかりました。では、今後の活躍に期待してます！

【03年10月6日／『PRIDE武士道』翌日、レッグロックにて収録】

2003世界最強タッグ決定リーグ戦

11月
- 22日（土）18:30 東京・後楽園ホール
- 23日（日）12:30 東京・後楽園ホール
- 24日（祝）14:00 新潟・長岡市厚生会館
- 29日（土）18:30 岐阜・多治見美濃焼卸センター
- 30日（日）16:00 石川・石川県産業展示館3号館

12月
- 2日（火）18:30 宮城・宮城県スポーツセンター
- 3日（水）18:30 秋田・秋田市立体育館
- 5日（金）18:30 東京・日本武道館

10月26日（日）15:00 東京・日本武道館

三冠ヘビー級選手権試合
［60分1本勝負］
川田利明vsドン・フライ

世界最強タッグ選手権試合
武藤敬司&嵐vsグラジエーター&ディー・ロウ・ブラウン

荒谷望誉復帰戦
小島聡vs荒谷望誉

憂国の虎、全日本初登場！
ザ・マスク・オブ・タイガーvsグラン浜田

シルバーキングvs Low-ki

奥村茂雄vsクラッシャー・バンバン・ヒライ

入り!!



東京タワーにスティンク・フェイス!?

WWE“SMACKDOWN!”

RIKISHI 日本に土俵入

SPECIAL INTERVIEW

聞き手／阿部タケシ　構成／スモーノブ　撮影／松本崇
通訳／Perry Ken Waller　SPECIAL THANKS／SOLLUNA
designed by matsu (Two three)



リキシ、東京に立つ！

東京タワーに負けないド迫力ボディで、7月のアジアツアーの扇子を広げてご満悦だ!! 東京タワーに必殺「スティンク・フェイス」をお見舞いしているようにも見えるだろうか!? なぜ、こんな奇跡的な写真が撮れたのか、まずはそこから説明しよう。

10月13日、後楽園ホール5F展示場にてSOLLUNA主催で行なわれたプロレスグッズ・フェスタでサイン＆撮影会にWWEスーパースターのリキシが招かれたのだ！（さらに、この日はフーベントゥ・ゲレーラが来年1月のAAA日本大会を発表！　P94参照）

リキシのサイン＆撮影会はあいにくの雨模様にもかかわらず、会場には長蛇の列というすさまじい人気。現在、リキシはケガによる欠場中でリングからは遠ざかっているが、「2週間後には復帰するぜ！」とサプライズ発言も飛び出すなど、ファンにはたまらない内容だった。

サイン会の後はまるまるオフということを聞きつけた本誌アメプロ取材班は、貴重な肉声を聞くべくインタビュー取材を試みた。そして、待つこと8時間！　我々は、このWWEスーパースターの単独インタビューに成功した。

「リベラ（外人レスラー御用達のステーキハウス）でメシを食いたいな」とのリクエストを受け、急遽リムジンを手配して目黒を目指す。

道中、「東京タワーが見たい」とのリクエストで、コースを変更して東京タワーの真下へ。リキシは「ビューティフル！」とため息をもらした。娘のサヴァナさんは、ずーっとビデオカメラを回している。

するとリキシは「東京タワーをバックに写真を撮ってくれよ！」とカメラマンに声をかけ、娘さんと記念撮影。「キレイに撮れたか？」とフランクに接してくれるリキシに、その場にいた全員が好感を抱いたのは言うまでもない。

そして、リベラに到着。店内に飾られた写真を興味深く見回して、自分の写真を見つけると、その下に席を取る。リキシ以外は全員1／2ポンド（約220グラム）ステーキを注文したのだが、リキシが注文したのはなんと2ポンド（約900グラム）ステーキ！　4倍のボリュームの巨大なステーキを我々と同じスピードでたいらげたところで、インタビューはスタートした。

前置きが長くなったが、リキシの貴重な肉声をたっぷりお楽しみください！

●

（店内の記念写真を見回すリキシさん。「あれはベノワか？」「HHHとステファニーも来たのか？」と興味津々。若かりし日の武藤敬司の

今回は本物のWWEスーパースターが登場するため、何時男（なんじお）、叙似位（じょにい）、派乱暴（ぱらんぼ）は尻尾を巻いて逃げました。よって、「ネタバレ通信」は一回お休みと致します。あしからずご了承ください。

写真を発見すると）
リキシ オ〜！ じつは、13年ぐらい前に彼がグレート・ムタとしてアメリカに来たとき、同じところに住んでたんだよ。
――あっ、そうなんですか？ 武藤さんは「アメリカ時代はめちゃくちゃモテてた」と言ってましたけど？
リキシ 凄いスターだったことは間違いない。ムタのペイントは（ザ・グレート・）カブキを彷彿とさせるだろ？ カブキもモテてたからな、そりゃモテるよ。
――ムタが最初に登場した時は、「カブキの息子」という触れ込みでしたからね（笑）。
リキシ ムタは素顔も日本人離れしてて、凄くハンサムだったもんな。
――ぶっちゃけた話、リキシさんとどっちがもてましたか？
リキシ そりゃ、もちろん俺だよ（笑）。
――アハハハハ！ ところで、日本に来るのは何年振りですか？
リキシ （店内にかかっているヘッド・シュリンカーズ時代にリベラで撮った記念写真を指して）10イヤーズ。ちょうど10年ぶりだ。WWFのマニアツアー以来だよ。
――じつは今日、ハルク・ホーガンも10年ぶりに日本で試合をやってたんですよ。
リキシ ほう、そうなのか？
――リキシさんがサイン会をやってた横のスタジアムで試合をやってたんですよ。
リキシ それは知らなかったな。会場の周りに人がたくさんいたから、てっきりみんな俺のサイン会に来たんだと思ってたよ（笑）。
――試合だったらもっと集まったでしょうね（笑）。で、そのサイン会はいかがでしたか？ 日本のファンの印象はどんな感じですか？
リキシ グッド！ 日本でサイン会をしたのは初めてだから、ホントに貴重な体験をした。こうして日本に来れたことを非常に嬉しく思うよ。

photo/George Napolitano

コスチュームは金髪にケツ出しマワシ姿。こんな姿で激ウマのダンスを踊られたら、誰だってファンになってしまう。

――リキシさんは、ここ最近、試合から遠ざかっていますよね？ 目の具合が悪くて欠場していたという話は伝わってるんですが。
リキシ 元々は肩をケガして8ヶ月欠場してたんだ。その後に目を手術した。そっちは2ヶ月かかったかな。
――肩も痛めてたんですか？
リキシ 脱臼の上に骨折をしたみたいな感じだな。
――重傷ですね！

曙、KONISHIKI、武蔵丸といつの日か一緒にダンスを踊りたい!! ファンにとっても最高だろ？

リキシ でも、もう大丈夫だ。目も、最初はものが二重に見えたんだけど、思い切って医者に行ってレーザー手術をして焼いたんだ。おかげで普通に見えるようになったよ。
――今日のトークショーでは「2週間後に復帰する」と言ってましたけど、すでにコンディションは万全なんですね？
リキシ そうだ。いずれは、またトゥー・クールをやりたいと思ってるんだ（注：リキシとスコッティ・2・ホッティとグランドマスター・セクセイのユニット。全員でのダンスが得意）。俺とスコッティは、いつでもリングに戻れる状態にある。先月、俺はWWEとの契約を更新したし、スコッティも4年契約を更新したばかりだ。グランドマスターはいま交渉中だけど、ほぼ決まりみたいなもんだな。
――へぇ〜、そうなんですか!? もう、しばらくグランドマスターとは会ってなかったんじゃないですか？（注：グランドマスターは2001年にWWEを退団している。ちなみにジェリー・〝ザ・キング〟・ローラーの息子）。
リキシ 先週も連絡をとったばかりだよ。「また3人でトゥー・クールをやりたいな」って話をしたんだ。
――大人気だったのに、トゥー・クールは突然終わっちゃいましたからねぇ。あれは残念でした。
リキシ こっちとしてもファンに見てもらいたいし、ファンもそれを望んでると思うんだ。
――リキシさんが復帰するのは、欠場前と同じ『SMACKDOWN!』なんですよね？
リキシ イエス。
――『SMACKDOWN!』と『RAW』の2ブランドに分かれたことについては、どう思いますか？
リキシ 俺は賛成だ。1つのブランドしかないと、それだけ出場の機会が減ってしまうから、埋もれてしまう才能も多い。つまりメインイベントも1つだけになっちゃうだろ？ そうなったら内容が偏ってしまう。だから2ブランド制には賛成だよ。実際、成功してると思うしね。
――リキシさんご自身は、自分が所属している『SMACKDOWN!』の方が合っていると思いますか？
リキシ そんなことよりもWWEにいること自体が、大切なことなんだよ。ストーリーラインは、『SMACKDOWN!』だろうが『RAW』だろうが、みんなの思い通りにされちゃうだろ？ どっちだろうと

※応募方法はP159を参照!!



関係ない。ただ、『RAW』は賑やか過ぎる。『SMACKDOWN！』の方が好きだな。『RAW』は生放送だからプレッシャーが凄まじいんだ。正直言って働きにくいと思う。『SMACKDOWN！』は録画放送だから、俺は自由に伸び伸び働けるから好きだよ（笑）。

——たしかに、生放送で失敗は許されないですからね。僕はこの前、現地で『サマースラム』を見てきたんですけど、『SMACKDOWN！』と『RAW』が全然違う団体のように感じたんですよ。

リキシ　そうだろう？　両ブランドが独立することによって、いろいろメリットは多いんだよ。例えば少し前ならレイ・ミステリオは試合に出れなかったかもしれない。でも、いまや彼は『SMACKDOWN！』で確固たる地位を確立してる。全体的なレベルは断然、向上してるってことなんだよ。

——なるほど、よく分かりました。
じゃあ、今度はリキシさん個人についての質問です。「リキシ」という名前やキャラクターは自分から望んだことなんですか？　それとも会社が決められたことなんですか？

リキシ　俺は今までトンガ・キッド、ファトゥー、ヘッド・シュリンカーズ、サルタン……いろんなキャラクターをやってきた。その後、4年間リングを離れたら、なんと体重が450ポンドになってしまったんだ（笑）。

——凄いですね（笑）。

リキシ　その時、ビンス・マクマホンが俺に目を付けたんだ。「リキシ」というキャラクターはビンスが考えたものだよ。ビンスが考えたキャラは基本的に間違ってない。ただ、ブロンドとかダンスは俺がトゥー・クールと組みたいと思ったから、自分でアレンジしたことなんだ。俺の従兄弟であるヨコヅナ（故人）もWWEにいたけど、彼はマワシを付けてケツを出すことを嫌ってたんだよ。

——なるほど、じゃあリキシというキャラクターはヨコヅナの進化系なんですね。

リキシ　イエス！　俺はミレニアム・ヨコヅナだ（笑）。だが、ヨコヅナはひとりしかいない。あくまでも、俺はリキシだ（キッパリ）。

——では、日本の大相撲は見たことありますか？

リキシ　イエス！

——相撲を取ったことは？

リキシ　もちろん！　ヨコヅナと相撲を取ったことがあるよ。負けたけど（笑）。

——さすがヨコヅナだ（笑）。日本の大相撲でも曙、小錦（現・KONISHIKI）、武蔵丸などサモア系の力士が活躍していますが、彼らについてどう思いますか？

リキシ　曙と面識はあるけど、正直なところあまり知らない。KONISHIKIとは仲がいいよ。

——へぇ、そうだったんですか？

リキシ　2001年にハワイでWWEの興行があったんだけど、そのときに知り合って以来、凄く仲が

ゲームキューブ版『レッスルマニアXIX』プレミアムBOX発売！

世界最高峰レベルのWWEゲームをリリースし続けるユークスから、ゲームキューブ版ソフト『レッスルマニアXIX』が11月7日に発売される。プロレス界最大の祭典『レッスルマニア』の世界観を体感出来るだけでなく、エディットモードでオリジナルレスラーの制作も可能。登場レスラーも"ストーンコールド"スティーブ・オースチン、ザ・ロック、トリプルH、カート・アングル、ショーン・マイケルズなど、『WM19』で激闘を繰り広げたスーパースターに加え、『WM19』には出ていなかったゴールドバーグも登場！　彼らのオリジナル技が忠実に再現されている上に、ヘル・イン・ア・セル、ファースト・ブラッドマッチなど特殊な試合形式も可能！　グラフィックは文句のつけようがない美しさ！　このBOXセットを1名様にプレゼント！　急いでハガキを書こう！　提供■ユークス



今回は限定発売のプレミアムBOX（オースチンのマグカップ＆コースター、WWEキーホルダー、技表、ソフトのセットで定価8800円）を1名様にプレゼント！　このチャンスを逃すと手に入らないレアな逸品なので、当選しなかった人はマスト・バイ！　当然、特典は非売品だ

※応募方法はP159を参照!!

いいんだ。実際、サモア系の人は体が大きいから相撲はピッタリだと思う。サモアの人々にとっても日本を学ぶ一因にもなってるし、日本にもサモアンという人種を知ってもらうキッカケになってる。それは嬉しく思うよ。

——そうですね。

リキシ でも、俺はリキシというエンターテイナーだから。日本の文化とサモアの文化、両方のスタンスをアメリカ全土に広げたいと思うんだ。

——いいですねぇ。今回の来日でも時間があれば、スモウ・パレス（国技館）をご案内しようと思ってたんですよ。

リキシ ホントか!? 今回は時間がないから、次に日本に来た時は必ず案内してくれよ。それと、いつか実現させたいと思ってるのは、曙、KONISHIKI、武蔵丸、俺の4人でダンスを踊ることだ（笑）。ファンにとってもそれは最高じゃないのか？

——アハハハハ、最高です！ 金払っても見に行きますよ！

リキシ ファンがあってのリキシだからね（笑）。ファンとは毎日会うもんじゃないから、いつも新鮮だし、いろんな刺激を与えてくれる。これからもファンを大切にしたいし、エンターテインしていきたいね。

——今回は日本に来てKONISHIKIさんに会ったんですか？

リキシ 彼のレストランで会ったよ！ 元々、KONISHIKIには日本に行くことを報告していたからね。

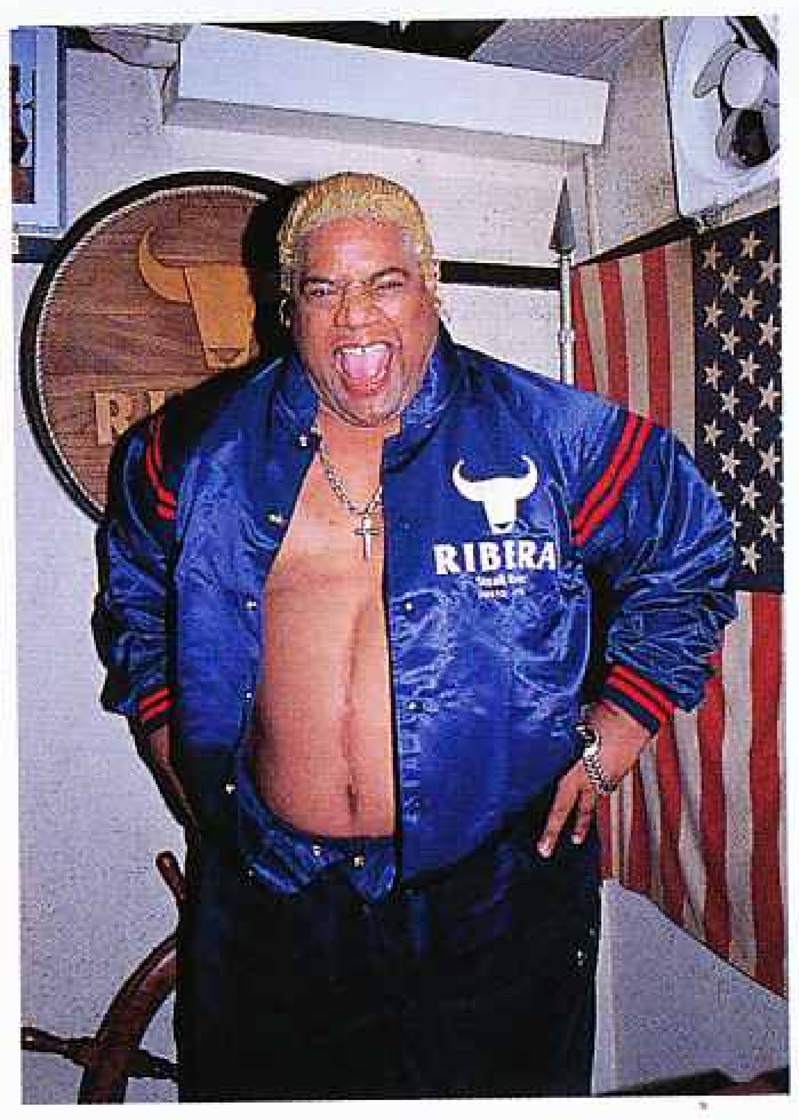
——ホント、仲がいいんですね（笑）。

リキシ そう言えば2日ぐらい前、日本に着いたときにロストバゲージ（カバン紛失）に遭ったんだ。そしたら、日本のスタッフがもの凄くナーバスになっちゃったんだよ、なかなか俺が出てこないから（笑）。彼があんまりイラついてるから、俺はあるアイデアを思いついた。「KONISHIKIのレストランに電話してローブ（浴衣）を借りてこい」って、その辺のヤツに言ったんだ。KONISHIKIのコスプレで到着ゲートから出て行ってやろうと思ってさ（笑）。

——リキシさんが来ると思ったのにKONISHIKIが出てきたら、そっちの方がビックリしますよ！（笑）。ところで、日本の相撲にはスティンク・フェイスという技はないんですけど（笑）、これはリキシさんが編み出したんですか？







リキシ イエス！ あれは、たしかアラバマ州でビッグ・ボスマンと試合をした時のことだ。コーナーでボスマンがへたり込んだ時に、「その巨ケツをヤツの顔に押し付けろ!!」ってリングサイドのおばさんが叫んだんだよ（笑）。その瞬間、会場中がシーンとしたんだけど、俺がケツを押し付けた瞬間……。会場中がドカーンと沸いたんだ（笑）。これはイケると思ったよ。最近だとコーナーで誰かが倒れれば、必ず歓声が起きるだろ？ あの技はそこまで確立されたってことだよ。

——WWEスーパースターズのほとんどがスティンク・フェイスの犠牲になってますよね。

リキシ 一番思い出に残ってるのは、トリッシュ（・ストラータス）にやった時だな。俺のケツに顔がスッポリ埋もれてしまって、まるで金髪のカツラみたいだった（笑）。可哀相なことをしたと思うよ（しみじみ）。

——アハハハハ！ ちなみに、僕の母親はホントにリキシさんのお尻が臭い（＝スティンク）と思ってるんですよ（笑）。

リキシ あの技は、もともと名前なんてなかったんだ。ある日、突然クリス・ジェリコがあの技のことを「スティンク・フェイス」って言い出して、「それも悪くねえな」と思ったのが始まりなんだ。俺は「スウィート・フェイス」でもいいと思うんだけどな（笑）。

——あ、リキシさんの巨ケツはスウィートな臭いがするんですか？（笑）。先程ビンス・マクマホンの話がチラッと出たんですけど、マクマホン一家にはどういった印象をお持ちですか？

リキシ 俺のファミリーはみんなプロレスラーだったから、俺が7～8歳の頃からシェインとステファニーのことは知っているんだよ。一緒に育ってきたつもりだし、役職や立場は違うかもしれないけど、今でもずっと友達だと思ってる。

——そうですよね。リキシさんの家系もプロレス一家ですよね。

リキシ イエス。俺、ジミー・スヌーカ、ザ・ロック、ヨコヅナ、サム

リキシ来日を仕掛けたSOLLUNAが今度はメヒコからAAAを招聘！

レイ・ミステリオのマスク&コスチューム制作を手掛けるSOLLUNAとPAPが、今度はメヒコのルチャ団体AAAの興行をプロモート！「AAA INVADING JAPAN」と挑発的なシリーズタイトルで、来年1月23日（金）東京・後楽園ホール、翌24日（土）大阪・IMPホール（ともに18：30試合開始）の2daysが行なわれる。現在、ノアに参戦中のフーベントゥ・ゲレーラが10月13日に行なわれた記者会見で明らかにしたもので、総勢20名以上のスペル・エストレージャが日本を侵食するという！ 注目は何と言っても強烈なケバケバしさで異彩を放つグロンダ（写真・左）だろう。問絶必至のビジュアルと前代未聞の空中殺法を駆使して、メヒコから飛来する彼らを絶対見逃すな！ 次号ではさらに詳しくAAAの魅力に迫る企画を検討中！ チケットはチケットぴあ、AAAオフィシャルファンクラブ、AAAオフィシャルサイトにて10月末発売予定。問：SOLLUNA 06-6282-0919



これがツアーのロゴ！ AAAの公式HPはhttp://www.luchalibreaaa.com



鬼の形相とはまさにこのこと！ グロンダの全身ペイントの斬新さにシビレろ！

噂FILE

●アンダーテイカー引退?

昨年行なわれた特番『ノーマーシー』で、ブロック・レスナーとのヘル・イン・ア・セルに敗れて以降、アンダーテイカーが引退を考えていたということが本人の口より明らかになった。これはWWEのインターネット上のインタビュー番組「Byte this!」での発言で、今年の『ノーマーシー』（すでに現地での開催は終了）でもブロック・レスナーとのWWE王座戦が決定しており、早ければこの試合でもう一線を引くとのこと。希望としては『レッスルマニア20』での引退だそうだが……。以前、ミック・フォーリーが引退を決意した際、実際に引退した『レッスルマニア2000』の半年前から引退用のストーリーを練っていたようだが、果たしてアメリカン・バッド・アスは遂にそこまでの決意を決めたのだろうか?

●ランディー・サベージが突然「ホーガン大好きッ!」

1980年代の後半、ハルク・ホーガンと故・エリザベスさんを巻き込んで友情か愛かというストーリーを展開し、一躍その名を挙げた"マッチョ・マン"ランディー・サベージがここに来て「『レッスルマニア20』でホーガンと戦うのは俺様がいない!　ウウゥウウゥ、イエェェェ!」と衝撃発言。「リングから遠ざかったそろそろ3年以上になるが、今でもホーガンvsサベージを観たいという声は止まない。今まで色々言われてきたけど、俺達は仲だってそんなに悪くはないんだぜ?　マブダチ、マブダチ」と語るが、WWEを辞めた直後に行われたホーガンのインタビューでそのマブダチは「NWA-TNAが俺とサベージの試合を持ちかけてきたが、俺にとっては何のメリットも無いね」とバッサリ切り捨てられていた。さぁ、果たして?

●ボーイズ達によるマクマホン一家への不平不満

先月でもお伝えしたビンス様の試合中断事件が、まだボーイズ達の間では尾を引いている模様。特に、ここ最近のハウスショーで行われているケインvsシェイン・マクマホンの連戦に関しても3度程シェインが勝利しており「ケインの怪物キャラクターを盛り上げなきゃいけないこの時期に、シェインを勝たせるのはおかしくねえか?」という声が漏れている。更に、『ノーマーシー』でもメインにクローズ・アップされているのはビンスvsステファニーによるIQuitマッチ。WWE.COM上でもCMでもかなりプッシュされており、ボーイズ達の中には「自分達の立場が無い」と不満を述べ出している者もいるとか……。

●NWA-TNA初のPPV開催にあたって、WWEからの引き抜きを公言

11月30日ナッシュビルにて初のPPV開催が決定しているNWA-TNAの初の単独PPV。この日のメインではホーガンvsジェフ・ジャレットが予定されており、ジェフ・ジャレットはその試合に現在WWEにて活躍中のある選手を連れてくると明言。すでにこのPPV大会への意気込みはハンパではなく、「ビンス・マクマホンに不満を持つ連中はいくらでもいる。マジでビビルぜ!　ガーッハッハッハ!」と高笑い。エグゼクティブ・プロデューサーのビンス・ルッソーも全力でこの件にあたっているとのことだが、このままNWAの勢いは留まることを知らなくなるのだろうか?

●リック・フレアーとミック・フォーリーの関係

ミック・フォーリーが自身による初の自伝にて「僕がWCWにいた頃、フレアーが仕切る欧州遠征でベイダーと戦ったんだ。でも、そのツアーの裏側はもうグチャグチャ。連日何試合もさせられて疲労のたまっている時に、ベイダーとの試合もリング上のその場で決めて……その結果、彼のクローズ・ラインで僕の耳がちぎれる事件が起きた。今でもアレはフレアーのせいだと思っている」と書いたところ、フレアーがそれに対して激怒。現在までその緊張状態は続いており、ミックがコミッショナー職を辞任したその日に入れ替わりでフレアーがWWE復帰を果たしたというのも、お互いがお互いと仕事をするのを拒んだからとか。それでも、今年の特番『バッドブラッド』で両者はついにリング上で再会。このストーリーをWWEに提案したのは他ならぬミックであり、その心中は「考えてみて気付いたんだ。今ではもう悪意を持ってないけど……『レッスルマニア20』でお互いの感情を吐き出したいね」というプランを自分の中で決めたからだと言う。両者の対決が実現する日は近い?

●『レッスルマニア20』で噂されているカード

チケットも全米発売後、3分で完売していよいよ開催まで半年を切った『レッスルマニア20』。そこでWWEが企画しているというカードは次の通り。カート・アングルvsブレット・ハート、スティーブ・オースチンvsハルク・ホーガンorビンス・マクマホン、ミック・フォーリーvsリック・フレアー、アンダーテイカーvsケイン、ショーン・マイケルズvsザ・ロック、ゴールドバーグvsブロック・レスナー、ハーディー・ボーイズvsエッジ＆クリスチャンvsダッドリー・ボーイズ。さぁ、このうち実現されるドリーム・カードは何になるというのだろう。

●ジェフ・ハーディーがWWE復帰を明言!

先日、アメリカのインディー団体ROHに再び出場したジェフ・ハーディーが簡単なサイン会を開催。そこで簡単なトークショーも催され、ジェフは自ら「来年のレッスルマニアまでに俺が復帰する話が来ている。というか、もう動いている。ハーディー・ボーイズvsエッジ＆クリスチャンvsダッドリー・ボーイズのTLCマッチをやりたいそうだ。俺もこの試合だったらもう一度やりたい。待ちきれないね。」と発言。ファンは大喜びだろうが、その日の雇い主であるROHとしてはたまった発言ではなかったことだろう。

【訃報】カナダの巨星、逝く
10月19日（現地時間）、ブレット・ハートや故オーエン・ハートの父親であり、様々なレスラーを数多く輩出したカナダ・カルガリーの名門『スタンピート・レスリング』の代表であるスチュ・ハート氏が亡くなった。享年88歳。ご冥福を謹んでお祈りします。

俺はリキシというレスラーをやっているが日本のファンにこれだけは言いたい。絶対に相撲を侮辱するつもりはない！

ウ、トンガ・キッド、ロージー、ジャマール、アファJr.、キング・ハク、バーバリアン……いま挙げた人たちは全員が俺の親戚のプロレスラーだ。俺の叔父はサモアンズのアファとシカだし、ピーター・メイビアも親戚だ。世界最大のプロレス・ファミリーと言ってもいいだろうな。

――先日、ジャマールがWWEを辞めてしまいましたよね？

リキシ　そうだ。あいつは俺の弟なんだが、いまはNWA―TNAでプロレスをやってるよ。

――ちょっと聞きにくいんですが、なぜジャマールはWWEを辞めちゃったんですか？　答えられる範囲で構いませんので。

リキシ　別に雑誌に載せてもOKだよ。アメリカは州ごとに法律が違って、借金を一定期間で返さないと罰せられる州があるんだ。それが原因だ。ビンス・マクマホンという人間は法を犯した人間を絶対に許さないから。

――なるほど。ありがとうございます。じゃあ、そろそろ時間もなくなってきたんで、次の質問にいきます。『SMACKDOWN！』が12月にアジアツアーを行うんですが、それには参加するんですか？

リキシ　まだ決まってないけど、なるべくなら来たいと思ってるよ。

――じゃあ、僕らも韓国まで見に行きますよ！

リキシ　ホントか？　じゃあ、バックステージに遊びに来いよ！

――ホ、ホントですか!?　絶対行きますよ！　楽しみにしてます！　じゃあ、最後に日本のファンにメッセージをお願いします。

リキシ　いつも応援してくれてありがとう。そして、今回のサイン会で俺を日本に招いてくれたSOLLUNAと親友であるハヤシ（SOLLUNA社長）にも感謝したい。俺はリキシというレスラーをやっているが、これだけは言っておきたい。絶対に日本の国技を侮辱するつもりはない！　みんなを楽しませるためにやっていきたいと思ってるんだ。日本人全員に納得してもらえるとは思わないけど、今後もリキシという名前で日本の文化、そしてサモアのことを広めていきたい。そのうち、「日本のスモウレスラー」として紹介される日が来るのを楽しみにしてるよ。もちろん、その時もダンスを踊るぜ！（笑）。

――素晴らしい！　是非、世界中に広めてください！

リキシ　じつは、いま自分の母親がガンで余命8ヶ月なんだ。看病もしなきゃいけないし、今後はフルタイムでレスラーとして活動するのは難しいかもしれない。

――えっ……。そうなんですか!?

リキシ　ああ。でも、なるべく海外には行くようにするから、是非俺のことを応援してほしいね。

――分かりました！　辛い状況でしょうけど、頑張ってください！　僕らも応援してますから。

リキシ　OK！

【10月13日、都内「リベラ」にて収録】



父・リキシのインタビュー中、ずーっとカメラを回していた娘・サヴァナさん。帰りは2人でお揃いの「リベラ・ジャンパー」をプレゼントされご満悦だった。

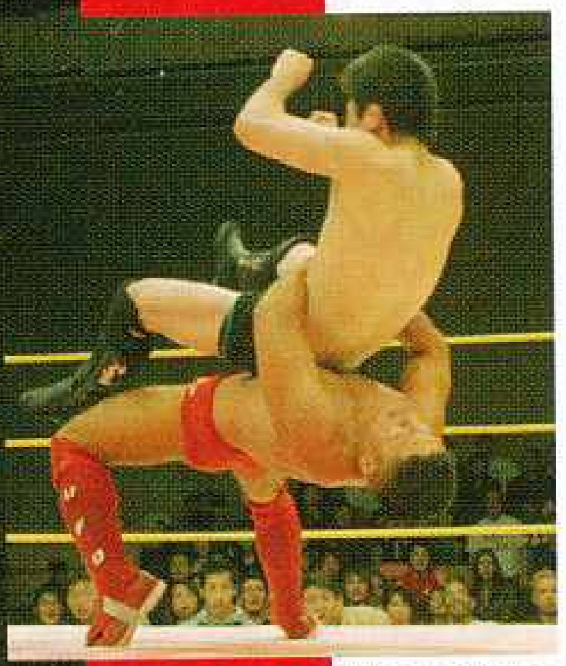
※応募方法はP159を参照!!

“和製オブライド”

藤井克久^{UFO}が 12.9 後楽園ホールの 田村潔司 挑戦権強奪!!

文／堀江ガンツ
撮影／平工幸雄
designed by matsu（Two three）





藤井は1回戦から必殺のジャーマンを大爆発。越後隆をわずか3分でKOした。田村潔司にもこのジャーマンが通用するか?



決勝の佐々木戦は必殺のジャーマンを腕絡みで切り替えられるなど大苦戦。両者４Ｐずつ奪う一進一退の攻防の末、藤井が辛くも勝利。



2回戦のvs大久保ちゃん戦では、ロストポイントを次々と奪っていき、最後はジャーマン2連発で5ロストポイントのTKO勝ち。

田村潔司はサイン会&トークショーに登場





「若い奴らだけでやらせる」をテーマにしたため、田村は試合には出場せず。その代わりサイン会やDEEP佐伯代表＆本誌編集長・山口日昇とのいい加減なトークショーでファンサービス（?）に努めた。



2・15U-STYLE旗揚げ戦で好勝負を展開した上山と伊藤の再戦が1回戦で実現。前回以上の好勝負が期待されたが、DEEPの須田戦でヒザを負傷した上山は思うように動けず、伊藤のローに沈んだ。



1回戦から決勝まで実に安定感のある闘いぶりを見せた佐々木恭介。Uスタイル、総合とちらもこなせる選手として田村の評価も高い。U-STYLEの子犬・大久保ちゃんの飼い主的存在でもある。

『U-STYLE』の会場に行くと、いつも会場の〃熱〃に驚かされる。『Uのテーマ』が流れる全選手入場式に大歓声、ロープエスケープにまた大歓声、「あと1回のダウンで負けとなります!」で、またまた大歓声! そんなかつてのUそのものの〃ノリ〃が現在もホントに存在しているのだ。

この日の客入りは田村潔司が出ないこともあって、それはそれは凄いことになっていたが、それでもこの〃熱〃だけは健在だった。

その立て役者となったのが佐々木恭介。この男、とにかく巧い。〃Uを知らない世代〃ばかりで行われたこの日のトーナメントは、佐々木が決勝まで進出し、1日3試合やったからこそ、成立しえたと言っても過言ではないだろう。また、佐々木は総合の実力も評価が高く、まさに〃U－STYLEの安生〃。これからも、なくてはならない存在となるはずだ。

そして、その佐々木を決勝で破ったUFOの藤井克久は、次回12月大会で田村への挑戦権を獲得。ここまで、体格差とパワーを武器にジャーマンでKOの山を築いてきた藤井のモチーフは恐らくゲーリー・オブライトだろう。しかし、〃赤鬼〃とまで呼ばれたゲーリーと比較すると、まだまだ藤井は遠慮気味に見える。12・9田村戦は、藤井がどこまで自分のリミッターを振り切れるかに掛かっていると言えるだろう。大丈夫、田村はちょっとやそっとじゃ壊れやしない。藤井よ、思いきって潰しに行け!

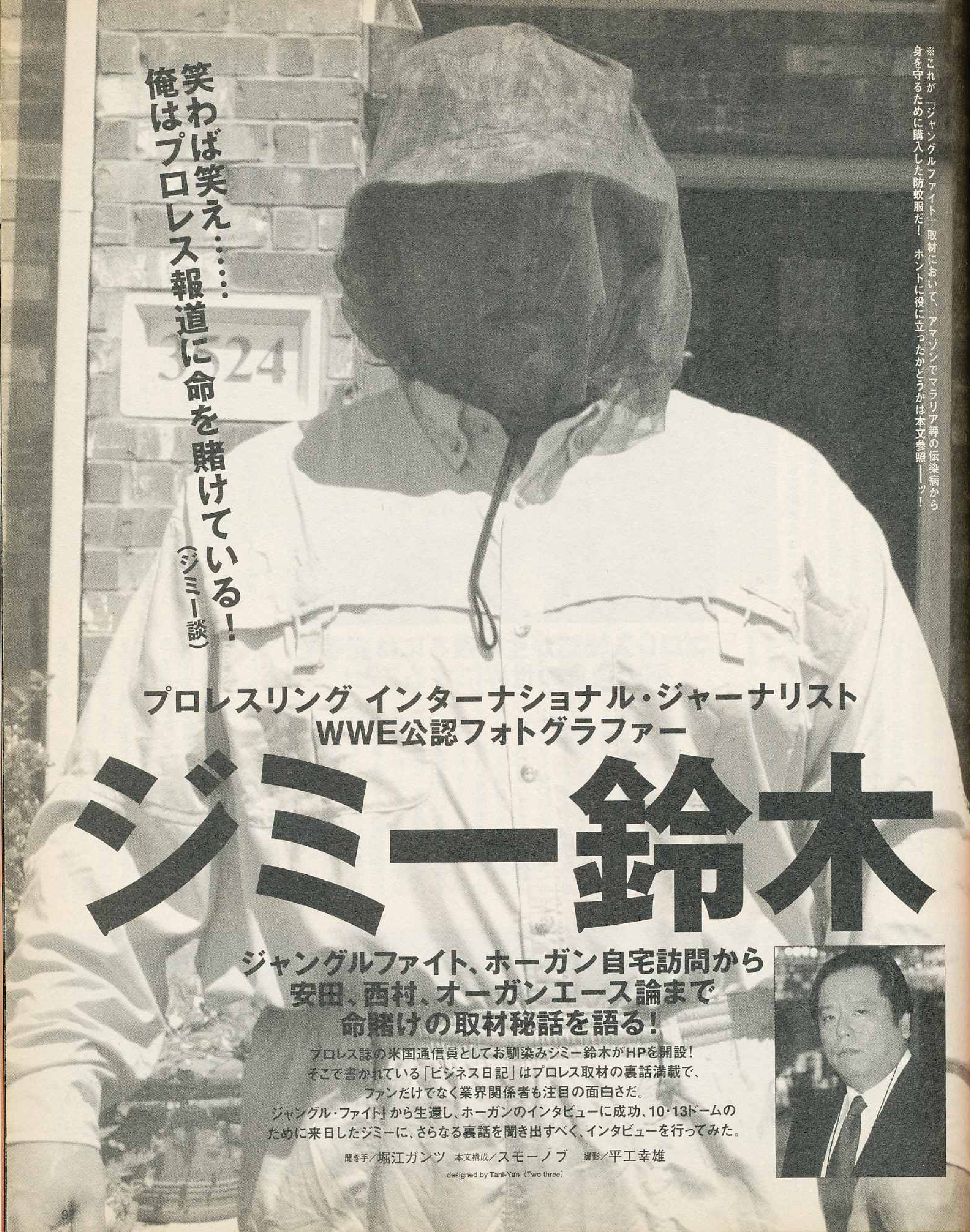
12・9 U-STYLE

【会場】
後楽園ホール　18：30

【料金】
A席¥7000／B席¥5000／C席¥4000
※VIP席は完売いたしました

【問い合わせ】
DEEP事務局　052-339-0303

STYLE



※これが『ジャングルファイト』取材において、アマゾンでマラリア等の伝染病から身を守るために購入した防蚊服だ！　ホントに役に立ったかどうかは本文参照ーッ！

笑わば笑え……俺はプロレス報道に命を賭けている！（ジミー談）

プロレスリング インターナショナル・ジャーナリスト
WWE公認フォトグラファー

ジミー鈴木

ジャングルファイト、ホーガン自宅訪問から安田、西村、オーガンエース論まで命賭けの取材秘話を語る！

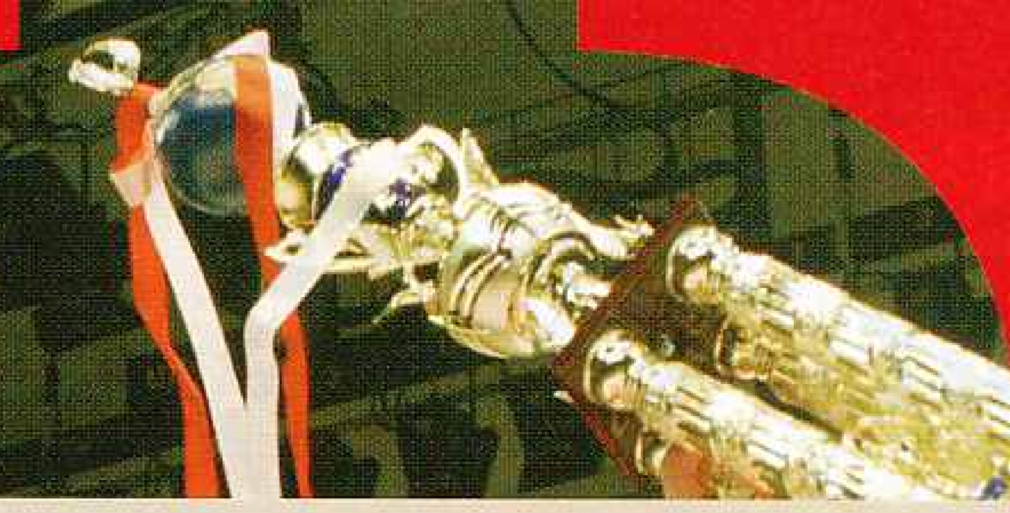
プロレス誌の米国通信員としてお馴染みジミー鈴木がHPを開設！
そこで書かれている「ビジネス日記」はプロレス取材の裏話満載で、
ファンだけでなく業界関係者も注目の面白さだ。
『ジャングル・ファイト』から生還し、ホーガンのインタビューに成功、10・13ドームのために来日したジミーに、さらなる裏話を聞き出すべく、インタビューを行ってみた。

聞き手／堀江ガンツ　本文構成／スモーノブ　撮影／平工幸雄

designed by Tani-Yan（Two three）

“和製オブライト”

UFO



—今、ジミーさんがやってるホームページはムチャクチャ面白いですね！　プロのジミーさんが、ミニコミやってるみたいな感じですよ。

ジミー　そう？　でも、清水さん（『ゴング』企画部長）にはマスターベーションって言われたもんなあ。

—あ、そうなんですか？（笑）。

ジミー　ホームページの掲示板で凄い腹が立つ話があったから、掲示板を閉鎖したのよ。そしたら清水さんが「掲示板があって、それを耳を傾けるなりなんなりして襟を正して生きていくのが正しい道だ」って言うわけよ。でもさ、「ジミー、お前の写真はショッパイなぁ」「何で『週プロ』の写真はあんなにキレイでお前の写真はボロいんだよ」って絡んでくるヤツがいるんだよ。「そりゃないだろ」って俺が反論しても水掛け論になって結局、自分のイメージダウンになるんだったら、やめたほうがいいと思って。ホントは、その投稿だけを削除したかったんだけど、削除の方法がわからなくてさ、頭来て全部なくしちゃったんだよ。

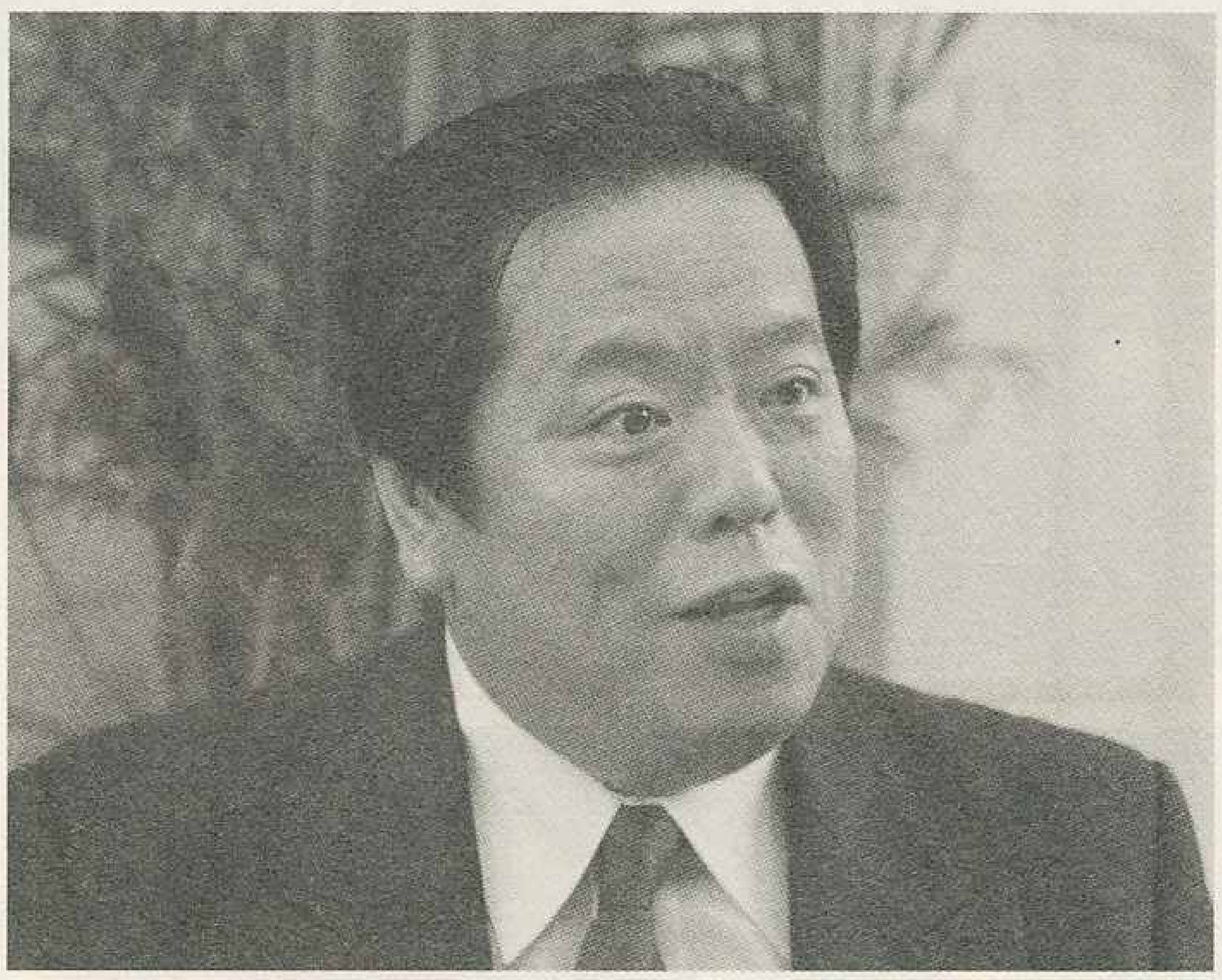
—なるほど（笑）。以前から、ジミーさんは「2ちゃんねる」に出没して、そういう話をよくしてますよね（笑）。

ジミー　あ、インタビューの前に今日は「『紙プロ』はZERO-ONEの機関誌か？」って逆質問してやろうと思ってたのに……。忘れてたよ！

—ああ、そんなこと書いてましたね（笑）。それを言ったらウチは情報誌じゃないですからね。今は読者が随分、格闘技寄りになってるんで、プロレスをちまちま載せても興味を持たれないんですよ。一つに重きを置いてやんないと興味も持ってくれないですからね。そのへんは他の雑誌も多分、そうだと思うんですけど、面白いと思った物はすぐに大きくやらないと。

ジミー　『ゴング』と『紙プロ』は読者層が違うもんな。『ゴング』は完全にプロレスファンに売る雑誌っていうスタンスでやってるじゃない？　逆に言ったら格闘技ファンは相手にしてないもんな。ZERO-ONEは面白いから押すって路線でいくと、「機関誌か？」っていう書かれ方をしちゃうわけだもんね。

—でも、どこの雑誌でもそうですよね。



ジミー　どこか押してるのはあるよね。『ゴング』だって「長州と癒着」とか書かれてさ、『週プロ』は「佐藤編集長はアホだ」って書かれてるでしょ？

—ガハハハ！　ことプロレスに関しては「癒着」って言われるぐらい入り込まないと本音も聞き出せない部分も確かにありますよね。

ジミー　それを『週プロ』でやってるかって言ったら、やってないじゃん。でも、最近は『週プロ』の鶴田（倉朗・アメリカ在住）が結構強敵だから気を遣うよ（笑）。彼は英語が上手くないから、外人関係なら今でも俺が独占できるけど、俺はどっちかっていうと格闘技系は若干、自分の本流じゃないんだよな。苦手だとは言いたくないけど、通信簿だったらオール5は取れないじゃん。自分の得意じゃない部分を彼がやってるのは、なかなか目のつけどころがいいんじゃないかなって思いますけどね。あ、それと一つ書いといて欲しいのは『週プロ』は羨ましいんだよな。

プロレス雑誌が生き残るには記者を弱肉強食の世界にすること!

—羨ましい!?

ジミー　フリーの奴が新聞社の仕事をして、『週プロ』の経費で行って、その記事を新聞に流してお咎めなしっていうのは羨ましいよな。書いてよ、これ！

—書いときますよ（笑）。じゃあ、ジミーさんなんか今回のジャングルファイトは割に合わなくないですか？

ジミー　でも、一回のギャラで商売してるわけじゃないからさ。

—なるほど。そういえば、ジミーさんのホームページには結構お金のことがシビアに書いてありますよね。

ジミー　アメリカに住むの高いんだよ！

—でも、お金がいるのにフリーでやってると、プロレス週刊誌の不況というのは響くんじゃないですか？

ジミー　響いてるよ。キャバクラ行けねえよ！

—ガハハハハハ！　外からジミーさんが見てプロレス雑誌ってどうしたらいいと思いますか？　「『ファイト』が厳しい」ってホームページに書いてましたけど。

ジミー　みんな厳しいみたいだね。俺から

話題沸騰!
ジミー鈴木HP「ビジネス日記」
～ジャングルファイト編～

「プロレス取材の裏側がわかる」ということで、ファンにも業界関係者にも話題のジミー鈴木HP「ビジネス日記」。ここでは、『ジャングル・ファイト』取材の壮絶さがわかるものを抜き出しました。まさに命懸けだ！

▼2003年8月31日

ブラジル行きが近づいてきたが色々な新発見に驚いている。なんと「黄熱病」の予防接種と「マラリア」の予防薬が必要なのである。今回のようなケースは初めて。

これまで「ジャングル」というものを甘く見ていたようだ…。聞くところによるとクソ暑い中でも長袖に長ズボンが必要らしい…。いや～本当に大変そう。自然との闘いの中でへろへろになって取材して、LAN通信のないところからダイアルアップを使い1枚につき15分以上かけて徹夜で写真を送り、原稿も同日追い込み。多分体重もどっと落ちるだろう…。言うは易しだけどマジで大変そう。逆に言えば自分にとっての正念場ともいえる。

▼2003年9月5日

日本に予防接種等ブラジル行き準備のために行っている週プロの鶴田記者からメールが入った。以下は鶴田クンからのメールだが…

「黄熱の予防接種は完了。問題はマラリア。検疫所に紹介された医療機関へ行き、医師と相談。基本的にマラリアは副作用が強いためあまり薬は勧めてないとのこと。その副

本誌は、そんなＷＪを応援します！……エッ、オレだけ！？



アマゾン川をボートで渡るジミー。後ろに見える三角屋根は『ジャングル・ファイト』会場となったアリアウ・アマゾン・タワワーズのひとつ。

一つ言えることは、やっぱりフリーの人間に対して、もっと弱肉強食の世界にしてくれよって。そしたら頑張りがいがあるじゃん。そうなったら全員食ってやるよ！

——使える人はいいお金で、ダメな奴は使わないと。

ジミー　そう。一回二回の仕事で見て、失敗したらどうのこうのでは、自分だって失敗することがあるから辛いけど、いいネタを引っ張って来る人間がいっぱいお金を貰って、半ばぶら下がってるような奴は食わす義務はないだろうって思うよ。日本の世の中自体がそうだからね。社員も含めて全部、弱肉強食の世界にすればいいんだよ！そしたら日本経済も生き返りますよ。

——構造改革しろ、と（笑）。まあ、それにしてもプロレス雑誌はキツイですよね。どうしたら良くなりますか？

ジミー　「ハルク・ホーガン独占インタビュー」ぐらいの企画を続けざまにボコボコやったら強くなるだろうな。

——なるほど（笑）。しかし、あれはよく取れましたよね。

ジミー　携帯に直接、電話したんだよ。『ゴング』から番号を教えてもらったんじゃないよ。ホーガンも凄くハードルは高いんだけどね。

——この業界のことですから、いろいろな手回しが必要でしょうね。

ジミー　ただ新日本には頼ってないよ！

——あ、そうなんですか？

ジミー　蝶野（正洋）選手に電話して「ドームを煽りませんか？」って言って、向こうから手を回してっていうことも考えたけど、それをやると聞きたいことが聞けなくなるし、書きたいことは書けなくなるし、借りができちゃうから。最初は自分でやってみようと思ってやってみたら、うまくいったんだよね。これもホームページに書いたけど、最初の電話でひょっとしたら家に呼んでもらえるんじゃねえかなって気がしたんだよ。何でかって言ったら、蝶野選手が契約した時にホーガンの家に行ってるんだよね。ひょっとしたらその流れで呼んでもらえないかなって、かすかな期待をして、「じゃあ、明日の朝になります」って言われた時にホーガンの家のできるだけ近くにいて、「いや、アナタの家の前に今いるんですよ」っていう感じで電話を受けたら「だったら来いよ」ってなりやすいんじゃないかなって。だからホーガンの街まで行って待機したよ。そしたらジミー・ハートから電話があって「今、どこにいるの？」って言われて「クリアウォーター（ホーガンの住んでいる街）にいますよ」って言ったら「ハルクスターがお招きしたいって言ってるんで」って。「ヤッター！」ですよ。

作用とは、不眠、悪夢、うつ病など。なので薬は取らないことに決定。予防措置としては、半そで長ズボン、帽子、靴下着用。エアコンのあるホテルでなるべく上のフロアに宿泊。夜は外に出ない。虫除けスプレー、虫除け塗り薬、蚊取り線香などを持参。服はうすでのTシャツはペケで、黒も不可。基本的に蚊はいる。害がない蚊もいるが、マラリアをもたらすのは尻尾が上を向いてるやつ。刺されて発病するのはだいたい1カ月後。もし発病したら東大病院へ行くこと。そこに専門家がいるから絶対に助かる。よって、アマゾン1カ月経過のあたりは日本にいることをRECOMMEGD。以上。あとは幸運を祈るのみ。治安対策、病気対策と、まさに命がけですな。」

いまからダラスのヘルスデパートメントへ予防接種へ行くのだが、どうやら腸チフスやA型肝炎など他の注射も推奨されているみたい。ホント恐ろしい。

てなことを書いていたらまたメールがきた。昨日彼に予防接種などのインフォメーションが書いてあるHP（英語）アドレスをメールしたら以下のメール…

「黄熱とマラリア以外はなんのことかわかりません。どっちにしろもう手遅れです。」

本当に大変なことになってきた。

いま病院から帰った。三種類の予防接種を受けた。ひとつは「黄熱病」で、もうひとつは「腸チフス＆パラチフス」で、もうひとつは「破傷風＆ジフテリア」とのこと。んで、マラリアだが処方箋をくれた。「副作用が強いと聞きましたが」とドクターにいうと「いや、そんなことはない」との答え。

それにしても鶴田記者、マラリア

“和製オブライト”

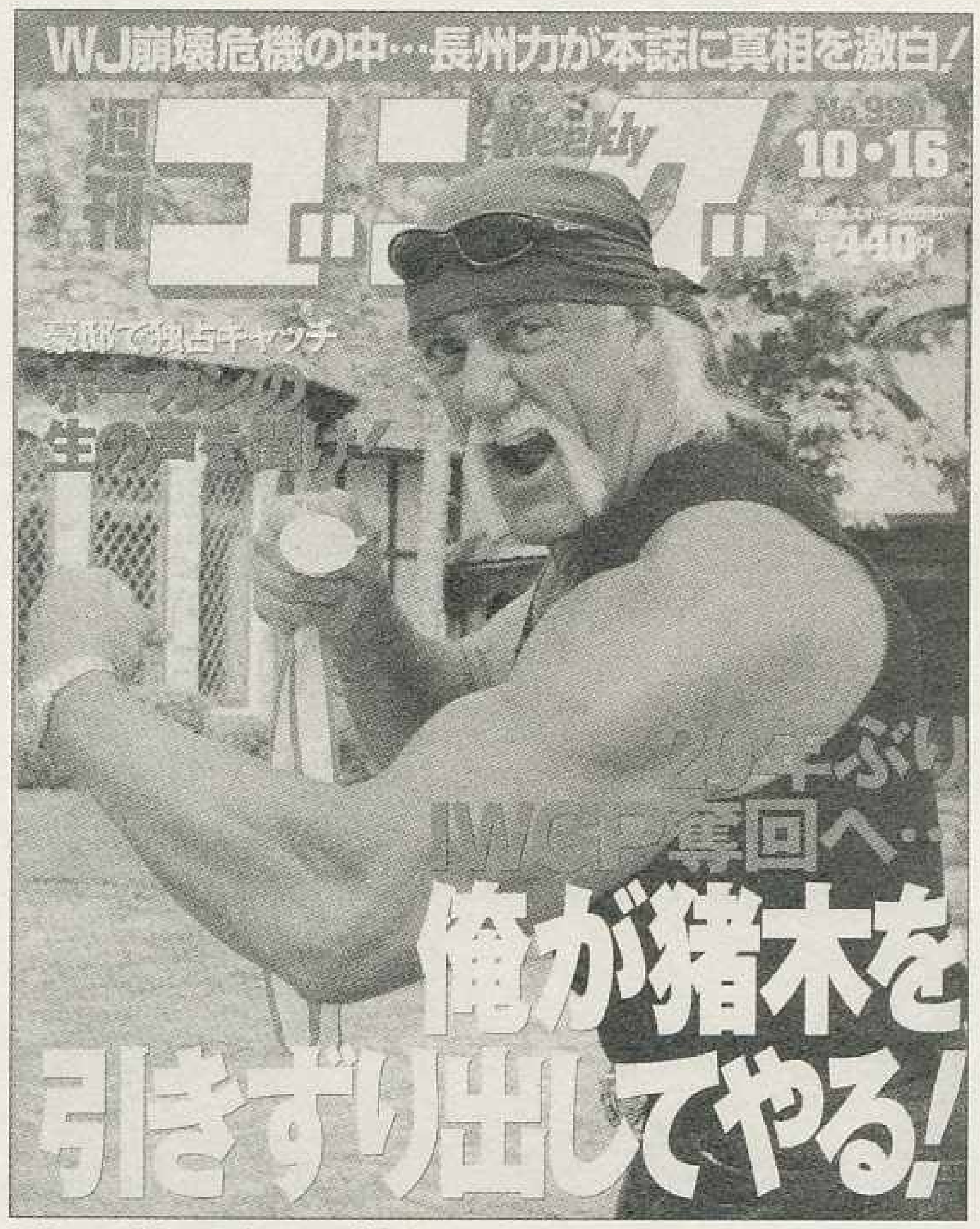
藤井克久 UFO

家に入ったら黒人のメイドさんが住み込みで働いてるんだよな。素晴らしい生活ですよ。隣がジョン・トラボルタの家だから。

――それも凄いですよね（笑）。

ジミー それぐらいのネタを取ってくるっていうのが続けばライバル雑誌に水を開けることはできるしね。WWEとWCWじゃないけど、『ゴング』か『週プロ』どっちかが潰れたら両方しぼむと思うよ。でも、相手を潰してやるぐらいの、別に個人的に会場で会ったら嫌がらせをするとかじゃないけど、仕事で抜くとかはもっとバシバシあってもいいんじゃないかなって思うよ。

ホーガンの自宅は住み込みのメイドさんがいて、隣はジョン・トラボルタ邸だよ！



ジミーが「久々の大スクープ」とHPに匂わせていたのがこれ。日本のメディアとして初めてホーガンの自宅でインタビューに成功したのだ。ビバ、ジミー！

――読者にしても「次号はどんなことをやってくるんだ?」っていうぐらいのほうが面白いですからね。その前はアマゾンのジャングルファイトの取材で、これはホームページ上の日記に相当書かれてましたけど、何とか生還できたみたいですね。

ジミー 日本の政府が出してるマラリアとか黄熱病とかの感染区に指定してる場所だから、行くにはこれだけの予防接種を受けてくださいとかそういうのが全部出てるわけですよ。『週プロ』の鶴田と話してナーバスになってたんだけど、実際に行ったら蚊がいないんだよ。

――あ、いないんですか（笑）。

ジミー いることはいるんだけど、大群で来たりとか明かりにブワーっと群れをなしてとかではないの。虫除けの網を被った写真（このページのトビラ参照）をホームページにはアップしたけどさ。

――あの状態でジミーさんがリングサイドにいたら凄いなと思ったんですけどね（笑）。

ジミー それを覚悟で行ったけど、リオネグロってアマゾンの支流なんだけど、酸味が凄い強い水を嫌うから蚊がいないんだって。猪木さんはそこに蚊がいないって、ちゃんと調査してやったんだよ。

――へ〜、そうなんですか。

ジミー エアポケットじゃないけど、ちょうどいない所だったから。だけど、それでも虫よけのクリームはバシバシやって、一応、携帯用の蚊取りマットをぶら下げて仕事やりましたよ。ただ、網を被ってまで仕事をする必要はなかったね。

――今は体調のほうは大丈夫なんですか？

ジミー なんかね、あれ以来、ずっと疲れてるんだよ。でも、ブラジルはメシが美味いね。味付けが美味いんだろうなぁ（しみじみ）。あそこは日本の移民がいっぱい行ってるし、フレンチも入ってるし。ラテン系の人って料理に対するプライドがあるから、どこでも結構メシは美味いんだけど、ブラジルは特に美味かったね。

――じゃあ、断食で減量して行ったのが戻っちゃいましたか（笑）。

ジミー 2キロぐらいね（笑）。ピラニアスープも美味しかったよ。最初は躊躇したけど、猪木さんに薦められたら食わないわけにはいかないじゃない？　でも、とっても珍味だったよ。

――ピラニアまで食べましたか（笑）。

ジミー 仮に来年もあったらまた行きたいなぁ。でも、俺はアフリカだけは嫌だよ（笑）。次はアフリカでやる噂があるみたいなんだよ。人喰い人種に喰われたくないよ！

――ガハハハ！

ジミー 猪木さんのことだからそのへんはちゃんとリサーチするんだろうけどさ。

――アマゾンはいままで行った中では、一番とんでもないところでしたか？

ジミー 一番とんでもなかったねぇ（笑）。だけど、他にもトパンガ・キャニオンとかあったけどね。猪木さんと山登りしたじゃん、もう死にそうになったよ〜。

――ああ、『ゴング』で表紙になったやつですね（笑）。

ジミー 藤波さんと二人で行って、その後、新日本の人間が全員ゴッソリ行ってね。

――山頂で「ダーッ」をやってましたね（笑）。

ジミー あの時、俺だけ遅くてさぁ。でも、佐々木健介っていい人間なんだよ。一番先頭で歩いてたのに戻って来て、一緒に歩いてくれたんだよね。佐々木健介はネットとか見てると結構叩かれてるけど、心情的には応援してやりたいなっていう気持ちが凄いあるよ。

――ウチも一回取材してみんな健介さんが

やチフス、ジフテリア、破傷風などの予防を一切せずにジャングルに入ってだいじょうぶなのか…。我々のようなフリーの記者が大病を患ったところで出版社が面倒を見てくれるとはとても考えられない。アメリカに住んでいるものは自分の身は自分で守らねばならない。そのために闘いが必要なのであれば闘わねばならない。

なお、いま入った情報では新間さんは健康状態（心臓）がすぐれず入院したためキャンセルとのこと。噂では選手たちも極度の緊張状態にあるらしい。

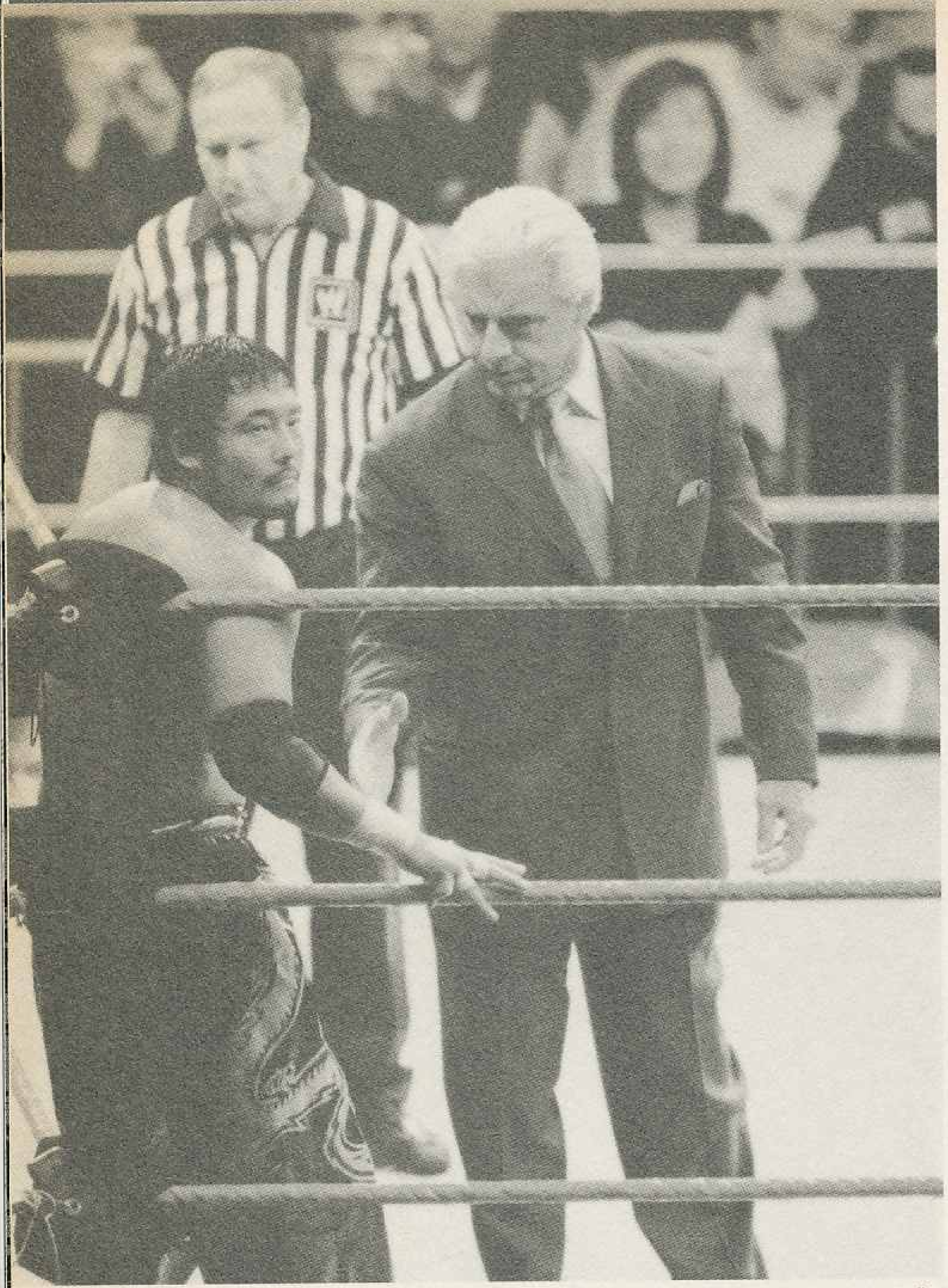
猪木さんだけはひょうひょうとしていて、予防接種なしで現地入りするらしい。さすが燃える闘魂は常人じゃない…と感心することしきり…。

▼2003年9月6日

アウトドアストアーに行き、ジャングル入りに必要となる靴や服、帽子などを見てきた。が、結局買わなかった。一生に一度しか着用しないようなものを買うのは、どうしても躊躇する。靴は一番安いもので60ドルぐらい（7200円）でパンツが50ドル（6000円）で、帽子に16ドル（約2000円）、しめて1万5千円ちょい。これに8・25パーセントの消費税が付く…。日本人は5%の消費税にブーブー言ってると聞くが、ここは昔から8・25%。最低20年は8%を越えた消費税である。

リングサイドで撮影するのにこれらの準備が必要なのか…雑感を撮影するチャンスはあるのか…これらを準備しないがために雑感が撮れないという事態にならないか…でも出費は痛い。すでに新しいパスポートを取るためにヒューストンへ行ったがために300ドル以上の出費。ビザ

本誌は、そんなＷＪを応援します！……エッ、オレだけ！？



ジミーがとにかく絶賛している最近のＴＡＪＩＲＩ。マリナーズのイチローばりに、WWEの“1番バッター”の座を不動のものにしている。

大好きになりましたよ（笑）。

ジミー　去年、永島さんがニューヨークへ健介を口説きに来たじゃん。あの時、ちょうど締切直前で目を真っ赤にして仕事してたから、一緒にメシを喰う暇もなかったのよ。メシは誘われたんだけど、5分も空けられないどうにもならない状況でさ。そしたら健介が俺の部屋をノックして来てさ、「ジミーさん、メシ喰ってないんでしょ？　これ食べてください」って俺の分のメシを作らせて折り詰めにして持って来てくれたよ。これは素晴らしい人間性だよ！

――いい話ですねぇ（笑）。

ジミー　自分の喰い残した物をパックにして持って来るんじゃないよ？　ちゃんと作らせて、腹を空かせてる俺に気を遣ってくれてさ。それはゴマをするとかちゃちいもんじゃないよ。人間が大きい。でも、いまＷＪは苦戦してるみたいね？

――苦戦どころじゃないですけどね（笑）。

ジミー　永島さんとか長州力が言うようにみんな苦しいんだよね。どうしたら強くなるかって言ったらＷＷＥ化するしかないよな。ただ、ネックになるのはバジェットだよ。どこの会社も金がないから。あれをホントにやろうとしたら凄い金が掛かるからね。チープなイミテーションになっちゃうもんな。

――例えば、失敗したと言われる『Ｗ－1』をジミーさんはどう見ましたか？

ジミー　ある程度、プロレスわかってる人間が入ってないといいものにならないよ。『Ｗ－1』にホーガンが行かなかった理由はさ……『紙プロ』なら知ってるよな？　プロレスラーを口説くのに“プロレス語”で口説かないと口説けませんよ！

――プロレス語ですか！（笑）。

ジミー　「このアングルはどうなってんだ？」ってなった時に「は？」って言ってるようじゃね。どうやって口説くの？　やろうとしてる人間がプロレスを全くわかってなくて、金だけ出せば動くだろうって。でもホーガンは金を持ってるんだから「7億出しますよ」って言うんだったら金のためにやろうかってなるけど、7千万ぐらいでは動かないですよ。要するにホーガンが気にしてるのは、「どうやってその話題を盛り上げて、どういう感じでそこまでもっていって、どういう感じで客を呼んで、自分はどういう役割りを果たして、どういう形で終えるのか？」っていうことだから。ホーガンっていうのはＷＣＷにいた頃、クリエイティブコントロールって言って、自分の試合とかお芝居とかに「ノー」という権限を持ってたんだよ。

――そうらしいですね。

ジミー　じゃあ、蝶野選手がなぜ口説けたかって言ったら、彼は8月ぐらいに交渉のために自分でホーガンにオファーの手紙を書いたんだよ。それを誰か専門家に訳してもらってホーガンの代理人、多分、ロス地区に住んでた弁護士だと思うんだけど、その弁護士はホーガン、ジョージ・フォアマン、アントニオ猪木と同じ弁護士なんだよ。そっちに書面を出して、「こういうふうにして盛り上げて、アナタはこういう役割りをしてもらいたいのですが？」っていう誠意の伝わるような文書にして、マメに何通か送ってるはずなんですよ。蝶野選手みたいにレスラーの気持ちがわかる人間がやってるから、あのホーガンが落ちたんだよ。ちなみに今回、新日本が出した金額は『Ｗ－1』の半分ぐらいだと思うよ。

――ほう！

ジミー　ホーガンが俺に聞いてきたのは、「じつは新日本よりも『Ｗ－1』から倍の金でオファーが来てるんだけど、そっちに行こうかなあ」って。会っていきなり、そんな話だ

取得のために170ドル。予防接種で189ドルで659ドル（約8万円）も立て替えている…。日本にいればこれらの領収書を経理に提出して翌日には受け取れるのだが、海外ではそうはいかない。

今しがた新しい情報が入った。以前に聞いていた話では11日にマナウスに入って、2泊したあと大会当日にジャングルの中にあるアリアウタワーホテルへ移動ということだったが、ジャングルの中に3泊という話に変わった。

それと試合開始時間だが現地のＰＰＶとの兼ね合いから夜11時のスタート。3時間イベントとして終わるのは深夜2時。これはますます大変なことになった。

なにが大変かと言えば「虫」である。昼間の場合はそれほどでもないが、夜になれば「虫」は明かりを求めて集まってくる。このような深夜のイベントとなれば大変な事態になるのが目に見えている…。やはり蜂の巣をつくような完全防備でなければ撮影どころではなくなる。明日アウトドアストアーへＵターンせねば。

それにしても大変なのは選手たち。本当に裸で闘うのだろうか、それとも「防具」をつけたもの同士の闘いになるのか…だとしたらそれはそれで前代未聞のイベントとなり、インパクトの強い写真が撮れそうである。

▼2003年9月7日

結局アウトドアーの店に行った。トップページの写真の格好を買った。虫除けの網がついた帽子。帽子の上から被るひも付きの網の袋、携帯用電子蚊とりマット。虫除け剤3点セット（顔につけるジェル、身体につけるスプレー、服にかけるスプレー）、

“和製オブライド”

UFO

小川直也には、試合後リング上で大の字にブッ倒れてベルトだけはお腹に乗ってるレスラーになってほしい

よ!?　「どっちを選んだらいいと思う?」って。俺は「アナタはお金を持ってるんだから、自分が幸せになれるリング、より輝けるリングを選択すべきだと思います。どっちが輝けるかハッピーになれるかは、自分の判断ですよ」っていう答えを返したら、ホーガンが「全くその通りだ」って。で、いい感じにインタビューさせてもらったんだよ。

——なるほど（笑）。でも、蝶野との一騎討ちじゃダメだとか、いろいろ言われてるじゃないですか。10・13ドームの切符が売れてないっていう話もありますし。

ジミー　でもね、蝶野選手とも話したけど、今、ホーガンのギャラは東京ドームで切符を売ってペイをしようと思ってもできないらしいよ。そこで何が大事かって言ったら、プロレスっていうのはイメージビジネスなんだよ。企業イメージとして「ホーガンを取り込んだよ」っていうメジャーのイメージが新日本プロレスにとって大事なんだって。なぜ大事かと言ったら海外戦略ですよ。興行を海外で打つ手もあるけど、自分の映像をヨーロッパに売ったりとか、自分のところのソフトを海外に売ったりするのも商売だと思うんだよね。交渉する時とか契約する時とかにしても、ホーガンによってビッグビジネスのイメージがもたらされるっていうのは目に見えない部分でのメリットが大きいからね。今日、明日でこれだけの金が入りましたという部分ではなくてね。ただK-1は「タイソンと契約した」って言うけど、タイソンは世間から冷たい目で見られてるわけだし、これはホーガンと全然違うよ。商品価値で比べたらホーガンのほうがずっと上ですよ。世間に見捨てられた人が墓場としてK-1を選んだわけじゃない。

——今後、ホーガンの継続参戦はありそうですか?

ジミー　今回のドームで幸せを感じられたらあるでしょ。それだけですよ。ファンが「ホーガン」コールを起こせば戻ってきますよ。

——そのへんは小川直也と一緒ですね。

ジミー　あ、そうなの?

——小川選手がなぜ新日本より全然安いお金でZERO-ONEに出るかっていったらZERO-ONEの地方興行が気に入っちゃったんですよね。

ジミー　お客が暖かいんだ?

——新日本に出てたらヒールじゃないですか。それが地方に出たら「小川、小川!」ですから、それがホントに嬉しいらしいですよ。

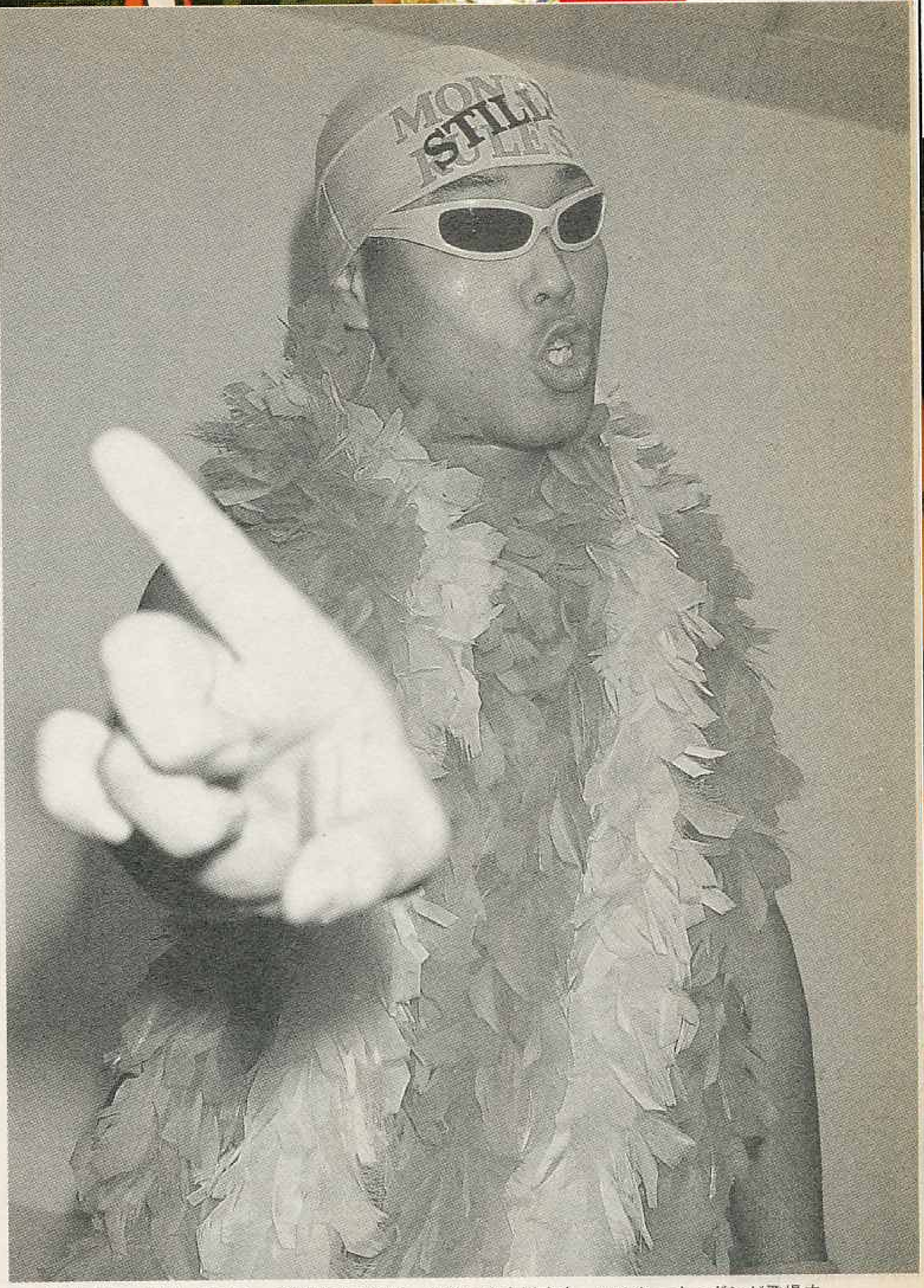
ジミー　ホーガン、小川に限らず、レスラーっていうのはそういう部分が凄いあると思うよ。だから自分の体を犠牲にあんなことができるんだよ。

——先ほど、日本のプロレスはWWE化するしかないっていう話が出ましたけど。

ジミー　しなきゃいけないけど、金がないだろ。新日本だって、すぐにはできないよ。WWEだって今日のWWEがいきなり始まったわけじゃなくて、手順を追って体力をつけて今があるんだから。

——WWE化って言うと同時に、エンターテインメント化とかカミングアウトとかって言われるじゃないですか。

ジミー　もう（新日本は）カミングアウトしてるようなもんじゃん!



マット界のエースとしてジミーが期待するのは、以外にも小川直也。ハルク・オーガンが登場するなど、いよいよハジケてきているので、ホントそろそろ大化けしてほしい!

それとアウトドアー用の長袖シャツ2枚、パンツ1本。あとは手袋を買ってシャッターを押しやすいように人差し指の先の部分をカットして使おうと思う。リングサイドで撮影の際、電子蚊とりマットを自分の横に置いて…これならなんとかなるだろう。あとは33度~35度の暑さとの闘い。そして著しい体力消耗を伴った移動、そして虫と暑さの中での取材をした後の入稿作業、これもまた真剣勝負である。一生忘れえない取材旅行となることは確実である。

まあここまで準備してから言うのもなんだが、200人ぐらいしか入らない特設会場なのだから、ファイターやお客さん達のためにも、蚊帳のようなもので会場全体を覆ったらいいと思う。

▼2003年9月9日

いよいよ明日、ダラス→アトランタ→そしてサンパウロには明後日の朝がた到着する。そしてそのままマナウスへ飛ぶ。で、そこから船に揺られてアマゾン川を3時間。アリアウタワーホテルに到着するのは夕方。この移動、24時間ぐらいかかる。ダラスからサンパウロは普段からよく乗るデルタ航空だからマイルを使ってビジネスクラスにアップできたが、サンパウロからマナウス…4時間フライトのヴァリグブラジル航空はエコノミー。俺の体格でエコノミーは正直きつい。体重が70キロぐらいの体格だったらどんなに楽か…。ナカハメ（中山ケイジ）さんなんか50キロぐらいだから、恐らくエコノミーでも俺がビジネスクラスに乗るとき以上に伸び伸びできるだろう。なのにあの人も日本やヨーロッパへ行くノースウエスト航空はビジネスクラスである。多分、俺がファーストに

――まあ、そうなんですけどね（笑）。

ジミー　だけど、それで人に迷惑かけて本を書くのは気に入らないな。

――某高橋さんと某タナカさんのダブルＴですね（笑）。ところでジミーさん、闘龍門はどう思いますか？

ジミー　素晴らしいよ！　大好きッ！

――大好きッ！ですか（笑）。

ジミー　面白いけど、日本でやるんだったら、素人にナメられるような体作りはこれから変えていかないといけない課題だろうね。元々、プロレスラーは「喧嘩なんかしたら半殺しにされちゃうよ」って思われてナンボの商売じゃない？　この根本を忘れちゃいけないよ。

――確かにブロック・レスナーに喧嘩を売りたくないですよね（笑）。

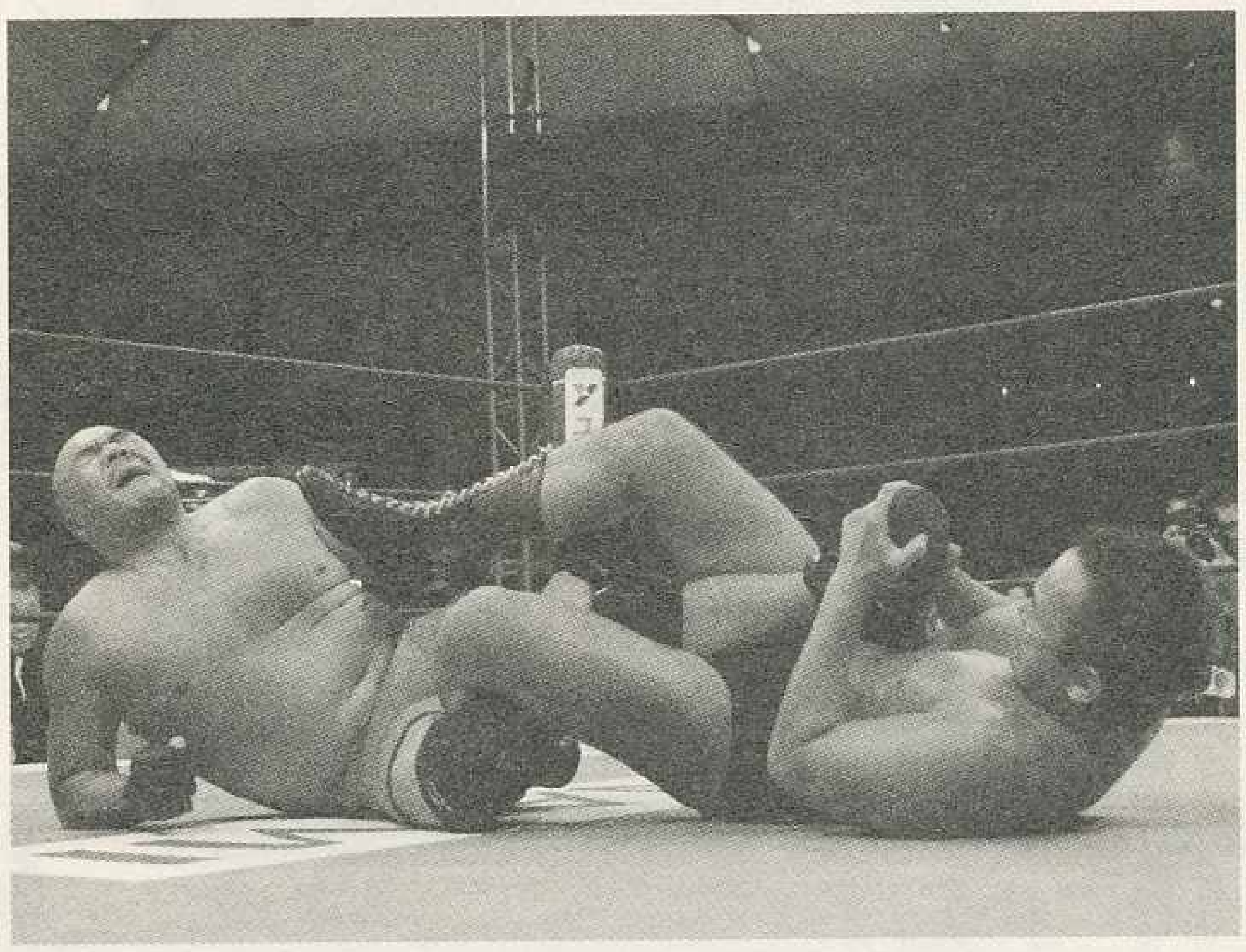
ジミー　そうでしょ？　エンターテインメント化しようが何をしようが、イメージだけでいいからそれだけはキープしておいて欲しいよね。

――ウルティモ（・ドラゴン）校長がＷＷＥでなかなか上に行けないっていう理由はなぜなんでしょうか？

ジミー　ＴＡＪＩＲＩを見ちゃったら、今のウルティモ見てもビックリしないもんな。以前のウルティモは凄かったけど、やっぱり飛んだり跳ねたりのレスラーっていうのは若いうちはいいけど、年を取ると苦しいよね。その壁にぶつかってるんじゃないかな。上手い選手だったらいいかって言ったら、ＷＷＥにはもっと体が大きくて上手い選手がいるわけだよ。あの体でＷＷＥが求めるのは、やっぱりレイ・ミステリオだと思うんだよね。ＷＷＥが求めるものと、ウルティモが必ずしも一致してないというギャップがあると思うんだ。でも、ウルティモっていう選手は早く動いてないのに早く見せかけたりするのは凄い上手いんだよね。歩幅を小さくちょこちょこって動くことによって早く動いてるように見せられるじゃない。

――冬木さんも「俺が地団駄を踏むのは足が遅いからだ」って言ってましたもんね（笑）。

ジミー　そういうプロレスの奥深い部分でウルティモもいっぱい引き出しを持ってるんだよね。武藤選手もそうじゃん、フェイスクラッシャーいく時に顔が細かく揺れてるでしょ？　そういう一つ一つの細かい部分をよく知ってる人だから。このまま終わらせるのはもったいないよ。



――ＴＡＪＩＲＩ選手はそんなに充実してますか？

ジミー　ＴＡＪＩＲＩは今、極上のレスラーだよ。それでいながら試合の組み立てに関しても、こうしたら不自然だから、こっちのほうが自然だろうとか毎日考えてるからね。

――そういう引き出しがないと、どんどん逆に落ちていっちゃいますよね。

ジミー　厳しいもん。ちょっとショッパかったらすぐに切られますよ。

――それは日本と一番大きな違いですよ。

ジミー　プロレスもそうだし、社会全体がそういう構造じゃん。

――話は変わりますけど、今度ＺＥＲＯ－ＯＮＥが『ＰＲＩＤＥ』のＤＳＥと組んで、また『Ｗ－１』のようなイベントをやるんです。今度はＺＥＲＯ－ＯＮＥがソフト面をやって、ＤＳＥがハード面をやるっていう話なんですが。

ジミー　ＺＥＲＯ－ＯＮＥが仕切ってやっていくんだったら、いいんじゃない？　中村（祥之・渉外部長）さんは凄く頭がいいもん。あの人はプロレス業界の背広組の鏡だね。よく勉強してるし、悩んでるし、寝ずに考えてるような人だよ。

――常に海外行ったり、リングに上がったりで没頭してる感はありますよね（笑）。

ジミー　危機感持って仕事してるよね。

――そこにゴールドバーグが上がると言われてますが、アメリカでのゴールドバーグってどうなんですか？

ジミー　やっぱり客の受けがいいよ。

――ＷＷＥを切られるっていう噂もあったんですよね？

ジミー　契約はどうなってるかわからないけど、切る理由はないでしょ。ただ、ゴールドバーグって使い方が難しいんだよね。弱いところが見えたら魅力がなくなっちゃう選手じゃん。だから、レスラーとしての幅は狭い。そういう意味では今のレスラーで奥行きがあるのはＨＨＨだね。俺は、試合中にやられまくって、最後にチャンピオンベルトがお腹に乗ってるプロレスラーって大好きなんだよね。

――かつてのリック・フレアーも金髪を赤く染めて大の字になってるのに、ベルトだけが乗っかってましたもんね（笑）。

ジミー　ホントは小川選手がそういうこと

乗るぐらい楽だろう。

とにもかくにも、ひょっとしてひょっとすると「今日でお別れ」なのかもしれない。

▼２００３年９月１８日

アマゾンから帰り既に36時間が経過しているのだが、いまだにヘロヘロである。何がきつかったかと言えば「湿気」である。35度前後の気温は耐えられる気温だが、加えて75％以上の湿度となると、ホント、発狂しそうになった。

到着して最初の2日間はマナウスに泊まってアリアウへ船で通う形となった。

アリアウではどこに行くにしても、一歩間違えればというか、いつ底が抜けてもおかしくないような超貧弱な作りの橋を渡る。１・５センチぐらいしか厚みのない板で出来た橋。落ちれば当然即死…。もう、怖いのなんのって…。

とんだアクシデントもあった。ワールドプロレスリングの中丸アナが試合当日ぶっ倒れた。環境の変化に対応できなかったのだろう。そこで大活躍は同行していた新日本のリングドクター林先生。林先生のお陰で中丸アナは仕事に穴を開けず、無事に仕事をしたのであります。

中丸アナが船の下の船室でぶっ倒れている時、まさに船が出ようとする時、いきなり嵐となった。「俺がいるから晴れるよ」と猪木さんがポツリ。で本当にその通りになった。まあ行きはこんな感じだったが、帰りは帰りでとんだハプニングがあった。

会場のあったアリアウからマナウスの船着場まで帰る船が途中でエンコ。「チェーンが外れた」との説明。船の中は蒸し風呂状態。デッキに出

“和製オブライド”

UFO



ができるようになったら凄いんだけどね。ホントに強さも持ってるし、強さの見せ方も知ってるから、最後にぶっ倒れてベルトがお腹の上に乗ってるのが様になれば、もっと凄いレスラーになるよね。

――直接言ってあげて下さいよ（笑）。

ジミー　いいよ、直接言わないから、これで書いといて。だけど本人がそこに気付き始めてる気がするんだよな。そうじゃなかったら、ハルク・オーガンなんてやらないよ。

――オーガンは凄いですよね（笑）。

ジミー　ホーガンはオーガンがカワイくてしょうがないみたいだよ。

――ホントにそうなんですか？

ジミー　そりゃそうですよ。天下のオリンピック銀メダリストが、ハルカマニアをやってくれてるわけじゃん。だから、小川選手は可能性を持ってるよね。元々の器が凄いから、もしそういう方向にふっ切ることができたら、凄いことになるよね。

――あれだけ実力があって、あれだけプロレスが好きになって、やる気になってる人ですからね。

ジミー　あとは誰だろうなあ……。新日本の中邑選手がもっとプロレスを覚えていった時に、どういうふうになっていくか。話してみると、かなりプロレス頭もあるみたいだしね。そのへんはやっぱり西村選手とつるむのがいいんじゃないかな。そしたら気付きが出てくるんじゃない？

――最近の西村選手は凄い方向に行ってますけどね（笑）。宗教じみた話とか宇宙の話ばっかりで。

ジミー　こないだ、俺がインタビューしたら初めて女の話したもんな。ギミックがなくなってきたんだよ（笑）。

――なるほど（笑）。

プロレス界は天下無敵のスターを作らないとダメ。それは安さんだよ！



本名・鈴木清隆■1959年、東京都出身。80年代前半からプロレス雑誌の米国通信員として『ゴング』を中心に活躍。WWE公認カメラマンでもある。

ジミー　ここ最近の新日本は順繰り順繰り、短期政権でエースを変えたりしてたじゃん。それは間違いだと思うよ（キッパリ）。今もそれをやってるじゃん。永田選手がこけたら中西選手が出てきて、今度は藤田選手が横から出てきて、天山選手はG1で優勝したけど、もう曇り始めてるって言われてるし、安田選手の時もあったしさ。安さんを押すなら最後まで押せよって。もっとプッシュしてたらもっとイケたよ！　もう2ランク上がったよ。

――なんであんなに落ちるのが早かったんですかね？

ジミー　猪木さんと揉めたとか噂されてるよね。

――確かにそうでした（笑）。

ジミー　ちょっと悪っぽさを残しながら、「父ちゃん、昨日久しぶりにバクチやっちゃったよ～」みたいな「ずっと我慢してたけど一回だけ許してな！」みたいなさ。

――憎めないオヤジみたいな（笑）。

ジミー　そうそう（笑）。それでいいじゃん。もっとエースで押せばあの人はイケたと思う。尻切れトンボにしたらダメだよ。

――確かに最近の新日本は中途半端に押すのが多過ぎますよね。

ジミー　ここ15年間、ずっと中途半端だよ！

――そんなに続いてますか（笑）。

ジミー　もう、天下無敵のスターを作らないとダメだよ。それには安さん（安田忠夫）だよ、安さん！

――じゃあ、西村選手に更生してもらいましょうか（笑）。

ジミー　そうだね。あと安さんと西村選手のタッグって面白いと思わない？　最高のタッグになるよ、これ！　柔と剛で意味で最高のタッグになりますよ。安さんは不器用な体して、不器用な格闘技戦なんかやらなくていいんだって。何もかもスマートにやってしまう人もいるかもしれないけど、不器用でも一生懸命やって受けるようなスターが生まれてもいいよね。安さんは大化けする可能性があるんだから、やっぱり西村選手の力が必要だよ。

――いや～、まさか新日本の未来がその二人にあるとは思いませんでしたね（笑）。

ジミー　中邑選手が独自の路線でいけばいいけど、まだ時間が掛かるよ。次期エースを安さんにして、その次は中邑選手。中邑選手も西村選手とリンクしていかないとダメだけどね。あ、もう東京ドーム行かないと。またこれから、スッパ抜き独占インタビューがあるんだよ（ニヤリ）。

――あ、そうですか。頑張ってください！（笑）。

【03年10月13日／東京ドームホテルにて収録】

てもカンカン照りの直射日光…。乗ってる人間みんな気が狂いそうになった。で、シャツを取替えるため、荷物を置いてあった下の階へ行くと、なんとエアコンが効いてるではないか。なのにこの階にいた人たちは、みんなして涼しい顔して、誰も上にいる汗だくの仲間たちに伝えようとしない…。確かに全員が下に行けば人が溢れてパニック状態になったかもしれないけど、なんか変な気がした。

マナウスについて鶴田と2人でトロピカルホテルのサウナへ直行。ところがせっかくシャワーを浴びたのに服を着ようとするともう汗びっしょりになっている…これにはさすがに参った。

でも悪い話ばかりではない。ブラジルは食事が美味い。ラテンの国は共通して食のレベルが高いが、ブラジルでは食うもの食うもの片っ端から美味い。猪木さんに勧められてピラニアのスープも食べた。これは絶品とはいかなかったが、まずくはない。

本誌は、そんなＷＪを応援します！……エッ、オレだけ！？



崩壊危機一髪

スペシャル特集

今年３月に旗揚げしたばかりのWJが早くも崩壊の危機!?　ことの発端は９月28日に9月末での退団を表明した谷津嘉章による内部告発だった。『東スポ』の一面を飾った谷津の口からは、観客減少によるファイトマネーの未払いや「すべてがうまくいけば年内はもつだろう」といったショッキングな発言のオンパレード！　翌日、この発言を受けた長州は「心配ご無用」とキッパリ。WJはどうなるの!?

聞き手＆構成／松澤[illegible]ロ　試合撮影／平工幸雄　designed by Tani-Yan（Two three）

ウチはヘコたれませんよ！

すべてはここからはじまった……

W 最近のWJからは目が離せないよね。

J 離せないどころか、もう釘付けだよ!!（笑）。

W 毎日『東スポ』でWJネタを見るのが楽しくてしょうがないよ！　長州が昔、「プロレスマスコミは『東スポ』だけでいい」って言ってた意味がわかったような気がする（笑）。

J 意味が違うだろ！　でも今回のWJ崩壊危機騒動の、そもそものきっかけって、その『東スポ』の谷津発言からだよね？

W そうなんだけど、何ヶ月も前から谷津が言ってたような話は、あちこちから耳に入ってきてたからね。遂に表に出たかって感じだよ。

J あ、そうなんだ。オレは携帯サイトの『バトル三昧』の超人気連載「ヤスカク噂ナビ」でしかWJ情報は仕入れてないからな。

W いや、あのコラムはWJの最新情報を知るにはもってこいだよ！　真偽はともかく（笑）。

J そういえば、この間なんかは、タイガー服部と保永レフェリーが長州を糾弾して、ついには健介までも長州に反旗をひるがえしたとか書いてあったんだけど、ホントなの？

W あくまでも「噂ナビ」だからね（笑）。

J また、「ヤスカク噂ナビ」ネタになっちゃうけど、谷津の内部告発があってからチケットが売れなくなって、谷津と長州を闘わせようというアングル案が出たらしいんだけど、それを長州が断ったと。しかも、そのアングルを発案したのは谷津本人だっていうオチ（笑）。さすがの谷津親分も、そんなことはしないだろ？

W そうそう！　その話が気になったんで、谷津本人に電話して確認したんだよ。

J エッ!?　なんて言ってた？

W やっぱり事実だった（笑）。ただ、そのアングルは退団前から考えてて長州にも話してたみたいなんだけど、どうにもダメだったと。

J やっぱり、長州的にはダメなんだ。でもホント、いま、このタイミングで長州vs谷津の一騎打ちが実現したら、かなりチケット売れるでしょ？

W 間違いなく『X-1』の2倍は売れるよ！

J そのたとえって、売れるんだか売れないんだかよくわからないよ！　でも、『東スポ』の谷津発言で一番気になったのは、今後は「出版社に行くので、そちらの方に集中したい。たぶん営業だから」ってところなんだけど。

W はいはい。あれは気になったよね。

J ネットとかでは「谷津が行く出版社って『紙プロ』なんじゃないか？」って何件か見かけたけど、さすがにそれはないだろ？（笑）。

W でも、あながち、あり得ない話じゃないよ。

J それって、どういうこと？

W いや、WJの社員に英語堪能でキレイな女の子がいるんだけど、彼女はWJに入る前『紙プロ』に面接に来てるからね。

J エッ!?　英語もできる上に、キレイな女の子だって!?　なんで採用しなかったんだよ!!

W いや、ガンツが面接したんだけど、どうやらプロレスファン歴がまだ浅かったらしくて、落としちゃったみたいなんだ。

J オレだったら即採用するのになぁ。

W （無視して）でもオレも「谷津が『紙プロ』入り」って書き込みをどっかで見たんで、そのことも本人に確認してみたんだよ。

J で、やっぱりそれも事実だったの？

W いや、マジメな話、どこの出版社なのか聞いてみたんだけど、「まあまあ、オレもいろいろと顔が広いからよぉ（笑）」って、はぐらかして教えてもらえなかった。そのあとに『紙プロ』入社の噂を振ったんだけど、そしたらノリノリで「おう！　『紙プロ』だったら、月十万ぐらいで特別顧問かなんかやってやるよ！　山口編集長によろしく言っといて」だって（笑）。

J さすが谷津親分（笑）。でも、特別顧問もいいけど、『紙プロ』には営業がいないからホントにやってもらいたいよね。でもさ、谷津っ



WJ崩壊危機騒動の発端となったのが、谷津と空席の目立つ伊勢崎大会の会場風景が一面となった『東スポ』（9月30日付）。谷津の口からは、8月、9月のファイトマネーが未払いになっていることや「すべてがうまくいけば、年内はもつだろう」「今は休火山と思っているが、あとは死火山しかない」といったショッキングな発言が飛び出した。これを受けた長州は翌日の『東スポ』で「バカだよな。吹くだけ吹いたという感じだな」と激怒。崩壊説にも「心配ご無用」と反発した





WJ離脱後はラグビー界への復帰も真剣に考えた健想だったが、最終的にはプロレスラーとして生きていくことを決意。次に上がるリングはどこだ!?

10月シリーズはケガの状態が思わしくなく全戦欠場となった健介。お詫びに全会場で握手会を行った。チーム再編の嵐の中、復帰後の健介はどうする!?

『週刊ゴング』で対談したマグナムTOKYOから「何でWJに上がってるんですか!?」と突っ込まれていた天龍。長州とのタッグ王座はどうなるのか!?

「俺の意見は全部、谷津嘉章が言ってしまった！」と、谷津発言を全面肯定した大森隆男。その後、反選手会同盟の越中からの共闘のオファーを受けた

崩壊危機報道を受け「関係ねえよ！　危機なんか何でもねえ!! オレが面白くしてやる。ファンもマスコミも黙って見とけ!!」と力強く語った石井智宏



WJにも一度ぐらい幸せなことがあってもいいだろう

てプロレスは、もう引退しちゃったの？

W　いや、本人が言うには「引退したなんて一言も言ってない」って。「ただ、いますぐ試合をしろって言われてもコンディション的に完璧じゃないんで、1年ぐらいビッシリ鍛えてから、またSPを盛り上げていきたい」って言ってたよ。まだまだやる気マンマンだったよ！

J　まだ、やる気あるんだ。だったら尚更、長州と闘って欲しいよなぁ。

W　そりゃ見たいけど、長州がダメって言うんだからしょうがないだろ！　谷津も長州に対して「人のこと『あのバカが』とか言ってないで、因縁ができたならリングの上で決着つけるのがプロレスラーだろ！　オリャオリャ!!」って、かなりエキサイトしてたけどね（笑）。

J　相変わらずカッコいいこと言うね。まあでも「オリャ」は言ってないと思うけど（笑）。

W　あ、バレた？（笑）。その後に「どうしても闘うのが嫌だって言うんだったら公開討論で対決だ！　リングの上が嫌だったら同じテーブルに付け」って張り切ってたよ（笑）。

J　アハハハハ！　公開討論でもいいから見たいね。何か他には面白いこと言ってなかった？。

W　長州が「仕事すっぽかして。理由は知っている」とか「叩けば埃（ほこり）が出る」って、谷津にも非があるような言い方してたけど、何かやましいことはあるのかって聞いたら「そんなもんないよ！」って最初は言ったんだよ。でもその後に「まあでも、40過ぎの男で叩いて埃が出ないヤツなんていないだろよ」って（笑）。

J　で、その後に衝撃発言でも？

W　衝撃発言ではないんだけど、「ただしな、オレから出る埃は『つちへん』の『埃』じゃなくて、『ごんべん』の『誇り』だから。なっ！」って言うんだよ。相変わらず冴えてるなぁって思って、感心しちゃったんだけど。それと最後に「オレはスキャンダル男みたいにとらえられてるけど、今後同じようなことを繰り返さないようにと思って、すべては業界のためにやったことだから。それだけはわかってくれ」だって。

J　それは気づかなかった（笑）。永島専務は「ウチはヘコたれない」って言ってたけど、WJには、ヘコたれず頑張ってほしいよ!!

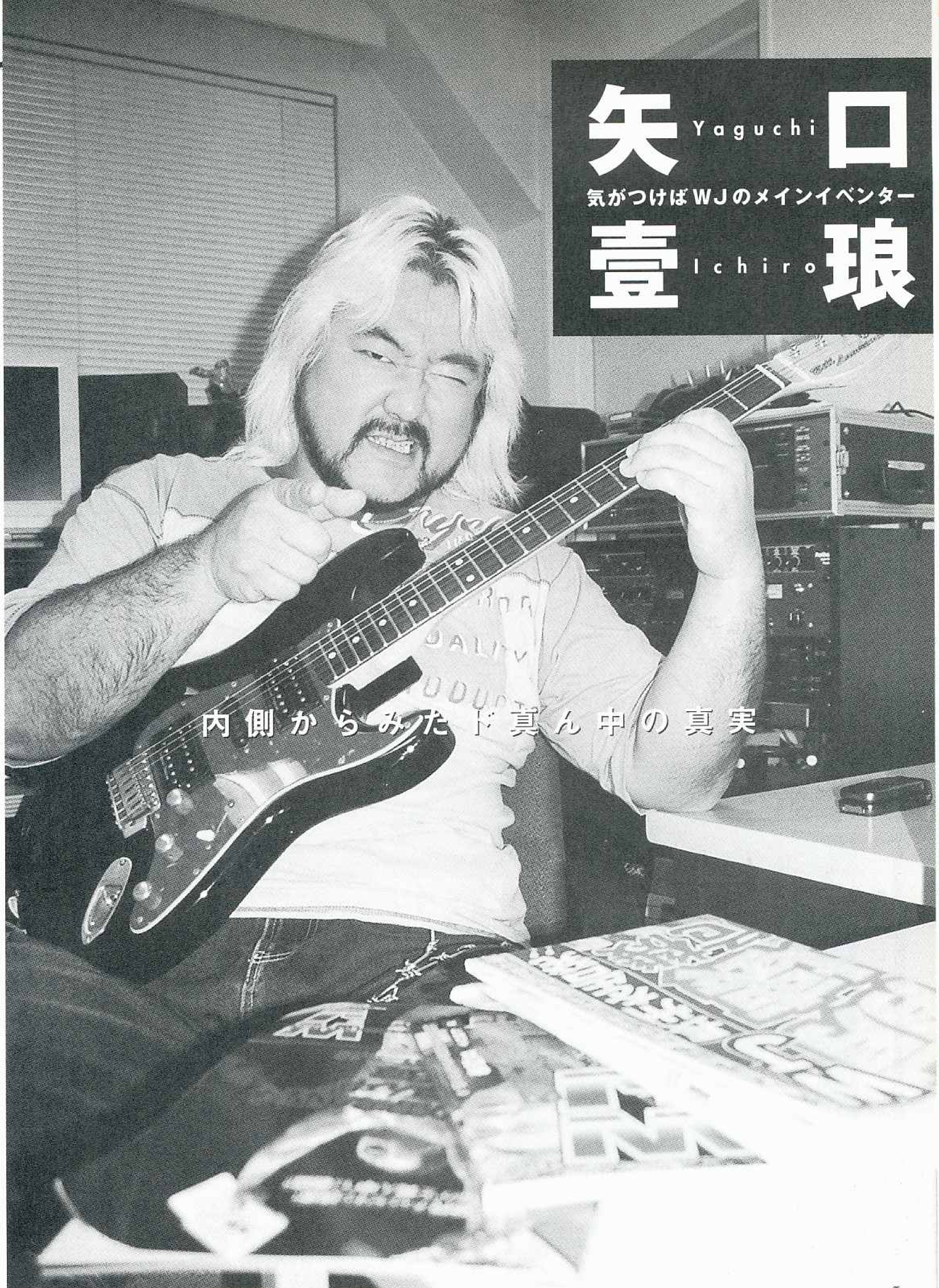


10月19日、アメリカ・フロリダ州タンパの自宅で、WJをはじめ日本マットでも活躍したホーク・ウォーリアーさんが急死。享年45歳。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

「〝ド真ん中〟プロレスはロックンロールだ!!」

矢口壹琅 Yaguchi Ichiro

気がつけばWJのメインイベンター



──いま、いろんな意味で注目を集めているWJについて、ここ最近、メインにも出ている矢口さんに語っていただければと思ってます。

矢口 いやぁ〜、最初は、そんなつもりはなかったんですけどねぇ（苦笑）。

──そんなつもりはなかったというと？

矢口 話はあったんですけど、WJには全く出るつもりはなかったから（キッパリ）。

──そうなんですか。でも、谷津さんとか高智さんとか接点がある人が多いですよね。

矢口 そうなんですけど、オレはデビューしたときからズ〜〜ッとインディーにこだわってましたから。もうインディーだけ出たいと。メジャーは極力嫌だと言ってきて、話があってもずっと断り続けてきたんですよ。

──メジャーからも結構話があったんですか？

矢口 バンバンありましたよ（笑）。

──それは知りませんでした（笑）。

矢口 だって、WJの直前なんか魔界倶楽部から話がありましたからね（苦笑）。

──えっ、魔界倶楽部からですか!?（笑）。

矢口 星野総裁に誘われたんですけど、それも断りましたからね。

──星野総裁とは何か接点はあったんですか？

矢口 星野総裁はボクを可愛がってくれてる社長さんの知り合いなんで。「インディーで誰かデカくていい選手いないか？」ってことで、その人がオレの名前出したらしくて連絡来たんですけど「いやぁ〜、すいません！」って断って。それで他の選手紹介したぐらいですから（笑）。

──魔界へ斡旋してましたか（笑）。

矢口 そうなんですよ（笑）。それから、いろいろあって、結局WJに出ることになって。話せばもの凄く長くなっちゃいますけど（笑）。

──それはまたの機会にということで（笑）。

矢口 はい（笑）。でもね、WJに出てる間にボクはあることに気が付いたんですよ。

──ほぉ！ それはなんでしょうか？

矢口 WJにはド真ん中って言葉があるじゃないですか？

──キャッチフレーズですからね（笑）。

矢口 それが凄く気に入っちゃって（笑）。

谷津発言が『東スポ』の一面になったのは ＷＪにとってメチャメチャおいしいんじゃない？

―たしか『ＬＯＶＥど真ん中』ってライブのタイトルにも付けてましたよね（笑）。

矢口 そうなんですよ（笑）。それで、オレの中でド真ん中って、ひょっとしたらロックンロールって意味じゃないかって思うんですよ。

―ド真ん中＝ロックンロールですか⁉ それは新しい解釈ですね（笑）。

矢口 いままでは、邪道っていうのが、ある種ロックンロールだったんですよ。世の中の秩序があって、そっからはみ出してやってやろうじゃないかっていうのがロックンロールの神髄だったんですけど、いまの世の中とかプロレス界もそうなんですけど、何が主流なのっていう話になると、その邪道の部分が正道になっちゃってるんですよね。邪道って言っても大仁田さんがどうこうじゃないですよ（笑）。

―はい。わかってます（笑）。

矢口 たとえば闘龍門にしても大阪プロレスにしてもＤＤＴにしてもね。中にはポーゴさんのとこや、埼玉プロレスでさえ、テレビで取り上げられたりしてるじゃないですか（笑）。

―埼玉プロレスは、この間、ＴＢＳの深夜番組で取り上げられてましたね（笑）。

矢口 でしょ。逆の発想ですよ。ロックンロールっていうスピリットは実はド真ん中にあるんじゃないかなって思ったんですよ。あえていま、この時代にそういうことをやるっていうね。そういう意味でオレはもの凄く長州力の考え方に感銘するとこがあるんですよ。だから、ＷＪ面白さとかテーマがあるんですよ、自分の中で。

―ド真ん中に共鳴するものがあったと？

矢口 共鳴っていうか、ＷＪに出る意味とか面白さを凄く感じてて。ＷＪがメジャーなのかインディーなのかって問題はさておいて（笑）、そういうこだわりをＷＪに対して持つっていうのは違うなっていうのがあるんですよね。

―最近のＷＪは、インディーの選手がたくさん上がってるんで微妙ですからね（笑）。

矢口 そういうのもあるし、オレはインディーを捨ててメジャーに出たなんて全く思ってないしね。ド真ん中の意味を持つロックンロール魂っていうか、そういうものに凄く興味があってやってますね。ロックンロールって言っても、ＷＪはストレートなロックンロールだよね。

―飾り気のないロックンロールって感じですよね。お客さんの入りや演出も含めて（笑）。

矢口 そうそう（笑）。ジョン・レノンがソロになってね、ヨーコとうまくいかない時期があって、ベロベロなドランカーになって、その時に「ロックンロール」っていうアルバムを出してたんですよね。原点に戻るっていうか。それがもの凄くカッコ良くて。なんか、そういうとこですよ、ＷＪって。だから、オレはこの間ね、そういうロックンロールのつもりで後楽園（9・24）の試合に臨んだんですよ。

―安生さんと組んで長州＆天龍組と闘った試合ですね。あの日は、イス攻撃とか、かなり激しくやってましたけど。

矢口 遠慮しないでいったから。ただ、3倍返し4倍返しで来るのはわかってましたよ（笑）。

―反則攻撃に怒った長州さんと天龍さんのイスでの逆襲は、かなり怖かったですね。

矢口 でも、それがプロレスなんじゃないかなって。ボクはある種、ロックンロールっていうガチンコをやってるつもりなんですよね。

―ロックンロールという名のガチンコ？

矢口 ＷＪのプロレスって、いまのプロレスに対して全く相反してるでしょ。ハイスパートでガンガンとかでもないし。でもやっぱり、長州さんや天龍さんは、ある意味ストロングスタイルだと思うんですよ。

―ド真ん中スタイルなんですかね（笑）。

矢口 オレのスタイルはストレートなロックンロールの返し方なんですよ。だから、向こうも同じ感覚でロックンロールをしてるとすればあうなと思ったんですよね。だから、長州力、天龍源一郎っていうレスラーの本当の怖さ、凄さ、いまのプロレスラーが持ってない殺気というか、ボクはそういうものを引き出すことが自分のプロレスラーとしての証だと思ってるし。だって、流れるようなプロレスを長州力とやって何なの？って話ですよ、ボクから言わせれば。

―そういうプロレスは長州さんはしないでしょうし、できないでしょうからね（笑）。

矢口 でしょうね（笑）。でもやっぱり、そういう意味でミスタープロレスじゃない？ あの2人は。鶴田さんが亡くなって、藤波さんもリタイア状態で。で、ボクはこう見えても若いようで若くなかったりするんだけどね（笑）。

―同世代というと誰になるんですか？

矢口 武藤とかとはキャリアは違うけど同じ年代なんですよ。蝶野、橋本とかも。

―三銃士世代なんですね。

矢口 三沢とかもそうだけど、彼らには別に興味がないんですよ、ハッキリ言って。自分にとっては、長州、天龍っていう二大ミスタープロレスがいる、このＷＪプロレスっていうのは、もの凄く貴重なとこなんですよね。

―たしかにマット界の超大物が2人もいるんですけど、興行に結びつかないというか。

矢口 そうなんですよね。そう考えてみるとＷＪって何なのって話になりますけど、谷津さんが暴露したじゃないですか？

―しましたね（笑）。矢口さんは、かなり前から谷津さんとは接点があるわけですけど、正直どう思いました？

矢口 まあ、ホントのことだと思いますよ。

―大森さんも「谷津嘉章が言ってることは全部真実だ」って言ってましたからね（笑）。

矢口 谷津さんはああいう性格なんですよ（笑）。悪気があるんだかないんだかわかんないけど、自分のことしか考えてないというか（笑）。

―谷津さんらしいなと思いましたけど（笑）。

矢口 でもね、あの人はアマレスで凄く強かった人だし、ああいう人間なんですよ。それがいいとか悪いとかじゃなくて。オレにとっちゃアニキみたいな存在かもしれないし、ライバルかもしれない。でもわかってない人達にとってはショックだろうし、腹が立つでしょうね。

―長州さんもかなり怒ってたみたいですね。

矢口 ボクは、あの発言が『東スポ』の一面に載ったってことは、ＷＪにとってメチャメチャおいしいんじゃない？って思うんですよね。

―逆に良かったってことですか？



現在、矢口は上田馬之助を意識したコスチュームで、激しいイス攻撃を繰り出すなどヒールレスラーとして長州、天龍らと真っ向から激突中。締切間際の20日青森大会では長州と一騎打ちを行うが、惜しくもラリアットで敗戦

WJ崩壊 スペシャル特集 危機一髪

矢口 だってオレみたいにインディーでずっとやってきた人間としては『東スポ』一面じゃない？って（笑）。しかもヤフーの見出しのニュースの1つになってたんですよ！「WJ崩壊危機」って（笑）。そんなおいしいことないですよ。あれを逆転に使わないと。

——たしかに、あの一面のおかげで注目度はガッと上がりましたからね。

矢口 でしょ。でも、なんでWJは動員が少ないかって言ったら、スポンサーが「金出しまっせぇ〜。なんでもやってください」って、そういう感覚でやってたわけでしょ。ファンはそれを見てるわけじゃないですか？ ホント、SWSと一緒ですよ。それが、いまはスポンサーもおりました、社長が代わるとかいって、結局は「私がまたやります」ってなっても、意地とかそういうものしか見えないでしょ、客としては。

——それはありますよね。

矢口 それに、何だかんだ言っても谷津さんって、あの人、営業力凄いじゃないですか。WJのルートは、ほとんどSP（WF）ですよ（笑）。

——WJのルートはSPと一緒でしたか（笑）。

矢口 そうそう（笑）。でもWJの営業の人達は凄い少ない人数であれだけのシリーズを回ってるんですよ。「よくこれだけの人数で、これだけの営業できるな」って感心するぐらい。でもそれは谷津さんのルートがあって、そこを回りながら、その周辺に細かい営業をかけていくからできるんであってね。だってプロレスってやっぱり営業力じゃないですか？

——それは大きいでしょうね。

矢口 音楽もそうだけど、やり手だけじゃなくて、当然、営業なりスタッフがいないとできないわけじゃないですか？ それって、いまのファンだったらみんな知ってますよ。営業力の凄い谷津さんが抜けた、スポンサーが降りた、選手でも鈴木健想さんが抜けた、WJはこれからどうやっていくんだろう？っていうところですよね。普通だったら崩壊でしょ。

——普通ならそうですよね。長州さんも、こんなはずじゃなかったと思ってるでしょうけど。

矢口 永島さんもそうだと思うけど、彼らも意地がある。「谷津にあんなこと言われてふざけんな」って。でもちょっとやる気がなかった時にああいうことがあって、いまは凄いやる気になってると思うし。そういうのってストレートに見えるじゃないですか？ ファンに対して。だから、これからが面白いんじゃないですか？

——もう前に進むしかないですからね（笑）。

矢口 だって、営業力もなくてスポンサーもいなくなったWJ、長州力がガムシャラになって何をやっていくか。どういう試合をやっていくか。それがインディーズじゃないですか？

——認めたくないでしょうけどね（笑）。

矢口 だったら、ロックンロールでいいんじゃないですか（笑）。ボクは、これがもの凄くいい転換期なんじゃないかなって。まあ、オレはフリーなんで、会社の負債を抱え込むでもなく、一試合いくらでやってるんで気も楽だし、第三者的に見れるんだけどね（笑）。でも、これまでインディーズの世界はたくさん見てきてるんで、余計いまの状況がわかるとこありますよ。

——たしかに、矢口さんは、いろんなインディー団体に出てるんで、ガラガラの会場も経験は豊富なんですよね（笑）。

矢口 そうそうそう（笑）。でもね、WJで地方とか行くと、ZERO-ONEや全日本よりも入ってる所もあるんですよ。でも、そういうのってマスコミでは出ないじゃないですか？

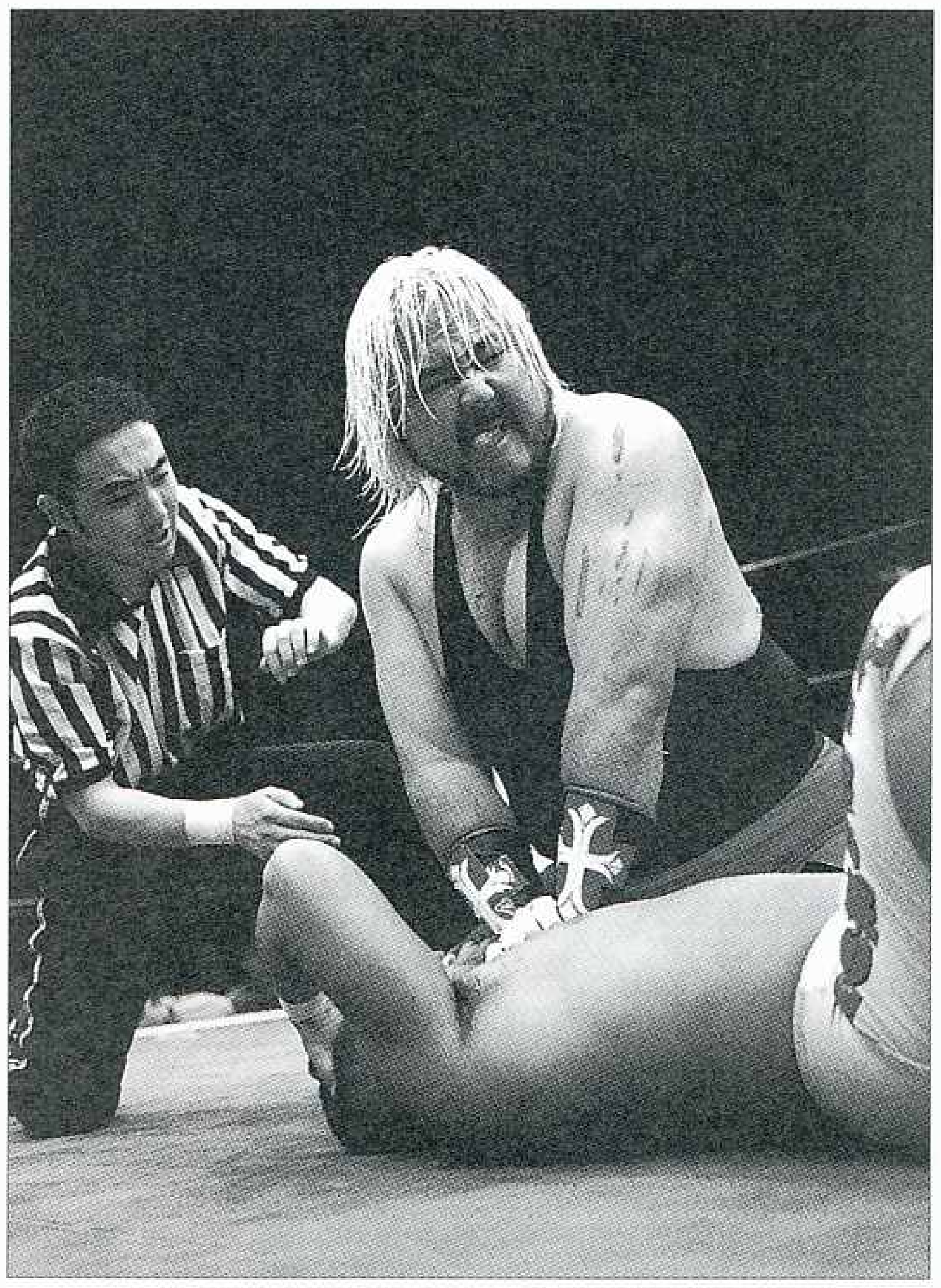
ギャラ？「頼むからくれ!」って言って強引にもらってます（笑）

——どうせ、使うんだったらガラガラの写真使った方がインパクトはありますからね（笑）。

矢口 そうそうそう（笑）。この間も『東スポ』でも反対側は客入ってるのに空いてる席の後ろの方から撮って「ガラガラ」みたいな（笑）。

——アハハハハ！ でも、全体的には正直客入りは厳しいじゃないですか？

矢口 そうなんですけどね（苦笑）。でも、別に団体に「こう言ってくれ」とか言われてるわけじゃないけど、オレの目から見たら、これからのWJって絶対面白くなると思うんですよ！



——チャンスではありますよね。福田社長は、これからは興行数を絞ってやっていくってことを言ってましたけど、どうなんですかね。ギャラの問題もいろいろとあるみたいですし。

矢口 だって、谷津さんが、給料4割カットとかお米（業界用語でギャラのこと）のことまで言っちゃって、ファンもみんなわかっちゃったわけでしょ（笑）。

——見事に、わかっちゃいましたね（笑）。

矢口 でも逆にね、ファンも選手の必死さをファイトの中に見るんじゃないですか？

——それはあるでしょうね。逆に手を抜いたら「ギャラもらってないからって、なんだその試合は！」って思われるでしょうしね。

矢口 そうですよ。だって、実際ボクなんか試合がなかったら食っていけないですからね。音楽だけじゃ食えないんで（苦笑）。そういう状況でやってるから必死になりますよ！

——ぶっちゃけ、フリー選手にもギャラの遅れは出てるわけですか（笑）。

矢口 選手によってじゃないですかね。ボクはたいしたお米もらってないから、もう強引にももらってますけどね（笑）。「頼むからくれ！じゃないと生活できないから」って（笑）。

——アハハハハ！

矢口 その辺はたくましいですよ。だから、今回の谷津発言っていうのは、実は、もの凄くいい影響を与えるきっかけになるんじゃないかなぁって。逆にワクワクしてますよね（笑）。

——ワクワクしてますか（笑）。

矢口 そのワクワクしてるって話をしたら「ポジティブだねぇ」って記者の人に言われたんだけど、だってポジティブに考えないと、なんのためにやってんのって話じゃないですか。記者の方が逆に心配しちゃって（笑）。

——アハハハハ！

矢口 それに、試合して面白いって思わないと、お客さんも面白くないじゃないですか。

——それはあるでしょうね。でもやっぱりフリーだからポジティブに考えられるところはあるんじゃないですか？

矢口 そうですね。さすがに、所属してたら、また違ってたとは思いますけどね。

——健想さんの離脱の理由も、当初言われていたギャラがもらえなくなったっていうのもあるみたいですからね。

矢口　そうでしょうね。もちろん、それは彼のプロフェッショナルとしての1つの考えなんだろうしね。ただオレは鈴木健想っていう選手は、もの凄く素晴らしい選手だって思うし。彼はね、高田さん、船木さんの次ぐらいにプロレス界にとって財産なんじゃないかなって思いますね。

――エッ!?　高田、船木の次ですか!?

矢口　大化けする何かを持ってるんですよ、彼は。それに新日本の人もWJの人も気がつかないかもしれないけど、もの凄いダイヤの原石に見えるんですよ。あんな人は日本のプロレス界が手放しちゃダメ、絶対！

――ほぉ～、そこまで評価してますか!?

矢口　別に個人的に仲がいいとか何もないですよ（笑）。彼を手放したのはWJとして誤算ですねぇ。彼は大化けしますから。ただ、WJよりもアメリカで彼は花開くと思いますけどね。

――本人もそういう志向ですからね。そういえば、『X-1』でボビッシュのセコンドに付いていたのは何か理由はあるんですか？

矢口　単純に仲がいいんですよ。ボビッシュなんか、ホントにいい選手だからね。

――『X-1』でも勝ちましたけど、プロレスの方でもかなり良くなってますからね。

矢口　『PRIDE』とかからも声掛かってるみたいですよ。でも彼はスッゴイですよ。寝技やらせても、あのパワーですからね。ボブ・サップとかと一緒ですよね。もの凄くスピリットもあるし、センスもあるしね。

――キャラクターもいいですからね。

矢口　性格も凄く明るくてね。前向きだし、仲いいんで「セコンド付いてくれ」って言われて。

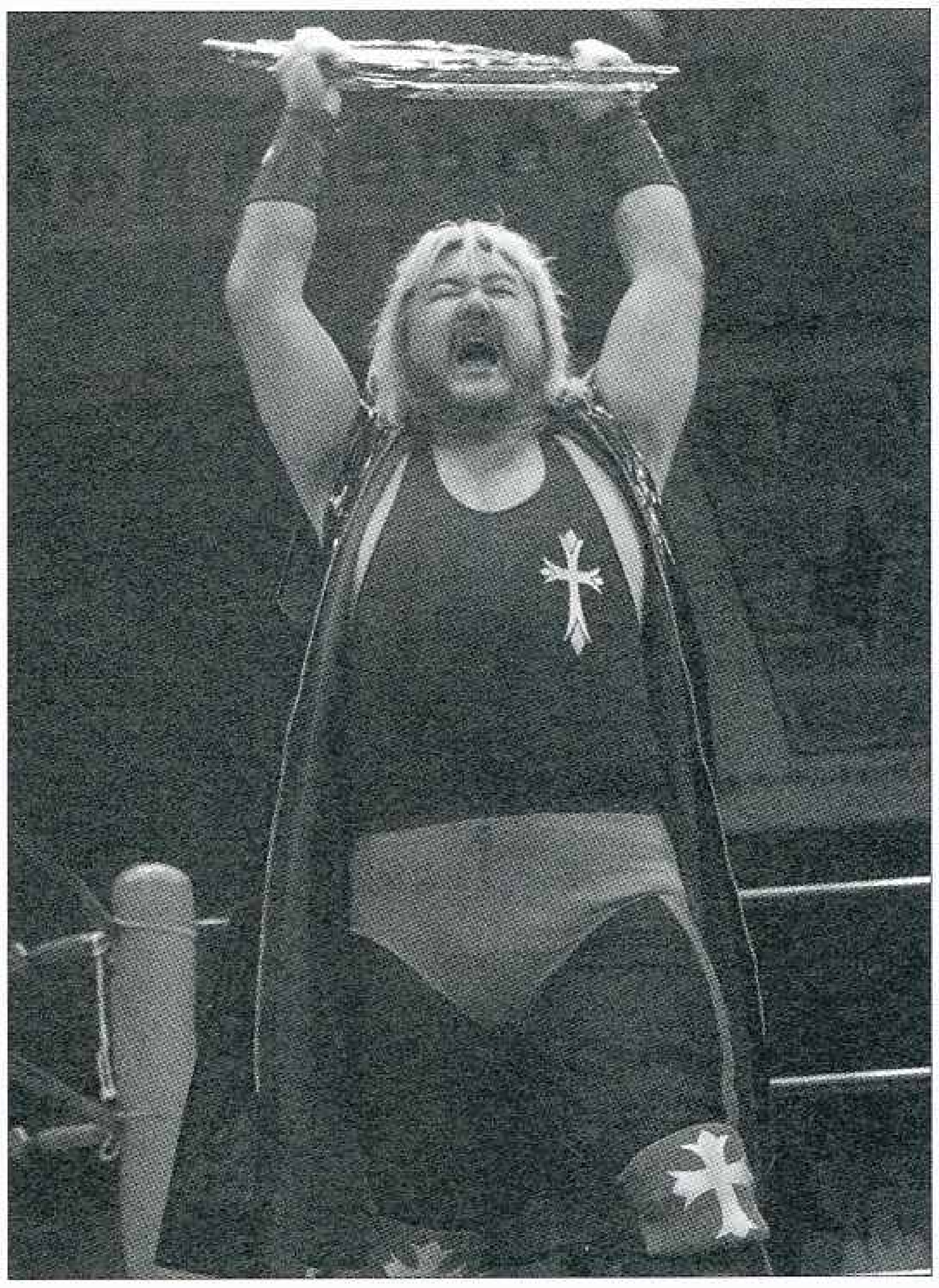
――矢口さんがサンボを教えてるんじゃないかなって思ってたんですけど（笑）。

矢口　いやいや（苦笑）。アドバイスはしたけど、彼に教えるものは何もないですよ。

――『X-1』では健介さんのセコンドに安生さんと木村さんが付いてましたし、フリー勢が大活躍してましたよね（笑）。

矢口　みんなボランティアですけどね（笑）。この間3人で話してたんですけど、みんなで団体いくつ潰したって話になってね（笑）。

――アハハハハ！



矢口　オレが一番少なかったんですけど（笑）。

――安生さんと木村さんは、結構、団体崩壊に立ち会ってますからね（笑）。

矢口　みんなで「まいっちゃうよなぁ」って（苦笑）。「疫病神か、オレたち」って（笑）。

――アハハハ！

矢口　オレはW★INGに入って、オリプロが崩壊、その後、新格闘プロレス崩壊って2つだけなんだけどね（笑）。でもね、いままでいろんな団体を見てきてるからWJなんてまだまだ全然いけるって思うんですけどね。

――もっとヤバかったところは過去にたくさんあったわけですね（笑）。

山下達郎さんに「プロレスと音楽やってる矢口君だろ？」って（笑）

矢口　そりゃありましたよ（苦笑）。WJの負債額がいくらだとか、どうこうっていうのはボクはフリーなんで知らないけど、でもホント、プロレスファンってそういうのも含めて興味を持って見るもんじゃないですか？

――「いま見逃したら次はないかも？」とか思って見に来るファンもいるでしょうし（笑）。

矢口　でしょうね。だいたいプロレスファンって、ひねくれ者が多いんだからさ（笑）。そういうところをまた面白いと思って見るんじゃないですかね。

――ミュージシャンとしての顔も持つ矢口さんですけど、WJに上がるようになってからはプロレスの方の比重が増えてる感じですか？

矢口　あんまり変わらないですね。両方とも力を入れてやっていきますよ（笑）。でもねぇ、不思議なもんでプロレスラーやってて得してるんですよ、音楽業界では。

――何かいいことでもあったんですか？

矢口　この間、山下達郎さんに初めて会ったんですよ。それで挨拶したら「知ってる知ってる。プロレスと音楽やってる矢口君だろ？」って言ってくれて。

――えっ!?　知られてましたか（笑）。

矢口　プロレス好きなんですよ。「ウチのまりあと『サムライ！』見てるよ！」って（笑）。

――アハハハハ！　奥さんの竹内まりあさんと『サムライTV！』を見てましたか（笑）。

矢口　「はぁ～、恐縮します」って（笑）。ちょうど荒井（章一）さんが亡くなったあとだったから、「荒井社長の死はさぁ、あれはどうなのかなぁ」ってずっと2人で話してて（笑）。

――その現場を見たかったですね（笑）。最後に今後、WJでの目標を聞かせてください！

矢口　まあ、ボクの個人的な目標としては長州力をフォールすることですね。もし長州力をフォールできたら、あとはプロレス界での最後の夢はアメリカのインディー団体を回ることなんですよ。それでボクのプロレス生命は終わりでいいなぁって思いますね。

――まずは長州力を倒さないと先には進めないわけですね。

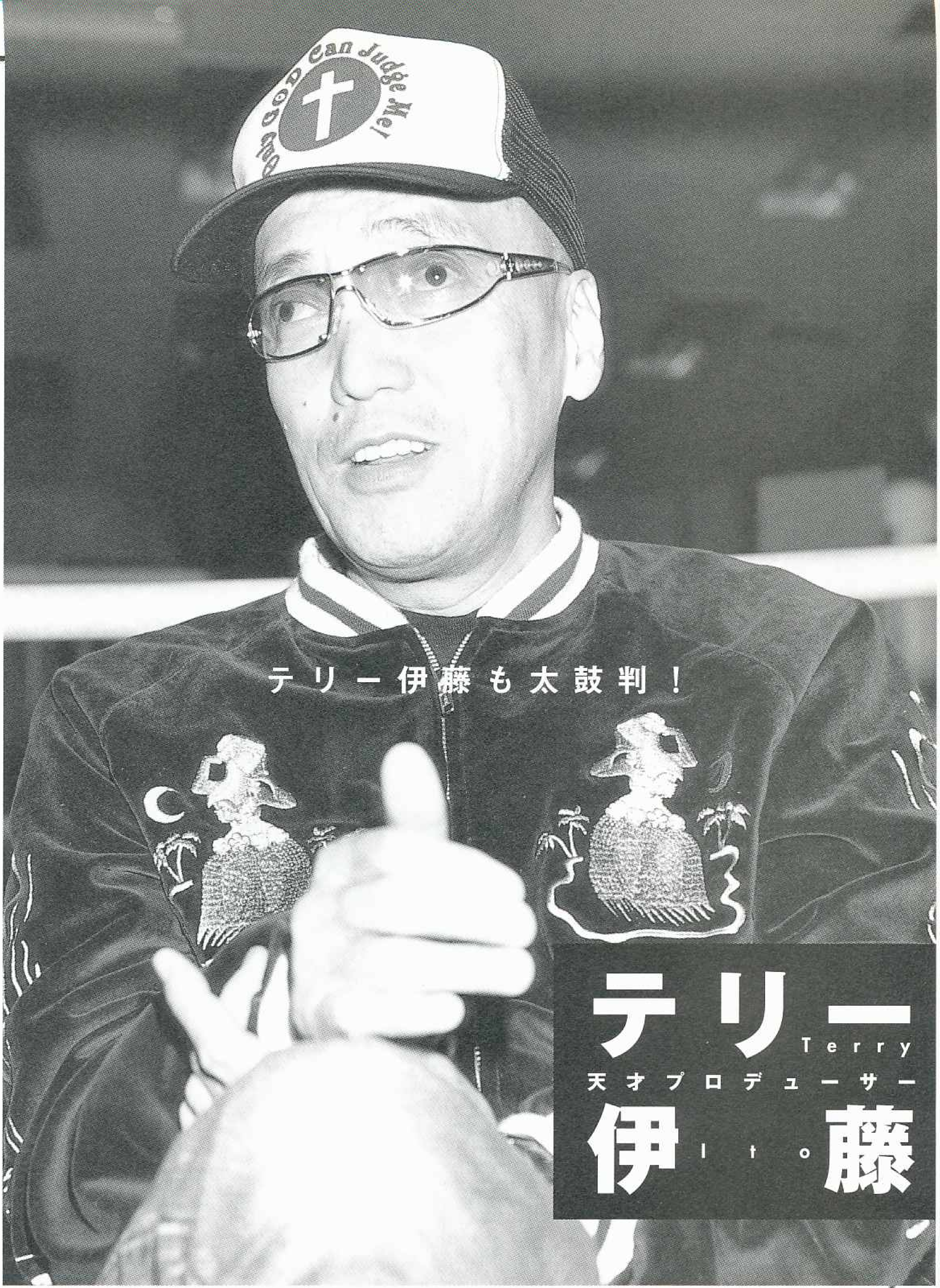
矢口　倒したいですね。だって、長州力から3カウント取るっていうのは、これは、いろんな意味で大変なことですよ、ホントに。（自分を指差し）こんなインチキレスラーがですよ（笑）。

――自分で言いますか（笑）。

矢口　ワハハハ！　そういう目標があるから面白いですよ。まあオレは、この波瀾万丈なド真ん中でロックンロールしていきますよ！（笑）。

【10月6日／渋谷『セイム・クリエイティブ』にて収録】

「いま一番面白い団体はWJ！長州も最高!!」



テリー伊藤も太鼓判！

天才プロデューサー

テリー伊藤 Terry Ito

テレビ東京で絶賛放映中の女子格闘技番組『肉力強女』。次号の『紙プロ』用に、この番組のゼネラルプロデューサーのテリー伊藤、アドバイザーの島田裕二の対談を行い女子格闘技界の可能性を熱く語ってもらったが、プロレスも詳しいテリーさんにWJネタを振ったところ、ターザン顔負けの大炎上！　う～ん、ド真ん中!!

——テリーさんは、ちょっと前に、いまはなき『SRS・DX』でターザンさんと対談をしてましたけど、一番気になるプロレス団体はWJって言ってましたよね？（笑）。

島田　パチパチパチパチ！（と手を叩いて喜んで）ホントですかぁ？（笑）。

テリー　もうね、長州さんは最高ですよォォ！

——アハハハ！『東スポ』で谷津さんの内部告発があったり、WJは激震が続いてますが。

テリー　やっぱりねぇ、プロレスっていうのは、そういう部分も持ち合わせてないと。たしかにボクは石井館長を尊敬してるし好きですよ。でも、みんながみんな石井館長で面白いの？

島田　それはありますよね。

テリー　それにやっぱりさぁ、プロレスって、ある時からファンが「ボク、プロレスファンです」って言い出しちゃったでしょ。

——昔は、ちょっと口に出すのが恥ずかしいっていうところがありましたからね。

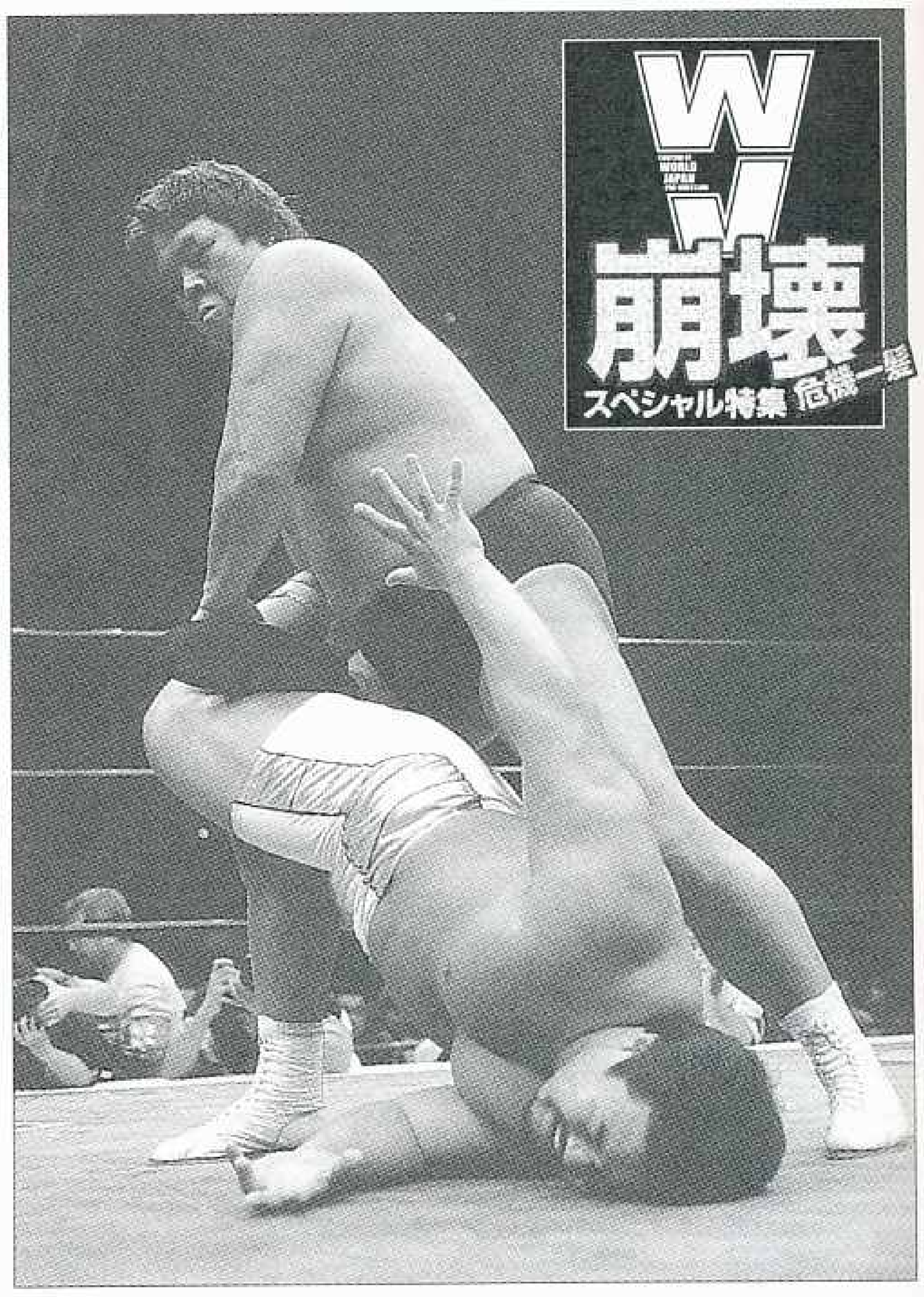
テリー　まあ、それ言ったら『紙のプロレス』だって大きくなっちゃったじゃない？　オレはホントは小さい時の『紙のプロレス』が好きだったんだけど、そういうふうに、みんながメジャー感を目指してるんだけども、プロレスっていうのは、なんか人に言えないような部分も持ち合わせてるというか、光と陰みたいな部分でね。だって、全部がお台場だとか六本木ヒルズじゃあ盛り場はつまんないよォォ！

——たしかに、それは言えますよね（笑）。

テリー　あそこ行ったら身ぐるみ剥がされそうだとかさぁ（笑）。やっぱり、そういうところがないとつまんないでしょ？

——つまり、行くと身ぐるみ剥がされそうなのがWJってことですか？（笑）。

ド真ん中と言いながら、長州は、いまねぇ、綱渡りしてますよ！（笑）



テリー そういうことですよぉ！（笑）。だから、若い人はどこ行くかっていうと渋谷とか池袋に行くんですよぉ！ でも不良はさぁ、お台場とか汐留や六本木ヒルズは行かないじゃん！

――お台場で不良は見かけませんよね（笑）。

テリー ねっ。そういうね、ある程度、陰がないと新しい文化って生まれないんですよ。それにさ、いまはテレビ局が作っちゃってる文化じゃない？ それこそK―1も『PRIDE』もそうでしょ。それもまた考えものだからね。その対極にいるのが、やっぱし長州力ですよぉ！

――WJに戻ってきましたね（笑）。

テリー もうね、ド真ん中と言いながら、長州は、いまねぇ、綱渡りしてますよ！（笑）。

――アハハハハ！ ド真ん中の綱渡り（笑）。

テリー 昔さぁ、新崎人生がロープの最上段で拝み渡りとかやってたでしょ？ でも、いま長州力は誰の手も使わないでロープの上をグルグル回ってるんですよぉぉ！

――アハハハハ！

テリー 新崎人生は相手方に手を持ってもらってやってるけど、長州力はトップロープを1人で渡ってますからね！ ホント、見事ですよ！（笑）。そんなヤツいませんよぉぉ！

――一瞬たりとも目が離せないですよね（笑）。

テリー 離せないよぉ！ 落ちるかどうかハラハラしっぱなしでさぁ、もう最高ですよぉぉ！

――それは最高です（笑）。

テリー やっぱりね、プロレスというのはね、自分にとっての人生の縮図なんですよ。だから長州みたいなヤツって、オレぐらいの歳になるといっっっぱいいるよぉぉ！（笑）。

島田 安定したものを捨てたりね（笑）。

テリー そうそう！ もう、社長とかの悪口バンバン言ったりさぁ（笑）。

――長州さんも、そういう時期ありましたね（笑）。そういえば谷津さんが、長州さんはWJになってからも新日にいた頃のメジャー意識が抜けきってないって言ってましたけど。

テリー それだって最高ですよぉ！ だって、長州力が頭下げて上手く立ち回っちゃってたら、それじゃ長州力じゃないじゃないですか？

――そうなったら魅力も半減ですよね。

島田 だって、長州さんが売店に立って、サイン色紙100円とかで売ってたらファンも泣くよ！ 昔サインもらったヤツとか「えっ⁉ 100円なのぉ？」って（笑）。それは絶対やって欲しくないですよね。

テリー それはやっちゃダメだよねぇ。

島田 マスコミとかも蹴散らして「お前ら、ウチらは扱わなくていいからな！」ぐらいやってくれると嬉しいですよね。

テリー あとは、やっぱ長州と前田の対決だな。

――それはWJでのリングでですか？（笑）。

テリー もちろんWJでですよぉ！ まず、闘う前に、前田は自分の日本刀のコレクションを紹介していったりさぁ。あとは、相撲界に戻ってしまった北尾に、もう一回来てもらうとか。

――それはいいですねぇ（笑）。

テリー でしょ。それぐらいやんなきゃダメでしょ。でもさぁ、思うんだけど『紙のプロレス』見てるアナタが人生のド真ん中にいるかって言ったら、ド真ん中じゃないと思うよ！

――そうかもしれません（笑）。ド真ん中って言っていいのは長州さんだけでしょうね。

テリー そうですよ！ みんなね、長州を批判するってことは、自分自身を批判するってことなんだよ！ オレの中だって長州はあるもん。

島田 ワハハハ！ でも健介さんとか、長州さんに付いて行った人達はどうなるんですかね？

テリー それも含めてすべてがいいんですよ！ たとえば、佐々木健介だって、長州がコケちゃったら、そしたらまた新しい団体作るわけじゃない？ それもまた人生なんですよ。その時に誰1人として健介のことを批判しないですよ。

――そうなんですかね？

テリー だってさぁ、女に振られた男を批判する男っている？ 想いを込めて付いてって、でも、その女に振られて帰ってきて酒場で飲んでたら、その男を批判するヤツはいないって！

島田 「頑張れよ」って言いたくなりますよね。

テリー 「お前はホントにバカだなぁ。あんな女に付いて行って」なんて言わないよ！ だって、バカを承知で付いて行ってんだもん（笑）。

――素晴らしい師弟愛ですね（笑）。

テリー やっぱ時代はWJですよぉぉ！（笑）。

リング内・リング外の情報を読者にお届けする
RADICAL情報局

さらば『SRS－DX』！ 情報ページも『紙プロ』にまかせろ！

情報ページが、イッキに倍のページ数になってリニューアル。これまでよりも、さらに親切で見やすく、内容も濃厚になって生まれ変わりました。えっ？　どっかで見たような感じのする構成？　って、やだなぁ気のせいですよ。担当はささきぃです。よろしくです。

Fight & Ticket 試合・大会情報

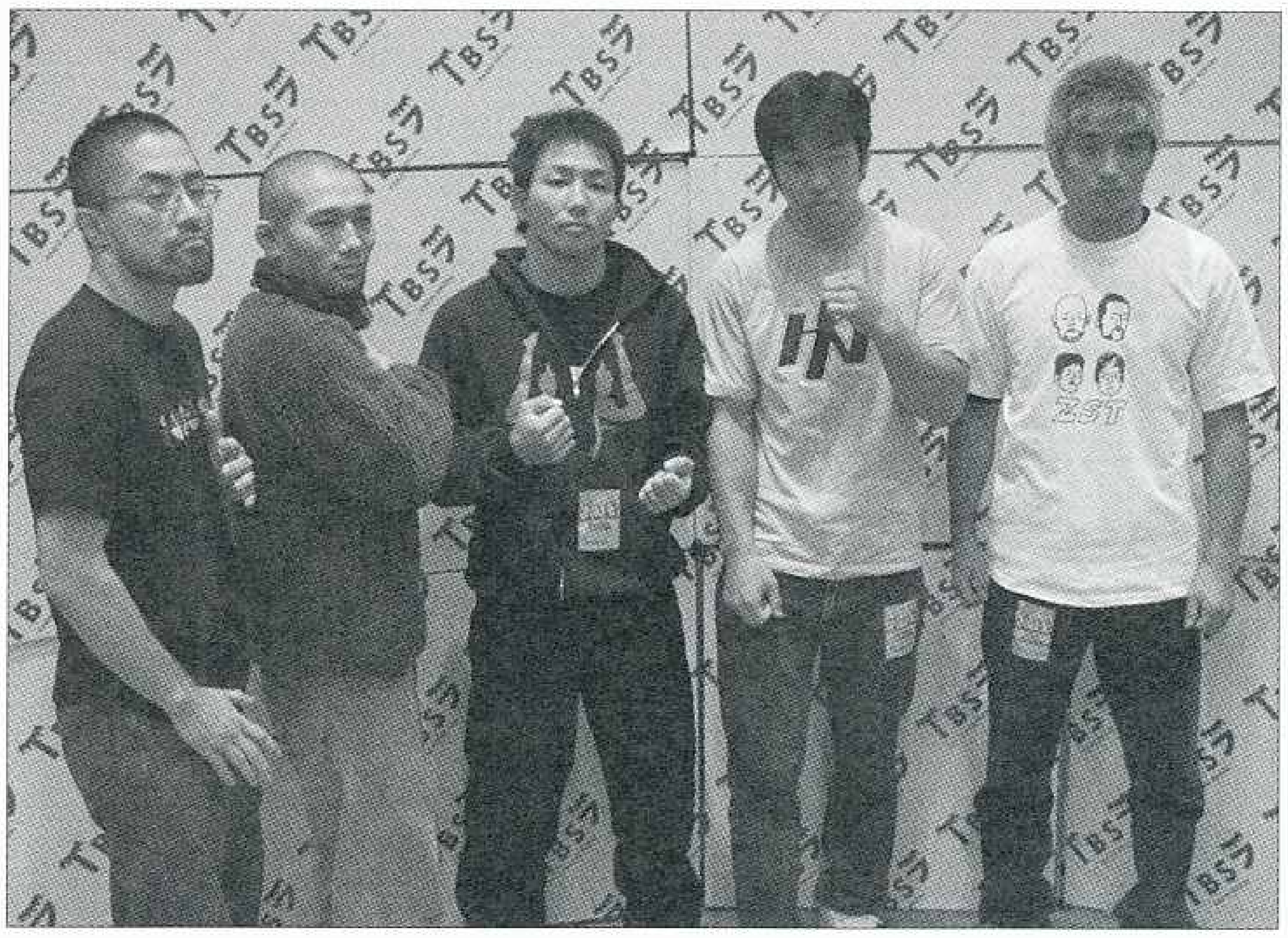
Fight& Ticket

『ZST・GP』いよいよ開幕!! 賞金500万を手にするのは誰か!?

軽量級最強の男は『ＺＳＴ』が決める！　11月23日、世界中の強豪を集めたトーナメント『ＺＳＴ・ＧＰ』が、ついに開幕!!　10月16日、発表記者会見が行われ、11名の強豪が紹介された。

軽量級の大会としては、破格の賞金である500万円のかかったトーナメントを前に、会見に出席したイリホリタッグは「ネットとかで、勝手にＺＳＴ離脱とか言われていて、かなり寂しい思いをしましたし、あと前回バックステージパスとかも貰えなくて、客席でずっと見ていてあまりいい気分がしなかったので、今回はパスが欲しいです（今成）」、「パンクラスが終わった後に広報の上原さんから電話頂きまして『KO勝ちしたんだってね。出てもいいよ』って言われたので『是非、お願いします』と（矢野）」など、脱力感全開のコメント。矢野は「16人の中で自分が一番弱いと思うのですが……」と、遠慮がちに語りだした所英男に対し「嘘つくなよ！『このメンバーなら余裕で勝てる』って言ってたじゃねぇ～か」と、鋭いツッコミを見せていた。

今成、矢野、所、小谷直之ら“リトアニア行きメンバー”の他、『DEEP』で朝日昇を破ったTAISHOの参戦も決定。「一番いい動きが出来ると思いますんで、よろしくお願いします」とコメント、初参戦ながら気合い十分な様子を見せた。この他、参戦が決定している強豪は以下の通り！　ＫＯＫの興奮が、『ZST』で蘇る!!



トーナメント参戦決定選手11名（残り5名は近日中に発表）

■**小谷直之／ロデオスタイル**　おなじみ、ZST無敗のエース。『ZST.4』では、唯一の引き分けとなっていたリトアニアのミンダウガス・スミルノヴァスをヒールホールドで下し、エースの責務を果たした。優勝の大本命として、トーナメント制覇に期待がかかる。

■**今成正和／TEAM ROKEN**　ごぞんじ“足関十段”の異名をとる今成。9月の『DEEP』で三島☆ド根性ノ助相手に惜敗を喫し『ZST.4』を欠場。華麗な足関が復活するか？　今成相手だとさらに燃え上がるであろう、リトアニア勢の気合いにも注目が集まる。

■**所英男／STAND**　リングス、パンクラスなどのリングで活躍してきた“小さなヴォルグ・ハン”所。『ZST』前回大会では中原太陽に一本勝ちし、トーナメント戦線に向け勢いをつけた。女性人気を確実にするためにも、優勝戦線への食い込みを期待したい。

■**矢野卓見／烏合会**　『ZST』ではすっかり「ヘタレキャラ」感が定着してきたヤノタク。しかし9月パンクラスマットでは初のKO勝ち！　これを高く評価した上原広報の愛の手によって参戦決定。久々に、東洋の神秘ぶりを見せつけることは出来るのか？

■**レミギウス・モリカビュチェス／リングス・リトアニア**　『ZST』旗揚げ大会でイリホリタッグに敗れて以来、今成への執念を胸に（?）メキメキとその実力をアップさせてきた『ZST』の外国人エース。誰もが驚く強烈な打撃で、トーナメント優勝を狙う。

■**TAISHO／Team BARBOSA JAPAN**　6月の『DEEP』で、元修斗ライト級王者の朝日昇にTKO勝ち。今回は『DEEP』9月大会オファーをキャンセルしての参戦となる。グラウンド顔面パンチのない『ZST』ルールに、どこまで対応できるか？

■**ジェイソン・マックスウェル／USA**　今年5月、初代UFCライト級王者のジェンス・パルバーにKO勝ちし、一躍スターダムにのし上がった男が『ZST』リングに登場。KOか一本のみを狙いに行くハードパンチャーが、優勝戦線に殴り込みをかける。

■**イゴール・イサンキン／ロシア**　リングス・ロシアのパコージン代表が、自信を持って『ZST』に送り込むコマンド・サンボの刺客。2002年、コマンドサンボ世界選手権で優勝している他はすべてが不明。ロシア幻想が『ZST』リングでも爆発するか!?

■**ジョージ・ガーゲル／チーム・エクストリーム**　かつてはブラジリアン・トップチームに在籍していた過去を持つ、ブラジリアン柔術黒帯保持者。ムエタイの技術も持ち合わせ、現在までの総合成績は7勝0敗。さらに無敗記録を更新することが出来るのか。

■**マーカス・アウレリロ／アメリカン・トップチーム**　柔術歴は22年で、ホイラー・グレイシーに勝利した過去もある。ヒカルド・リボーリオを師として総合格闘技を学び、『UFC44』で宇野薫をKOしたエルメス・フランカよりも10倍強いらしい。はたして……!?

■**大石“ジャッカル”真丈／SHOOTO GYM K'z FACTORY**　第2代修斗世界フェザー級王者が、『ZST・GP』に参戦！　全ての修斗関係者が認めるベテランプロシューターが「このルールに興味がある」とオファーを快諾。ジャッカル本来の、華のある闘いに注目だ。

ZST・GP開幕戦

■日時　11月23日（日）
■試合開始　17：30（開場16：30）※16：40よりジェネシスバウトを開始予定
■場所　Zeep Tokyo（ゆりかもめ「青海」駅、りんかい線「東京テレポート」駅より徒歩5分）
■チケット料金　ＶＩＰ（最前列・１ドリンク付）20000円／ＳＲＳ（２列目）12000円／Ｓ席　8000円　／Ａ席　6000円
■問　ＺＳＴ事務局　03-5321-9595　■HP　http://www.zst.jp

Tournament

優勝賞金総額
500万円

2004/1/11/Sun
Zepp Tokyo
決勝大会
（2回戦、準決勝、決勝）

2003/11/23/Sun
Zepp Tokyo
開幕戦

①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯

みちプロ10周年の最終章は、有明コロシアム！どうなるサスケ vs デルフィン!?

みちのくプロレスが放つ年末の関東ビッグマッチ、有明大会。新崎人生社長の尽力で、10周年記念大会最終章にふさわしい、驚ガクのザ・グレート・サスケvsスペル・デルフィン戦が決定した!!

一時は「試合にならないとかじゃない。犯罪者になりたくない」と激怒、徹底的に対戦を拒否したサスケだったが、10月19日「みんなが望むなら」と折れる形で対戦を了承。写真は、デルフィンとの抗争真っ最中だったころ、本誌15号に登場したSASUKE。両者の確執はこの一戦で消えるのか……!?

みちのくプロレス10周年記念大会 最終章 「メモリー」

■日時　11月2日（日）　試合開始　17:00（16:00開場）

■場所　東京・有明コロシアム

■決定カード
①湯浅和也 vs スペル・デメキン　②北海珍念 vs つぼ原人
③はやて&こまち vs 折原昌夫&マッチョ☆パンプ
④ヨネ原人vsビーフ・ウェリントン
⑤グラン浜田&井上治 vs 星川尚浩&MIKAMI　⑥藤田ミノル vs 日高郁人
⑦ディック東郷&MEN'Sテイオー&獅龍 vs 新崎人生&TAKAみちのく&中島半蔵
⑧ザ・グレート・サスケ vs スペル・デルフィン

■料金　アリーナSS席　10000円／アリーナS席　6000円／コートサイド席　7000円／1階指定席　5000円／2階指定席　3000円（当日各1000円増）

■問　みちのくプロレス　019－626－1333



石川屋興行「石川雄規デビュー11周年記念大会」開催決定！



10/17、埼玉県・越谷にある「串焼き石川屋」で記者会見が行われ、11/11に行われる石川雄規デビュー11周年記念大会の全カードが発表された。会見に出席した石川社長は「今回、業界の人気者である皆さんが、あっという間に集まってくれたことがすごく嬉しい」と笑顔。

今大会からバトラーツ所属となる竜司・ウォルター選手（写真左端）は、幼少のころに米国に移住。マレンコレスリングスクールに入門、カナダで知り合ったジョージ・キングからバトラーツを紹介されることとなった。臼田勝美との対戦を前に、会見では「準備は万端。あとは闘いを待つばかりだ」と、英語でコメントしていた。

なお、今大会はバトラーツの自主興行ではなく、越谷本店および春日部八木崎店両方の石川屋が主催する形となっている。

石川屋興行～石川雄規デビュー11周年記念大会

■日時　11月11日（火）試合開始 19:30（18：30開場）

■場所　東京・後楽園ホール

■対戦カード【U－STYLE】※U-FILE CAMP提供試合
①大久保一樹 vs 森山大
②関本大介&サンボ大石 vs 真霜拳號&十島くにお
③臼田勝美 vs 竜司・ウォルター　④金村キンタロー vs 原学
⑤石川雄規&TAKAみちのく vs 黒田哲広&チョコボール向井
※第1試合を除き、試合はすべてバトラーツルールで行われる。

■料金　SRS席　¥5000／自由席　¥3500／立見券　¥3500（当日のみ）／小中生　¥2000（当日のみ）

■問　石川屋　048-967-0948／バトラーツ　048-963-0005

★Present! 石川屋興行開催を記念して、写真の石川屋Tシャツ（裏面には石川五右衛門！）を50名にプレゼント！　希望者は、ハガキに住所・氏名・年齢・電話番号を書いて、〒343-0807　埼玉県越谷市赤山町6-13-43　バトラーツジム2F串焼き石川屋「Tシャツおくれ」係まで。〆切は大会当日、11月11日の消印有効ダーッ！



女が殴る、女を殴る！『Girls SHOCK Ⅲ』開催！

11月11日、北沢タウンホールで開催される全日本キック『Girls SHOCK Ⅲ』の一部カードが発表された。メインは渡邊久江がグレイシャアAKIと対戦。「女子キックの頂点に君臨する女王になる」と宣言、キックではすでに3勝しているグレイシャアに、渡邊がどこまで迫れるか!? セミではウィンディがヨーロッパ強豪と対戦決定、ジェット・イズミの参戦も決定！

GIRLS STANDING FIGHT『Girls SHOCK Ⅲ』

■日時　11月11日（火）　試合開始　18:30

■会場　東京・北沢タウンホール

■決定カード
メインイベント　グレイシャアAki vs 渡邊久江
セミファイナル　WINDY智美 vs（ヨーロッパ強豪選手）

■出場予定選手　ジェット・イズミ、妃口慧、ASAMI
（ほか精鋭選手出場予定、全7試合を予定）

■問：全日本キック 03-3365-1171

スマックもどっこい生きてます！11月大会開催決定!!

10月大会が延期になり、11月大会の告知も遅れたことでファンを相当不安にさせたスマックガール。やっと11月大会の概要が発表された。期待して大丈夫……なのか!?　当日まで、参戦選手など続報は随時携帯サイト『紙プロHand』にアップ予定！

『jadex Presents　SMACKGIRL　Third Season-VII』

■日時　11月10日（月）開場18時30分　開始19時30分（予定）

■場所　ベルファーレ（東京・六本木）

（地下鉄日比谷線・大江戸線「六本木」駅下車徒歩1分）

■ベルファーレHP　http://velfarre.avex.co.jp/

■料金　VIP指定席　20000円／SRS指定席　9500円（当日500円増）／RS指定席　7500円（当日500円増）／スタンディング　3500円（当日500円増）

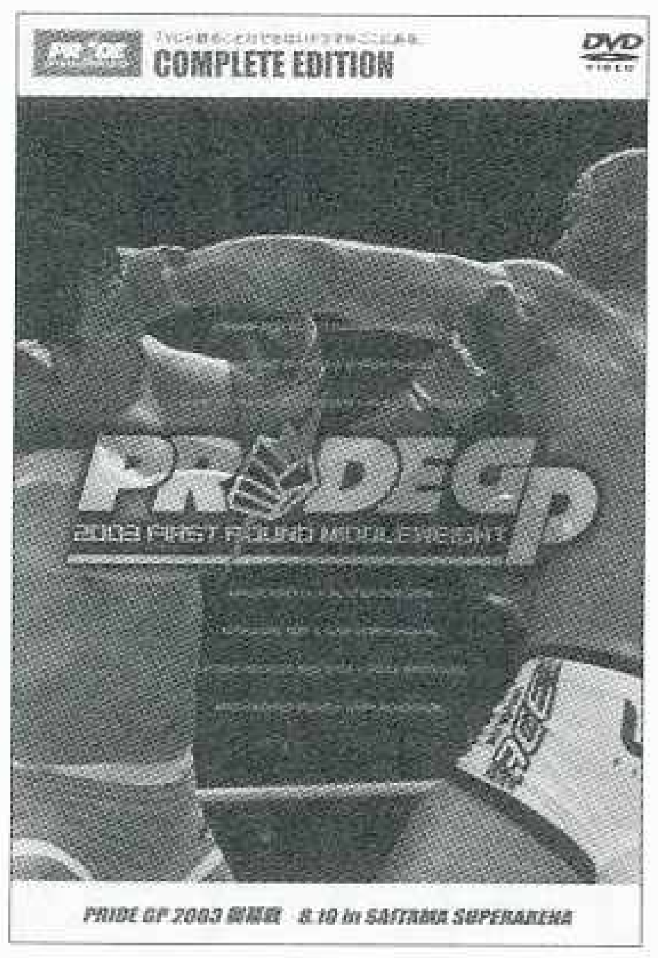
■イベント内容　ライト級・ミドル級トーナメント他、全8試合を予定

■主催：スマックガール実行委員会　03-5545-4766

DVD & VIDEO 話題&最新作情報

PRIDE GP 開幕戦

DVD・本体価格 4800円／メディアファクトリー
カラー160分／10月31日発売

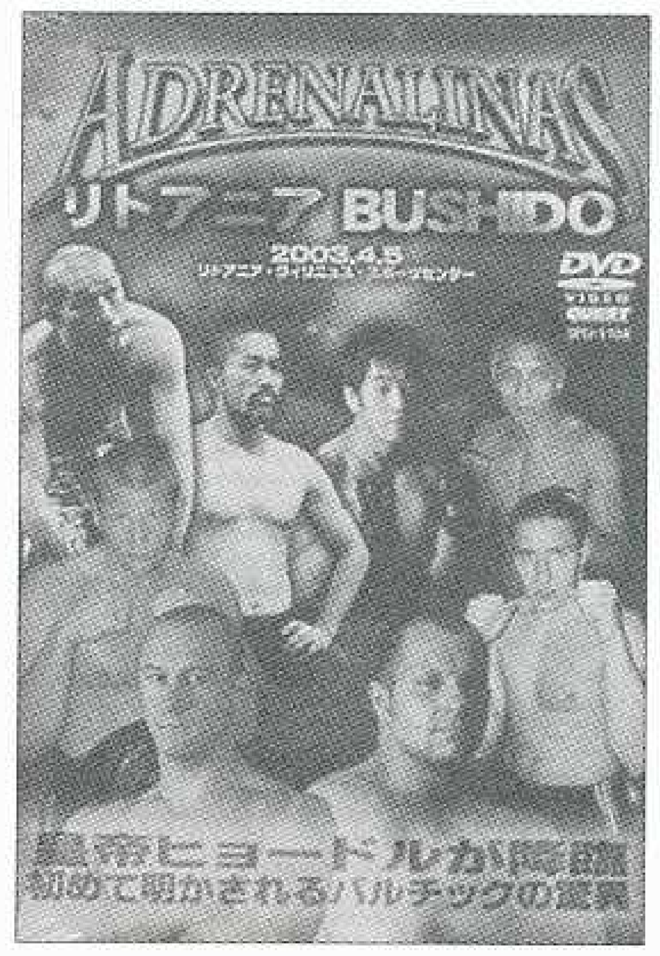


Recommend

今年８月10日、さいたまスーパーアリーナで行われた『PRIDE GP 開幕戦』のＤＶＤが早速発売される！　ヴァンダレイ・シウバの打撃に散った桜庭和志、吉田秀彦の袖車に沈んだ田村潔司。会場や中継では見えなかったその決定的瞬間が、ＤＶＤで蘇る！　試合後に各選手が心境を語る公式インタビュー、レフェリーカメラをノーカット収録した“レフェリーズアイ”、ヒカルド・アローナ負傷により急遽参戦したムリーロ・ブスタマンチの紹介と、特典映像も超強力。ＧＰ以外にも、エメリヤーエンコ・ヒョードルの第１試合、ミルコ・クロコップの超衝撃ＫＯシーンなど、見逃せない試合がつまったこの１本。11月９日の決勝戦を制するのは誰なのか。まずはこの開幕戦をじっくり検証しよう。

リトアニアBUSHIDO ADRENALINAS 2003.4.5　リトアニア・ヴィリニュス

DVD・本体価格 5600円／クエスト
カラー 120分／発売中



It's HOT!!

2003年4月5日、リトアニア・ヴィリニュスで行われた「リトアニアBUSHIDO ADRENALINAS」のDVDが発売ッ!!　アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラを倒し、PRIDEヘビー級王者となったエメリヤーエンコ・ヒョードルが、激闘のわずか３週間後に『リングスBUSHIDO』のリングに参戦！　日本からリトアニアへ乗り込んだ矢野卓見＆今成正和、所英男、小谷直之らの闘いほか、今成の夜の闘い以外は完全収録したこの１本。
“リトアニアの高田延彦”ケツタティス・スミルノヴァスら、遠く離れたリトアニアに潜む強豪を見届けよう。特にヤノタクに放つモリカビュチェスの蹴りはモノ凄い！　大会の模様は本誌61号に詳しくレポされているので、そちらと併せて見ると面白さ倍増だ。

Book 注目作品&新刊紹介

船木誠勝の真実

船木誠勝著／エンターブレイン
本体価格 1600円／発売中



「プロレス入門から引退、そして現在まで……　常にキーワードになっていたのは『セメント』の四文字だった」船木誠勝が、これまで歩んできた闘いの“真実”を告白！　新日本プロレス道場でクロネコさんに仕掛けられたスパーリング、U.W.F.で経験した苦悩、完全実力主義を掲げて旗揚げしたパンクラス、そして、突如実現したヒクソン戦に至るまで、船木がその思いを徹底的に語り尽くした。裏表紙の笑顔も素敵なこの１冊は、パンクラスの名称を決めるときになぜか『「ゴリラ」がいい！』と言い張ったなど、随所に含まれる鈴木みのる話も最高！　必読！

2004『総合&組技格闘技』選手名鑑

(株)日本スポーツ出版社
本体価格1429円／発売中



世界59カ国の総合＆組技ファイター、1775人のデータを一挙掲載！　選手の身長・体重ほか、貴重なデータが満載のこの１冊、なんといっても注目ポイントはほぼ全選手に敢行したアンケート。佐々木健介が「好きな食べ物＝ピンクグレープフルーツ」「プライベートでの目標＝本当に心を許せる親友を作ること」と答えているなど、データとしてだけでなく、読み物としても興味深い本となっている。「サイボーグ魂」に１度登場しただけの選手まで入った女子選手データは充実しまくっている上、コメントにもやけに熱がこもっている。星野育蒔の欄は要チェックだ。

紙のプロレス　ソリチュード

山口日昇・柳沢忠之著／ぴあ
本体価格 1600円／発売中



Recommend

おなじみ本誌鬼畜編集長・山口日昇と、小さいころの『紙プロ』でタッグを組んでいた『ＳＲＳ－ＤＸ』元発行人・柳沢忠之の２人が、プロレスと格闘技について（？）徹底的に語りまくった！　団体行動の出来ない２人の北朝鮮話に始まり、ボブ・サップ、Ｋ－１、猪木・馬場をまだまだ語る!?「ナンバーワン」と「オンリーワン」、ディズニーランドの「変わらなさ」、そしてここでも山口日昇は「破壊王ＬＯＶＥ」全開！　歌謡曲、ブッシュ、田舎者へと飛び火したトークは、ヒョードルへの思わぬ挑戦宣言を経て、柳沢忠之の持つ電子辞書から導かれたキーワード「孤独＝ソリチュード」へ！　読みごたえアリ、重量感（320ページ）アリ！　ただいま絶賛発売中ダーッ！

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

■大阪プロレス
06-6636-6672
〒556-0002　大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■キングダム・エルガイツ
0423-31-2797
〒206-0025　東京都多摩区永山1-17-10
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom/

■新日本プロレス
03-5468-3111
〒150-0011　東京都渋谷区東2-1-11
http://www.njpw.co.jp/

■掣圏道　042-544-6979
〒196-0013　東京都昭島市大神町1-2-22
http://www.seiken-do.com/

■全日本プロレス
03-3403-7344
〒106-0032　東京都港区六本木7-3-2
http://oudou.co.jp

■全日本女子プロレス
03-3493-6541
〒153-0064　東京都目黒区下目黒2-17-17
http://www.zenjo.com

■大日本プロレス
045-937-0811
〒224-0053　神奈川県横浜市都筑区池辺町4347
http://www.bjw.co.jp/

■高田道場
03-5749-5030
〒142-0062　東京都品川区小山3丁目6-6 ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com/

■高山堂　03-5464-2806
〒150-0011　東京都渋谷区東2-21-9-803号　ジェイパーク渋谷イーストスクエア
http://www.Takayama-do.com

■闘龍門JAPAN
078-333-9797
〒650-0004　兵庫県神戸市中央区中山手通2-3-18　メープル中山手201
http://www.gaora.co.jp/dragon/index.html

■ドリームステージエンターテイメント（PRIDE）
03-5464-1531
〒107-0061　東京都港区北青山3-12-9　花茂ビル3F
http://www.so-net.ne.jp/pride/

■バトラーツ
0489-63-0005
〒343-0807　埼玉県越谷市赤山町6-13-43
http://www.battlarts.jp/

■パンクラス
03-5792-0815
〒106-0047　東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp/

■プロレスリング・ノア
03-3527-5311
〒135-0063　東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■冬木軍プロモーション
045-241-6381
〒231-0048　神奈川県横浜市中区蓬莱町2−247　SSビル310

■みちのくプロレス
019-626-1333
〒020-0063　岩手県盛岡市材木町9-8
http://thegreatsasuke.com

■A to Z　03-3678-7777
〒132-0013　東京都江戸川区江戸川1-6-2
http://www.AtoZ.ne.jp

■DDT　03-3868-9181
〒112-0002　東京都文京区小石川2-9-7　MORIMOTO FLATS 4F
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
052-339-0303
〒460-0071　愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル2F
http://www.deep2001.com/

■FEG（K-1事務局）
03-3796-2977
〒150-0001　東京都渋谷区神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.k-1.co.jp/

■GAEA JAPAN
03-5459-3101
〒150-0036　東京都渋谷区南平台6-7　MAISON南平台1F
http://www.gaea-inc.com

■GCM COMUNICAION
03-3538-5801
〒104-0061　東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
http://www.g-c-m.net/

■IWAジャパン
03-3352-3366
〒160-0004　東京都新宿区新宿2-15-13　第2中江ビル402
http://www01.vaio.ne.jp/IWAJP/

■JDスター　03-5561-0522
〒107-0052　東京都港区赤坂2-3-4　ランディック赤坂ビル4F
http://www.jdstar.co.jp/jd_star/index_j.html

■JWP　03-5849-2341
〒121-0052　東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com/

■KAIENTAI DOJO
043-214-6960
〒260-0001　千葉県千葉市中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp/

■LLPW　03-5228-4331
〒112-0014　東京都文京区関口1-24-6 朝日関口マンション1001号
http://www.llpw.co.jp/

■NEO　044-422-8344
〒211-0011　神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102
http://www.neoladies.com/

■SMACK GIRL実行委員会
03-554-4766
〒106-0044　東京都港区東麻布1-10-11東麻布アベビル3F　株式会社エキサイティング・トリガー内
http://www.smackgirl.com/

■U-FILE CAMP
044-932-0282
〒214-0014　神奈川県川崎市多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com/

■UFO　03-5447-2121
〒108-0071　東京都港区白金台3-19-5　OK白金台ビル7F

■UNW　03-3362-3014
〒164-0003　東京都中野区東中野4-4-5-311

■U.W.F.スネークピットジャパン
03-3337-1889
〒166-0002　東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■WJプロレス
03-5458-5915
〒153-0043　東京都目黒区青葉台3-10-9 東信青葉台ビル4F
http://www.wj-pro.com/

■WMF　049-239-3520
〒350-0812　埼玉県川越市下小坂536-18
http://www.e-rain.co.jp/wmf

■WWS　0495-24-6900
〒367-0052　埼玉県本庄市銀座2-5-23　レインボー本庄106

■ZERO-ONE
03-5730-3401
〒105-0014　東京都港区芝2-30-11　寿ビル601
http://www.zero-one.to/top.html

■ZST　03-5321-9595
〒106-0023　東京都新宿区西新宿3-1-2 廣川ビル4F
http://www.zst.jp/

Shop　一度は行きたいこのお店

鉄ゲタ買うならこんな店！「MANIC Dee.East」



どファンキーなテイスト溢れるデザイナー「MANIC DEPRESSION DESIGN」が手がけるブランドが全て揃うSHOP「MANIC Dee.East」をご紹介!!　武道具メーカー・イサミと共に立ち上げた「rvddw」（reversal.dogi.design.works）は要注目!!　シュート・ボクセ、グレイシー一族だけでなくサモ・ハン・キンポーのオフィシャルTシャツ、鉄下駄、サンドバッグまで買えちゃうカオスなショップだ!!　渋谷に行った際は、是非立ち寄ってみるべし!!

▼Place
営業時間：木・金・土・日の毎週４日間、午後２時～８時まで
渋谷区渋谷１－17－４　渋谷エステートビル405
TEL：03－5774－6293

明治通りを渋谷駅から原宿方面に進み、一つ目の交差点（歩道橋あり）を右折。坂を100mほど登った右手の渋谷エステートビル405号室。
■HP　http://www1.odn.ne.jp/manix

Event　各地で行われるイベント情報

ターザン山本、長野で一揆塾！

ターザン山本が長野を襲来！　10月29日、通常は東京で活動しているターザン山本の一揆塾が長野で特別開講される。静岡に続いての地方進出となる今回、はたしてどんな内容となるのか!?　ターザンの炎上っぷりを見たことのない長野人は、この機会に絶対見ておくべき！

■日時　10月29日（水）　19:30～21:30
■会場　バックドロップ（長野市大字鶴賀千歳町1137-5）
■料金　1人3000円（1ドリンク付）
講演後、ターザンを囲んで自由参加のお食事会を開催（飲食代は実費）
■主催　長野プロレスサミット実行委員会
■申込・問　バックドロップ　026－237－8887

武藤敬司、京都で学園祭に登場!

全日本プロレスの武藤敬司が、京都・大谷大学の学園祭に登場する。いつ何時でも自然体を貫き通す武藤が、トークでも“閃光魔術”を見せるか!?　10・26武道館大会についても、きっとたっぷり語ってくれるはずだ。チケットは、チケットぴあ・ローソンで好評発売中！

■日時　11月7日（金）
14:30開始（14:00開場）
■会場　大谷大学講堂（京都市北区小山上総町）
■料金　前売400円　当日500円
■主催　大谷大学大学祭実行委員会
■申込・問　大谷大学大学祭実行委員会
075-431-4391

And Others　その他各種情報

美濃輪育久、公認公式HP発足!

現在ブラジルで絶賛修行中の美濃輪育久公認HP「BEAUTIFUL・DARK・RING！」が発足。美濃輪からのメッセージ・情報が更新された、ファンにはたまらない内容となっている。ＨＰタイトルも、本人が命名したもの。

美濃輪の情報はここでチェックし、試合が見られる日を楽しみに待とう！

美濃輪育久　公認公式サイト
「BEAUTIFUL・DARK・RING！」
アドレス：http://homepage3.nifty.com/ikuhisa-minowa/

ダリアン・ガールズ、日本初登場!!



9月29日、（株）ホリプロがプロデュースする「スポーツエンターテイナー」、“ダリアン・ガールズ”が、日本初登場を果たした。ダリアン・ガールズとは、中国・大連から集められた。平均年齢18.1歳、平均身長168センチの美少女集団だ。

今後は、会見が行われた品川プリンスホテル内のクラブexで10月17日から公演を行っていく。さらに、10月11日の25:45からはフジテレビ系列での地上波放送スタート済み。公演日程およびチケット販売は、ホリプロチケットセンター（03-3490-4949）、またはイープラス（http://eee.eplus.co.jp）まで。

炎武連夢に続け!
面白くなき世を面白くする読者ページ

紙プロ元気大学

東京駅で起きたザ・グレート・サスケ会見（ポーゴ襲撃）で、ワイドショーデビューしてしまった読者ページ担当のささきぃです。本業は電気部です。ただ単に、サスケさんの後ろにいたので映っていたというだけです。黙ってようと思ったのですが、伊藤博之選手に指摘されたので公表します。でも、映ることを予想してビデオ予約を実家に頼んでいたことは内緒です。ではでは、はじまりはじまり。



（大阪府・英加直純）➡写真じゃないんですよー。届いた時にビックリしてしまいました、マイク・タイソン。なんか、これがトップに来てる読者ページってマジメそうじゃない？（若者ぶってみた）ふざけてるようで社会派って感じしない？　そうでもないですか。そうですか。……これを書いている日に、アーネスト・ホーストの欠場が決定。がんばれK-1！

校内巡回

『紙プロ』66号　面白かった記事

【Y2談】
★ネットの日記でも狂っているターザンが面白かった。
（東京都・村田卓実・23歳・学生）
❶『SRS-DX』休刊の謎がわかるのは『紙プロ』だけ!!……というわけで、面白かった記事1位は山口日昇がお休みのY2談。しかし、同時に**「今月号のターザンの天使姿の連発は『一線を越えている』ような気がする（『紙プロHand』投稿・トリプルクロス）」**というクレームも多数届き、つまらなかった記事でも見事1位になりました。以降、順不同でお届けします。「花くまさんの試合を見逃してしまった」という村田くん、次の試合はいつですか？

【馬鹿になった新日本】
★最近の新日は最高。「猪木イズムとは気が狂うことである」を体現している。
（北海道・坂野誠一・32歳・会社員）
❶それは、ほめ言葉？　昨日はドームの日でした。今月のY2談もお楽しみに。

『紙プロ』66号　つまらなかった記事

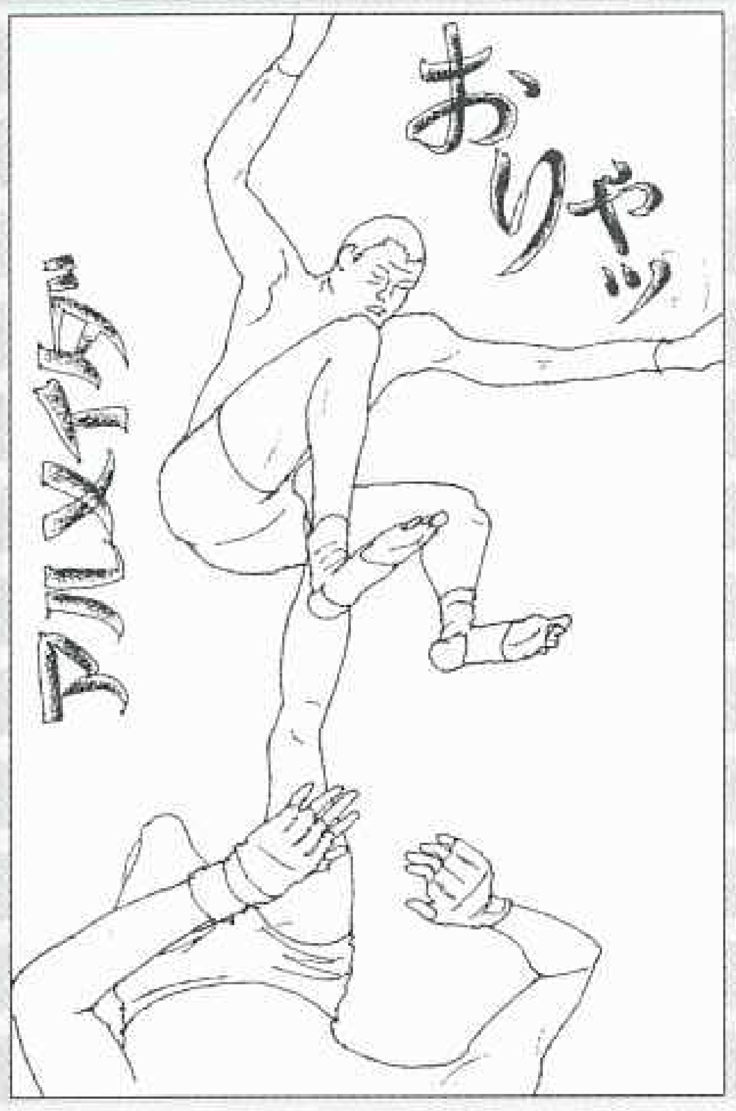
【長南亮インタビュー】
★顔が怖いので。
（神奈川県・大類正和・31歳・会社員）
❶笑顔が怖いんですよね。でも、怖いところも含めて長南亮。グッフッフッ。

好きなレスラー・好きな団体

【好きなレスラー・中嶋勝彦】
★以前から『紙プロ』を知っていたという発言と「カワイイのはあややと上戸彩」発言だけで、この人は正しい扉をあけていく人だという事がわかった。スゴク期待したい。
（茨城県・石川明弘・28歳・会社員）
❶一番最初の登場時より、ずいぶん体や表情がしっかりしてましたね。しかし、それだけで正しい扉をあけてるかどうか判断されちゃうのか。怖いな。

『紙プロ』65号　面白かった記事

【田村潔司インタビュー】
★田村さんが好きですから。
（石川県・寺井尚信・21歳・会社員）



（神奈川県・葉ちゃん）「アルメイダは心がピースで素敵ですね。飛んでいる写真が格好良かったので描きました」❶どうにもいい人でしたね。ネイサン・マーコート戦が決定してしまいました。減量タイヘンだろうけど勝ってほしいです。そして菊田戦が叶いますように。

❶なんてシンプルな。なんだか気になって採用してしまいました。自分は不器用ですから。

【ヴァリッジ・イズマイウ インタビュー】
★この人とは友達にはなりたくないけど、同僚だったら面白いと思う。
（大阪府・中島一郎・29歳・会社員）
❶ビザ発行しなかったり、ましてやそれを追求されると逆ギレしたりする同僚と一緒に仕事するのは、ちょっとイヤだと思います。隣のフロアくらいの同僚だといいかな。

【青木さんとは誰か？】
★全日本の会社というのは、馬場さんの時から固いイメージがあったので、これを読んでちょっとその辺がくずれたので良かった。
（兵庫県・石原寛和・18歳・学生）
❶それって、いいことかなぁ。青木さんTシャツも完売したようだし、まぁ、いいか。

『紙プロ』65号　つまらなかった記事

【マイクタイソン】
★格闘技ファンにとって、金がどうのこうのを言われてもこまるから。
（鹿児島県・節政徹也・15歳・高校生）
❶ごめん。みんな、そういう事に興味があるものかとばかり思っていたよ。

その他のおたより

★世界柔道の100キロ超級で金メダルをとった棟田康幸選手は、ハシフカーンの弟、もしくはショーグンの影武者として、ZERO-ONE U$Aでデビューしたら面白いと思うのですが、どうですか。
（北海道・安部正則・31歳・無職）
❶柔道着に「極真會」とマジックで書いて怒られた男と、金メダリストが競演かぁ。どうですかって言われても、どう答えていいか答えに困る。「世界柔道には、総合に来てほしい選手がいっぱいいた」という意見はたくさんあったけど、まず最初にZERO-ONE（しかもU$A）のことを考える意見は珍しかったです。個人的には評価したいと思うので掲載。それに、もしかしたら実現するかもしれないし。夢を見るのは自由。

★先月の読者ページP118、スーパーモアイは優勝者じゃないぞ！　ささきぃさん、しっかりしてよ。食あたりの後遺症か？
（『紙プロHand』投稿・西口ポプラ）
❶ごめんなさいー。ふく面ワールドリーグ優勝者はスーパーモアイではなく、ケンドー・カシンを破った幻の大陸王子ことアトランティスでした。食あたりは、久しぶりに命の危険を感じました。健康ってすばらしい。



（埼玉県・小川徹）➡カラーで何枚も送ってくれた小川君。ちょっと久しぶり？　この絵もカラーなんだけど、どこまでキレイに見えるかなぁ。人物描いて終わりじゃなくて、一枚の絵として完成させようとする姿勢に感心。



（神奈川県・稲葉聡）➡イズマイウ台風。怖いよ。『ジャングル・ファイト』報道をいくつか見ましたが、単なるアントン総帥&イズマイウの記念写真がかなり紛れ込んでいたような気がします。あっ、よく見ると日本列島がアントン総帥になっている。困り顔がかわいい。

今月の『紙プロHand』&『紙プロ元気大学』調べ 好きなレスラー人気ランキング!!

1位 桜庭和志
2位 田村潔司
3位 ミルコ・クロコップ
4位 橋本真也
5位 CIMA

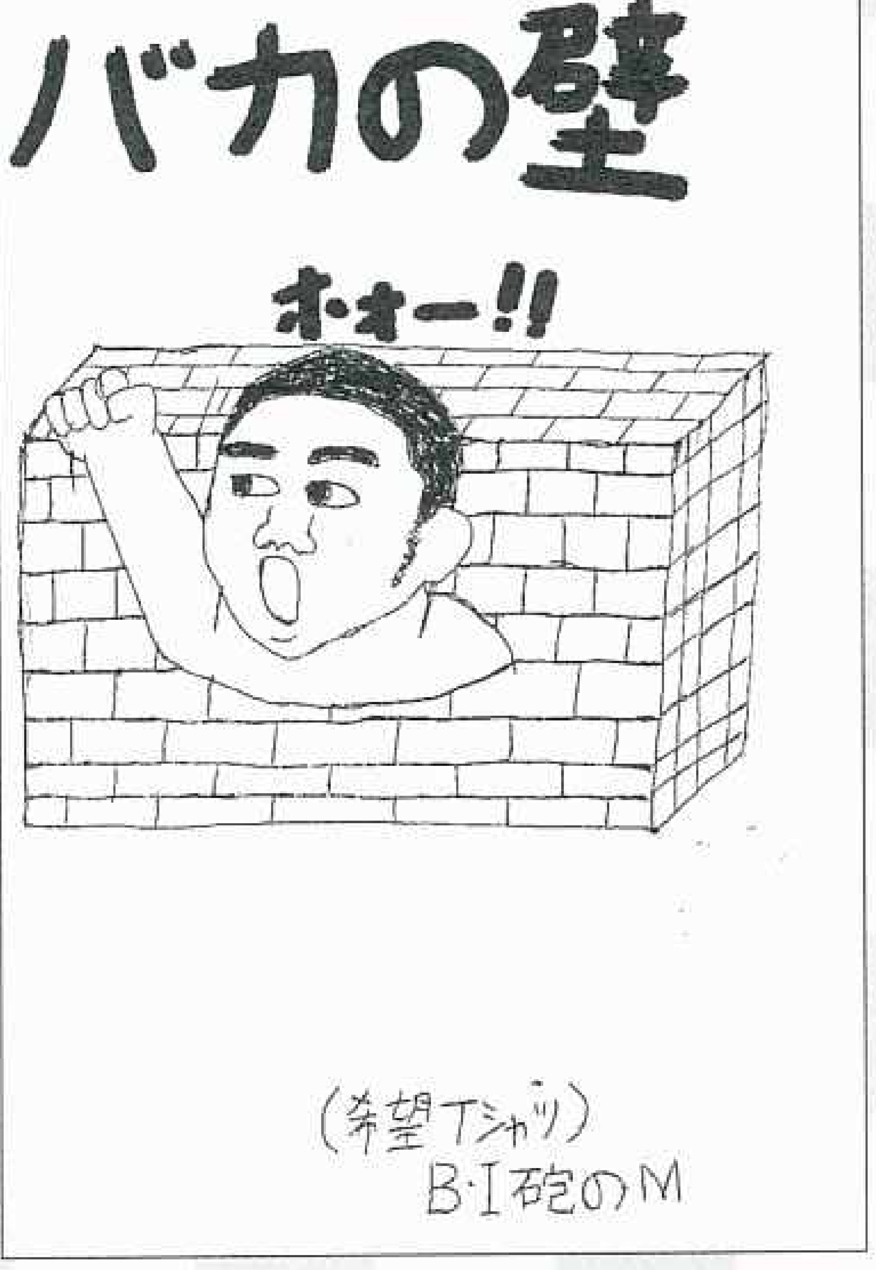
今月は携帯サイト『紙プロHand』からの投票と、本誌アンケート票を総合してお届けします。登場している選手名は前号とあまり変わっていないんですが、1位がサクに変わり、4位に上半期MVP2位のミルコが登場しました。好きな団体アンケートでは、PRIDE（DSE）がトップ。続いて闘龍門が2位にランクアップ、3位がZERO-ONE、4位が新日本、5位がリングスでした。ちなみに、携帯サイトで常時行っている嫌いな選手・嫌いな団体アンケートでは、嫌いな選手1位がサスケに負けてしまった某議員、団体は『東スポ』紙上をおおいににぎわせた某団体と、前号と変わらずの結果が出ていました。
（9/13〜10/13アクセス分&ハガキは66号アンケート・10/13到着分調べ）

紙プロ66号・読者が選ぶ 面白かった記事ベスト5

1位 Y2談　SRS・DX休刊の真実
2位 『東スポ』柴田次長インタビュー
3位 ミルコ・クロコップインタビュー
4位 堀辺先生が『PRIDE・GP』の見所を大解剖
5位 長南亮インタビュー

1位は僅差で、ターザン登場のY2談。ちなみに、ワーストの1位も飾っています。続いて、元『ワールドプロレスリング』解説者でもある柴田次長が、『東スポ』の魅力について語りまくったインタビューが第2位、ドスカラスJr.を圧倒的な強さで葬り去ったミルコ・クロコップインタビューが第3位。続いては、またしても青春の大発見！　堀辺師範による吉田vsシウバ戦の見所大解剖が第4位。5位はマッハを破った長南亮インタビューがランクイン、6位にはカール・ゴッチインタビューが続きました。

ほんとにジョーク？



（山形県・クロコ・ミルコップ）❶「バカの壁 ホォー!!」すばらしい。誰もが思いつきそうで思いつかなかった、もしくは思いついたけど描かなかったネタですね。絵に漂う「間」もいいので、不意をつかれた感じで大いにウケてしまいました。でも、この「バカ」本人はいつも私たちの想像を上回る素敵ぶり。それもナイス。あ、これは恒例となった（するなよ）「ほんとにジョーク」からの横取りおハガキです。



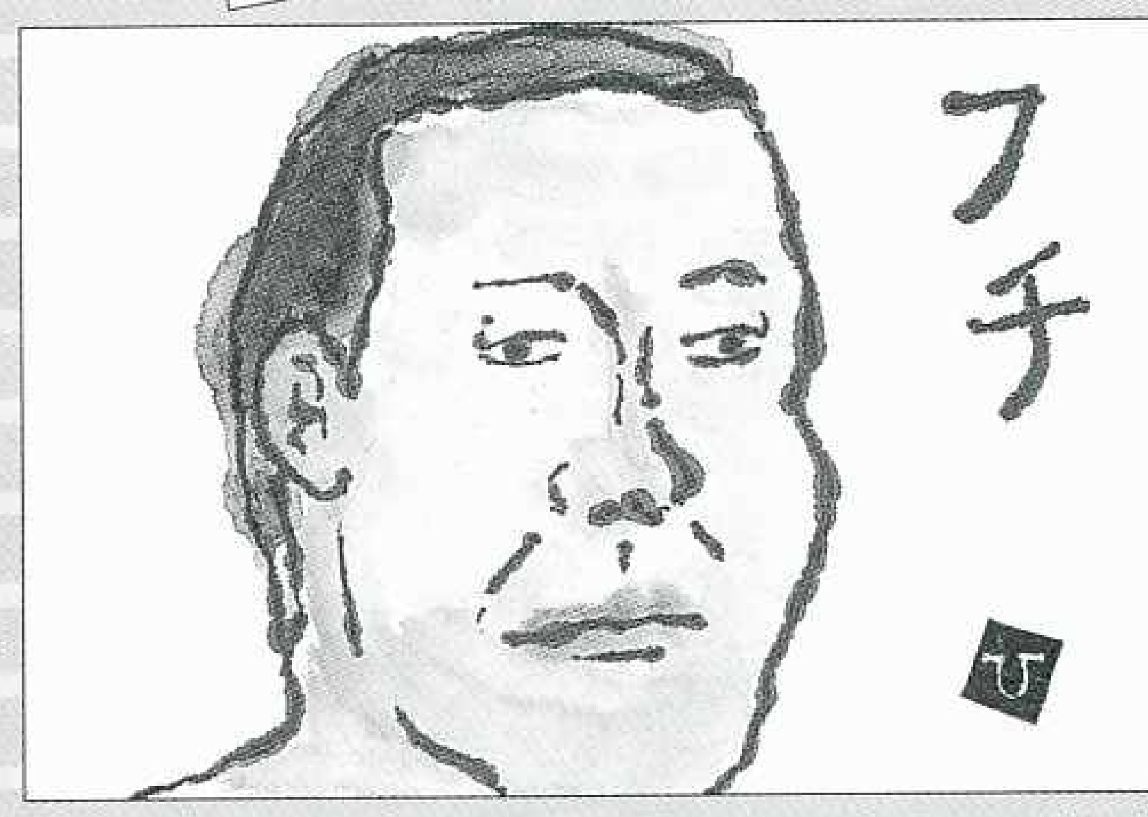
（愛媛県・鈴木ユージ）❷大会直前の、蝶野の困りぶりがおもしろかった（と言っては気の毒ですが）ホーガン。もう1枚もすごく良かったんですが、いろいろ考えてこちらを掲載。この絵も勢いがあって私は好きです。



（神奈川県・大谷琴音）❶「失敗しました、ゴメンナサイ。とくにむとうさんが……」闘魂三銃士……おいおい、かわいすぎるだろう。でも、こういう絵もあっていい、とも思う。



（大阪府・英加直純）❶こちらは切り絵の英加画伯。先月私がリクエストしたヒョードルですね。ありがとうございます。かっちょいいです。新作Tシャツのマークを完コピしていてえらい。そして「Victims of him MIRKO」って、ヒョードルがミルコに勝つことになっていますね。私的にはそうあってほしいですが、11・9はどうなるどうなる。



（東京都・相澤寛子）❶馬場さん、サク、武藤と来てフチ。すばらしい人選。結局、フッチガールズというのは何だったんでしょうか？　最終戦あたりで明らかにされたんでしょうか？



（石川県・シーザータカシ）「でかく載るまで引退しません（笑）」❷そうか。じゃあ、引退されたくないのででかく載せません。ウソです。ていうかこれ「ほんとにジョーク」あてだから、本来大きく載りようがない。どう見ても長南亮です。ウケました。「週プロより小さいのでショックでした」って、bowを「ビッグ・オッパイ・レスリング」って当て字するセンスは、私にはないからなんとも言えないや。ごめんね。めざせ富永一郎（？）。

（石川県・ザック・ワイルド）❷左にいる大工さんと『DEEP』で対戦した、桜井マッハ速人。見てわかると思いますが、描いているのは同じ人です。大量投稿ありがとう。さすがに全部は載せきれなかったよ。「彼女がダイエットに失敗した」って、彼氏なら細かい体重の減少をいちいち褒めてあげないとダメです。微々たる差でもいちいち評価してあげなさい。そうしないと、たぶん勝手にストレスためて爆発してしまいますよ。「さささぃ52キロ以下ですか？」って、そんなもん、以上に決まってるだろ！（堂々と）



今月のタレコミ部



（静岡県・森上路太郎）「近所のパチンコ屋がDSEに無許可で勝手に開催！」❶ありゃりゃ。これは無許可だろうなぁ……。でも、行ったら入り口にいきなり「ここから先は、門番の俺を倒してから行け！」って、ゲーリー・グッドリッジがいたかもしれませんよ。パチプロ全滅。どうでもいい話ですね。



（静岡県・目ガ覚メタロウ）「ドスJr.にあやかってか、こんなスイマーが登場。アディオス・アミーゴ」❶わはは。さすがスイマー、いい体してるね。結果はどうだったんだろうなぁ。かなりの確率で『紙プロ』読者だと思われるので、本人は名乗り出て当日の状況を説明するように。ところで、前号の読者ページで掲載した「ど真ん中酒」は、ZERO-ONE渦巻寮へのお土産になるという、非常に有効な（？）使われ方をしました。どうもありがとう。



（埼玉県・中川雅博）「ややマニアックなうえ、弱火でスミマセン。戦争反対!!」❶ネタ切れですか？　小川徹くんからストーンコールド、ケイン、ゴールドバーグ、レイ・ミステリオを描いてほしいと、たくさんリクエストが来てましたよ。

おハガキ・お便り・メール大募集!!

今月はイラストハガキが大量に届いて、選ぶのにとても悩みました。うれしい悲鳴でございます。今月はたぶん、プロレス・格闘技雑誌内でも1・2位を争う競争率だったのではないかと思います。載った人は自慢してください。私も自慢します（なぜだ）。さてさて、『紙プロ元気大学』では、みなさんのお便りを募集しております。『紙プロ』を読んで感じたこと、ご意見、大会の感想、お便りの他、イラスト、その他すべての宛先は、

メールは radical@kamipro.com
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702
（株）ダブルクロス　紙のプロレスRADICAL編集部　紙プロ元気大学「日本のアニメは最高!」係まで。
★☆★携帯サイト『紙プロHand』からの投稿も出来ます！★☆★

本名NGの方はペンネームを記入するのを忘れないよーに！　プレゼントコーナーあてのハガキも、内容によっては無断でこっちに載ってしまいます。匿名希望の人はその旨明記のこと。旬のネタは掲載率が高いです。

中川雅博 爆笑連載!?

ほんとにジョーク

第28回



今月イチバンおもしろかった作品とその作者

北海道札幌市　**虹伝説**

★虹伝説さん、2号連続採用おめでとうございま〜す!!　「山本小鉄」Tシャツ(XL)、お楽しみに!!　今回、ハガキが21枚でした。ちょっとさみしいです。チョーダイ!!　チョーダイ!!　ハガキが欲しいのよ。採用率高いよ!
★IT革命です。お友達の吉岡くんと一緒にホームページはじめました。日記みたいなことを書いています。ちょっと恥ずかしいけど良かったら見てチョーダイ!!　『中吉』http://chu-kichi.jp/
★週刊ゴング『プロレスお絵かきリング』の河口仁先生が大好きな中川画伯の『ほんとにジョーク』にハガキを書こう!!　抽選で5名様に「手づくり缶バッヂ」、採用された方には「手づくりTシャツ」をプレゼント!!　希望Tシャツはプロレスラーじゃなくてもノー問題です。いつ何時、誰のTシャツでもつくる!　皆さん、ハガキをビッシビシ送ってください。



➡前号のTシャツ ライオン・キング 小川直也

応募方法

プロレスに関したものなら何でもけっこう、ジョーク、ギャグ、コント、マンガ、標語、何でもいいんだ、とにかく『ホントニ面白い』ヤツをたのむ。毎月1名の作品をこのページで掲載。このページは読者投稿ですが、めでたく掲載された方には「中川画伯オリジナルTシャツ」をプレゼント。原稿発送は紙のプロレス「ほんとにジョーク係」へ、希望選手名やサイズ(S・M・L・XL)をハガキに書いて下さい。　〈例〉水道橋博士(浅草キッド)のL

サスケvsデルフィンより、vsシベリアン・タイガーが見たい！

BEST OF THE スパコラム™



金ちゃんの MONTHLY BOYA-KING COLUMN

なんでそ～なるの!?

第3回

ウエスタン・ラリアートとアックスボンバーはどっちの威力が上か？

今月は、新日本の10・13東京ドームに行ってきたよ。新日本の会場に行くなんて、5年ぶりぐらいだけど、ハルク・ホーガンが来るって聞いたら行くしかないでしょう。俺はハルカマニアだからね。とは言っても、俺WWF（WWE）でのホーガンってほとんど見たことないんだけど（笑）。

ハルク・ホーガンって言ったら、小学生のころ大好きだったプロレスラーのひとりだから、やっぱりそういう人にはいまだに憧れってあるよね。アンドレ・ザ・ジャイアントとか、あの時代のレスラーには特別な思いがあるよ。Uインター時代にダイナマイト・キッドと会える機会があったんだけど、そのときも感動したもんね。

それで今回は、ホーガンに会って一緒に写真撮ってもらおうと思ってドームに行ったんだよ。先月、「一緒に写真撮ってもらいたいのはタイソンぐらい」って書いたけど、やっぱり『ロッキー3』に出てるくらいの人だから、一緒に撮りたくなるじゃん（笑）。でも、ホーガンはドームのバックステージにいても、「俺はスターだぞ」っていうオーラがビンビン出てて、なかなか近寄りがたいんだよね。ホーガンの控え室なんか、入れる雰囲気じゃなくてさ。それでもちょうどネコさん（ブラック・キャットさん）がいたんで、ネコさんにお願いしてもらったら控え室に入れてくれてね、なんとか記念撮影に成功して嬉しかったよ（笑）。

ただ、試合の方はちょっと「えっ!?」って思ったけどね。だってさぁ、アックス・ボンバーとか全然痛そうじゃないんだもん（笑）。あれだったら中西さんのラリアットの方が遥かに凄いな～とか思っちゃったよね。あと俺が子供の頃、よく友達と「ウエスタン・ラリアートとアックスボンバーはどっちが威力が上か」とか話してたの思い出したんだけど、そのときは「ホーガンのアックスボンバーは、自分もロープに走って反動を利用するから、威力が倍増するんだ」とか言ってたんだけど、いま見るとお話にならないくらいウエスタン・ラリアートの方が上だと気付かされたよ（笑）。ちょっ



20年前の「猪木失神」を再現するかのような一撃。しかし、威力の衰えは蝶野が舌を出さなかったことからもわかる。

とガッカリだったな～。

あと、お客さんがみんな今のホーガンを知ってるのに驚いたね。「ハルクアップ」とか初めて知ったよ。俺なんか、天山が出てくると、みんな「シュー、シュー」言うのも知らなかったからね。最初に「シュー」とか聞こえてきたとき、なんか風船に空気でも入れる音かな？とか思ってたんだけど、そのうち天山が出てくるたびに聞こえてくることに気付いたんだよ（笑）。俺が新日本の会場に行くのって山崎（一夫）さんの引退試合以来で、そのときも山崎さんの試合しか見なかったから、今回は新たな発見だらけだったね。

そんな感じだから、久々に新日見て楽しかったよ。全試合は見てないけど、中西さんとかヘビー級の選手は迫力あったし、バーリ・トゥード（アルティメット・クラッシュ）も良かったよね。高橋（義生）さんの試合も良かったし、TKも勝ったしね。でも、モラエス（ヒカルドン）はずいぶん元気なくなったちゃったなと思ったけどね。やっぱり手術して3年もブランクあると厳しいよ。俺もブランク長くなんないようにしないと。

手術したヒザはリハビリして順調に回復はしてると思うんだけど、気持ちばっかり焦っちゃってさ。毎日辛いよ。何で俺だけこんな目に遭わなきゃいけないんだと思ってね。これでも会社があればまだいいんだけど、なんでフリーになったときにこうなるかな～って。神様は俺に試練を与えたいのかなぁ。さっきテレビ見てたら、6ヶ月分の定期を勝った次の日にリストラされたサラリーマンのことがやってたけど、なんかすごい共感持っちゃったもんね（笑）。

さて、来月は11・9『PRIDE』の東京ドームに行ってこようかな。やっぱり今回新日本行ってみて感じたけど、欠場してるときこそ、いろんなところに顔を出して存在をアピールしないとね（笑）。というわけで、また来月！

Kanehara Hiromitsu

オフィシャルHPで「本音炸裂コラム」毎日更新してます！

金原弘光オフィシャルHP

http://www.hiromitsu-kanehara.com/

がんばれ! 大ノゲイラ!!

花くまゆうさく リングの汁 RADICAL



www.HANAKUMA.com

【10月10日】

もう何年も書くことがなくその場しのぎの綱渡りでやってたこの作文だが、今回もかなりきつい。しめきりは明日の11日と言われてたが、書くことがない。いま住んでる建物が大規模修繕工事してて、衛星アンテナが外されており『サムライTV!』はおろか、PPVが見れないので『プライド武士道』をまだ見ていない。ジャングルファイト（イズの文化祭）も見てないし、『X－1』も見てない（これは別に見なくてもいいけど）。明日はK－1やるそうなので、それまで待ってみることにした。

【10月11日】

K－1見たが、気の毒になった。ただそれだけ。

これじゃ字数うまらんなあ、今日のしめきりは無理。すいません。

【10月12日】

チョロさんから「なんとか今日中に」とメールが届く。なんとかしなくてはと本屋へ立ち読みへ。

『週プロ』で、永田がミルコとやる気だと言っていた。間に受けて、『プライド』は突っ込んでほしい。そういや前回の『週プロ』の佐藤編集長による高田インタビューでの高田よかった。相槌でオーバーに感心する佐藤編集長に、わざとらしいと突っ込む高田最高!

『週刊ゴング』では、菊池氏らプロレス大御所3人しゃべり場のとこで、『プライド武士道』のミルコを「46秒だなんて、ミルコは株を落としたね」なんてキッパリ言い切る、信じられない発言が目についた。私はその試合まだ見てないけど、試合結果を知ったとき「やっぱ凄えなあ～ミルコ」と感心し、ヒョードル戦前に最高の勝ち方だなと思ったのだが、そんな見方ができるなんて凄いな。どうしたらそうなれるんだろう。なりたくないけど。

「2004総合&組技格闘技選手名鑑」という本も目についた。見る側からやる側に行き、果てはアブダビでホイラーから三角で一本取ってしまった見る側の出世頭エディ・ブラボーは特技が「セックス」だそうだ。そして、お約束でまっ先に探すのはイズマイウでしょう。得意技は、「クロックチョーク」でその後に（ホイスを落とした）とわざわざ付け加えられている。一番闘いたい相手は、「ヒクソン」でそこも後に（オイラを恐れている）とわざわざある。どこまで本人が書いたのかわからんけど、おかしい。猪木がニューヨークに引っ越ししたけど（イズから逃げた?）、これからイズはどうするのかな?将来、猪木がイズと縁を切りたくなったとき、とんでもないことになりそうな気がする。あと、イズがなにしても面白いからいいけど、デラヒーバ先生のような人をそっちの世界へ巻き込んでほしくないな。ジャングルファイトで、プロレスは入れないと主張したイズには好感もてたけど。

『船木の「真実」』。中学生チックな文体で、さりげなくいろいろズバズバ書いてて面白い。永遠の中学生・船木の暴走は続く。

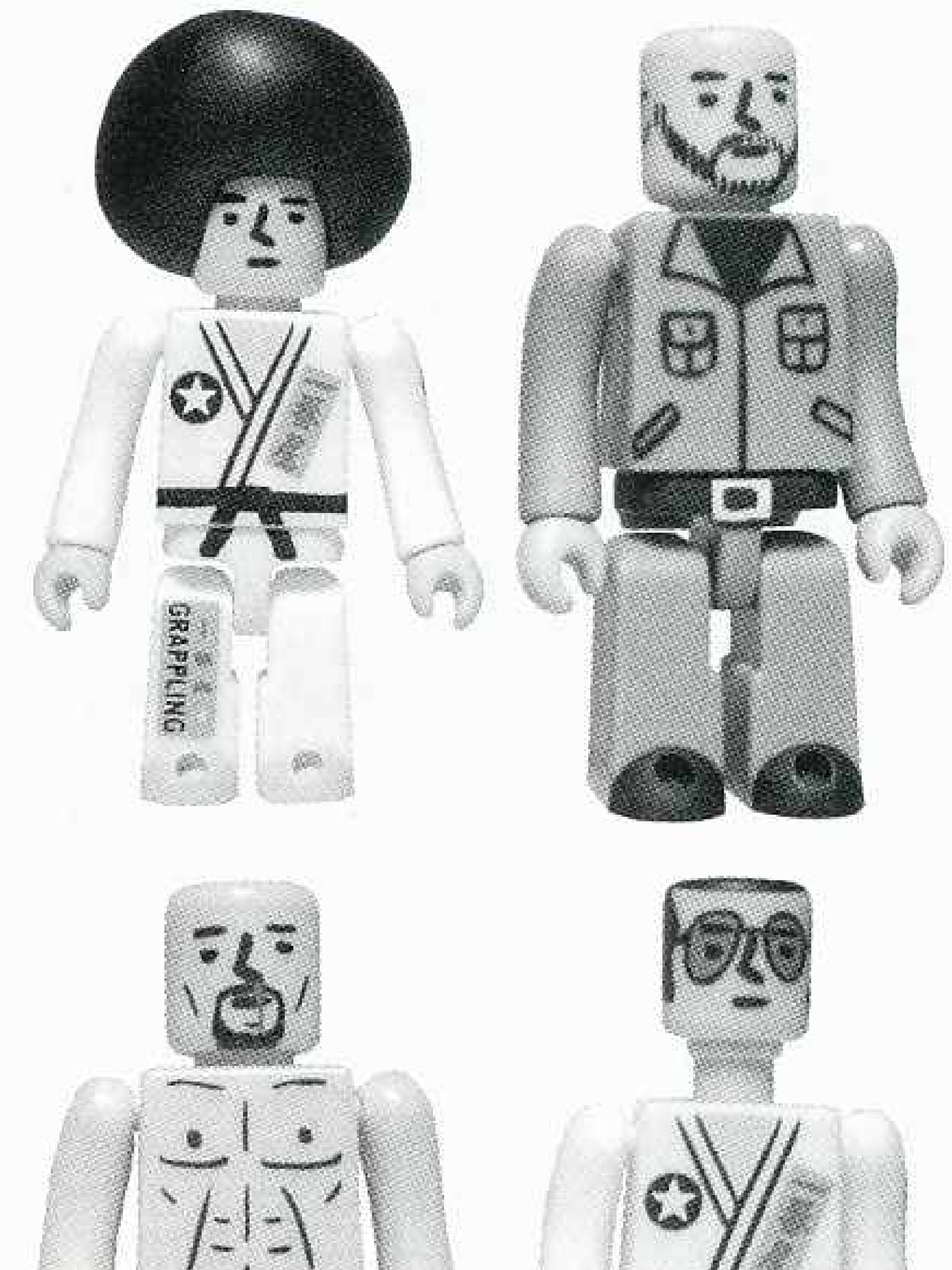
明日は新日ドームか。前回は、中西vs藤田があったから意味あったけど。今回のアルティメットクラッシュって、渋谷vsモンゴル人、高阪vsヒカルドン、ジョシュvs高橋と、新日本隊とまったく関係ないじゃない!これ新日でやる意味あるの?　新日ファンがこれ見たいと思えないし、パンクラスとかでやったほうがいいんでないの?　それよりメインの新日軍vs真猪木軍のメンバーで、アルティメットクラッシュやったほうが面白いのになあ。それぐらい思いきったことやってくれないかしら、上井さん。



【10月14日】

新日ドームの結果を新聞で見る。鈴木に最後のいいとこあげるとは思わなかった。どうせ、そのうち永田に星返すんだろうけど。

そして、やはり高橋ではジョシュに勝てなかったようだ。新日は、永田とミルコやらせると言って永田の男をあげさせ、試合前日に永田はケガしたので代わりにジョシュを出す、という秘策あるね。勝てばすべてひっくり返せるし、負けたってでもプロレスマスコミがフォローしてくれるから、この作戦いいかもよ。





Hanakuma Yuusaku

ジャカレイvs柔道家が気になる。

男道コーチ屋稼業
掟ポルシェ（ロマンポルシェ。）の

業☆勝ちます

【ミルコに勝つのは誰だ!?】の巻



某国民的ストーカーのお宅で『プライド武士道』を観戦した。しかし真の目的はストーカー氏が飼っているストーカー犬・ラブラドール・レトリバーのハナちゃんをいじること！　もう2歳半にもなるのに全然落ち着きがなく、うっかり老人が飼ったりなんかしたらジャレ殺されそうな勢い（もちろんジジババの方が）。飼い主や慣れ親しんだ者よりも初対面の人間や見たことのないモノに目がなく、誰彼構わず飛びかかろうとする。そのあまりにも無目的未教育な低脳ぶりは犬の本分を遵守するものであり、キング・オブ・犬の栄誉を得るに相応しい。ヘンゾとニュートンがアッハンウッフン言って組み合ってゴロゴロ回転体やってる間も俺に体当たり、高瀬大樹がむやみに日本刀振り回して船木プレイを満喫してる最中も俺に体当たり、ロビンマスクをかぶって入場してきたハイアンを見て、そういえばこいつ最初来たときは小柳ゆきの曲で入場してきたぐらいだからあんまりキン肉マンのこともよくわかってねぇんだろうなとか思ってる俺にまた体当たり。甘がみのされすぎで二の腕が唾液だらけになり、油断して着ていった大好きなシャツ（by渡辺満里奈@小沢健二が中に入っちゃってる頃）が犬のヨダレでベットベト。でも、カワイイから許す！　あまりにキュートなので陰核を剥いてフーフー息を吹きかけたくなってしまう（ハナちゃんは♀。犬に陰核があるかどうかはよく知らないが気持ちとしてそういうことだということで）。アハハ～！

犬最高～！

しかしあまりに犬が元気すぎてうるさくて試合に集中できないので、休憩時間を利用して近所まで散歩に連れていってやり、思う存分体力を消耗させてやることにした。初秋のポプラ並木を颯爽と駆け抜ける21世紀の西郷隆盛プラスワン。しかしなんだな、犬も歩けば棒に当たると言うが、フツーに散歩してても一向に棒らしき物、見当たんねぇのな。なんだあの故事成語……フカシじゃねぇか！　無敵……今の俺は無敵と書いてエクスタシーと読むぐらい激しく無敵なようだ。そこで調子に乗って一気に全速力でスパートし、ついでに信号無視してジュンスカばりに♪１００％無敵～♪　と熱唱しながら走っていたら犬もろともタンクローリーに激突。棒よりはるかにキッツイ物体にブチ当たったため人前でアゴが外れたりとか、なんか大変恥ずかしかった。どうやら俺も無敵ではなかったようだ。猛省した。

陽もとっぷり暮れ、意外にピンピンしてるハナちゃんとともに帰宅してみると……あっ、ヤベェ！　プライドすっかり終わってんじゃねぇか！　しまった！　ミルコの試合見忘れた！……しかしミルコが出るミルコが出るって言われてたけど、結局対戦相手って誰だったんだ？　DEEPの佐伯代表がミルコの相手を連れてきたんでしょ？　確かドス・カラスJr.だかブラソ・デ・プラタだかのどっちかって言ってたような……いや、大刀光って言ってたような気もしたなぁ。さっきタンクローリーにはねられて記憶曖昧だから、どっちかっていうと面白い方にしといた方がお得だよな。じゃあ大刀で決定（俺の中で）！　勝利者インタビューで「ミルコってジュニアヘビーでしょ？　打撃？横綱のぶちかましに比べりゃこそばゆいだけっすネ」とか大言壮語ブチかましてて欲っしいな～。勝ったかどうかも知らんけど。

やっと朦朧としていた意識が戻り、俺が散歩している間に録ったビデオを見せてもらったらやはりミルコが勝っていた。しかも対戦相手は大刀光じゃなくてドスJr.だった。それだけでもつまんないのに、待っていたのは左ハイキック一発で46秒殺という超普通な結果……。もう誰もミルコには勝てないというのか……。あれが大刀光だったらもしかして猫だましからの頭捻りの殺人フルコースで完勝だったかも……いや、グッドリッジのパンチに全部目ぇつぶっちゃってボコボコだったんだよな、大刀。さすがにあれではもうプライドに出してもらえないか……。相撲最強伝説、いよいよ崩壊か……イヤ！まだ相撲界にはあの男がいるじゃねぇか！

北尾光司!!

……その昔、高田にハイキック一発で負けたって？　いや、あれはプロレスだから（そこだけキッパリ）。ノーカウントですよ、ノーカウント。昔から「本気になったらジャンボが強い」という伝説があるが、本気になったら強いよ！　北尾も！　ケーサツ官がバイトでやってるショッパイ打撃なんて相撲で頂点を極めたパーフェクトなガタイには通用しませんよ！　ゼッタイ！　頭部のロックがとても曖昧な半身不随決定技・北尾ドリラーであの世行きだ！　おい、ミルコよ！　北尾光司は逃げないぜ！多分！

……TBSの大相撲トーナメントの解説に北尾が復帰したらしい。相撲界への恩返しのつもりなんだろうが、だったらすっきりミルコに勝って相撲最強説を証明した方が余程相撲界のためなんじゃねぇか!?　もうすっかり引退したつもりでいるのだろうし実際何年も試合はやってないが、北尾よ、格闘界はまだまだお前を必要としているんだ！　おかみさんを足蹴にした時と同じように、ミルコのドテッ腹にローリングソバットをめり込ませてやってくれ！　クロコップを止められるのは双羽クロしかいない！



Okite Porushe

『掟ポルシェの日曜妖画劇場』
11月23日（日）
夜7時半から広島県福山市・映画館シネマモードにて俺が選んだ映画観賞＋掟ポルシェ・トークショーを開催！
（問）Ante 084・941・2213

原タコヤキ君の 大阪プロレスファン通信

ナニワの中のナニワな人たちがお送りするダイナマイトな関西コラム

まいど！「関西にプロレス熱を取り戻せ！」が合言葉のこのコーナー。今回は旧『紙プロ』読者には懐かしいマグナム北斗さんが登場！　アーリー山口日昇の知られざるエピソードが明らかになるぞ！　ほな行きまっせ〜。

★

——マグナムさん、お久しぶりです！

マグナム　タコヤキ、お前なにしとったんや！

——いやあ、いつの間にか大阪に戻ってたんですわ（笑）。ということで、今回はマグナムさんに色々お話をお聞きしたいんですけど、マグナムさんは、よく旧『紙プロ』に出入りしてはりましたよね。

マグナム　まあ、山口とは古いからね。

——会長（山口日昇のあだ名）とはいつからの付き合いですか？

マグナム　16〜17年前からやね。まだ山口がワニマガジン社にいて女子中高生向けの雑誌（ちなみに『yummy』）の編集部におった頃やな。世謝出版立ち上げる前や。共通の知人に紹介されてってヤツやな。ほんで山口とは麻雀仲間になったんやけど、とにかくあいつ、ヘタやねん！　チョンボばっかりしよんねんもん。

——わははは！　会長はギャンブル強そうな気もしますけどね。

マグナム　全然（笑）。あいつ一晩で給料全部取られたりしてたもん。どうやって返しよったんやろ？　あと、山口は『yummy』で社員旅行があったんやって。男4人だけなんやけど。で、あいつ、その頃寝る間もなくって、社員旅行で夢精したって言うとったわ。それはよう覚えてる。

——社員旅行で会長のマグナムが暴発しましたか！（笑）。

マグナム　あいつも若かったっていうこっちゃ。

——で、当時はマグナムさんもユニバーサルでリングアナウンサーをやったりしてましたよね。

マグナム　俺がね、今でもプロレスラーに対して深くリスペクトしてるのは、リングアナウンサーを経験してるからなのよ。俺、すでに舞台とか上がってたから、リングアナのオファーがあった時も緊張するわけないと思ってたんよね。ところがリングに上がったら、後ろにも見られてるわけやんか！　それがえらい緊張してね。俺、リングから降りる時、階段で足踏み外しそうになったんやもん。

——へぇ〜。マグナムさんがですか。

マグナム　でも、今振り返ってみても、ユニバーサルはメヒコからぎょうさんエストレージャ呼んでたし、所属してた選手も、サスケ、ウルティモ、デルフィン、人生、とにかくみんな独立してやってるやん。それは凄いことよ。そこに関われたのは、俺は誇りやな、ちょっとした。

——確かに。最近マグナムさんはどこの団体に興味があるんですか？

マグナム　そらニューヨークやな。

——ＷＷＥですか。最近、みんなそうやな。話ついていかれへんから苦労しますわ（笑）。ほな、スカパー！とかでチェックしてるんや。

マグナム　まあ、そやな。逆に雑誌とかあんまり見ぃひんようになったな。『紙プロ』もあんまり読まへんもん。

——読んでくださいよ（笑）。

マグナム　やっぱり『紙プロ』は〝世の中とプロレスする雑誌〟でないとねえ。

——まあ旧『紙プロ』とはテイストは違いますけどね。マグナムさんは以前、兵庫県の加古川で「マグナムＴ＆Ａ」っていうバーを出してはったんですよね？　なんで辞めはったんですか？

マグナム　だって儲からんかってんもん（キッパリ）。もう俺のプロレス、格闘技のビデオのコレクションをダーッと用意して、それを客と一緒に観てたんや。ほんなら俺、手ぇ止まって酒も作らへんしな。

——そら儲からんわ（笑）。なんでまた、そんな店を始めようと思ったんですか？

マグナム　カッコよう言うたら、ええファンを育てたかったっていうのもあるんよね。全然プロレスに興味のないお客でも、「新日本とかやったら好きになるんちゃうか」とか「ルチャなら入りやすいやろう」とかあるやんか。そういうタイプに合わせてビデオ観せて、プロレスの面白さを伝えたかったんやわ。

——マグナムさんはホンマに真摯なファンですね。

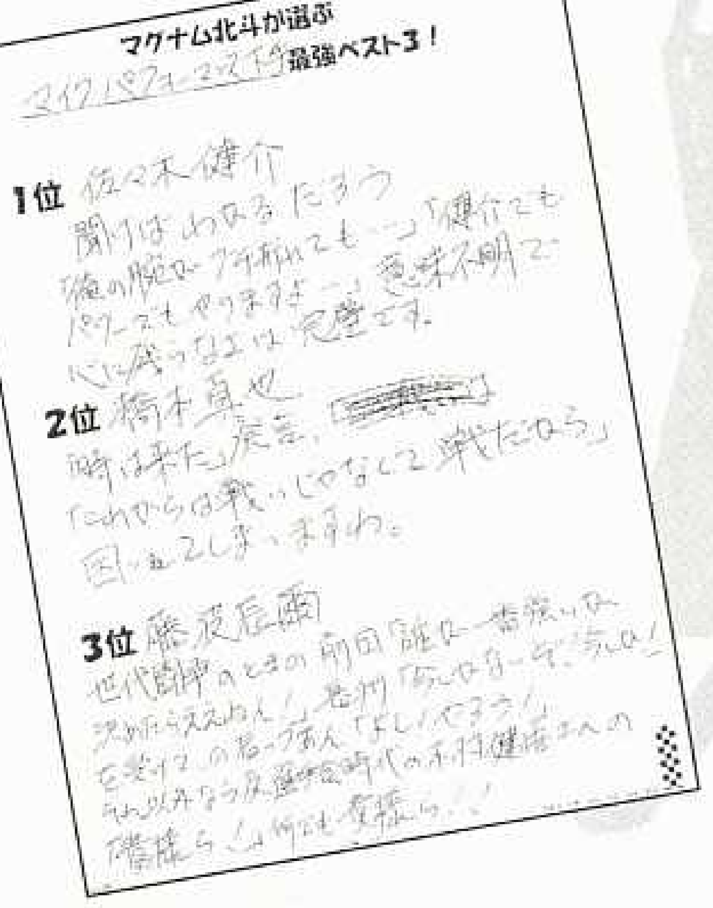
マグナム　俺ね、これは声を大にして言いたいんやけど、プロレスの試合を観て、おもろないとかしょーもないとか言うヤツは、そいつに想像力がないからやねん！　そうやないねん。俺ら、全部わかった上で、ほんで熱くなったり興奮してるわけやんか。それをいろんな人に伝えていきたいってのはあるよね。

——さすがマグナムさん！　関西のプロレスを盛り上げて行きましょう！

4th. GUEST



マグナム北斗■元ＡＶ男優、現タレント。ＦＭ ＭＯＶＥ（87・1mhz）の『マグナム北斗の技』（毎週火曜日・夜10時〜）のパーソナリティーを担当する一方、日進会館主催のイベント『ＢＲＡＶＥ』のリングアナウンサーを務めるなど、まさに関西マット界の盛り上げに一役買っている。公式ＨＰは、www.magnumhokuto.com



タコヤキ日記

9.25 thu　番組の打合せで上京。ひょんなことから新高輪プリンスホテルでＫ－１の記者会見が開かれるという情報を聞きつけ冷やかしに。懐かしい人たちに会えて、楽しい時間を過ごせたものの、「相変わらず目つきが怖い」「大阪に帰ってから人相が悪くなった」と散々な言われよう。後で鏡で見てみたが、全然そんなことないので一安心。

9.29 mon　大阪で角田信朗×谷川貞治トークショーが開催されたのでご挨拶に。谷川さんの適当な話にお金を払う人がおるんやもんなぁ。

9.30 tue　角田さんにテレビ番組のインタビューロケ。収録に1時間をみていたが、実際には10分でオッケー。何をやらせてもソツないですわ、この人は。

10.5 sun　『ＰＲＩＤＥ武士道』ビデオ観戦。リングサイドで佐伯氏と並んでいた山口日昇に爆笑。会長、きっと席間違ってるで。

10.10 fri　ローデスの柳沢社長大阪入り。晩御飯をご馳走してもらう。途中、フリーのＴシャツアーティスト、井上きびだんご君より、ご子息誕生の嬉しい報が。名前は甲太くん。おめでとー！　しかし、きびだんご君がパパになるなんてねぇ。

10.11 sat　Ｋ－１大阪ドーム生観戦。あまりのしょっぱさにビックリですが、大阪のＫ－１の演出は、やはり一味違ってました。あと、元『紙プロ』松林さんから『船木誠勝の真実』（エンターブレイン）をいただく。松林さんもいろいろ手掛けてまんなぁ。

10.13 mon　初めて自宅でＰＰＶ観戦。購入したのはもちろん新日ドーム。今更ながらですが、やはり自宅のテレビ観戦にお金を払うという行為は新鮮。普段、新日本の中継なんてほとんど観ないのに、金を払っているとなると、第一試合から食い入るように観てしまった。「テレビを観るのに苦労する」というのは、大切なポイントになると思います。

原タコヤキ君■ちっちゃい頃の『紙プロ』編集者。前田日明デコピン事件やダミー編集長就任が有名（？）。現在は地元大阪でテレビの制作会社に勤務。最近気になるのはおいしいプディング。



"歌うシュート活字王"狂気の新連載!!

タダシ☆タナカの『シュート活字劇場』

マット界舞台裏の裏(ウラ)

第3回

ホーガン、新日、猪木。それぞれの思惑

10・13東京ドームでの蝶野正洋の超人に対する斬られ役はすばらしいものだった。

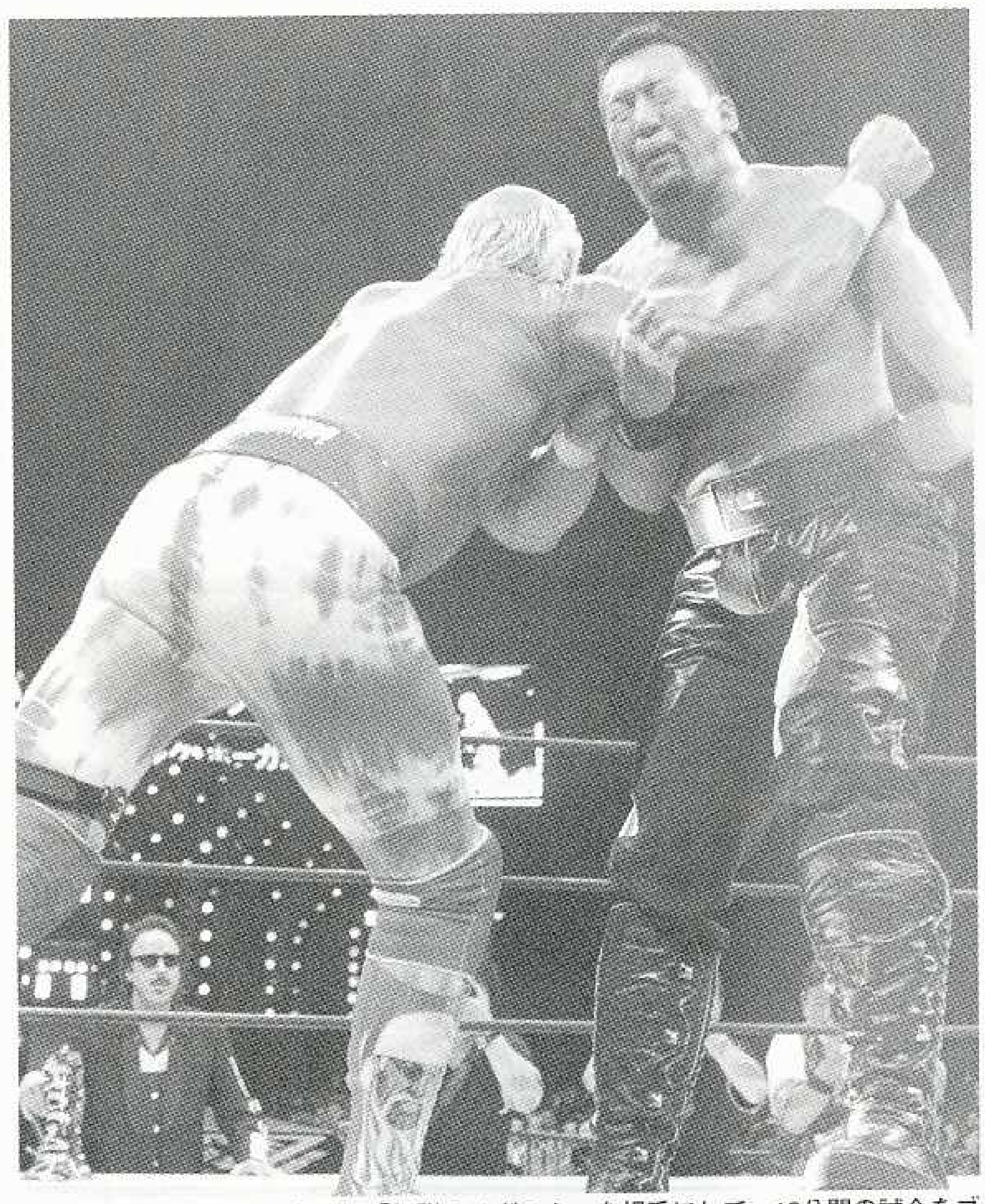
ホーガンのフロリダの自宅にまで出向いて自身との対戦カードを説得にかかった新日本プロレスの現場監督は、5月の感動の小橋建太戦に続いて立派にお仕事を勤め上げていた。残念ながら客の入りは寂しいものがあったが、蝶野は立派に黒の総裁であることを魅せつけたのではなかろうか？ 文字数に限りがあるため、試合について詳しくは触れられないが、それだけは書き記しておきたい。

さて、今回もやはり世界中を驚かせたのはホーガンの存在感と政治力である。いい加減な歴史を書いてしまうライターだと、アメプロが黄金時代を迎えるのはWCWがホーガンらをWWF（現WWE）から引き抜き、「月曜生TV戦争」が激化することで、両団体が潤って全盛期を迎えたことになっている。実際はそのような美談ではない。ホーガンは94年に、「もう人気もなくなったから不要」との烙印を押されてWWFからお払い箱にされたのだ。この時点が前回のホーガンの新日本プロレス登場である。しかし、この永遠のカリスマ男は、WCWに移ってむしろ以前よりさらに高額のギャラを稼いでしまったのだから世の中はわからない。

そしてWCWがなくなったら、今度は二度とありえないと思われていた古巣への電撃復帰があり、ロック相手のレッスルマニア大会では当初の予定を覆して事実上のメインイベント扱いになってしまった。ただし、その後は"ミスター・アメリカ"のマスクマンとしてビンス・マクマホンと抗争していたが、案の定舞台裏で衝突してしまい、やはりクビにされてしまっている。

ところがどうだろう。日本に戦場を求めることまではある程度予想できたことだが、おみやげにNWA-TNAと新日の提携話まで持ってきたのだから、パワーブローカーぶりは一向に衰えてなかったことになる。

テネシー州ナッシュビルが拠点の新興団体は、毎週水曜日に2時間で十ドルという値段のPPV放送という斬新なスタイルで活動してきた。つまり、通常の無料で観られるレギュラー番組を持たないまま、有料放送という実験的な営業に活路を見出している。WCWを崩壊に導いたとされるシナリオライターのビンス・ルッソーが、またも影の存在ではなくリング上にまでしゃしゃり出てくるのでうんざりしている組もいるが、「Xディビジョン（部門）」という名称でのジュニア級の攻防ではマニアの信頼が高く、日本向きの選手も少なくないのは事実だろう。一方で全体のビジネスとしては、正直に報告すればスポンサーはすでに何度も入れ替わっているし、苦戦を余儀なくされていることも触れなければなるまい。



賛否両論の蝶野vsホーガン戦。「伝説のメガスターを相手にして、18分間の試合をブックすることがどれだけ大変なことか」と、タダシ☆タナカは蝶野を絶賛！

ここのエースは南部のキザ男＝ジェフ・ジャレット。蝶野戦を終えたホーガンの記者会見に乱入し、トレードマークのギターで殴ったことで、超人の海外は新日、国内はNWA-TNAで現役続行することを天下に宣言したのである。

この模様はさっそくかの水曜日に放送され、通常と違う30ドルで日曜日3時間のPPV大会も11月30日に決定した。悪役に転向したジャレットと超人のNWA世界王者戦である。

しかし、この成り行きに面白くないのがアントニオ猪木だ。そもそもホーガンを呼ぶ予定なら、猪木自身にもホットラインがあったのに、それを無視して蝶野は自分で交渉をまとめてしまった。それだけではない、そもそもロスからニューヨークへ猪木が引っ越したのは、FOXやHBOなど、猪木の威光に興味を示すテレビ局本部に距離的に近づく目的もあったのに、テレビ朝日はNWA-TNAとの提携に乗り気だと伝えられている。

東京ドームのメインは猪木軍対新日軍だったのに、その猪木が出てこなかったのは、米国のテレビ局を巻き込んだ猪木の考える世界戦略と、テレビ朝日＆新日のフロント陣が描く提携図に大きなズレがあること。だから猪木はテレビ朝日との折衝で、大会に出るどころではなかったのだ。

もっとも猪木だって、そういったコネのあるマンハッタンのテレビ局に「ジャングル・ファイト」の売り込みには失敗しているし、スポンサーを確保したわけでもない。噂にのぼる猪木の世界戦略に具体性がない以上、日本が世界のプロレスの中心だった80年代と違って、WWEから相手にされてない現在の新日本プロレスが、NWA-TNAと同盟を結ぶのは論理的となる。ホーガンにしても、盟友ジミー・ハートがやろうとしている新団体のメンツがNWAとダブるので、この三角関係は理想なのだ。

ザ・検証

今回のコラムは気がつけばミルコスペシャルといった感じに。まあそれだけ、ここ最近&ドスJr.戦のインパクトが大きかったということだろう。『武士道』といえば日本人で一番いい闘いっぷりを見せてくれたのが小路晃。結果的には敗れてしまったので今号ではページが取れなかったが、次号では「ボクは民族派」と言う小路の知られざる素顔を大公開!

【今月の検証　せき詩郎】クロアチア人が上手いものは?

1990年5月13日。ボバンが所属するディナモ・ザグレブの試合。ここで事件は起こった。両軍のサポーター同士が乱闘を起こし、警官が止めに入った。しかしセルビア人中心に構成された警察官はディナモのサポーターに対し殴る蹴るの暴行を行った。それを見ていたクロアチア生まれのボバンは、警官に飛び蹴りを食らわした。

一方にとっては美談であり、一方から見るとボバンはただの悪人。背景にある旧ユーゴスラビアの民族問題を考えると、一概にどちらが正しいのかは判断しかねる。伝えられている情報が正しくない可能性もある。ただわかっていることは、この事件によってボバンはクロアチアの英雄になったということだ。

同じクロアチア人で、いま日本で一番有名な男といえばミルコである。日本での知名度はボバンよりも上であろう。先日行われた『PRIDE武士道』では、わずか46秒でドス・カラスJr.を左ハイキック一撃でKO。またしてもその強さを見せてくれた。シャワーを使っているとき、他の人がトイレを使い水を流す。シャワーは突如冷たくなる。そんな「冷たさ」のみ感じられるファイトスタイルには、やはりクロアチアという国の政治的な背景が見え隠れする。

結局ミルコはドスと闘ったわけだが、このカードが決定する前、DSEは前代未聞のことをやってのけた。なんとミルコの対戦相手を電話で募集するというのだ。

ファンの人気投票などによりカードが決定されることはよくあることだが、電話で募集するなんて初耳だ。少なくとも私は過去にこのような例を知らない。結果的には対戦相手としてふさわしい人物からの連絡はなく、高田本部長もそのことを嘆くことになったのだが、イタズラや冷やかしなどを含め多くの電話がかかってきたことであろう。街のケンカ屋、村一番の力持ち、わんぱく相撲の横綱、元チェッカーズ、ダンス甲子園に出てた面白い人……。この人達を全員集めて、たけし城方式でふるいにかけ、残った人がミルコと対決。だけど、ミルコの的は小さくて、なかなか射抜けない……、なんてことも考えられるが、とにかく電話で募集となると、どんな人たちがかけてきたのか、夢は膨らむばかりだ。

DSEの電話が鳴る。高田本部長が受話器をとる。

「もしもし、お電話ありがとうございます。DSEの高田でございます!」

ここまでは何も問題は無い。明るく、ハキハキとした対応。挨拶もきちんとできている。電話の相手に好印象を与えたに違いない。高田本部長の電話対応に不安を抱いていた他の社員達もほっと胸をなでおろしたに違いない。

しかし問題はここからである。電話口から「オレ、オレ」という声が聞こえてきたら!? いったい高田本部長はどうするであろうか……。

最近全国各地で被害が相次いでいるオレオレ詐欺。孫や息子、親戚を装い「お金が必要なので、口座に振り込んで」などと騙すという手口だ。交通事故の示談金、借金の返済などその口実は実に多彩で、またこれに似た詐欺による被害も増加する一方である。

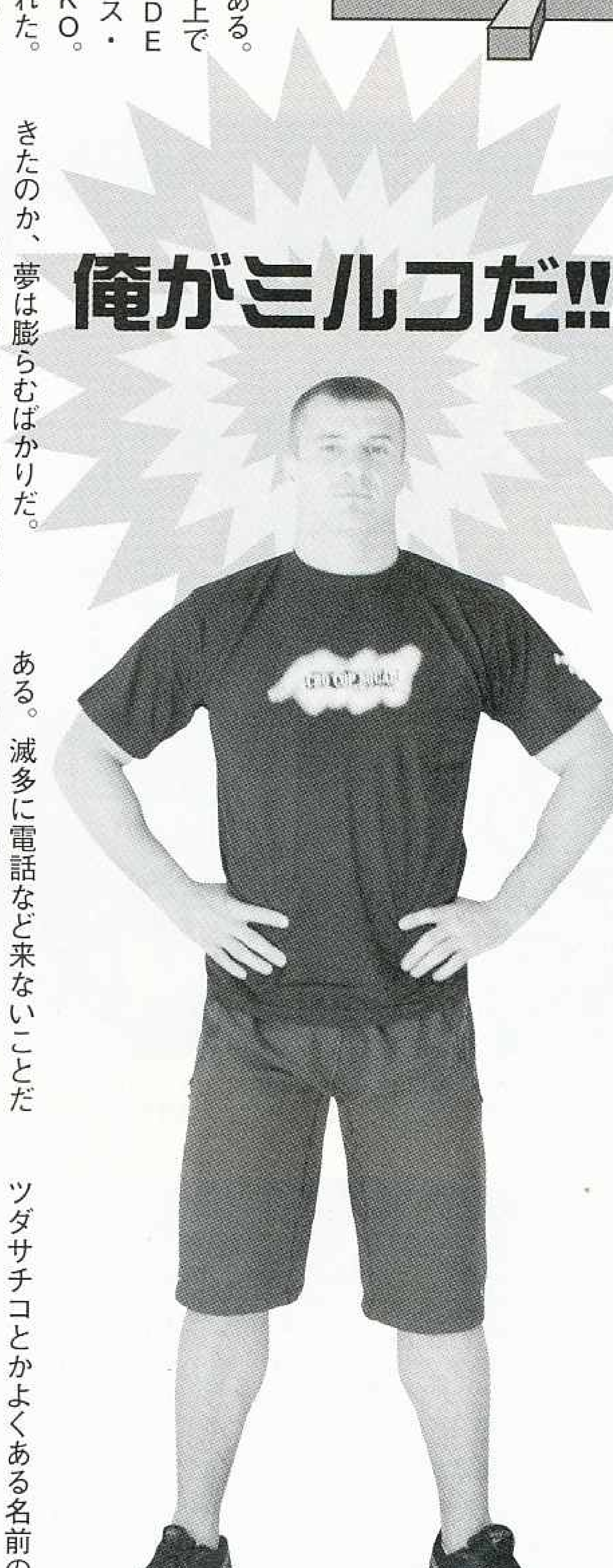
なぜこのような馬鹿げた詐欺に引っかかってしまうのだろう、あるいは引っかかる方が悪いとまで思ってしまうかもしれない。だが被害者の多くは高齢者、それも一人暮らしの人が多いのだ。そこには「孤独」がある。滅多に電話など来ないことだろう。そこに「オレ、オレ」と子供や孫をかたる電話が来たならば信じてしまってもおかしくはないのではないだろうか。切迫した声で「お金が必要」と言われれば思わず払ってしまうことだろう。これは『愛情』を利用した卑劣な犯罪であるのだ。

この詐欺への対策として、「俺だけど」と言われ「ああ、○○かい」と名前を言ってしまわないことが挙げられる。言ってしまえば犯人の思う壺。「俺って誰ですか?」と必ず相手に名乗らせることが大切だ。また最近は事前に名前を調べて「○○だけど」といきなり名乗ってくる人もいるらしい。なので必ず電話を切った後、本人や家族、関係者に連絡をして、事実かどうかを確認することも忘れてはいけない。

果たしてそんな対応が高田本部長にできたであろうか?「オレ、オレ」と相手に言われて「ああ、テーズさんですか!」と言ってしまわなかっただろうか。「そう、テーズだけど、交通事故の示談金が必要になっちゃってさ、悪いんだけど振り込んでくれない?」と相手のペースにはまってしまわなかっただろうか。慌てて振込みをしなかっただろうか。しかもルー・テーズの名義ではない(マツダサチコとかよくある名前の)口座に……。

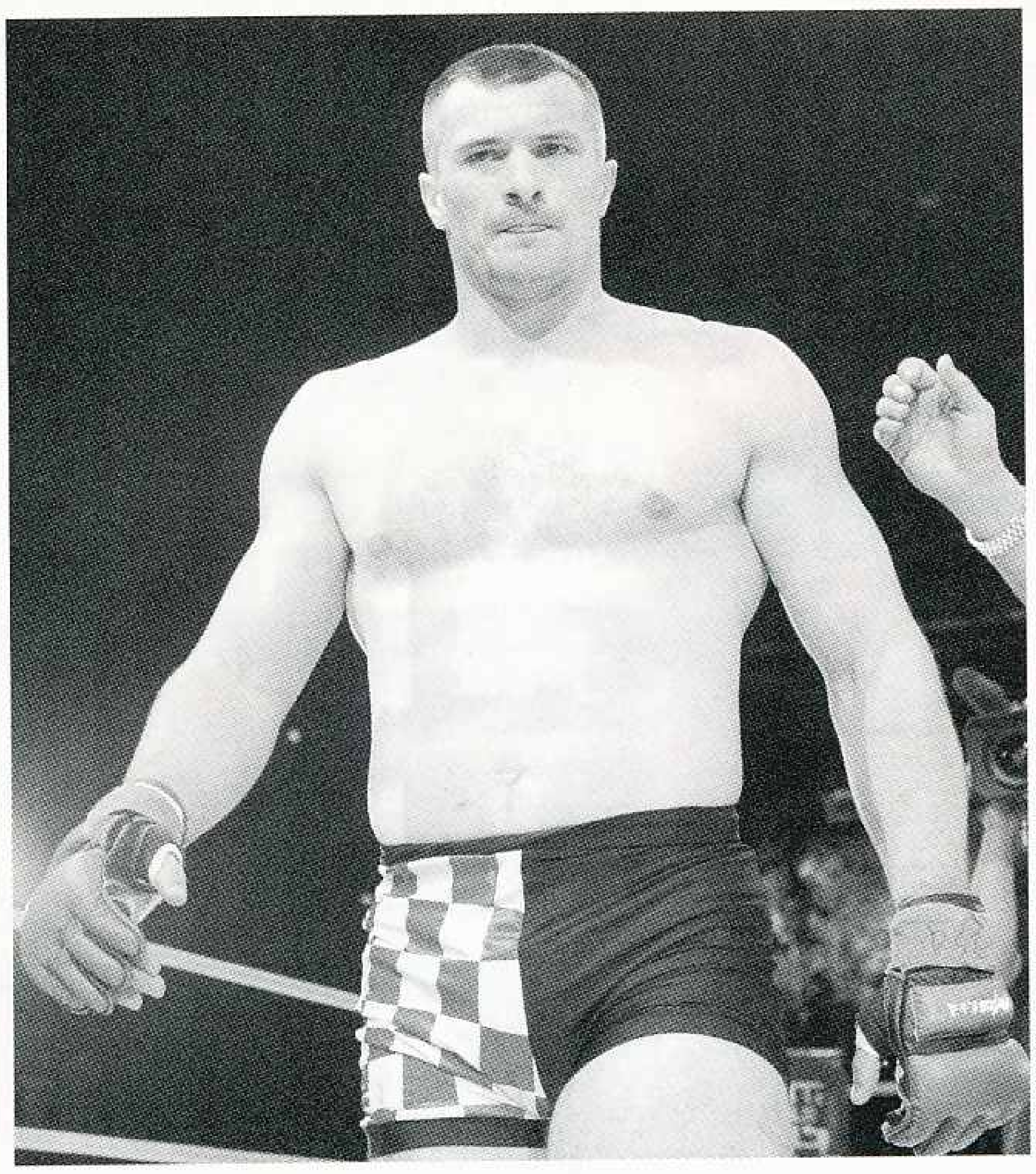
などと、社会派っぽいコラムを書いてみたわけだが、本当はオレオレ詐欺になんの興味も怒りもなく、あるとすれば「もっと簡単な儲け話はないのか」と考えたことくらいだったりする。で、時間も無くなってきたことだし無理矢理まとめると、ボバンにしてもミルコにしてもクロアチア人は蹴りが上手い!

それじゃあ私は、小泉今日子風に言うと、せきしろは高橋尚子のマラソンゲームだかを予約しにいかないといけないので、以上!



【今月の検証　椎名基樹】

ミルコに勝つには



ミルコ、スゲーな。高田じゃないけど、正に神がかってる。バーリ・トゥード（以下・VT）が誕生して、まさかハイキックで相手をバッタバッタと倒す選手が現れるとは夢にも思わなかった。モーリス・スミスがマーク・コールマンをハイキックで倒した時、すごく嬉しかったものなのだがなあ……。当時は柔術のセオリーがVTの全てと思われていた時代で、マスコミも妙な「したり顔」をしていて、どこか納得できない中、モーリスのハイキックは「ほら、見たことか」と感じたものだった。VTが柔術のセオリーの中だけにあるものなら、すごく広がりがないものとなり、未来がないものになってしまうと思ったからだ。

しかし、それがほんの数年経って、ミルコみたいなのが出てくるとは予想できなかった。いつの間にか、自分の方が「したり顔」になっていたようだ。ずーっとVT好きをやっていて、ミルコの強さを、全面的に肯定できない（なかった）自分がいるからだ。ミルコがVTの頂点に立ってしまうと、K-1の中にミルコが勝てないヤツがいるってのが、悔しくてならない。何でもありのVTの頂点が、最強の男の頂点じゃないと、なんか夢が壊れちゃうと、きっと俺は感じているのだな。K-1でトップをとるくらいの打撃技術の選手が、タックルを切る戦術を身につければ、寝技がほとんど無しで、VTに勝てるとなると、なんか悲しい。でも、まあ実際の闘いは、そんな単純な話ではなく、とにかく、ミルコがめちゃくちゃ強いってことなのだ。他のK-1の選手がVTで勝てるとも思わないし。しかも、今ワンマッチのK-1ルールでやったら、ミルコが一番強いか……。でも、全盛期同士だったら、アーネスト・ホーストの方が強いような……。いや、そんなことはどうでも良い、とにかくミルコはめちゃくちゃ強い（↑混乱）。

今、格闘技好きの人間の、寝る前に考えることは、藤波社長に元気がないこともあり、誰が、そしてどうしたらミルコに勝てるか？　というシュミレーションではないだろうか？（そして最終的に、「勝った、勝ったぞ～！　ミルコに勝ったぞ～！」という、自分の寝言で目が覚め、ふっと見ると、寝る前に履いた桜庭カラーのスパッツ型パンツが、夢精でビッシリ濡れていて、自己嫌悪に）。もちろん、俺もそうである。

ミルコに勝つには、当たり前であるが、まず左ハイをくらわないことだ。批判を恐れず書けば、いくら見えないとはいえ、今まで左ハイで倒されたヤツはバカだ（一番、バカっぽかったのは、もちろんN田）。ヴァンダレイ・シウバがミルコ戦でとった戦術が、ミルコ攻略の第一歩だと思う。右ガードを上げて、ミドルキックは捨てて、ある程度蹴らせる。右脇腹はミミズ腫れになるが、仕方がない。ミドルに合わせて突進して倒すか、無理なら打撃を出す。まず、それをする必要があるだろう。しかし、ヒーリングのように、ミドル一発で大ダメージを負ってしまう場合もあるだろうが、来る覚悟があれば、一発で終わらされる可能性は少ないハズだ。とにかく、右頭部は徹底ガード。そして左ハイをガードの上から、2、3発もらうような形にしなければ、いい形で密着できないであろう。

次は密着してからである。当然、上になることが一番好ましいが、誰が考えても非常に難しいと言わざるを得ない。しかし、まずは上を狙うべきだが、こだわりすぎないことが肝心だ。ヒョードルも含めて、『PRIDE』の選手の打撃レベルだと、下の不利な体勢であっても「立っているよりはまし」なように感じる。倒せないなら引き込むしかないが、引き込んでも、足腰の強いミルコだと、五味vs高田和道（例、古い&わかりにくい？　印象的だったもので）のように、腰に相手をぶら下げたまま、コーナーに押しつけられてボコられるような気もする。それなら、ノゲイラvsグッドリッジのように、片足引っかけて、柔術でいう「もぐり」を狙って寝技に引きずり込む手か、花くまさんが前に書いていたように、足へのタックルにいって、ミルコにガブらせて上になることを狙うかであるが、どちらにしても非常に危険だ。しかし、対ミルコを考えるということは、肉を切らせて骨を断つ覚悟で、どうやって寝技の攻防に引きずり込むかを考えることなのだ。

ここでちょっと話はズレるが、最近のVTで、ハーフガードの考え方が変わってきているように感じる。パンクラスの近藤のような選手とやる場合、ハーフは下の人間が足を1本ひっかけて守っているのではなく、上の選手（近藤）が下の人間の足に1本乗っかって動けなくしている、というふうに見える。ハーフはインサイドガードにいるよりも、パンチを出すには窮屈で、肩を回して真っ直ぐパンチが出せないが、鉄槌などでしつこく殴られ、ズタボロにされてしまうケースも多い。早めに横につかせて動いた方がましな場合も多いのではないか？　ミルコが近藤みたいにハーフが得意だったら、エグイだろうなあ。

対ミルコを考えるのが面白いのは、ミルコの闘い方がVTに登場した新しいコンセプトだからだ。VTは登場以来急速に進歩して、ついにミルコみたいな選手が現れた。今、『PRIDE』はシウバを含めて「打撃全盛」などといわれている。しかし、面白いと思うのは、VTのもう一つの雄UFCでは、グレコ&パウンドの戦術が揺るぎない戦術のように見えるのだ。もちろん、そこには金網とドントムーブの違いがあるだろう。しかし、ミルコはインタビューでオクタゴンで闘うことは問題ないと発言している。些細なルールの違いで、強いヤツが違うっていうんじゃ、VTの魅力も半減だ。

それでも、俺自身は、やはりVTは最終的には寝技の攻防が主となるような気がする。『PRIDE』とUFCの対抗戦が話題になっているが、団体の闘いと共にスタイルの闘いも、非常に興味深い。

それよりも先に、ミスター寝技・ノゲイラvsミルコが決まったようなので、ヒョードル戦が流れたことは残念だが、一体どんな攻防になるのか、これもまた非常に興味深い。

RADICAL CALENDAR

10 October

27 MON.
PWC■東京・北沢タウンホール(19:00)

28 TUE.
新日本■長野・駒ヶ根市民体育館(18:30)
大日本■岩手・北上市和賀多目的催事場(18:30)
闘龍門■山形・鶴岡市体育館(18:30)
全女■千葉・沼南町総合体育館(18:30)
JD■群馬・伊勢崎オートレース場(12:20)
AtoZ■茨城・下妻市立総合体育館(18:30)

29 WED.
闘龍門■山形・山形市総合スポーツセンター(18:30)
大日本■長野・松本めいてつショーホール(18:30)
LLPW■福島・郡山市総合体育館(18:30)

30 THU.
新日本■東京・後楽園ホール(18:30)
闘龍門■福島・郡山南東北総合卸センター(18:30)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)
全女■埼玉・越谷桂スタジオ(18:30)
AtoZ■石川・金沢流通会館(18:30)

31 FRI.
新日本■茨城・かなくぼ総合体育館(18:00)
闘龍門■茨城・水戸市民体育館(18:30)
PANCRASE■東京・後楽園ホール(18:30)
AtoZ■長野・伊那市民体育館(18:30)

11 November

1 SAT.
新日本■愛知・豊橋市総合体育館(18:00)
NOAH■東京・日本武道館(18:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)

2 SUN.
新日本■三重・津市体育館(16:00)
闘龍門■新潟・新潟フェイズ(18:00)
みちのく■東京・有明コロシアム(17:00)
WJ■静岡・ツインメッセ静岡(15:00)
ターザン後藤一派■埼玉・春日部インディーズアリーナ(14:00)
全女■東京・後楽園ホール(12:00)

3 MON.
新日本■神奈川・横浜アリーナ(15:00)
闘龍門■新潟・新潟フェイズ(18:00)
NEO■東京・後楽園ホール(12:00)

4 TUE.
闘龍門■新潟・上越市厚生南会館(18:30)
WJ■岐阜・古川町農業者トレーニングセンター(18:30)

5 WED.
ZERO-ONE■千葉・沼南町総合体育館(18:30)
WJ■石川・石川県産業展示館2号館(18:30)

6 THU.
闘龍門■埼玉・熊谷市民体育館(18:30)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)

7 FRI.
ZERO-ONE■東京・後楽園ホール(18:30)
闘龍門■神奈川・横浜赤レンガ倉庫1号館3Fホール(18:30)

8 SAT.
闘龍門■岐阜・岐阜商工会議所大ホール(18:30)
WJ■鹿児島・串良平和アリーナ(17:30)
大日本■東京・後楽園ホール(18:30)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)

9 SUN.
『PRIDE GP 2003 決勝戦』■東京・東京ドーム(17:00)
闘龍門■兵庫・明石産業交流センター(18:00)
WJ■宮崎・新富町勤労体育センター(15:00)
大阪■大阪・IMPホール(17:00)
PWC■神奈川・横浜赤レンガ倉庫(15:00)
WWS■埼玉・本庄市民体育館(13:00)
AtoZ■東京・後楽園ホール(12:00)

10 MON.
闘龍門■兵庫・神戸チキンジョージ(19:00)
K-DOJO■東京・渋谷club ATOM(19:00)

11 TUE.
闘龍門■鳥取・県立鳥取産業体育館(18:30)
みちのく■熊本・興南会館(18:30)
バトラーツ■東京・後楽園ホール(19:30)
Girls SHOCK■東京・北沢タウンホール(18:30)

12 WED.
闘龍門■鳥取・米子コンベンションセンター(18:30)
みちのく■大分・大分県立荷揚町体育館(18:30)
DDT■東京・渋谷club ATOM(19:00)
LLPW■長崎・佐世保市体育文化館(18:30)

13 THU.
みちのく■鹿児島・鹿児島市民体育館(18:30)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)
LLPW■長崎・ncc&スタジオ(18:30)

14 FRI.
ZERO-ONE■宮城・石巻市総合体育館(18:30)
闘龍門■滋賀・長浜市民体育館(18:30)
NOAH■東京・後楽園ホール(18:30)
みちのく■宮崎・日向市文化交流センター(18:30)
大日本■兵庫・姫路みなとドーム(18:30)

15 SAT.
闘龍門■愛知・豊橋市総合体育館第2競技場(18:00)
NOAH■静岡・アクトシティ浜松(18:00)
みちのく■大分・三重町大原総合体育館(18:30)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)
GAEA■新潟・新潟フェイズ(18:30)

16 SUN.
闘龍門■三重・四日市オーストラリア記念館(17:00)
NOAH■東京・ディファ有明(17:00)
みちのく■熊本・熊本木材八代支店倉庫(17:00)
東海プロレス■愛知・露橋スポーツセンター剣道場(17:15)
夢名塾■埼玉・春日部インディーズアリーナ(13:00)
GAEA■宮城・Zepp Sendai(15:00)
NEO■東京・東京キネマ倶楽部(12:30)
JWP■東京・東京キネマ倶楽部(16:30)

18 TUE.
K-1 WORLD MAX 2003■東京・日本武道館(18:30)
PWC■東京・北沢タウンホール(19:00)
AtoZ■富山・富山産業展示館テクノホール(18:30)

19 WED.
NOAH■三重・津競艇場ツッキードーム(18:30)
AtoZ■富山・ありそドーム(18:30)

20 THU.
NOAH■大阪・大阪府立体育会館第2競技場(18:00)
WMF■東京・後楽園ホール(19:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)

21 FRI.
ZERO-ONE■福島・いわき市平体育館(18:30)
闘龍門■高知・高知BAY 5 SQUARE(18:30)

22 SAT.
全日本■東京・後楽園ホール(18:30)
ZERO-ONE■埼玉・深谷市民体育館(18:30)
闘龍門■愛媛・テクスポート今治(18:30)
NOAH■新潟・新潟市体育館(18:00)
大阪■滋賀・びわこ競輪場(10:00)
JD■大阪・NGKスタジオ(19:00)

23 SUN.
全日本■東京・後楽園ホール(12:30)
ZERO-ONE■長野・北御牧村ふれあい体育館(15:00)
闘龍門■愛媛・アイテムえひめ(17:00)
NOAH■東京・メッセ昭島(17:00)
ZST・GP開幕戦■東京・Zepp Tokyo(17:30)
みちのく■沖縄・那覇市かんぽレクセンター那覇大体育室(16:00)
DDT■愛知・名古屋市 中スポーツセンター(14:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(18:00)
GAEA■愛知・昭和スポーツセンター(15:00)
AtoZ■東京・AtoZ江戸川道場マッチ(13:00)
NEO■高知・南国市民体育館(15:00)
全日本キック■東京・後楽園ホール(18:30)

24 MON.
Culb DEEP■東京・西調布格闘技アリーナ(15:00)
新日本■東京・後楽園ホール(18:30)
全日本■新潟・長岡市厚生会館(15:00)
ZERO-ONE■茨城・つくばカピオ(15:00)
闘龍門■香川・坂出サティホール(18:00)
NOAH■宮城・宮城県スポーツセンター(15:00)
K-DOJO■東京・亀戸サンストリート(14:00)
大阪■東京・後楽園ホール(12:00)
NEO■高知・越知町民体育館(15:00)
JD■神奈川・川崎市体育館(16:00)

25 TUE.
大阪■静岡・キラメッセぬまづ(19:00)

26 WED.
新日本■茨城・水戸市民体育館(18:30)
NOAH■秋田・大館市民体育館(18:30)
IWA■青森・むつ市民体育館(18:30)
AtoZ■千葉・流山市民総合体育館(18:30)

27 THU.
新日本■福島・白河市中央体育館(18:30)
全日本■京都・KBSホール(18:30)
IWA■青森・青森産業会館(18:00)
K-DOJO■千葉・BlueField(19:00)
NEO■東京・北沢タウンホール(19:00)

28 FRI.
新日本■山形・山形市総合スポーツセンターサブアリーナ(18:30)
闘龍門■東京・後楽園ホール(18:30)
AtoZ■千葉・船橋アリーナ サブアリーナ(18:30)

PRIDE GRANDPRIX 2003 決勝戦 記者会見

2003.11.9
TOKYO DOME
FINAL ROUND



1 決勝ラウンド出場全選手インタビュー4連発!!

11.9東京ドームで
『PRIDE』ミドル級最強の男が決まる!!
真の"男の中の男"の称号は誰の手に!?

「11月9日、"男の中の男"を決めようや!!」

髙田本部長も今から鳥肌!!



VIVA JUDO!

吉田秀彦

Hideiko Yoshida



田村に必殺"袖車"で勝利!
いざ、"主食日本人"シウバ戦へ!!

田村戦に続き、出るか必殺"袖車"!
そして勝利の"ゲッツ"ポーズ!!

「まずはシウバに勝つこと! "ゲッツ"ができるよう 頑張るしかない!!」

『PRIDE・GP』1回戦では"伝家の宝刀"袖車で田村潔司を下した吉田が次なる対戦相手に指名したのは、なんとPRIDEミドル級王者ヴァンダレイ・シウバ! "主食日本人"のこの男を吉田は絞め落とすことはできるのか!? そして勝利の"ゲッツ"は見られるのか!?

聞き手／松澤チョロ　撮影／福島勝儀

designed by matsu（Two three）

――いま着てるTシャツが現在絶賛発売中の「吉田秀彦×阪神タイガース」コラボTシャツですね。

吉田　そうです。皆さん、買ってください！（ニッコリ）。

――吉田さんはタイガースファンっていうことでいいんですか？

吉田　いや……（苦笑）。

――「いや」なんですか？（笑）。

吉田　まあ今回は始球式したもんで。もちろん嫌いじゃないですけど、何々ファンとかそういうイメージつけたくないんで、応援してるということで。星野（仙一）さんも明治の先輩ですし、それにやっぱり、阪神が頑張ると野球界も盛り上がるでしょ。

――ですね。阪神に続いて『PRIDE・GP』優勝といきたいところですよね。

吉田　まあ、できれば（微笑）。

――頑張ってください（笑）。で、星野監督と同じように注目されている明大の大先輩の坂口征二さんについてもお聞きしたいんですが。

吉田　あぁ。大先輩として頑張ってもらいたいです。

――坂口さんが復帰第二戦を東京ドームでやるのはご存知ですか？

吉田　え？　高山選手と？

――いや、今回は高山さんだけじゃなくて5対5ということで、相手はボブ・サップ、藤田和之、鈴木みのる、中邑真輔の5人なんですよ。セコンドには今回も坂口憲二さんが付くみたいですけど。

吉田　へぇ～。それはいつですか？

――13日ですね。毎回、吉田さんのセコンドに付いている髙阪選手もヒカルドンとの試合がある日ですね。

吉田　あ、ボク、その日行きますよ。

――ドームに行かれるんですか？

吉田　ボク、髙阪のセコンドだもん。

――それはマスコミ的にも注目されるんじゃないですか？　坂口さんとのニアミスもあるでしょうし。

吉田　いやいや、ボクはそういうのは別に意識してないんで。

――でも単純に坂口さんの試合は気になるんじゃないですか？

吉田　還暦……ですよね（苦笑）。

――はい、年齢的にはそうですね（笑）。

吉田　頑張ってますよね。ホント、先輩として頑張ってもらいたいです。

――坂口さんは元プロレスラーですけど、復帰戦では、吉田さんの活躍もあってか、道衣を着て試合をしてましたからね。

吉田　もっと全面に柔道っていうのを打ち出してもらいたいですね。そういう部分で凄い感謝してるっていうか……凄い（笑）。だってボクが60歳になったとき、そうやってできるかって言われたら、わかんないですからね。たぶん無理です（笑）。

――アハハハ！　それで、ここ最近の吉田さんは『世界柔道』の解説や、こないだの『武士道』では監督業で活躍されていたわけですけど。

吉田　まあ監督っていうかね、何やったっていうわけでもないんだけど（苦笑）。

――一応、形的には監督っていうことで（笑）。結果的には残念ながらグレイシー軍に負けてしまいましたよね。

吉田　う～ん、負けちゃいましたねぇ。まあでも、選手たちは、いい経験ができたと思いますしね。今回上がった（三島☆）ド根性ノ助とかも初めての『PRIDE』のリングで、いい勉強にはなったんじゃないかなって。

――対抗戦としては敗れたとはいえ、吉田さん的には中村（和裕）さんが勝ってくれたんでホッとしてるんじゃないですか。

吉田　そうですね。カズは『PRIDE』は2回目なんで、ここら辺で勝ちが欲しいなと思ってたんで良かったです。

――でもグレイシー側は大会前から、ハイアンにしろホイスにしろ「ヨシダとやらせろ！」とか「嘘つきだ！」とか、さんざん吉田さんにアピールしてましたよね（笑）。

吉田　（ちょっとムッとして）だからね、何でそうなったかっていうと、ホイスとボクの試合でそういうふうに言われてるわけでしょ。だから、文句あるんだったらホイスともう1回やってもいいですよ！

――吉田さんも監督就任の会見の時に「もう1回やりましょう」ってホイスに対して言ってましたからね。

吉田　いつでもいいですよ。

――もう1年以上経ってますけど、いまだにホイスは「まだ試合は終わってない。ボクの夏は終わってない」ってカッコいいこと言ってますからね（笑）。

吉田　だから、言うだけじゃなくて！

――アハハハハ！

吉田　そうやって言われて、ボクはやってもいいって言ってるんで。それは去年から言ってることですから。それに「嘘つき」って、オレは何にも言ってないですよ。

――ホイスはレフェリーに「落ちた！　落ちた！」ってアピールしたことに対して「嘘つき」って言ってるみたいですね。

秀彦！ お前は男だよ！ 侍だよ!!（by髙田本部長）



10月1日、都内で『PRIDE・GP決勝戦』の組み合わせ抽選会が4選手出席のもとに行われ、指名権をゲッツした吉田は対戦相手にシウバを指名！　これには髙田本部長もいつもの"男だ"発言に"侍"も加えるという最上級の評価！



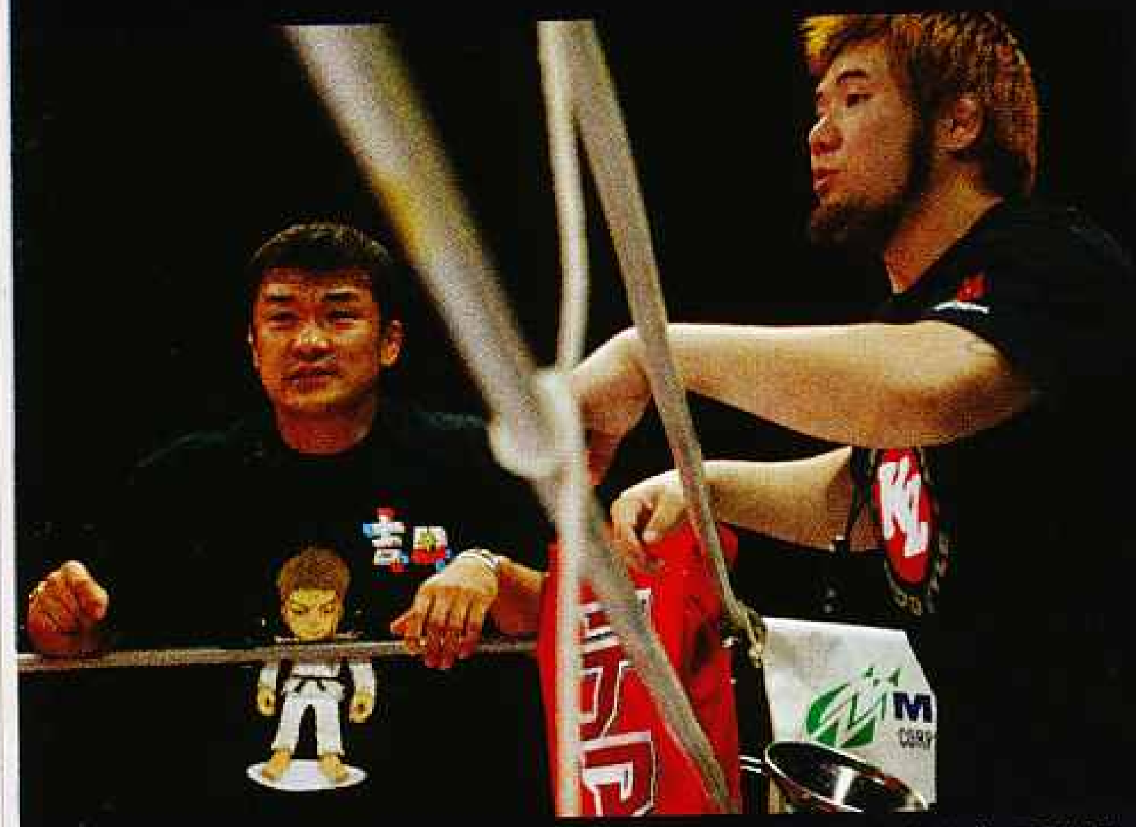
10.5『PRIDE武士道』での吉田監督



第7試合前に行われた恒例の高田劇場では、高田本部長の呼びかけでリングに登場した吉田とシウバ。すでに臨戦体勢のシウバからはKO&優勝宣言が飛び出したが、吉田はこの挑発には乗らず「ほどほどにお願いします。あとは11月9日に」と苦笑いのマイクアピール



高田劇場の最後を締めたのは、やはり高田本部長！　拍子抜けさせられた吉田のマイクを受けた本部長は「11月9日、男の中の男を決めようや!!」とのけ反りながら絶叫!!



中村和裕のセコンドは練習仲間の横井宏考と吉田監督。対抗戦には敗れたが愛弟子のプロ勝利に吉田は満足げ





勝利をゲッツした中村はリング上でのマイクアピールが終わると、すぐさまリングサイドのネプチューン名倉に勝利の報告。果たしてシウバ戦後、吉田は名倉に勝利を報告できるのか？

Hidehiko Yoshida

（ムッとして）文句あるんだったらホイスともう1回やってもいいですよ！

吉田　じゃあ、前の試合がなかったことにしてもいいですし、そうやって本人が納得いかないんだったら、もう1回やるのが普通だと思いますし。逆の立場でそうやって自分で納得いかなかったら、「やろう！」って言うと思いますしね。だからねぇ、ボクは「受けない」って言ってるわけじゃないんで（呆れ気味に）。

――「もう1回やりましょう」と公の場で言ってるわけですからね。

吉田　まあ、相手の取り方だと思いますから、そういうふうに引きずって延ばし延ばしでボクを攻めてくるのもいいですけど。

――では、ホイスと同じように、しつこくアピールしているハイアンはどうですか？

吉田　別にハイアンになんの恨みもないですし、そうやって言われる筋合いもないしね（苦笑）。まあ、機会があればやってもいいし。あんだけ言われてね、たしかにムカつくのはありますけど。

――そりゃムカつくでしょうね（笑）。

吉田　まあ、チャンスがなければこういうのはできないですから、機会があれば。

――対抗戦でグレイシーの5選手の闘いぶりを見て、改めてグレイシー柔術っていうのはビバ柔道の吉田さんから見て、どういったふうに映りましたか？

吉田　やっぱ総合だからなんとも言えないですよね。お互い道衣マッチとかだったら、ちょっとどうなるかなって思いますけど。

――柔道であったり柔術の試合を見ないとどれぐらい力があるのかわからないと？

吉田　また柔術の試合ってなると、ボクはルール知らないからわからないけど。

――柔術はよくわからないですか？

吉田　どうなればいいのか、よくわかんないですね。あれ難しいですよ、柔術ってポイント制ですもんね。

――そうですね。まあ、柔道vs柔術って大会前から煽られてましたけど、総合では答えづらいところがあるわけですね？

吉田　答えづらいとこありますね。やっぱり総合は打撃があるっていうので、まず柔術と柔道から離れてるじゃないですか。その辺で比較するっていうのは非常に難しいですよ。これがお互い道衣着て柔術vs柔道っていう試合だったら、どっちか1本取ったらハッキリ決着つきますけど、総合はわからない（苦笑）。

――アハハハハ。そういう意味では、今度の『PRIDEミドル級GP』は、吉田さん以外は見事にストライカータイプばかりが残った形になりましたけど（笑）。

吉田　そうなんですよねぇ（苦笑）。

――そんな中で吉田さんは敢えてシウバを指名して、高田本部長から、あらためて「秀彦、お前は男だ！　侍だよ!!」と言われたわけですが（笑）。

吉田　ねえ（苦笑）。でも誰が相手でも一緒ですよ。みんな打撃系の選手なんで。まあ……なるようになるでしょ。打撃を食らわないようにガードをしっかりしなければいけないですよね。

――抽選で指名権を得たときは、かなり悩んでたみたいですけど、実際、シウバを選んだのは、やっぱりファンのためっていうところが大きいんですか？

吉田　だって3人しかいないじゃないです

か。たぶん、あの中で誰が指名権引いてもボクに来たと思うし（苦笑）。それにボクはその中で優勝するには2試合やらなきゃいけないとか、そういう先のことは考えないで、一番美味しいところっていうか、一番強い選手って言われてるのがやっぱりシウバですからね。

――シウバは『PRIDE』ミドル級のチャンピオンですからね。

吉田　はい。だったらチャンピオンがいいなって。

――ファンのリクエストが一番多かったっていうのは、その次ですか？

吉田　だって横でささやいてますからね。「シウバシウバ」って（微笑）。

――それは高田本部長ですか？（笑）。

吉田　高田さんです（微笑）。それにファンの声は全然知らなかったんで。

――声は届いていませんでしたか（笑）。

吉田　雑誌とかも読まないんでね。ただ、そうやって言われれば、そうせざるを得ない状況でしたから、あそこは（苦笑）。

――そういう雰囲気でしたからね（笑）。そういえば吉田さんはホームページで日記を書いてますけど、あれって自分で打ち込んだりしてるんですか？

吉田　自分で全部打ち込んでますよ。

――次の対戦相手の名前を書いていただけますか？（と言って紙を差し出す）。

吉田　は？　あ、わかった！　字が違うんでしょ（笑）。

――はい（笑）。日記によると、「対戦相手が決まりました。皆さんも知ってると思いますが、バンダレン・シュウバです」って書いてあったんで、違う人が打ち込んでるのかなって思ってたんですけど（笑）。

吉田　あれ？　シウバとシュウバとどっち？　シ・ウ・バだよね。

――正解です。上は「ヴ・ァ・ン・ダ・レ・イ」なんですけどね（笑）。

吉田　もうバンダレンでいいよ（笑）。

――アハハハハ！

吉田　その辺は適当に書いてんですよ。だから……シュウバ？　シウバ？

――もういいです（笑）。そんな感じですけど、さすがにシウバ戦に向けての研究は始めてるんですよね？

吉田　まあ多少は試合見てるんですね。

――シウバに勝ったらランペイジとリデルの勝者と闘うわけですけど、そこまでは考えていないわけですね。

吉田　もし勝ったら、その時に次の試合のことを考えるしかないですね。相手も決まってないし。だからシウバ戦に全力投球するしかないでしょ。

――会見でも『武士道』のリングでも「ほどほどに頑張る」と宣言してましたけど、



髙阪のセコンドとして新日本マット初登場の吉田。圧倒的な体格差を克服しヒカルドンから勝利を収めたTKは吉田に「次はお前の番だな」と一言。11・9は立場を入れ替え、このコンビが再びドームに登場！

Hidehiko Yoshida

シウバは7つも年下ですよ。「年寄りをいじめるな」って言っといてください（笑）

ホント、吉田さんらしい発言だなと思いましたね（笑）。

吉田　だって、あんなに勢いよく来られると、なんにも言い返せないですよ（苦笑）。

――シウバの勢いも凄かったし、高田本部長も勢いありましたからね（笑）。

吉田　まあ勢いじゃ負けますけど（笑）。

――実際、試合を想定するとシウバが勢いよく打撃で突っ込んできたら、田村戦のように打ち合うつもりはあるんですか？

吉田　いや、打ち合うっていうか、下がんなきゃ大丈夫だと思う。下がったり引いたりしたらダメだけど、前に突っ込んでけば大丈夫……だと思う（笑）。

――打撃は田村戦を経て、ちょっと自信が付いたんじゃないですか？

吉田　それはない！（キッパリ）。

――即答しますねぇ（笑）。

吉田　自信はない。でもね、ボクシングとか練習しててパンチを喰らうと確かに効くんですけど、ボクの力任せのパンチも結構イケるんじゃないかなって（笑）。

――自信あるんじゃないですか（笑）。

吉田　まあ、その辺はね、なんでも下がったら負けなんで。この前、サクちゃんとシウバの試合も下がったとこでカウンター食らってるでしょ。やっぱリングで睨み合ってるとイライラ来るんですよ。「早く来ないのか」とか。その間が嫌なの。

――性格的なものもあるんでしょうね。

吉田　ボクは短気だから（笑）。で、カッとなっていくとカウンター喰らってしまうと思うんで、そこは慎重に。いくにしても慎重にやらなきゃいけないなって。

――やはりシウバ相手となると、殴り合いをするのは得策ではないでしょうからね。

吉田　そうなんですけど、最初からグラウンドで始まらないからね（苦笑）。フェイントでタックルいっても、なかなかテイクダウン取れないと思うし。だから打撃の合間をくぐってテイクダウンもできるようにしないと、なかなか難しいなっていうのはありますよね。

――今回シウバにもインタビューしてるんですが、吉田戦に向けて何か不安はありますかと聞いたら「吉田は、どっかを怪我したとか言って出て来ないような気がする。それが不安だ」って言ってたんですよ（笑）。

吉田　（ムッとして）アイツ、そんなこと言ってるんだ。

――実際、怪我の方はもう大丈夫と思っていいんですか？

吉田　大丈夫です。じゃあ、シウバに会ったら「ナチュラルに出て来い」って言っといてください（笑）。

――ちょっと意味深ですね（笑）。あと、シウバはゴング前に睨み付けてくるじゃないですか？　吉田さんも性格的に睨まれたら睨み返すような気がするんですけど。

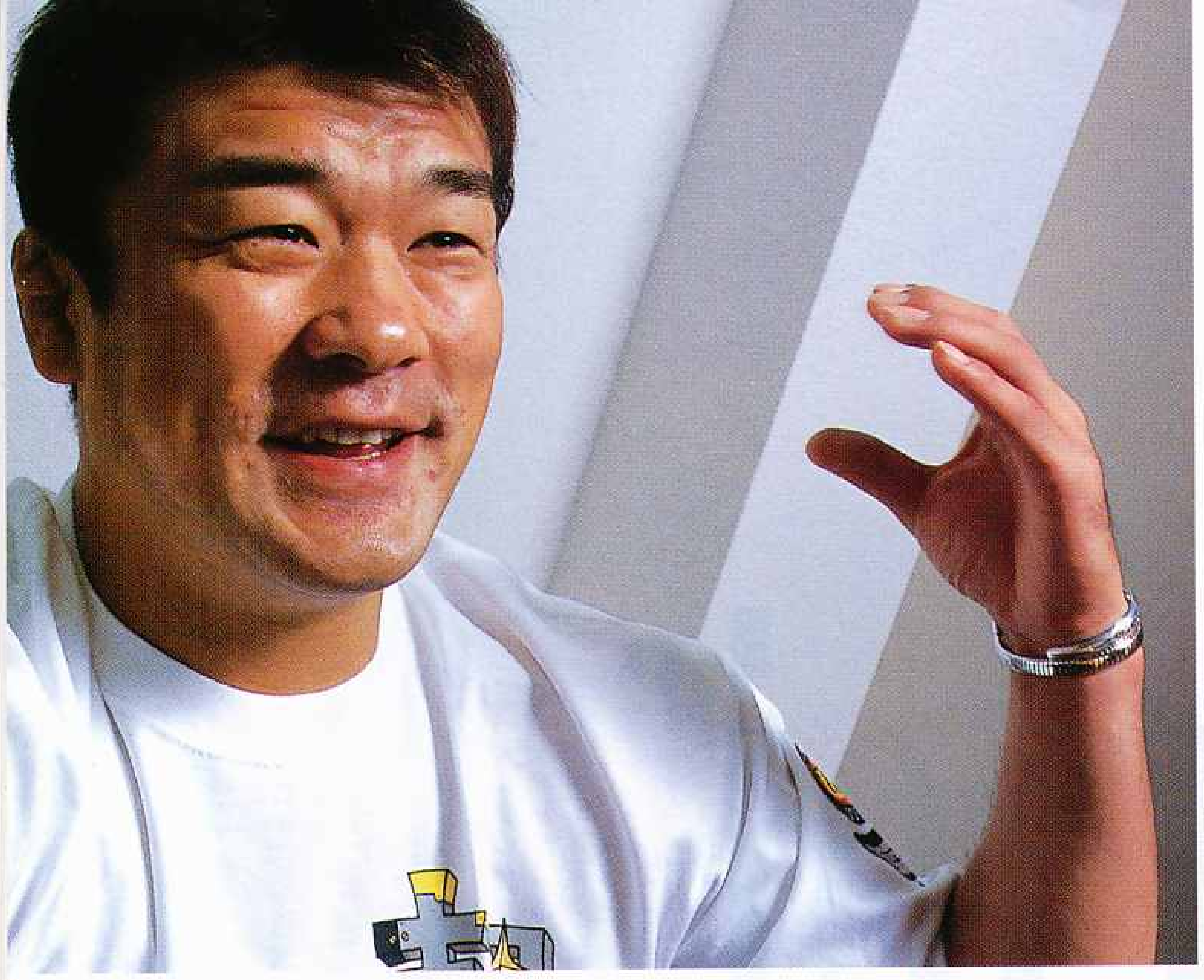
吉田　いや、ボクは下向く。睨み合ったら相手のペースになっちゃいますからね。

――でしょうね。あと、シウバは道衣をつかんで蹴ったり殴ったりする練習を徹底的にしてるって言ってましたよ。

吉田　いいところに気がつきましたねぇ。

――は!?　それはどういうことですか？

吉田　いや、そこはね、ボクの一番弱いとこですから（苦笑）。



――あ、そうなんですか（笑）。
吉田　向こうはつかむとこがあるだろうけど、ボクはつかむとこがないから。ホントいいとこに気づきましたね、シウバ（笑）。
――「道衣は反則じゃないか」って言う人も多いですけど、実際、道衣を着てるデメリットも結構あるんですよね。
吉田　持つとこないんだもん（笑）。
――暑いっていうのもあるでしょうし。
吉田　そう！　暑いし、それに滑らないし。グラウンドとかでも裸だと滑ってツーッて抜けられるけど、道衣着てると滑らないからそのままだし。だから、いいとこに気づきましたよ、シウバは（笑）。
――さすがチャンピオンですね（笑）。そういえば、会見の時に髙田本部長が「勝ったら祝杯を上げよう」って吉田さんに耳打ちしたらしいですね（笑）。
吉田　そうそう。
――ウチでキャッチした情報によると、『世界柔道』で大阪に行ってる時に髙田本部長と初めて飲みに行って、しかも飲み負かしたらしいじゃないですか（笑）。
吉田　っていうか……。
――髙田本部長といえば飲みっぷりは現役時代から、かなり有名なんですが、吉田さんはその髙田さんを潰したっていうことで、凄い幻想が高まってるんですよ（笑）。
吉田　いやいやいや（苦笑）。
――それから髙田さんは吉田さんのことを「秀彦」と呼ぶようになったみたいですね。
吉田　まあそうやって、いままで接点がなかった人たちと話し合ったりして、ボクたちもわかった部分があるし、髙田さんもわかったところがあると思うんで、それは良かったと思いますね。やっぱり同じことやってるんで、一緒に力を合わせて、この業界を盛り上げていかないとね。
――そうですね。ちなみに髙田本部長と飲んだ時は、かなりの量を飲まれたんですよね？
吉田　うん。水割りじゃないから（苦笑）。
――やっぱり（笑）。あと、田村戦の後に気づかなかった人も多いみたいなんですが、リング上で「ゲッツ」をやってましたよね。
吉田　あぁ、それは言われるんですけど、ボクは覚えてなかったんですよ。
――無意識でやっていたと？（笑）。
吉田　きっと、そう（微笑）。
――普段はやったりしないんですか？
吉田　…………やってないと思う。
――じゃあ、ダンディ坂野さんと接点があるわけではないんですね。
吉田　ないないない、全然。
――そうでしたか。では最後に『PRIDEミドル級GP』優勝宣言でもしていただきましょうか？（笑）。
吉田　いやぁ～、優勝は結果であって、いまは何をやるべきかっていうと、まずシウバに勝つこと。で、終わった後に結果が付いてきて、その時に喜べばいいことなんで。
――まずはシウバ戦ですね。勝利後の「ゲッツ!!」は期待してますんで！（笑）。
吉田　まあ、そうできるように頑張るしかないです。
――意気込みというと、やっぱり「ほどほどに頑張ります」って感じですか？（笑）。
吉田　いや、ほどほどにしてください……かな？（微笑）。
――アハハハハ！
吉田　それにシウバは若いですからねぇ。だって、まだ27歳ぐらいなんでしょ？
――そうですね。
吉田　7つも年下ですよ。「年寄りをいじめるな」って言っといてください（笑）。
――機会があれば伝えておきます（笑）。東京ドームでは、ほどほどに期待してますので頑張ってください！（笑）。

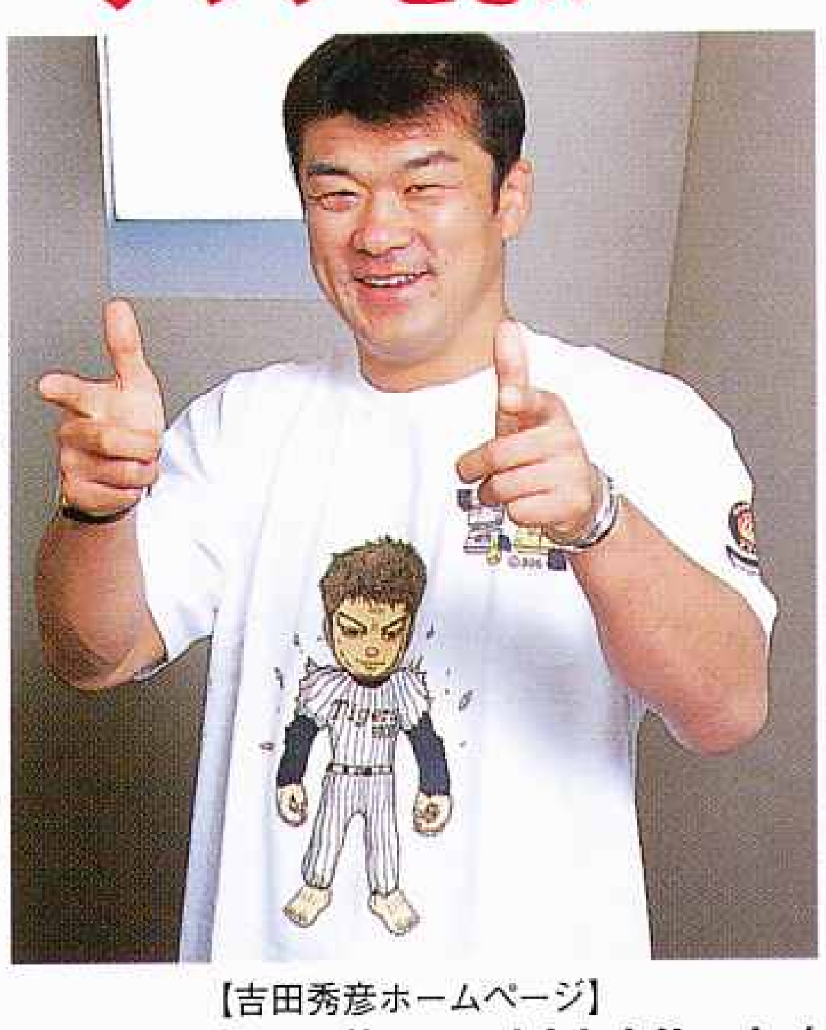
【10月8日／『J・ROCK』にて収録】

吉田秀彦CM初出演



サッポロビールから発売中（現在のところ九州限定）の『ドラフトワン』でCM初出演の吉田。現在は減量のため禁酒中だが「CMやってるからじゃなくてホントに美味いよ！」と絶賛!!

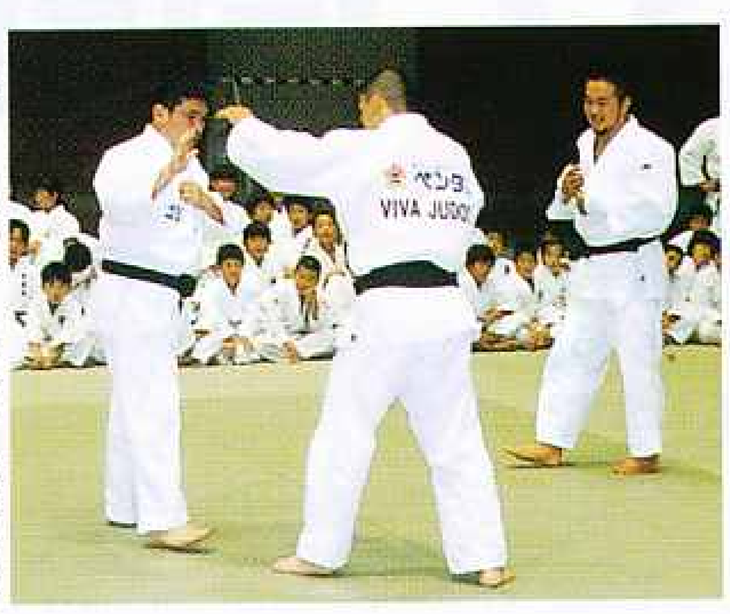
吉田×タイガース コラボTシャツをゲッツせよ!


326のイラストでお馴染み吉田TシャツNEWバージョンは阪神タイガースとのコラボもの。ボディーはホワイトのみ。詳しくは下の吉田秀彦HP参照！　日記も読めるぞ!!

【吉田秀彦ホームページ】
http://www.hidehiko.jp/

第3回「VIVA JUDO!」豪華講師陣を迎え盛大に


吉田がライフワークとしている「VIVA JUDO!」第3回が10月12日、日本工学院八王子専門学校で約350人の小学生を集め開催された。今回、講師役として、中村和裕、小路晃、松井大二郎、植松直哉、神取忍、薮下めぐみといった豪華メンバーが集結



イベント開始早々にはプロ選手による模範試合が行われ、一発目から小路vs松井というビッグマッチが実現（ちなみに小路の一本勝ち）。吉田も世界を制した内股を披露＆指導！


柔道に必要な引く力を養うという綱引きでは吉田自らジャッジ！　ちなみに薮下から「総合で道衣を使うのはズルイ」とツッコまれると「お前も道衣着てやればいいじゃん!」と一蹴!

Wanderlei Silva



桜を三度散らした男、いざ吉田戦へ!
衣（ギ）を赤く染めるか!?

ミドル級王者の揺るぎない自信、
そして噴き出る新たなる野望!!

「グランプリ優勝、対UFC、そしてヘビー級戦線殴り込み。すべてにおいて問題はない!!」

灼熱の8・13『PRIDE・GP』1回戦で、三度立ちはだかった桜庭和志をKO。決勝ラウンドに駒を進めたヴァンダレイ・シウバの次なる相手は、あの吉田秀彦だ!! “主食・日本人”は“柔道金メダリスト”という絶好の獲物を前にして、闘志満々。柔道王の衣（ギ）を赤く染めるのか!?

聞き手／ジャン斉藤　撮影／森“モーリー”鷹博
designed by matsu（Two three）


『PRIDE』Middle Weight Champion
ヴァンダレイ・シウバ

――シウバさんが念願だった吉田秀彦選手との対戦が、『PRIDE・GP』でいよいよ実現することになりましたね。

シウバ　ヨシダ戦？　まったく問題ないよ！

――お！　さっそくシウバさん十八番のフレーズである「問題ない！」が飛び出しましたね（笑）。

シウバ　ああ、問題ないね。自分が勝つ！　決勝も同じ！　グランプリは何の問題もないよ!!

――問題はなくても、とりあえずお話は伺いたいんですけど（笑）。昨日の抽選会見で、吉田選手から指名されたときはどういう心境だったんですか？

シウバ　ヨシダに対して、いろんな感情が込み上げてきたよ。まずひとつは、その場ですぐにでもヨシダを血祭りにしたいという、ファイターとして当然の感情（ギロリと睨んで）。

――その場で！　血気盛んですねぇ（笑）。

シウバ　そしてヨシダに指名された喜び。自分はヨシダと闘ってみたい気持ちが強かったからね。『PRIDE』が行ったファンのアンケートでも「シウバvs吉田」を観たいという声がダントツで一位だったと聞いているし、ファンが期待するファイトができるのは、ファイターとして大変嬉しいことだよ。

――なるほど。シウバさんは以前から「ヨシダと闘いたい！」と訴えてましたけど、吉田選手に対戦を迫る最大の動機ってなんですか？

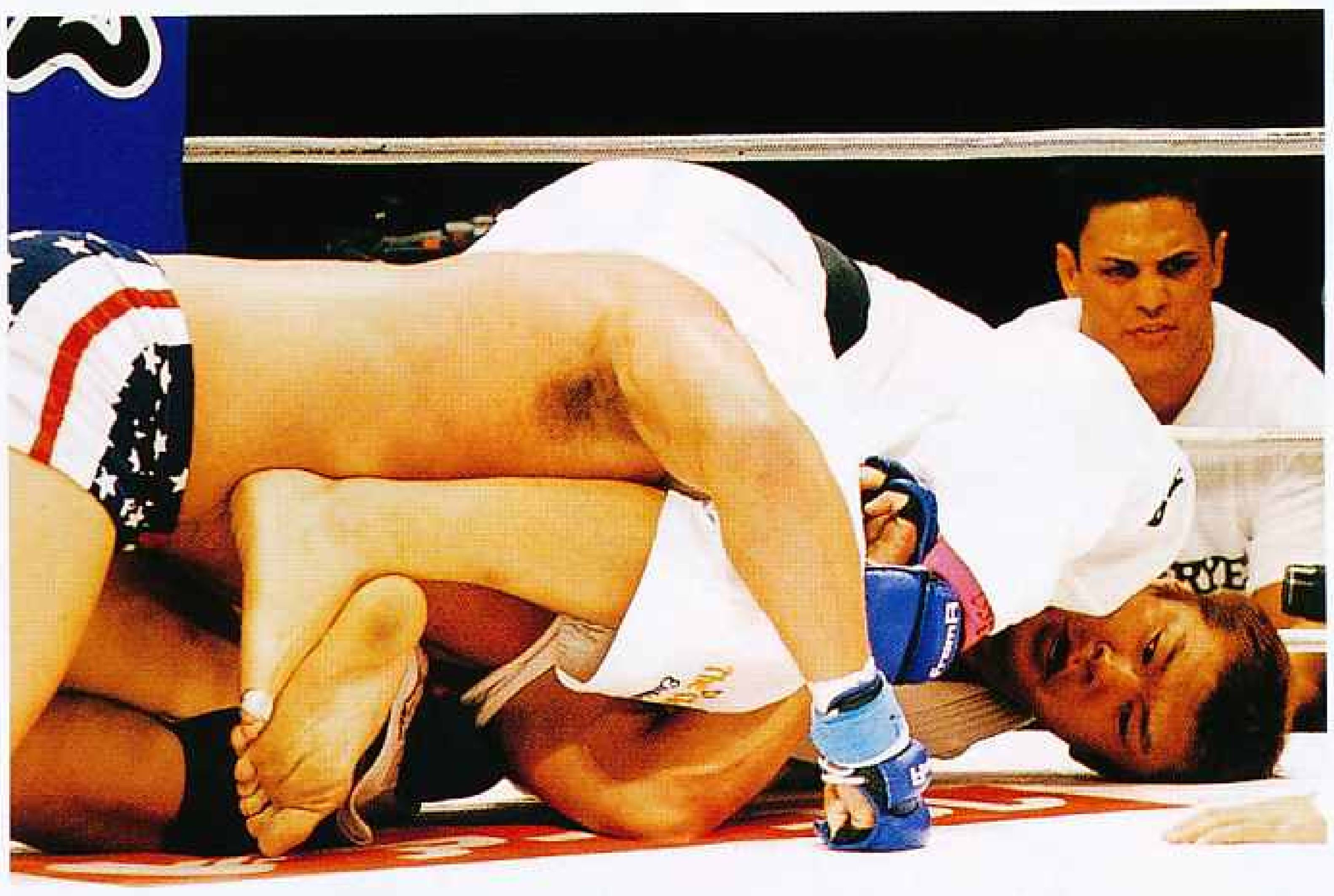
シウバ　それは、ヨシダが日本最強のファイターだからだ。彼は柔道のゴールドメダリストだろ？　それに加えてバーリ・トゥードでも負け知らずだし、彼が強者だと証明できる実績は数多くある。『PRIDE』ミドル級チャンピオンの自分からすれば、ぜひ対戦したいタフな男なんだよ。

――念願の一戦は、どんな試合展開になると思いますか？

シウバ　ファンも想像していると思うけど、自分の打撃をヨシダがどう避けるのか？　そして、ヨシダはグラウンドに持ち込めるのか？　その攻めぎ合いが最大のポイントになると思う。ただ勘違いされると困るのは、ヨシダは寝技の達人だけど自分も寝技には自信があるってことさ。基本的にはスタンドでノックアウトすることに全神経を集中させて闘うつもりだけど、チャンスがあれば寝技で一本極めようと思ってるよ。

――昨日の抽選会見でも、シウバさんは「関節技で極める！」と言ってましたよね。

シウバ　自分はハードな柔術の練習をしてるからね。道衣を着た選手とスパーリングもしてるし、ヨシダの道衣を使って攻撃することだって考えてる。ヨシダ戦は道衣を利用して勝負を決めたいとも思ってるよ。



相手をことごとく封じてきた柔道王の寝技＆道衣。シウバはその対策に自信をのぞかせるが……どんな展開が待っているのか!?

ヨシダの道衣を使って攻撃することだって考えてる。掴んで蹴ったり殴ったりな！

――吉田選手は道衣で相手を締めたり極めたりしてますけど、シウバさんは逆に利用するつもりなんですね。

シウバ　そういうことだ。道衣を掴んで蹴ったり殴ったり、そして投げ飛ばすようなこともあるかもな（ニヤリ）。

――柔道王をブン投げますか！　そうなったら大変な騒ぎになりますよ（笑）。

シウバ　ただ、困ったことに、大きな問題がひとつあるんだよ。

――あ、問題があるんじゃないですか（笑）。

シウバ　ヨシダの道衣や寝技の対策は十分に練っているけど、どうしても自分の力ではクリアできない問題がある。それが解消できないことには、ヨシダをKOできないかもしれない……。

――ど、どうしたんですか!?　急に弱気になって。

シウバ　いやね、ヨシダが当日、リングに本当に上がってくるのかすごく心配なんだ。ヨシダは何かのケガを理由に欠場……してしまう気がするんだよ。

――あ、試合が成立するかどうかが心配ですか（笑）。

シウバ　そうなったら、いくら自分でもヨシダをKOできない。まさかヨシダの自宅に殴り込むわけにもいかないだろ？（笑）。

――会見場で殴りかかる寸前だったシウバさんならやりかねないですけど（笑）。

シウバ（無視して）ヨシダにぜひ伝えてほしい！　本当の男なら、勇気を持ってリングに上がってきてほしい、と。

――誌面を通じて伝えておきますよ！　で、一方のブロックでは、ジャクソンvsリデルが行われますよね。シウバさんの予想ではどちらが勝つと思いますか？

シウバ　う〜ん。2人ともバランスがいいファイターだからな。難しい試合にはなると思うけど、ジャクソンが勝つよ。なぜなら、決勝戦でジャクソンと闘いたいからだ。

――ジャクソンとは、リング上で乱闘を繰り広げたりしてるし、因縁浅からぬ関係ですよね。

シウバ　奴とはいろいろあったから、決着を付けたい気持ちが強いんだよ。リデルもタフなファイターだから、対戦するのは問題ないけどね。

――そのリデル選手を送り込んできたUFCに桜庭選手や藤田選手の出場話が浮上



『PRIDE武士道』のリングで、11・9『PRIDE・GP』に向けてのデモンストレーション。髙田本部長を交えて吉田秀彦を対峙したシウバの、いますぐにでも吉田を殴りかねない表情が印象的だった

将来、ヒョードルと闘う日がくる。ミルコとの再戦も問題ない!!

したりと、『PRIDE』との対抗戦がいよいよ始まりそうですよね。

シウバ　サクラバとフジタがUFCでファイトするなら、『PRIDE』の代表としてぜひ勝ってほしいね。

——シウバさんには、闘いたいUFCのファイターって誰かいますか？

シウバ　自分は『PRIDE』ミドル級チャンピオンだからね。もし、やるなら同階級のチャンピオンに決まってるよ。いまだったらランディ・クゥートアーになるけど、そのとき一番強い奴と闘いたいね。

——シウバさんは、UFCではティト・オーティス、ビクトー・ベウフォートらと対戦していずれも負けてますけど、オクタゴンでは闘いづらかったりするんですか？

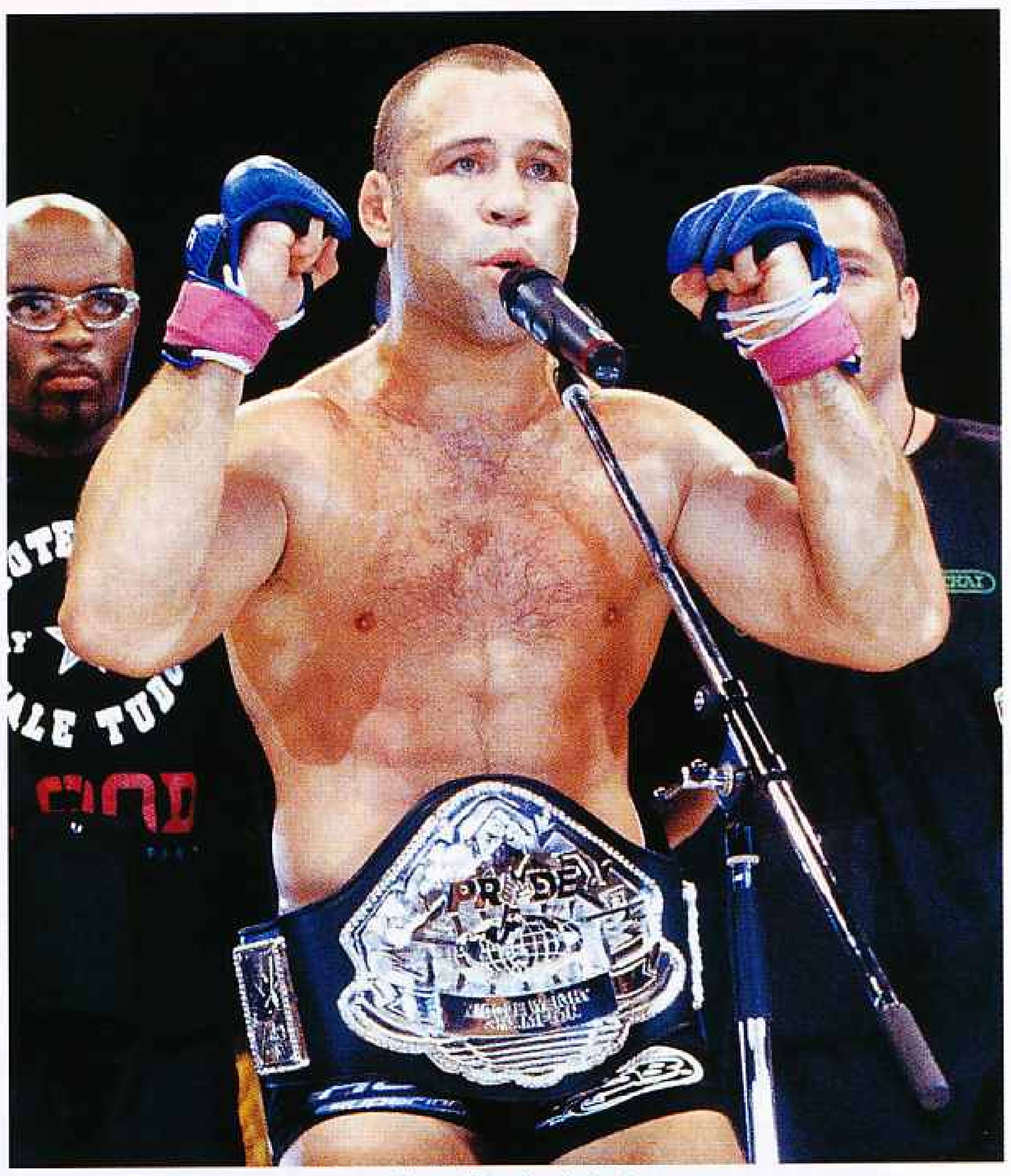
シウバ　いや、リングとオクタゴンの違いに問題はない。以前の敗戦にしても、自分はあれからレベルアップしてずっと勝ち続けているし、ティトやビクトーと比べてどちらが強くなってるかは戦績、試合のクオリティを見れば一目瞭然だろうしね。いまやれば自分が勝つ！　クゥートアーにしても全然、問題ないよ。

——『PRIDE』、UFCの制圧と、前人未踏の偉業に自信があるわけですね。

シウバ　でも、GP優勝後の現実的な展開をいえば、『PRIDE』ヘビー級への挑戦が出てくると思うよ。

——あ、まずは『PRIDE』完全制覇が先ですか！　というと、ヒョードルとの『PRIDE』王者対決、ミルコとの再戦が有り得るわけですね。

シウバ　ただ、ミルコの場合は、前回のような「1R5分」「判定なし」のルールはイヤだね。あの試合は、『PRIDE』ルールだったら自分の判定勝ちだったと思っている。通常の『PRIDE』ルールなら、ミルコだろうがヒョードルだろうが何の問題もないよ。



ヴァンダレイ・シウバ
1976年7月31日、ブラジル・パラナ出身。桜庭和志、田村潔司、金原弘光などを破った日本人キラー。ダン・ヘンダソーン、ミルコらとも激闘を繰り広げた『PRIDE』ミドル級チャンピオン。

Wanderlei Silva

——ヘビー級王者のヒョードルにはどんな印象がありますか？

シウバ　間違いなく強いファイターだよ。将来、彼と闘う日がくると思うけど、シュート・ボクセには、アスエリオ・シウバという強いヘビー級戦士がいるからね。彼にはヒョードルやミルコを倒してチャンピオンに就いてもらいたい気持ちもある。シュート・ボクセにはアスエリオだけじゃなくて、強い選手が数多くいるんだ。彼らにもチャンスを掴んでほしい気持ちがあるんだよ。

——そういえば、シュート・ボクセのシウバ支部を造るって話がありましたけど、そのプランはどれくらい進んでいるんでしょうか？

シウバ　今年中にはなんとか設立したいとは思ってるんだけど。できれば東京に造りたいね。

——に、日本にですか!?

シウバ　ああ、そうさ。日本は自分にとって第2の故郷だからね。自分が来日したときに指導したり、シュート・ボクセの選手やコーチを常駐したりして、将来のチャンピオンを育てたいんだよ。

——スパーリングなのにパンチをバンバン入れたりする、シュート・ボクセの過激な練習方法が日本でも取り入れられるわけですか（笑）。

シウバ　いやいや、優し～く指導するよ（笑）。

——問題ないようにお願いします（笑）。で、最後の質問になるんですけど……。『PRIDE』の話題から思い切りズレてもいいですか？

シウバ　ああ、問題ないよ。

——シウバさんはズバリ、あのイズマイウさんにどういう印象を持ってるんでしょうか？

シウバ　イ、イズマイウ？　印象って言われても……ノーコメントだなあ。

——もしかして、仲が悪かったりするんですか？

シウバ　いや、別にそういうわけじゃないよ。イズマイウには興味もないし、よく知らないだけだよ。

——イズマイウさんは「ブラジルではサッカーと言えばロナウド、VTといえば俺様！」って吠えてたんですけど（笑）。

シウバ　……ふ～～ん（まったく興味なさそうに）。

フジマール（シュート・ボクセ会長）　イズマイウのことは私から言わせてくれ！　彼はね、いろんなデマというか噂をバンバン流す男なんだよ（キッパリ）。

——バンバン流しますか！（笑）。

フジマール　勝手にショーグンの名前を『ジャングル・ファイト』のラインナップに使ったりね。

——ワハハハ！　さすがイズです（笑）。

シウバ　（まったく興味なさそうに）……お楽しみのところ申し訳ないけど、最後に一言、ファンにメッセージを送りたいんだけど……。


——す、すいません（笑）。よろしくお願いします！

シウバ　さっきも言ったけど、日本のファンが期待している試合ができてとても光栄です。そんなファンのためにも、素晴らしい試合をすることを約束する！　そして日本のファンも、ヨシダが逃げないことをしっかり祈ってほしいね（ニヤリ）。

——そ、そうですか（笑）。吉田戦は素晴らしい試合になることを期待しています！

シウバ　ああ、まったく問題ないね。期待していてくれ！

【03年10月1日／都内某ホテルにて収録】



"Rampege"

クイントン・ジャクソン

いまや“PRIDE代表”となった猛犬
UFC迎撃&アメリカ逆上陸宣言!

「“噛ませ犬”としてPRIDEに呼ばれた俺が王者になるなんて、痛快じゃねぇか」

かつて“ホームレス”と呼ばれた男が、いよいよ『PRIDE』の頂点に手が届くところまで成り上がってきた! 『PRIDE』デビューの桜庭戦以来、急成長を続けてきたランペイジ。グランプリ1回戦こそ対戦相手変更のためか大苦戦を強いられたが、まだまだこの男の勢いは止まりそうもない! 勝利の雄叫びを上げるのはランペイジ様だ!

聞き手/堀江ガンツ　撮影/森“モーリー”鷹博
designed by matsu（Two three）

Quinton "Rampage" Jackson

1回戦でUFCミドル級王者を撃破!
次はNo.1ストライカーをKO宣言!!



——8月10日のグランプリ1回戦（ムリーロ・ブスタマンチ戦）から2ヶ月近くたちますが、今日までどんな練習をしてきましたか？

ランペイジ　いままで通り、ハードな練習を積んできたよ。特に持久力をつけるトレーニングをしてきた。技術的にはムエタイ、柔術、それからビデオゲーム。

——ビデオゲームは何か関係あるんですか（笑）。

ランペイジ　もちろん。ビデオゲームをやることによって、ハードな指使いができるようになる（笑）。

——そうですか（笑）。柔術の練習を増やしたというのは、前回のブスタマンチ戦で思ったより苦戦したということもあるんですか？

ランペイジ　確かにそれは一理あるかもな。ただ、前回のブスタマンチ戦で自分の弱い部分が出てしまったのは、ヒカルド・アローナ戦を想定して準備していたからなんだ。確かにアローナの野郎も柔術の黒帯だが、いままであまりサブミッションで勝ったところを見たことがなかったので、どちらかというとレスリングやムエタイの練習を重視していたから、ああいった試合になってしまった。すべてはアローナの野郎が逃げたせいだよ。

——アローナのせいですか（笑）。ブスタマンチ戦後、ミルコ・クロコップに「俺にローキックを習っていたら、もっと簡単に勝てただろう」と言われたらしいですね？

ランペイジ　ああ、言われたよ。でも、そんなこと言ったって、俺はまだミルコと練習したことないんだ。それにオオヤマ先生（ランペイジのトレーナー）にムエタイはしっかり習ってるから関係ねぇや。

——ミルコとは個人的に仲がいいんですか？

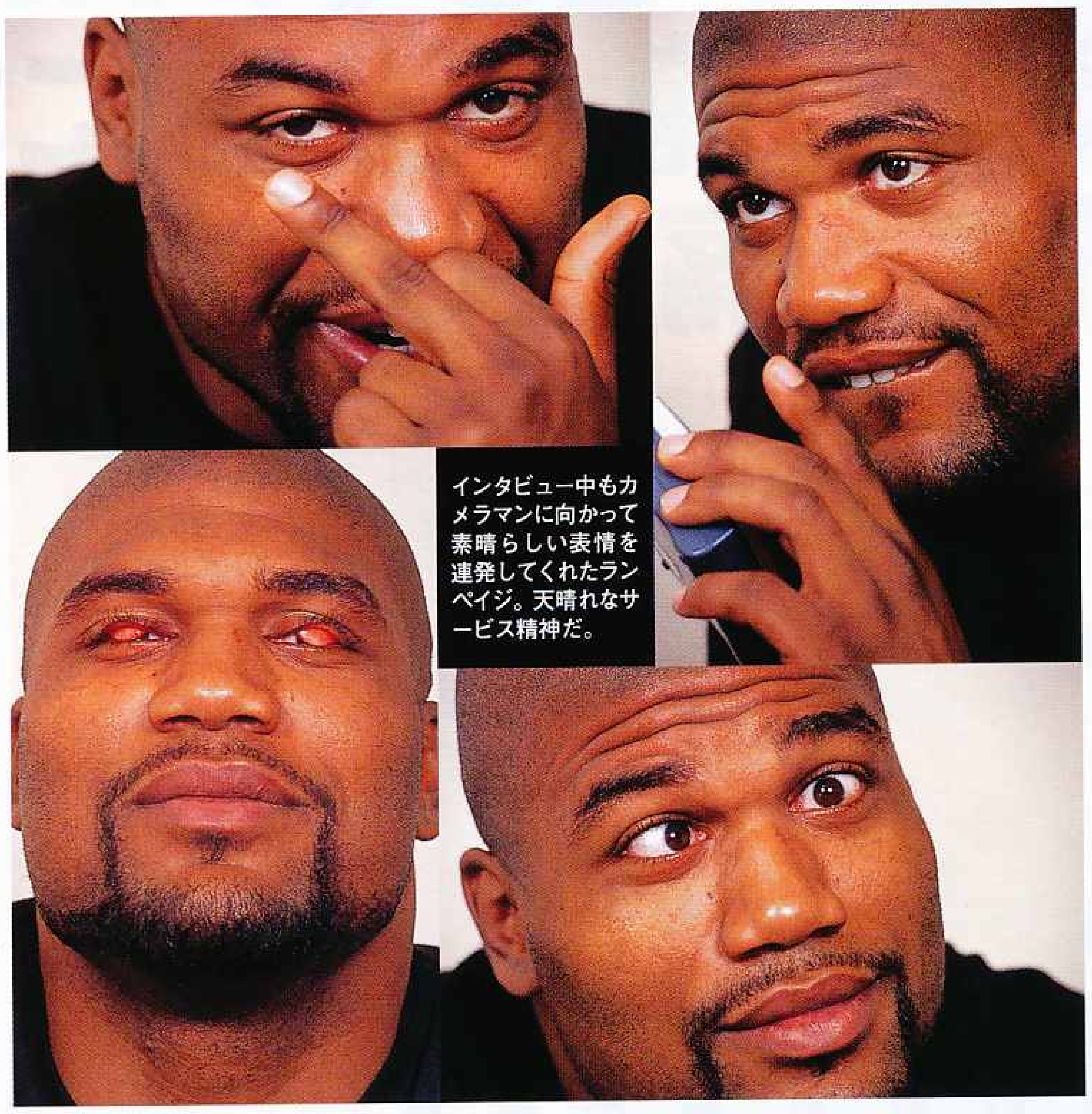
ランペイジ　ソーデスネ（日本語で）。

——どんなきっかけで仲良くなったんですか？

ランペイジ　同じ会場で俺が試合をするときに、けっこうミルコも試合が組まれていて、何度かロッカールームが一緒になったりしていたんだよ。それで話してみて気があったし、オレ自身、彼のクールな闘いぶりが好きだからね。それで自然と仲が良くなったんだ。

——ミルコは「今度、ランペイジと一緒に練習するかもしれない」と言ってましたけど、ランペイジ選手もそういった希望はありますか？

ランペイジ　はい！（日本語で）



インタビュー中もカメラマンに向かって素晴らしい表情を連発してくれたランペイジ。天晴れなサービス精神だ。

〝『PRIDE』の代表〟という意識は持っているが、代表らしい報酬も要求してぇな（笑）

——わかりました（笑）。では、次のグランプリ準決勝の相手はチャック・リデルに決まったわけですけど、チャックの印象を教えてください。

ランペイジ　一言で言うと、モヒカン野郎だな。

——モヒカン野郎（笑）。一言すぎますよ！

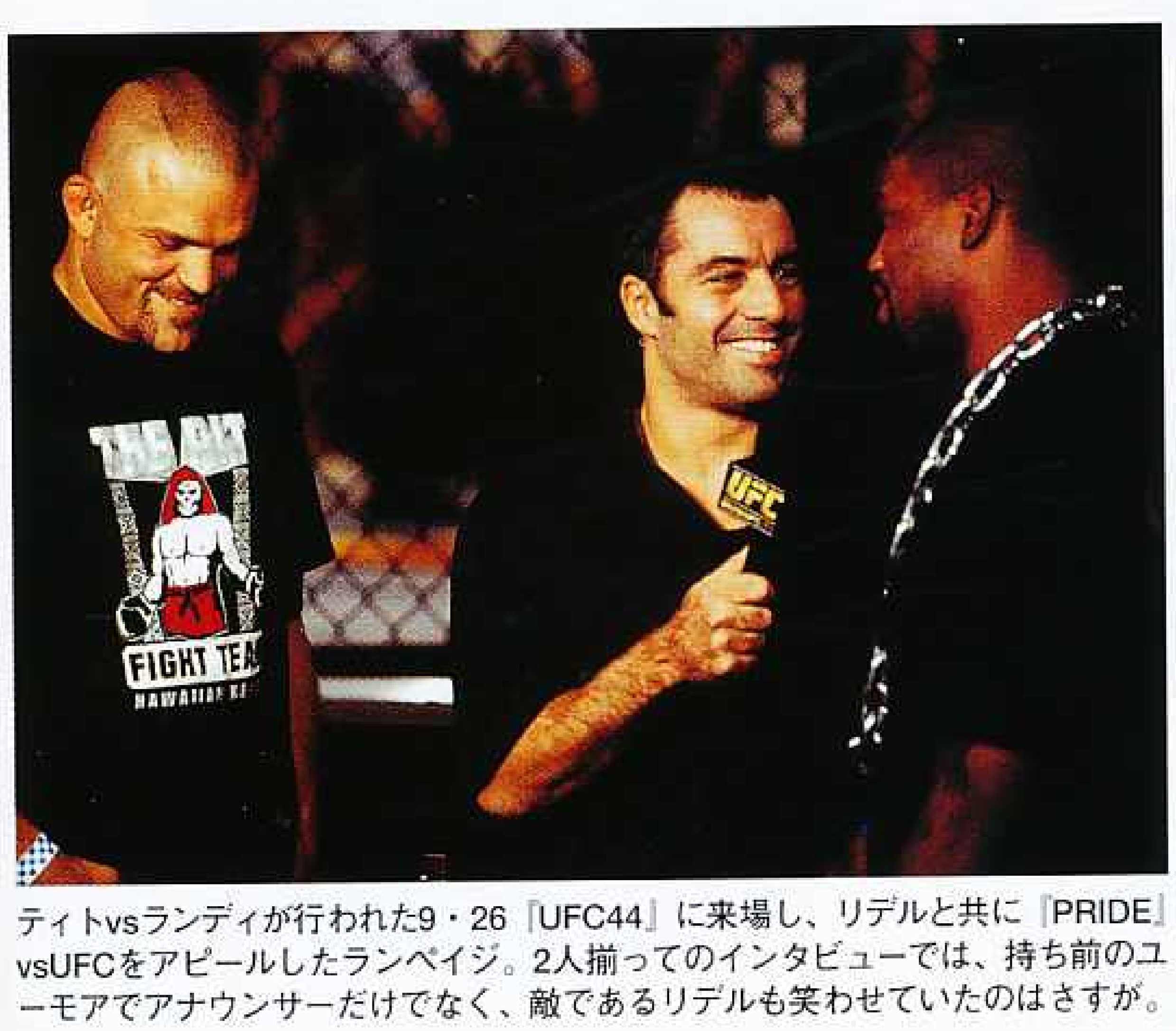
ランペイジ　あとはUFCで長いこと闘ってる、UFCを代表とする選手だということはもちろん認識している。そして俺は『PRIDE』代表だ。俺は『PRIDE』がナンバー1でUFCはナンバー2だと思っているので、この一戦でそこをハッキリさせたい。奴らがどうのこうの言っても『PRIDE』は強い選手の集まりであり、UFCは雑魚の中に数少ない強い選手がいるプロモーションであることは明白なんだ。ま、チャックについては、雑魚の中にいる数少ない強い選手の一人だと思うがね。

——彼の打撃についてはどのように評価していますか？

ランペイジ　誰もが思ってるとおりUFCの中じゃトップクラスだろう。まぁ、負ける気はしないがね。お互い打撃を得意とする者同士の闘いだから、〝これぞ闘いだ〟という激しい打撃戦になるだろうが、チャックにとっては辛く不幸な闘いになり、観客にとっては最高にハッピーな『PRIDE』史上に残るようなファイトになるだろうな。そしてアメリカでPPVを見ている連中も「もっと『PRIDE』が見たい」と思うようなエキサイティングな試合になることは間違いない。そういう試合をすることが俺の役目だろうしね。

——やっぱり『PRIDE』がアメリカ進出するにあたって、「『PRIDE』代表のアメリカ人」として責任は感じていますか？

ランペイジ　まぁ、『PRIDE』アメリカ進出の代表選手と言えば、俺しかいないのはわかってるよ。ただ、それは代表選手らしい報酬を受け取ってからの話だな（ニヤリ）。自分としては俺という存在がアメリカのファンの間でもだんだん認知されてき



ティトvsランディが行われた9・26『UFC44』に来場し、リデルと共に『PRIDE』vsUFCをアピールしたランペイジ。2人揃ってのインタビューでは、持ち前のユーモアでアナウンサーだけでなく、敵であるリデルも笑わせていたのはさすが。

成り上がりの俺は負けたら最後、元の野良犬に逆戻りだ。だから負けられねぇんだよ!

て、人気も上がってきているし、俺のファイトスタイルというのは、アメリカのファンにとって興味がわくスタイルだということもわかっている。あとはこのチャンスに自分の力をどれだけ出せるか、それだけだ。

――いまや『PRIDE』のトップファイターの一人であるランペイジ選手が、2年前までは、UFCではなく、ワンランク落ちるキング・オブ・ザ・ケージ(KOTC)を主戦場にしていたのはなぜなんですか?

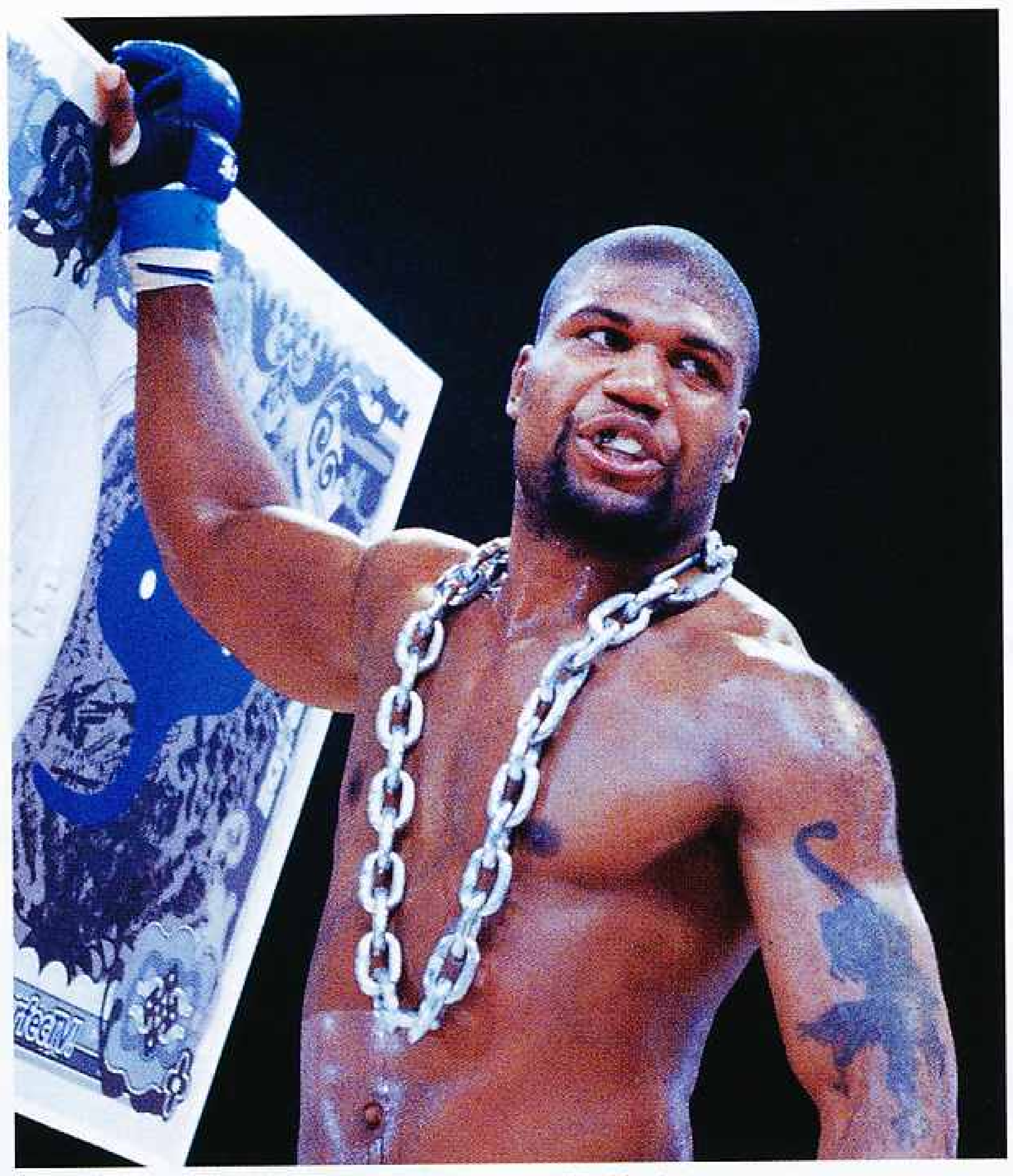
ランペイジ　そりゃあ、早く言えば俺がKOTCに出ていたころは、誰も俺なんかに注目してなかったってことだ。自分で言うのもなんだが、相手にされてなかったんだよ。そんな俺がなぜ世界一の舞台である『PRIDE』に出られるようになったかと言えば、これはみんなもわかっていると思うが、サクラバがヴァンダレイに負けた後の復帰戦ということで、当て馬としてたまたま俺が選ばれたっていうことだろう。ズバリ言っちまうと勝つことが全く期待されていない〝負け役〟だな。だから、あの時のサクラバの相手は俺じゃなくて、誰でもよかったんだよ。その証拠にオファーがあったのも試合の直前だしね。

――う~ん、それは確かにそうかもしれませんね。

ランペイジ　だから俺のキャリアが評価されて『PRIDE』に来たわけじゃない。それがなぜ、いまこういう状況にあるかと言えば、俺はサクラバ戦という一世一代のチャンスをモノにするために死にものぐるいで彼に向かって行き、結果的には負けちまったけど、いいファイトができた。それが周囲に認められて、その後チャンスをもらえるようになって、ここまできたんだ。だから俺は負けられねぇんだよ。負けたら最後、元の野良犬に逆戻りだ。

――そんなことないでしょう。

ランペイジ　でもよ、当て馬として『PRIDE』に呼ばれた俺が、王者になるなんて痛快じゃねぇか。このトーナメントはランペイジ様のサクセスストーリーの舞台なんだよ。



クイントン・"ランペイジ"・ジャクソン
1978年6月20日、アメリカ出身。チーム・オオヤマ所属。『PRIDE.15』で桜庭戦で初来日。当時は無名だったが、その闘いぶりが評価され『PRIDE』レギュラーを獲得。おれよあれよという間にトップグループ入りを果たした。K-1ルールでもアビディを2度に渡りKOし驚かせた。183cm、90kg。

Quinton "Rampage" Jackson

――ランペイジ選手が『PRIDE』で活躍してきた間、チャックはUFCで連勝を続けてきたわけですけど、そのチャックを倒して本国アメリカでも成功したいという思いはありますか?

ランペイジ　う~ん、俺はあんまりアメリカだとか日本だとか考えてねぇなぁ。アメリカのトップというより、ひとりのファイターとしてチャックを評価している。なぜなら彼はいままでいつもKOで勝ってきているし、この階級のベストファイターのひとりだと多くの人に思われている。そのチャックを倒して、俺がアメリカでも日本でもベストなファイターだと、ちゃんと認めさせるいいチャンスだとは思っているよ。

――UFCと『PRIDE』の対抗戦が加熱しつつありますけど、来年あたり、『PRIDE』代表としてUFCに乗り込んでやるという思いはありますか?

ランペイジ　ああ、乗り込んでやるよ。ただ、その前に金額を提示しな。しょぼくれたマネーじゃ出ねぇよ。始めにそう言っとかねぇと、UFCは平気でしみったれた額を言ってくるって話だからな(笑)。

――そのUFCの会場にこの間はいらしてましたけど(9・26『UFC44』)、ティト・オーティズvsランディ・クートゥアー戦はどんな感想を持ちましたか?

ランペイジ　(寝たふりしながら)ぐぉ~ぐぉ~。

――起きてください!

ランペイジ　ハッハッハ。まぁ、あの試合は眠くなるぐらい、1Rから5Rまで同じ展開だったよな。なぜ、ああなっちまったかと言ったら、ランディが完全にティトを上回って、終始ティトの動きを封じてしまったからだろう。あれこそ完封勝利だ。まったく天晴れなクソジジイだよ(笑)。

――来年あたり『PRIDE』代表として、そのランディと闘うこともあるんじゃないですか?

ランペイジ　面白れぇじゃねぇか。きっと、いい試合になるだろう。ま、来年ってことは、ランディも41歳か。それぐらいになりゃ、あの〝絶倫オヤジ〟も少しは衰えるだろうから、俺には好都合だね(笑)。

――では、その前にもちろんグランプリが控えているわけですけど、反対ブロックのシウバvs吉田秀彦は、どっちが上がってくると思いますか?

ランペイジ　たぶんヴァンダレイだろうな。なぜなら、単純に言って総合の世界においてはヴァンダレイの方が経験値が高いからな。

――では、闘いたいのはどっちですか?

ランペイジ　どっちでもいいや。2人とも俺から逃げ回ってる奴らだからな。ただ、どうしてもどっちか選ぶならヨシダだ。

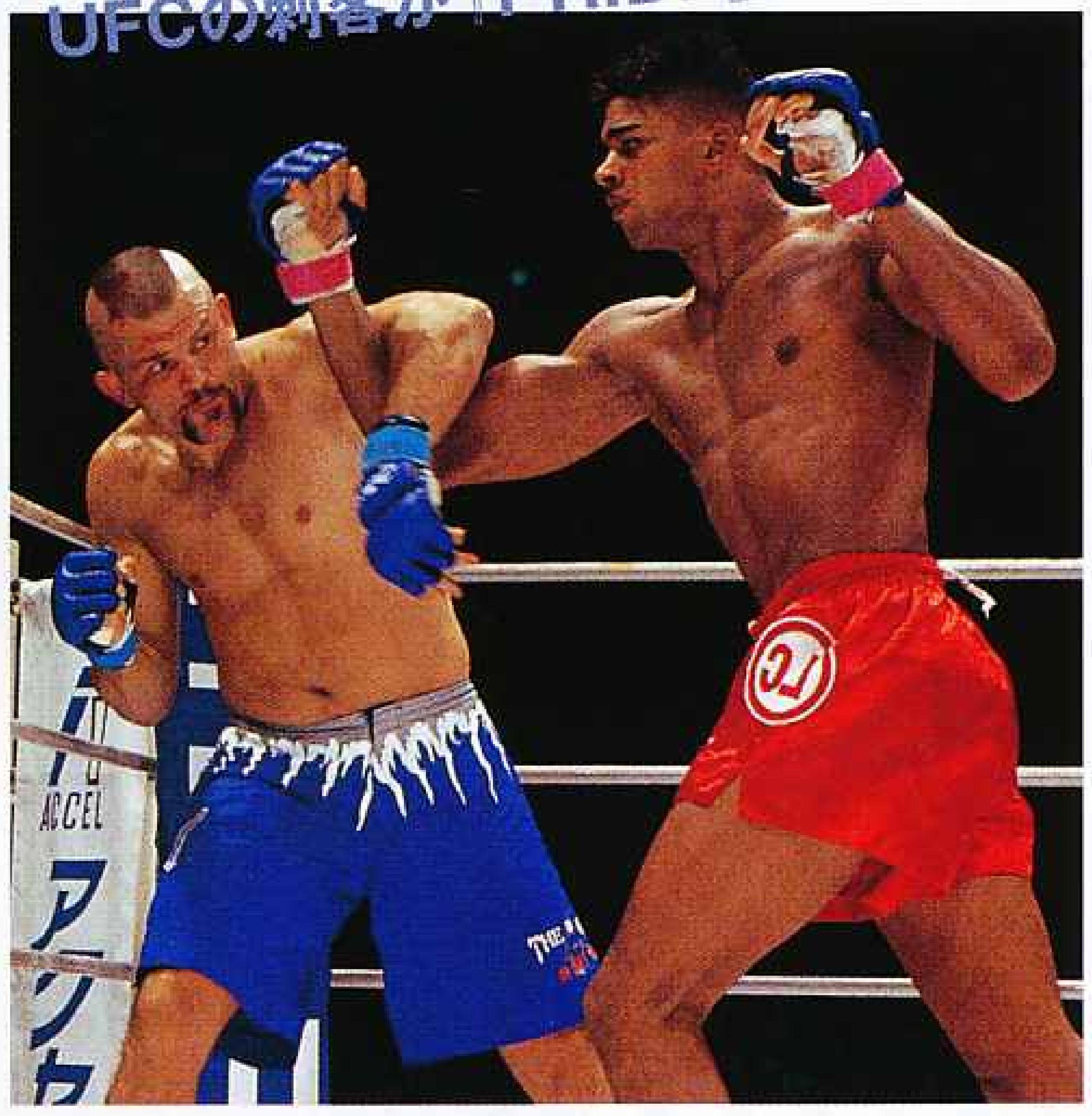
――どうしてですか?

ランペイジ　俺はいまトーナメントとは関係ナシに、PRIDEミドル級王座のトップコンテンダーだと思っている。もちろん、狙うのはミドル級王座だ。でも、たとえ決勝でヴァンダレイに勝ったとしても、チャンピオンになるには、またヴァンダレイとやらなきゃならないだろ? 俺は同じヤツに2度も3度も勝たなきゃならない、回りくどいことは好きじゃねぇんだ。それならヨシダを決勝で倒して、その後タイトルマッチでヴァンダレイを倒してチャンピオンになりたいね。

【03年10月2日/都内・某ホテルにて収録】

Chack Liddell

1回戦でアリスターとの乱打戦を制し
UFCの刺客が『PRIDE』制覇へ王手!


UFCナンバーワンストライカーは
グランプリ制覇よりさらに先を見据えていた!!

「俺の目標は優勝じゃない。PRIDE・GP王者としてランディ・クートゥアーを倒すことだ!!」

UFCから送られてきた最強の刺客はやはり決勝トーナメントに進出してきた。"米メジャーの最激戦区" UFCライトヘビー級戦線でKOの山を築いてきた実力は、オクタゴンからリングに戦場を変えてもまったく揺らぐ気配がない。『PRIDE』vsUFC開戦元年を制するのは、やはりこの男なのか!

聞き手/堀江ガンツ　撮影/森"モーリー"鷹博
designed by matsu（Two three）



"The Ice Man"

チャック・リデル

──さて、11・9『PRIDEミドル級GP』の組み合わせが決まりましたけど、まずは準決勝の相手である"ランペイジ"ジャクソンの印象を聞かせて下さい。

リデル　若くて肉体的にも強いアスレチックなファイター。そしてだんだん試合を重ねる毎に強くなっている、いい選手だと思うね。

──UFCのナンバー1ストライカーと言われるチャックさんから見て、ランペイジの打撃はどのように評価していますか？

リデル　非常にいい状態で打撃を学んでいて、自分の形にうまく取り込んでいるなという感じかな。ただ、こと打撃においては自分の方が経験が上なので、勝っているという自信はある。でも、試合は必ず激しい試合になるだろうね。

──ランペイジはいま上り調子ですけど、ずっとアメリカでトップを張ってきたチャックさんとしては、やはりいろんな意味で自分が格上だという意識はありますか？

リデル　格がどうとかは考えてないが、やはり自分の方がファイターとして総合的に見て上だという自負はあるよ。でも、彼は若いから、これから伸びる時期だと思うので、俺との対戦はひとつのタフな経験になるんじゃないかな。

──お話を伺っていると、なにか非常に余裕が感じられるんですけど、ランペイジはあまり問題にしていないという感じですか？

リデル　いや、そんなことはないよ。自分としてはランペイジの実力は認めているし、非常にタフなファイターであるという認識はある。しかし、だからといってナーバスになるような気持ちはないし、それは他の選手に対しても同じだね。

──では、ランペイジ、シウバ、吉田の3人で一番警戒しているのは誰ですか？

リデル　誰を一番警戒しているというのはないなぁ。3人とも素晴らしいファイターだから、誰とでも闘ってみたいよ。中でもヴァンダレイ・シウバとはゼヒ闘ってみたいね。

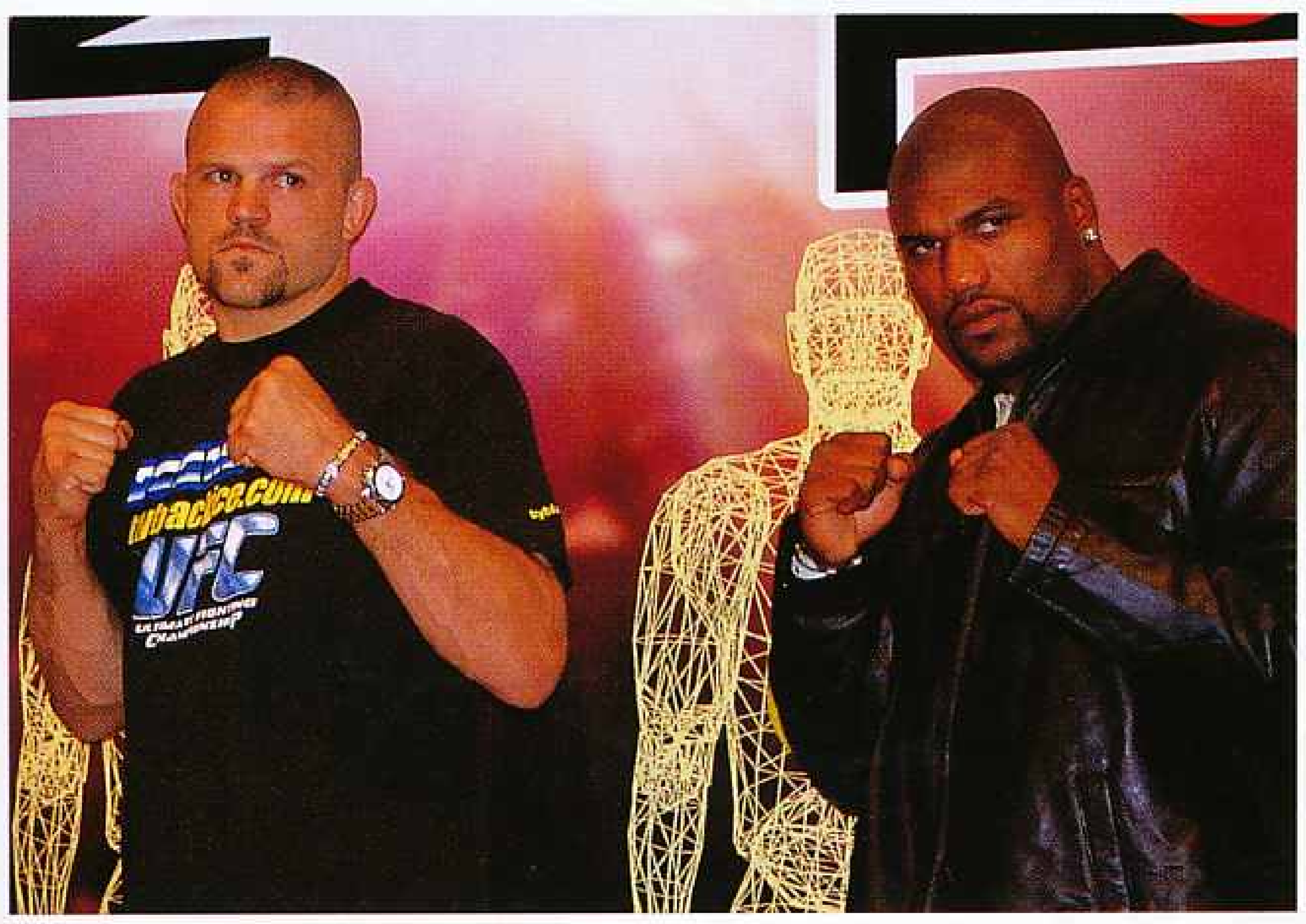
──それはやはり『PRIDE』のチャンピオンだからですか？

リデル　YES。

──UFCのトップファイターであるチャック選手から見て、シウバのチャンピオンとしての実力はどのように感じていますか？



9・26『UFC44』でティト・オーティズを大差の判定で下し、UFCライトヘビー級"真の王者"となったランディ・クートゥアー。40歳にして進化し続ける姿はまさに超人だ。リデルも標的にするこの男も来年は『PRIDE』のリングに初登場が噂されている。



シウバvs吉田が日本のファンがもっとも望むカードなら、このリデルvsランペイジはまさにアメリカのファンに向けられた好カード。両者ともレスリングとボクシングに長けているだけに、好勝負が期待される。このカードならオクタゴンでも見てみたい。

ランペイジはこれからの選手。俺との試合は彼にとって非常にタフな経験になるだろう。

リデル　自分がUFCの人間であるとか、そういうことは抜きにして言えば、ヴァンダレイは非常に素晴らしいファイターだし、もし闘ったら激しい打ち合いのエキサイティングな試合ができる相手だと思う。そして能力的にも素晴らしいものを持っているホントにグレートなファイターだと思うよ。

──では、これは比べるのは難しいと思いますけど、UFCライトヘビー級王者ランディ・クートゥアーとヴァンダレイはどちらが上だと思いますか？

リデル　ランディとヴァンダレイではまったく違うタイプのファイターだから、単純に実力を比較するのは難しいけれど、自分の印象としては、やっぱりランディの方が総合的には上だと思う。

──それはオクタゴンではなく、『PRIDE』のリングでも同じですか？

リデル　オクタゴンでもリングでもランディの方が上だと思うよ。

──先日もティト・オーティズを完封しましたけど、それぐらいいまのランディは完成されたファイターですか？

リデル　やっぱりランディは凄くタフだし、あの年齢（40歳）で試合のたびに成長している選手なので、そういった意味でいま一番パーフェクトに近いファイターだと思う。そして、次に自分が再戦できるのなら、最もやってみたい相手だし、その時期はそんなに遠くないと思う。

──となると、やはりPRIDE・GP王者として、UFC王者のランディと闘いたい気持ちが強いんじゃないですか？

リデル　俺が『PRIDE・GP』に参戦を決めたときから、最も望んでいたのがまさにその状況だよ。だから多くの選手はグランプリで優勝することが最大の目的なんだろうが、自分にとってはその先にあるランディとの対戦こそが本当のゴールなんだよ。ただ、グランプリを軽視しているわけではないよ。これだけはハッキリと言っておきたい。

──わかりました。では、話は変わります

ヨシダが衣を着てこようが、俺は自分の距離で闘い寝技になる前にパンチでKOするだけだ！

が、来年、『PRIDE』もアメリカに進出することが決まっていますが、『PRIDE』はアメリカでも成功すると思いますか？

リデル　『PRIDE』がアメリカで成功する確率は高いと思う。元々日本でそれだけのものを培ってきたと思うし、一番大きな要因として素晴らしいファイターが揃っているということもある。ただ、現状では、日本とアメリカのファン層の違いやもろもろの問題はあるだろうが、それでも成功する確率は高いんじゃないかな。

――逆にアメリカ進出で障害となるのは何だと思いますか？

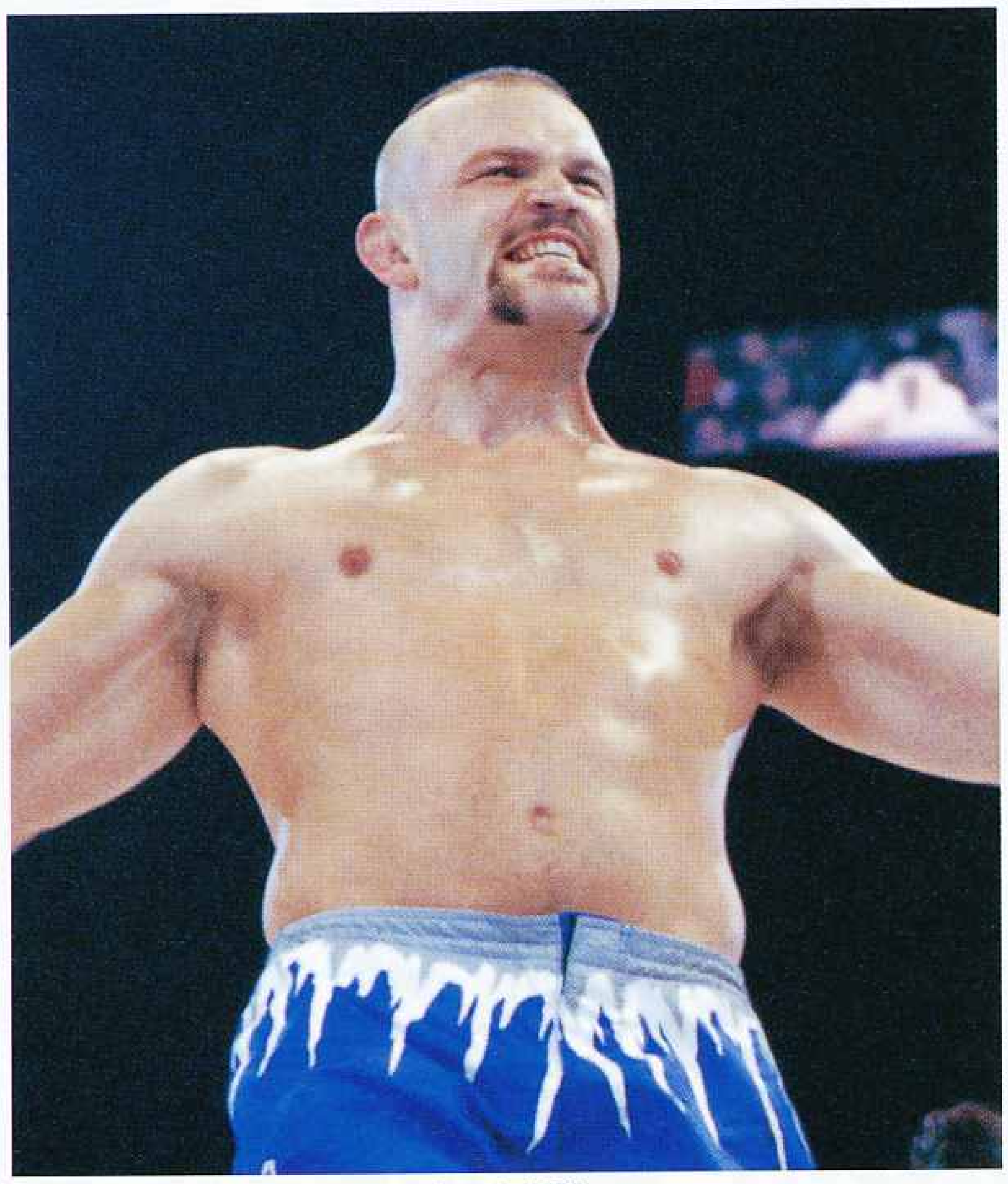
リデル　まず一番苦戦するという部分は、やはり日本における知名度に比べて、アメリカでの知名度はほぼ無いに等しいということだね。だからプロモーションをどのように行っていくのかが一番の課題だと思う。それからアメリカのファンというのは、かなりコアなファンが多いんだ。

――へぇ、そうなんですか。

リデル　日本は一般大衆が楽しんでいてくれるが、アメリカではそういったファンは無いに等しくて、コアなファンが格闘技を支えているという現状があるので、彼らに対してどう訴えていくかが一つの課題であり、一番必要な条件だろうね。だからUFCとの交流というのは、アメリカで成功するための一つの鍵になるんじゃないかな。

――チャックさん個人としては、この交流はいいことだと思いますか？

リデル　そうだね。自分としては、この交流は『PRIDE』だけでなく『PRIDE』とUFC双方にメリットがあることだと思うからね。やっぱり今のUFCの現状において、ヘビー級の選手の層が薄いという問題があるんだが、『PRIDE』には素晴らしいヘビー級ファイターが数多く揃っているので、彼らがオクタゴンに上がってくるなら、それはUFCにとって非常にいいことだと思う。そして『PRIDE』にとっては、アメリカに進出においてPPVでの成功というのが大きな課題となるだろうけど、その部分についてはUFCがもう先に作り上げているので、それを利用することは『PRIDE』にとって大きなメリットとなるだろうから、この交流は双方にとっていいことだと思うよ。



チャック・リデル
1969年12月17日、アメリカ出身。ピットファイトチーム所属。ランデルマン、ビクトー、ブスタマンチ、ババルといった強豪を次々と倒していったUFC最強のハードパンチャー。今年6月にR・クートゥアーに敗れたが、その実力は誰もが認めるところ。188cm、90kg。

Chack Liddell

――ところで、先ほど「UFCはコアなファンに支えられている」という話がありましたけど、そういったコアなアメリカ人ファンの間で吉田選手の人気がないという話をよく聞くんですけど、それはなぜなんでしょうか？

リデル　これはボクが周りから聞いたりした個人的な見解だけど、たぶんこれまでヨシダが闘ってきた相手は、アメリカのファンにとってあまり知名度がない選手が多いというのがその理由じゃないかな。

――でも、吉田選手のデビュー戦はUFCのレジェンドであるホイス・グレイシーですよ。

リデル　確かにホイスとの試合はアメリカのファンからも注目されてはいたけど、アメリカのファンにとって〝ファイト〟というのは、あくまでMMA（総合格闘技）なんだ。ジャケットマッチというのは、ひとつの競技ではあるけど別物という考えなんだよ。それからやはり、ホイスはタップをしていないということも大きいだろう。その件については、別にヨシダが悪いわけじゃないから気の毒だけどね。

――やっぱり、あのホイス戦のイメージが強いんですね。

リデル　ただ、いまちょっとネガティブなことを言ったけど、別にそれはヨシダの評価が高くないというわけではないし、私自身はいいファイターだと思うよ。

――吉田選手が衣（ぎ）を使って絞めたりすることについて賛否両論起こってますけど、チャックさんは、吉田選手が衣を使うことについてどう思いますか？

リデル　自分としてはズルいとかそういった感想はないね。もともと衣というのは、着て闘うと不利になるものなんだから。彼はその不利な条件を有利なものに変えているだけであって、ルールでも認められていることなんだから、まったく問題にしてないよ。

――決勝戦で吉田選手と闘うこともあると思いますけど、彼の衣や柔道式の寝技を警戒したり、研究したりはしていますか？

リデル　あまり衣のことを気にはしていないから、それ用の特別な練習はしていないよ。俺としては誰と闘っても自分の距離を取って目一杯パンチと蹴りを出していくだけだからね。自分のスタイルは崩したくないし、もちろん寝技になる前に倒す自信もある。

――では最後に、グランプリではチャックさん個人の闘いという以上に、UFC vs『PRIDE』という見方をされると思いますけど、やはりUFC代表としての責任は感じていますか？

リデル　まぁ、もともと自分にとって勝つということは、試合において必須条件だと思っているので、勝敗に関してはいつもどおりだが、やはり一つのエキストラな気持ちとして、UFCの代表として闘わなければいけないという責任感は感じているよ。これからより交流は活発になりそうだし、まず俺が優勝してUFCとチャック・リデルを大いにアピールしたいね。

【03年10月2日／都内・某ホテルにて収録】

PANCRASE HYBRID WRESTLING





ミドル級キング・オブ・パンクラス タイトルマッチ

ネイサン・マーコート VS **ヒカルド・アルメイダ**
(コロラドスターズ) (ヘンゾ・グレイシー柔術アカデミー)

ライトヘビー級キング・オブ・パンクラス タイトルマッチ

菊田早苗 VS **近藤有己**
(パンクラスGRABAKA) (パンクラスism)



11.30 パンクラス両国 主要カード決定!!

メインは菊田vs近藤 最強決着戦!!

アルメイダ、ミドル級王座に挑戦! 新日本は誰が出てくるのか!?

「私の方から話すことはほとんどありません。11月30日のメインイベントはこのカードでやらせていただきます!」

今年2回目の両国大会、尾崎社長が自信を持って発表したのはパンクラス頂上決戦、菊田早苗vs近藤有己! 5月の初対決ではドローに終わっている両者が、決着戦に臨むこととなった。2人の前回の試合は、共に8月の両国大会。菊田はエルヴィス・シノシック相手に勝ったものの一本を逃してうなだれ、近藤はジョシュ・バーネットに敗れはしたが体格差を跳ね返して大善戦、大きく評価を上げている。時の勢いは近藤にあるが、果たして結果は……。

菊田は「ベルトを持ってUFCなりPRIDEなり外に出ていきたい」、近藤は「勝ってジョシュに再挑戦したい」と語り、両者共が〝次〟を見据えての決着戦となる。

またミドル級タイトルマッチとして、パンクラス参戦以来4戦全勝と破竹の勢いのヒカルド・アルメイダがネイサン・マーコートに挑む。「誰か2人と闘える日本人はいないのか?」という感じもあるが、最強対決であることに間違いはない。ウェルター級タイトルマッチでは王者・國奥麒樹真に芹沢健一が挑戦。芹沢は今年34歳ながら地道に実績を積み上げ、念願の王座挑戦だ。

その他、前回は金的蹴りで反則決着となった郷野聡寛vsニルソン・デ・カストロのリマッチ、無敗のフェザー級ネオブラッド王者・前田吉朗vs世界屈指の寝技師バレット・ヨシダ戦がラインナップ。

現在のところ初参戦選手はバレットのみ。パッと見、横浜文体クラスのカードに思えるが、いわば現有勢力でどこまでインパクトを残せるか、〝求心力〟で勝負する形で、パンクラス本来の底力が問われる大会になるだろう。これに加えて〝vs新日本〟路線や新たな大物の参戦はどうなるのか? 10周年のパンクラスからまだまだ目を離すな!

両国の前に後楽園あります!

10・31後楽園ホール(18:30)

郷野聡行vs渡辺大介
竹内出vs石川英司
ロン・ウォーターマンvs石井淳
窪田幸生vs中西裕一
北岡悟vs関直喜
高森啓吾vsハー・スン・ジン
和田拓也vs小沢稔
志田幹vs和知正仁

[問い合わせ]
パンクラス 03-5792-0815



「パンクラス最強」の呼び声もあるH²Oマンが久々に登場! ジョシュ・バーネットの無差別級王座に挑戦しても面白い実力者だ。

PANCRASE2003 HYBRID TOUR

11・30(16:00)
両国国技館

ウェルター級 キング・オブ・パンクラス タイトルマッチ

國奥麒樹真 vs **芦澤健市**
(パンクラスism) (和術慧舟會駿河道場)


郷野聡行 vs **ニルソン・デ・カストロ**
(パンクラスGRABAKA) (シュートボクセ)

前田吉朗 vs **バレット・ヨシダ**
(パンクラス稲垣組) (グラップリング・アンリミテッド)

他、全8試合予定

[入場料金]
VIP(最前列のみ、パンフレット付)¥30,000-
※パンフレットはVIP席専用ゲートにてお渡し致します。
SS ¥12,000- A ¥8,000-
B ¥5,000- 2F-A ¥7,500-
2F-B ¥5,500-

[問い合わせ]
パンクラス 03-5792-0815



K-1 CRISIS

K-1が大変なことになってるので突然ですが大特集



K-1新世代の雄、ボブ・サップの発言に激怒！

「サップは身体が大きすぎる割には脳みそが小さいみたいだね」

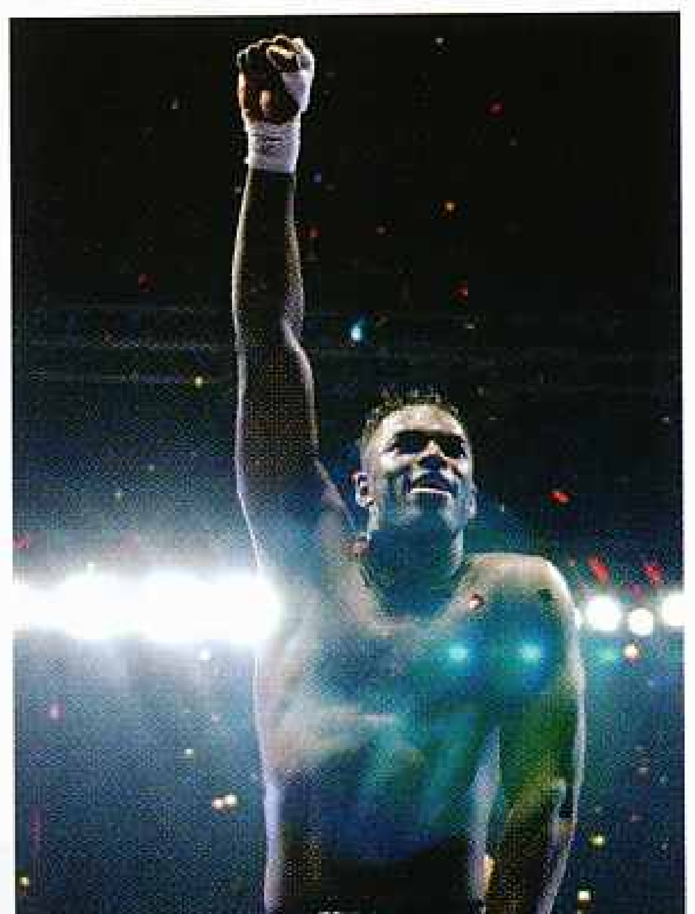
K-1デビュー以来「将来必ずGPを制覇する逸材」と呼ばれているボンヤスキーが、初の決勝大会進出を決めた。だが開幕戦のサップ戦はビーストの暴走によって反則勝ちという不本意な結果だった。サップ戦の真相、そして「レミーのアクションは大げさ」発言にどう答える!?

K-1 CRISIS

聞き手&文／橋本宗洋
構成／堀江ガンツ
撮影／平工幸雄
designed by matsu (Two three)

レミー・ボンヤスキー

Remy Bonjasky



サップに事実上の圧勝！K-1にニュースター現る

サップはKO負けが怖くて苦し紛れに反則を犯したんだろう。「ビーストの本能でやった」なんて笑わせるよ。

──決勝大会進出が決まりましたけど、サップ戦は「おめでとうございます」と言っていいのか「残念でした」と言っていいのか（笑）。今はどんな気分ですか？

ボンヤスキー 嬉しいのと残念なのと、どっちの気持ちも同じくらいずつだね（笑）。闘ってる側だけじゃなくて、ファンのみんなにとってもガッカリな内容だったと思うよ。やっぱり見たいのは、クリーンで見ごたえのある試合だよね。

──サップ選手が暴走する直前までは、まさに見ごたえのある試合でしたけど、作戦通りに闘えましたか？

ボンヤスキー 考えていた通り、うまくできたと思うよ。自信もあったし、試合をやっていても「勝てる」と感じたしね。逆にサップは「このままでは負ける」と感じたんじゃないかな。だから、苦しまぎれであんな反則のパンチを出したんだと思う。あれがなかったら2Rの後半か3Rの早い段階でKOできていたはずだよ。サップは逃げたんだよ、KO負けが恐くて。

──サップ選手の最大の武器は体格とパワーだと思うんですけど、実際に体感してみていかがでしたか？

ボンヤスキー たしかにサップは物凄くデカイし、パワーもあったね。動きにもスピードがあった。でもパンチの威力という面では、ミルコやレイ・セフォーのほうがよっぽど上だよ。

──パワーとパンチ力は別物なんですか？

ボンヤスキー そうだね。ミルコやセフォーは筋肉の量ではサップに劣るけど、確かなテクニックを持ってるから。正しい打ち方をしなければ、パワーを100％活かすことはできないんだ。

──じゃあサップ選手にはまだムダが多いというか。

ボンヤスキー まったくもってその通り（笑）。体が大きい分、スピードとキレのあるパンチを打つのが難しいんだろうね。もっとウェイトを落として、動きやすい体にしたほうが爆発的な力が出るし、鋭いパンチが打てると思うよ。

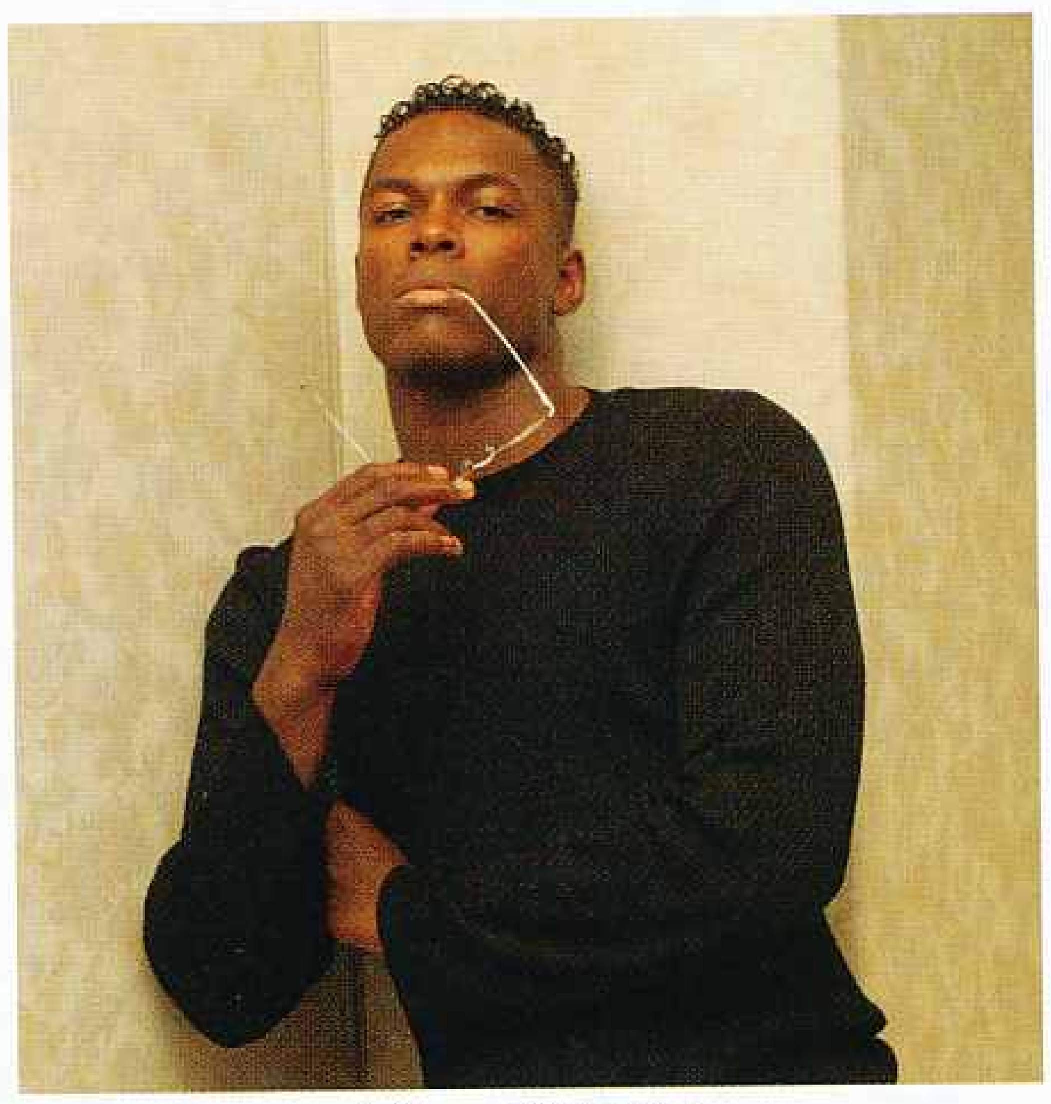
A・マナート（メジロジム会長） こんなアドバイス、サップには言うなよ（笑）。

──分かりました（笑）。サップ選手はもっと小さくなったほうがいいと（笑）。

ボンヤスキー 今はデカすぎだね。まあ彼はちゃんと格闘技のトレーニングをするようになって1年ちょっとだから、全てのことを学ぶにはまだ時間がかかるさ。でもこれから練習と経験を積んで正しいテクニックを身に付けたら、本当に完璧なチャンピオンになる可能性もあると思うけどね。

──最後の反則のパンチですけども、サップ選手は「ビーストの本能で出てしまった」と言っていたんですけども（笑）。

ボンヤスキー フッ（鼻で笑う）。



レミー・ボンヤスキー
1976年1月10日、オランダ出身。元銀行員にしてファッションモデルという異色の経歴を持つオランダ新世代の旗手。得意技は飛びヒザ蹴り。192cm、100kg。

そんなわけないって。本能でやったんだとしたら、一発だけで終わるわけがない（笑）。本当にキレてるんだったら、ボクの上に乗っかって20発でも30発でも殴ってきたはずだよ。

──たしかに一発だけってことはないですよね（笑）。

ボンヤスキー スタミナも切れて、負けそうだったんでああやって逃げたんだよ。例えばナカサコとやった時なんて、乱闘になるまで何回も殴っていったし。ああいうのがビーストのやり方だろう？　まあ、あの時もパフォーマンスだったのかもしれないけどね（笑）。今回の試合は、ビデオで見てもわざとやったのは明らかだよ。だってボクが倒れてから、一瞬間をおいて殴りにいってる（笑）。

──それはビーストとは言えないと（笑）。あの無防備な、ルールにない状態で顔面にパンチをもらうのは、どんな衝撃があるもんなんですか？　やっぱり普通のKOパンチとも違いますよね。

ボンヤスキー まったく予測してない状態でやられたからね。言ってみれば脱力した状態だから、そこに強い衝撃が加えられたら首が折れる可能性だってあるんだ。立って闘っている時なら、構えてるし大丈夫なんだけど、マットに寝た状態でパンチを受けるっていうのは、K―1ではありえないことだからね。だから普通にKOされる以上のダメージがあるんだ。

──サップ選手は、試合の翌日に「レミーのリアクションは大きすぎる」って言ってたんですけども……。

ボンヤスキー よく言うよ（苦笑）。あの段階ではボクが圧倒的に優勢で、サップは負ける寸前だったんだよ。そんな状態で、自分から試合を投げるわけがないって。結果的にああいう形での勝利になってしまったけど、本当ならクリーンに闘って、キッチリとサップを倒したかったんだから。「相手の反則で続行不可能」になるための練習なんてしたことないよ（笑）。

──リアクションの練習とか（笑）。

ボンヤスキー 僕だってああいう結果は望んでなかったんだ。例えばアクシデントで出血して試合が止まってしまうとか、そういうのだって嫌なもんだからね。まして反則パンチで続行不可能なんて、勝っても満足できるわけがない。

──しかもボンヤスキー選手は勝つ寸前だったわけですからね。

ボンヤスキー それなのに試合を止めなきゃいけないことが、どれだけ残念だったか。

──ただ、K―1イベントプロデューサーのミスター・タニカワも「できれば試合続行してほしかった」って発言してたんですよ。

ボンヤスキー それなら僕とサップの試合を改めてマッチメイクすればいいんじゃないかな。そしたらボクの本当の実力が分かってもらえると思うよ。言葉じゃなくて、リングの上ではっきりとサップと決着を付けるまでさ。

──サップ選手はしばらく総合路



レミー初戦の相手は、バンナ欠場により繰り上げ出場となったピーター・グラハム。実力的にはレミー有利は動かないが、“リザーバー”の存在も考慮に入れておかねばならないだろう。



28.5％もの瞬間視聴率を記録しただけに、説明の必要もないかも知れないが、ボンヤスキーはワールドGP1回戦でボブ・サップと対戦。コンビネーションを駆使して、サップをKO寸前に追い込むが、ダウンを奪った直後にサップが暴走し、不透明決着となってしまった。

線でいくみたいですけどね。

ボンヤスキー　はっきりさせておきたいのは、反則をしたのはサップの方だっていうこと。ボクは試合を止めたくて止めたわけじゃない。

――わかりました。ところで、サップ選手はボンヤスキー選手との試合の2日後に新日本プロレスの東京ドーム大会でプロレスの試合をしましたよね。ボンヤスキー選手もご覧になってましたけど、いかがでしたか？

ボンヤスキー　ボクも子供の頃からプロレスは好きだったし、ハルク・ホーガンも見られてとても楽しかったよ、アミューズメントとして。

――アミューズメントとして（笑）。サップ選手は大人気でしたけど、どんな感じがしました？

ボンヤスキー　そうだなぁ……。

――「お前、おとといオレにボコボコにされたじゃねぇか！」とか（笑）。

ボンヤスキー　まぁ別物だからいいんだろうけどね。でもサップは頭が混乱してたんだと思う。ボクとの試合でも、プロレスみたいなことをやっても大丈夫だと勘違いしたんじゃないか？　ああいうのはよく考えてやってもらいたかったね。体に比べて脳みそが小さいのかな（笑）。

――サップ選手以外にもＴＯＡ選手が出たり、11月の横浜大会ではモンターニャ・シウバ選手が出たりとＫ―1ファイターがプロレスに進出する大きな流れができてますけど、どう思われますか？

ボンヤスキー　それについてはまったく構わないと思うし、ファイターそれぞれが自分に向いていること、やりたいことをやればいいんじゃないかな。まぁＫ―1で反則パンチを出したりしない限りはね（笑）。

――クククク（笑）。

ボンヤスキー　Ｋ―1とプロレスが違うものだってことを、はっきり認識した上でやってくれれば。プロレスでは反則をしようがレフェリーの言うことを無視しようが構わないんだろうけど、Ｋ―1は違うから。ルールを守って、お互いのことをリスペクトし、積んできた練習の成果を活かし合うのがＫ―1というものなんだ。

Remy Bonjasky

――いよいよ次は決勝大会ですけども、一番のライバルになりそうなのは誰ですか？

ボンヤスキー　ピーター・アーツかアレクセイ・イグナショフだろうね。なにもセフォーが弱いとか、そういうつもりはないんだけど、アーツとイグナショフはボクとバックグラウンドが一緒なんだ。だから相手としては危険だと思う。

――バックグラウンドというのは、ムエタイ、タイボクシングですね？

ボンヤスキー　そう。同じタイスタイルがベースなので、蹴り技だとか武器が似てくるんだ。レコとかパンチ主体の選手には、僕の蹴りが100％活かせると思うんだけど、同系のアーツとかイグナショフが相手だと持ち味がぶつかり合うことになるからね。

――1日3試合ということでスタミナとかケガという要素もありますけど、飛びヒザとか派手な技も見られそうですか？

ボンヤスキー　ジャンピング・ニーはチャンスがあれば出していきたいね。もちろんローキックとかハイキックとかいろんな技を駆使していくけど、ジャンピング・ニーで勝てたら最高だよね。

―Ｋ―1回戦の相手はピーター・グラハム選手ですけど、決勝大会はいつも欠場者とか棄権が出たりして、相手が変わる可能性もありますよね。

ボンヤスキー　それは常にあり得ることだからね。慌てないようにしておくよ。去年だって開幕戦で負けたホーストが出て、しかも1回戦でサップに負けたのに最後は優勝たよね。大会に臨むにあたって「何が起こるか分からない」というのは考えておかなければいけないし、運を味方につけて闘うことが大事だと思う。まぁバッドラックはサップ戦で使い果たしたろうから、大丈夫だと思うよ（笑）。

【03年10月15日／都内・某ホテルにて収録】

K-1 CRISIS

聞き手・文／橋本宗洋
構成／堀江ガンツ
撮影／平工幸雄
designed by matsu（Two three）

「ない力を振り絞って今さら僕が打ち合ってもしょうがないでしょう」

〝万年日本最強の男〟が語るオレ流ワールドGPの闘い方



I am 4 Times Campion

LIMITATION JAPAN・GP



本誌初登場

武蔵

MUSASHI

試合のたびに物議を醸し、そのファイトスタイルが叩かれることの多い武蔵。先だってのジャパンGPでは、優勝したにもかかわらず「すいませんでしたっ！」と観客に頭を下げた。だが、日本最強のヘビー級K-1ファイターであることもまた事実。東京ドームでは全て1回戦負けと不本意な結果が続いているが、果たして今年は……。"武蔵流"の真実に迫る！

――K―1ジャパンの4タイムス・チャンプがついに初登場ということで（笑）、よろしくお願いします。

武蔵 あ、4回優勝でしたっけ。あんまり数えたことないんですけどね（笑）。

――ジャパンではホントに図抜けた状況なんですけど、いよいよ正念場のワールドGPが近付いてきました。

武蔵 そうですね、やっぱりここが本番ですからね。

――これまでのGPでは結果が出せていませんでしたけど、普段の力が出せてなかったからっていう部分が大きいと思うんですよ。

武蔵 やっぱり特別な舞台なんで、ちょっと呑まれてしまうようなところもありましたね、堅くなるっていうか。いつも作戦と全然違うことやって、うまく闘えてないっていうのが正直なところで。作戦通りに闘ったら絶対に勝機はあったと思うんですけど。

――そろそろドームとか、外国人に囲まれる状況は慣れました？（笑）。

武蔵 全然大丈夫です（笑）。

――今度の試合に向けて「パンチを練習したい」っていうお話でしたけど……。

武蔵 そうですね、はい。

――ジャパンGPの一夜明け会見でも谷川プロデューサーからそういう話が出ましたよね。でも武蔵選手本人は会見に「タイに練習行こうかと思って」って言ってたらしいじゃないですか（笑）。

武蔵 あぁ～、そうでしたね（笑）。

無理をしないことが大事。バタービーン戦のベルナルドの戦法は正しいですよ。

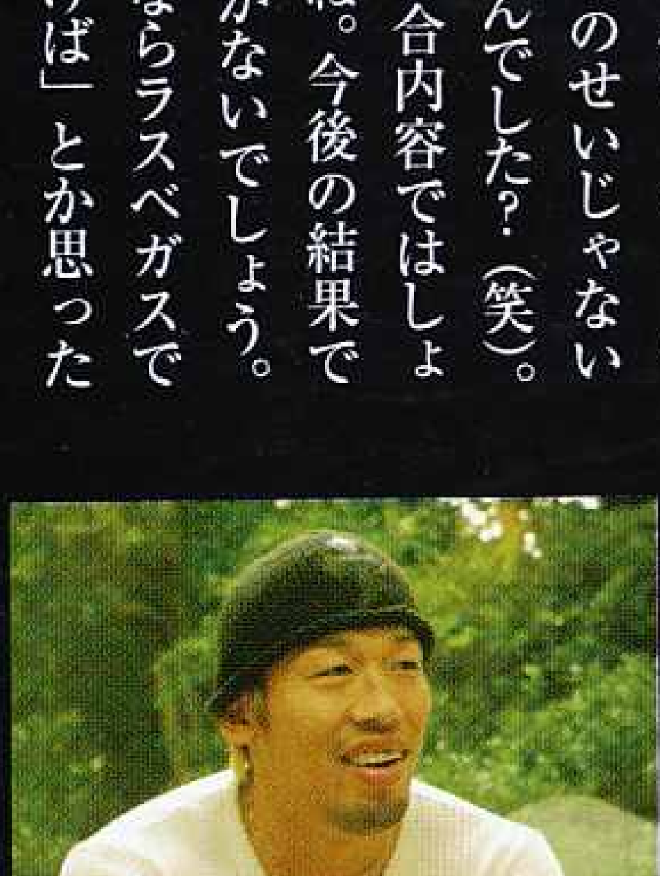
——やっぱりパンチより、タイで存分にミドルキックを磨こうと（笑）。
武蔵　もうタイには行ってきたんですよ（笑）。ボクシングの世界チャンピオンのトレーナーに教わってきました。
——あ、じゃあボクシングの技術もかなり。
武蔵　パンチから蹴りにつなげるコンビネーションみたいなパターンですね。パンチの技術を学んだからって、打ち合いができるようになりたいとは思ってないんですよ。
——はいはい。
武蔵　逆にパンチを学ぶことによって相手のパンチも見えてくるし、そしたら自分の蹴りも活かせるかなという。攻撃でも、1・2・ローより1・2・3・4からローを蹴ればより効果的じゃないですか。
——あくまで今のスタイルを活かすためと。
武蔵　K—1って強打者ばっかりですからね、今から「打ち合いがしたい」とはさすがに（笑）。
——今の状況で「打ち合って、なおかつ勝て」っていうのはしんどい注文ですよね（笑）。
武蔵　無理っていうか、自分が壊れる可能性が高いんで（笑）。しかも今、ボクシングの強豪がどんどんK—1に来ようって状況で。パンチのプロ相手にして「パンチでやりあおう」って、そんなわけないんで（笑）。
——そういうことですよね（笑）。
武蔵　ベルナルドとバタービーンの試合だってそうじゃないですか。マイナー団体とはいえボクシングの世界チャンピオンじゃないですか、ベルナルドは。それが4回戦ボーイのバタービーンに「なんでパンチでやり合わないんだよ」って（笑）。だからそれくらい危険なんですよ。
——本職のボクサーのパンチは。
武蔵　ボクも頭は良くないですけど、それは分かってるんで（笑）。あれはベルナルドが正しかったと思いますよ。やっぱり無理をしないっていうのが大事で。
——ましてトーナメントはそうですよね。



毎年恒例グランプリ組み合わせ抽選会で武蔵が引いた番号は後ろから3番目。指名できるボックスは、セフォー、イグナショフ、レコという優勝候補しか残されていなかった……。これには谷川イベントPも「武蔵選手はホントにくじ運が悪いですね〜」とコメント。

武蔵　最終的に表彰台に上がったヤツが印象に残るんですよ。
——武蔵選手は、ファイトスタイルについていろいろ言われることも多いですよね。こないだのジャパンGPでも、ターザン山本さんとかは「ジャパンはもう解散しろ！」とか「武蔵は賞金を返上しろ！」って言ってたんですけど（笑）。両プロデューサーからもヤリ玉にあげられるし。まあ打ち合い、倒し合いを求められるんでしょうけど「それはオレのスタイルじゃないじゃん。オレに求めるなよ」みたいな気持ってないですか？
武蔵　ジャパンGPはドームに行くのが最優先なんですよ。ジャパンで勝つのが目標じゃなくて、そこからやっとスタートなんで。トーナメントは優勝してナンボですからね。いくら1回戦でいい試合しても、負けたら忘れられるんですよ。しかも1回戦はボクだけ外国人だし（笑）。
——ジャパンなのに（笑）。
武蔵　（モンターニャ戦で）完全燃焼したかったんですけど、それで負けたら叩かれるし、五分るわけにもいかないし。ボクは優勝が最低条件なんで。他の日本人選手は日本人同士でしのぎを削り合ってる状態なんで、ボク的には「いいなぁ」って思うこともありましたよ。
——決勝の藤本戦は納得いってないみたいでしたけど……？
武蔵　藤本って、普段から練習で倒してるんですよ。だから向こうも来ないんですよね。こっちはカウンター取るつもりで「来いよ！」って思ってたんですけど全然来なくて。藤本は「ブンブン丸」とか「スタミナなんて必要ない」って言ってるんだから、攻めなかったらしゃあないやんって。それで「ああ、もうこれはいくしかない」って3Rから自分から自分から攻めてったんですけど、結果的にああなると、お客さんに謝るしかなかったですね。
——レフェリーの角田さんにはさんざん注意されて、イエローカードも出ましたけど「オレのせいじゃないのに」って思いませんでした？（笑）。
武蔵　まぁ、あの試合内容ではしょうがないですけどね。今後の結果で理解してもらうしかないでしょう。
——「こんなことならラスベガスでトドメを刺しておけば」とか思ったりして（笑）。
武蔵　いや〜、トドメ刺したつもりだったんですけどね（笑）。まだ甘かった（笑）。
——テクニック主体、カウンターが得意なスタイルを「分かってもらえねぇなぁ」っていうジレンマってないですか？
武蔵　そうですねぇ……。勝てば認めてもらえると思うんですけどね。
——勝っちゃえばね（笑）。
武蔵　やっぱり打つ力っていうのはどうしても外国人のほうが上なんで、だったらこっちは向こうの力を利用するしかないという。そしたらこっちが勝つチャンスも絶対あると思うんで。だからボクシングを習っても、打ち合うんじゃなく、誘ってから返すと。それがボクの理想の闘い方ですからね。ない力を振り絞るつもりはないんで（笑）。
——ワハハハ！
武蔵　あのメンツ相手に今さらボクが打ち合ってもしょうがないですからね（笑）。
——では、WORLD GPでも“武蔵流”での活躍期待してます！（笑）。

【03年10月15日／都内・某ホテルにて収録】



むさし■本名・非公開。1972年10月17日、大阪府出身。99、00、01、03と、K-1ジャパンGPを4度制覇した4タイムス・チャンピオン。文句ナシの日本人ヘビー級最強の男ながら、文句ばかり言われる不運の男。今年こそワールドGPで結果を残せるか？

まったく谷川にはやられたよな。これは私の読みが甘かったということである。私の生き方は戦国時代の武将、黒田如水と同じで「我れ富貴を望まず」なのだ。特別に出世したいとか、あるいは金持ちになりたいとか、そういう気持ちはあまりない。その点では私は欲がない。むしろその欲がないことが欠点になっている。

富の意識が自分の性格に合わないことは、私が一番よく知っているのだから仕方がないではないか？ それにしても、『SRS・DX』の廃刊にはまいった。

ああいう形で終わってしまうのなら、関わるのではなかったと、私としたことが後悔しているのだ。そう思うこと自体がもう私にとって大敗北、大失敗なのだ。

あの雑誌の編集長は谷川氏なのだ。それをつぶしておいて自分はちゃっかり『K—1』の企画会社『FEG』の社長におさまっているのだからタフだよなぁ。

これが谷川的人生とは前もってわかっていたが、いざその現実を見せつけられると、やっぱりたまらないものがある。

この屈辱を晴らす手段は一つしかない。『K—1』と絶縁することである。もちろん『K—1』の試合を見ることはあるだろう。その試合について記事を書くこともある。

でも、直接的な関わりはもういっさいやめる。会場に行く時はチケットを買って入る。しかしそれは恐らくないと思う。

もはや会場に行く必要がなくなった。私は「週刊プロレス」の編集長だった頃から『K—1』をプッシュしていたのだ。

その頃、まだ『K—1』は今のようにメジャーではなかった。まして当時、プロレスの専門誌が『K—1』は凄いといってページを割くことに関しては、大変な勇気がいった。実際、このことで長州力は猛反発した。長州からは直接「お前、なぜプロレスの雑誌に『K—1』のことを載せているんだ？」と言われた。

でも、私はそれでも『K—1』の記事を「週刊プロレス」に載せ続けた。それが一つの原因となってやがて私は、新日本プロレスから取材拒否を受けたのだ。

そして私はマット界を去る運命になった。それを考えると、私が『K—1』の会場に行くと、リングサイドの最前列の席を、永久に用意してくれてもいいはずなのだ。

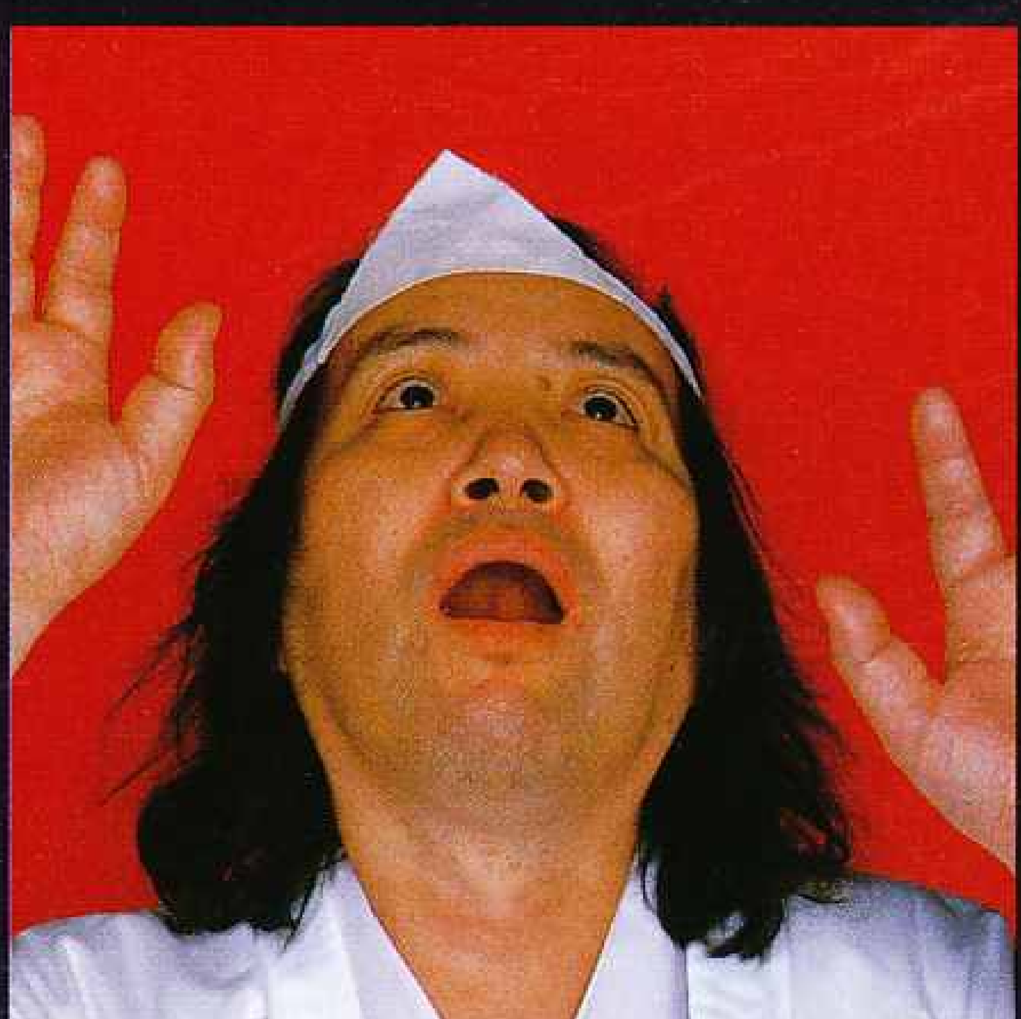
しかしそんなことはほとんどされたことがない。取材証だってオールラウンドに出入りできるものをもらってもバチは当たらないのに、そういう配慮をされたこともない。

声を大にして私は言いたいのだ。

「オレはターザン山本なんだぞ！」と。

私はこういうことに関しては、ムチャクチャプライドが高いのだ。そこで私が言いたいことは、私は物事を言語化する能力にたけている。概念化できる才能を持っていることだ。実は私は一流のコピーライターでもあるのだ。もし、私がプロレスや格闘技の原稿を書かなくなったら、誰も興行や試合を言語化できなくなるのだ。

そうすると世界はのっぺらぼうになって、何も



「俺はK-1と絶縁するからやりませんよォォォォ！」それは青天の霹靂だった。本誌は今号のK-1特集で、『SRS・DX』廃刊以来、K-1と緊張関係にあるターザン山本をあえてインタビュアーで使おうと企て、本人の了承も得ていたのだが、取材前日になってターザンが冒頭のセリフと共にドタキャンしてしまったのだ！ 仕方がないので「じゃあ、その絶縁状ウチで書いて下さいよ」と言うと、「メチャクチャ書くよォ！」と炎上。というわけで、「負け犬の遠吠え」（本人・談）という名の絶縁状をここに掲載いたします。押忍！（担当編集・堀江）

ないことと同じことになってしまう。この世界は見る者がいて初めて世界は存在したといえるのだ。人間がいなかったらこの宇宙さえも、宇宙として存在しえないのだ。

観客がいることで世界を決定づけているのだ。そんな理屈はどうでもいい。

一つだけ私は最後の賭けをしていたんだよな。10月11日『K—1』は大阪ドームで2003GPのトーナメント1回戦のをやった。

たとえその時点で『SRS・DX』が廃刊になっていたとしても、谷川氏は私を大阪ドームに招待すべきだった。

媒体が消滅した時点で「ハイ、さようなら」というなら、私と谷川氏の関係はその程度のことだったのかと思うしかない。

私が逆の立場だったらそうしたけどなぁ。私はその賭けに敗れたのだ。

じゃあ今年、パリやラスベガスにいっしょに行ったあれは一体なんだったんだと言いたい。

谷川氏は私の価値をわかっていない。全然わかっていない。価値と同様に私という存在の重要さもわかっていない。

10月11日、『K—1』の大阪大会があった日の夜、谷川氏から私のケイタイに電話がかかってきたが、私は電源を切って出なかった。

そのあとすぐに家に電話がかかってきたが、それもたぶん谷川氏からだと思ったが、私は電話を取らなかった。

取る必要がない。なぜ、取らなければならないのか？　私は大阪ドームという現場にいないのだ。その時間は家にいたのだ。

それだけでもう私は谷川氏に対して敗北感しか持てないからだ。もう、どうでもいいやという気持ちである。

しかしこれも何かの暗示のような気がしてきた。これはプロレスや格闘技の世界から神が私にフェードアウトしろというメッセージかもしれない。

私はほかの世界で生きていく自信がある。ただしどこへ行ってもしょっぱいことはわかっているが、ひょっとしたら今いる世界よりは、少しぐらいマシかもしれない。

『K—1』に関して言うなら、その昔『K—1』をハナで笑っていたり、バカにしていた連中が『K—1』の周辺にたむろしている姿を見ると、もう、それだけで腹が立ってくる。

そんなこともあって私は『K—1』と絶縁する。そう心に決めた方が、私が新しい世界へ行くきっかけを与えてくれるからだ。人生においてそういう結論を下すことは、ある意味においては必要なことでもあるのだ。

そういうチャンスを私に与えてくれた『K—1』と谷川氏に私はここでお礼を述べたい。長い間、ありがとう。花に嵐のたとえもあるさ、さよならだけが人生なのだ。



(株)FEG代表取締役　谷川貞治

(株)FEG設立発表プレス資料より



UFCおみやげも充実!!

RADICAL PRESENT

UFC

ランディ・クゥートアーvsティト・オーティスが行われ、藤田和之、高田統括本部長、榊原代表が視察に訪れたUFC44。現地取材した堀江ガンツが多数のUFCグッズを持ち帰った!! 日本ではたぶん入手できないオクタゴングッズを手に入れろ!

【編集部提供】

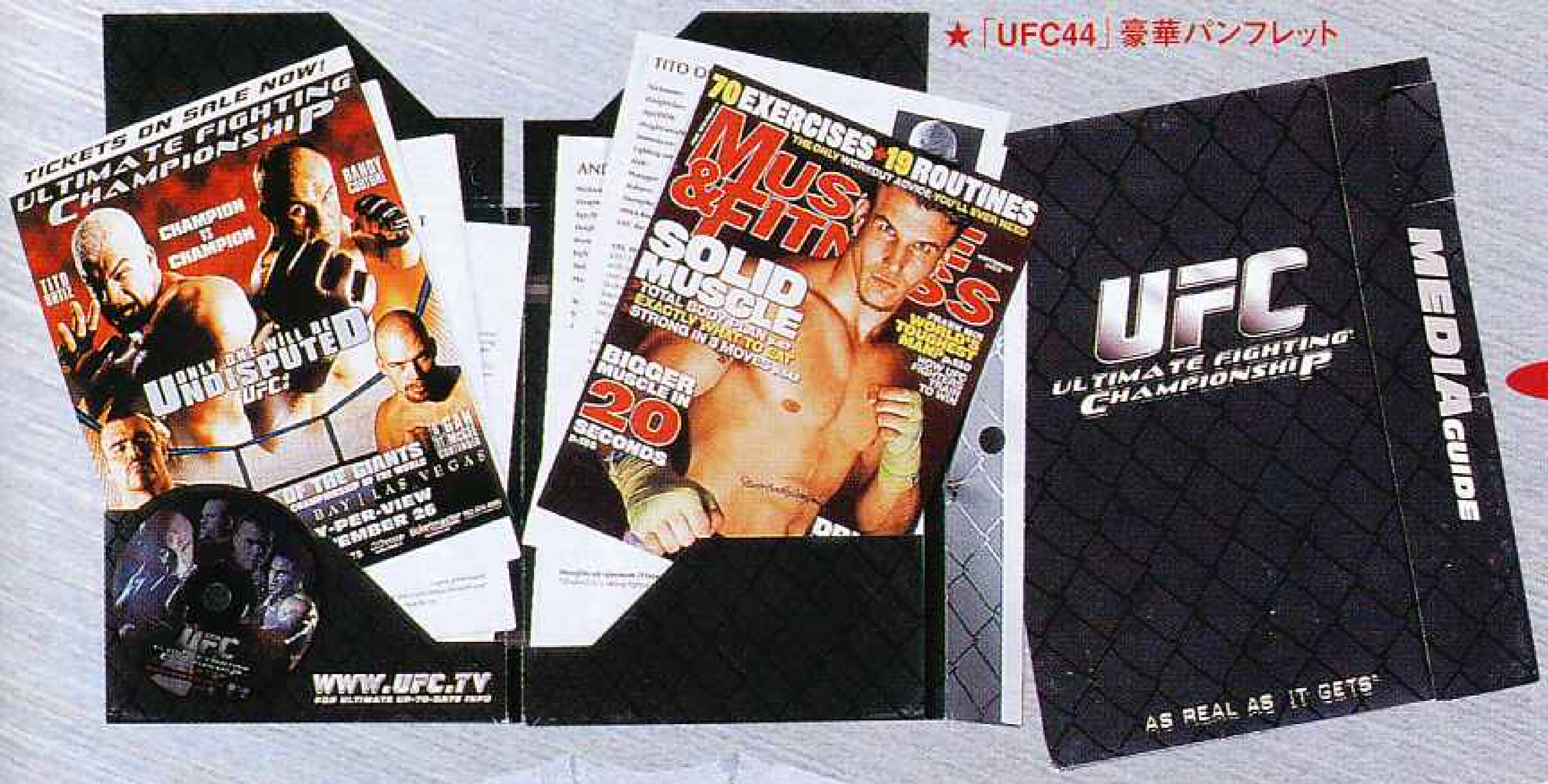
各1名様



★現地のMMA雑誌セット



★UFCソデなしシャツ



★「UFC44」豪華パンフレット



★UFC国旗バージョンTシャツ



★UFCロゴTシャツ



★ティトvsクゥートアーTシャツ



★UFCニット帽



★UFCキャップ（チャック・リデルサイン入り）

DVD

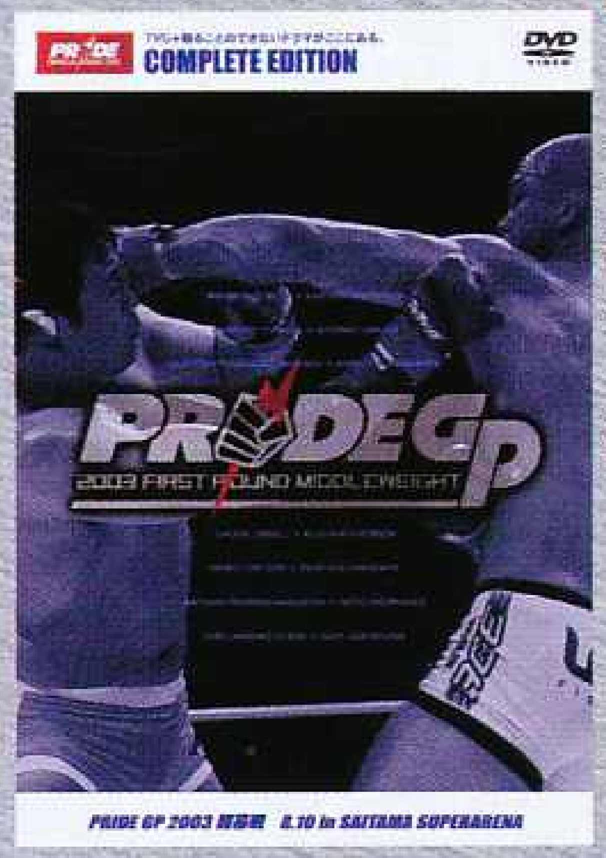


★リトアニアBUSHIDO

リングス者なら絶対に手に入れろ! ヒョードル、日本からZST勢も参戦! チーム・イリホリの乱闘騒ぎまで収録したリトアニアBUSHIDOのDVD!

【クエスト提供】

3名様



1名様

★「PRIDE・GP」（DVD）

田村vs吉田も収録! 灼熱の「PRIDE・GP」が待望のDVD化!! ヘビー級TOP3も揃い踏みだ!

【メディアファクトリー】TEL.03・5469・4880（月～金10：00～18：00）

MEGA

一枚一枚完全手刷りで作製するメガ工房グッズから、バルコニーダイブをモチーフしたTシャツ&トートバック、お肌にお手入れに悩む覆面女子レスラーTシャツをプレゼント!　新デザインも続々と登場予定だ!　【メガ工房提供】
e-mail:mega-koubou@poppy.ocn.ne.jp

各1名様



★バルコニーダイブTシャツ(¥2000)

★バルコニーダイブトートバック(¥1500)

★マスクド・スーパースタートレーナー(SOLD OUT)

★覆面女子レスラーの憂鬱Tシャツ(¥2000)

SHOJI

1名様



★小路晃Tシャツ

『武士道』では負けたけど、生き様は誰よりも伝わったんじゃあ!!　『紙プロHand』のコラムでは政界進出に意欲をみせた憂国の日本男児が『武士道』で着用したTシャツなんじゃ!!
【小路晃提供】URL:http://www.akira-shoji.com/

HARDCORE

【ハードコアチョコレート提供】東京都世田谷区北沢2-12-2ミナナミコーポ206
年中無休12:00〜20:00　TEL:03-5481-3561 e-mail:hardcore-c@mail.goo.ne.jp
URL:http://hardcore.hp.infoseek.co.jp/

各1名様



★パーフェクトマダーズ殺人代行株式会社

★オール怪獣大進撃

DARIAN

2名様



★大連ガールズTシャツ

ホリプロ と中国・大連歌舞団が共同プロデュースした中国人少女15人によるスポーツ・エンタテインメント集団「ダリアンガールズ」!　TV放映も見逃すな!
【ダリアンガールズ提供】

YOSHIDA

1名様



★吉田秀彦Tシャツ(阪神優勝バージョン)

柔道王〈阪神タイガース優勝記念バージョン〉326Tシャツが出た!!　袖車を極めれないのが残念だがそれでもゲッツ!!なTシャツだ!　ん〜ッ、秀彦!(髙田風)
【本誌チョロ提供】

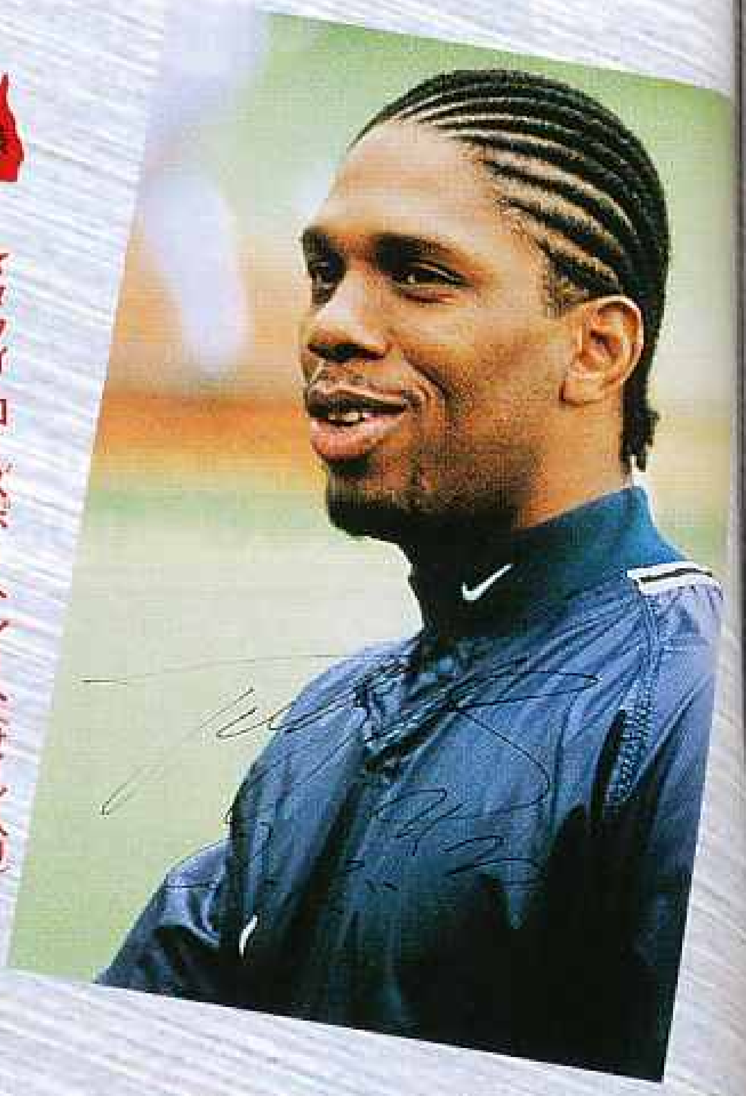
ZERO-ONE

各1名様



★鉄人28号フィギュア

今号で潜入取材したうずまき寮からの貰い物。地元・大阪に帰郷中の崔リョウジの持ち物を勝手に拝借しました!　バレないうちに応募してください。ンムフフフ!
【崔リョウジ提供?】



★タフィ・ローズポートレート(サイン入り)

王さんに並ぶシーズン55本のホームラン記録を持つタフィ・ローズ(近鉄)のサイン入りポートレートを高橋冬樹が提供!!
【ZERO-ONE提供】

応募要項

1. 郵便番号・住所・電話番号
2. 氏名 3. 年齢・職業
4. 希望商品
5. 面白かった記事&その理由
6. つまらなかった記事&その理由
7. 好きな&嫌いな選手
8. 実現してほしいカード

応募券

【宛　先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「みのるカットにしてくだい」係まで
※締切は2003年11月20日(木)当日消印有効

BOOKS

1名様





★タダシ☆タナカセット

北米ファン感涙!　タイソンレポートで業界を震撼させた我らがシュート活字王タダシ☆タナカの渾身著書&オススメDVDをセットでプレゼント!　大人ファンならさっそく応募しろ!
【タダシ☆タナカ提供】¥1300+税/幻冬舎・刊



3名様

★闘龍門大百科

爆発的売れ行きを記録!　完全特写による選手紹介&名鑑、これまでの歴史、必殺技特集など、闘龍門のすべてがよ〜くわかる公式ガイドブック!　ビギナーからマニアまでとにかく必読!　【東邦出版提供・刊】¥1000

3名様



★船木誠勝の真実

あのマッドネス船木誠勝がUWF、藤原組、パンクラスでの舞台裏を綴った!!　セメントを追い続けた船木の真実の姿があきらかにされる話題作だ!　ん〜ッ、マッドネス!
【エンタープレイン提供・刊】¥1600+税

『紙プロ』通販方法

★TPOにあわせて選べる通販方法
★消費税サービス
★全国どこでも送料一律500円
（離島、山間部は除く）
★代引御支払は、現金、
デビットカード、クレジットカード
の中から選べます。

代引 郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを

kapra@kamipro.com

まで送り下さい。
申し込みメール確認後、佐川急便にて発送。代金引換でのお受け取りになります。商品代金のほかに送料一律¥500（何枚でも可。離島、山間部は除く）。代引手数料約¥315がかかります（代引金額によって異なります）。御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

現金書留 希望商品の代金＋送料一律¥500（何枚でも可・ネックピースだけなら¥300。離島、山間部は除く）を現金書留で

〒151-0051
東京都渋谷区
千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス

まで送り下さい。郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、何故か年齢を必ず表記してください。

郵便振替 希望商品の代金＋送料一律¥500（何枚でも可・ネックピースだけなら¥300。離島、山間部は除く）を郵便振替で送り下さい。

郵便振替の宛先は
00130-3-769154
（株）ダブルクロス
郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、何故か年齢を必ず表記してください。

電話注文もできます!!
平日PM3:00〜10:00
（株）ダブルクロス 03-3403-5142

厳しい寒さを乗りきれ!
Kapraパーカーもありますよ!!

※Kapraとは『紙のプロレス』RADICALの略です

Kapraパーカー〈カーキ〉
¥6,000 M or L



Kapraパーカー〈ネイビー〉
¥6,000 M or L



紙プロネックピース
¥ ~~1,200~~ ➡大特価 ¥600



田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ネイビー〉
¥3,800 S or M or L or XL



田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or L



赤いキャップの頑固者Tシャツ〈レッド〉
¥3,800 S or M or L or XL



トートバック〈ブラックor ネイビー〉
¥1,500



ニット帽〈ブラックor ネイビー〉
¥1,500



リング・アフロラグラン半袖Tシャツ〈黒×グレー〉
¥ ~~3,800~~ ➡¥1,800 S or ~~M~~ (SOLD OUT) or ~~L~~ (SOLD OUT)



リング・アフロラグラン長袖Tシャツ〈グレー×黒〉
¥4,500 S or M or L



紙のプロレス RADICAL
No.67
2003年11月25日発行
No.68は
11月22日（土）
発売予定!
※地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

編集兼発行人
山口日昇
編集スタッフ
松澤チョロ
堀江ガンツ
ジャン斉藤
八木賢太郎（イズマイヤを捜すため非番）
見習い
斉野政智

スーパーバイザー
吉田豪
助っ人
片山ボン
ジャイ子
電気部
ささきぃ
スモーノブ

アートディレクター
出田さん（TwoThree）
デザイン
ヒサくん
マツくん
村松さん
グッチー
タニやん
ブンちゃん（以上TwoThree）
トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上さおとめの事務所）

カメラマン
斉藤ユーリ
森鷹博
遠藤政文
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
福島俊彦
福島勝儀
試合写真
平工幸雄
乾晋也
吉澤晃

お勘定&衣料部
林"ヘックション"一枝
出前
出前持ち入江（TwoThree）
フィニッシュ
ツー・スリー
さおとめの事務所
ゼロ・グラフィックス
印刷
図書印刷株式会社
印刷人
大杉すぎすぎ昌也

“新・ロシア人”『PRIDE』デビューに続き ヒョードル&RTTパーカーも新登場!!


ハリトーノフ&アレキサンダー

ヒョードルパーカー〈ネイビー〉
¥6,000 M or L or XL



『RTT』パーカー〈チャコールグレー〉
¥6,000 M or L or XL



ロシア『RTT』Tシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or L or XL



ロシア『RTT』Tシャツ〈グレー〉
¥3,800 S or M or L or XL



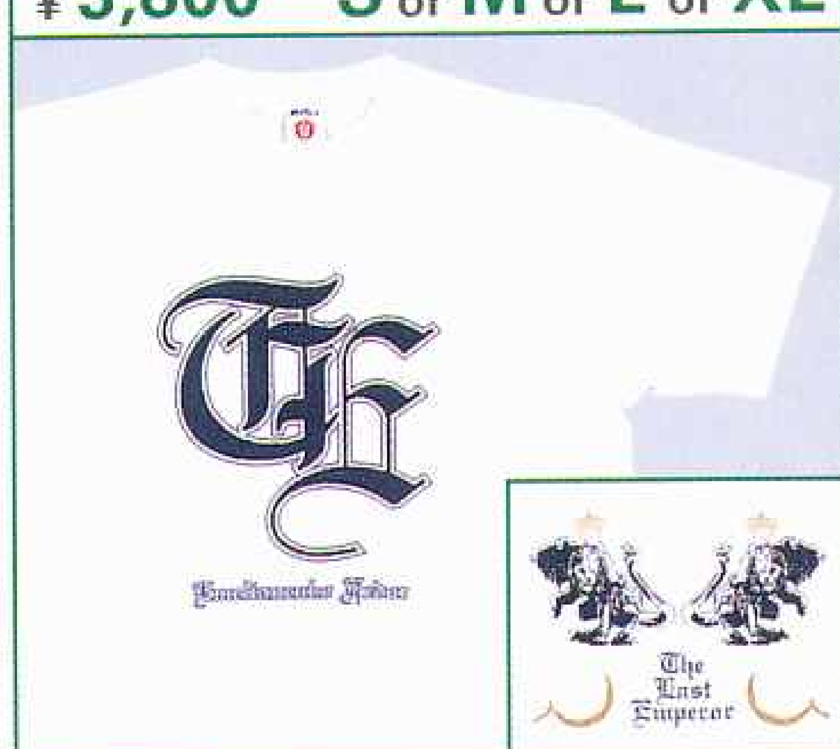
ロシア『RTT』Tシャツ〈レッド〉
¥3,800 S or M or L or XL



『紙プロ』通販グッズは
電話注文できます!!
TEL.03-3403-5142
【平日AM3:00〜PM10:00】



ヒョードル『ラスト・エンペラー』Tシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or L or XL



ヒョードル『ラスト・エンペラー』Tシャツ〈ブラック〉
¥3,800 S or M or L or XL



エメリヤーエンコ・ヒョードルTシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or L or XL



エメリヤーエンコ・ヒョードルTシャツ〈ネイビー〉
¥3,800 S or M or L or XL



『ヒョードル』キーホルダー
¥1,200



『ロシアン・トップチーム』キーホルダー
¥1,200



ロシアン・トップチームTシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or L or XL



ロシアン・トップチームTシャツ〈レッド〉
¥3,800 S or M or L or XL



通販完売商品は直販店にある!?

【『紙プロ』ウェア常備ショップ】★チャンピオン(TEL.03-3221-6237) ★東京イサミ(TEL.03-3352-4083) ★リングソウルZ神戸(TEL.078-393-3514) ★宮城・スクワット(TEL.022-264-8160) ★大阪・少年ジェッター(TEL.06-6541-3551) ★福岡天神ビブレGROUND COBRA(TEL.092-711-1021) ★三恵格闘技SHOP長崎(TEL.095-824-8658) ★三恵格闘技SHOP諫早(TEL.0957-22-4646) ★浜松市・Buddy(TEL.053-450-7888)

紙のプロレス WANIMAGAZIN MOOK237 RADICAL 2003 NO.67
11・9『PRIDE・GP』!! ブッちぎり大特集号!!

平成15年11月25日発行　編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社　〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地　電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　電話／03-3403-5188
ワニマガジン社　定価：本体838円＋税

9784898297179
ISBN4-89829-717-X
C9476 ¥838E
1929476008381

雑誌　69860—37

印刷：図書印刷株式会社